

**宇都宮市**  
**平成28年度男女共同参画に関する**  
**市民意識調査報告書**

平成29年3月

宇 都 宮 市



## <目次>

I. 調査の概要 .....	1
(1) 調査の目的 .....	1
(2) 調査方法 .....	1
(3) 実施時期 .....	1
(4) 回収結果 .....	1
(5) 報告書を見る際の注意事項 .....	1
(6) 調査項目および調査内容 .....	2
(7) 比較した調査について .....	3
II. アンケート調査結果 .....	4
(1) 属性について .....	13
(2) 男女共同参画に関する用語について .....	20
(3) 男女平等意識について .....	36
(4) ワーク・ライフ・バランスについて .....	53
(5) 結婚・家庭生活について .....	96
(6) 地域・社会参画について .....	119
(7) 職業・就労について .....	129
(8) 男女の人権について .....	164
(9) 男女共同参画に関する施策について .....	195

記述編

調査票



# I . 調査の概要

## (1) 調査の目的

男女参画に関する市民の意識の現状や変化，地域特性等を的確にとらえ，問題・課題等を明らかにし，「(仮称) 第4次宇都宮市男女共同参画行動計画」を策定するうえでの基礎資料とすることを目的として実施

## (2) 調査方法

20歳以上の市民3,000人を無作為に抽出し，アンケート調査票を郵送配布，無記名にて郵送回収 ※御礼状兼督促状を1回配布

## (3) 実施時期

平成29年1月17日(火)～1月31日(火)

## (4) 回収結果

対象		配布数	回収数	有効回答率
■市民(全体)		3,000	1,196	39.9%
性別	男性	1,500	487	32.7%
	女性	1,500	676	45.1%
	性別不明	-	33	-

## (5) 報告書を見る際の注意事項

- 調査結果の比率は，その設問の回答者数に対する比率について，小数点第2位以下を四捨五入して算出し，小数点第1位までを表示しています。したがって，回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の設問については，その設問の回答者数に対する比率を算出しています。したがって，すべての回答比率の合計は100%を超えることがあります。
- 選択肢の語句が長い場合，本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります

## (6) 調査項目および調査内容

### ■市民

調査項目	調査内容
1. 回答者の属性	F 1 性別
	F 2 年代
	F 3 居住地区
	F 4 家族構成
	F 4-1 末子の年齢
	F 5 職業
2. 用語や施設名称の認知度	問 1 用語や施設名称の認知度
3. 男女平等意識	問 2 男女の地位の平等感
	問 3 「男は仕事，女は家庭」という考え方
	問 4 自分の子どもの育て方
4. ワーク・ライフ・バランス	問 5 ワーク・ライフ・バランスの優先度（現実と理想）
	問 6 ワーク・ライフ・バランスの状況
	問 7 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくための企業に必要な取組
	問 8 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくための自治体に必要な取組
5. 結婚・家庭生活	問 9 結婚や家庭等についての考え方
	問 10 夫婦の間の役割分担
6. 地域・社会参画	問 11 男性が家事・子育て・介護に参加していくために重要なこと
	問 12 地域などの社会的な活動への参加状況
	問 13 社会的な活動に参加していない理由
	問 14 政策決定の場へ女性が参画するために必要なこと
7. 職業・就労	問 15 女性の働き方（理想）
	問 16 女性の働き方（現実）
	問 17 女性の再就職に必要なこと
	問 18 女性の活躍に必要なこと
	問 19 女性の活躍が推進されていると思う状況
	問 20 女性の退職経験
	問 20-1 退職理由
	問 21 育児，介護等で退職した方の具体的な退職理由
	問 22 就業・起業の意向
	問 23 働けない理由
	問 24 男性の育児休業取得についての考え方
	問 25 男性の介護休業取得についての考え方
	問 26 男性が育児休業を取得しづらい理由
問 27 男女ともに介護休業を取得しづらい理由	

調査項目	調査内容
8. 男女の人権	問 28 セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験・場所
	問 29 配偶者や恋人から暴力を受けた経験
	問 30 配偶者等から受けた暴力についての相談の有無
	問 30-1 相談先
	問 30-2 相談しなかった理由
	問 31 DV・デートDV防止に必要なこと
	問 32 健康状態に対するパートナーの理解
	問 33 人権の侵害だと思うこと
	問 34 性別への悩み
	問 35 性的マイノリティという言葉の認知度
	問 36 性的マイノリティの方々の人権を守ること
	問 37 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
9. 男女共同参画に関する施策	問 38 男女共同参画の実現に向け、市が力を入れるべき取組
	問 39 男女共同参画の周知に有効な媒体
	問 40 日頃の男女共同参画社会について感じていること

### (7) 比較した調査について

#### 前回調査

「宇都宮市男女共同参画に関する意識調査」(平成 23 年, 宇都宮市)

#### 国調査

「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成 28 年, 内閣府)

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する特別世論調査」  
(平成 20 年 6 月, 内閣府)

#### 県調査

「男女共同参画社会に関する意識調査」(平成 26 年, 栃木県)

## Ⅱ. アンケート調査結果

### 【調査結果概要】

#### (1) ご自身について

男女別の回答者は、女性の方が多く、前回調査と比べると20歳代、40歳代、50歳代の回答割合が増加しています。また、子どもの年齢は、就学前、小中学生が増加し、高校生が減少しています。

##### ① 性別

性別でみると、「男性」が40.7%、「女性」が56.5%となっています。

##### ② 年代

年代でみると、「55～59歳」が12.1%で最も多く、次いで「70歳以上」が11.0%、「40～44歳」が10.4%となっています。

##### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、男女ともに20歳代、40歳代、50歳代の割合が高くなっています。

##### ③ 居住地区

居住地区については、「本庁（周辺）」が21.1%で最も多く、次いで「本庁（都心）」が17.1%、「南部地域」が16.7%となっています。

##### ④ 家族構成

家族構成については、「親と未婚の子ども（核家族）」が47.5%で最も多く、次いで「夫婦のみ（一世代世帯）」が23.2%となっています。

##### ⑤ お子さんの年齢

お子さんの年齢については、「高校生以上」が56.4%で最も多く、次いで「小中学生」が22.0%、「就学前」が21.7%となっています。

##### 《前回調査との比較》

前回調査との比較では、男女ともに、「就学前」、「小中学生」という回答が増加し、「高校生以上」という回答が減少しています。全体で比較すると「就学前」、「小中学生」は、それぞれ6.9ポイント、7.7ポイントの増加、「高校生以上」は、13ポイントの減少となっています。

##### ⑥ 職業

仕事については、「常勤・フルタイム」が41.1%で最も多く、次いで「パート・アルバイト・派遣など」が16.3%となっています。

##### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「常勤・フルタイム」が増加し、「無職」が減少しています。

#### (2) 男女共同参画に関する用語について

男女共同参画に関する用語については、ドメスティック・バイオレンス（DV）の認知度が最も高くなっています。

男女共同参画に関する用語や施設名称の認知度については、「言葉も内容（施設用途）も知っている」項目で「ドメスティック・バイオレンス（DV）」が79.7%で最も高く、次いで「男女雇用機会の均等」が51.4%、「女性の活躍の推進」が42.5%となっています。

### (3) 男女平等意識について

依然として各分野の男女の地位は、男性の方が優遇という回答が多くなっており、男性中心の社会構造という回答となっています。しかし、教育の現場については、平等という回答が半数以上となっています。

また、「男は仕事、女は家庭」という意識は減少しています。

#### ① 男女の地位の平等感

分野別の男女の地位については、「平等になっている」が多い項目は、「学校教育の場」が51.5%で最も多く、次いで「家庭生活」が34.0%となっています。また、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が非常に優遇されている」という回答が多い項目は、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が73.9%で最も多く、次いで「政治の場」と「社会全体」がともに70.7%となっています。

##### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「職場」では、「平等」という回答が6.2ポイント増加しています。「法律や制度の上」では、「男性の方が非常に優遇されている」という回答が前回調査より多くなっています。「社会通念・慣習・しきたりなどで」では、「男性の方が非常に優遇されている」という回答が4.5ポイント増加していますが、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答は2.7ポイント減少しています。「社会全体」では、「男性の方が非常に優遇されている」という回答が4.9ポイント、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答は2ポイント増加しています。

#### ② 「男は仕事、女は家庭」という考え方

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」が44.1%で最も多く、次いで「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をして家庭にいてもよい」が39.5%となっています。

##### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」という回答が2.2ポイント少なくなっています。

#### ③ 自分の子どもの育て方

子どもの育て方については、「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」が39.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」が37.8%となっています。

##### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が少なく、「どちらかといえば『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答を合わせると8.3ポイント減少しています。また、「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」、「まったく性別にとらわれずに育てたい」という回答は合わせて、8.6ポイント増加しています。

#### (4) ワーク・ライフ・バランスについて

ワーク・ライフ・バランスの理想は、『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先』となっていますが、現実には、『仕事』を優先』となっています。

また、『ワーク・ライフ・バランスが実現された社会』に近づくために必要な取組として、企業では、『育児・休業休暇を取りやすくする』、行政は、『子育て支援の拡充』を挙げられています。

##### ① ワーク・ライフ・バランスの優先度（現実と理想）

ワーク・ライフ・バランスの「現実」は、『仕事』を優先』が40.1%で最も多く、次いで、『仕事』と『家庭生活』を優先』が27.8%となっています。

ワーク・ライフ・バランスの「理想」は、『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先』が34.4%で最も多く、次いで、『仕事』と『家庭生活』を優先』が24.6%となっています。

##### ◀前回調査との比較▶

前回調査と比較すると、『現実』、『理想』ともに、大きな差はありませんでした。

##### ② ワーク・ライフ・バランスの状況

家庭生活、地域活動、個人の生活、休養のための時間を希望どおりに取れているかについては、『取れている』、『まあ取れている（6～8割程度）』という回答で、『家庭生活』の70.4%が最も多く、次いで『休養』が60.1%、『個人の生活』が59.8%となっています。『地域活動』では、『取れていない』、『あまり取れていない（3～5割程度）』という回答が、52.1%となっています。

##### ③ 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくための企業に必要な取組

「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくための企業に必要な取組については、『非常に重要』、『重要』という回答で、『育児・介護休業を取りやすくする』が87.0%で最も多く、次いで『管理職の意識改革を行う』が84.9%、『社長や取締役がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む』が83.8%、『無駄な業務・作業をなくす』が83.3%となっています。

##### ④ 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくための自治体に必要な取組

「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくための自治体に必要な取組については、『非常に重要』、『重要』という回答で、『保育所など子育て支援を拡充する』が85.9%で最も多く、次いで『ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の事例を紹介する』が74.5%、『ワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRする』が71.3%、『求職者や学生にワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の情報を提供する』が70.7%となっています。

#### (5) 結婚・家庭生活について

家庭内での役割では、男女の偏りはあるものの、前回調査に比べ夫婦同じ程度という回答が多くなっており、家庭内では、夫婦協働化が進展しているといえます。

##### ① 結婚や家庭等についての考え方

結婚や家庭、離婚についての考え方では、『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』という回答で、『結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい』が57.6%で最も多く、次いで『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』が46.2%となっています。

また、『そう思わない』、『どちらかといえばそう思わない』という回答で、『女性は結婚

したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」が59.1%で最も多く、次いで「三世代同居で暮らすのが理想的だ」が55.5%となっています。

## ② 夫婦の間の役割分担

夫婦の間の役割分担については、「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答で、「主な収入」の75.8%が最も多くなっています。「夫婦同じ程度」という回答で、「子どものしつけや勉強」が42.6%、「親や身内の介護」は39.3%となっています。また、「主に妻」、「どちらかといえば妻」という回答で、「食事のしたく」の77.7%が最も多く、次いで「洗濯」が72.3%となっています。

### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「食事のしたく」、「そうじ」、「洗濯」では、「夫婦同じ程度」という回答が増加し、「どちらかといえば妻」という回答が減少しています。

また、親や身内の介護では、「夫婦同じ程度」という回答が約3倍に増加しています。

## (6) 地域・社会参画について

男性が家事、育児、介護に参加していくために重要なことは、「夫婦間で家事などの役割分担について、話し合い、協力し合うこと」、「職場の理解が得られること」という回答が多くなっています。また、地域などでの社会的活動についての参加は約3割に留まっており、参加していない理由は「仕事が忙しい」、「関心がない」、「活動についての情報が無い」という回答が多くなっています。

### ① 男性が家事、子育て、介護に参加していくために重要なこと

男性の家事、子育て、介護の参加については、「夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること」が68.8%で最も多く、次いで「夫婦間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと」が64.3%、「労働時間の短縮や休暇制度を普及させること」が51.2%となっています。

### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、全ての項目において「重要である」と言う回答が多くなっています。特に、「賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと」は27.5ポイント増加しています。

### ② 地域などの社会的な活動への参加状況

地域などの社会的な活動については、「行っている」が30.6%、「行っていない」が67.1%となっています。

### ③ 社会的な活動に参加していない理由

社会的な活動に参加していない理由では、「仕事が忙しく時間がないから」が37.0%で最も多く、次いで「関心がないから」が32.3%、「活動についての情報が無いから」が29.0%となっています。

### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、前回調査と同様に、「仕事が忙しく時間がないから」が、男女ともに最も多い回答となっています。

### ④ 政策決定の場へ女性が参画するために必要なこと

審議会等の委員など政策決定の場へ女性が参画するために必要なことについては、「男性優位の組織運営を改善すること」が12.9%で最も多く、次いで「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」が11.5%となっています。

## (7) 職業・就労について

女性が職業を持つことについてどう考えるかでは、「継続して仕事を続ける方がよい」という回答が最も多くなっていますが、現実には、「出産・育児で退職した後、再就職している」という回答が最も多くなっています。また、女性の再就職に必要なことについては、「夫の協力」や「育児・介護環境の充実」が多い回答となっています。

### ① 女性の働き方（理想）

女性が職業をもつことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が27.2%で最も多く、次いで「結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」が22.9%、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が17.1%となっています。

#### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答が33.7ポイント少なくなっています。

### ② 女性の働き方（現実）

現在の職業の持ち方については、「出産・育児期間に一時退職した後、再就職している」が25.7%で最も多く、次いで「結婚や出産・育児にかかわらず職業を持ち続けている」が22.0%となっています。

#### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、年代別では、30歳代が「結婚や出産・育児にかかわらず職業を持ち続けている」という回答が最も多く、以降、年代が上がるに従い、少なくなっています。

### ③ 女性の再就職に必要なこと

女性の再就職に必要なことについては、「夫の理解や家事・育児などへの参加」が69.8%で最も多く、次いで「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が69.2%、「フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実」が53.5%となっています。

#### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、全ての項目において回答が増加しています。特に、「フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実」では、前回調査に比べ29.8ポイント増加しています。

### ④ 女性の活躍に必要なこと

女性の活躍に必要なことについては、「保育施設や学童保育などの育児環境が充実していること」が71.1%で最も多く、次いで「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」が69.7%、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が67.4%となっています。

### ⑤ 女性の活躍が推進されていると思う状況

女性の活躍が推進されていると思う状況については、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が61.0%で最も多く、次いで「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が55.0%、「女性が従事する職種・職域が増えること」が46.7%となっています。

### ⑥ 女性の退職経験

退職した経験が「ある」が50.8%、「ない」が42.7%となっています。

## ⑦ 退職理由

退職した理由については、「結婚」が35.5%で最も多く、次いで「妊娠・出産」が30.6%、「勤務先の人間関係」が19.1%となっています。

## ⑧ 育児・介護等で退職した方の具体的な退職理由

育児・介護等で退職した方の具体的な退職理由については、「仕事と家事・育児・介護の両立が難しいため」が39.8%で最も多く、次いで「家事・育児・介護に専念したいので自発的に辞めた」が38.0%となっています。

## ⑨ 就業・起業の意向

今後、働きたいかについては、「働きたくない」が30.2%で最も多く、次いで「働きたいが、働けない」が29.9%となっています。

### ◀前回調査との比較▶

前回調査と比較すると、「働きたいが、働けない」という回答が6.9ポイント減少しています。

性別では、男性よりも女性の方が「働きたい」、「働きたいが、働けない」という回答が多く、女性よりも男性の方が「働きたくない」という回答が多くなっています。

## ⑩ 働けない理由

働けない理由については、「年齢的に適当な募集がないから」が54.5%で最も多く、次いで「体力や健康に自信がないから」が47.5%となっています。

### ◀前回調査との比較▶

前回調査と比較すると、全ての項目において、前回調査よりも回答が増加しています。特に「仕事と家事・育児・介護との両立が難しいから」、「能力に自信がないから」、「通える範囲に適当な場所がないから」では、前回調査との差が大きくなっています。

## ⑪ 男性の育児休業取得についての考え方

男性の育児休業取得については、「男性も育児に参加した方がよいと思うので、受け入れられる」が77.9%で最も多くなっています。

## ⑫ 男性の介護休業取得についての考え方

男性の介護休業取得については、「男性も介護に参加した方がよいと思うので、受け入れられる」が85.0%で最も多くなっています。

## ⑬ 男性が育児休業を取得しづらい理由

男性が育児休業を取得しづらい理由では、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が68.0%で最も多く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が61.5%となっています。

## ⑭ 男女ともに介護休業を取得しづらい理由

男女ともに介護休業を取得しづらい理由では、「職場に取りやすい雰囲気がないから」、「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」がともに66.6%で最も多くなっています。

## (8) 男女の人権について

配偶者や恋人からの暴力については、女性の約 20% が経験しており、前回調査よりも増加しています。また、暴力を受けたことがある人のうち、相談した人は約 3 割に留まっており、相談しなかった理由としては、「相談しても無駄だと思った」、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」という回答が多くなっています。

### ① セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験・場所

「セクシュアル・ハラスメント」をどこで感じたかについては、「感じたことはない」がすべての項目で 6 割を超えています。が、「職場で感じた」が多い項目は「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談をいわれたこと」で 18.4% と最も多くなっています。

#### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、全ての項目で前回調査より経験したことがあると回答した方が増加しています。特に「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談をいわれたこと」は 7.1 ポイント増加しています。

### ② 過去 2 年間に配偶者や恋人から暴力（DV 又はデート DV）を受けた経験

暴力（DV 又はデート DV）を受けた経験については、「まったくない」が 9 割前後となっています。が、「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた（大声で怒鳴る、嫌な写真を送りつける、待ち伏せをするなど）」で「何度もあった」、「1、2 度あった」という回答は 8.9% となっています。

#### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、暴力を受けた経験について、「あった」という回答は、「男性」が 1 ポイント減少し、「女性」は 2.4 ポイント増加しています。

### ③ 配偶者等から受けた暴力についての相談の有無

誰かに相談したかについては、「相談した」が 29.2%、「相談しなかった」が 60.4% となっています。

### ④ 相談先

相談した相手では、「友人・知人」が 60.0% で多く、次いで「親族」が 51.1% となっています。

#### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で回答が増加していますが、「親族」という回答は減少しています。なお、増加率が高い項目としては、「友人・知人」の 10.0 ポイント、「市や県等の公的機関の相談窓口・電話など」が 9.3 ポイント、「家庭裁判所、弁護士」が 10.8 ポイントとなっています。

### ⑤ 相談しなかった理由

相談しなかった主な理由では、「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」が 45.2% で最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が 44.1%、「相談するほどのことではないと思ったから」が 37.6% となっています。

#### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で回答が増加していますが、「相談するほどのことではないと思ったから」という回答は減少しています。なお、増加率が高い項目としては、「相談しても無駄だと思ったから」が 17.5 ポイント、「他人を巻き込みたくなかったから」が 19.4 ポイント、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が 18.2 ポイントとなっています。

## ⑥ DVやデートDVを防止するために必要なこと

DVやデートDVを防止するために必要なことでは、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」が72.9%で最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」が55.1%、「学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う」が43.0%となっています。

### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で回答が増加しています。

## ⑦ パートナー（配偶者や恋人など）の、自分への健康状態についての理解

パートナーが自分の健康状態について理解していると思うかについては、「理解していると思う」が58.9%で最も多く、次いで「わからない」が16.6%、「理解していると思わない」が12.7%となっています。

### 《前回調査との比較》

「理解していると思う」という回答が減少しています。

## ⑧ 人権が侵害されていると思うこと

人権が侵害されていると思うことについては、「人権侵害だと思う」、「ある程度人権侵害だと思う」を合わせた項目で、「レイプ・痴漢などの女性への性犯罪」が92.5%で最も多く、次いで「ストーカーなどの女性へのつきまとい行為」が90.3%となっています。

## ⑨ 性別への悩み

自分の性別を悩んだことがあるかについては、「ある」が3.7%、「ない」が94.2%となっています。

## ⑩ 性的マイノリティという言葉の認知度

性的マイノリティという言葉を知っているかについては、「知っていた」が62.4%、「始めて知った」が32.6%となっています。

## ⑪ 性的マイノリティの方々の人権を守ること

性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策については、「必要だと思う」が64.2%で最も多く、次いで「わからない」が28.8%となっています。

## ⑫ 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」については、「女性が自立し健康に生きるために重要な権利である」が73.8%で最も多くなっています。

## (9) 男女共同参画に関する施策について

男女共同参画の実現に向け、市が力を入れるべき取組については、「保育・子育て・介護の支援の充実」という回答が最も多くなっており、前回調査と比較すると「男女の均等な扱いが図られるよう企業等への働きかけ」が増加しています。

また、男女共同参画をより周知させるための有効な媒体については、「市の広報・パンフレット・チラシ」という回答が多くなっています。

### ① 男女共同参画の実現に向け、市が力を入れるべき取組

男女共同参画の実現に向け、今後、宇都宮市が力を入れてほしいことについては、「保育・子育て・介護のための支援を充実する」が43.1%で最も多く、次いで「学校や家庭において男女共同参画意識を育む教育を行う」が23.0%、「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」が22.8%、「職場において男女の均等な扱いが図られるよう企業等に働きかける」が21.3%となっています。

### 《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、全体的に大きな差はありませんが、「職場において男女の均等な扱いが図られるよう企業等に働きかける」という回答は前回より大きく増加しています。

なお、「女性を政策方針決定の場に積極的に登用する」、「地域活動における男女共同参画を促進する」、「男女共同参画を推進する市民団体等を育成・支援する」という回答が減少しています。

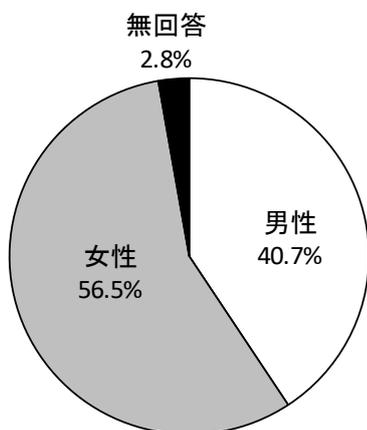
## ② 宇都宮市で男女共同参画の周知に有効な媒体

宇都宮市で男女共同参画をより周知させるために、有効な媒体については、「市の広報・パンフレット・チラシ」が46.3%で最も多く、次いで「テレビCM」が27.4%、「イベント」が22.8%となっています。

## (1) 属性について

### F1 あなたの性別は次のうちどれですか。

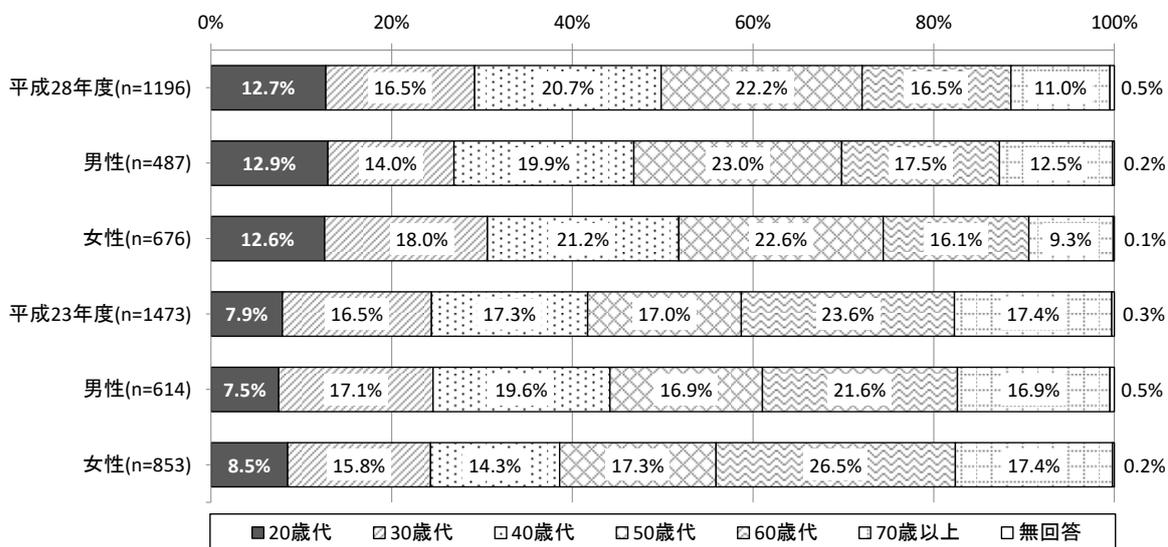
性別については、「男性」が40.7%、「女性」が56.5%となっています。



項目	回答数	構成比
男性	487	40.7%
女性	676	56.5%
無回答	33	2.8%
合計	1,196	100.0%

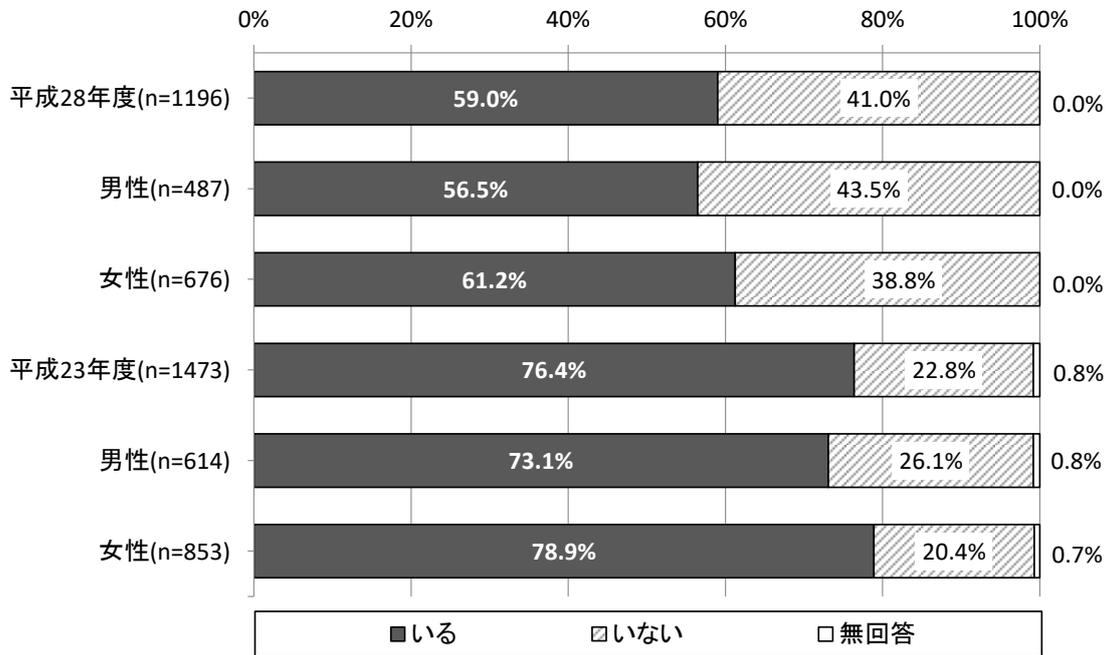
### 【経年比較, 性別, 年代別クロス】

平成23年度調査（以下、前回調査という。）と比較すると、男女ともに20歳代、40歳代、50歳代の割合が高くなっています。



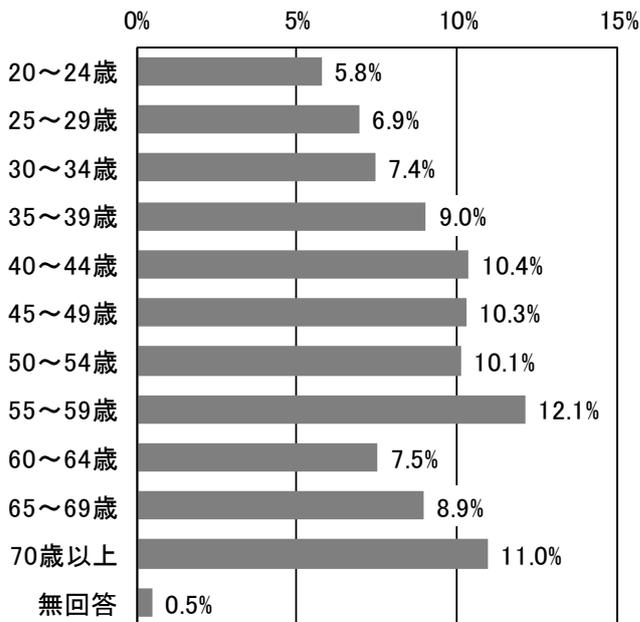
### 【経年比較, 性別, 子どもの有無クロス】

前回調査と比較すると、子どもの有無では、男女ともに、子どもが「いる」という回答は減少しており、全体では、17.4ポイント減少しています。



### F2 あなたの年代は次のうちどれですか。

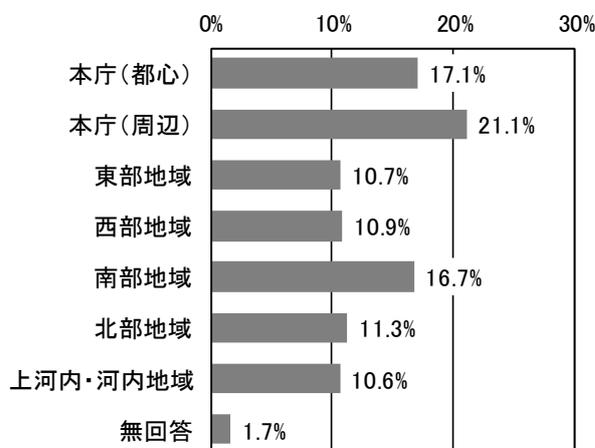
年代については、「55～59歳」が12.1%で最も多く、次いで「70歳以上」が11.0%、「40～44歳」が10.4%となっています。



項目	回答数	構成比
20～24歳	69	5.8%
25～29歳	83	6.9%
30～34歳	89	7.4%
35～39歳	108	9.0%
40～44歳	124	10.4%
45～49歳	123	10.3%
50～54歳	121	10.1%
55～59歳	145	12.1%
60～64歳	90	7.5%
65～69歳	107	8.9%
70歳以上	131	11.0%
無回答	6	0.5%
合計	1,196	100.0%

### F3 あなたがお住まいの地区はどちらですか。

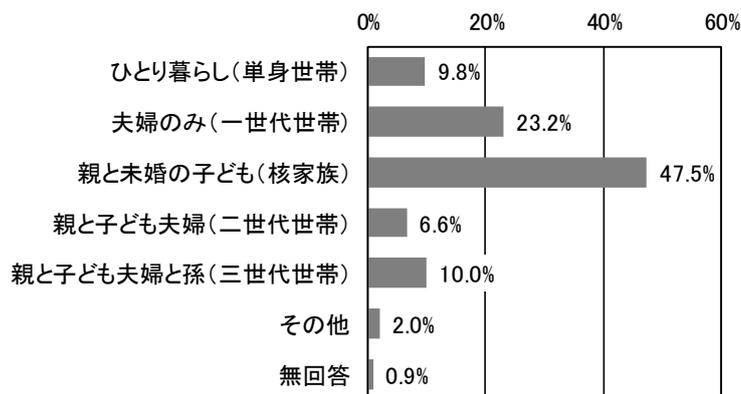
住まいの地区については、「本庁（周辺）」が 21.1%で最も多く、次いで「本庁（都心）」が 17.1%、「南部地域」が 16.7%となっています。



項目	回答数	構成比
本庁(都心)(本庁管内で、【東】国道4号線バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りで囲まれた地域)	204	17.1%
本庁(周辺)(本庁管内で、【東】国道4号線バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りより外側の地域)	252	21.1%
東部地域(平石地区、清原地区、瑞穂野地区)	128	10.7%
西部地域(城山地区、姿川地区)	130	10.9%
南部地域(横川地区、雀宮地区)	200	16.7%
北部地域(豊郷地区、国本地区、富屋地区、篠井地区)	135	11.3%
上河内・河内地域(上河内地区、河内地区)	127	10.6%
無回答	20	1.7%
合計	1,196	100.0%

### F4 あなたの家族構成はどれに該当しますか。

家族構成については、「親と未婚の子ども（核家族）」が 47.5%で最も多く、次いで「夫婦のみ（一世代世帯）」が 23.2%となっています。

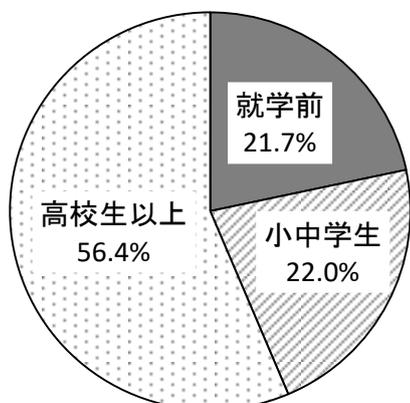


項目	回答数	構成比
ひとり暮らし(単身世帯)	117	9.8%
夫婦のみ(一世代世帯)	277	23.2%
親と未婚の子ども(核家族)	568	47.5%
親と子ども夫婦(二世帯世帯)	79	6.6%
親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)	120	10.0%
その他	24	2.0%
無回答	11	0.9%
合計	1,196	100.0%

《お子さんのいる方にお尋ねします。》

F4-1 あなたの一番下のお子さんの年齢は次のどちらですか。

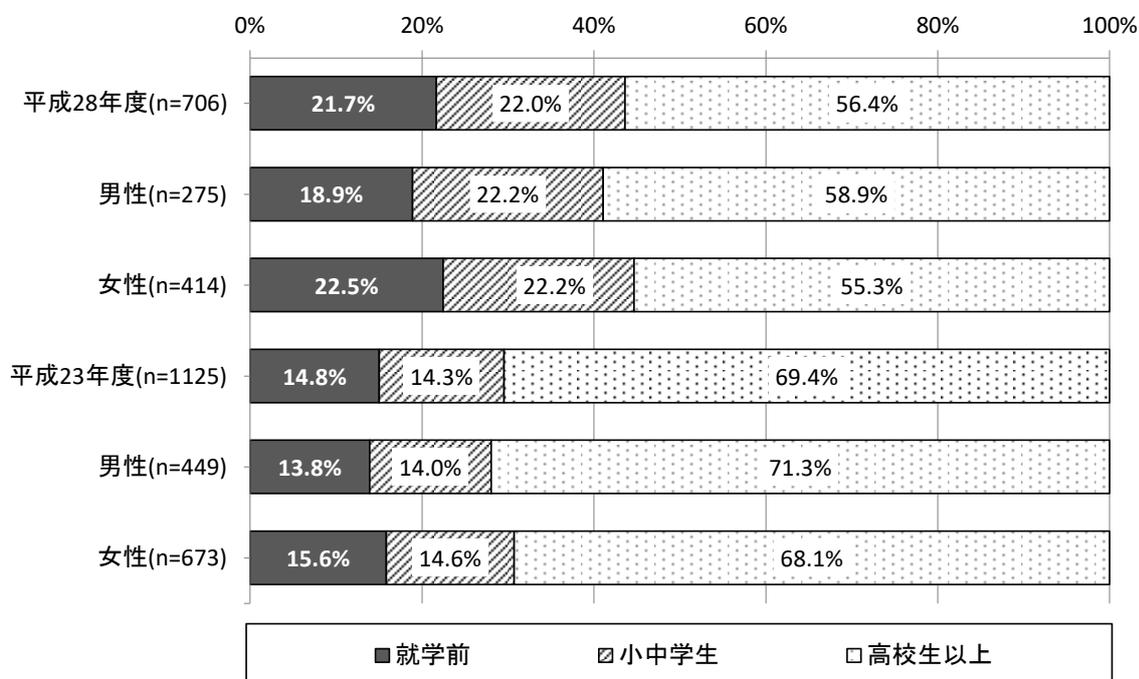
お子さんの年齢については、「高校生以上」が 56.4%で最も多く、次いで「小中学生」が 22.0%、「就学前」が 21.7%となっています。



項目	回答数	構成比
就学前	153	21.7%
小中学生	155	22.0%
高校生以上	398	56.4%
回答者数	706	100.0%
無回答	490	
合計	1,196	

【経年比較, 性別, 末子の成長段階クロス】

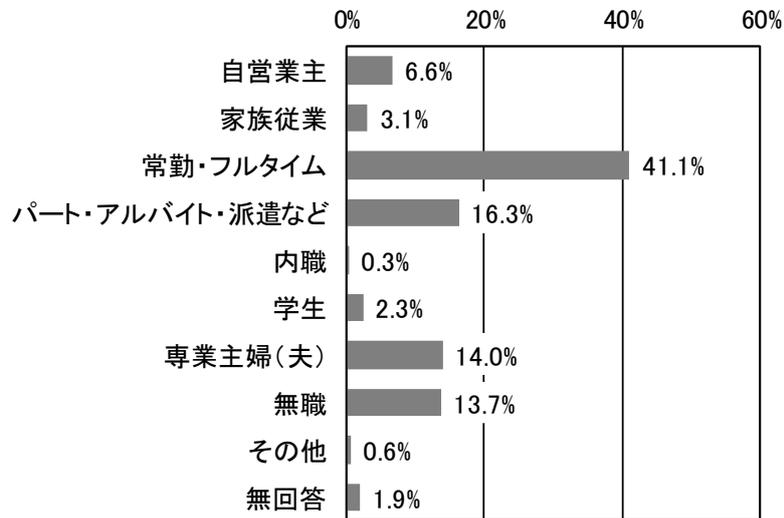
前回調査と比較すると、男女ともに、「就学前」、「小中学生」という回答が増加し、「高校生以上」という回答が減少しています。全体で比較すると「就学前」、「小中学生」は、それぞれ 6.9 ポイント、7.7 ポイントの増加、「高校生以上」は、13 ポイントの減少となっています。



※無回答はお子さんがない方として回答者数から除いています。

**F5 あなたの仕事は次のうちどれにあたりますか。**

あなたの仕事については、「常勤・フルタイム」が41.1%で最も多く、次いで「パート・アルバイト・派遣など」が16.3%となっています。

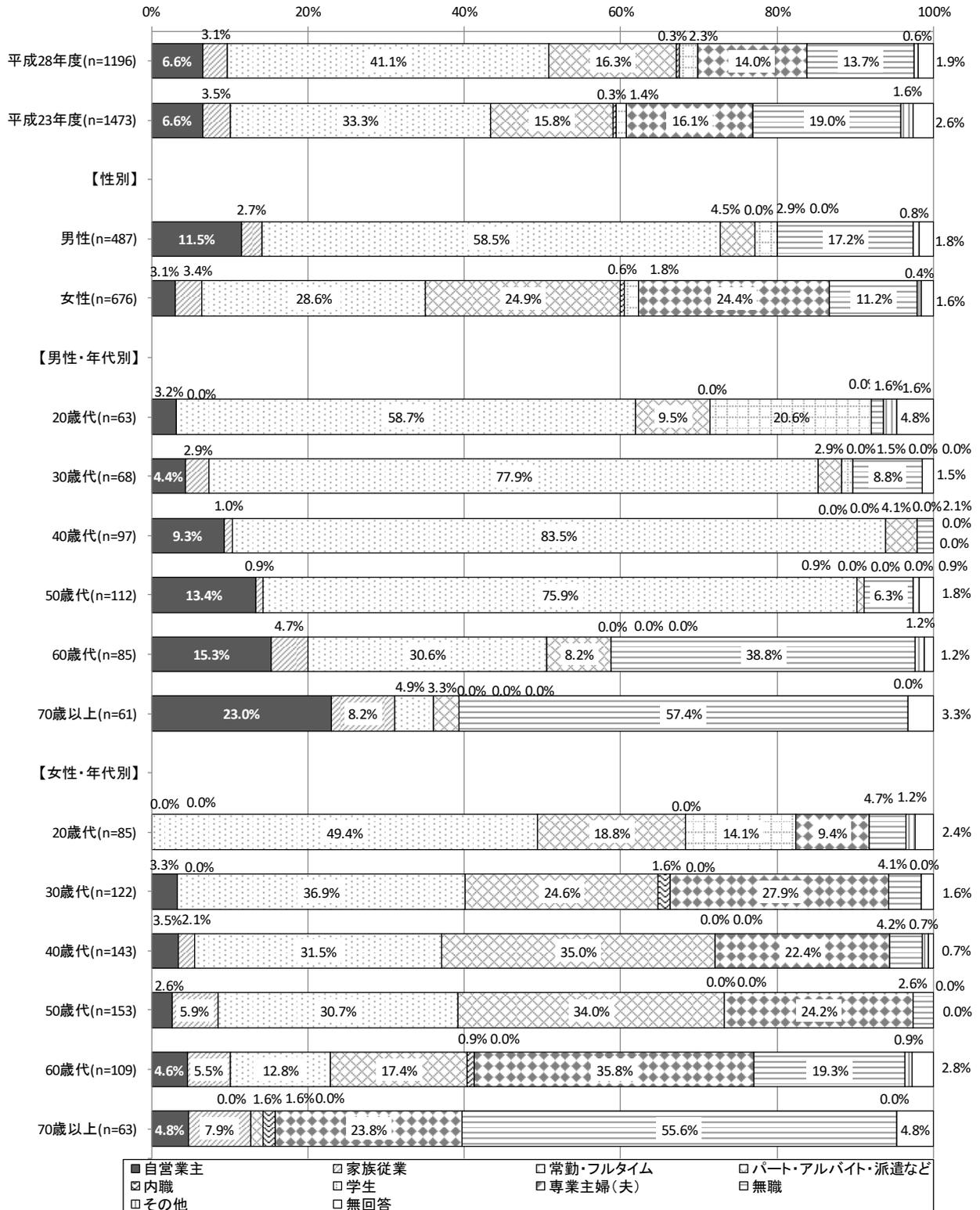


項目	回答数	構成比
自営業主	79	6.6%
家族従業(農家や商店など自営業主の家族で、その自営業に従事)	37	3.1%
常勤・フルタイム	492	41.1%
パート・アルバイト・派遣など	195	16.3%
内職	4	0.3%
学生	28	2.3%
専業主婦(夫)	167	14.0%
無職	164	13.7%
その他	7	0.6%
無回答	23	1.9%
合計	1,196	100.0%

### 【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「常勤・フルタイム」が増加し、「無職」が減少しています。

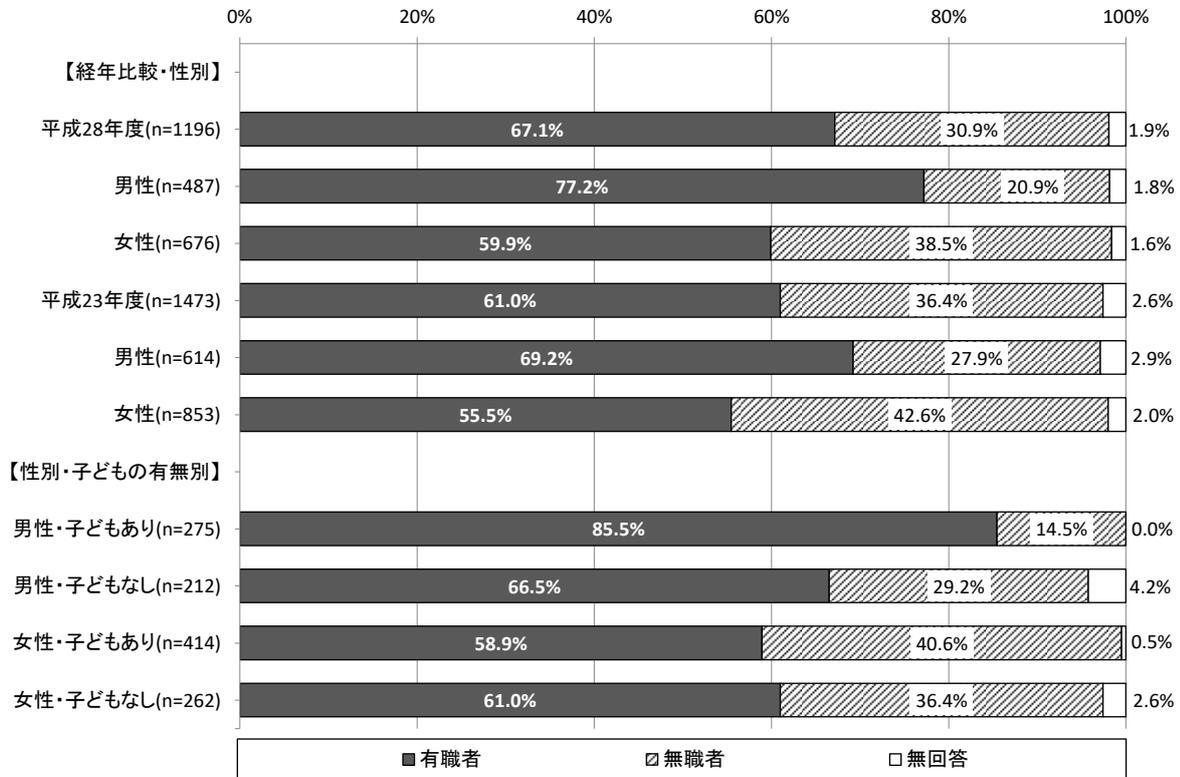
性・年代別では、男性の50歳代までは「常勤・フルタイム」という回答が最も多く、女性の「常勤・フルタイム」という回答は男性に比べて約半数となっています。



### 【経年比較, 性別, 子どもの有無別, 有無職者別クロス】

前回調査と比較すると, 男女ともに「有職者」という回答が増加しています。

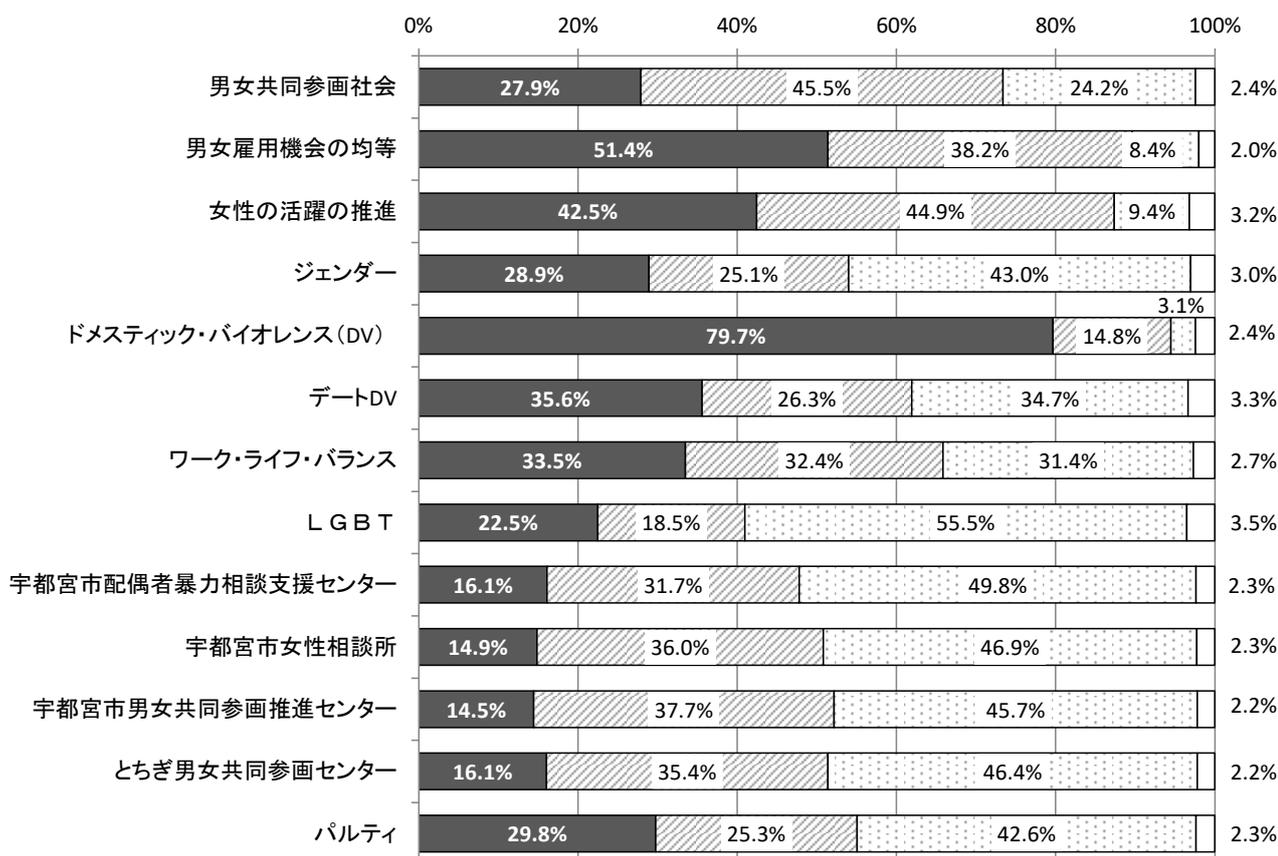
性別・子どもの有無別では, 男性に比べ, 女性の有職者の「子どもあり」と回答した方が少なくなっています。



## (2) 男女共同参画に関する用語について

問1 次にあげる男女共同参画に関する用語や施設名称を聞いたことがありますか。  
(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

男女共同参画に関する用語や施設名称の認知度については、「言葉も内容(施設用途)も知っている」項目で「ドメスティック・バイオレンス(DV)」が79.7%で最も高く、次いで「男女雇用機会の均等」が51.4%、「女性の活躍の推進」が42.5%となっています。

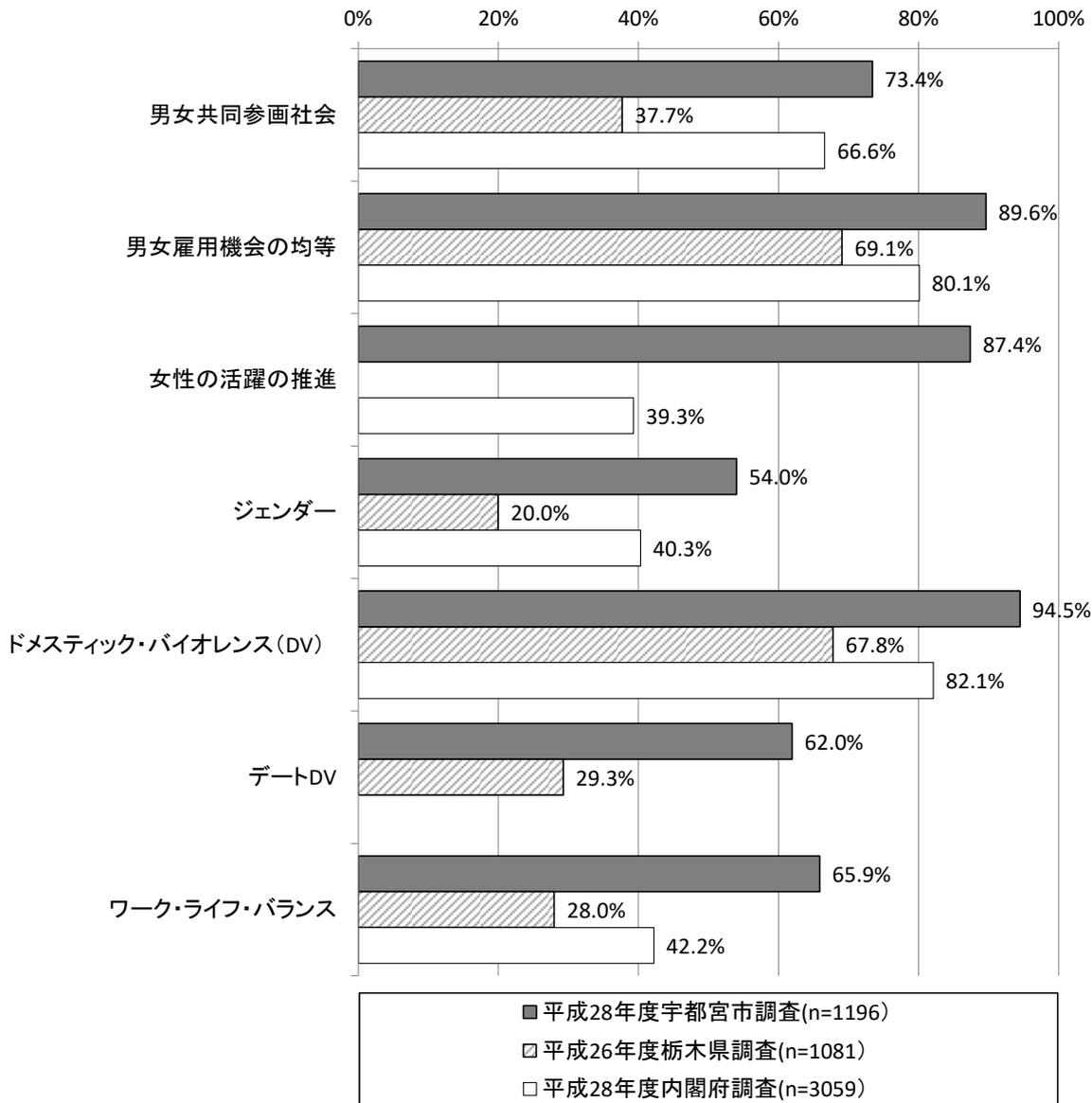


■ 言葉も内容(施設用途)も知っている □ 言葉だけは聞いたことがある □ 全く知らない □ 無回答

項目	言葉も内容(施設用途)も知っている	言葉だけは聞いたことがある	全く知らない	無回答	合計
男女共同参画社会	334	544	289	29	1,196
男女雇用機会の均等	615	457	100	24	1,196
女性の活躍の推進	508	537	113	38	1,196
ジェンダー	346	300	514	36	1,196
ドメスティック・バイオレンス(DV)	953	177	37	29	1,196
デートDV	426	315	415	40	1,196
ワーク・ライフ・バランス	401	387	376	32	1,196
LGBT	269	221	664	42	1,196
宇都宮市配偶者暴力相談支援センター	193	379	596	28	1,196
宇都宮市女性相談所	178	430	561	27	1,196
宇都宮市男女共同参画推進センター	173	451	546	26	1,196
とちぎ男女共同参画センター	192	423	555	26	1,196
パルティ	356	303	509	28	1,196

### 【宇都宮市，栃木県，内閣府調査比較】

国，県調査と比較すると，全ての項目で国，県よりも認知度が多くなっています。特に，「女性の活躍の推進」，「ジェンダー」，「デートDV」，「ワーク・ライフ・バランス」では，大きな差がでています。

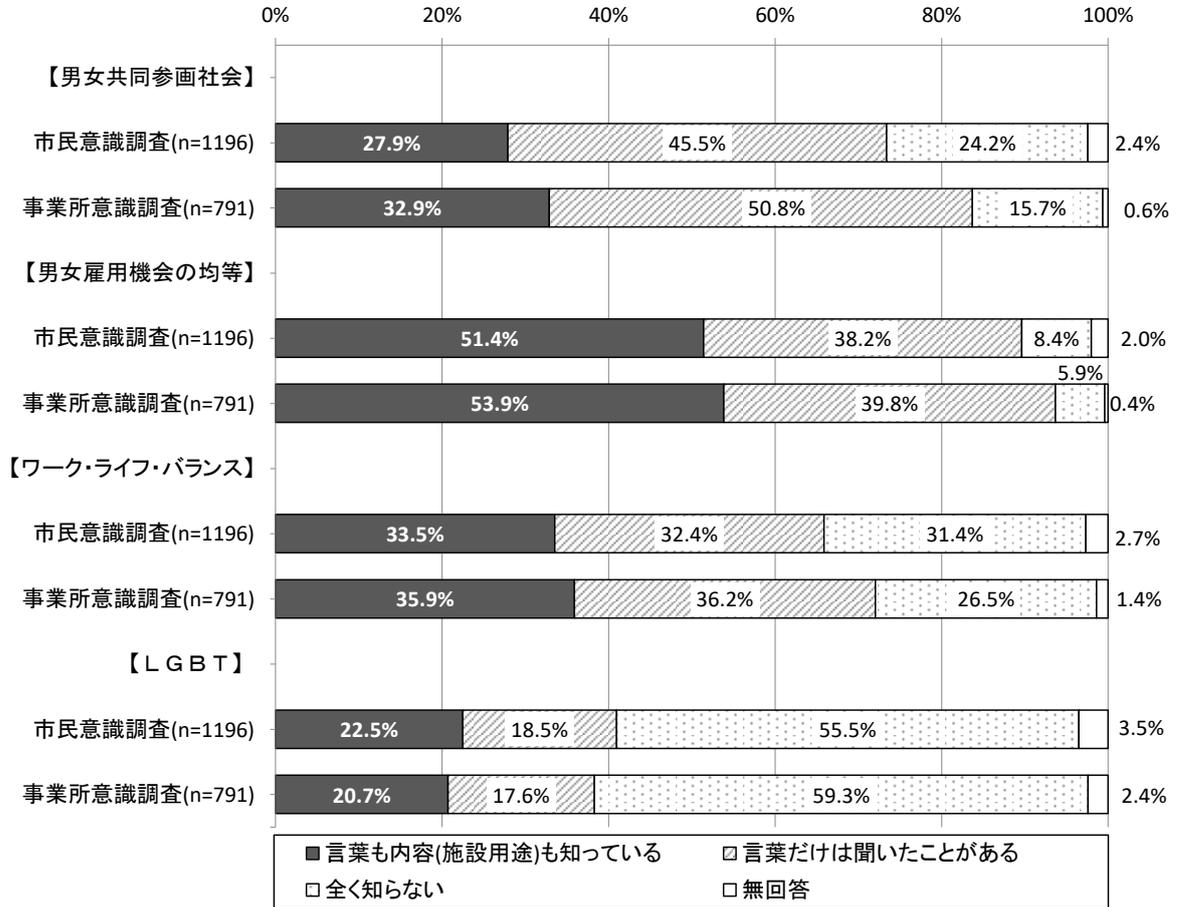


※宇都宮市調査では，「言葉も内容(施設用途)も知っている」，「言葉だけは聞いたことがある」を表記しています。

※内閣府調査では，「見たり聞いたりしたことがあるもの」を表記しています。

### 【事業所意識調査との比較】

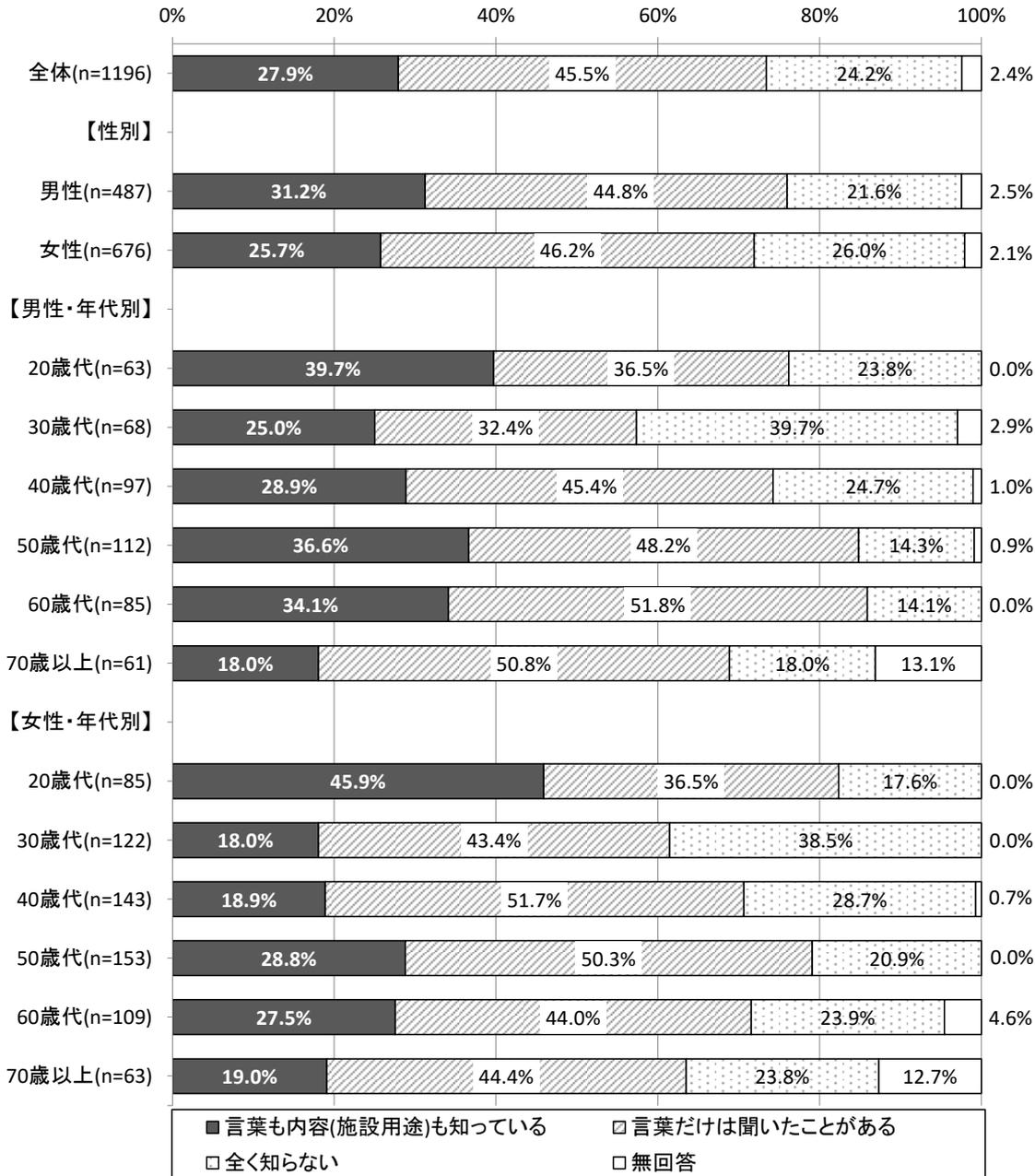
同時期に実施した「事業所意識調査」と比較すると、「LGBT」の認知度が多くなっています。しかし、他項目では、「言葉も内容も知っている」、「言葉だけは聞いたことがある」を合わせると、事業所意識調査よりやや少なくなっています。



### ◆男女共同参画社会【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性より男性の方が「言葉も内容も知っている」という回答がやや多くなっています。

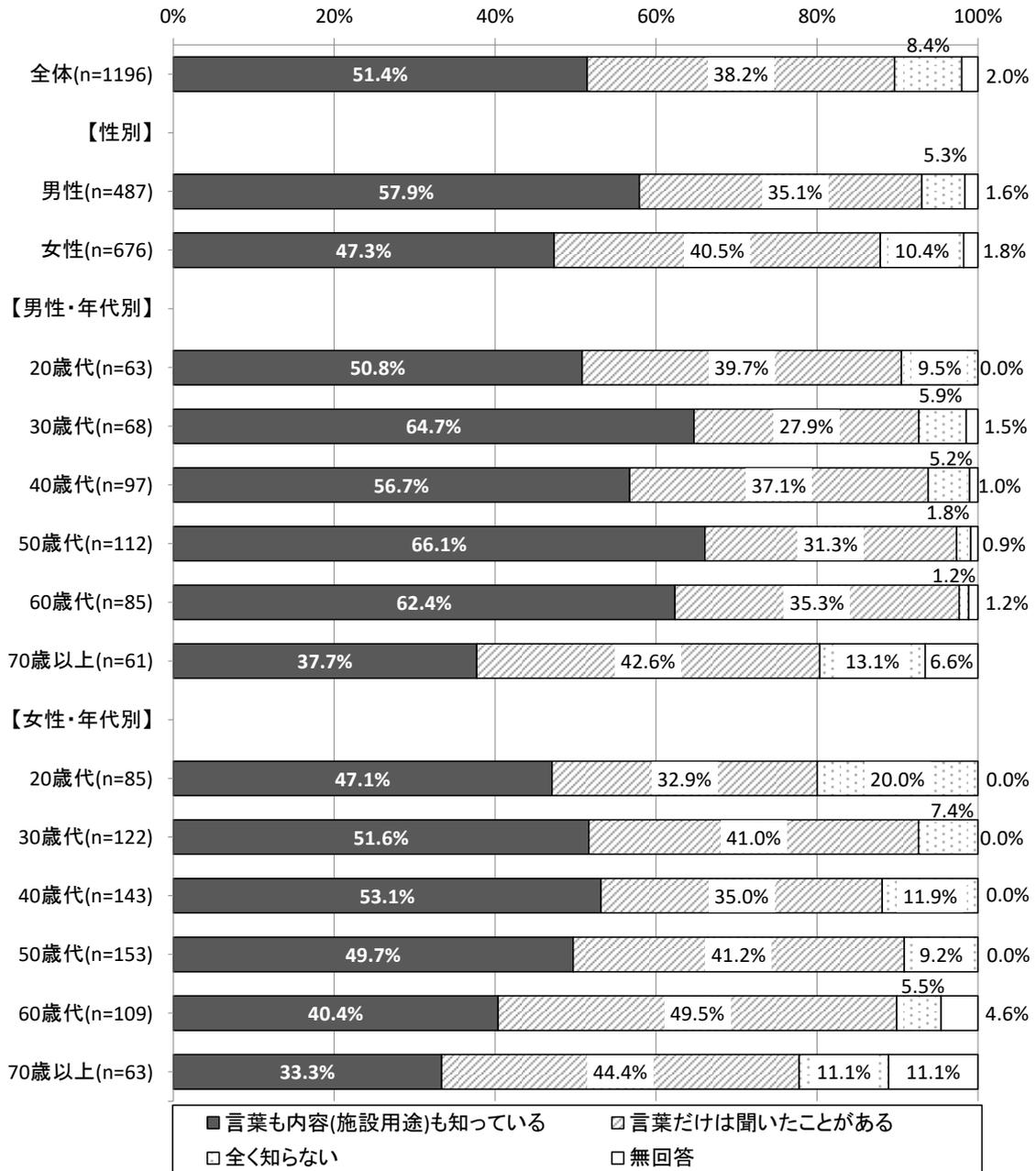
性・年代別では，「言葉も内容も知っている」という回答は，男女ともに20歳代が最も多く，次いで50歳代，60歳代となっています。



### ◆男女雇用機会の均等【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性より男性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

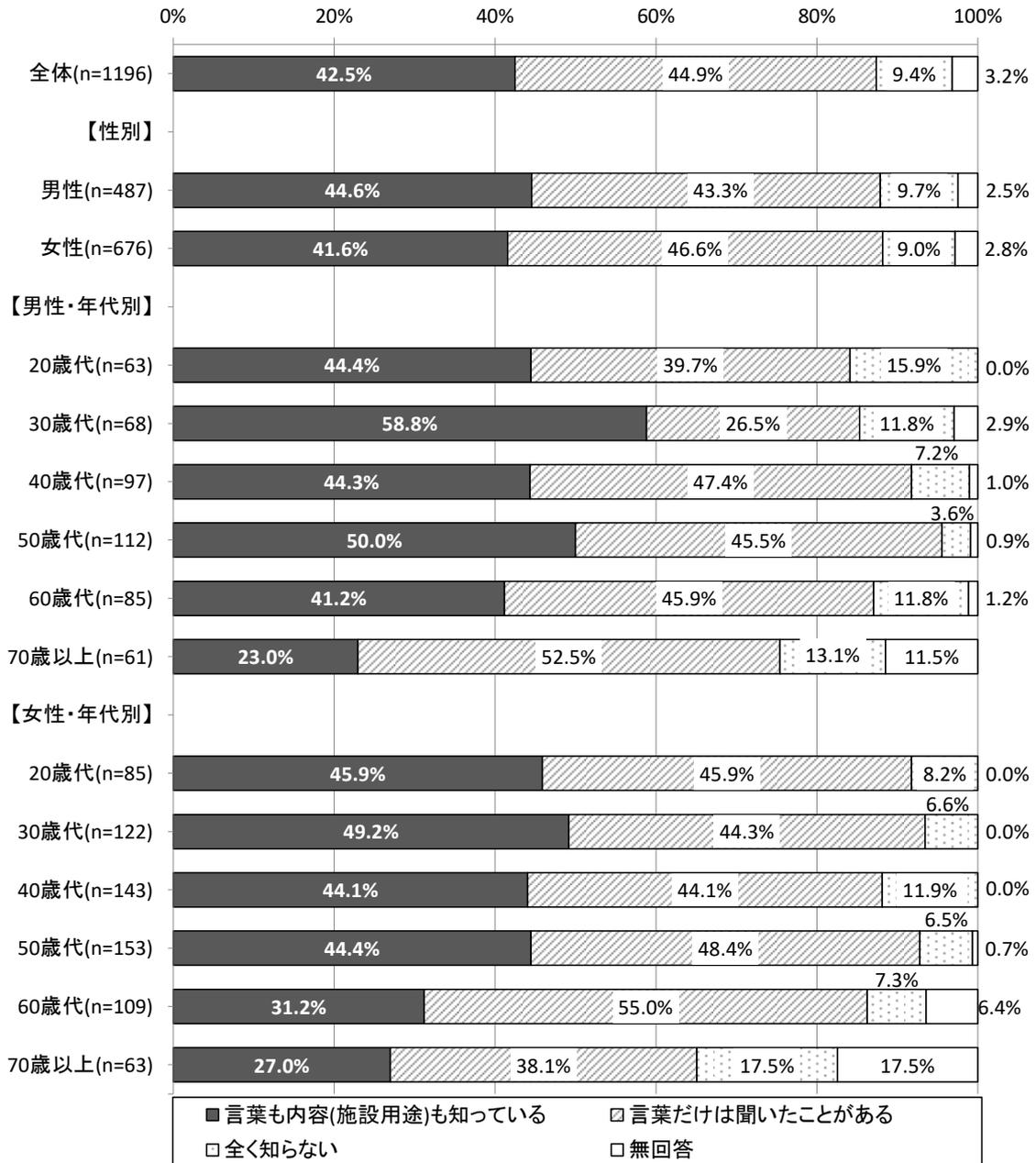
性・年代別では，「言葉も内容も知っている」という回答は，男女ともに70歳以上で減少しています。



### ◆女性の活躍の推進【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性より男性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

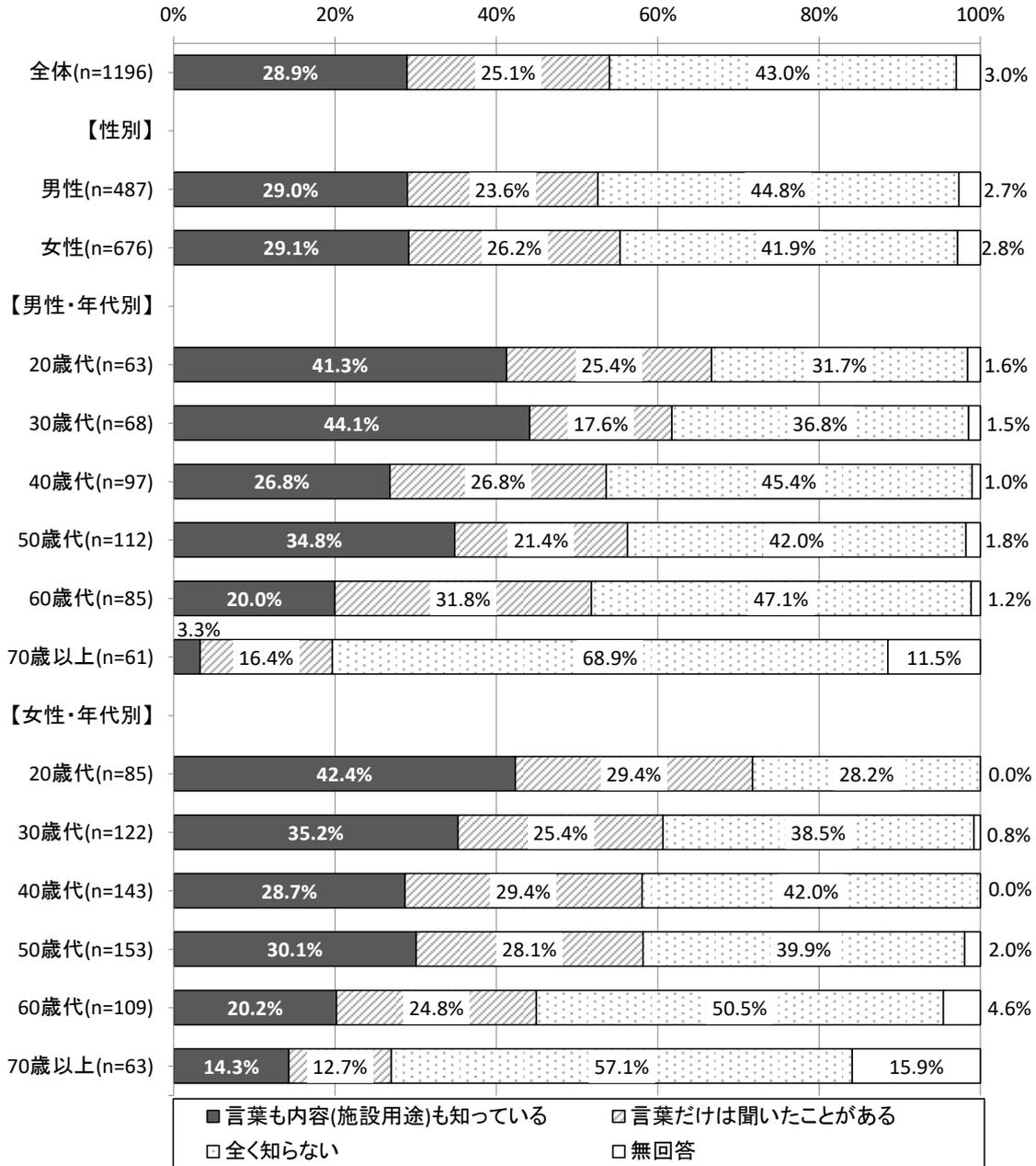
性・年代別では、男女ともに、30歳代の「言葉も内容も知っている」という回答が最も多くなっており、男性の約6割、女性の半数が「言葉も内容も知っている」と回答しています。



### ◆ジェンダー【性別, 性・年代別クロス】

性別では、大きな差は見られませんでした。

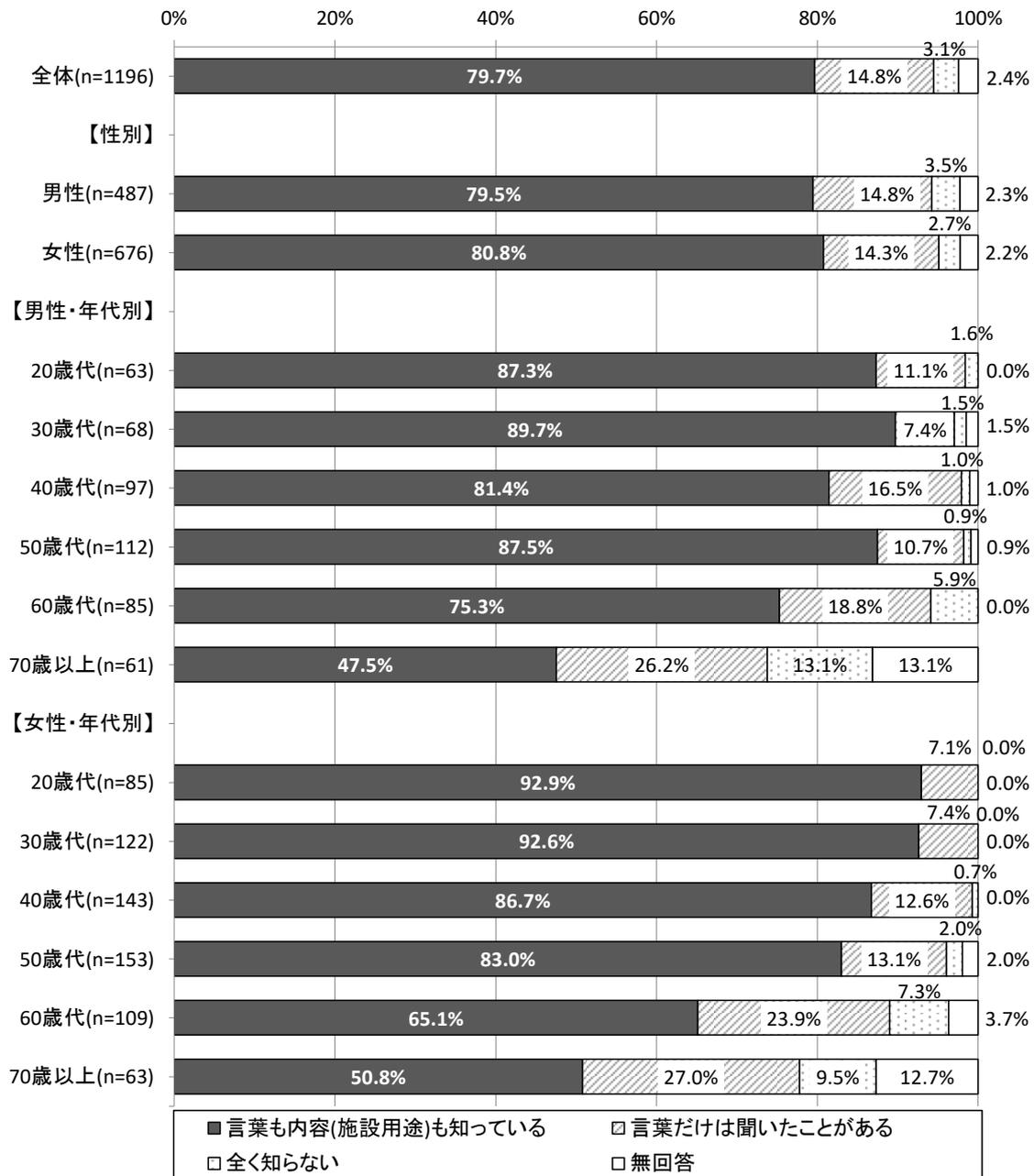
性・年代別では、男女ともに、30歳代以下は「言葉も内容も知っている」という回答が、他世代に対して多くなっていますが、40歳代以降は減少しています。



### ◆ドメスティック・バイオレンス(DV)【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男女での大きな差はありませんでした。

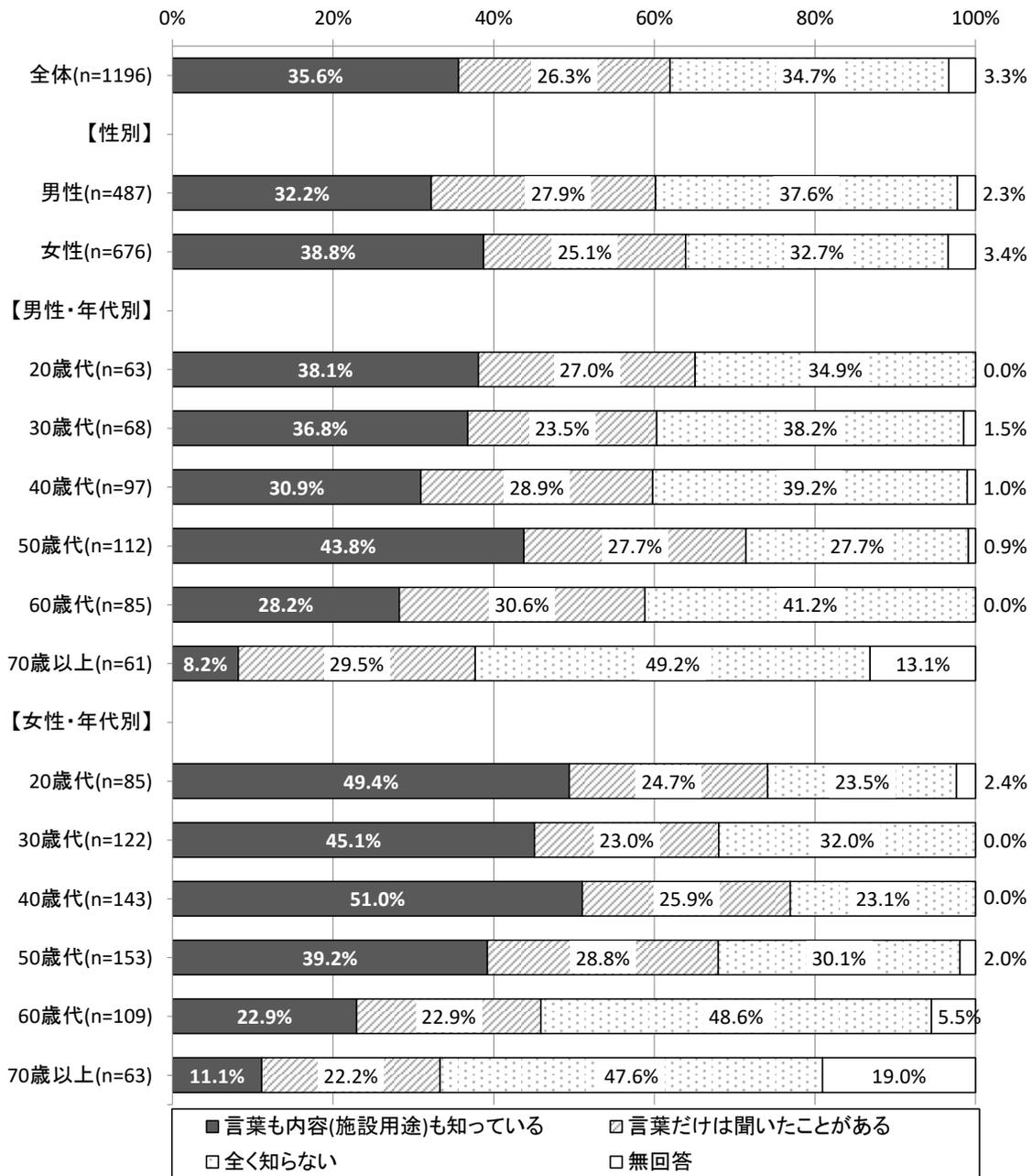
性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「言葉も内容も知っている」という回答が減少する傾向にあります。



### ◆データ DV【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

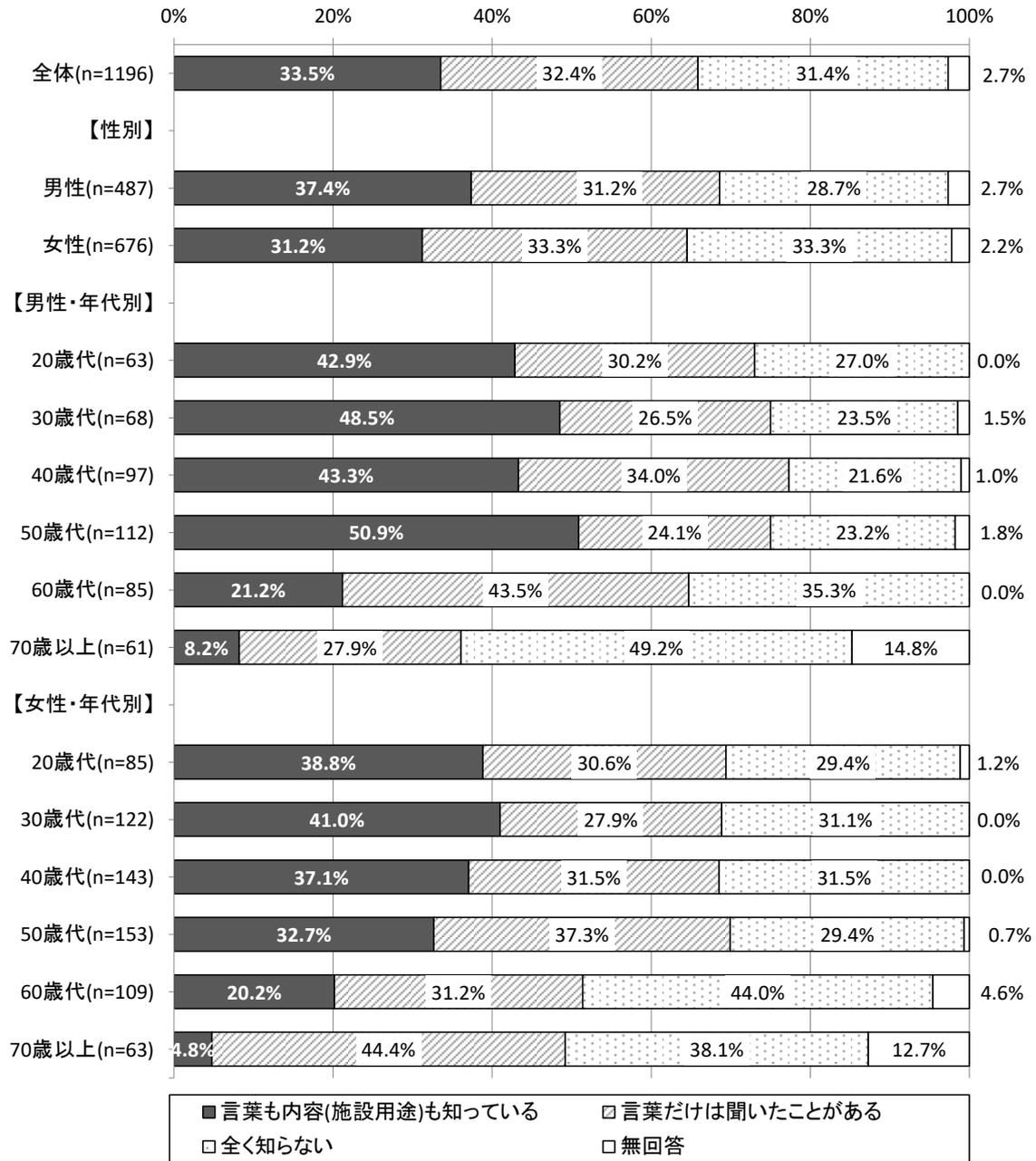
性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「言葉も内容も知っている」という回答が減少する傾向がありますが、男性の 50 歳代、女性の 40 歳代では、「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。



### ◆ワーク・ライフ・バランス【性別, 性・年代別クロス】

性別では、女性より男性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

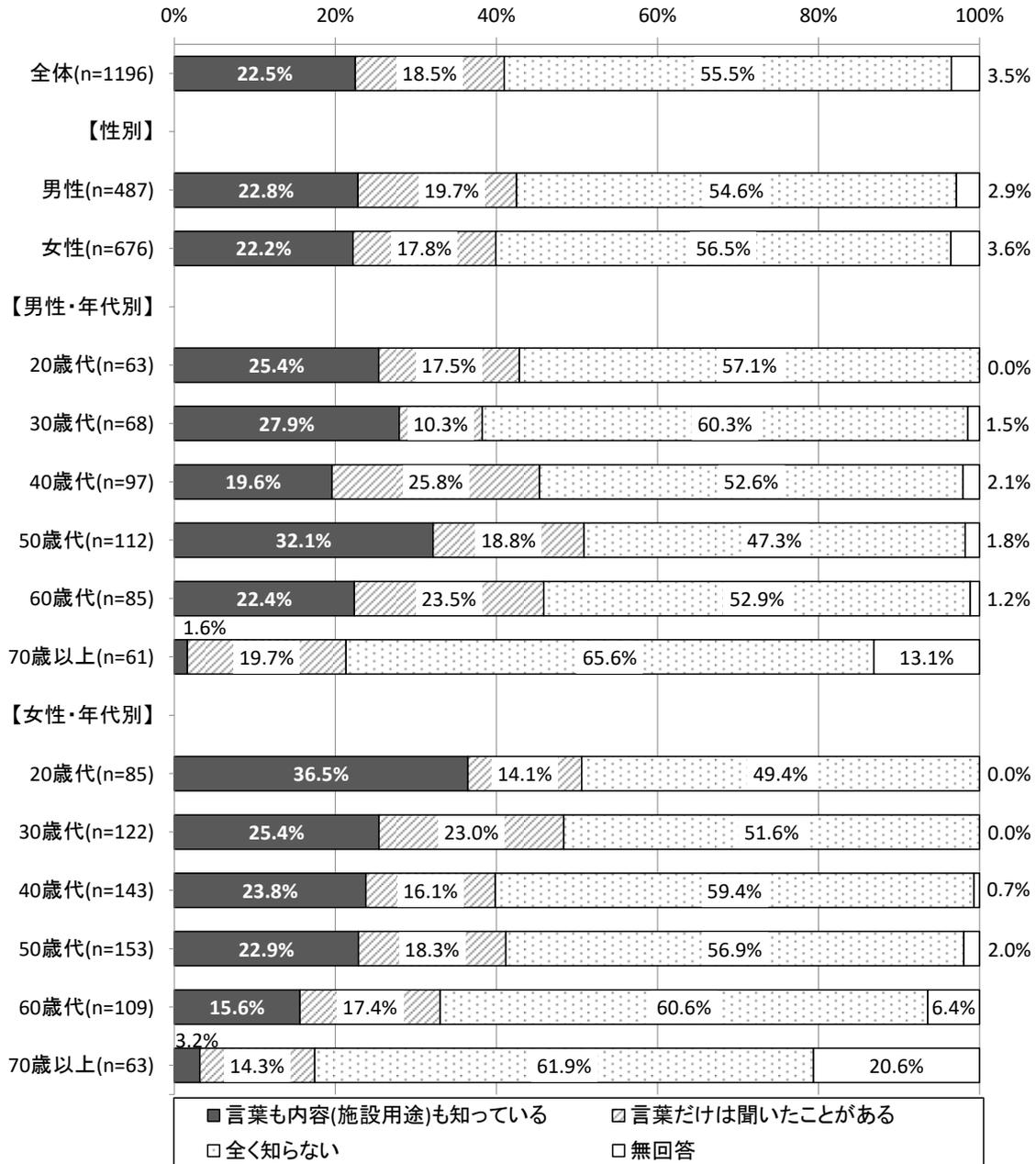
性・年代別では、男女ともに、60歳代以上で「言葉も内容も知っている」という回答が半減しています。



### ◆LGBT【性別，性・年代別クロス】

性別では，男女での大きな差はありませんでした。

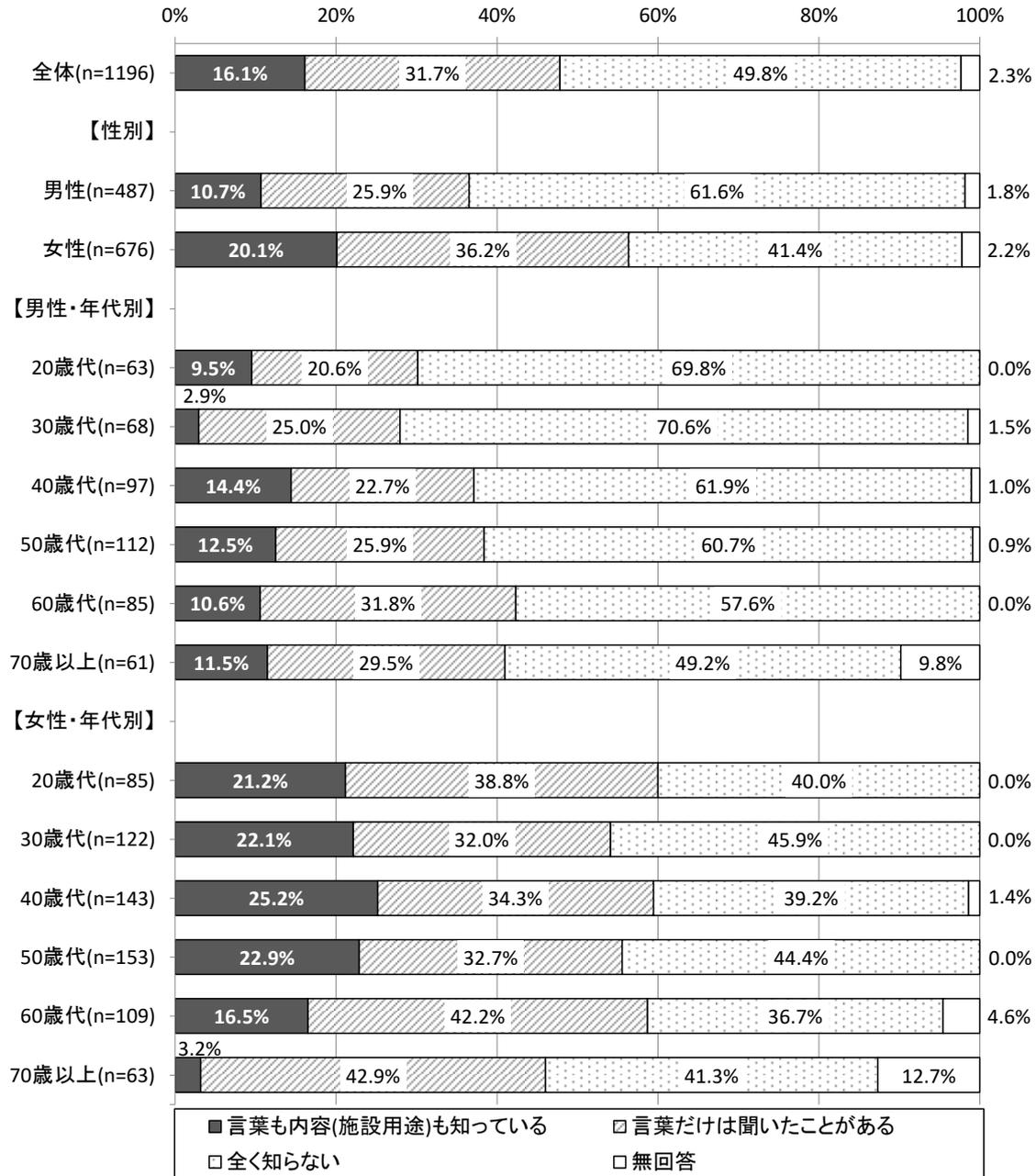
性・年代別では，男性は年代によるバラつきがあり 50 歳代が最も多く，女性は，20 歳代が最も多く，年代が上がるに従い「言葉も内容も知っている」という回答が減少しています。



### ◆宇都宮市配偶者暴力相談支援センター【性別，性・年代別クロス】

性別では，男性より女性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

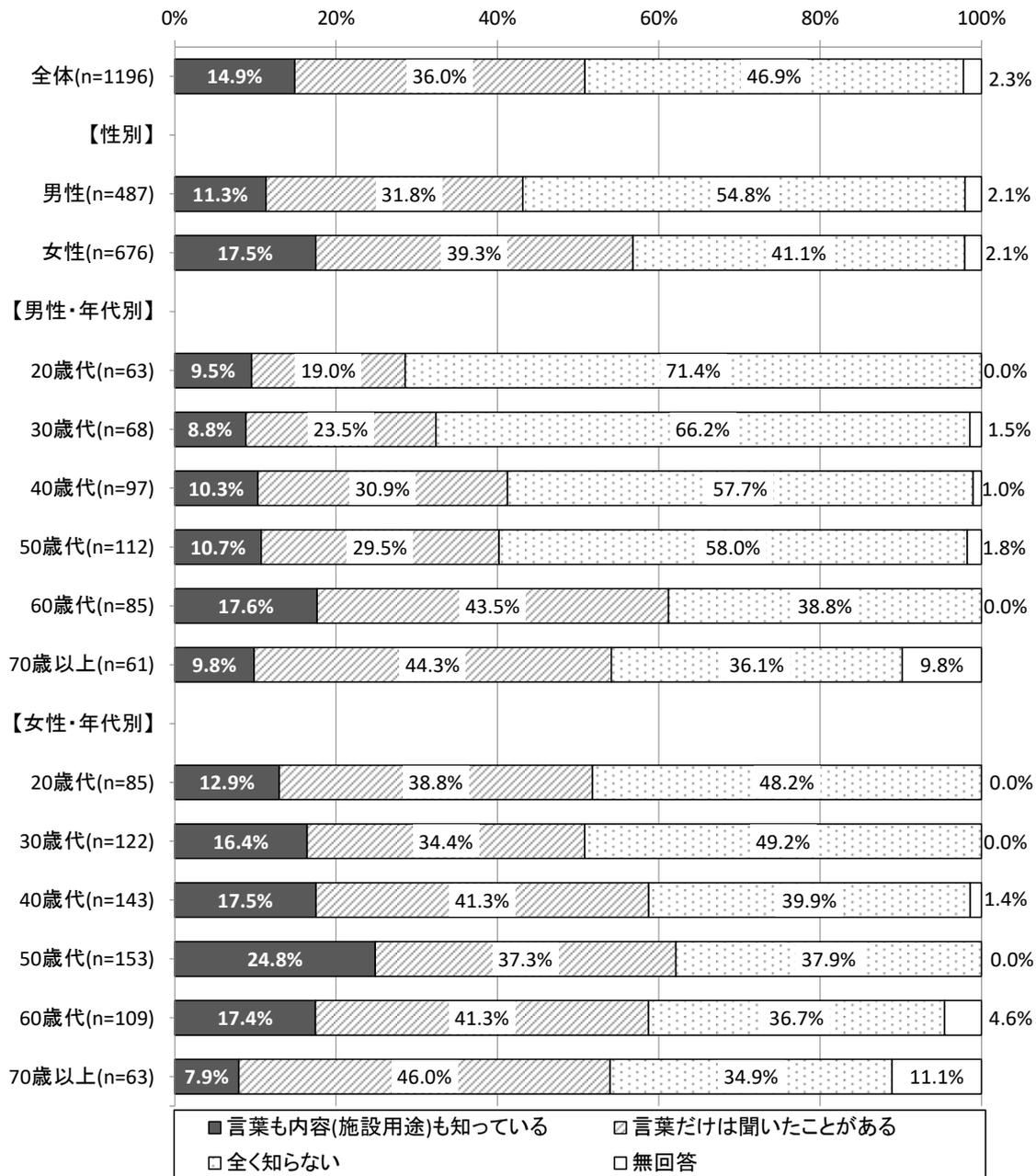
性・年代別では，男性の「言葉も内容も知っている」という回答が約1割に対し，女性の20歳代～50歳代で2割以上となっています。



### ◆宇都宮市女性相談所【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

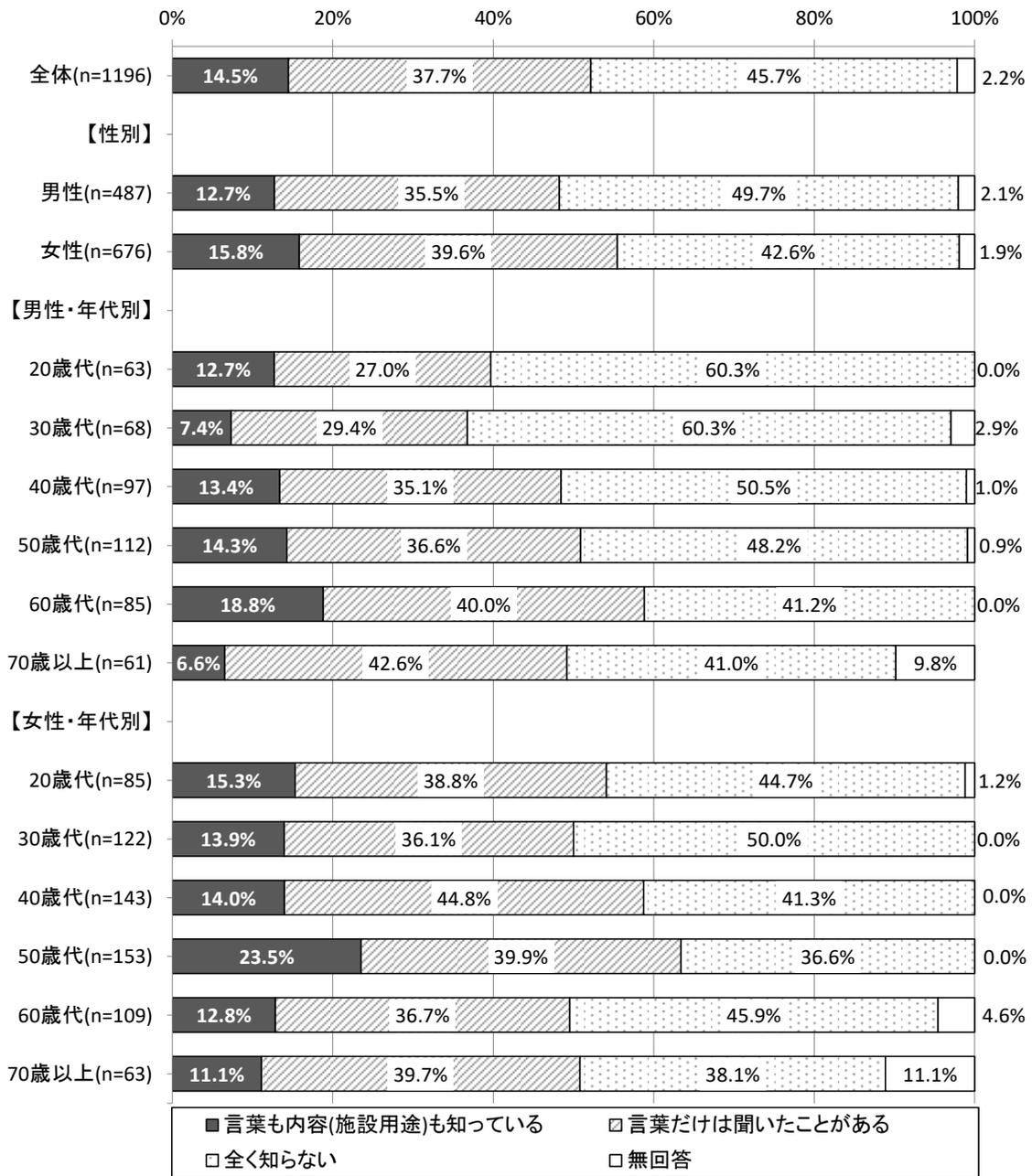
性・年代別では、「言葉も内容も知っている」という回答は、男性の60歳代で17.6%と最も多くなっていますが、他世代では、約1割に留まっています。また、女性の50歳代では、4人に1人の方が「言葉も内容も知っている」と回答しています。



### ◆宇都宮市男女共同参画推進センター【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

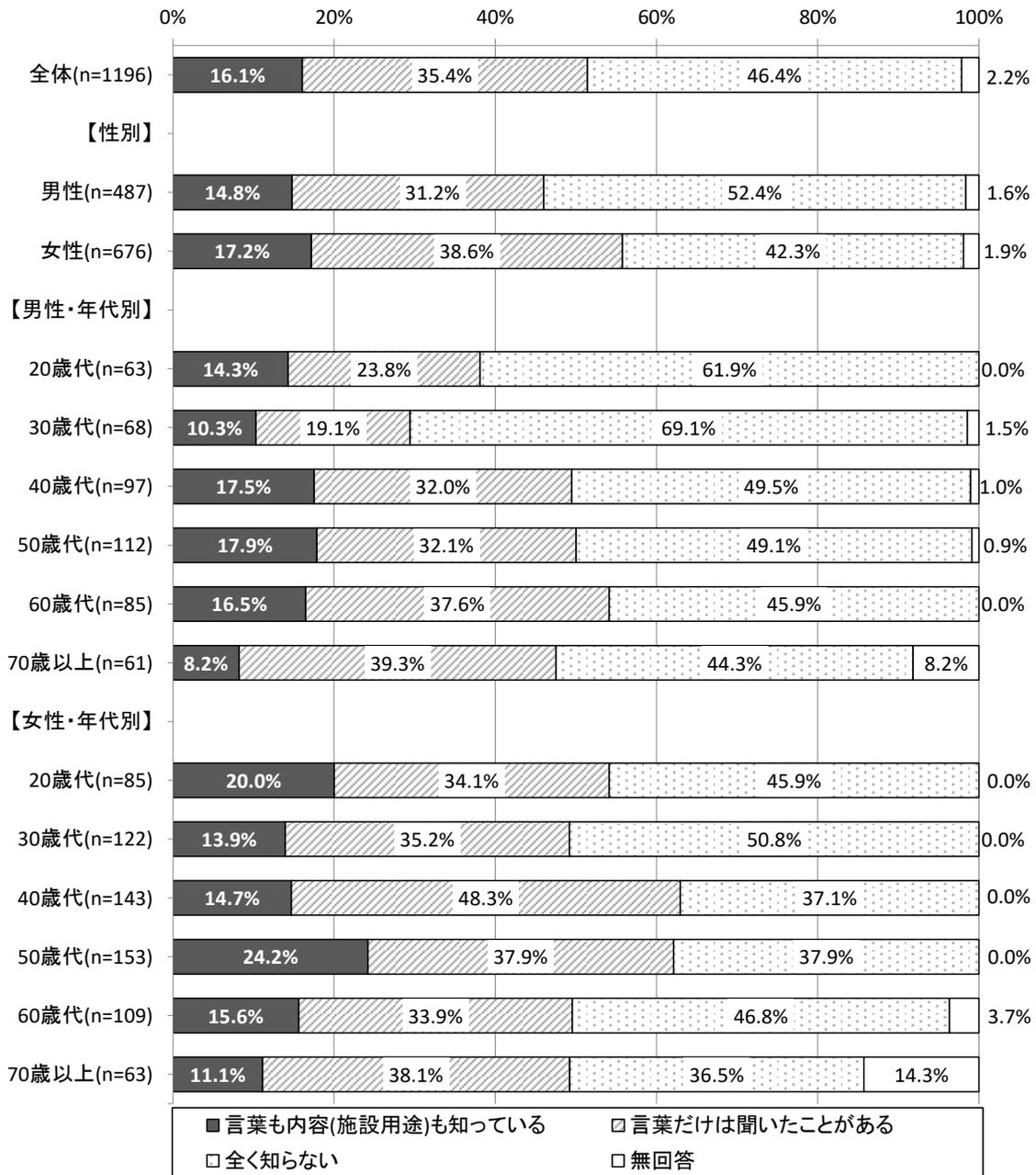
性・年代別では、男性の60歳代、女性の50歳代で「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。



### ◆とちぎ男女共同参画センター【性別，性・年代別クロス】

性別では，男性より女性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

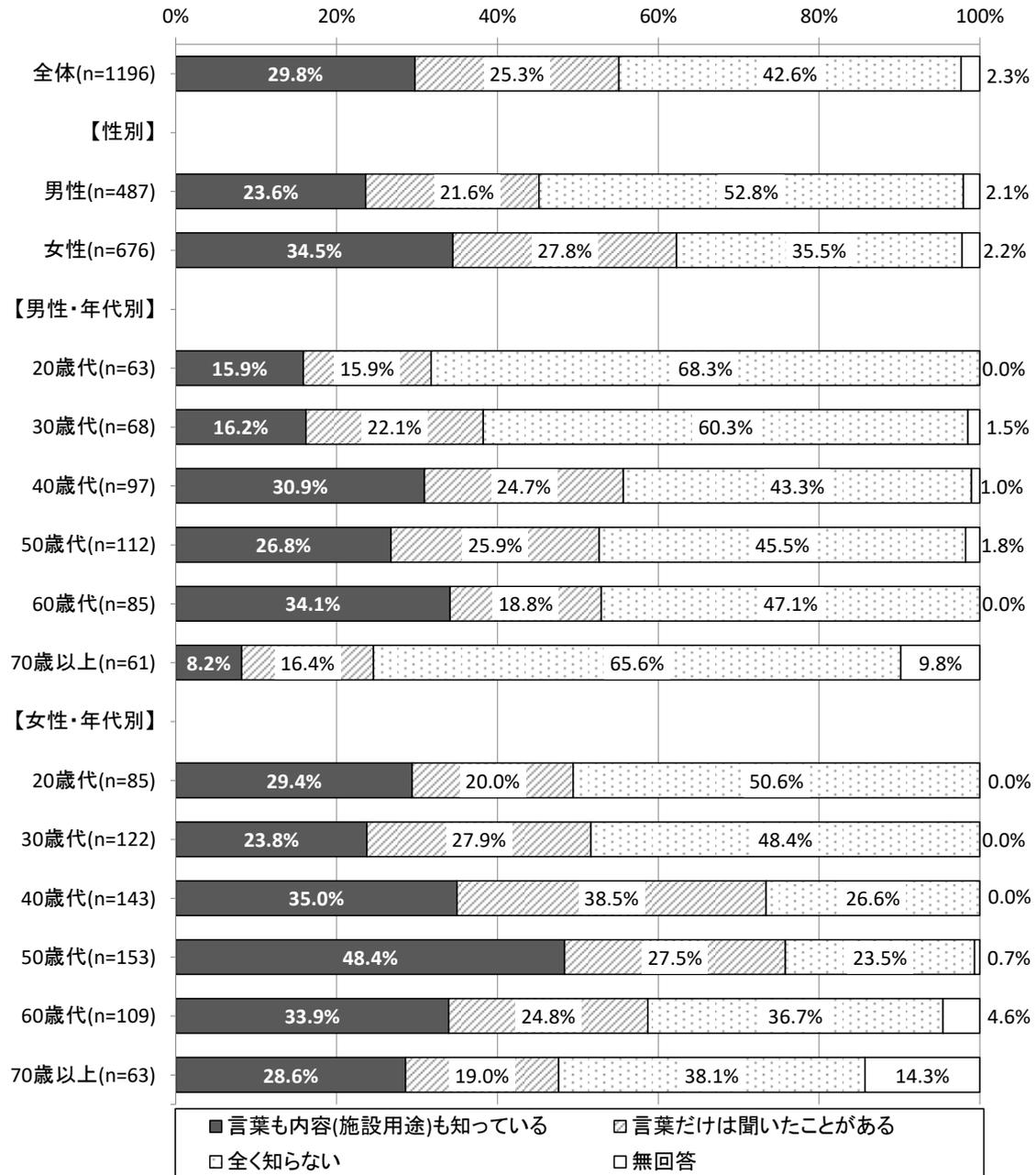
性・年代別では，女性の50歳代で「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。



### ◆パーティ【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。

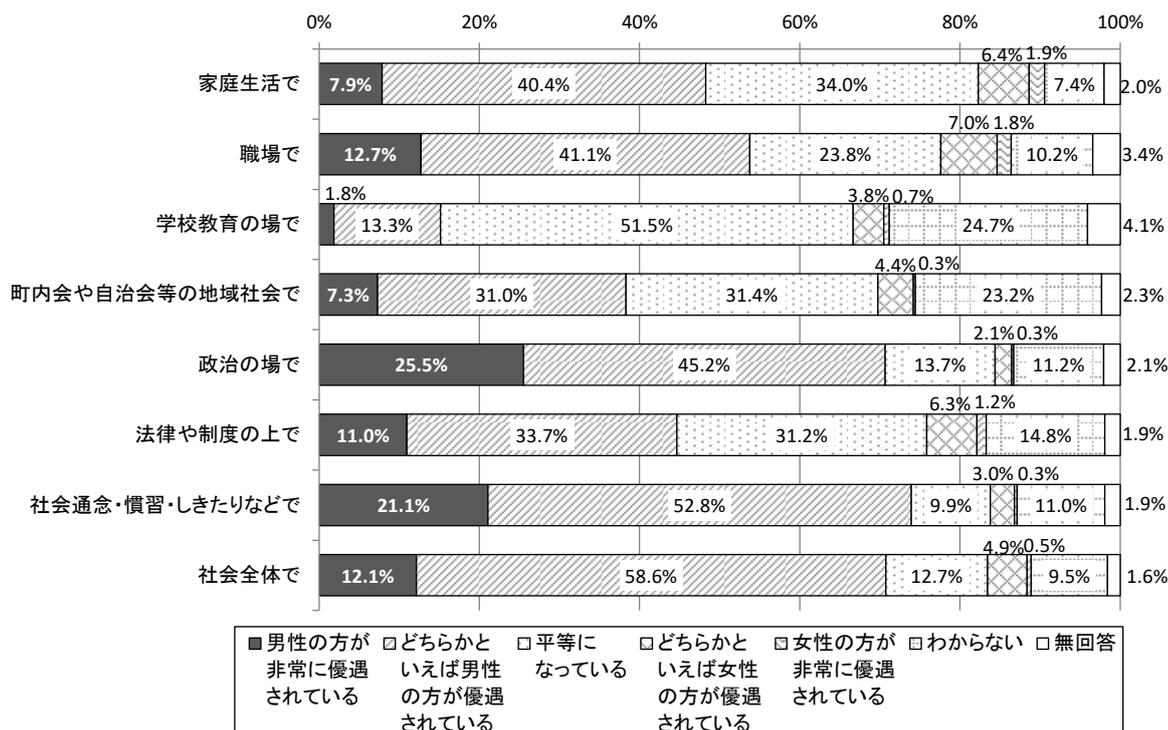
性・年代別では、男女ともに40歳代～60歳代で「言葉も内容も知っている」という回答が多くなっています。



### (3) 男女平等意識について

問2 あなたは、現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

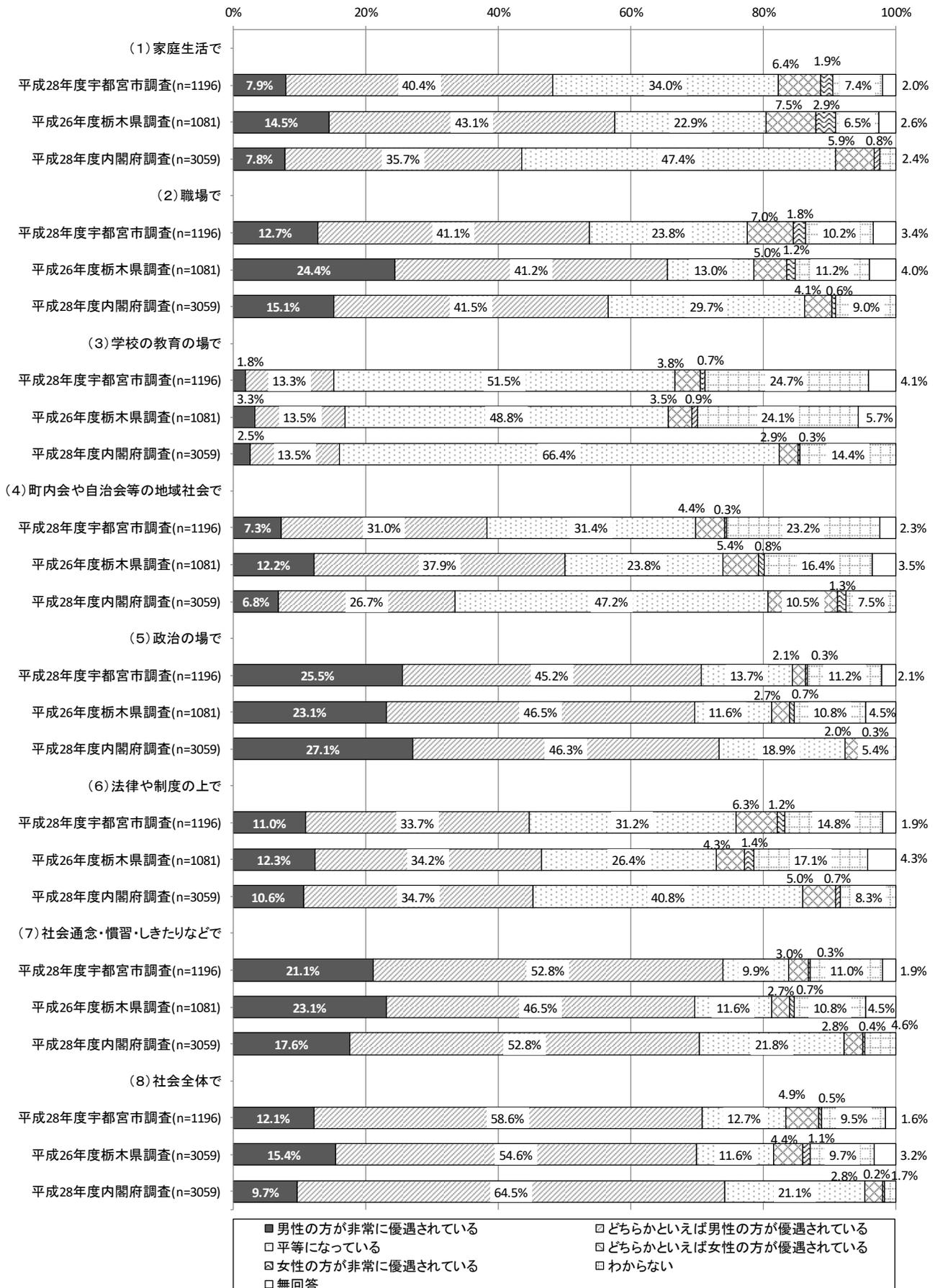
分野別の男女の地位については、「平等になっている」が多い項目は、「学校教育の場で」が51.5%で最も多く、次いで「家庭生活で」が34.0%となっています。また、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が多い項目は、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が73.9%で最も多く、次いで「政治の場」と「社会全体で」がともに70.7%となっています。



項目	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	合計
家庭生活で	94	483	407	76	23	89	24	1,196
職場で	152	491	285	84	21	122	41	1,196
学校教育の場で	22	159	616	46	8	296	49	1,196
町内会や自治会等の地域社会で	87	371	376	53	3	278	28	1,196
政治の場で	305	540	164	25	3	134	25	1,196
法律や制度の上で	131	403	373	75	14	177	23	1,196
社会通念・慣習・しきたりなどで	252	632	118	36	4	131	23	1,196
社会全体で	145	701	152	59	6	114	19	1,196

## 【宇都宮市，栃木県，内閣府調査比較】

国調査とは大きな差はありませんが，県調査と比較すると，「家庭生活で」，「職場で」において「平等」という回答がやや多くなっています。

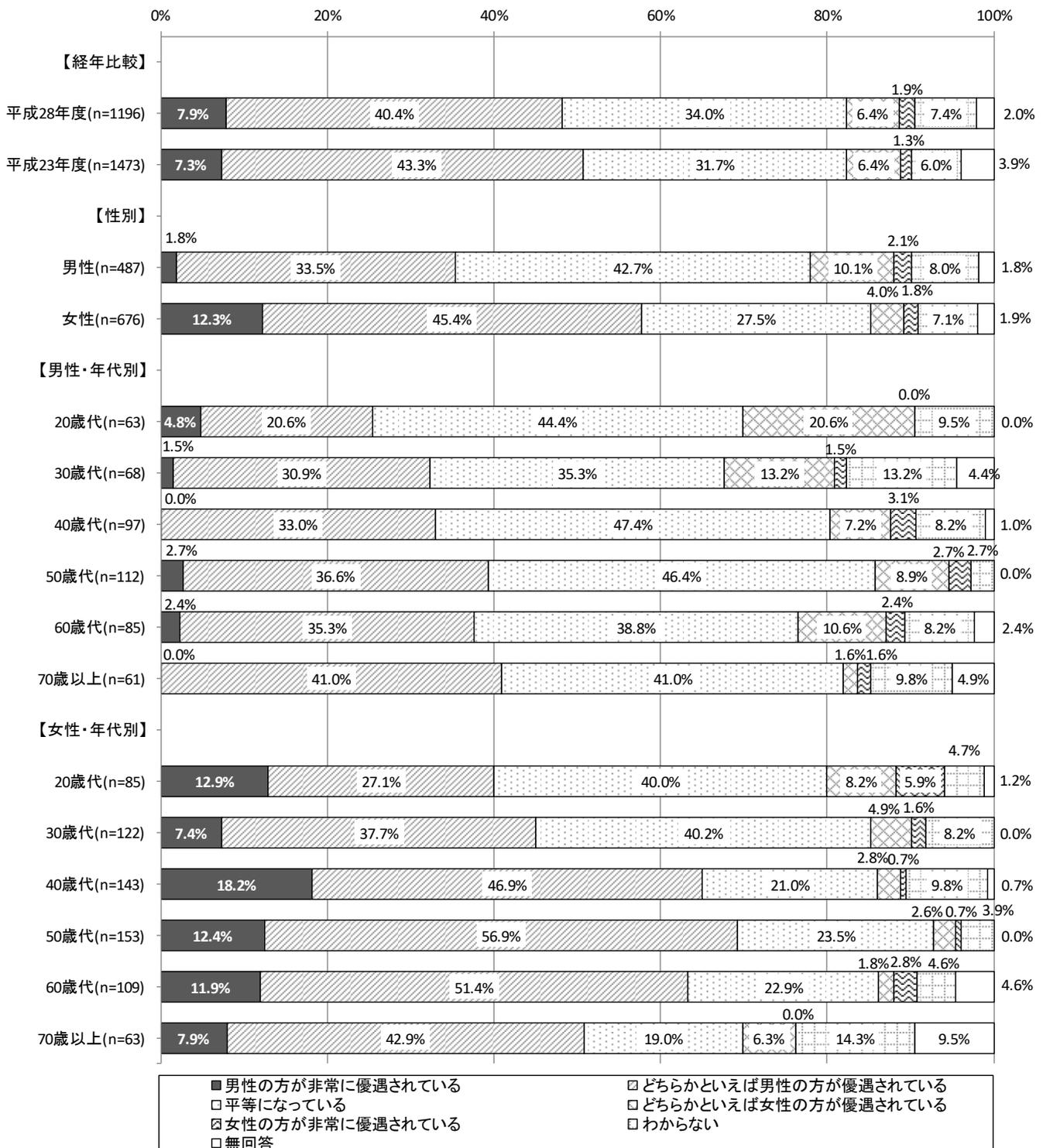


### ◆家庭生活で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、30歳代の女性は、他年代に対し「男性の方が非常に優遇されている」という回答が少なく、男性の全年代、女性の30歳代以下では、3割～5割の方が「平等」と回答しています。

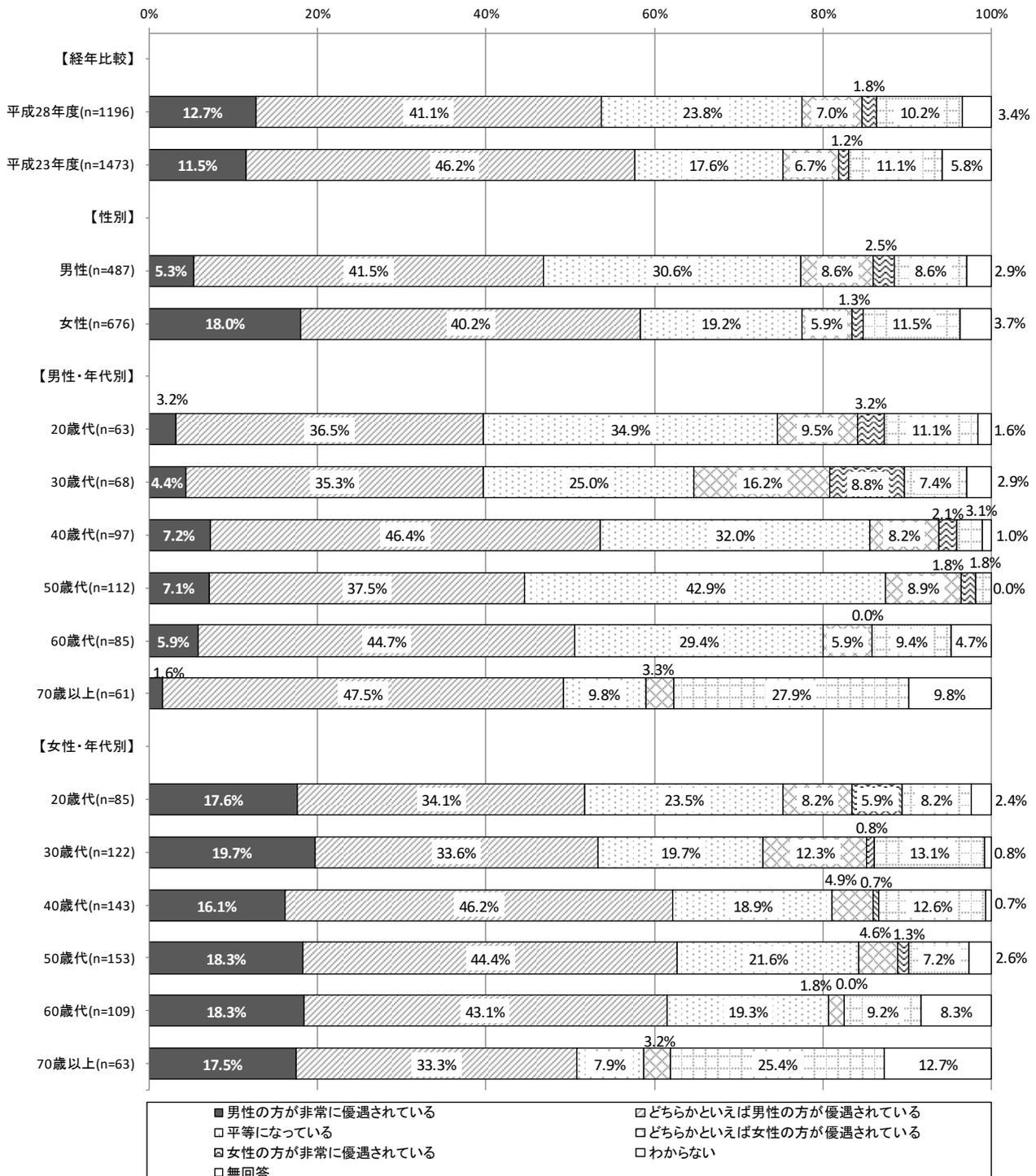


### ◆職場で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「平等」という回答が6.2ポイント増加しています。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が多くなっており、女性の約6割が回答しています。

性・年代別では、30歳代以下、70歳代の女性は、他年代に対し「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が少なくなっています。また、男性の30歳代では、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答が他年代に比べ多くなっています。

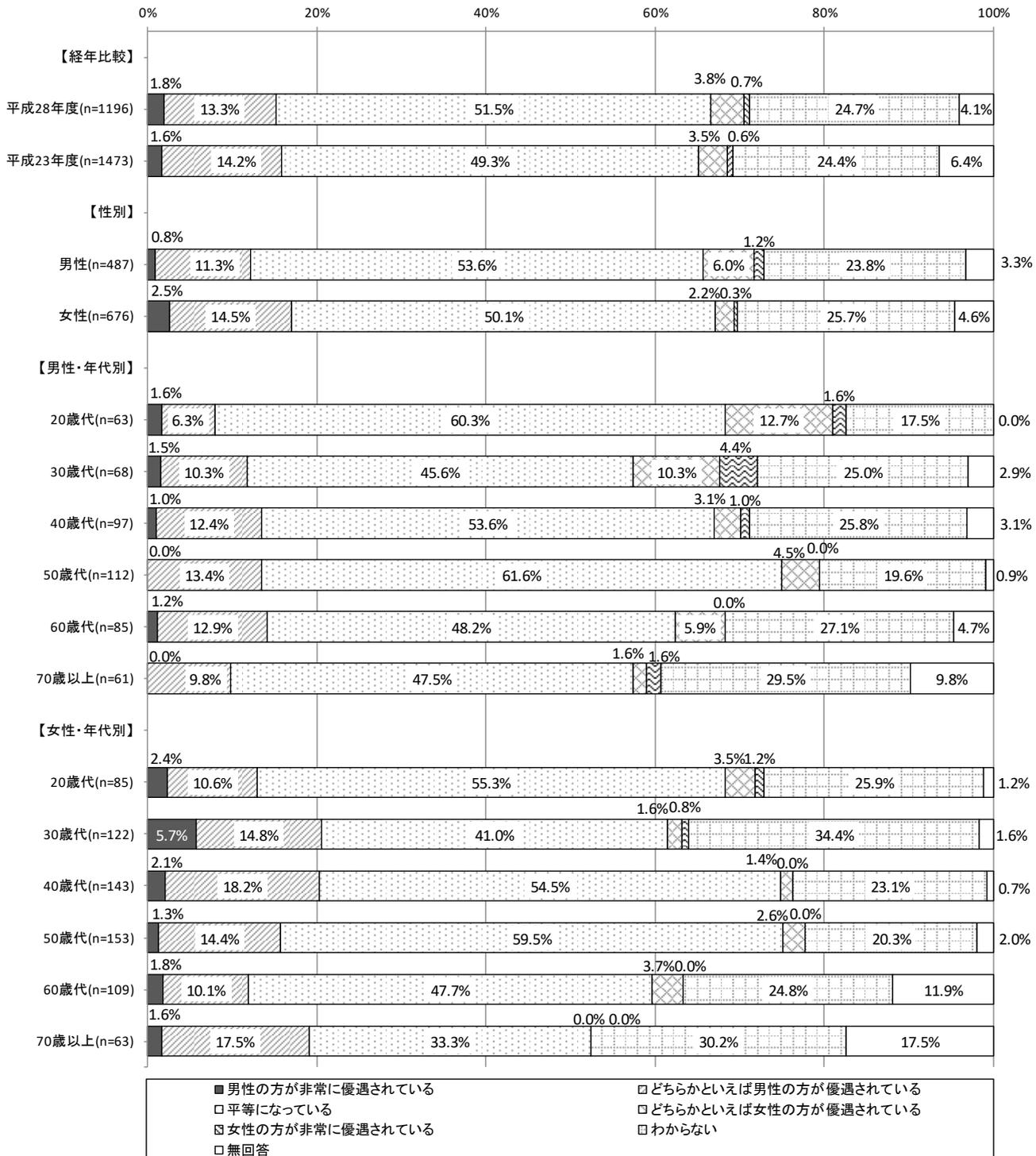


### ◆学校教育の場で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男女ともに、20歳代、40歳代、50歳代で「平等」という回答が他年代に比べ多く、5割以上となっています。

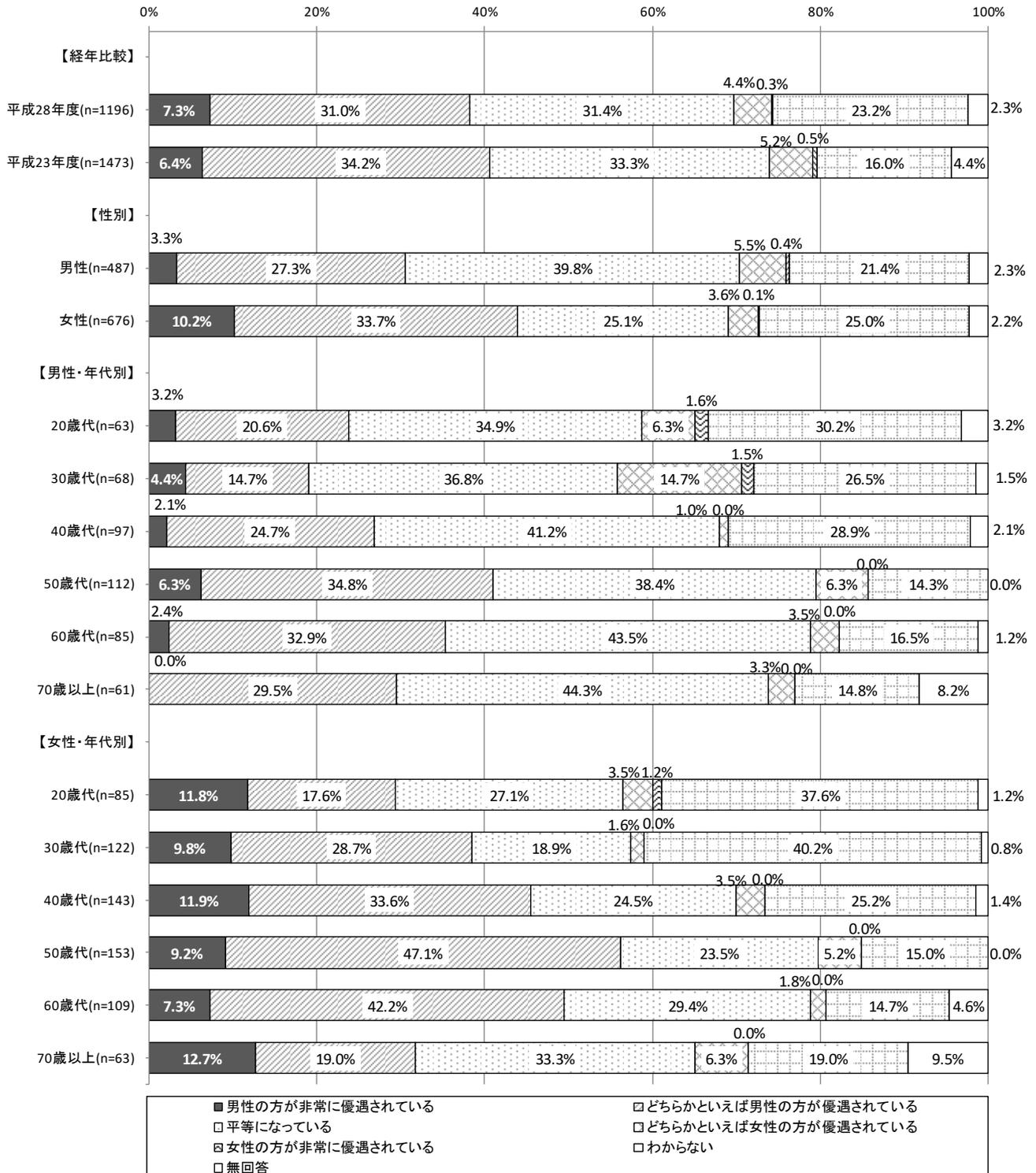


### ◆町内会や自治会等の地域社会で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性の20歳代～50歳代までは、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が年代が上がるに従い増加し、女性の50歳代では、約6割が回答しています。

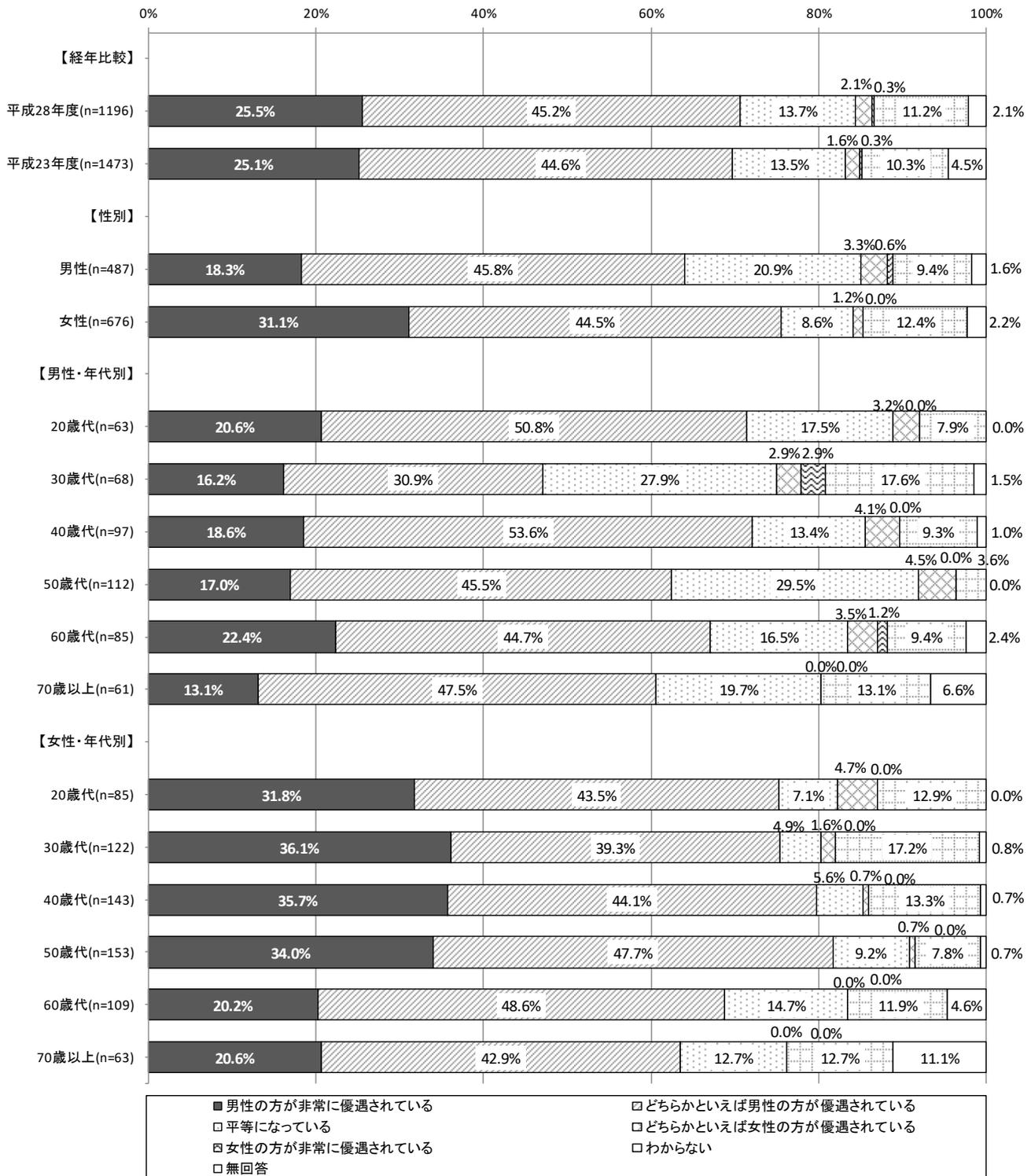


### ◆政治の場で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性の20歳代～50歳代までは8割近くの方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答しています。

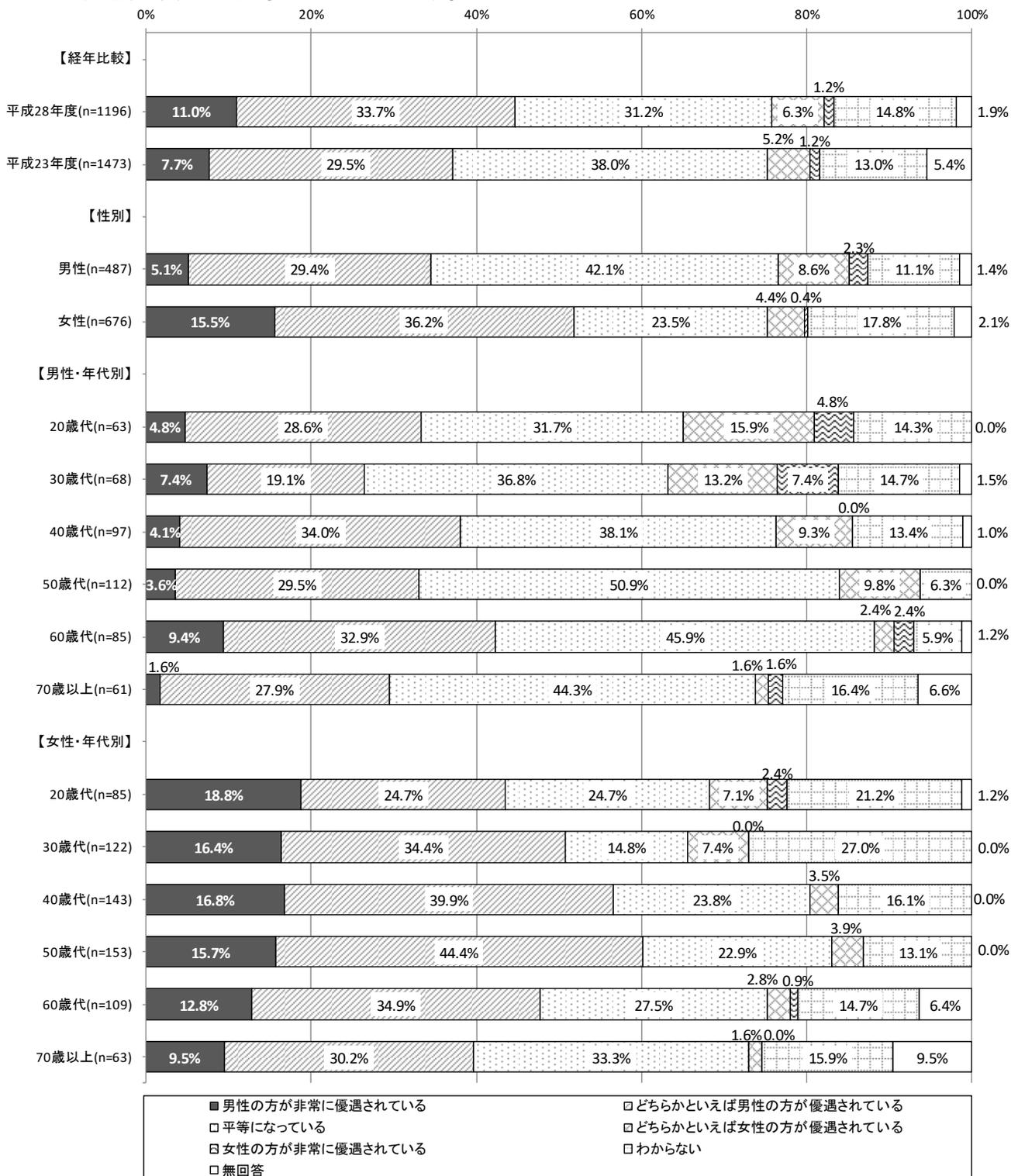


### ◆法律や制度の上で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」という回答が多くなっています。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性の20歳代～50歳代までは、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が年代が上がるに従い増加し、女性の50歳代では、6割の方が回答しています。一方、男性の30歳代以下は、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答が約2割と他年代に比べ多くなっています。

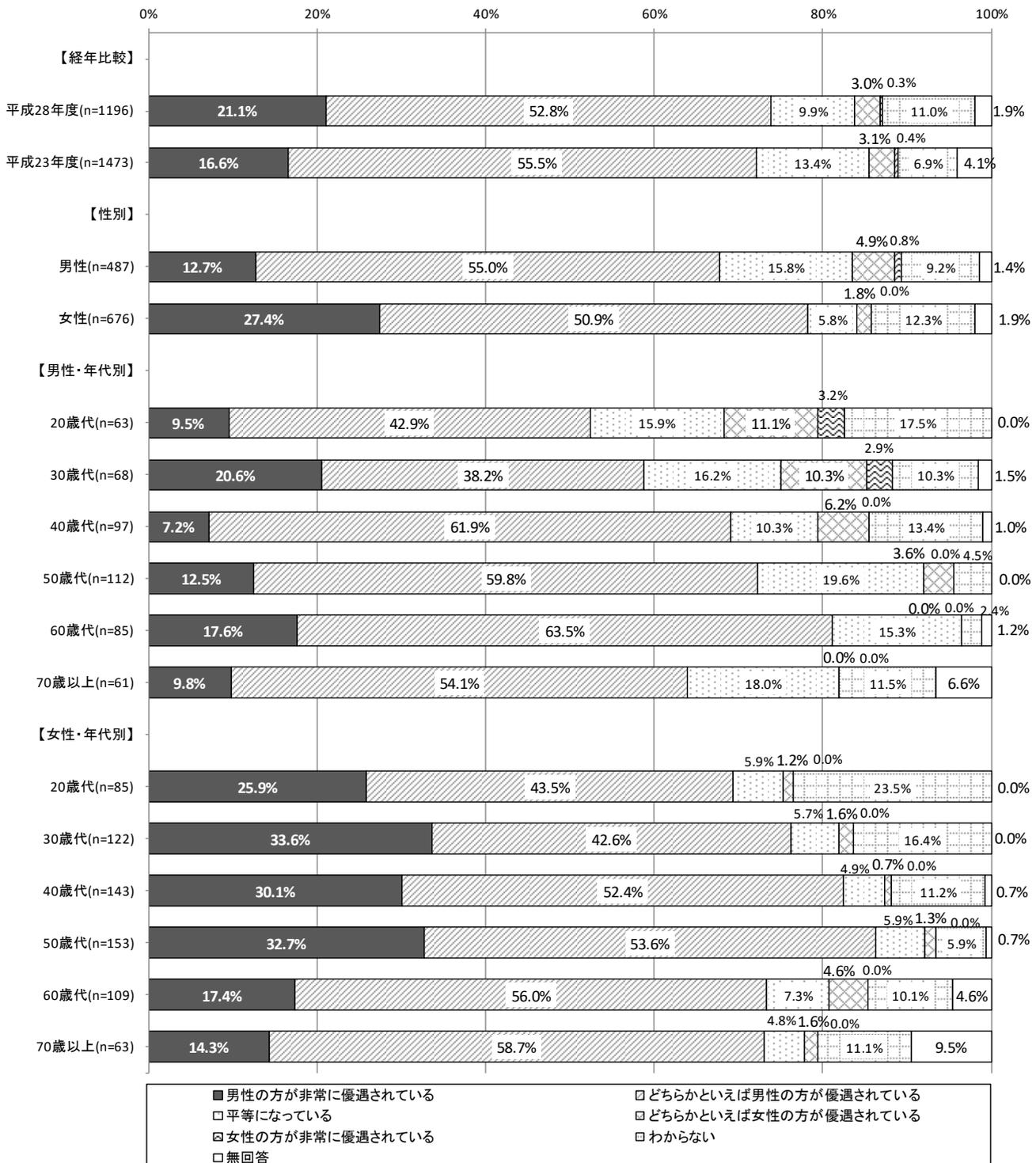


### ◆社会通念・慣習・しきたりなどで【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」という回答が 4.5 ポイント増加していますが、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答は 2.7 ポイント減少しています。

性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」という回答が多くなっています。

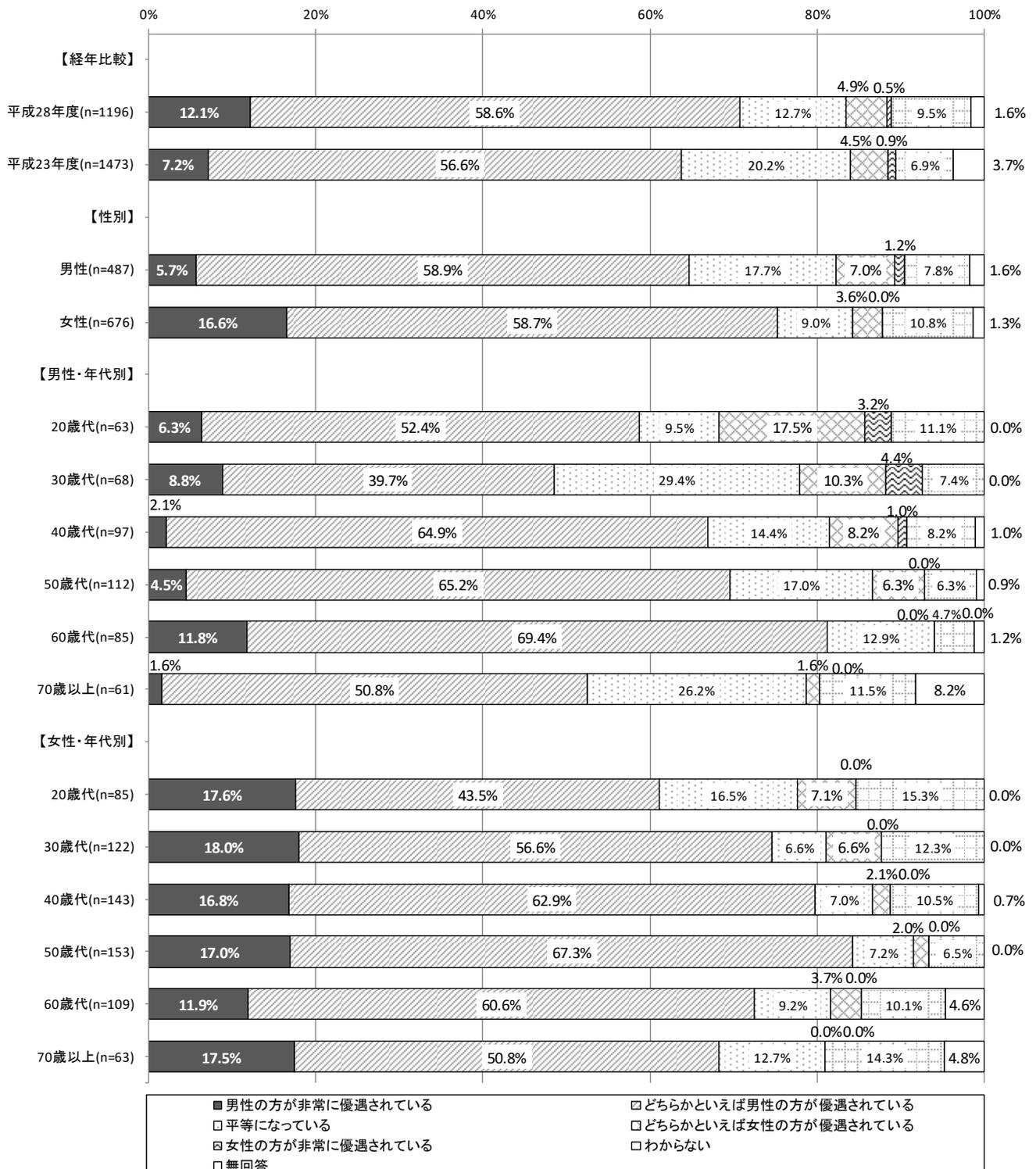
性・年代別では、男性の 20 歳代～60 歳代, 女性の 20 歳代～50 歳代では、「男性の方が非常に優遇されている」, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が年代が上がるに従い増加し, 男性の 60 歳代, 女性の 40 歳代, 50 歳代では 8 割の方が回答しています。



### ◆社会全体で【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

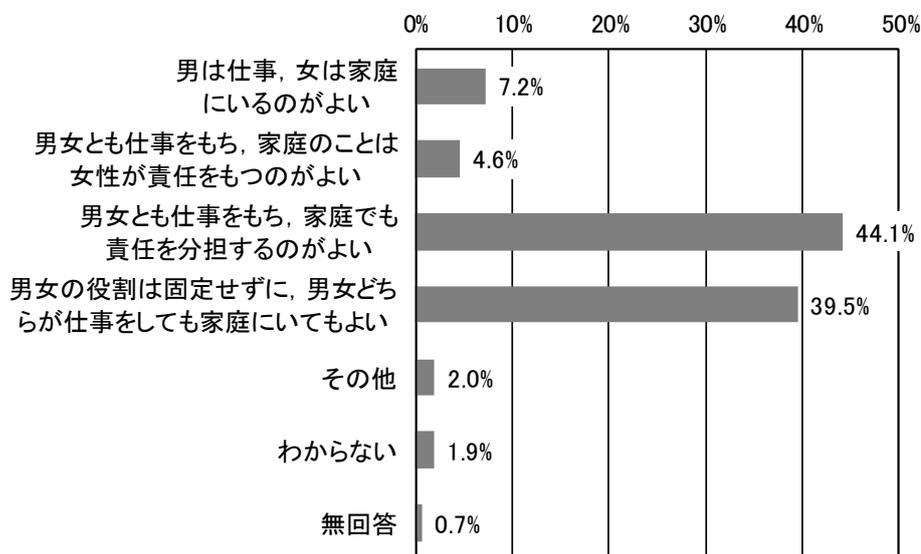
前回調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」という回答が4.9ポイント、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答は2ポイント増加しています。性別では、男性より女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性の20歳代～50歳代までは、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が年代が上がるに従い増加し、女性の50歳代では8割の方が回答しています。一方、男性の30歳代以下は、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答が他年代に比べ多くなっています。



問3 「男は仕事，女は家庭」という考え方について，あなたの意見に近いものはどれですか。(○は1つだけ)

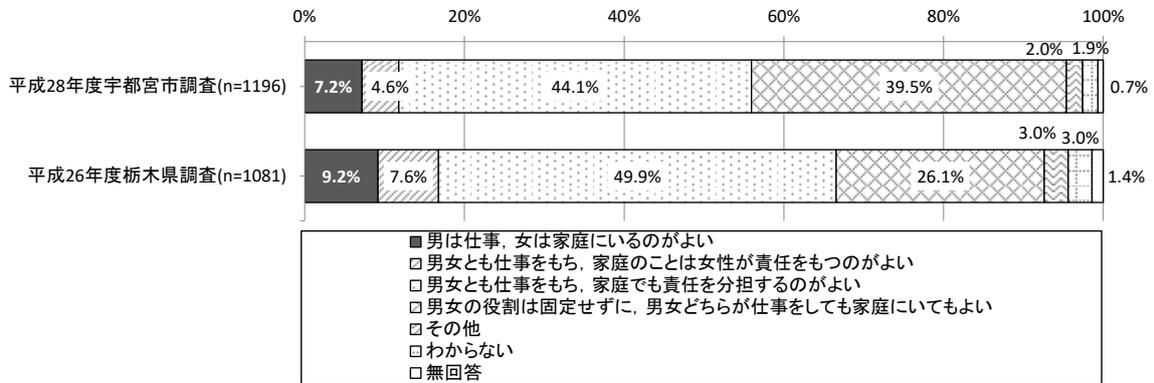
「男は仕事，女は家庭」という考え方については，「男女とも仕事をもち，家庭でも責任を分担するのがよい」が44.1%で最も多く，次いで「男女の役割は固定せずに，男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」が39.5%となっています。



項目	回答数	構成比
男は仕事，女は家庭 にいるのがよい	86	7.2%
男女とも仕事をもち，家庭のことは 女性が責任をもつのがよい	55	4.6%
男女とも仕事をもち，家庭でも 責任を分担するのがよい	528	44.1%
男女の役割は固定せずに，男女ど ちらが仕事をしても家庭にいてもよい	472	39.5%
その他	24	2.0%
わからない	23	1.9%
無回答	8	0.7%
合計	1,196	100.0%

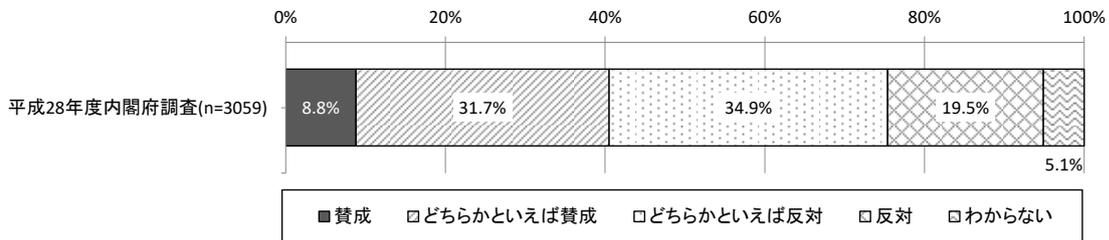
### 【宇都宮市, 栃木県調査比較】

県調査と比較すると、「男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい」という回答が少なく、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい」という回答が多くなっています。



### 【(参考)内閣府調査】

国調査では、「『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方に対してどう思うか」という設問となっており、「賛成」という肯定的回答は8.8%となっています。なお、「どちらかといえば賛成」という回答を合わせると40.5%となっています。

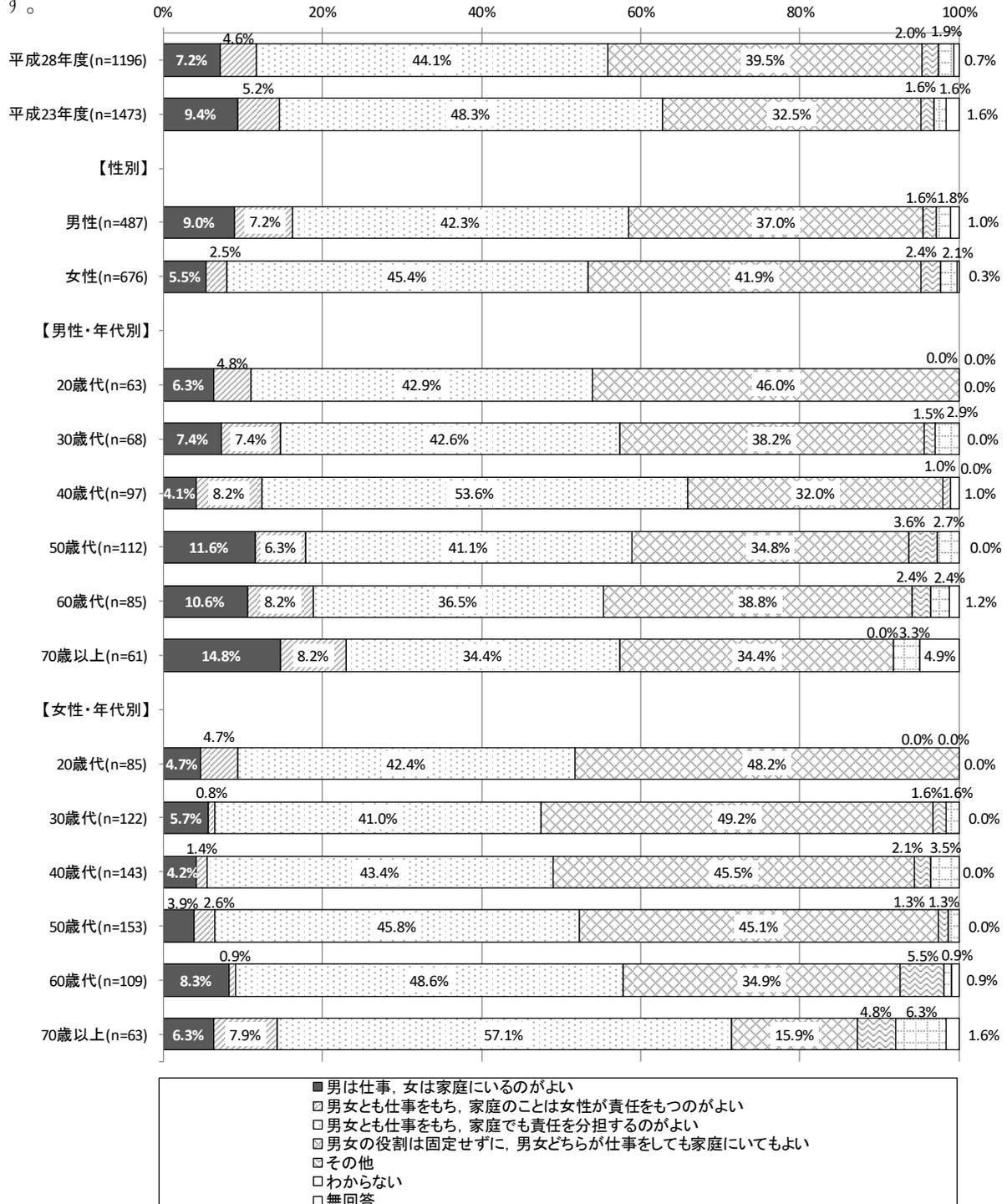


### 【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」という回答が4.2ポイント少なくなっています。

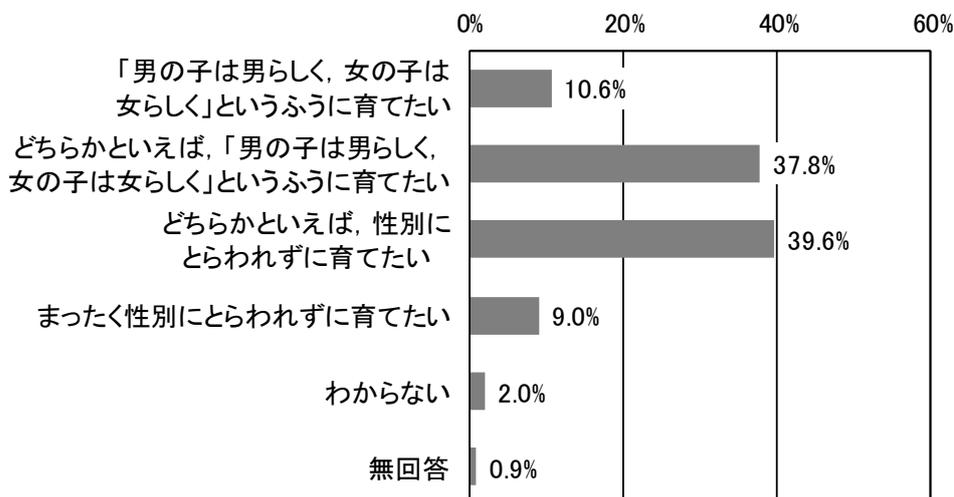
性別では、女性より男性の方が「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」という回答が多く、女性は男性に比べ「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は年代が上がるに従い、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」という回答が多くなっていますが、女性の40歳以下は、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」という回答が最も多くなっています。



問4 あなたは自分の子どもをどのように育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いると仮定して選んでください。(〇は1つだけ)

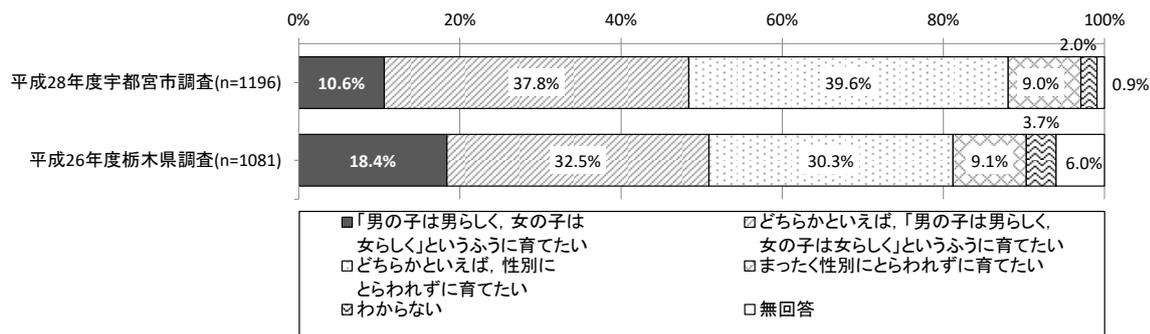
自分の子どもをどのように育てたいかについては、「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」が39.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」が37.8%となっています。



項目	回答数	構成比
「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい	127	10.6%
どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい	452	37.8%
どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい	474	39.6%
まったく性別にとらわれずに育てたい	108	9.0%
わからない	24	2.0%
無回答	11	0.9%
合計	1,196	100.0%

### 【宇都宮市、栃木県調査比較】

県調査と比較すると、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたいという回答が少なく、「どちらかといえば、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」、「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」という回答が多くなっています。



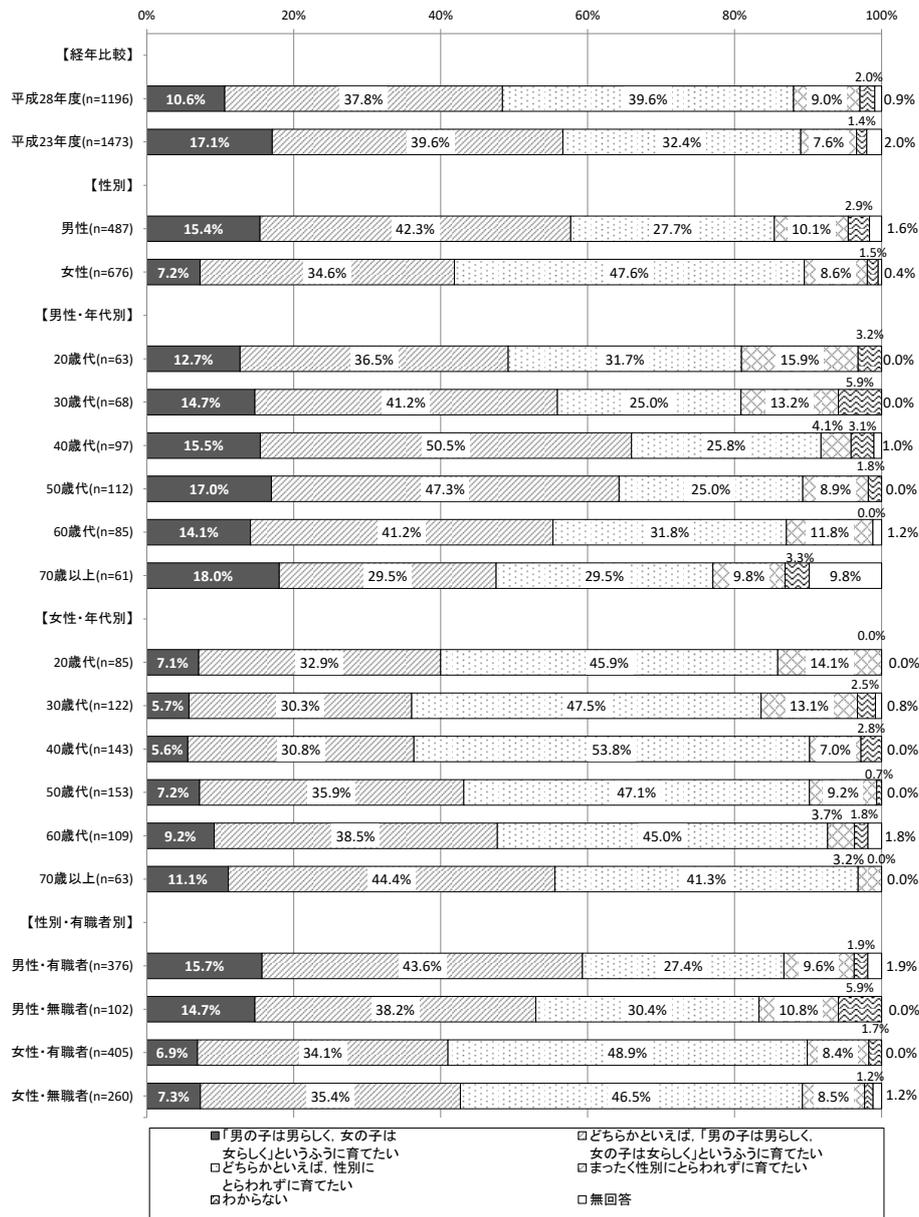
### 【経年比較, 性別, 性・年代別, 有無職者別クロス】

前回調査と比較すると、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたいという回答が少なく、「どちらかといえば『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答を合わせると 8.3 ポイント減少しています。また、「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」、「まったく性別にとらわれずに育てたい」という回答と合わせると、8.6 ポイント増加しています。

性別では、女性より男性の方が『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい、「どちらかといえば『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が多くなっています。

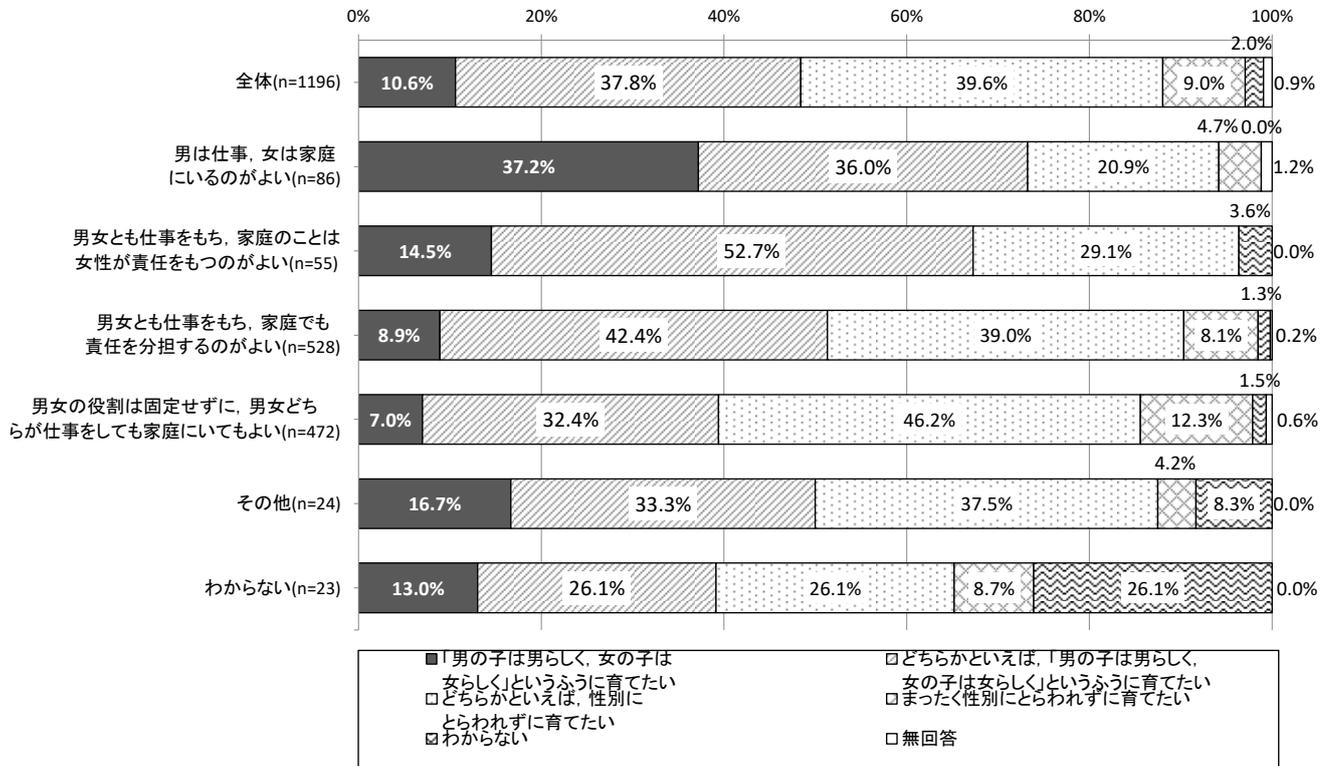
性・年代別では、男性は、40歳代、50歳代が『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい、「どちらかといえば『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が多くなっています。女性は、概ね年代が上がるに従い、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい、「どちらかといえば『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が多くなっています。

性別・有職者別では、男性の有職者、女性の無職者が『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい、「どちらかといえば『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が多くなっています。



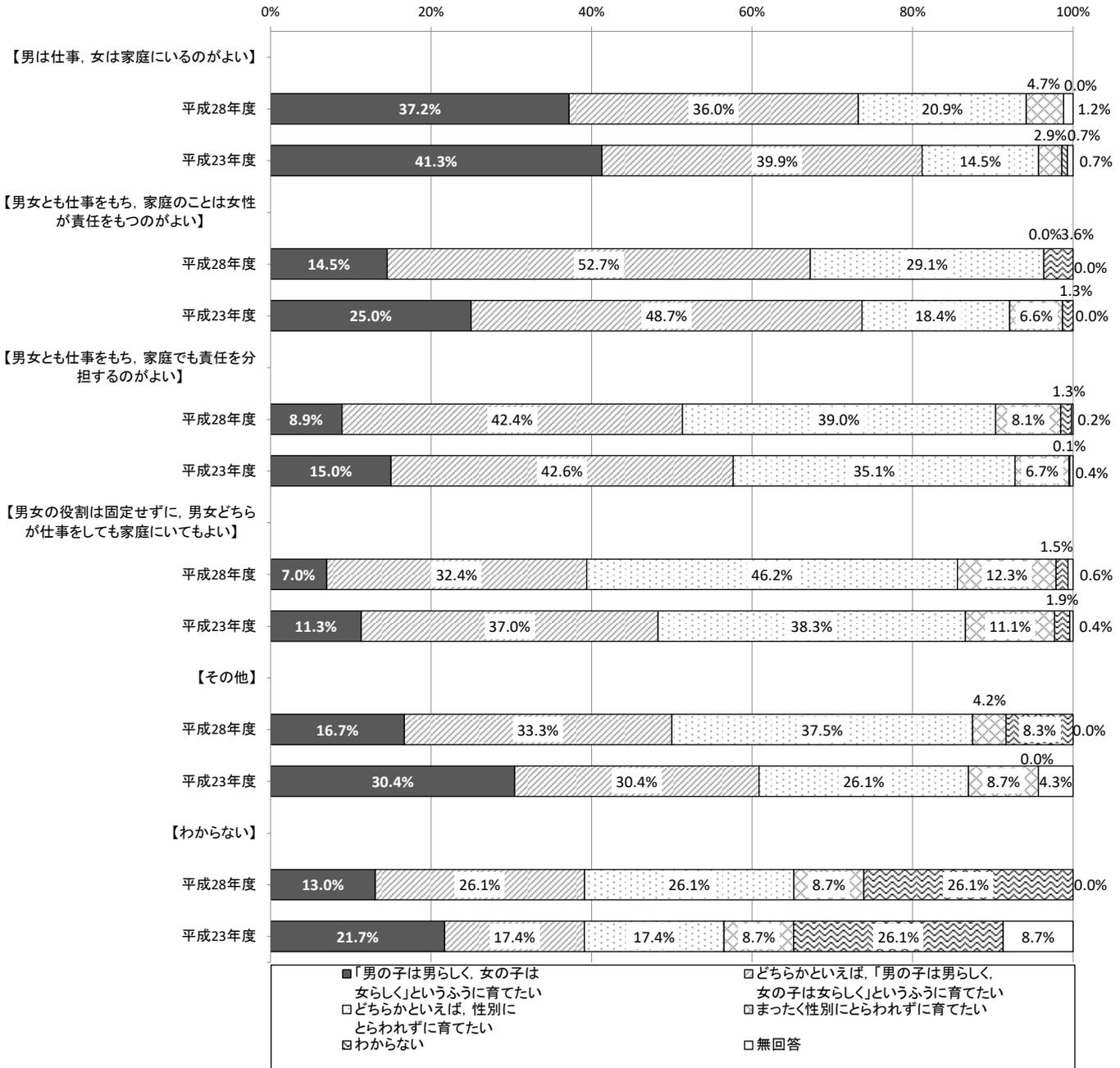
## 【意識別クロス】

問3の意識別クロス集計では、「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」という回答をした方ほど『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答が多くなっており、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」という回答の方は、「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」、「まったく性別にとらわれずに育てたい」という回答が多くなっています。



### 【意識別，経年比較】

全体的に、「『男の子は男らしく，女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答は各意識とも前回調査より減少していますが，「どちらかといえば『男の子は男らしく，女の子は女らしく』というふうに育てたい」という回答は前回調査と大きな変化はありませんでした。



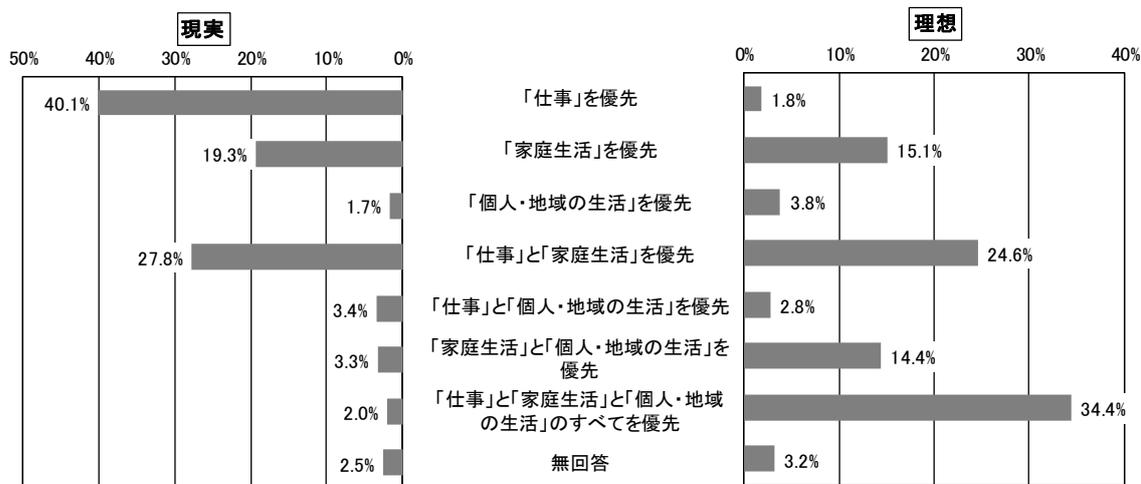
※平成23年調査の回答者数が不明なため，表記していません。

#### (4) ワーク・ライフ・バランスについて

問5 生活の中で、仕事、家庭生活(家族と過ごすこと、家事、育児など)、個人・地域の生活(趣味、娯楽、ボランティア活動など)のうち、何を優先しますか。現実と理想について、お答えください。(それぞれに○は1つだけ)

生活の中で、仕事、家庭生活、個人・地域の生活の優先順位については、「現実」は、「『仕事』を優先」が40.1%で最も多く、次いで「『仕事』と『家庭生活』を優先」が27.8%となっています。

「理想」は、「『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先」が34.4%で最も多く、次いで「『仕事』と『家庭生活』を優先」が24.6%となっています。

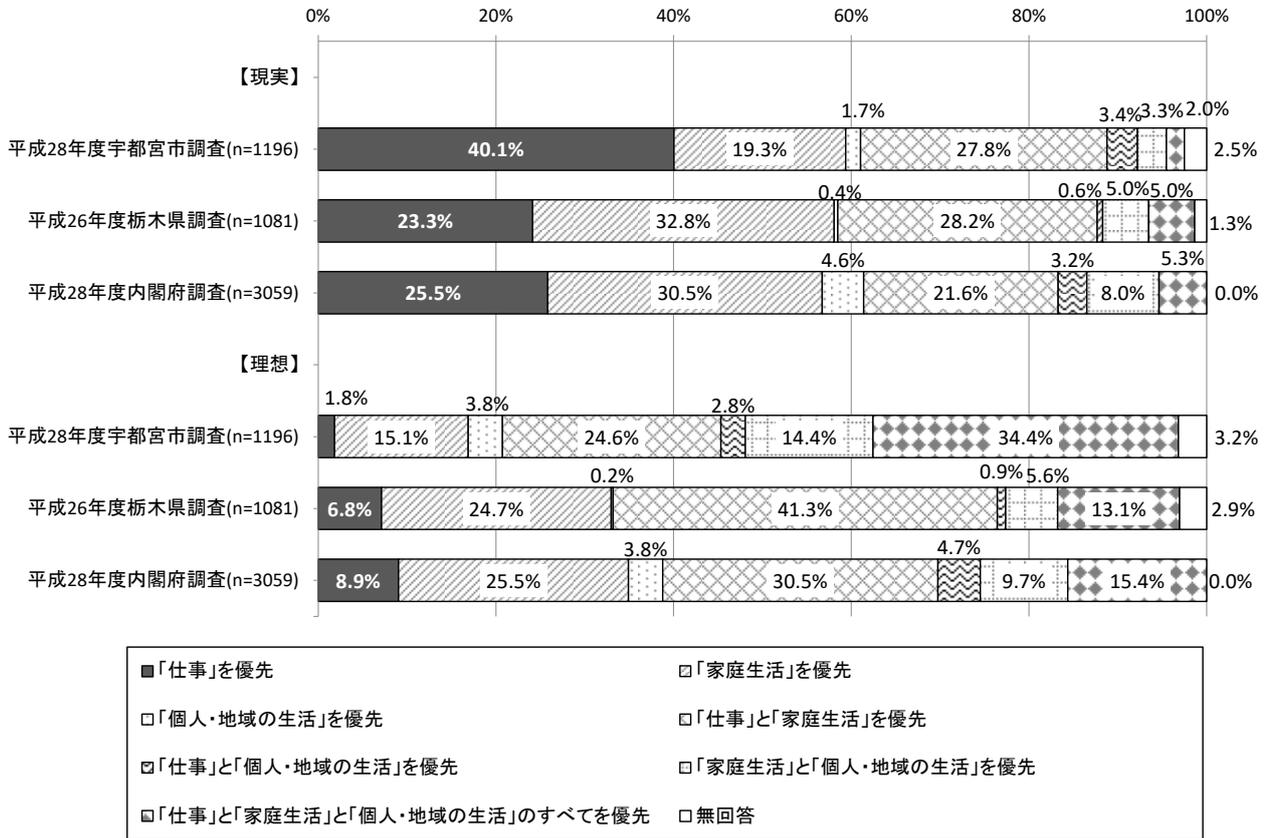


項目	現実		理想	
	回答数	構成比	回答数	構成比
「仕事」を優先	479	40.1%	22	1.8%
「家庭生活」を優先	231	19.3%	180	15.1%
「個人・地域の生活」を優先	20	1.7%	46	3.8%
「仕事」と「家庭生活」を優先	332	27.8%	294	24.6%
「仕事」と「個人・地域の生活」	41	3.4%	33	2.8%
「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先	39	3.3%	172	14.4%
「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先	24	2.0%	411	34.4%
無回答	30	2.5%	38	3.2%
合計	1,196	100.0%	1,196	100.0%

### 【宇都宮市，栃木県，内閣府調査比較】

国調査，県調査で比較すると，「現実」では，『仕事』を優先」という回答が国，県調査に比べ多く，『家庭生活』を優先」という回答が少なくなっています。

また，「理想」では国，県調査に比べ『仕事』と『家庭生活』を優先」という回答が少なく，『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先」という回答が多くなっています。



## 【経年比較, 性別, 性・年代別, 有職者別クロス】

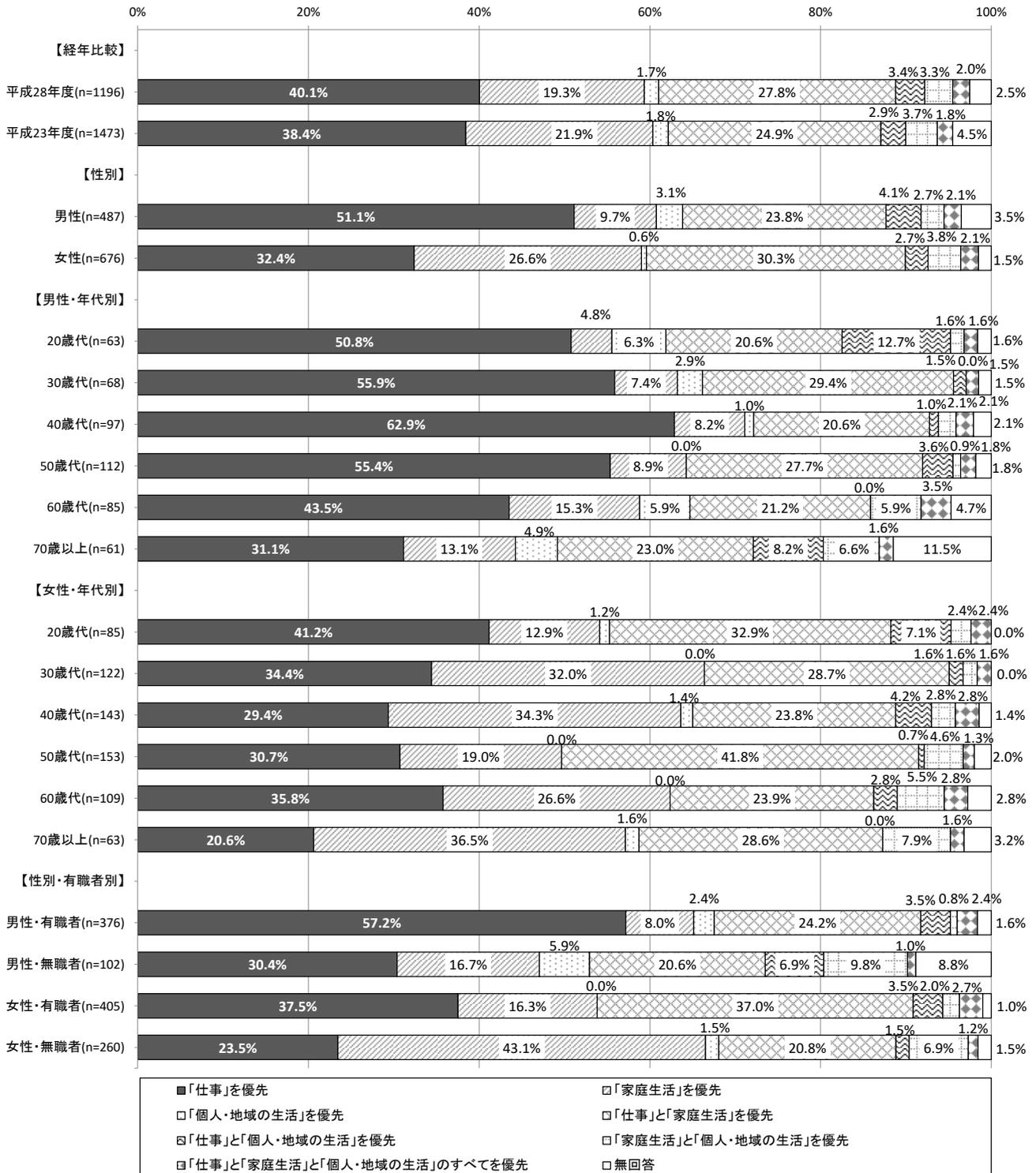
### 現実

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別では、女性より男性の方が『仕事』を優先」という回答が多く、男性より女性の方が『仕事』と『家庭生活』を優先」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男性の40歳代、女性の20歳代が『仕事』を優先」という回答が最も多くなっています。

有職者別では、女性の有職者は男性に比べ『仕事』と『家庭生活』を優先」という回答が多くなっています。



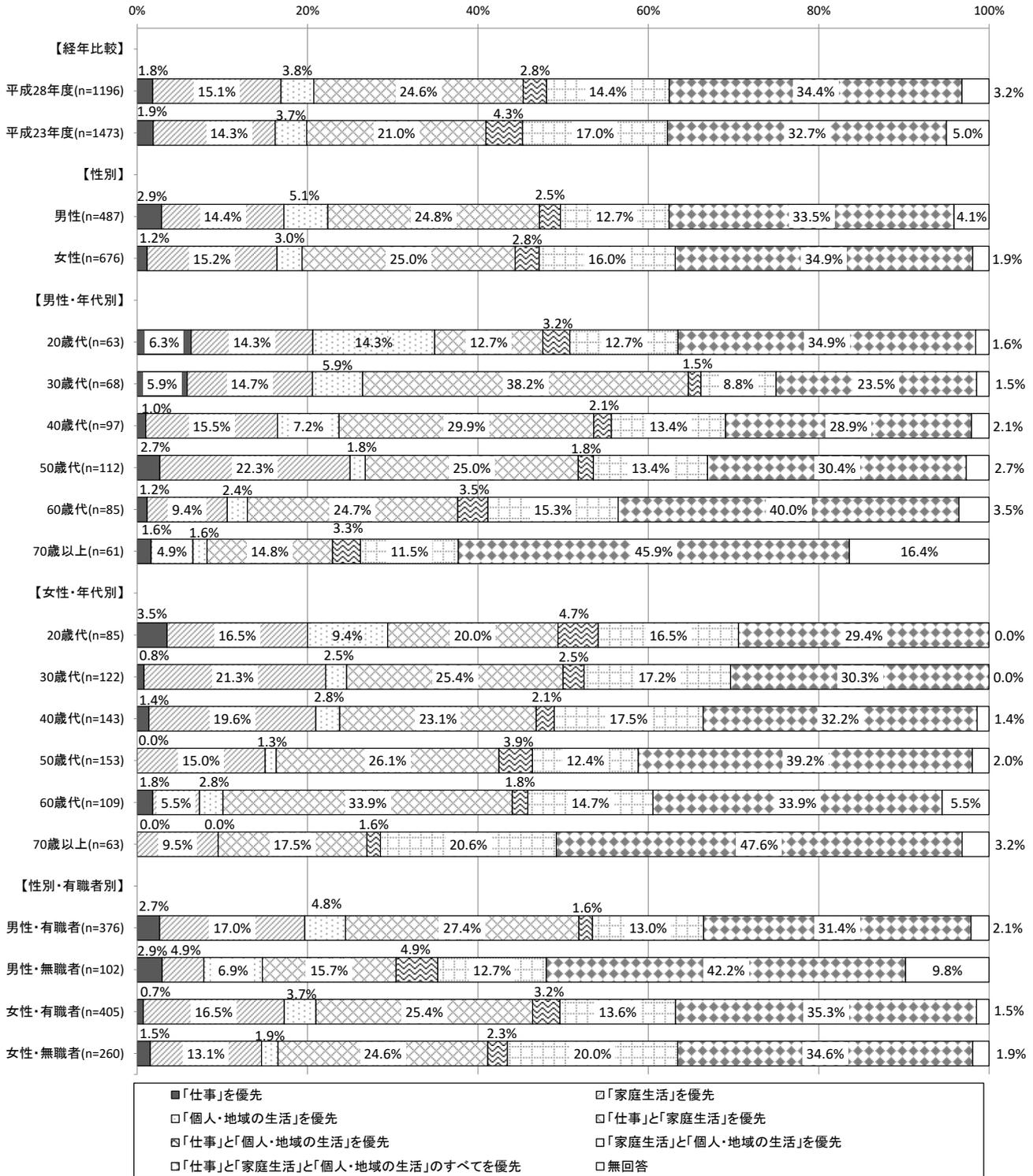
# 理想

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

性別でも、大きな差はありませんでした。

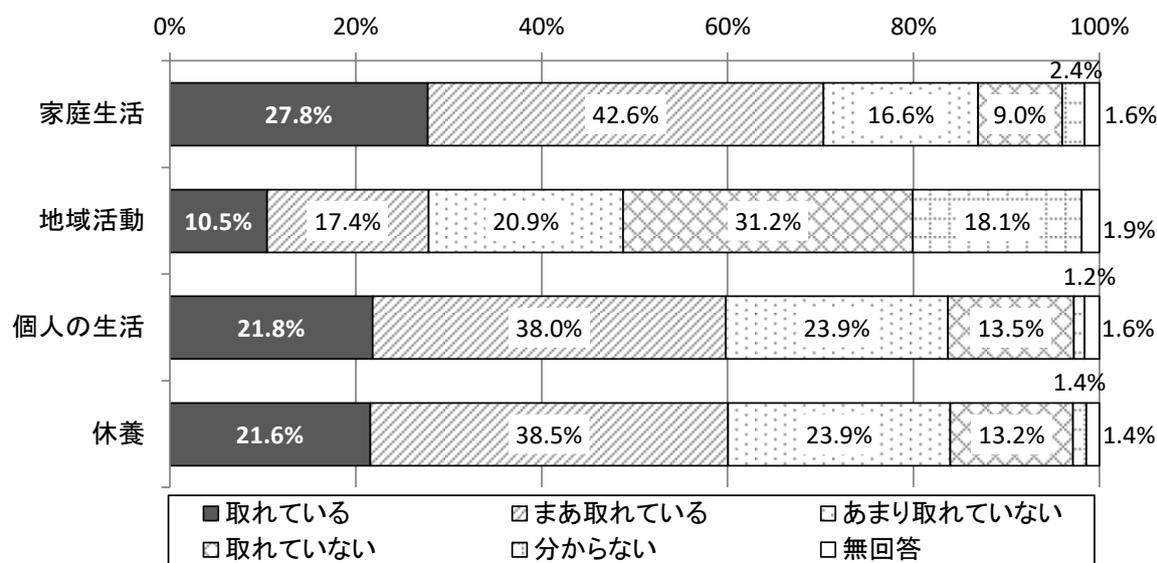
性・年代別では、男女ともに年代が上がるに従い「『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先」という回答が多くなっています。

性別・有職者別では、男性の無職者では、「『仕事』と『家庭生活』と『個人・地域の生活』のすべてを優先」という回答が多くなっています。



問6 家庭生活, 地域活動, 個人の生活, 休養のための時間はあなたの希望どおりとれていますか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

あなたの希望どおりに時間は取れているかについては、「取れている」、「まあ取れている(6~8割程度)」という回答で「家庭生活」の70.4%が最も多く、次いで「休養」が60.1%、「個人の生活」が59.8%となっています。「地域活動」では、「取れていない」、「あまり取れていない(3~5割程度)」という回答では、52.1%と約半数となっています。

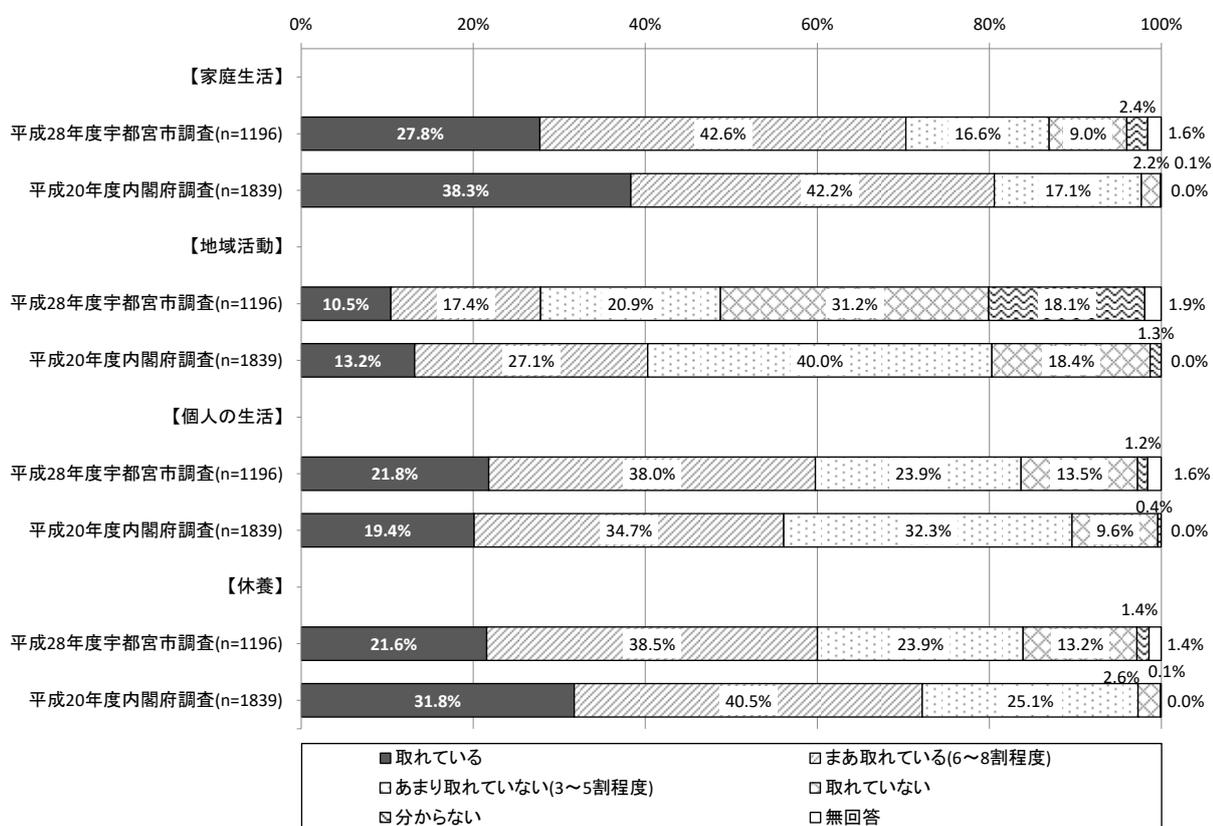


項目	取れている	まあ取れている (6~8割程度)	あまり取れていない (3~5割程度)	取れていない	分からない	無回答	合計
家庭生活	332	509	199	108	29	19	1,196
地域活動	125	208	250	373	217	23	1,196
個人の生活	261	454	286	162	14	19	1,196
休養	258	460	286	158	17	17	1,196

## 【宇都宮市, 内閣府調査比較】

国調査と比較すると、「家庭生活」、「地域活動」、「休養」では、「取れている」、「まあ取れている」という回答が少なくなっています。

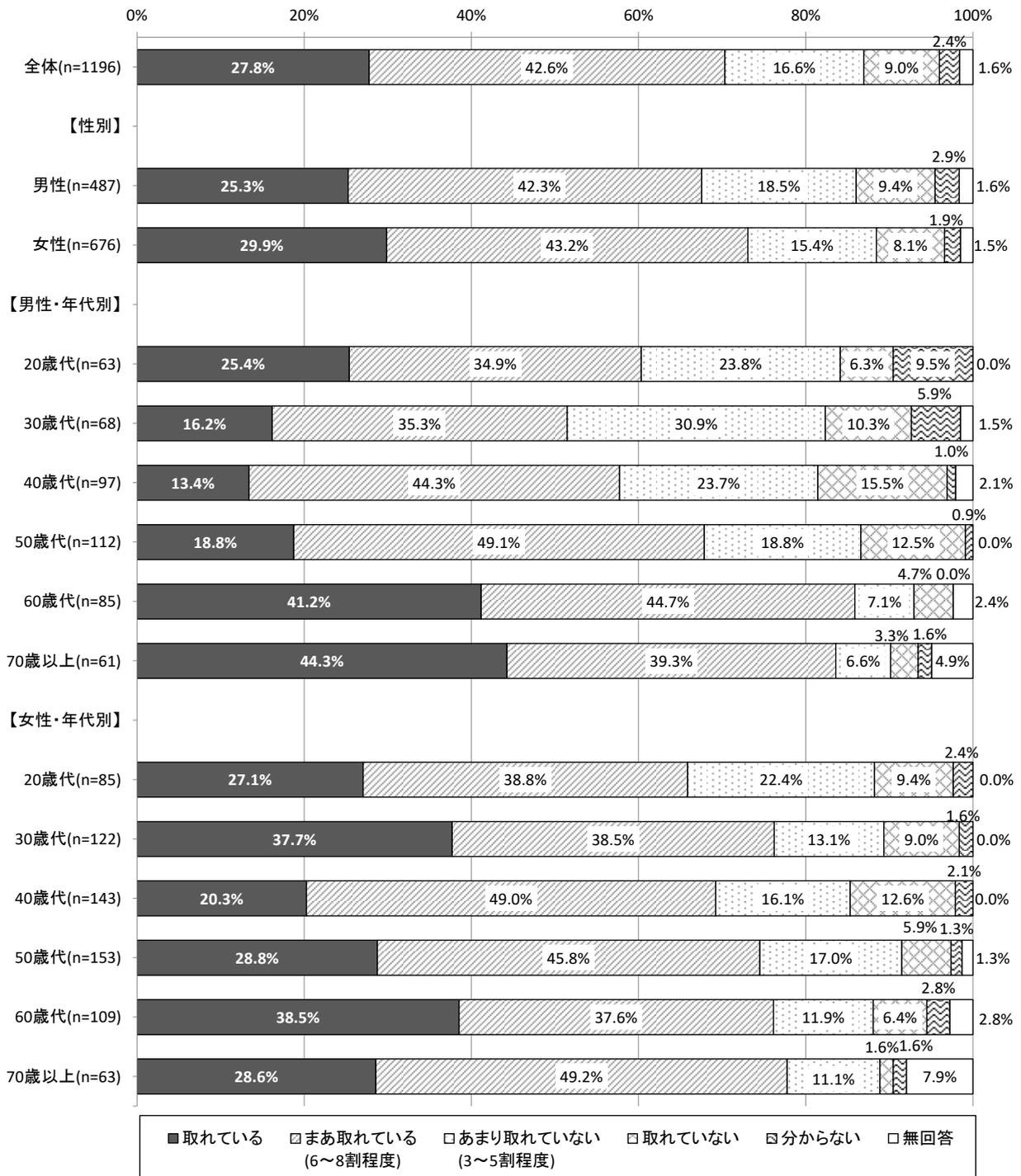
一方、「個人の生活」では、「取れている」、「まあ取れている」という回答が国調査に比べ多くなっています。



### ◆家庭生活【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男性より女性の方が「取れている」、「まあ取れている」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男性の30歳代、40歳代で「あまり取れていない」、「取れていない」という回答が約4割となっています。



### ◆地域活動【性別, 性・年代別クロス】

性別では、大きな差はありませんでした。

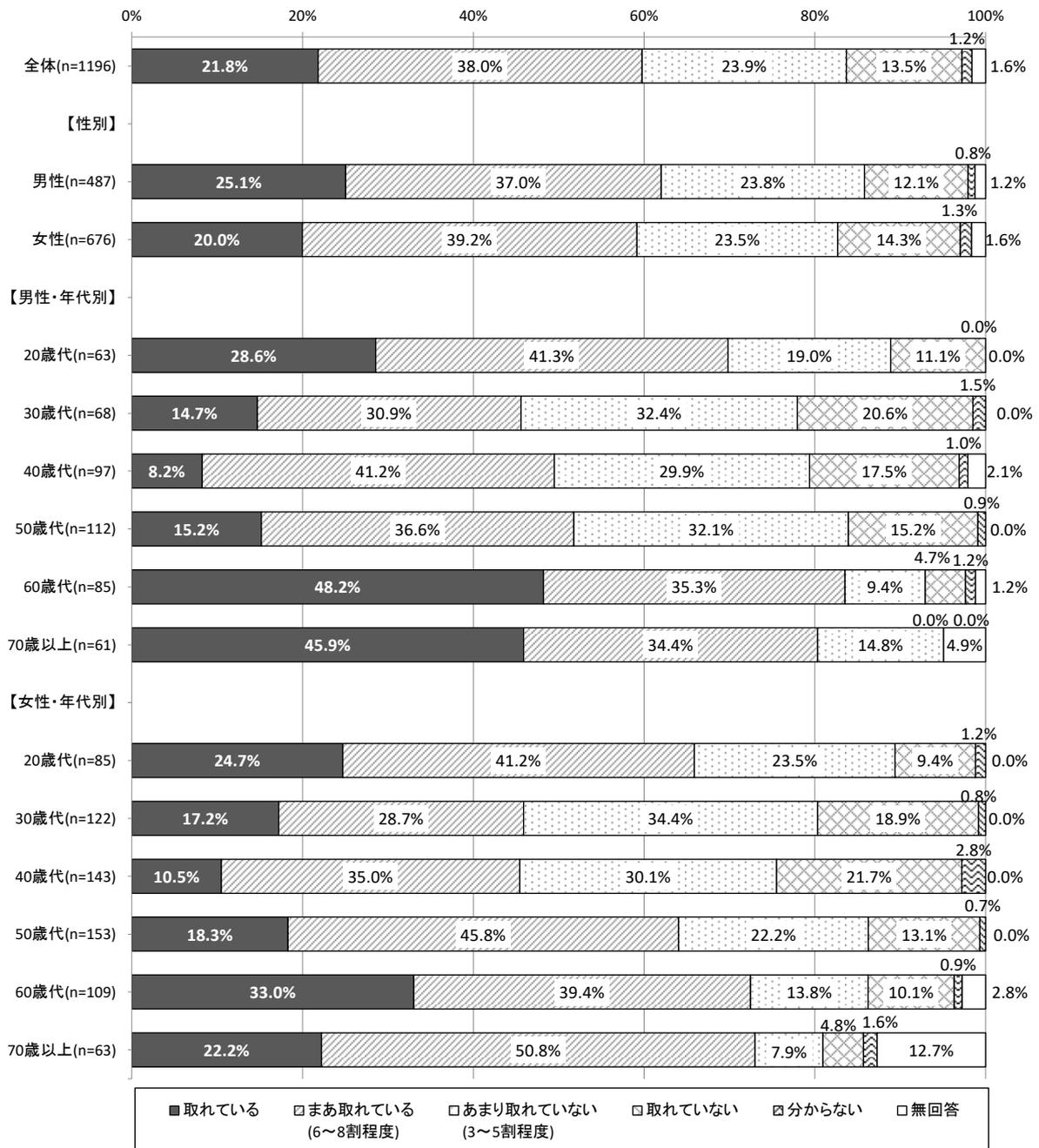
性・年代別では、男女ともに、60歳代以上で「取れている」、「まあ取れている」という回答が多くなっています。



### ◆個人の生活【性別, 性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「取れている」という回答が多くなっています。

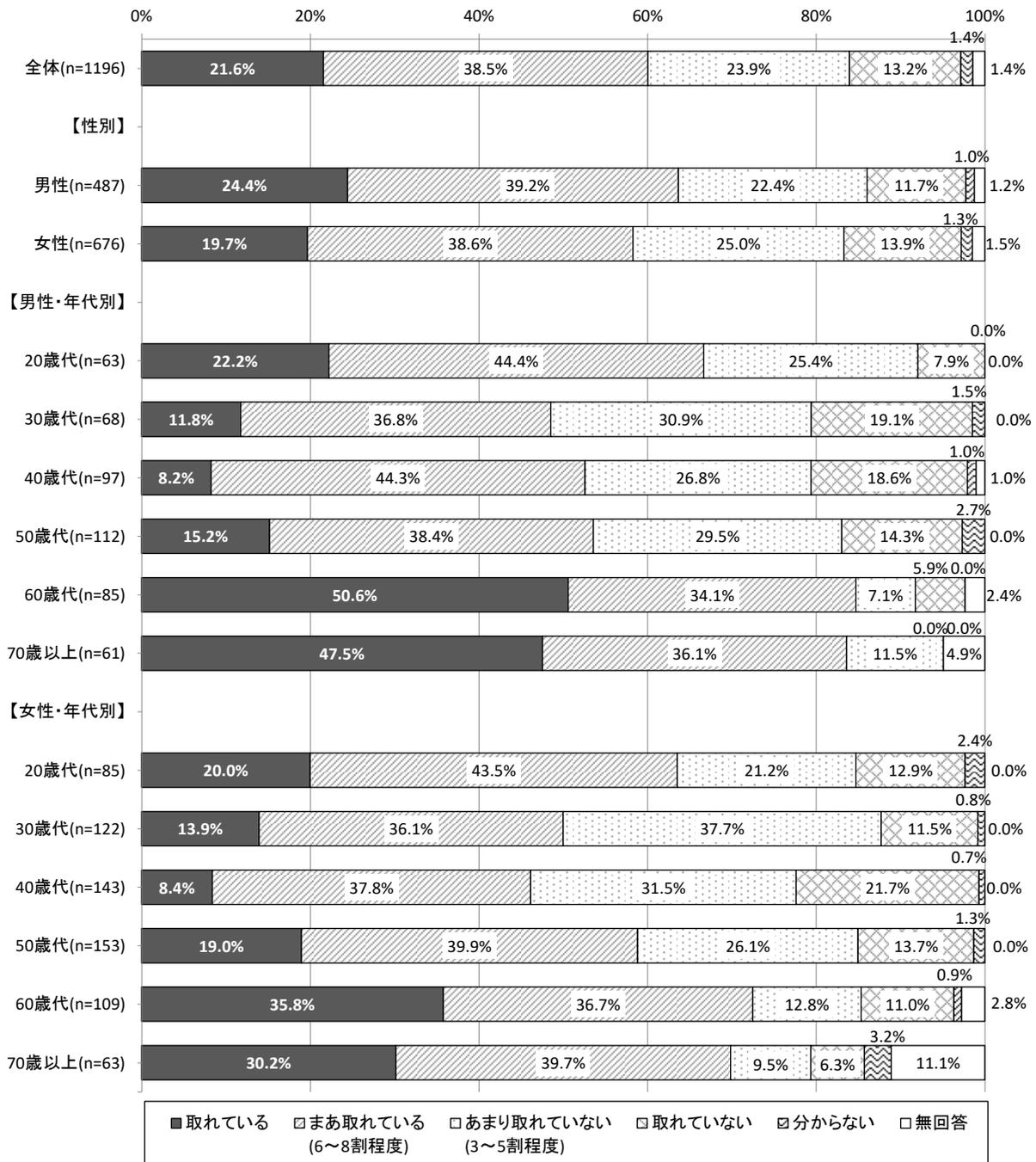
性・年代別では、男女ともに、60歳代で「取れている」という回答が多くなっており、男性の30歳代～50歳代、女性の30歳代、40歳代では「あまり取れていない」、「取れていない」という回答が多くなっています。



### ◆休養【性別，性・年代別クロス】

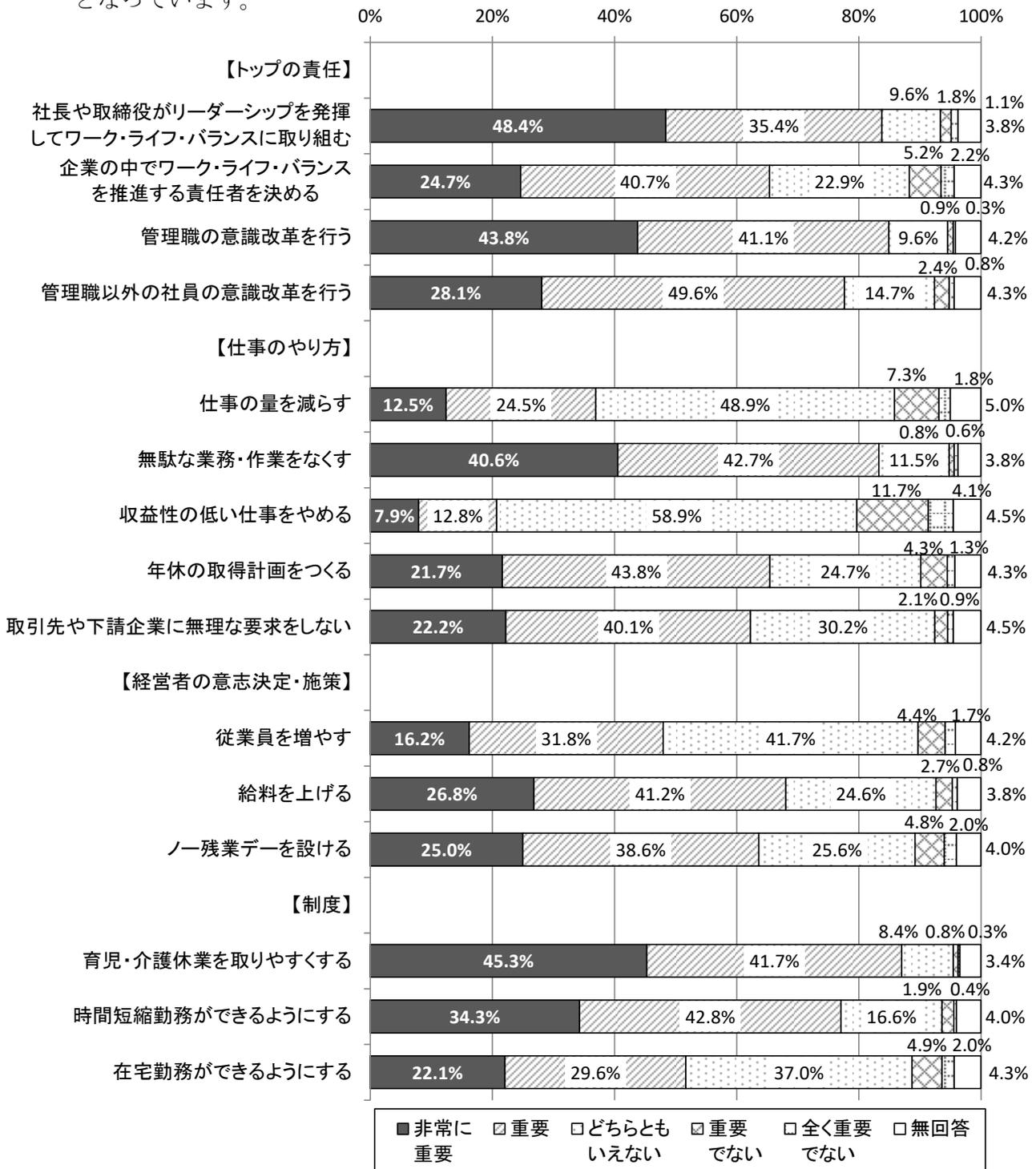
性別では，女性よりも男性の方が「取れている」，「まあ取れている」という回答が多くなっています。

性・年代別では，男女ともに，60歳代以上で「取れている」という回答が多くなっており，男女の30歳代～50歳代では「あまり取れていない」，「取れていない」という回答が多くなっています。



問7 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくために、企業はどのような取組が必要だと思いますか。  
(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」のために企業に必要な取組について、「非常に重要」、「重要」という回答は、「育児・介護休業を取りやすくする」が87.0%で最も多く、次いで「管理職の意識改革を行う」が84.9%、「社長や取締役がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」が83.8%、「無駄な業務・作業をなくす」が83.3%となっています。

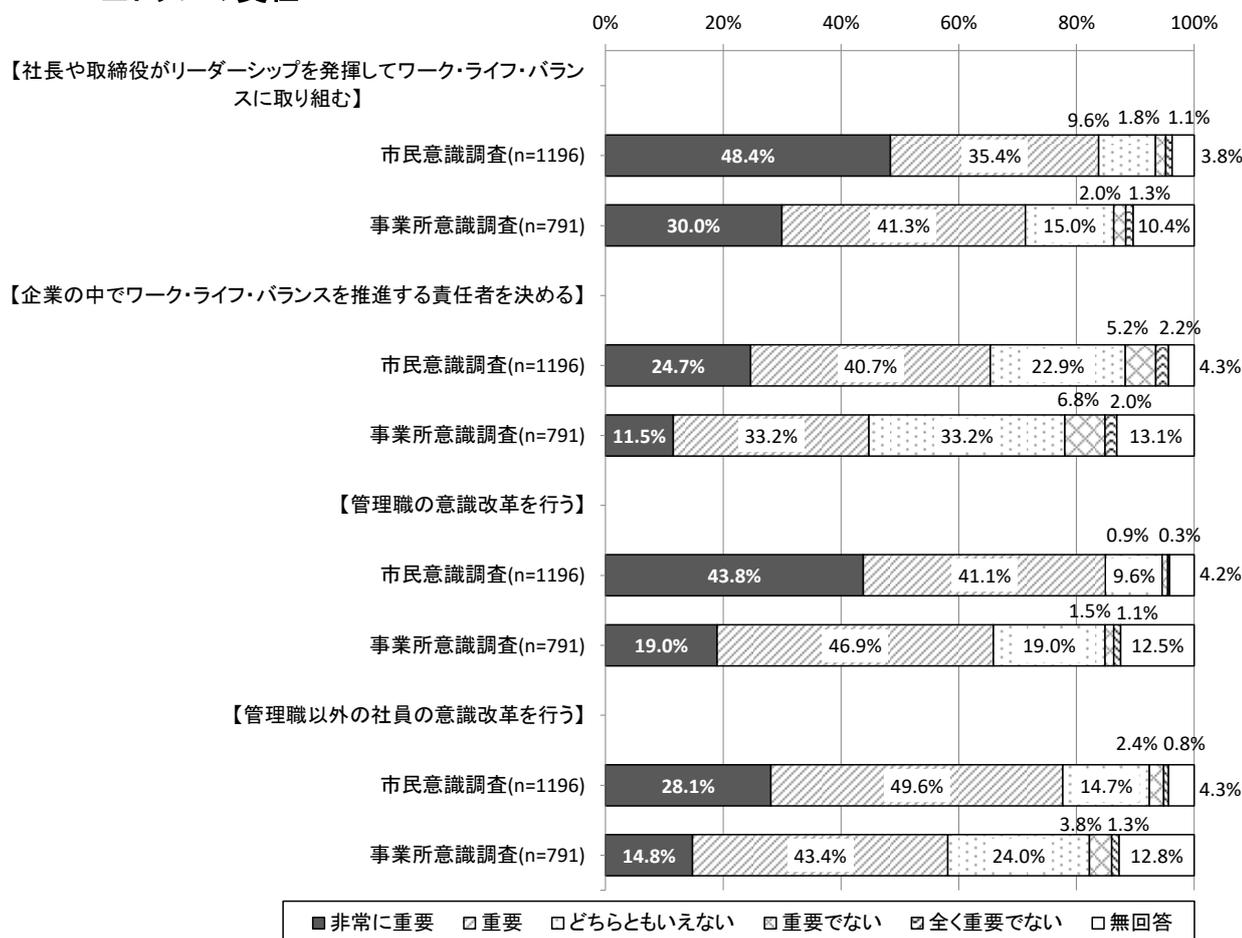


項目	非常に重要	重要	どちらとも いえない	重要でない	全く重要 でない	無回答	合計
<b>【トップの責任】</b>							
社長や取締役がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む	579	423	115	21	13	45	1,196
企業の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める	295	487	274	62	26	52	1,196
管理職の意識改革を行う	524	492	115	11	4	50	1,196
管理職以外の社員の意識改革を行う	336	593	176	29	10	52	1,196
<b>【仕事のやり方】</b>							
仕事の量を減らす	149	293	585	87	22	60	1,196
無駄な業務・作業をなくす	485	511	138	10	7	45	1,196
収益性の低い仕事をやめる	95	153	705	140	49	54	1,196
年休の取得計画をつくる	259	524	295	52	15	51	1,196
取引先や下請企業に無理な要求をしない	266	479	361	25	11	54	1,196
<b>【経営者の意志決定・施策】</b>							
従業員を増やす	194	380	499	53	20	50	1,196
給料を上げる	321	493	294	32	10	46	1,196
ノー残業デーを設ける	299	462	306	57	24	48	1,196
<b>【制度】</b>							
育児・介護休業を取りやすくする	542	499	101	9	4	41	1,196
時間短縮勤務ができるようにする	410	512	198	23	5	48	1,196
在宅勤務ができるようにする	264	354	443	59	24	52	1,196

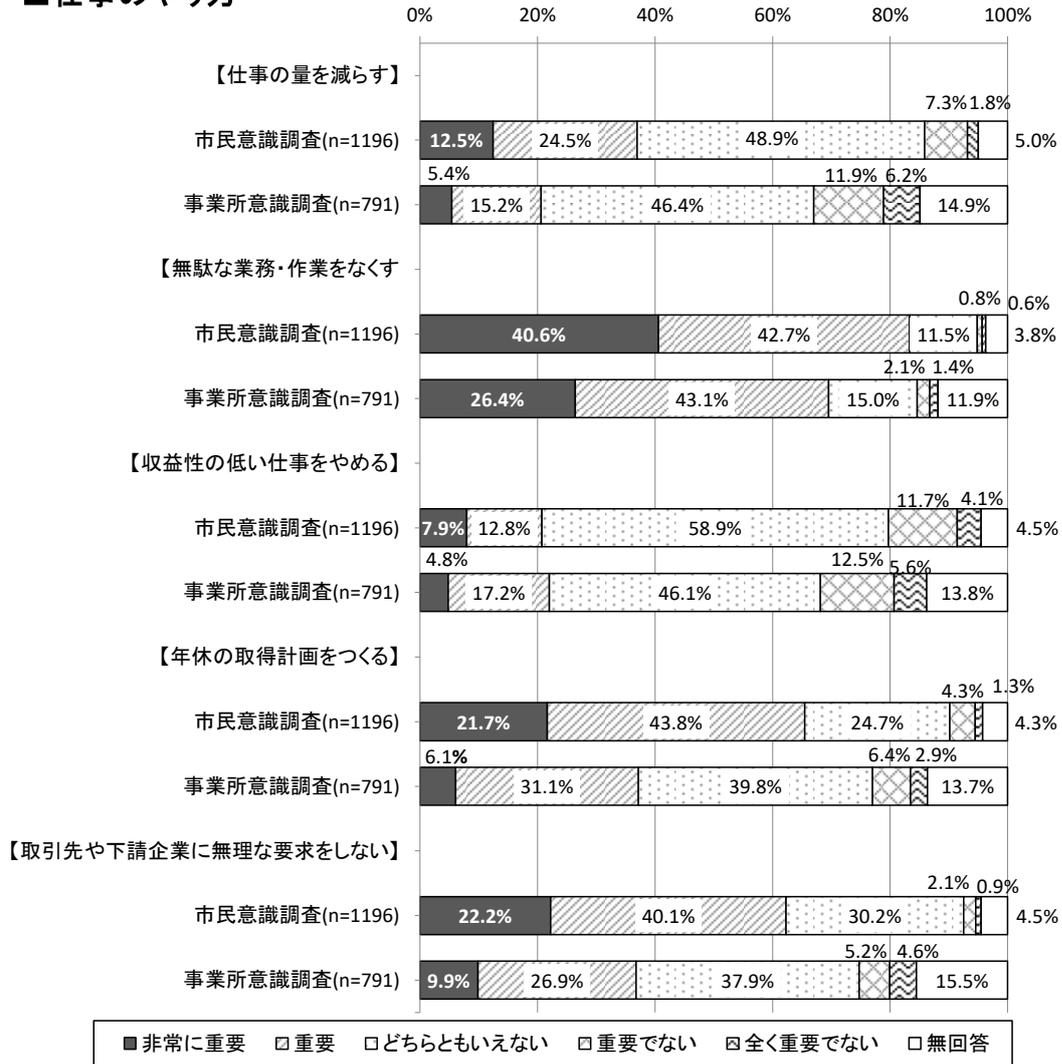
### 【事業所意識調査との比較】

事業所意識調査と比較すると、ほとんどの項目で「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。特に差が大きい項目としては、「年休の取得計画をつくる」が28.3ポイント、「給料を上げる」が36.2ポイント、「育児・介護休暇を取りやすくする」が27.0ポイント、「在宅勤務ができるようにする」が30.4ポイントとなっています。

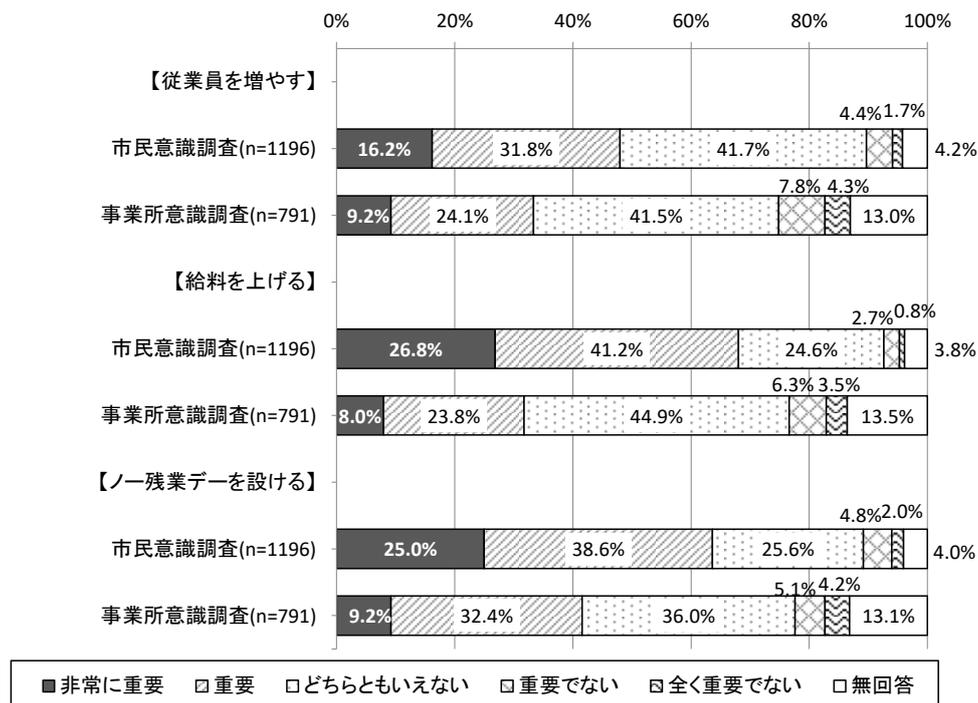
### ■トップの責任



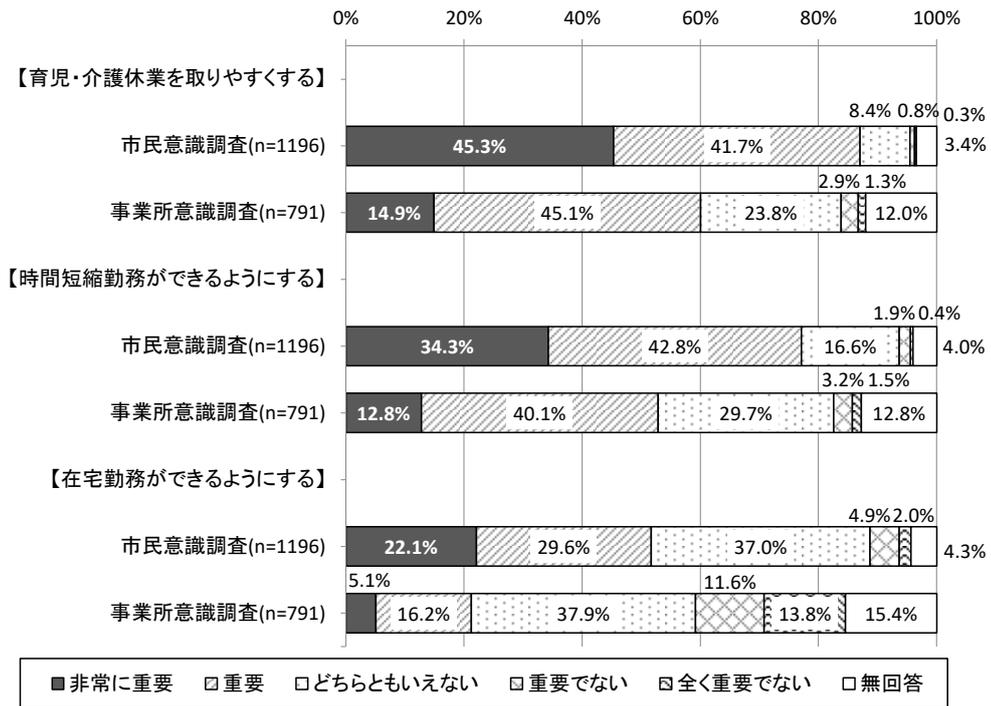
## ■仕事のやり方



## ■経営者の意思決定・施策

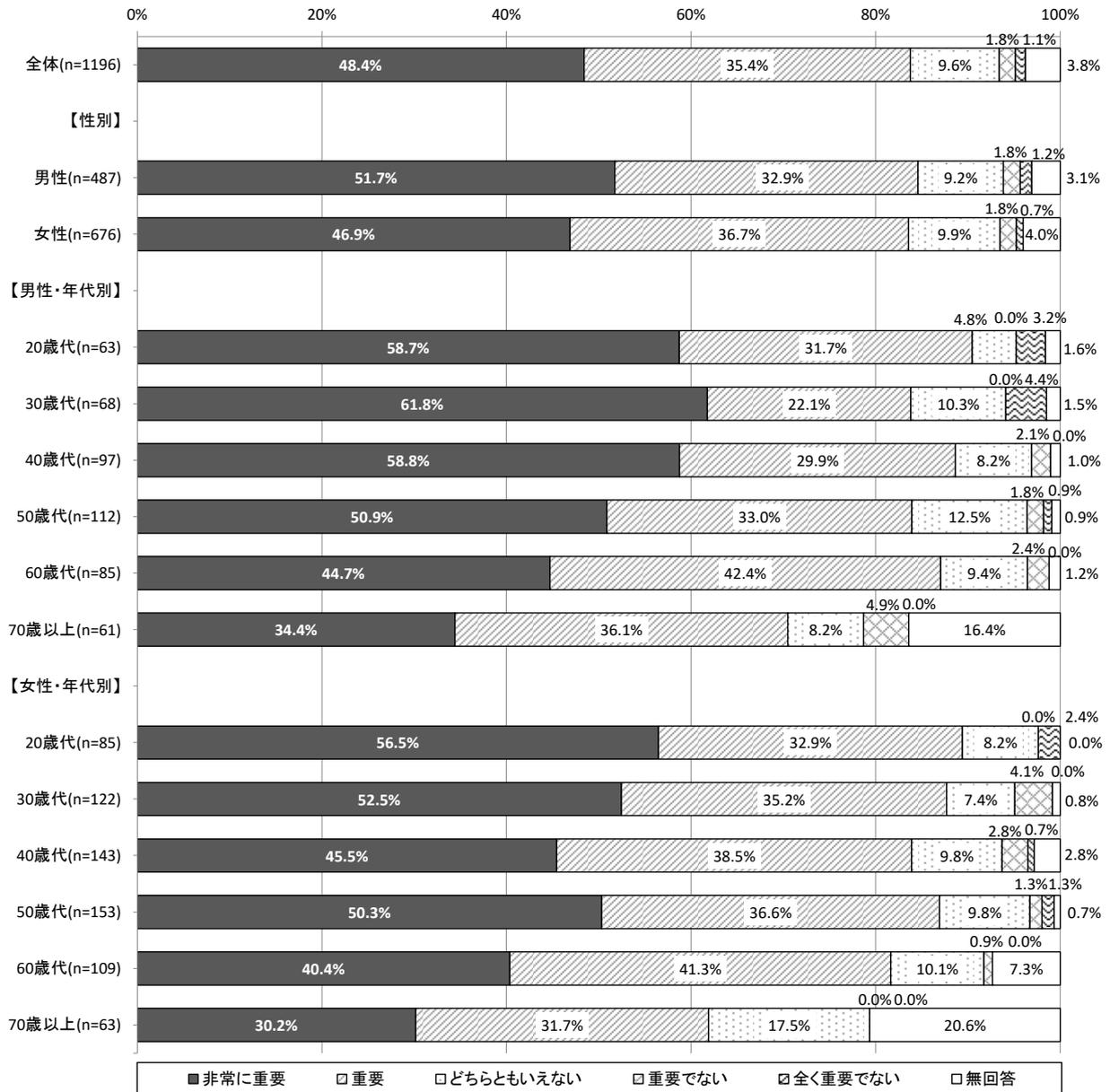


## ■制度



◆社長や取締役がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む  
【性別、性・年代別クロス】

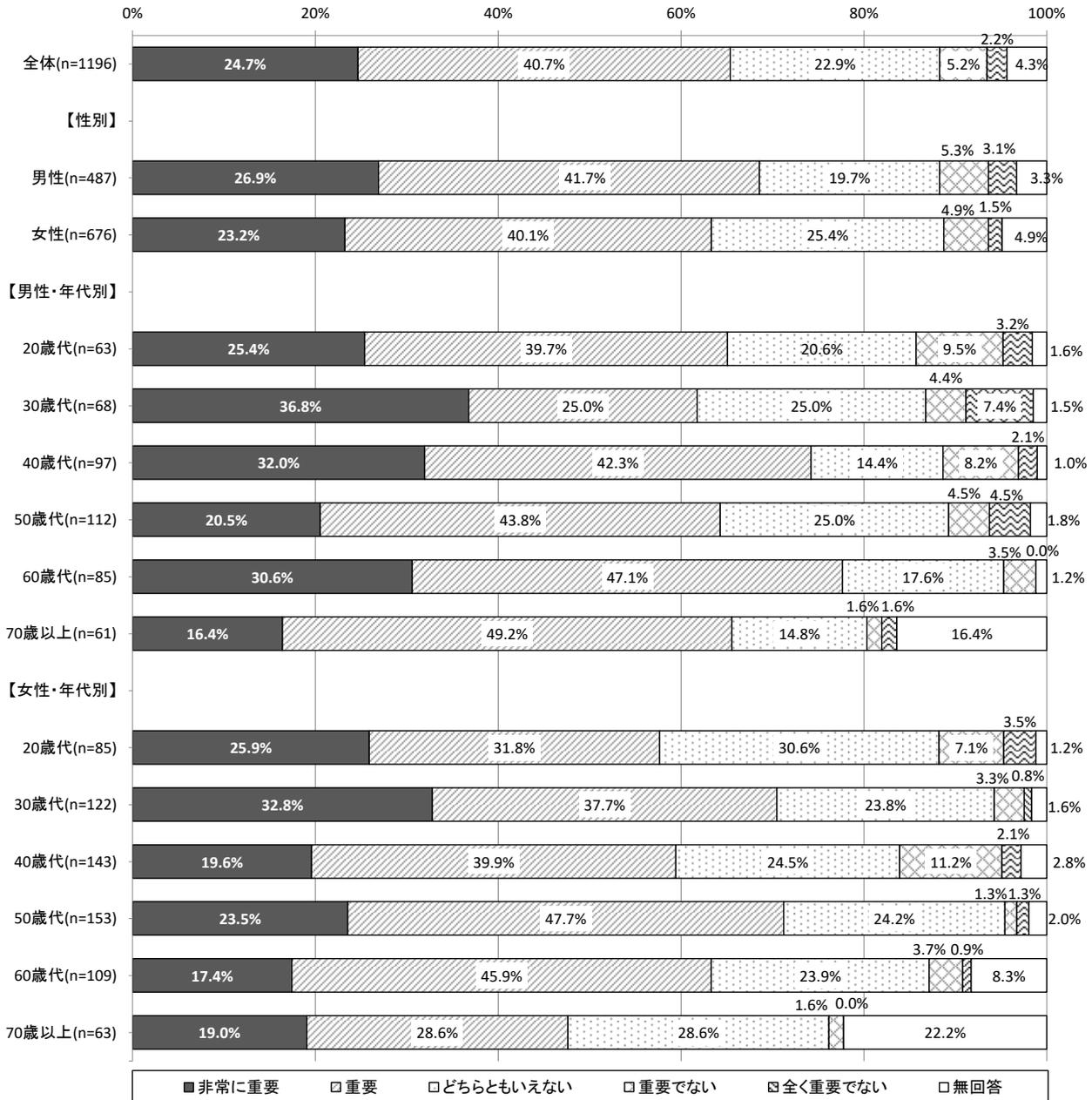
性別では、女性よりも男性の方が「非常に重要」という回答が多くなっています。  
性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなる傾向となっています。



### ◆企業の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「非常に重要」という回答が多くなっています。

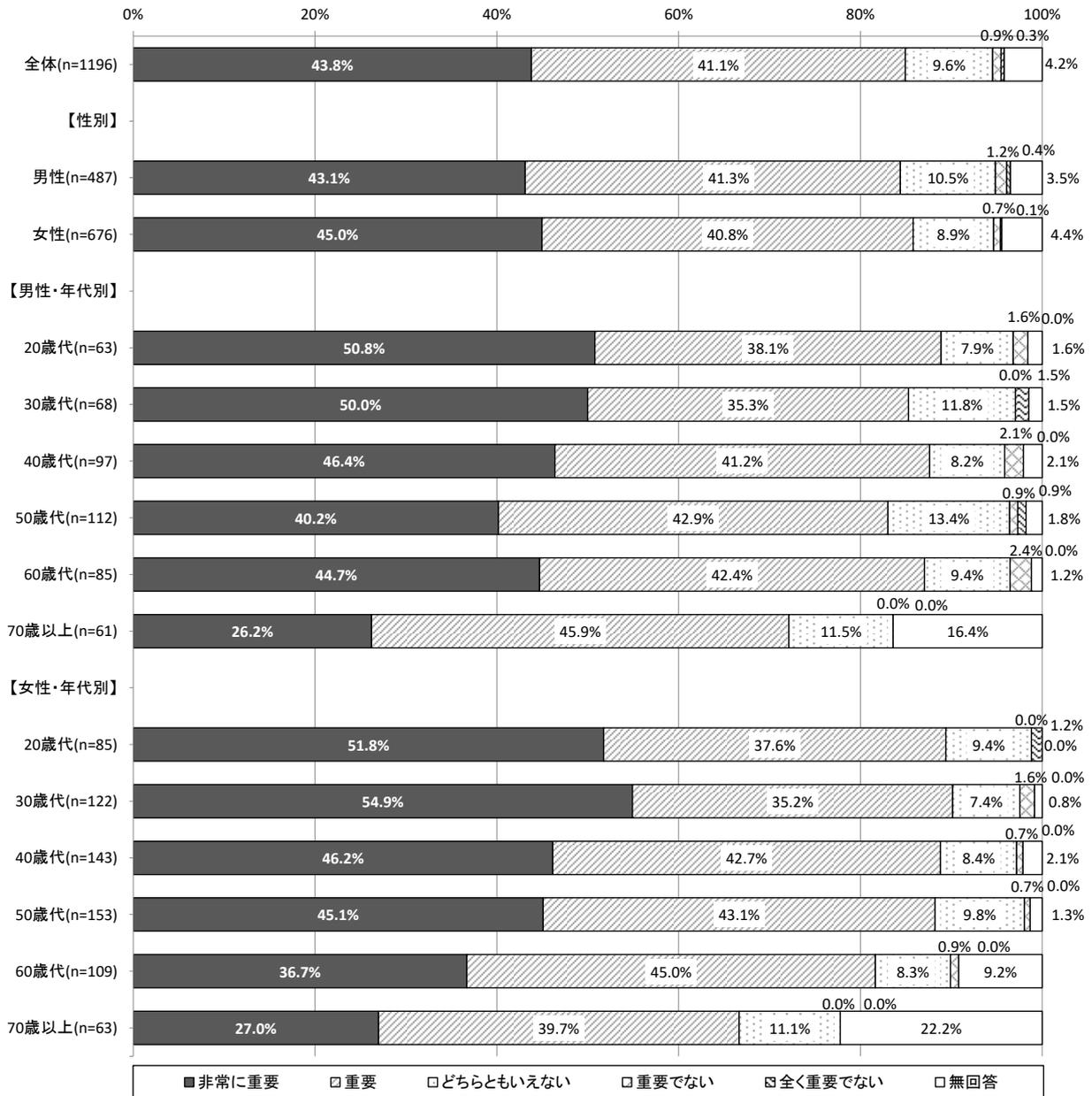
性・年代別では、男女ともに、30歳代が「非常に重要」という回答が最も多くなっています。



### ◆管理職の意識改革を行う【性別, 性・年代別クロス】

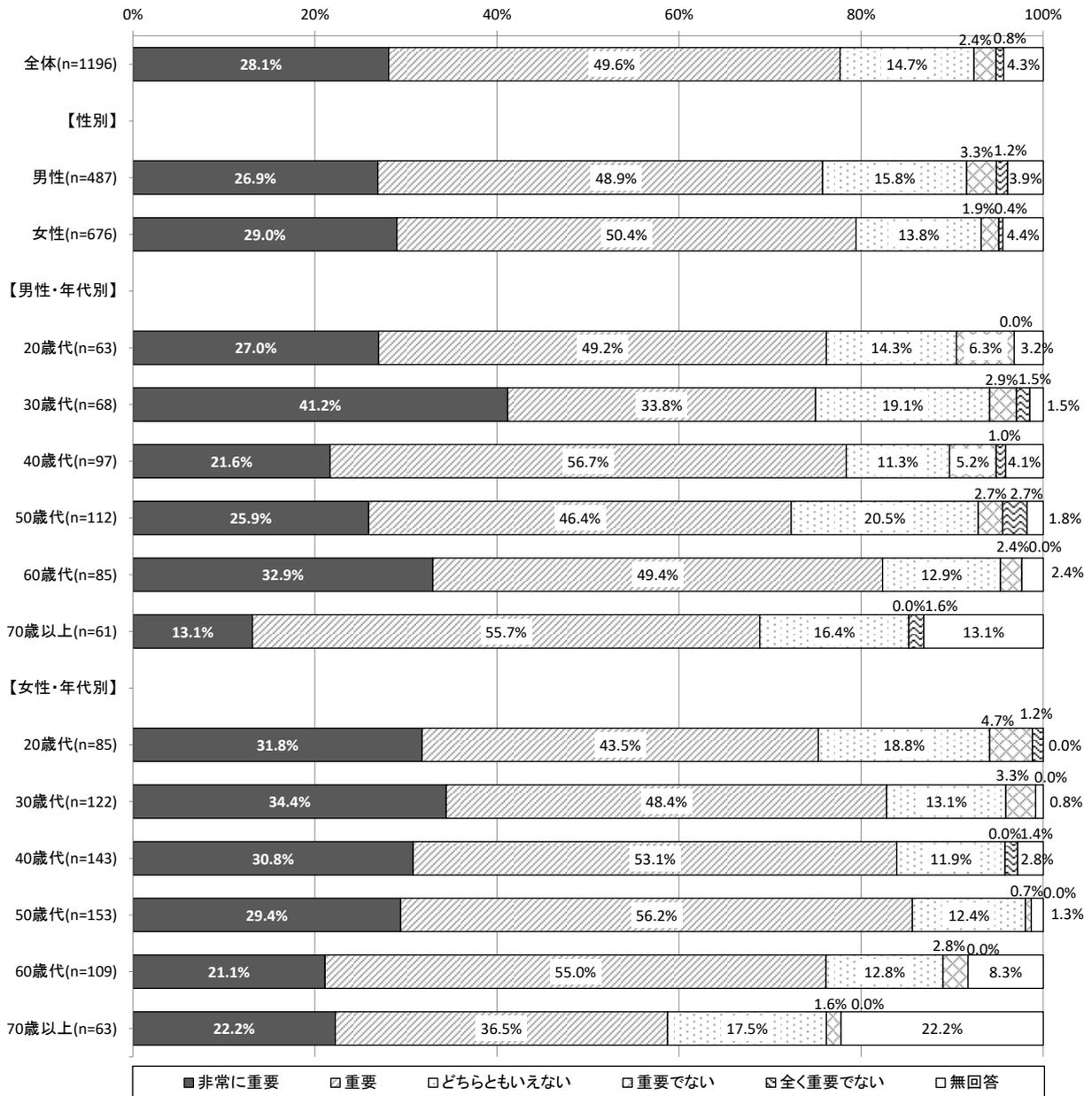
性別では、男性よりも女性の方が「非常に重要」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。男女とも70歳代以上では、「非常に重要」、「重要」という回答が他年代に比べ少なくなっています。



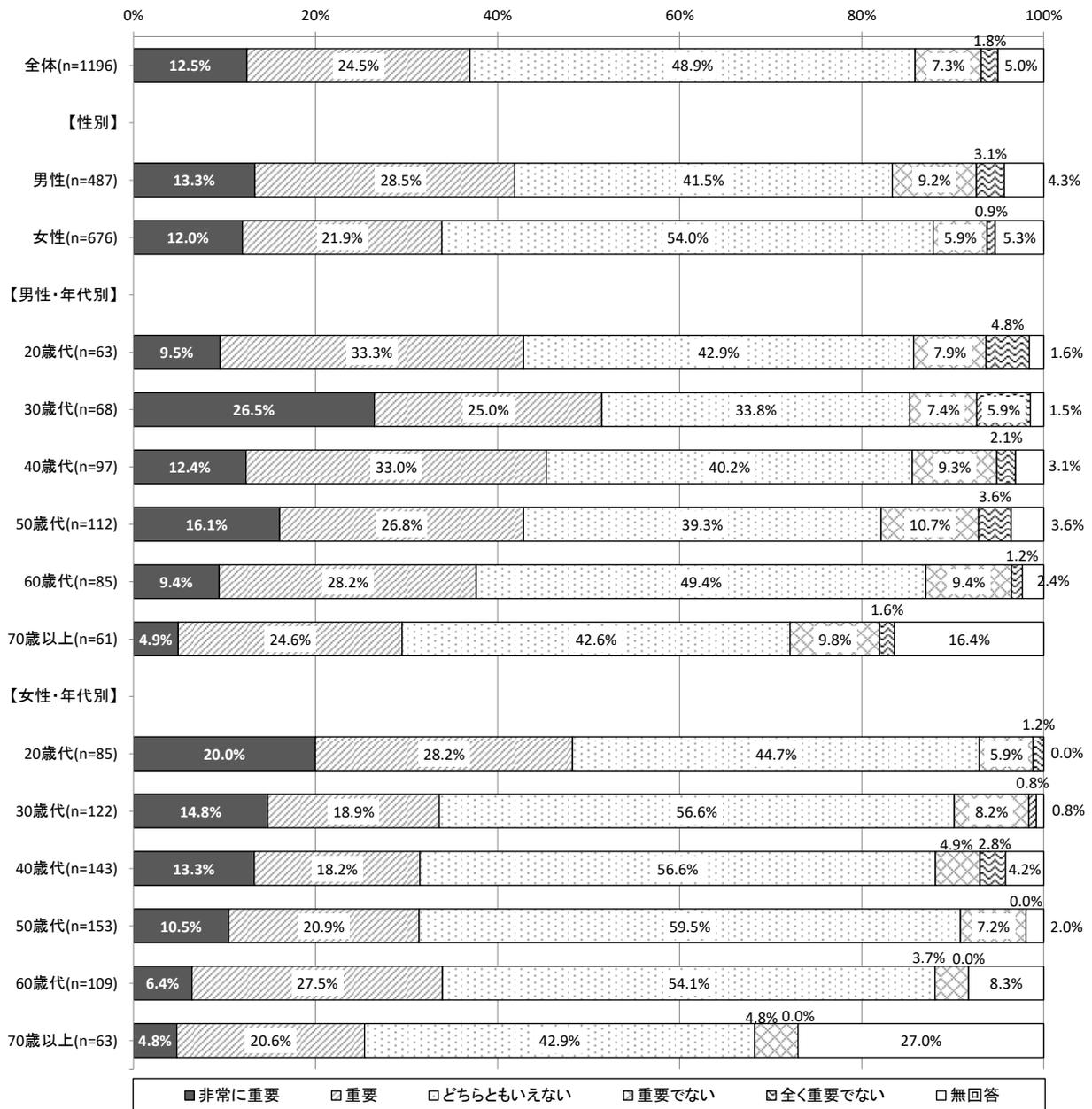
### ◆管理職以外の社員の意識改革を行う【性別，性・年代別クロス】

性別では，男性よりも女性の方が「非常に重要」，「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では，男性の30歳代が「非常に重要」という回答が4割以上と最も多くなっています。



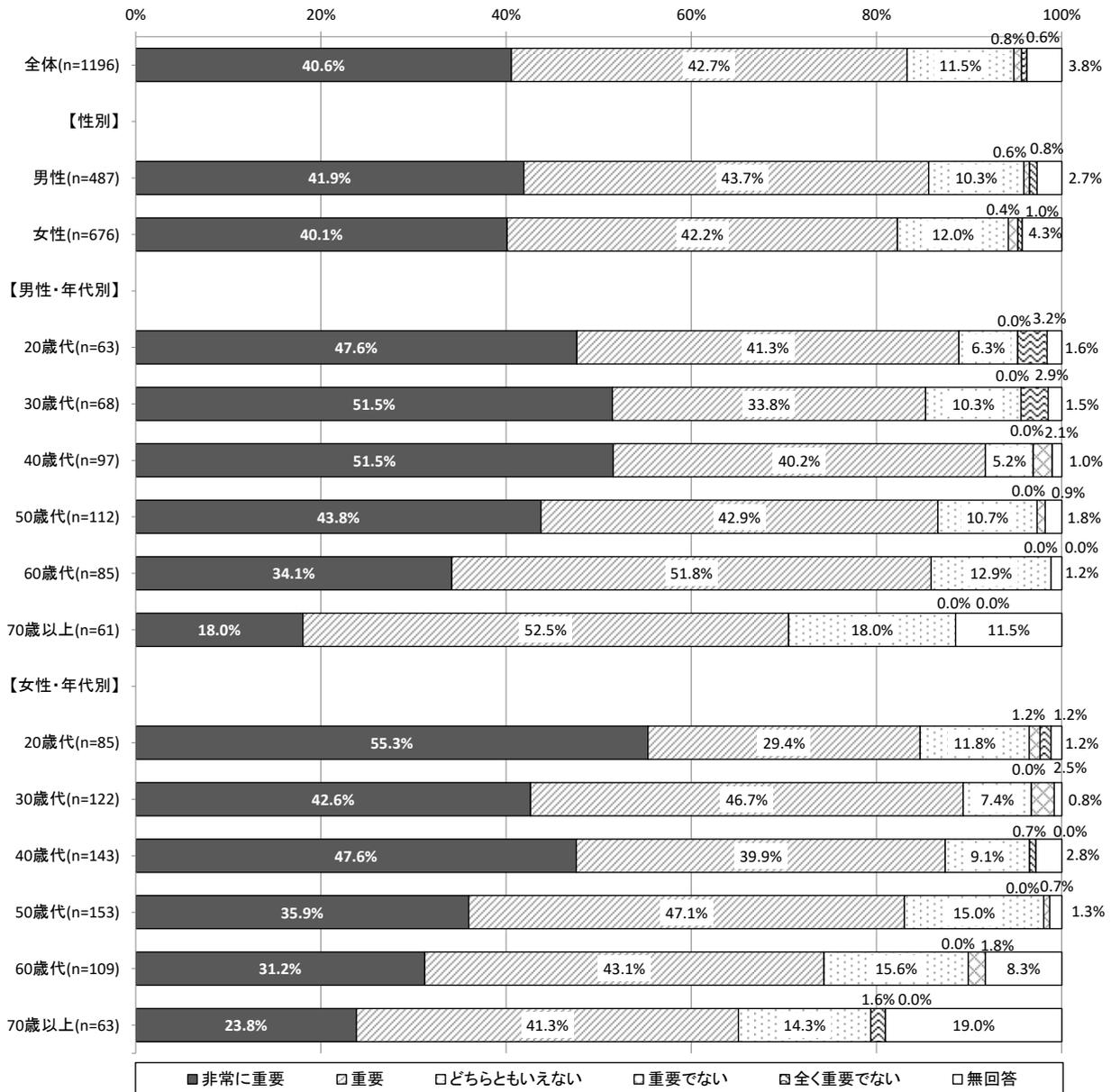
### ◆仕事の量を減らす【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性よりも男性の方が「非常に重要」，「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では，女性では，年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。



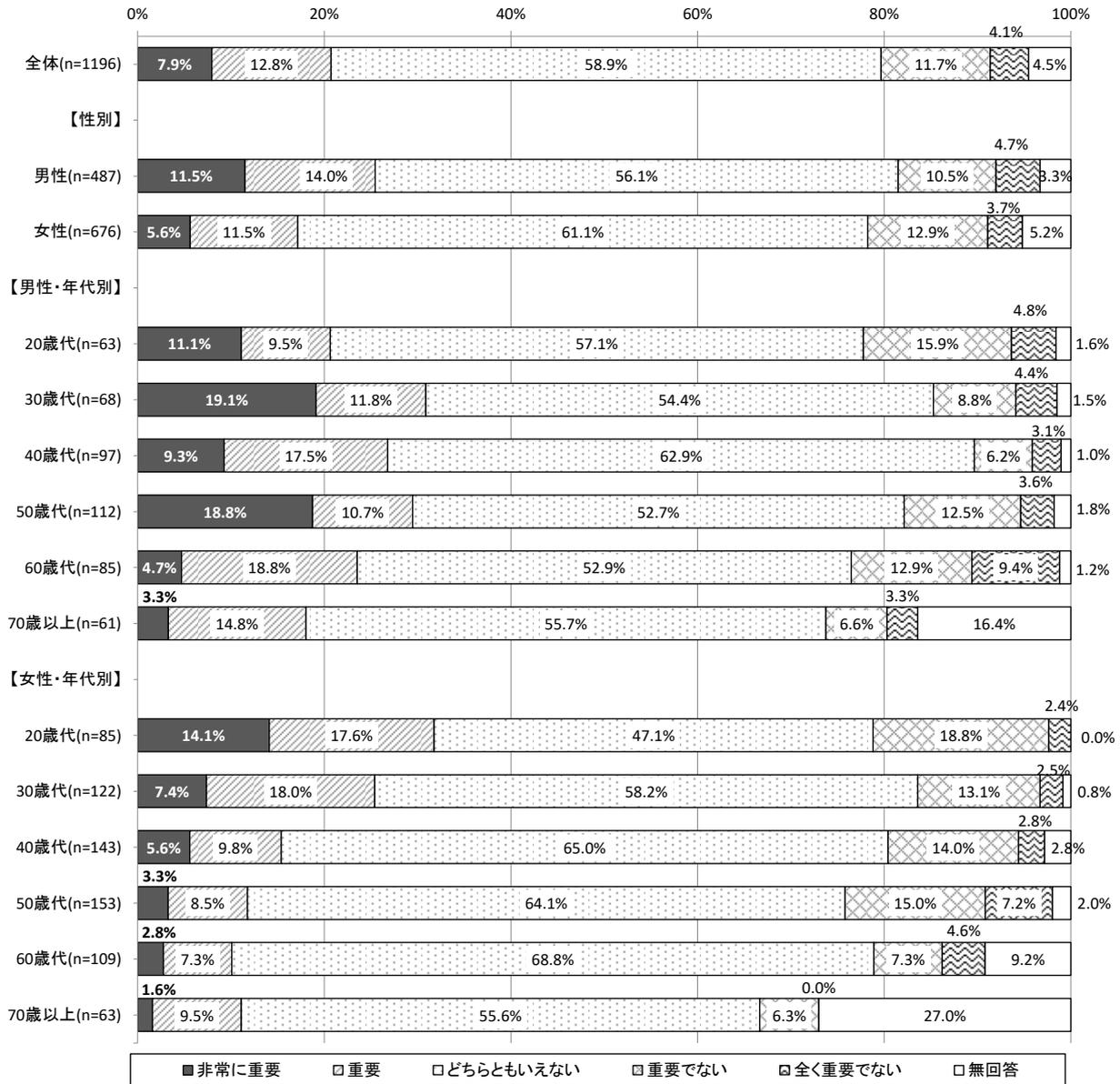
### ◆無駄な業務・作業をなくす【性別, 性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。



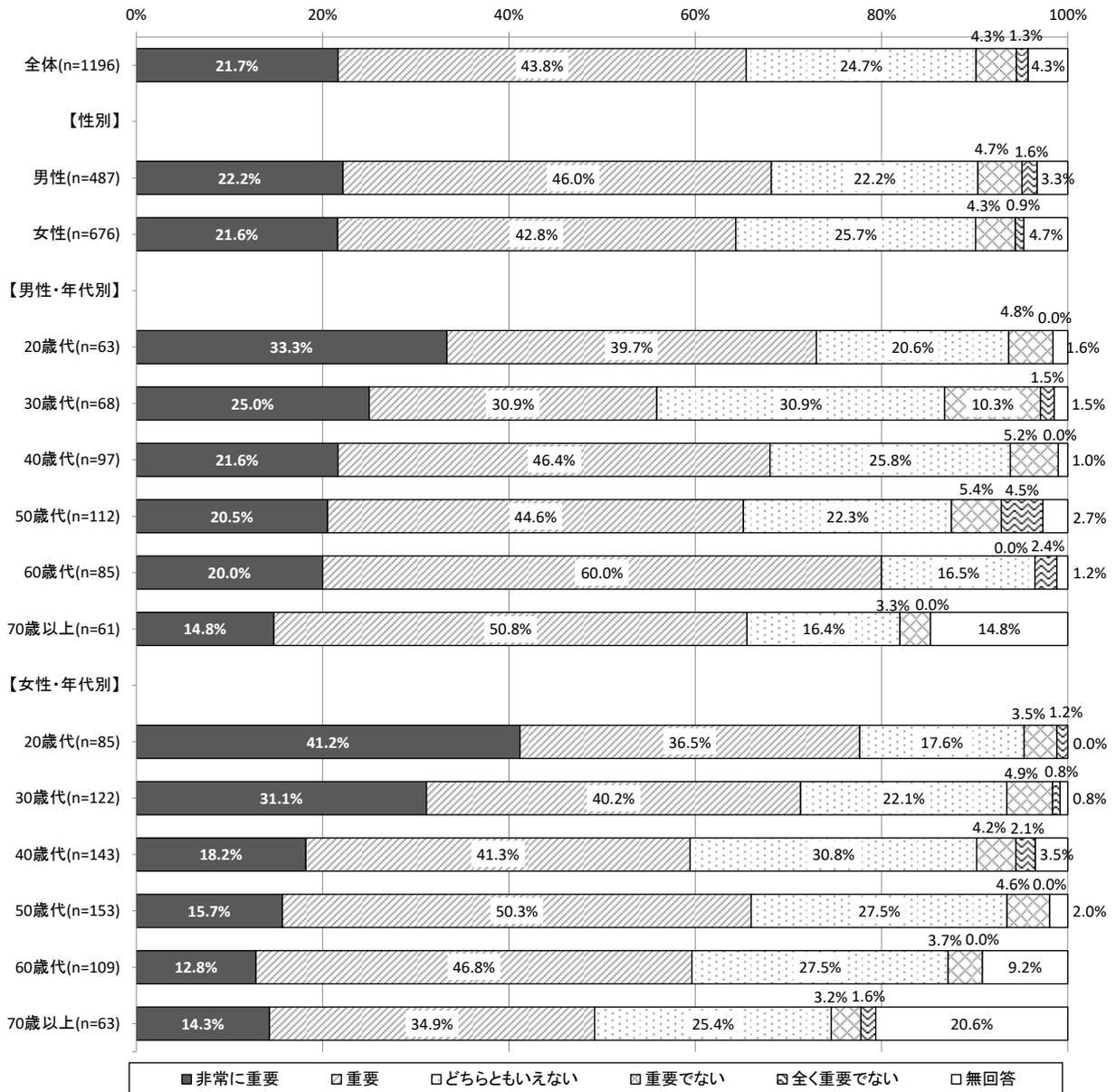
### ◆収益性の低い仕事をやめる【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性よりも男性の方が「非常に重要」，「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では，女性では年代が上がるに連れ「非常に重要」という回答が少なくなっています。男性では，30歳代，50歳代で，「非常に重要」という回答が約2割となっています。



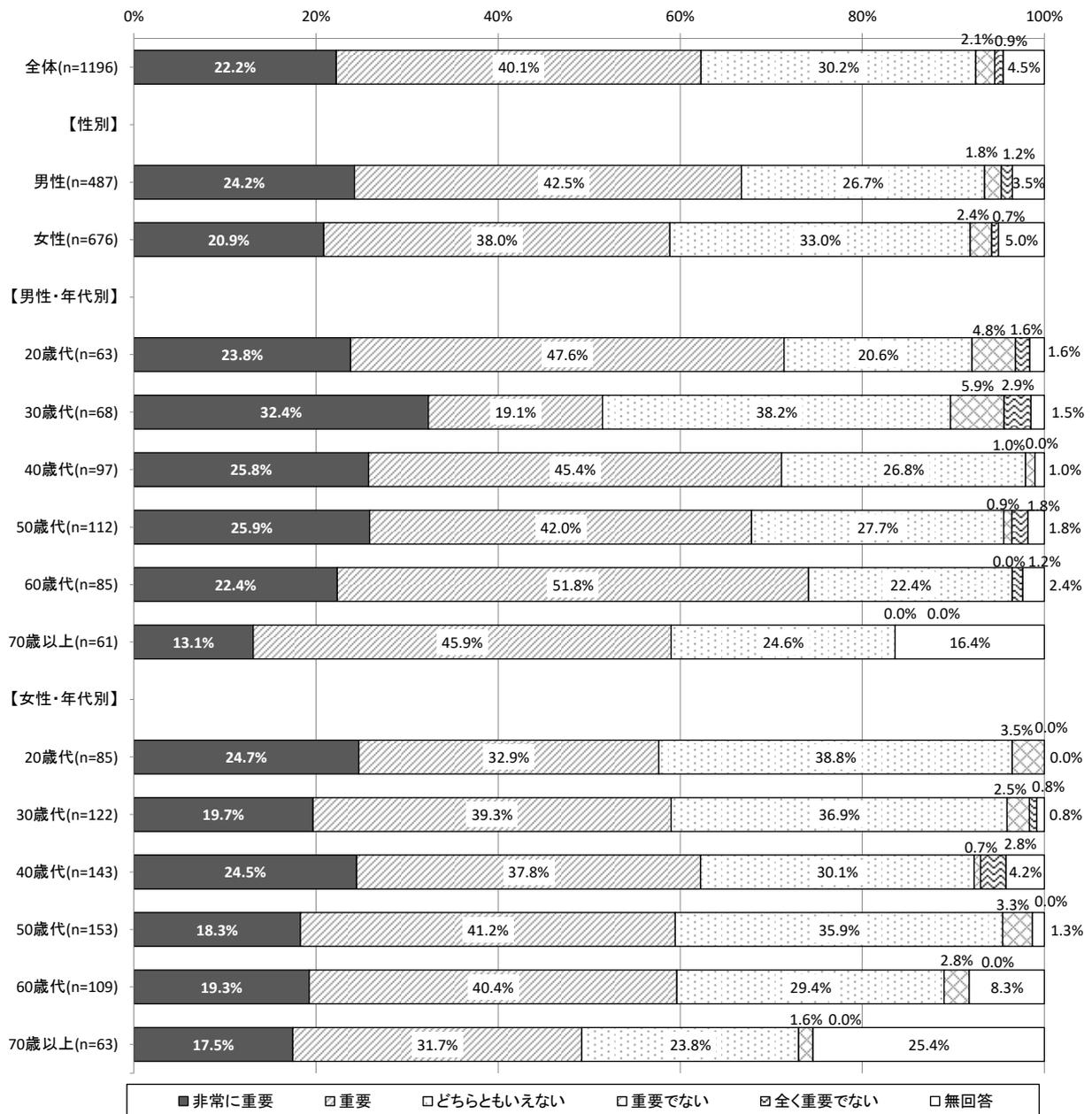
### ◆年休の取得計画をつくる【性別, 性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっていますが、男性の60歳代では「重要」という回答が他年代に比べ多くなっています。



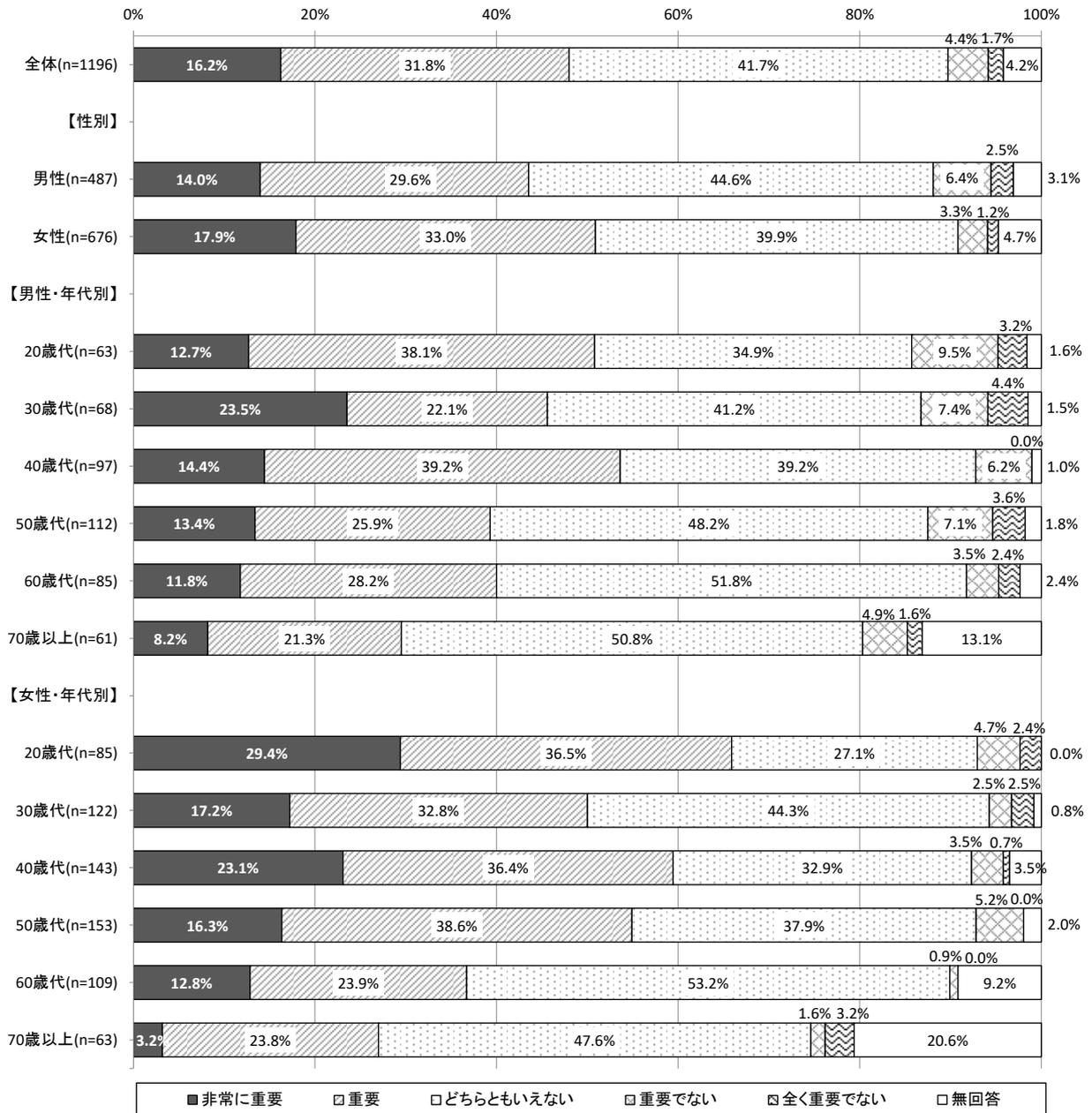
### ◆取引先や下請企業に無理な要求をしない【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性よりも男性の方が「非常に重要」，「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では，男性は，30歳代で「非常に重要」という回答が最も多くなっています。



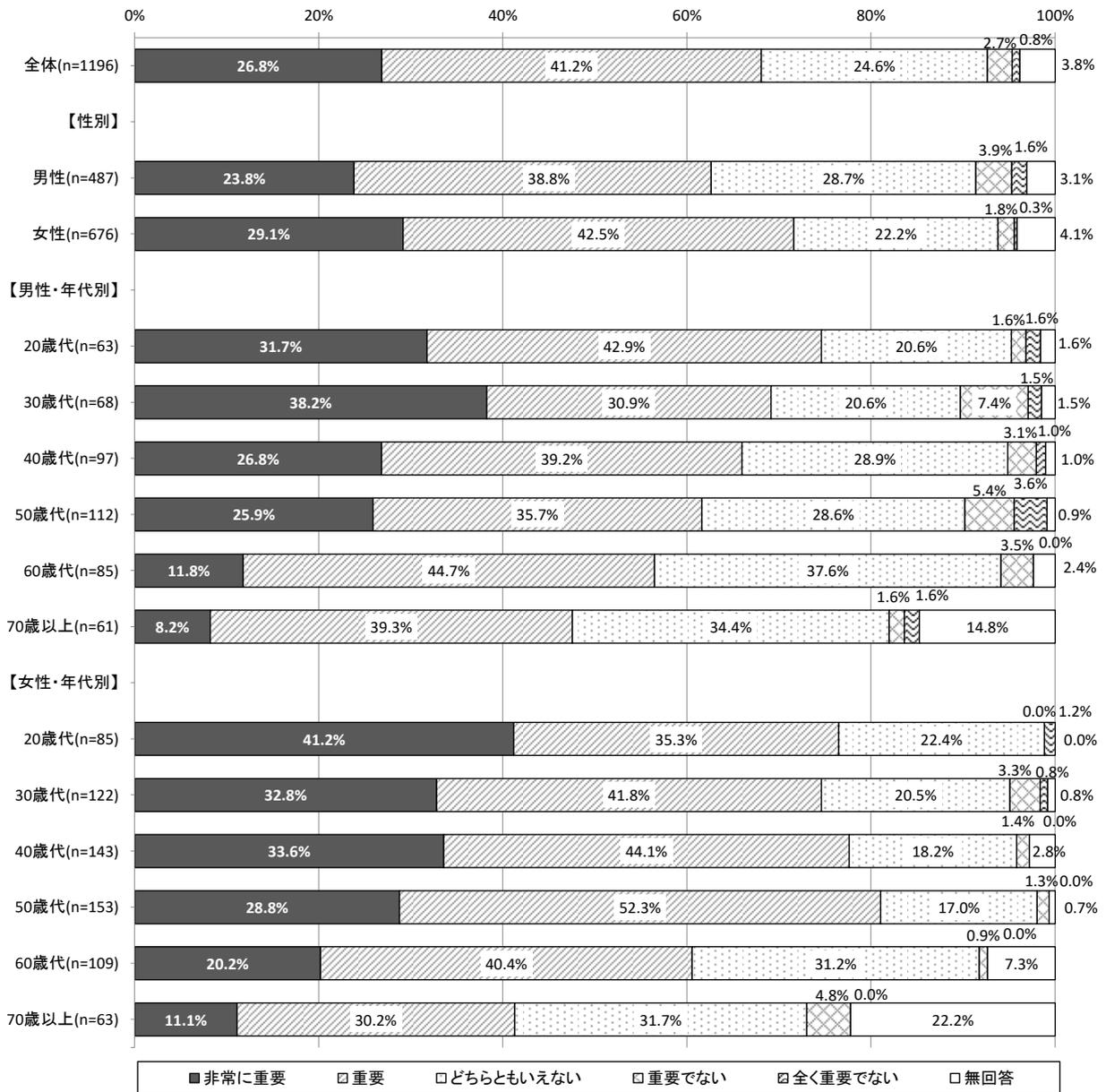
### ◆従業員を増やす【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、男性の40歳代、女性の20歳代で「非常に重要」、「重要」という回答が最も多くなっています。



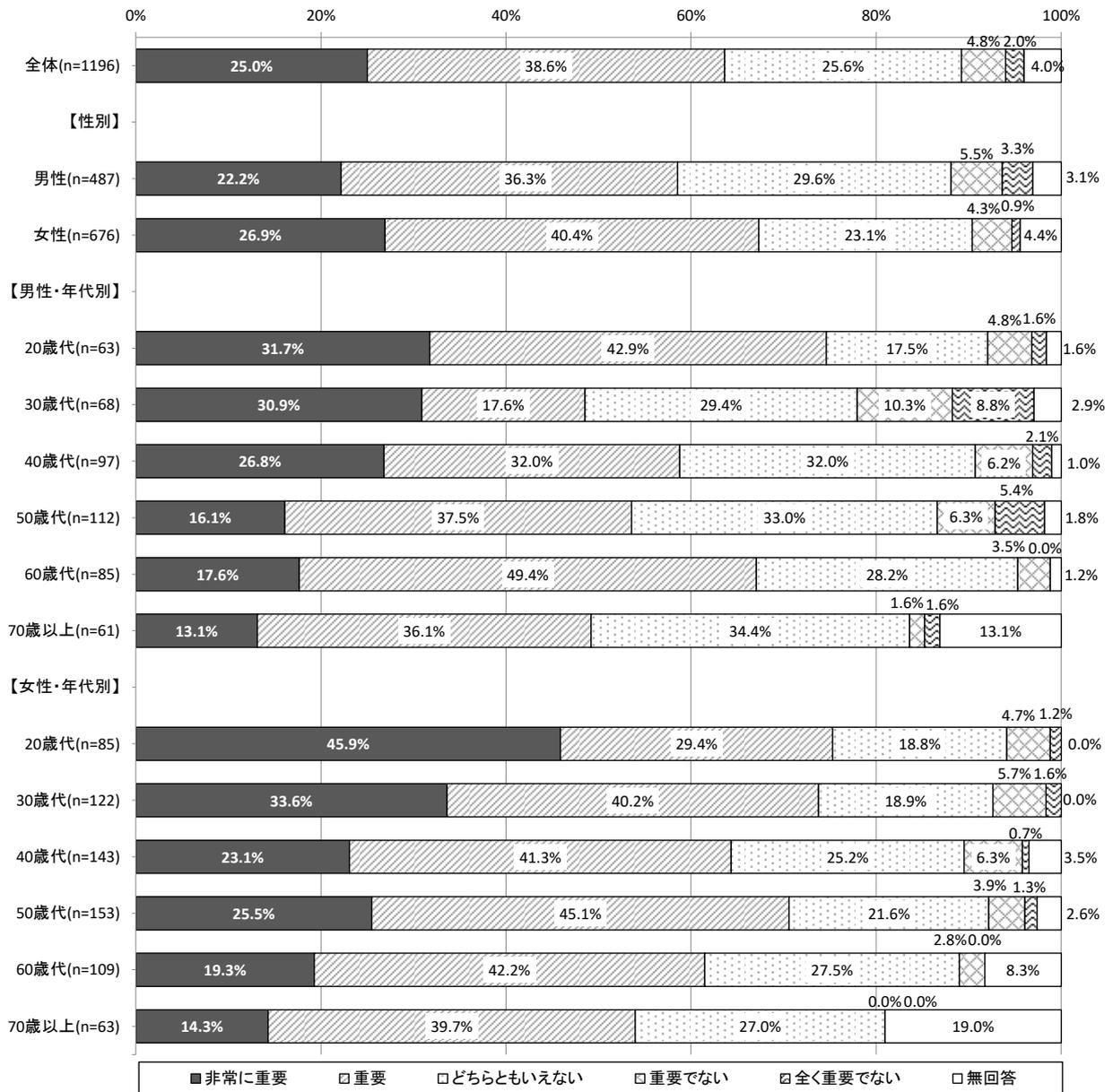
### ◆給料を上げる【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。



### ◆ノー残業デーを設ける【性別, 性・年代別クロス】

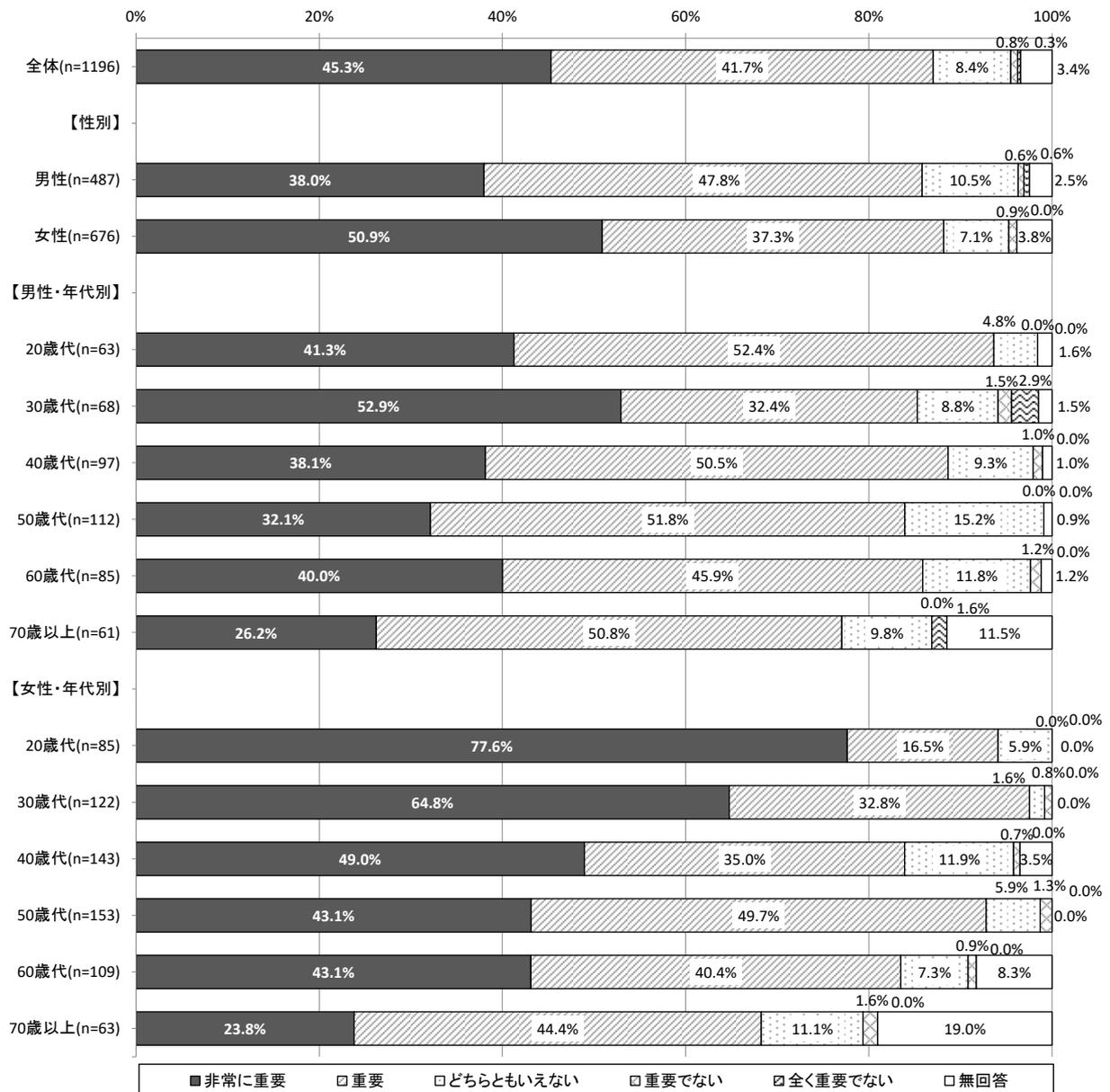
性別では, 男性よりも女性の方が「非常に重要」, 「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では, 男女ともに, 年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。



### ◆育児・介護休業を取りやすくする【性別，性・年代別クロス】

性別では，男性よりも女性の方が「非常に重要」という回答が多くなっています。

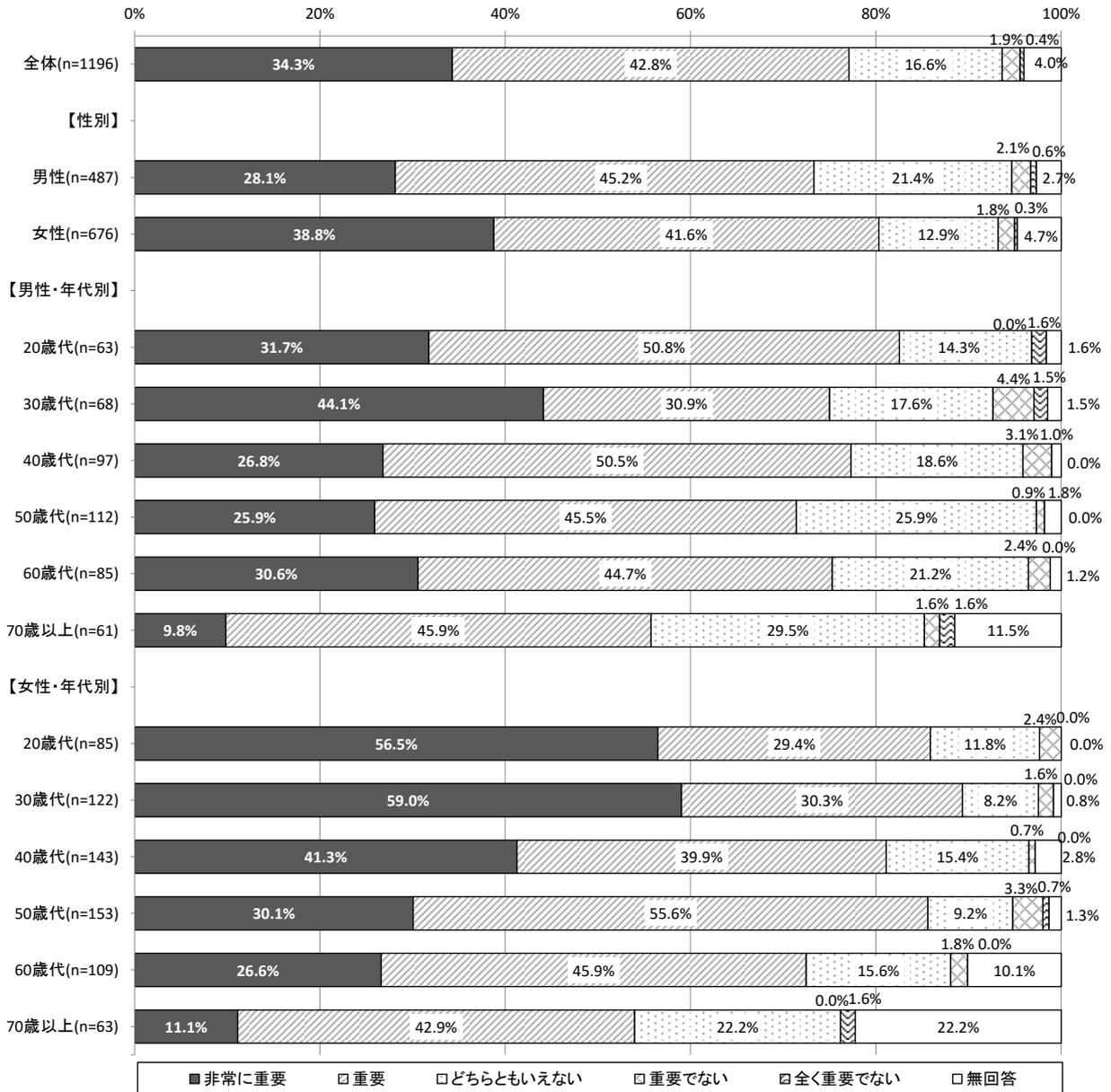
性・年代別では，女性は年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。なお，男性の30歳代，女性の20歳代，30歳代では，「非常に重要」という回答が半数を超えています。



### ◆時間短縮勤務ができるようにする【性別，性・年代別クロス】

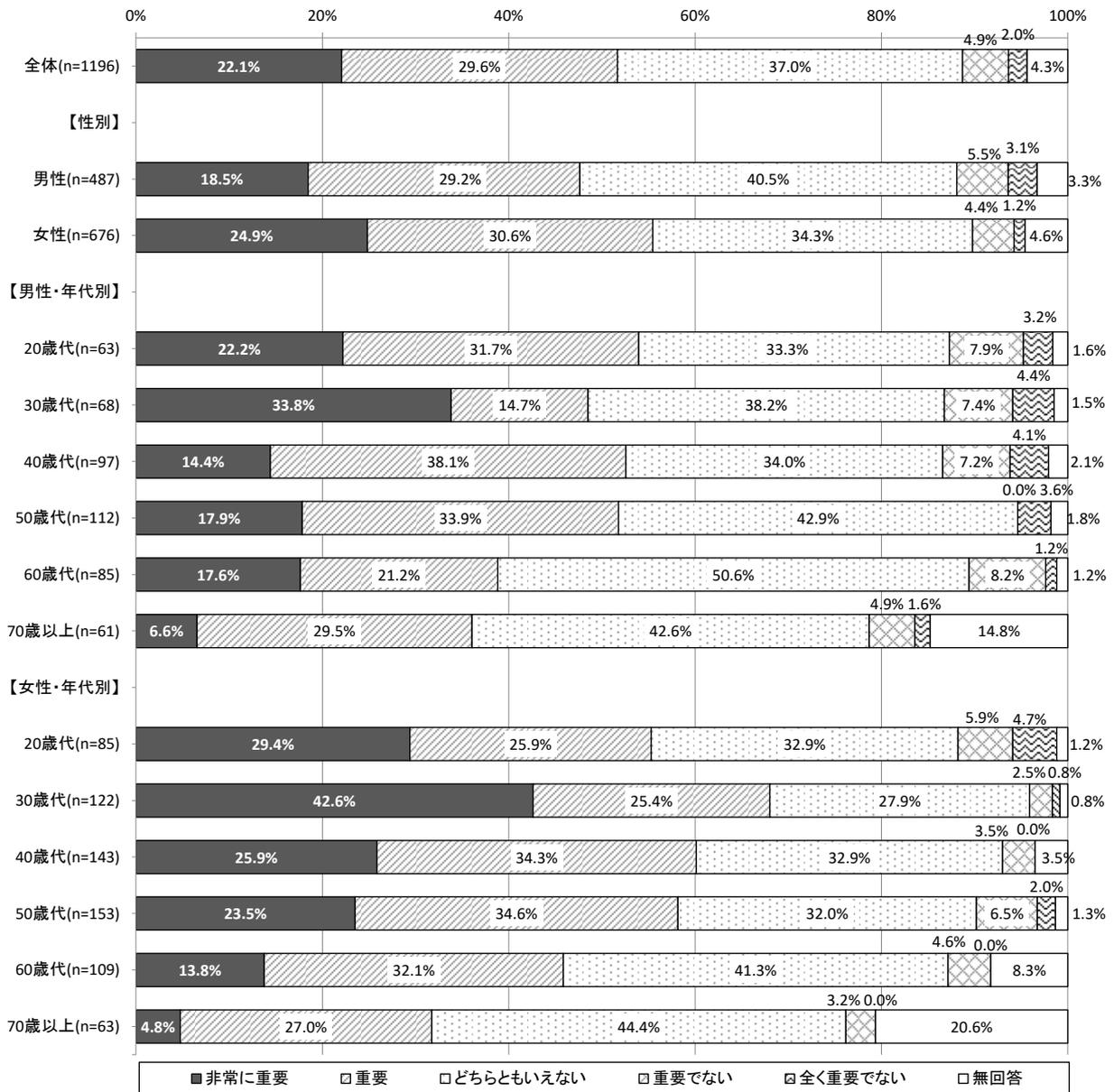
性別では，男性よりも女性の方が「非常に重要」という回答が多くなっています。

性・年代別では，女性は年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。なお，男性の30歳代，女性の20歳代～40歳代では，「非常に重要」という回答が4割を超えています。



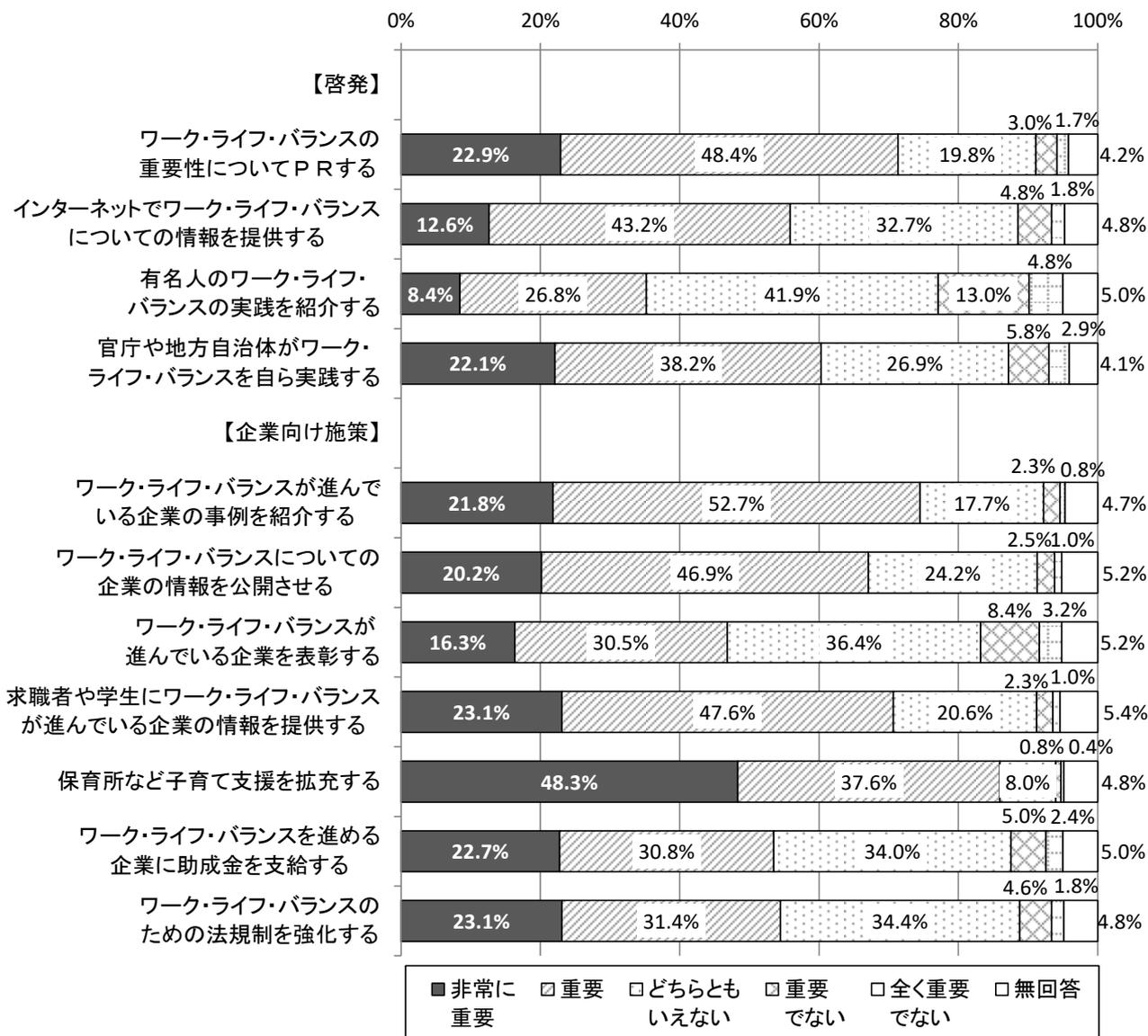
### ◆在宅勤務ができるようにする【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、男女ともに30歳代では、「非常に重要」という回答が他年代に比べ多くなっています。



問8 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくために、自治体はどのような取組が必要だと思いますか。  
 (それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」のために自治体に必要な取組について、「非常に重要」、「重要」という回答は、「保育所など子育て支援を拡充する」が85.9%で最も多く、次いで「ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の事例を紹介する」が74.5%、「ワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRする」が71.3%、「求職者や学生にワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の情報を提供する」が70.7%となっています。

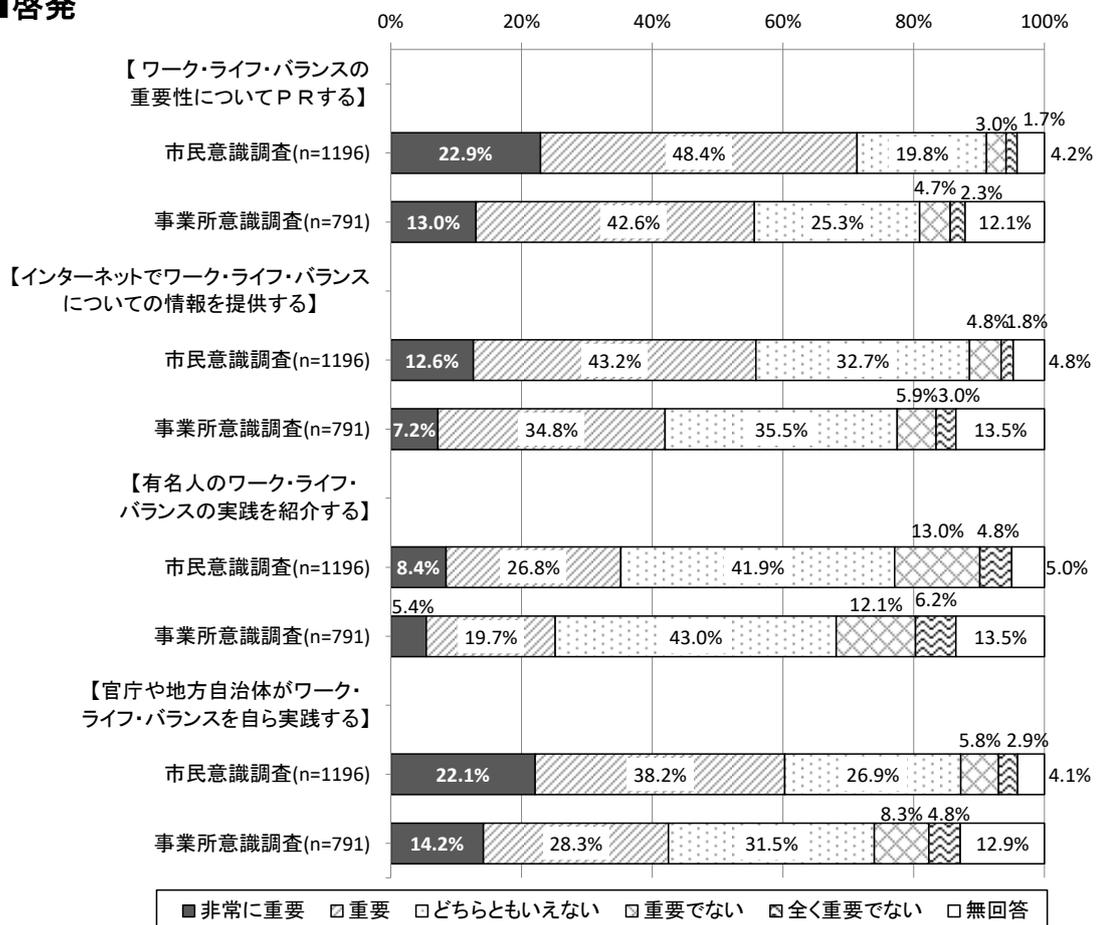


項目	非常に重要	重要	どちらとも いえない	重要でない	全く重要 でない	無回答	合計
<b>【啓発】</b>							
ワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRする	274	579	237	36	20	50	1,196
インターネットでワーク・ライフ・バランスについての情報を提供する	151	517	391	58	22	57	1,196
有名人のワーク・ライフ・バランスの実践を紹介する	101	320	501	156	58	60	1,196
官庁や地方自治体がワーク・ライフ・バランスを自ら実践する	264	457	322	69	35	49	1,196
<b>【企業向け施策】</b>							
ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の事例を紹介する	261	630	212	28	9	56	1,196
ワーク・ライフ・バランスについての企業の情報を公開させる	241	561	290	30	12	62	1,196
ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業を表彰する	195	365	435	101	38	62	1,196
求職者や学生にワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の情報を提供する	276	569	246	28	12	65	1,196
保育所など子育て支援を拡充する	578	450	96	9	5	58	1,196
ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する	272	368	407	60	29	60	1,196
ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する	276	375	411	55	21	58	1,196

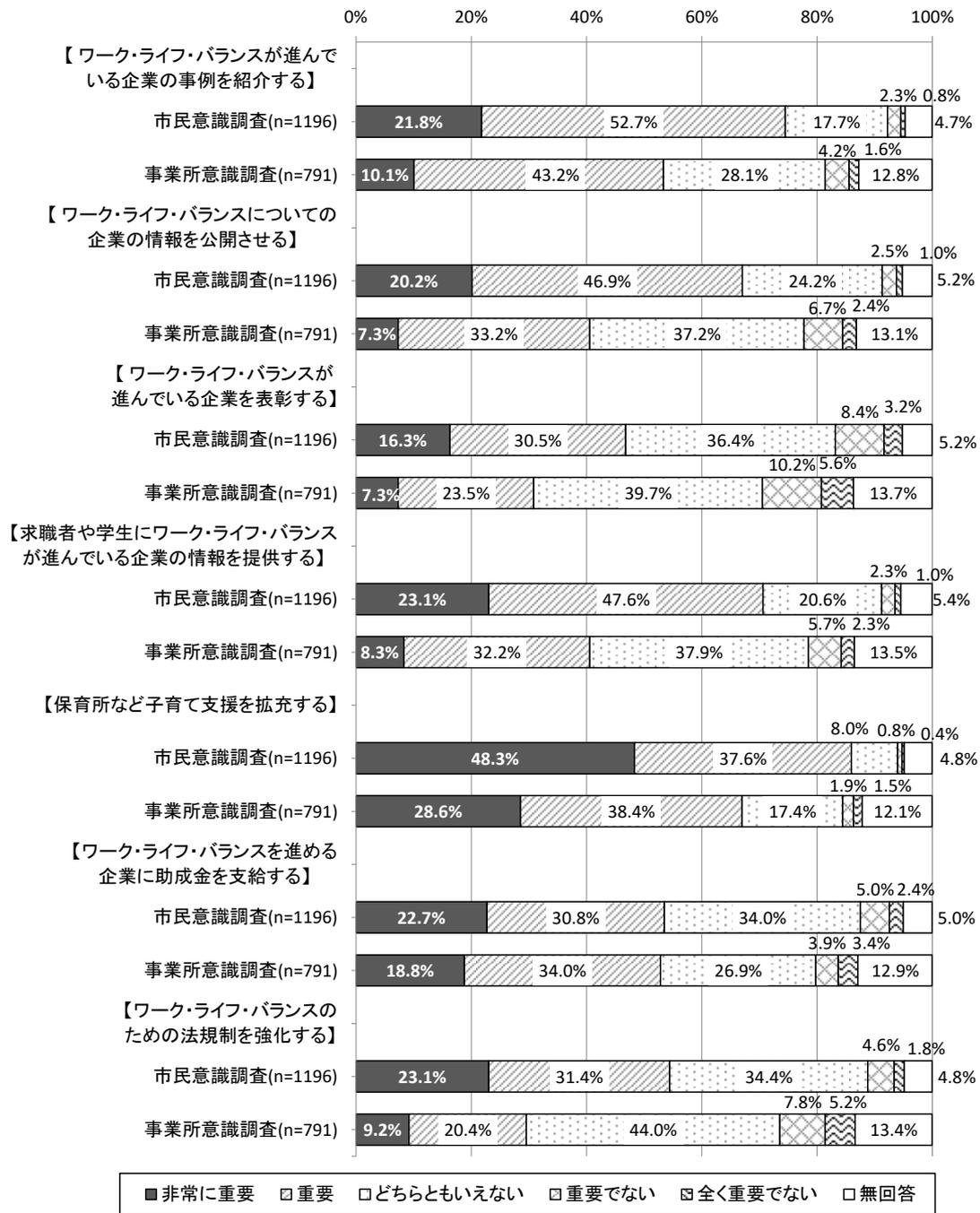
### 【事業所意識調査との比較】

事業所意識調査と比較すると、全ての項目で「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。特に差が大きい項目としては、「求職者や学生にワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の情報を提供する」が30.2ポイントとなっています。

### ■啓発

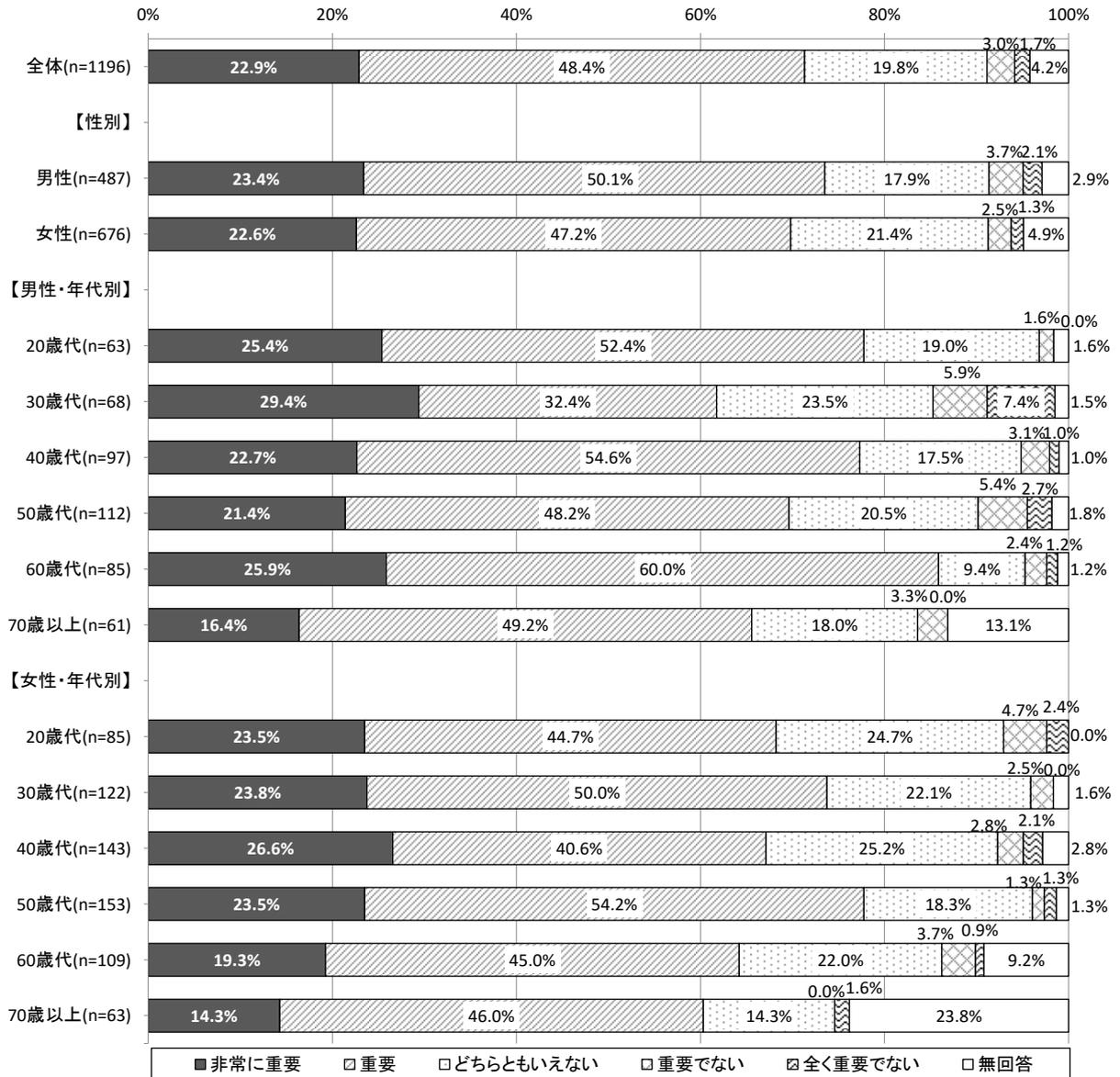


## ■企業向け施策



### ◆ワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRする【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。性別・年代別では、男女ともに、バラつきはあるものの、年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。

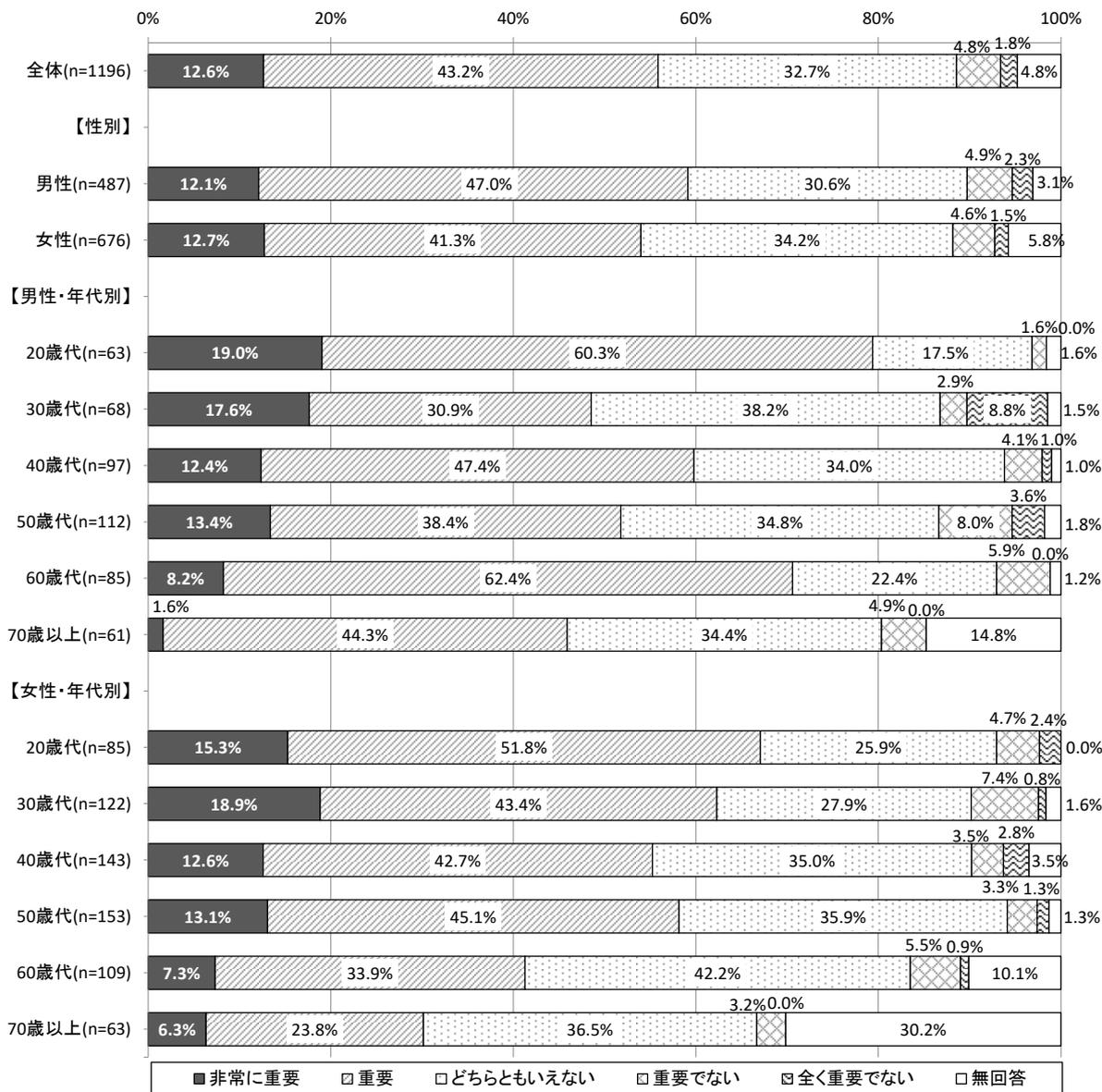


## ◆インターネットでワーク・ライフ・バランスについての情報を提供する

### 【性別、性・年代別クロス】

性別では、「非常に重要」という回答に差はありませんでしたが、女性よりも男性の方が「重要」という回答がやや多くなっています。

性・年代別では、男性の20歳代、60歳代では「重要」という回答が6割を超えています。



### ◆有名人のワーク・ライフ・バランスの実践を紹介する【性別，性・年代別クロス】

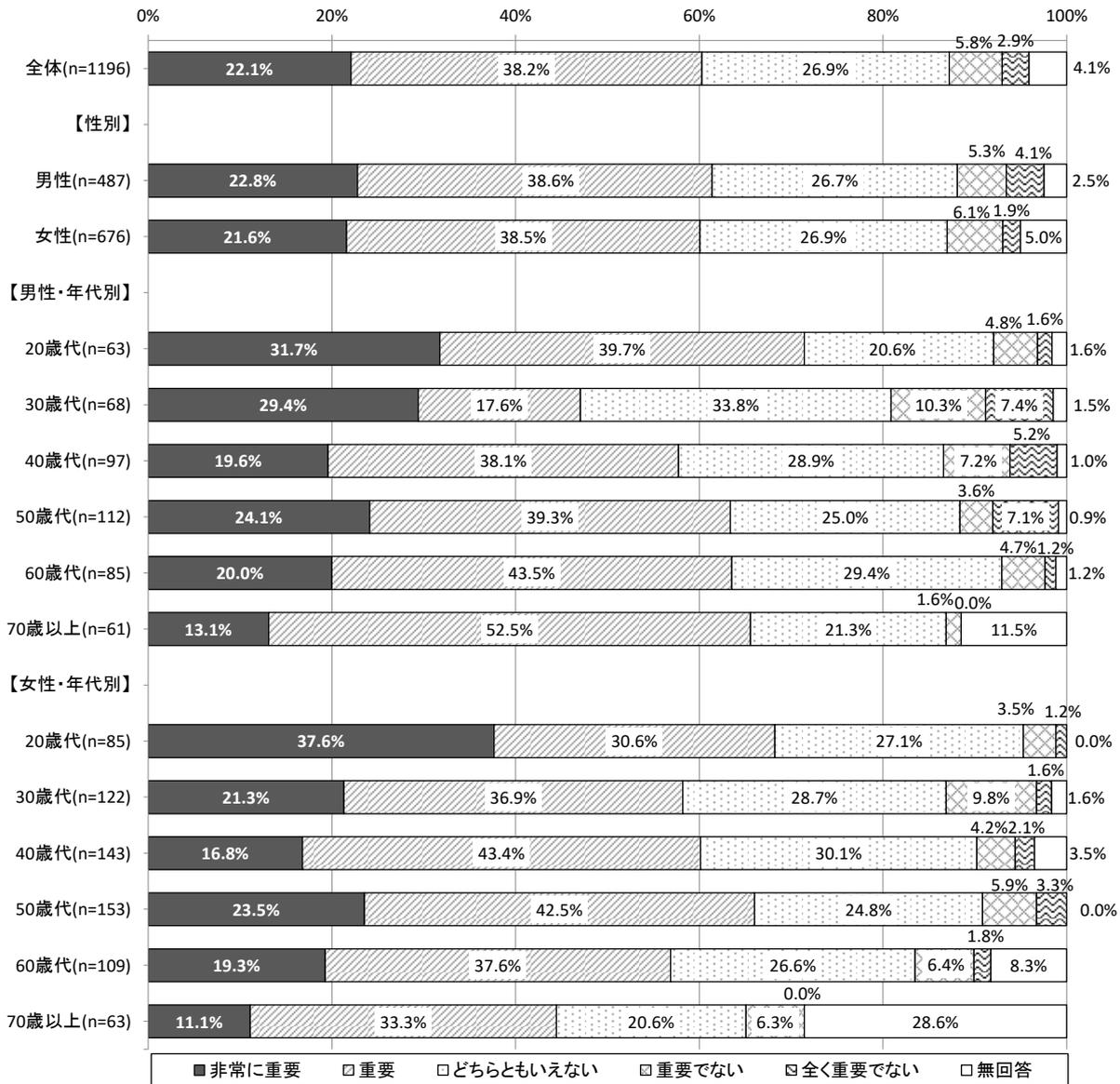
性別では，女性よりも男性の方が「非常に重要」，「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では，女性は年代が上がるに従って「非常に重要」，「重要」という回答が少なくなっています。また，男女ともに，「非常に重要」という回答が，20歳代，30歳代で他年代に比べ多くなっています。



### ◆官庁や地方自治体がワーク・ライフ・バランスを自ら実践する【性別・性・年代別クロス】

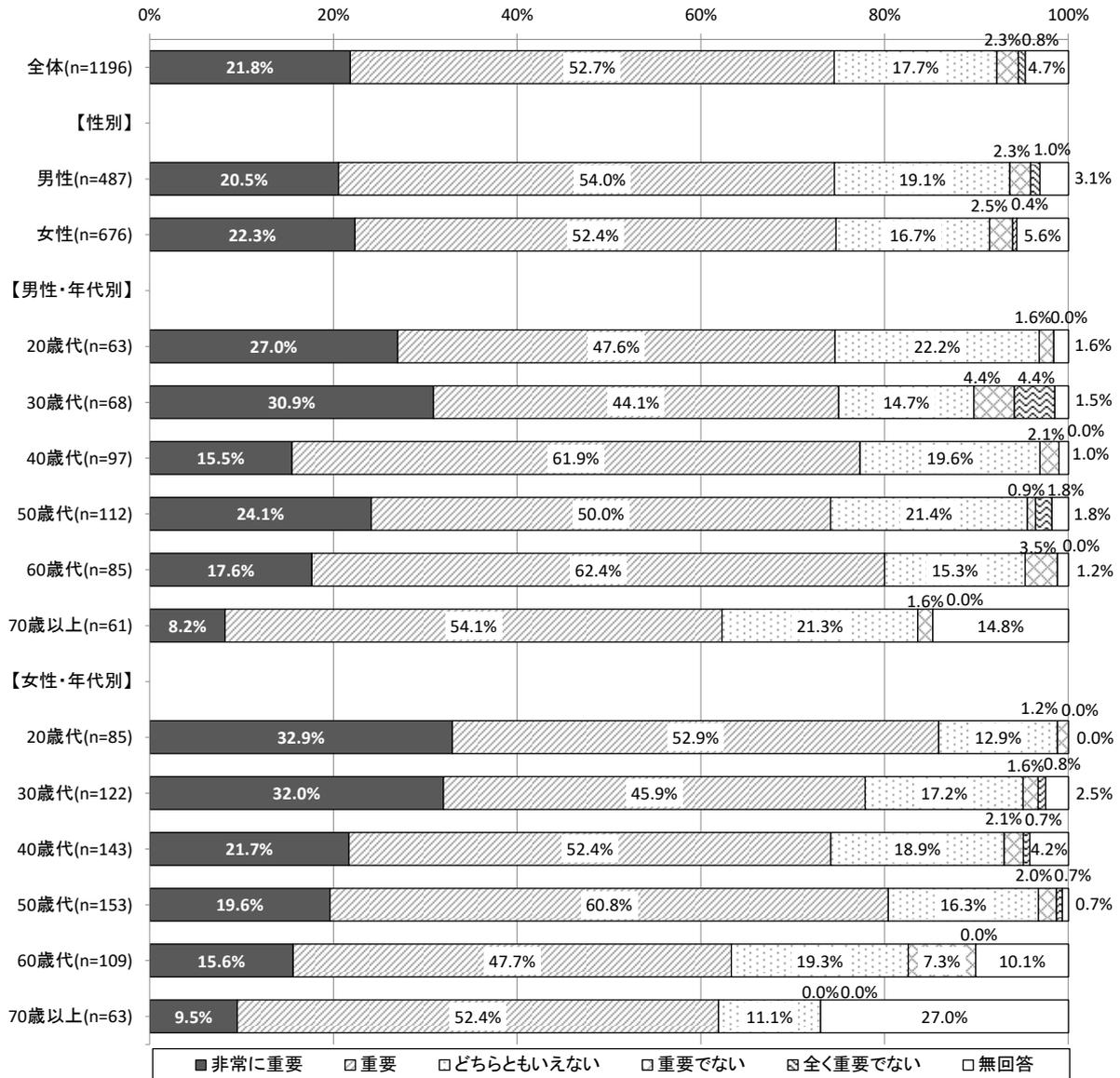
性別では、大きな差はありませんでした。

性・年代別では、男女ともに「非常に重要」という回答が20歳代で最も多くなっています。



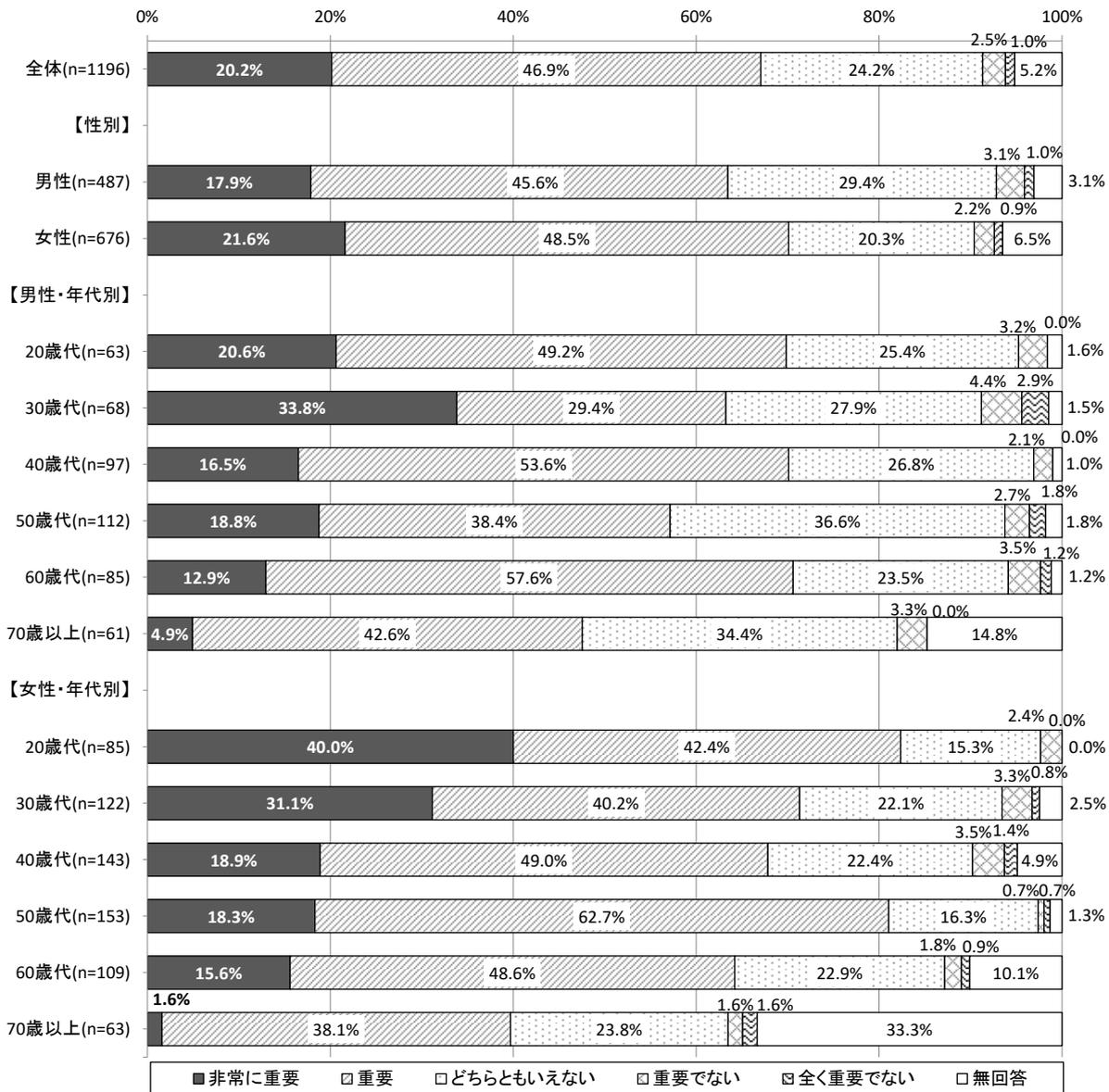
### ◆ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の事例を紹介する【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「非常に重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、女性は年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。



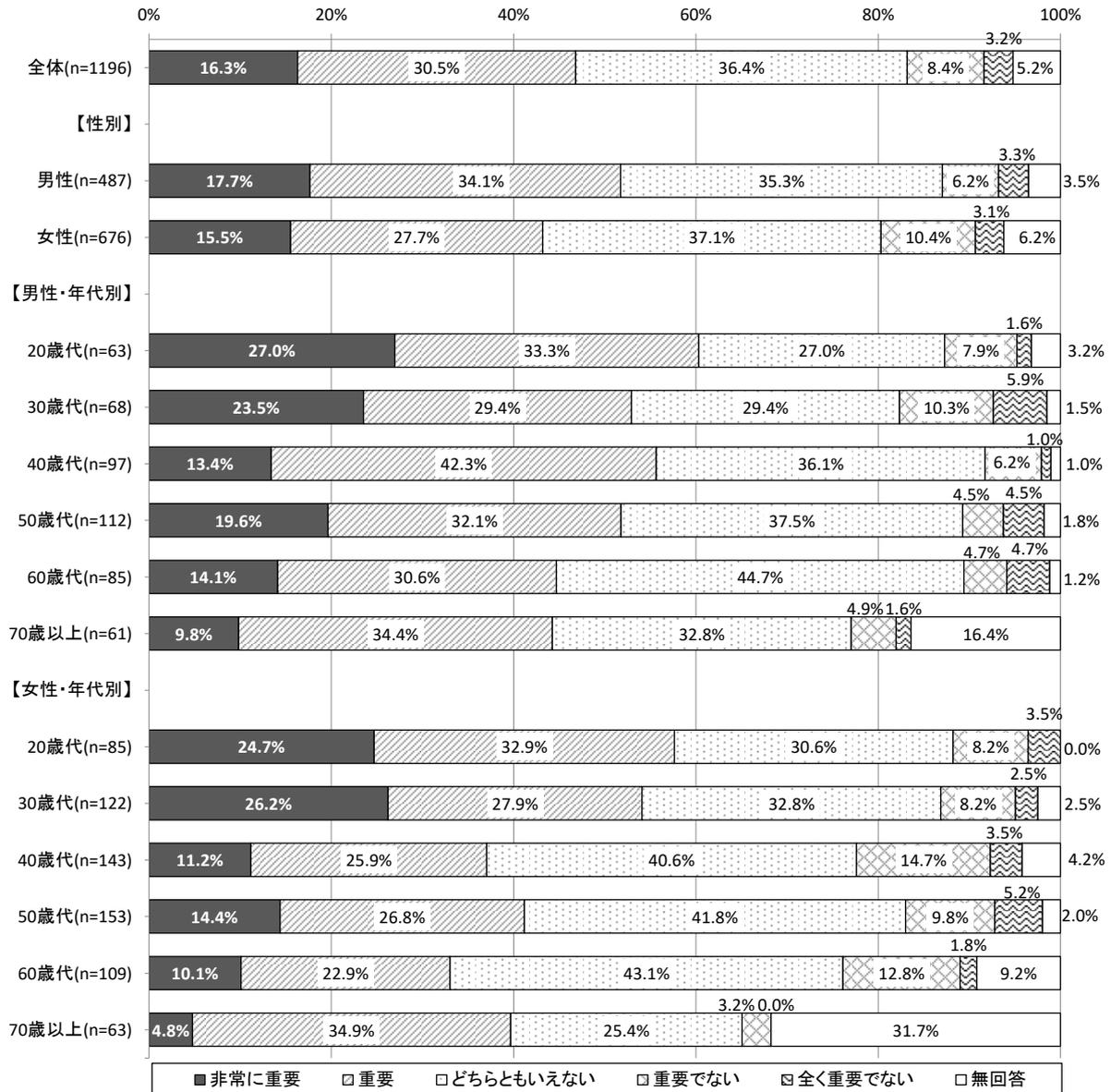
### ◆ワーク・ライフ・バランスについての企業の情報を公開させる【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、女性は年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。男性は、30歳代が「非常に重要」という回答が最も多くなっています。



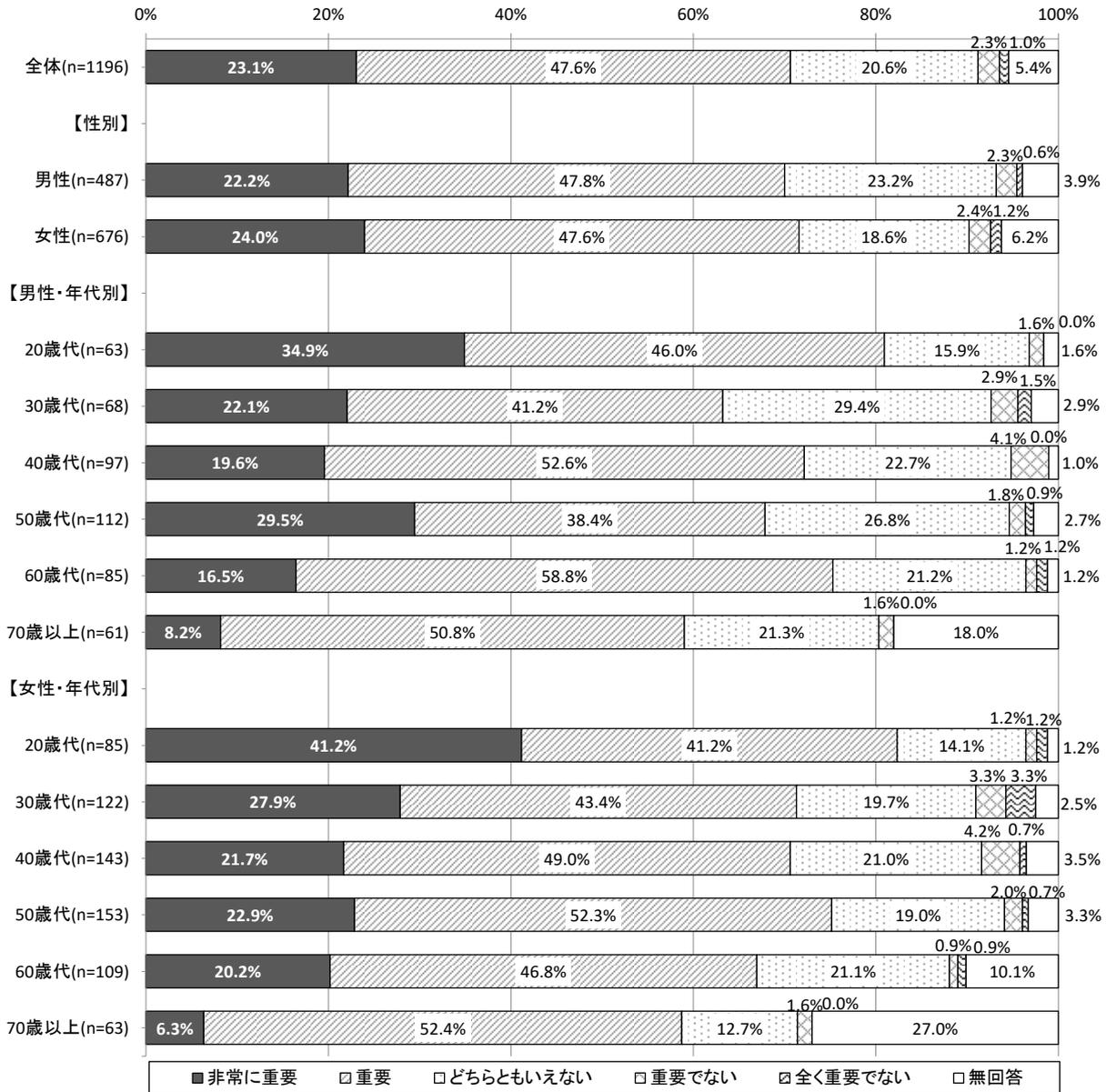
### ◆ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業を表彰する【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「非常に重要」、「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、男女ともに、20歳代、30歳代での「非常に重要」という回答が他年代に比べ多くなっています。



◆求職者や学生にワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の情報を提供する  
【性別、性・年代別クロス】

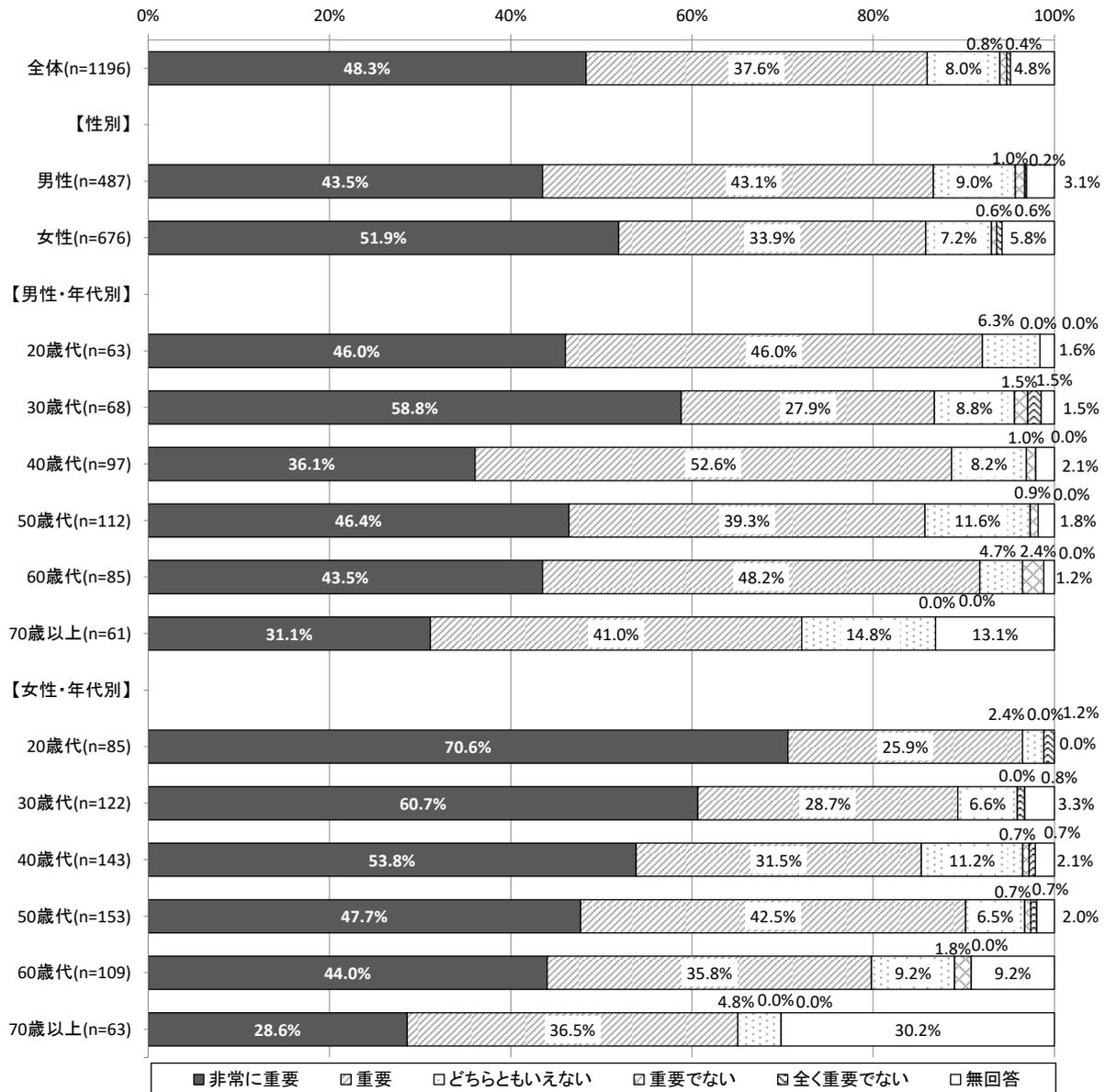
性別では、大きな差はありませんでした。  
性・年代別では、男女ともに 20 歳代では「非常に重要」、「重要」という回答が最も多くなっています。



### ◆保育所など子育て支援を拡充する【性別，性・年代別クロス】

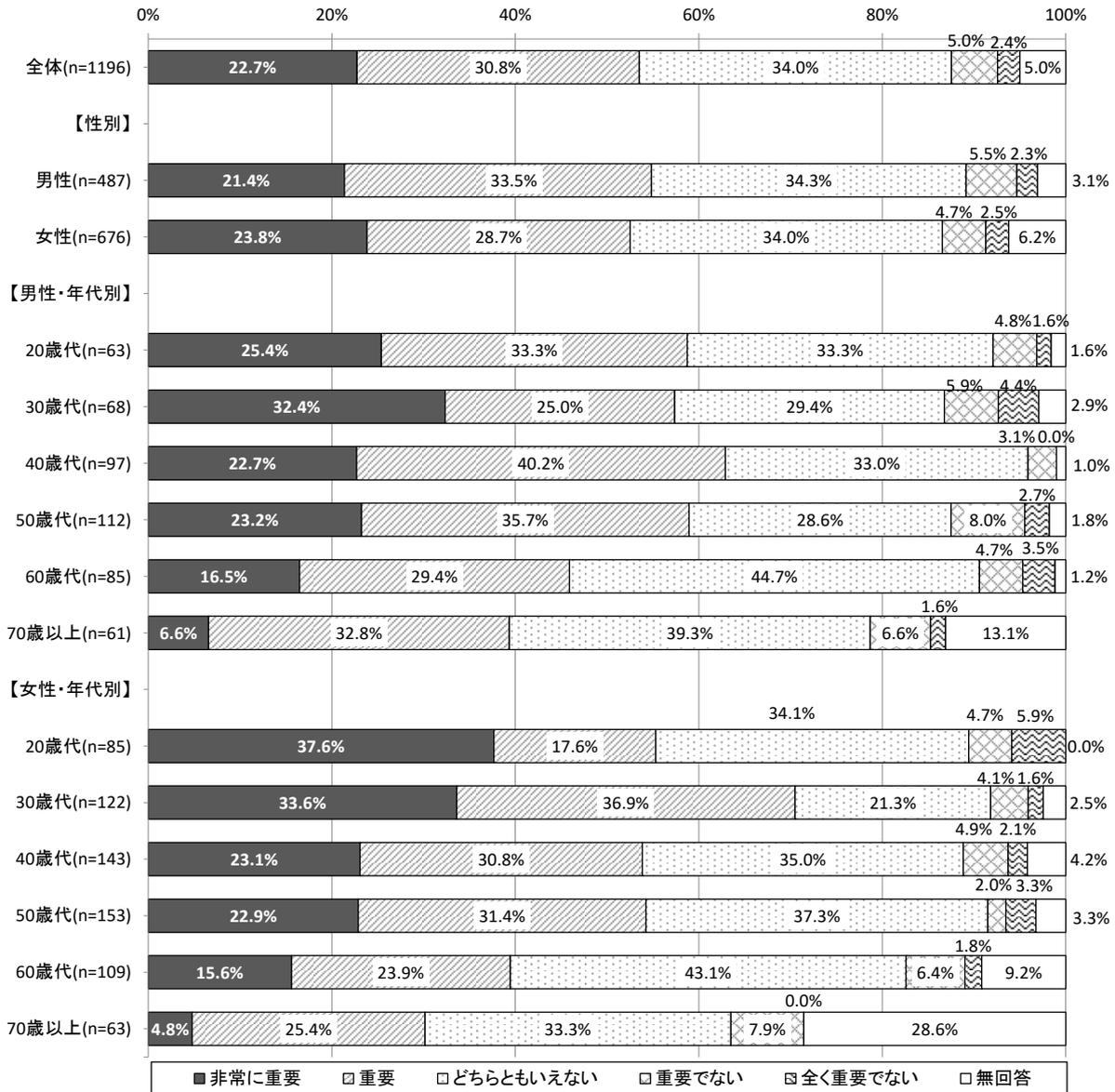
性別では，男性よりも女性の方が「非常に重要」という回答が多くなっています。

性・年代別では，女性は年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。また，男性は30歳代で約6割の方が「非常に重要」と回答しています。



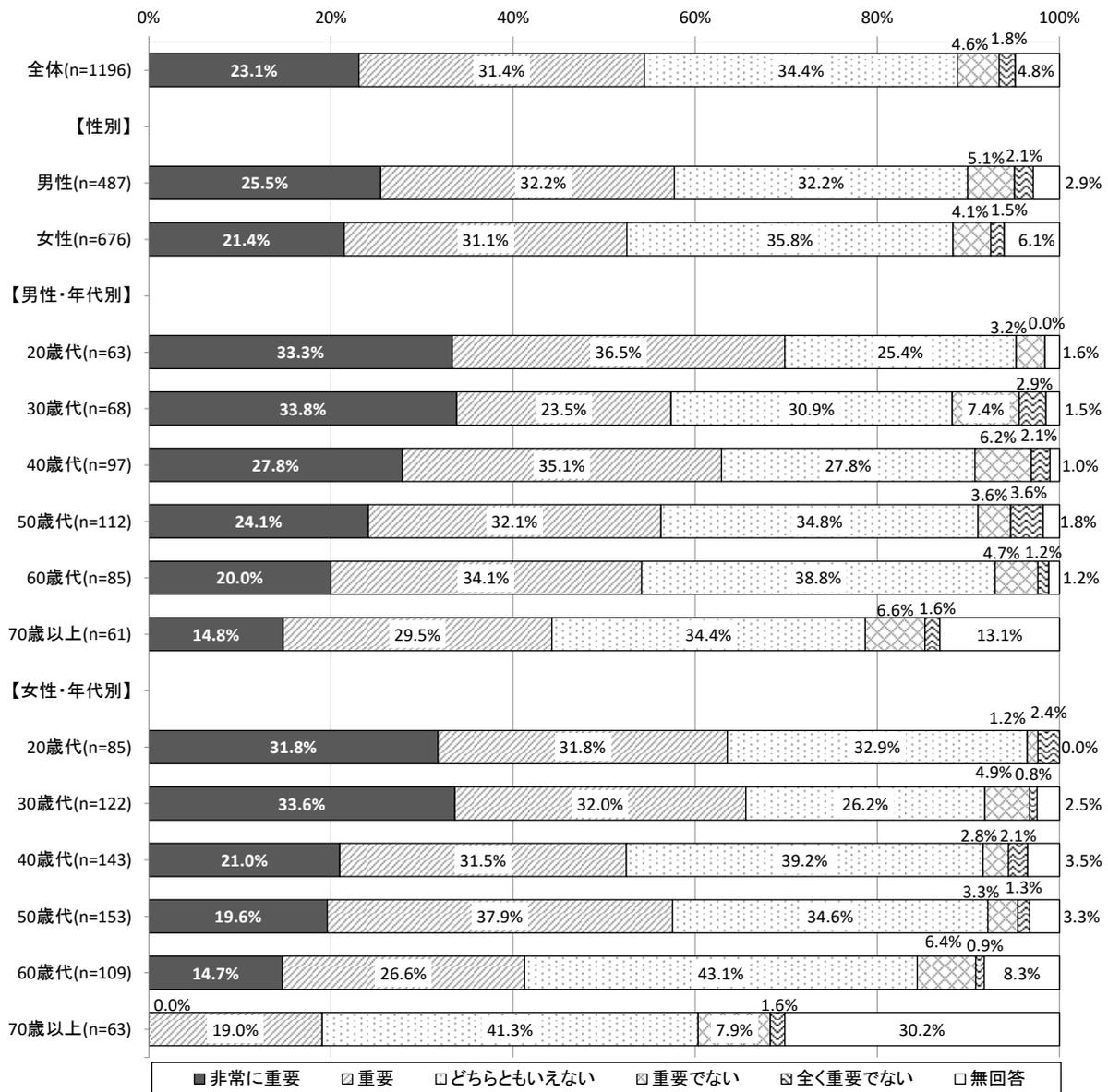
### ◆ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「非常に重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、女性は年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。



### ◆ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性よりも男性の方が「非常に重要」，「重要」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では，男女ともに，年代が上がるに従い「非常に重要」という回答が少なくなっています。

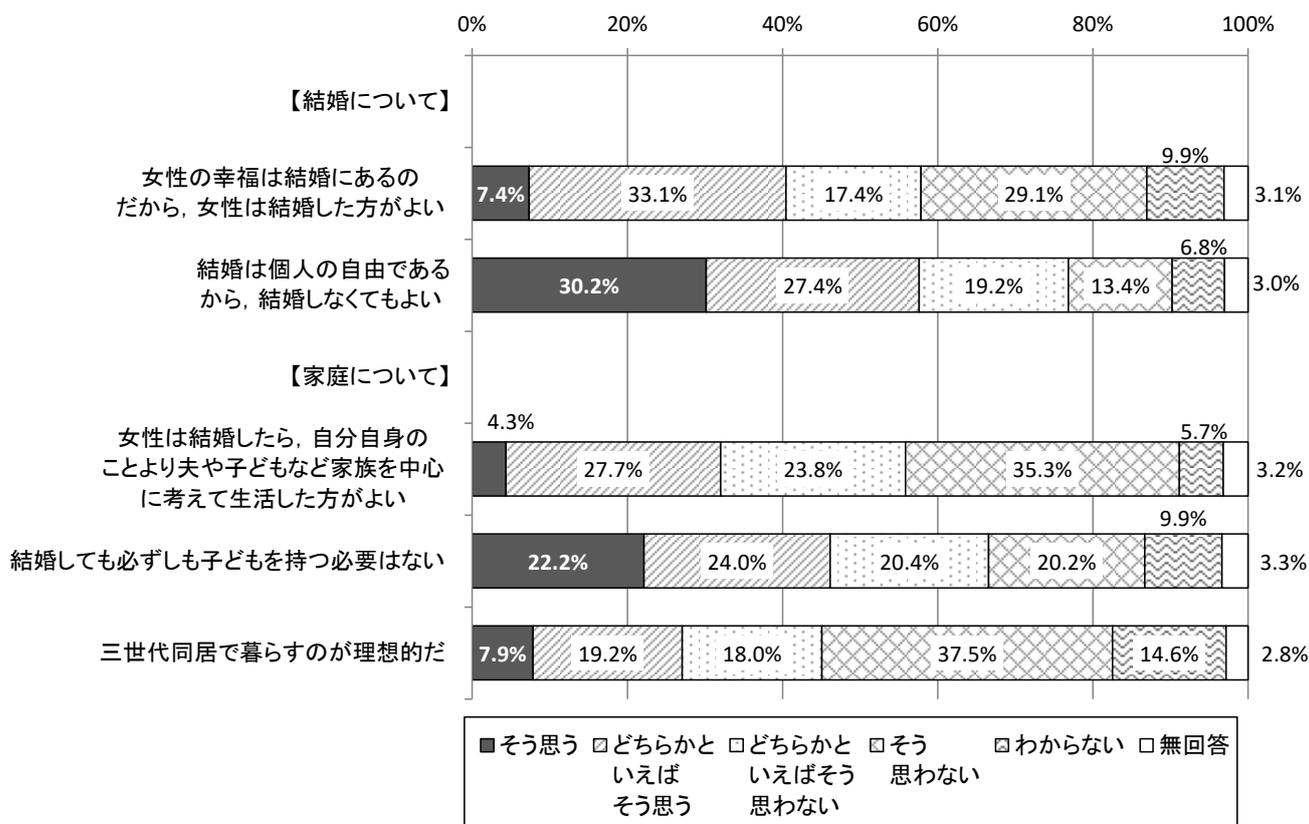


## (5) 結婚・家庭生活について

問9 結婚や家庭, 離婚についての考え方について, あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

結婚や家庭, 離婚についての考え方について, 「そう思う」, 「どちらかといえばそう思う」という回答は, 「結婚は個人の自由であるから, 結婚しなくてもよい」が57.6%で最も多く, 次いで「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が46.2%となっています。

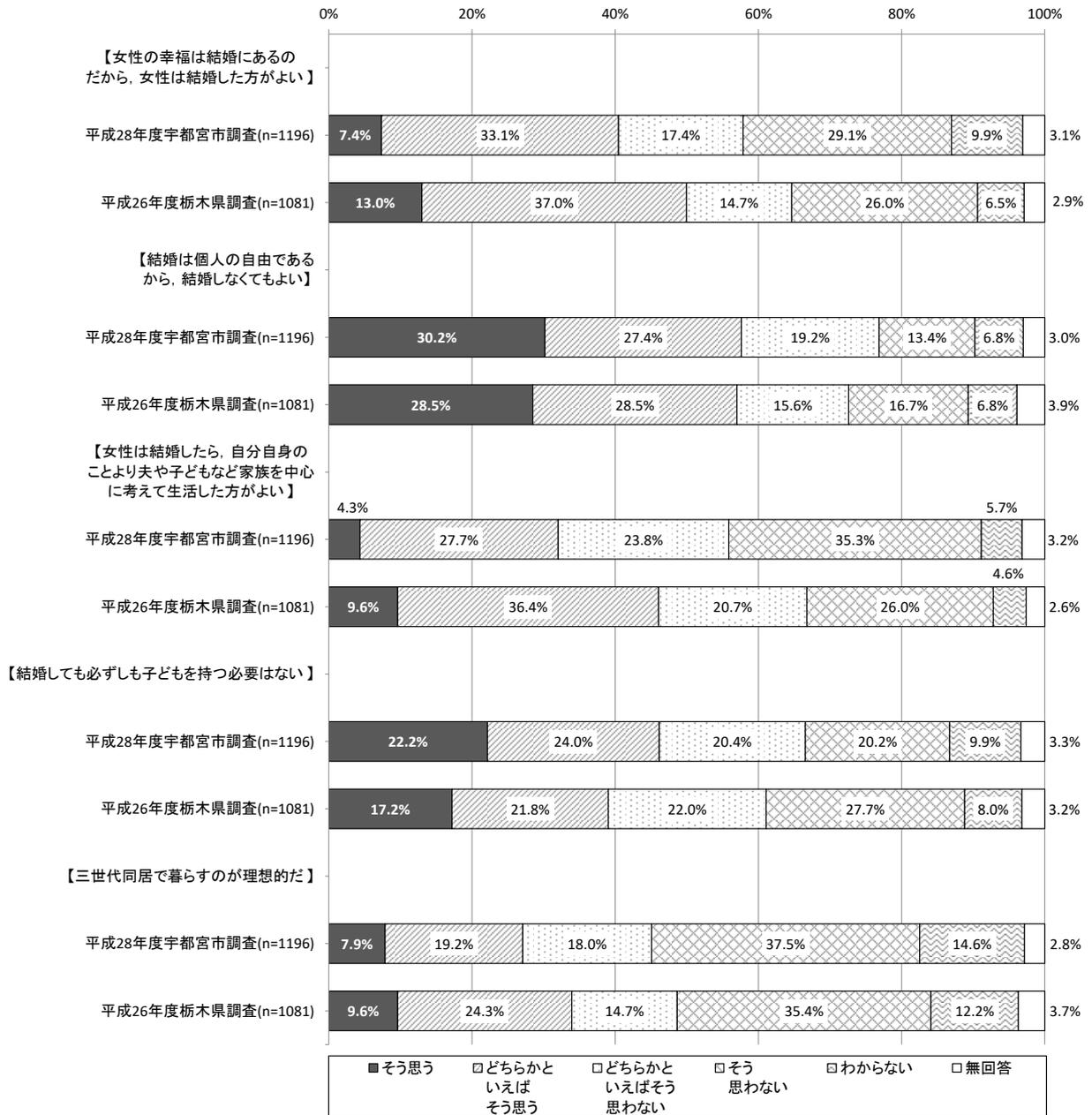
また, 「そう思わない」, 「どちらかといえばそう思わない」という回答は, 「女性は結婚したら, 自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」が59.1%で最も多く, 次いで「三世代同居で暮らすのが理想的だ」が55.5%となっています。



項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	合計
<b>【結婚について】</b>							
女性の幸福は結婚にあるのだから, 女性は結婚した方がよい	88	396	208	348	119	37	1,196
結婚は個人の自由であるから, 結婚しなくてもよい	361	328	230	160	81	36	1,196
<b>【家庭について】</b>							
女性は結婚したら, 自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	52	331	285	422	68	38	1,196
結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	265	287	244	241	119	40	1,196
三世代同居で暮らすのが理想的だ	94	230	215	448	175	34	1,196

## 【宇都宮市，栃木県調査比較】

県調査と比較すると、「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」は県調査よりも「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」という回答が多くなっています。

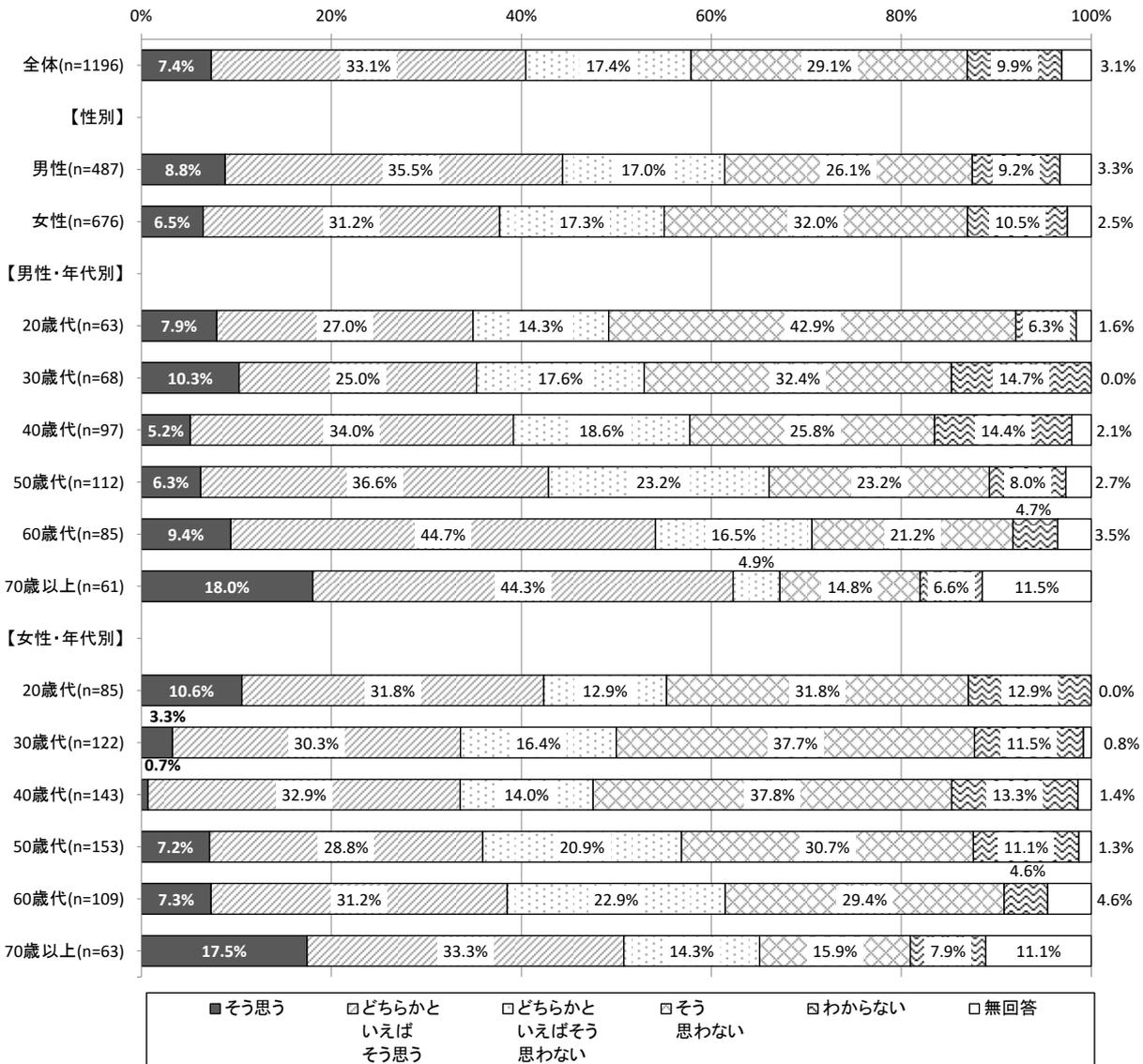


### ◆女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚した方がよい

#### 【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が多くなっています。

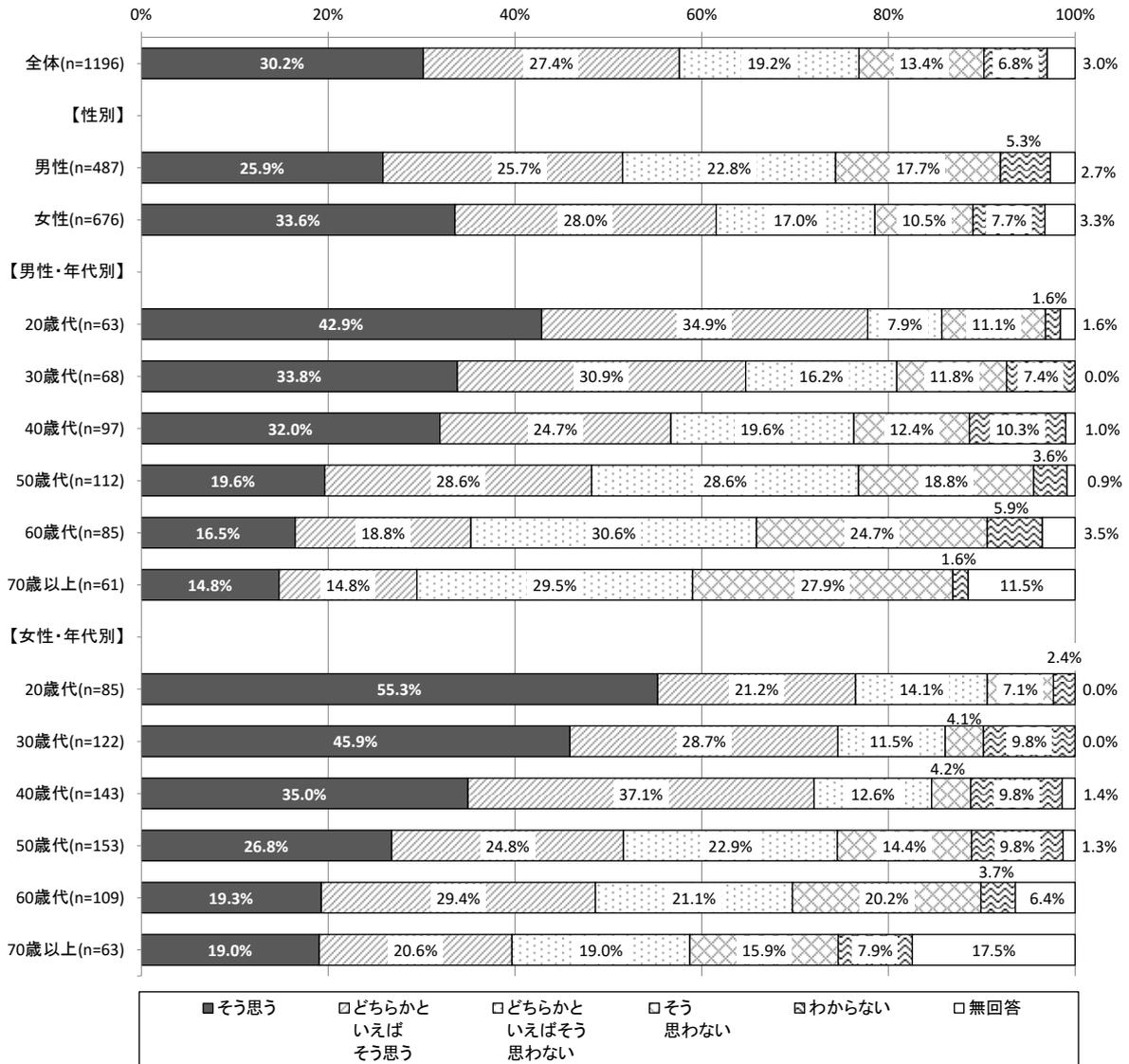
性・年代別では、男性は年代が上がるに従い「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が多くなっています。女性は30歳代以上で、年代が上がるに従い回答が多くなっています。



### ◆結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が多くなっています。

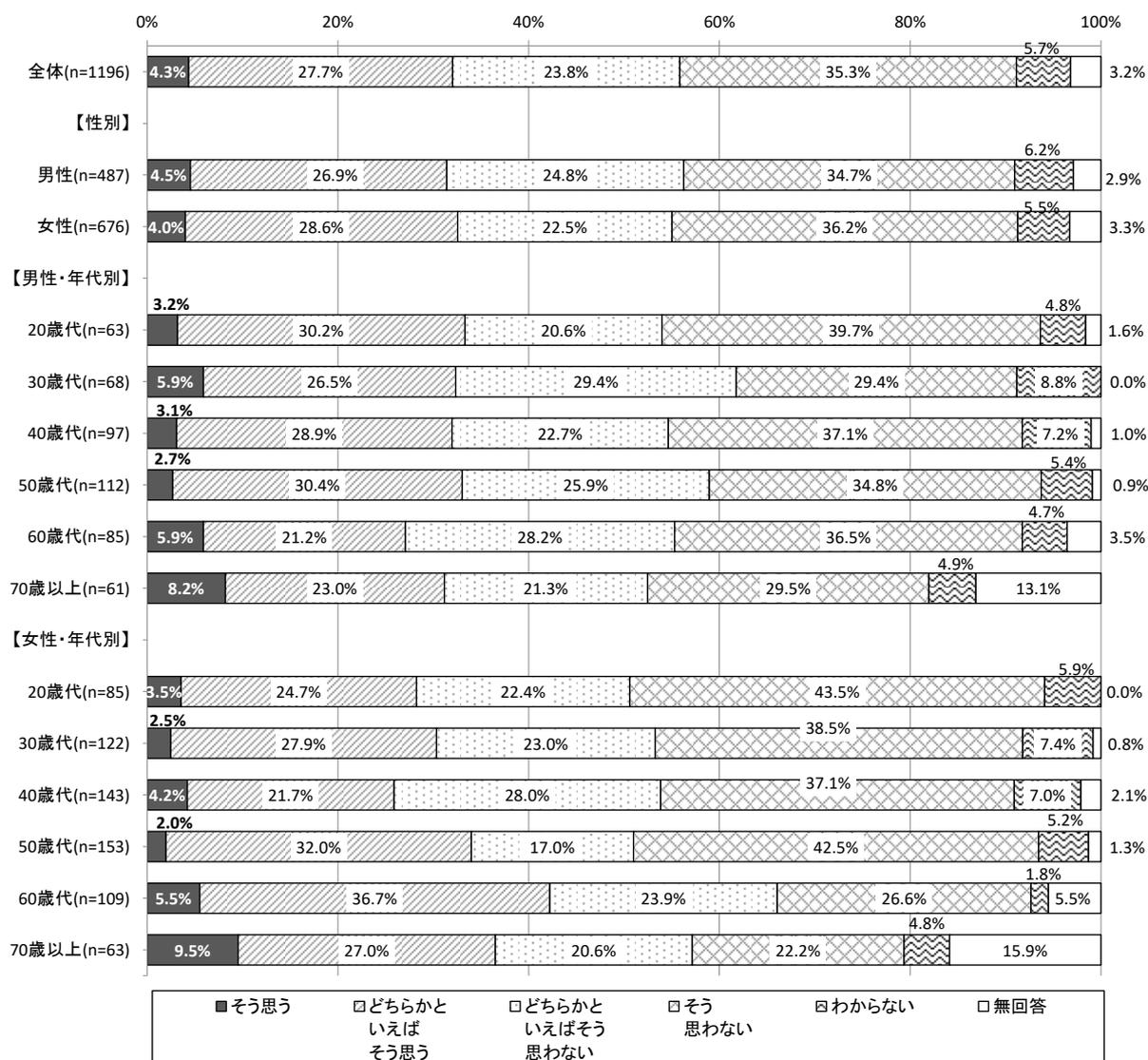
性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が少なくなっています。



### ◆女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「そう思う」という回答が多くなっています。

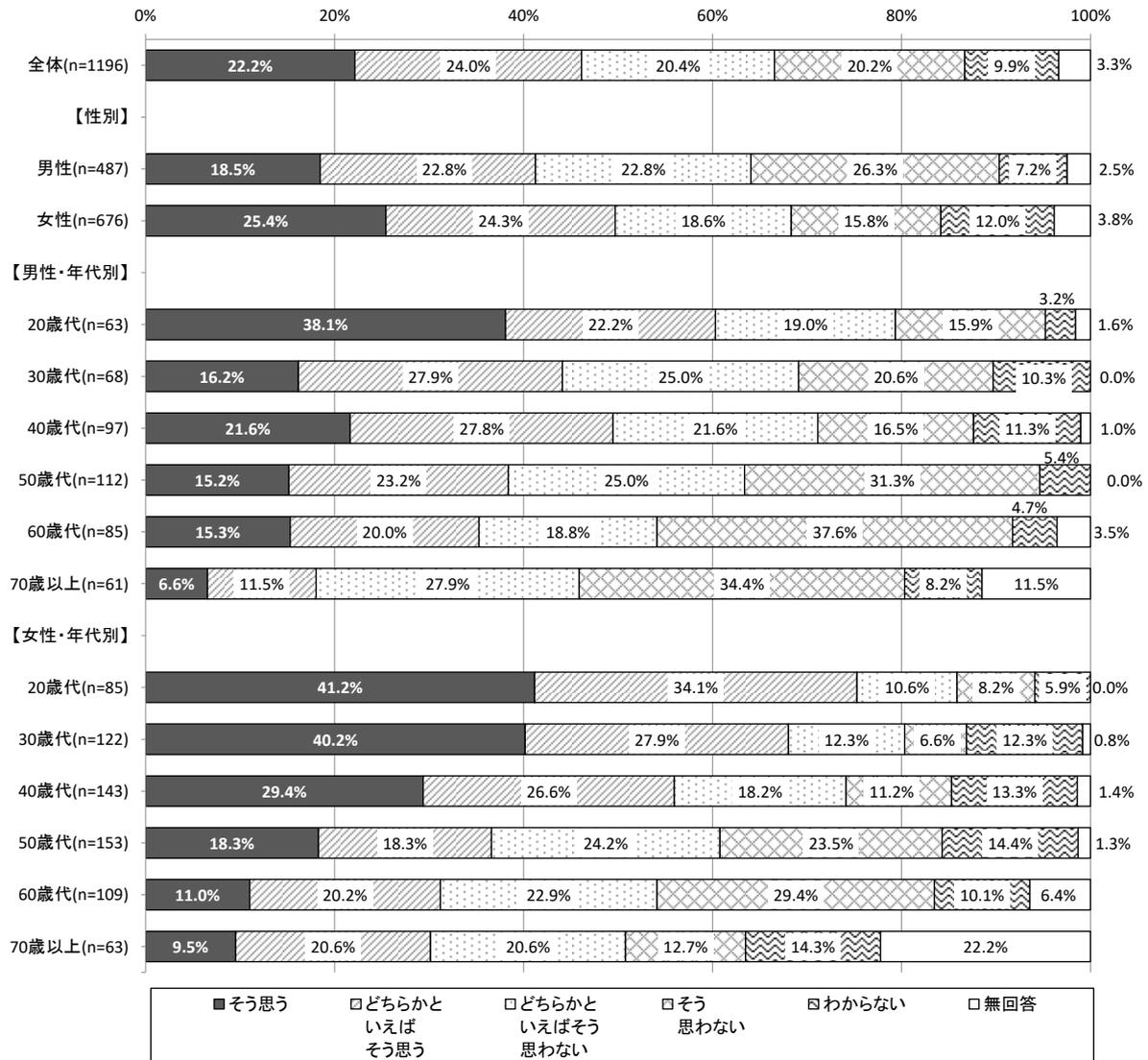
性・年代別では、男女ともに70歳代以上で「そう思う」という回答が、他年代に比べ最も多くなっています。



### ◆結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない【性別，性・年代別クロス】

性別では，男性よりも女性の方が「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」という回答が多くなっています。

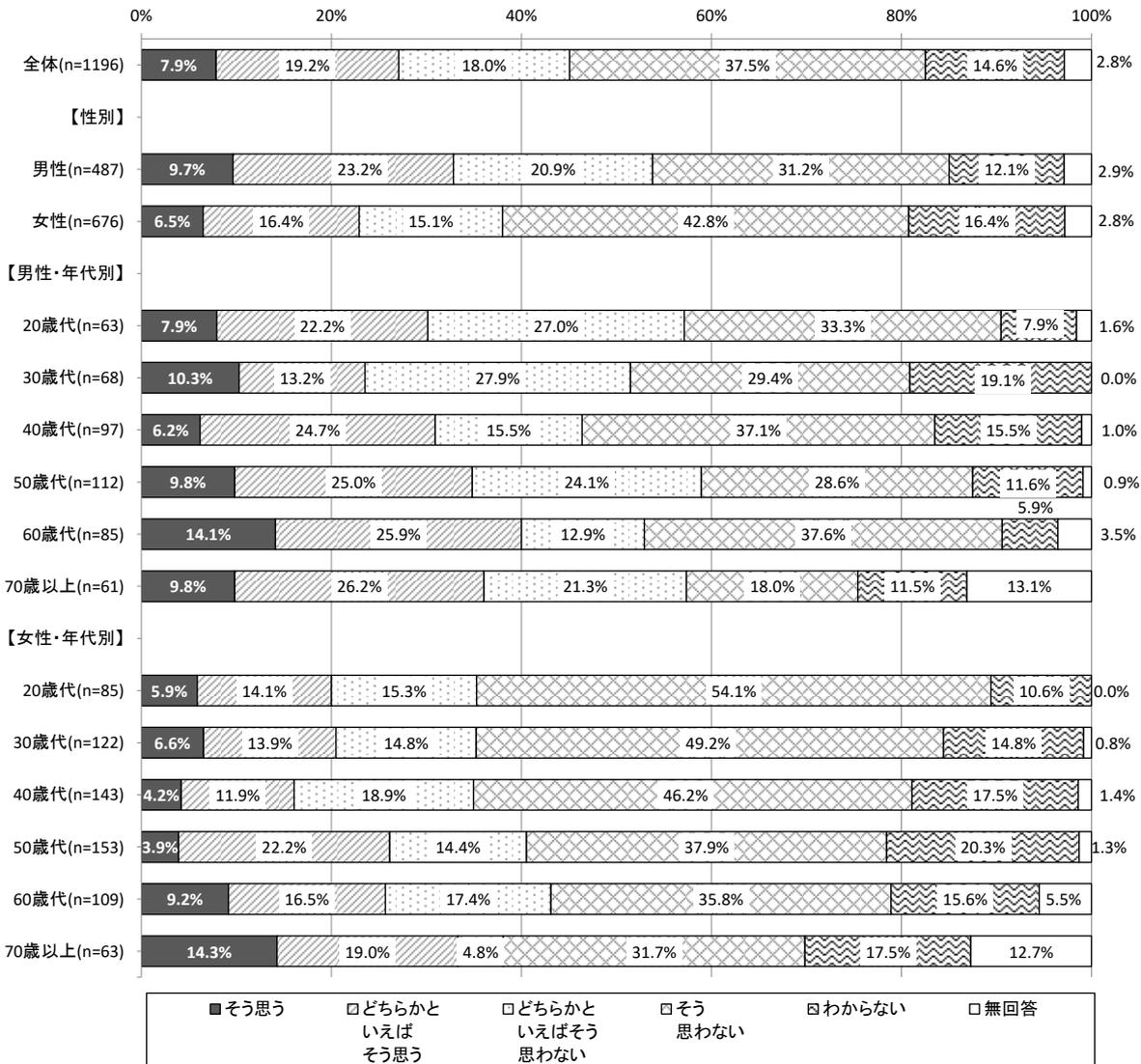
性・年代別では，男女ともに，年代が上がるに従い「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」という回答が少なくなっています。



### ◆三世代同居で暮らすのが理想的だ【性別，性・年代別クロス】

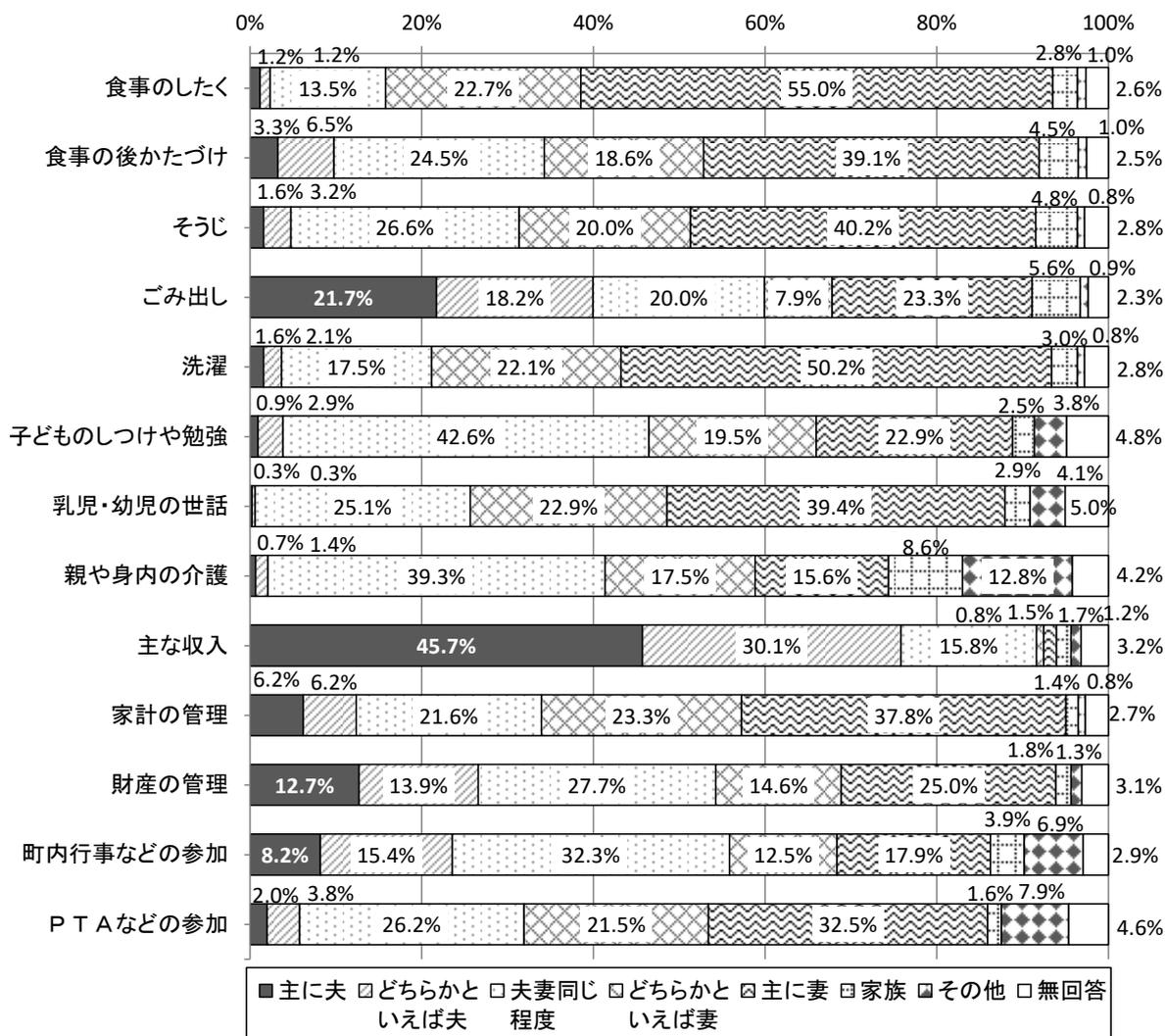
性別では，女性よりも男性の方が「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」という回答が多くなっています。

性・年代別では，男性の50歳代，女性の70歳以上で「そう思う」という回答が，他年代に比べ多くなっています。



問10 あなたは、次の①～⑦について、夫婦の間でどのように分担していますか。配偶者のいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。  
(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

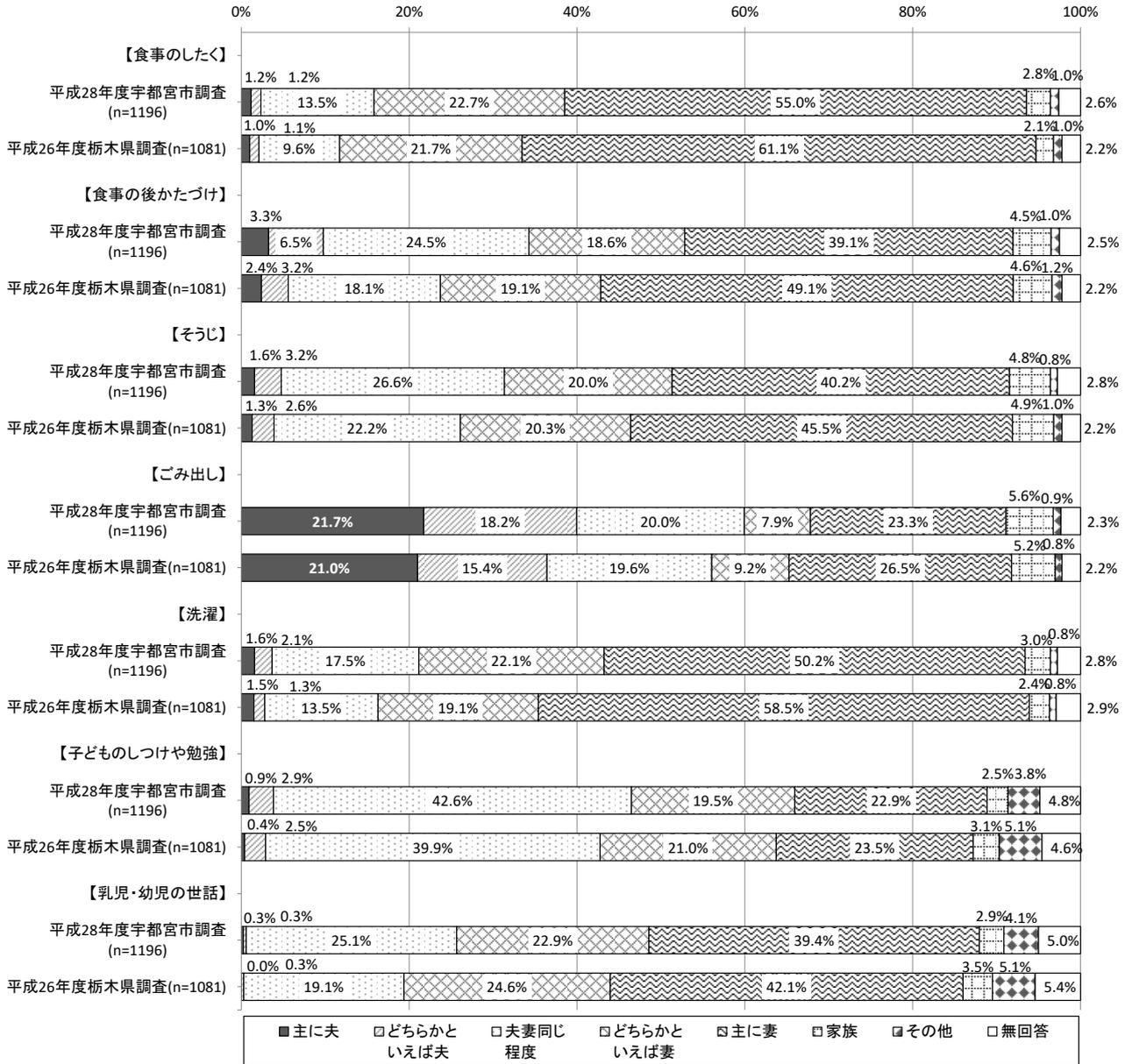
夫婦の間の分担については、「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答で多いのは「主な収入」で75.8%となっています。「夫婦同じ程度」という回答で多いのは「子どものしつけや勉強」で42.6%、「親や身内の介護」で39.3%となっています。また、「主に妻」、「どちらかといえば妻」という回答で多いのは「食事のしたく」で77.7%、「洗濯」で72.3%となっています。

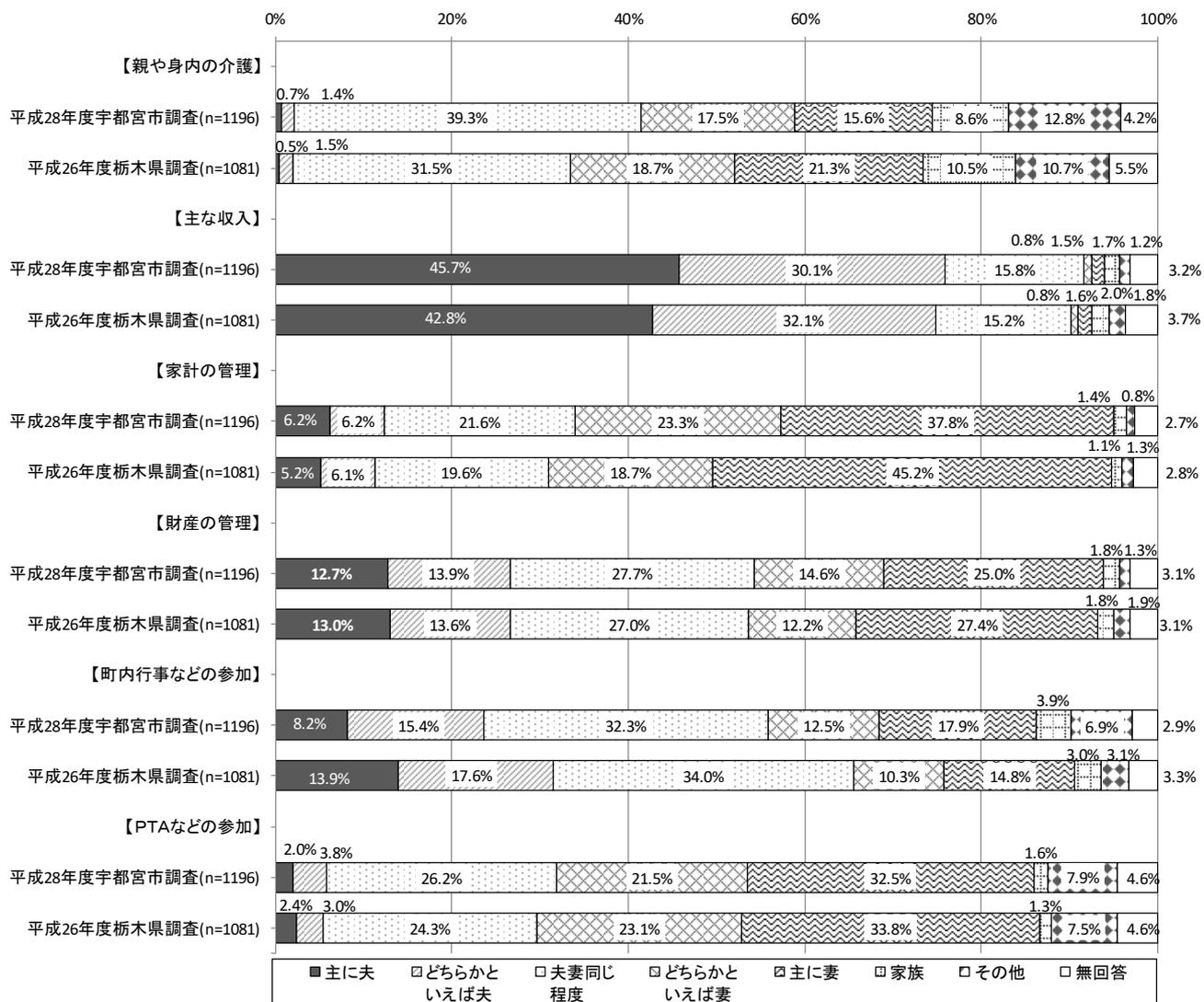


項目	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦同じ程度	どちらかといえば妻	主に妻	家族	その他	無回答	合計
食事のしたく	14	14	161	272	658	34	12	31	1,196
食事の後かたづけ	39	78	293	222	468	54	12	30	1,196
そうじ	19	38	318	239	481	58	10	33	1,196
ごみ出し	260	218	239	94	279	67	11	28	1,196
洗濯	19	25	209	264	600	36	10	33	1,196
子どものしつけや勉強	11	35	510	233	274	30	45	58	1,196
乳児・幼児の世話	3	4	300	274	471	35	49	60	1,196
親や身内の介護	8	17	470	209	186	103	153	50	1,196
主な収入	547	360	189	10	18	20	14	38	1,196
家計の管理	74	74	258	279	452	17	10	32	1,196
財産の管理	152	166	331	175	299	21	15	37	1,196
町内行事などの参加	98	184	386	150	214	47	82	35	1,196
P T Aなどの参加	24	45	313	257	389	19	94	55	1,196

### 【宇都宮市，栃木県調査比較】

県調査と比較すると、「主に夫」，「どちらかといえば夫」という回答が，特に「食事の後片付け」，「ごみ出し」で多くなっています。「主に夫」，「どちらかといえば夫」という回答が，県調査より特に少ないのは，「町内行事などの参加」となっています。



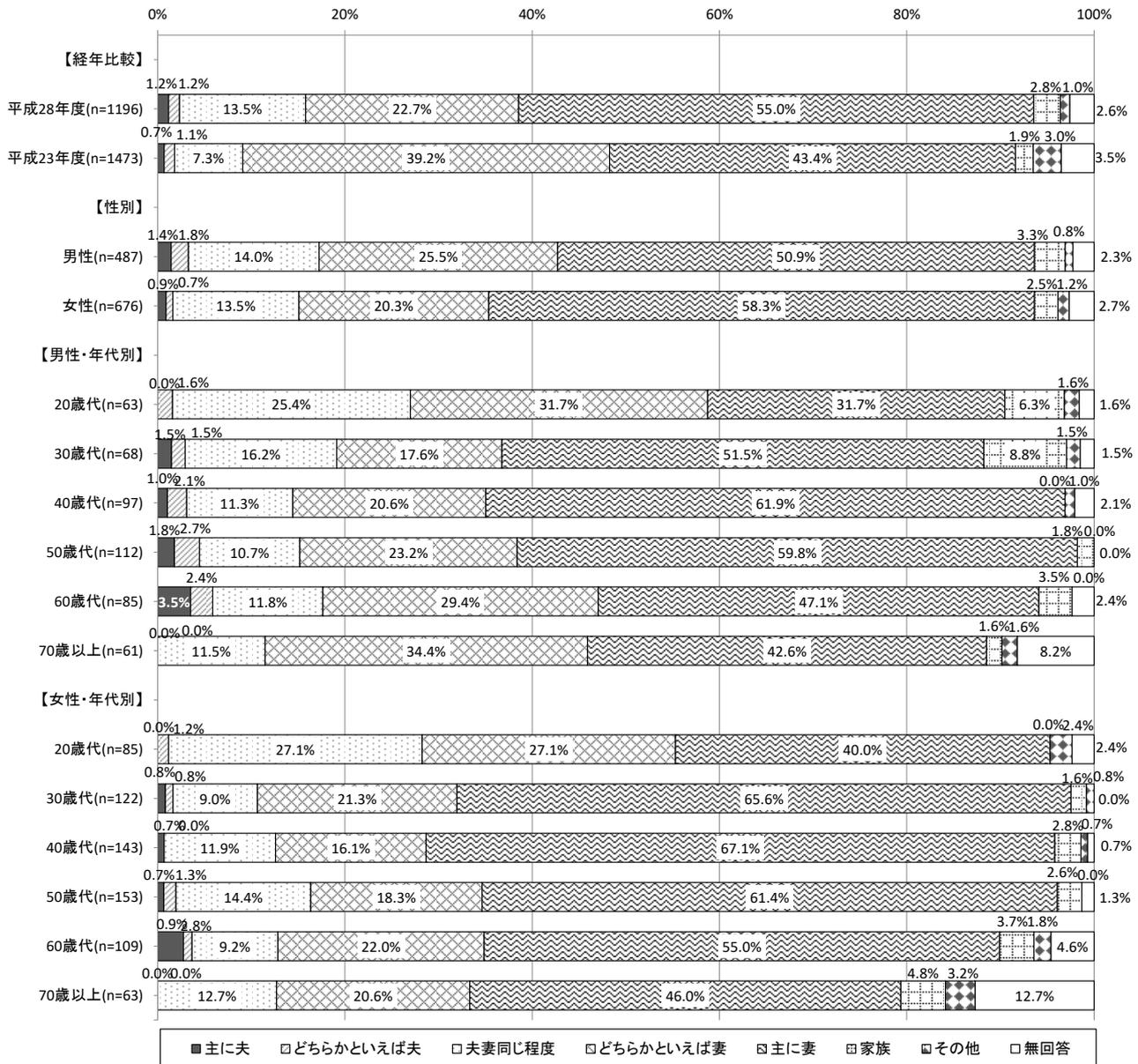


### ◆食事のしたく【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「夫婦同じ程度」という回答が増加し、「どちらかといえば妻」、「主に妻」という回答が少なくなっています。

性別では、女性よりも男性の方が「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答が多くなっていますが、男性に比べ女性では、「主に妻」という回答が多くなっています。

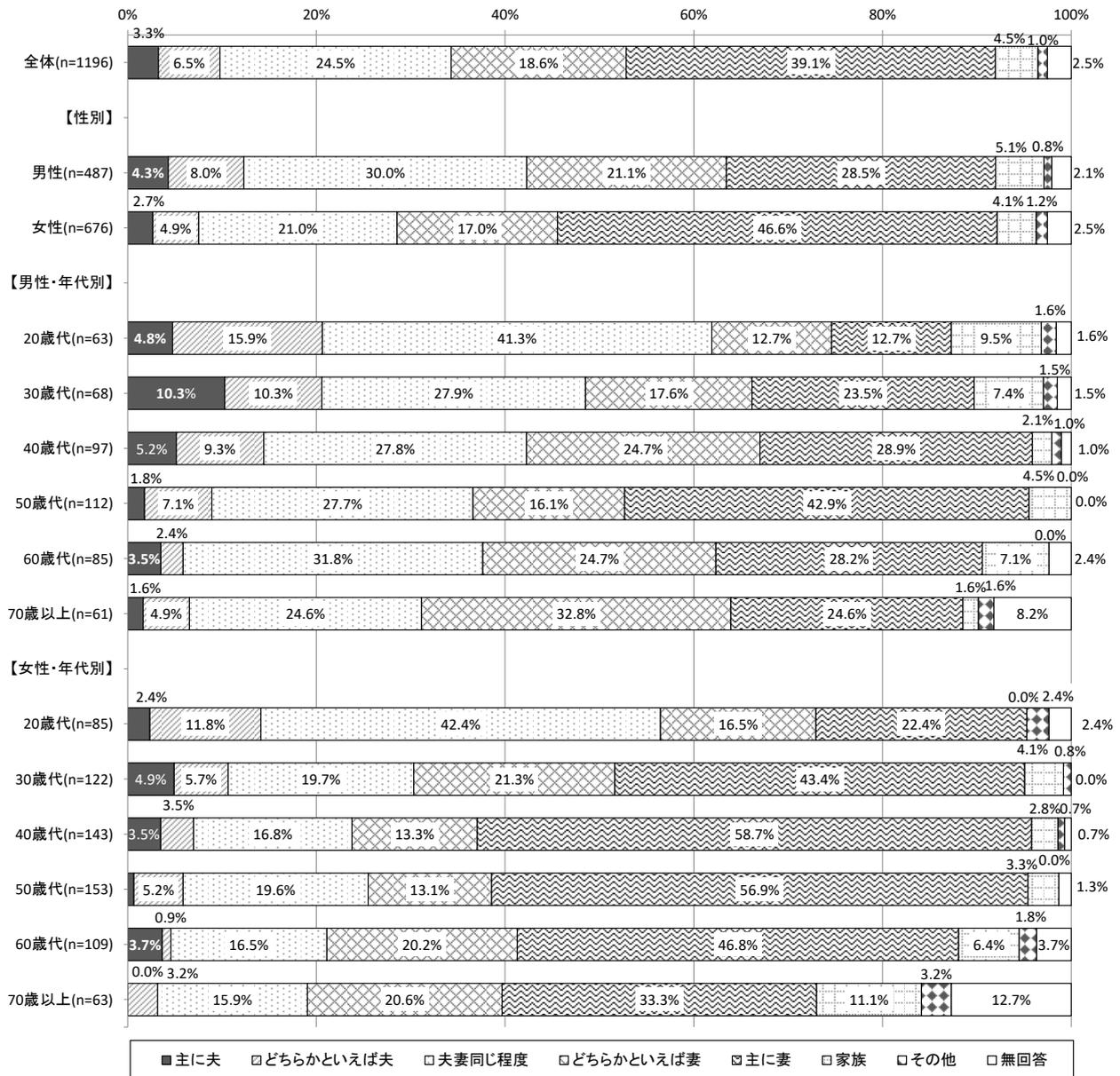
性・年代別では、男女ともに、年代が下がるに従い、「夫婦同じ程度」という回答が多くなっています。



### ◆食事の後かたづけ【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答が多くなっていますが、男性に比べ女性では、「主に妻」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男女ともに、年代が上がるに従い「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答が少なくなり、「どちらかといえば妻」、「主に妻」という回答が多くなっています。

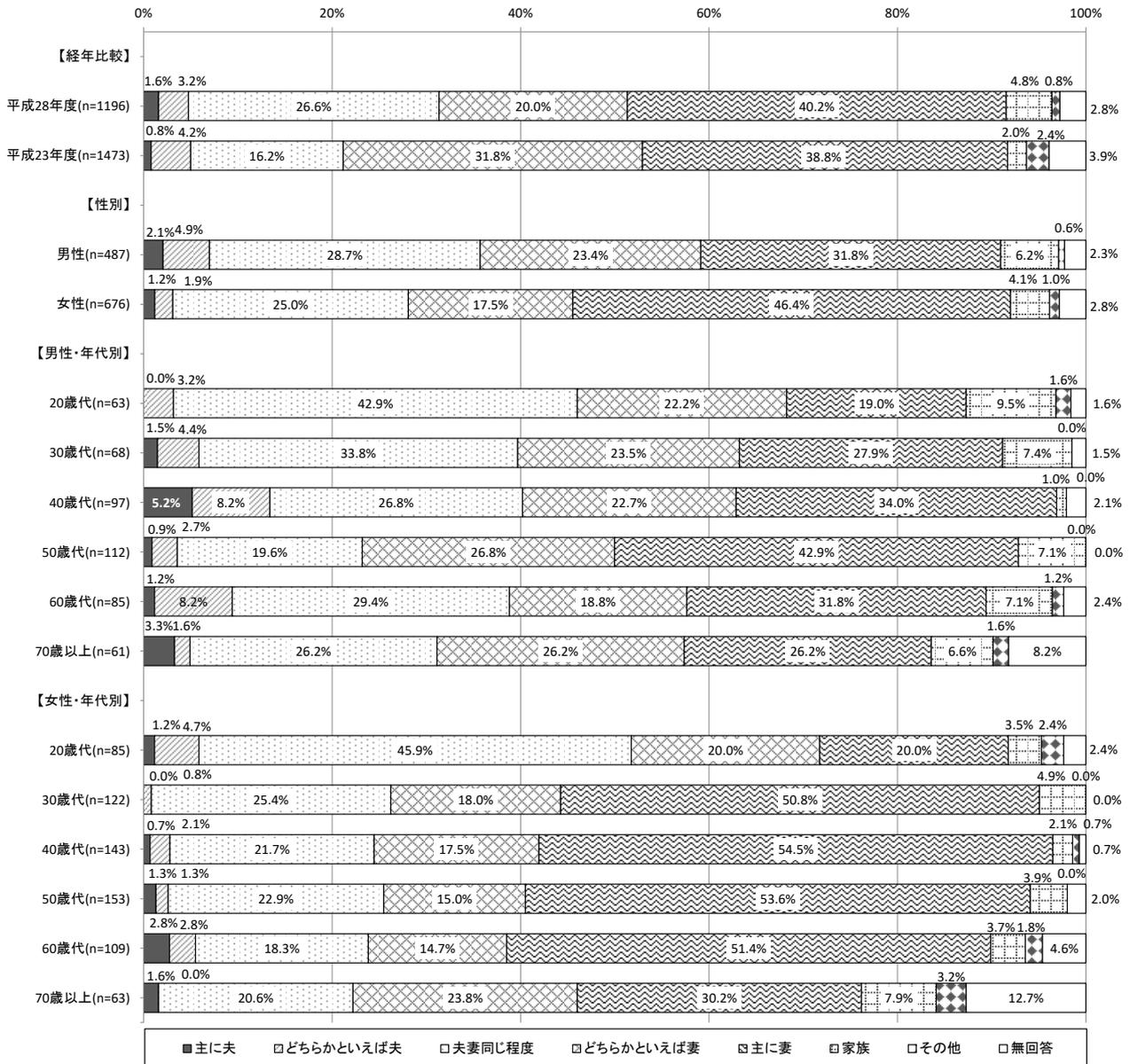


### ◆そうじ【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「夫婦同じ程度」という回答が多く、「どちらかといえば妻」という回答が減少しています。

性別では、女性よりも男性の方が「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答が多くなっていますが、男性に比べ女性では、「主に妻」という回答が多くなっています。

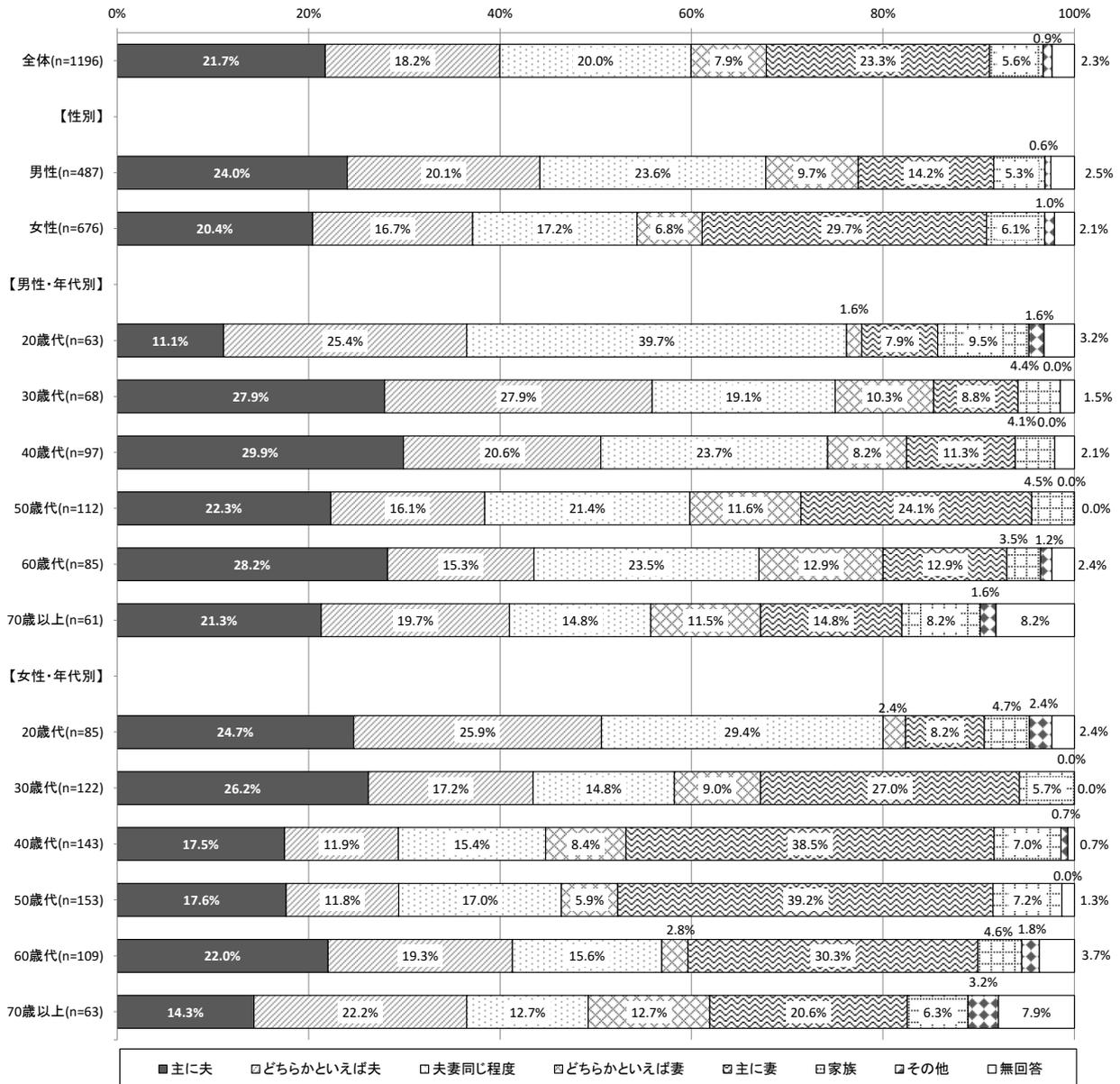
性・年代別では、男女ともに、20歳代では「夫婦同じ程度」という回答が4割を超えています。



### ◆ごみ出し【性別，性・年代別クロス】

性別では，女性よりも男性の方が「主に夫」，「どちらかといえば夫」という回答が多くなっていますが，男性に比べ女性では，「主に妻」という回答が多くなっています。

性・年代別では，男性は，30歳代，40歳代で「主に夫」，「どちらかといえば夫」という回答が他年代に比べ多くなっています。女性は40歳代～60歳代では「主に妻」という回答が多くなっています。

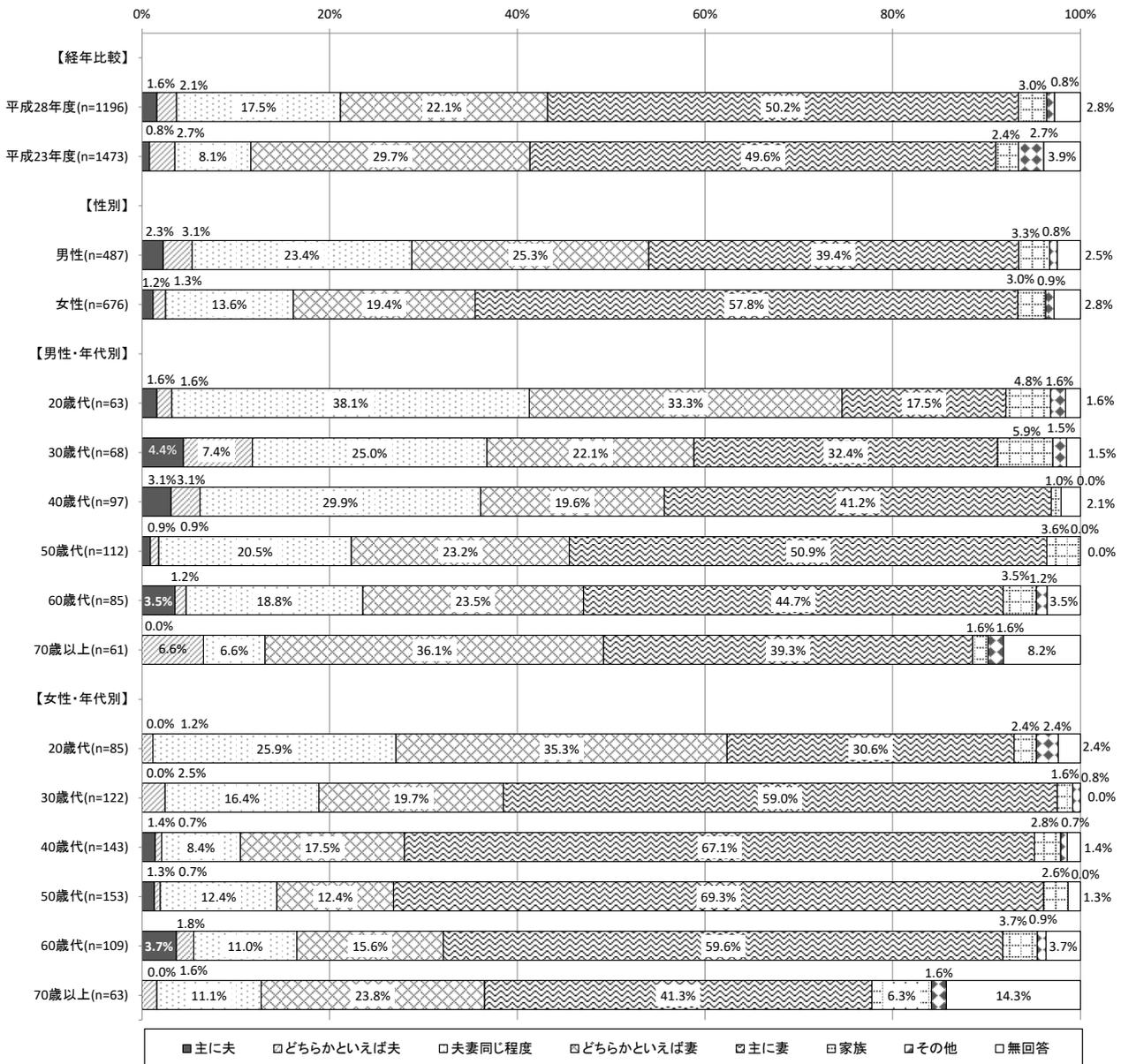


### ◆洗濯【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「夫婦同じ程度」という回答が多く、「どちらかといえば妻」という回答が減少しています。

性別では、男性に比べ女性では、「主に妻」という回答が多くなっています。

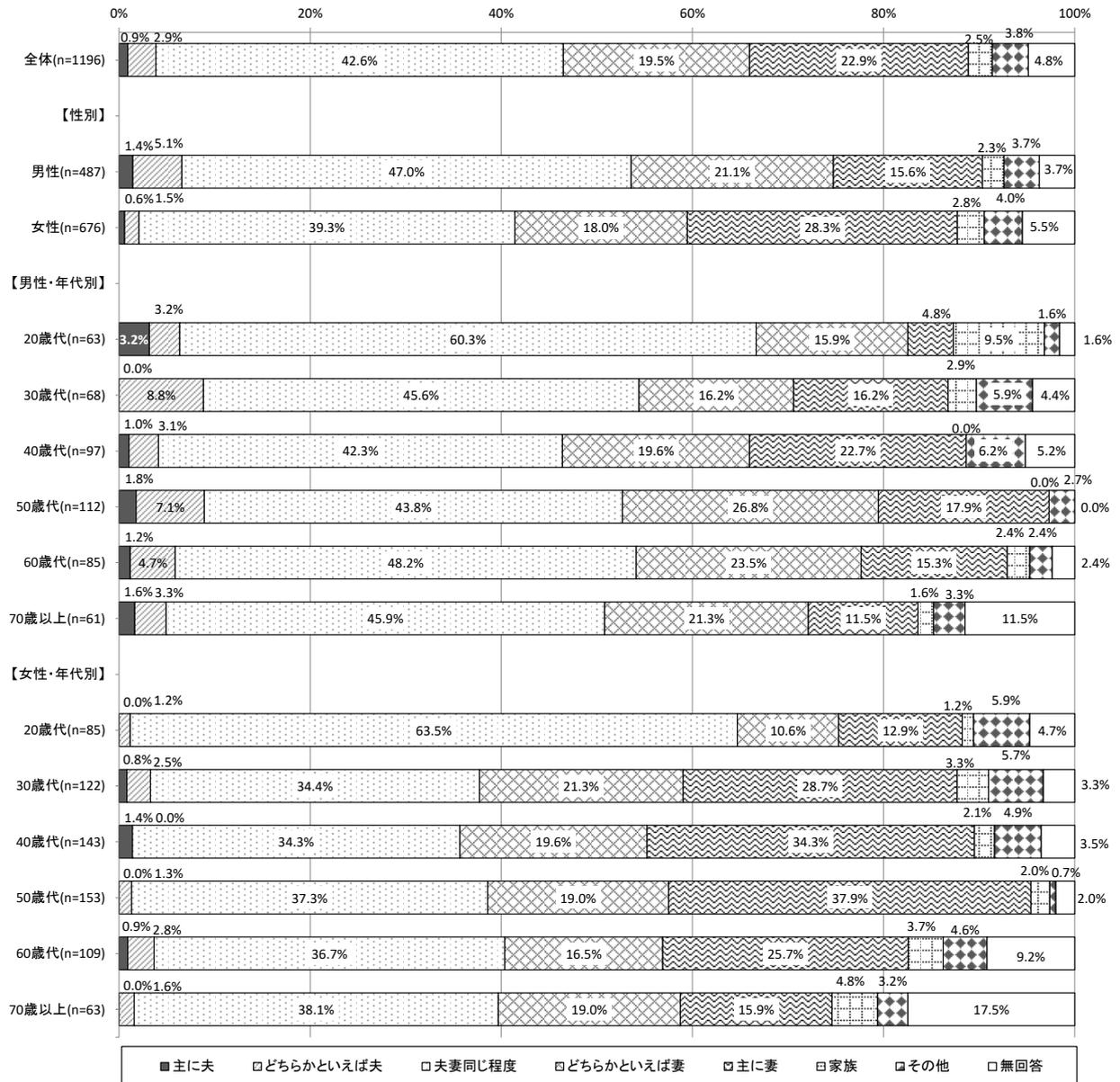
性・年代別では、男女ともに、20歳代では「夫婦同じ程度」という回答が他年代に比べ多くなっています。



### ◆子どものしつけや勉強【性別、性・年代別クロス】

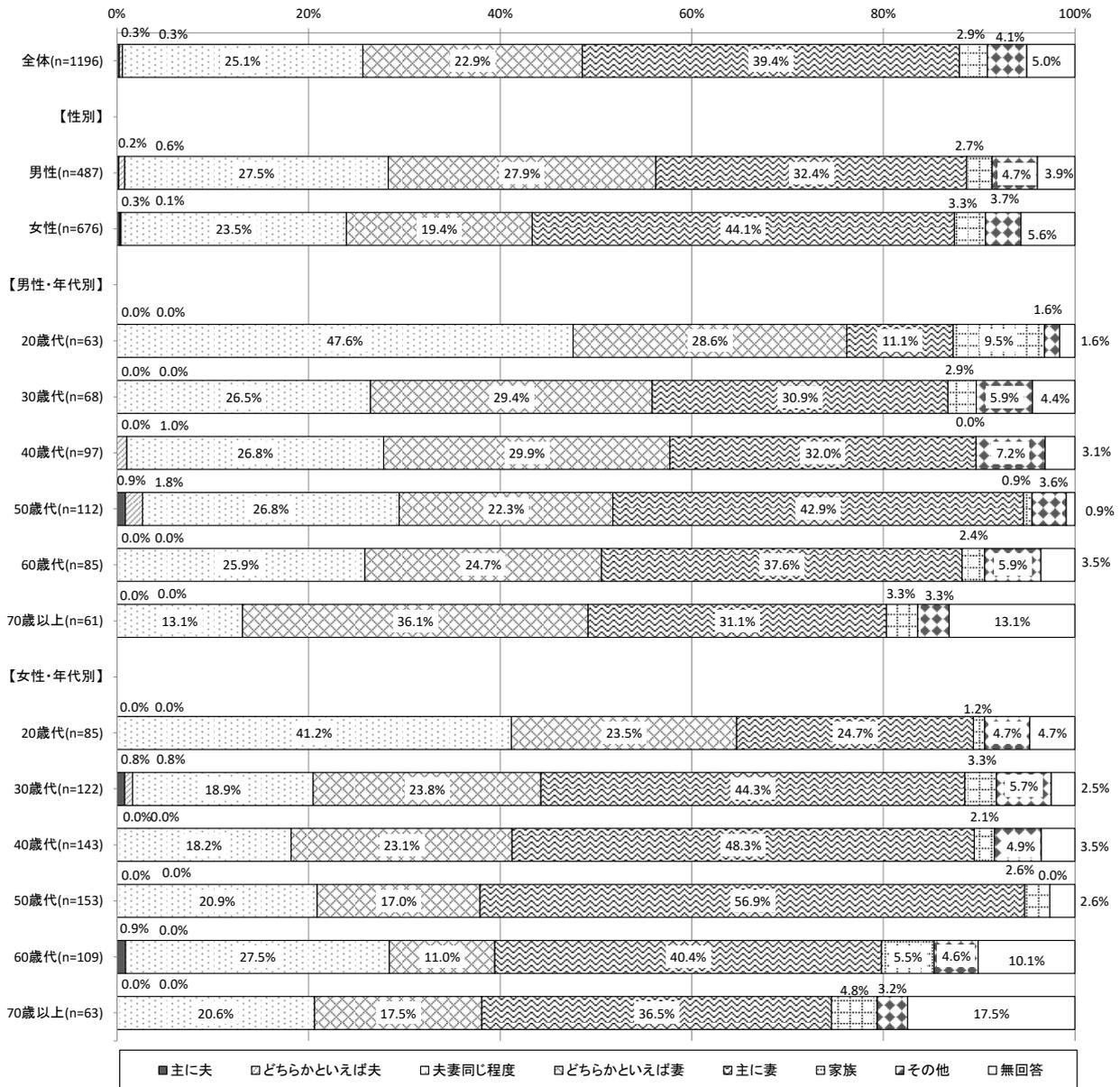
性別では、女性よりも男性の方が「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答が多くなっていますが、男性に比べ女性では、「主に妻」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男性は、30歳代、50歳代で「どちらかといえば夫」という回答が他年代に比べ多くなっています。女性は、40歳代、50歳代で「主に妻」という回答が多くなっています。



### ◆乳児・幼児の世話【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男性に比べ女性では、「主に妻」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、男女ともに、「主に妻」という回答が多くなっていますが、20歳代では、「夫婦同じ程度」という回答が4割以上と他年代に比べ多くなっています。

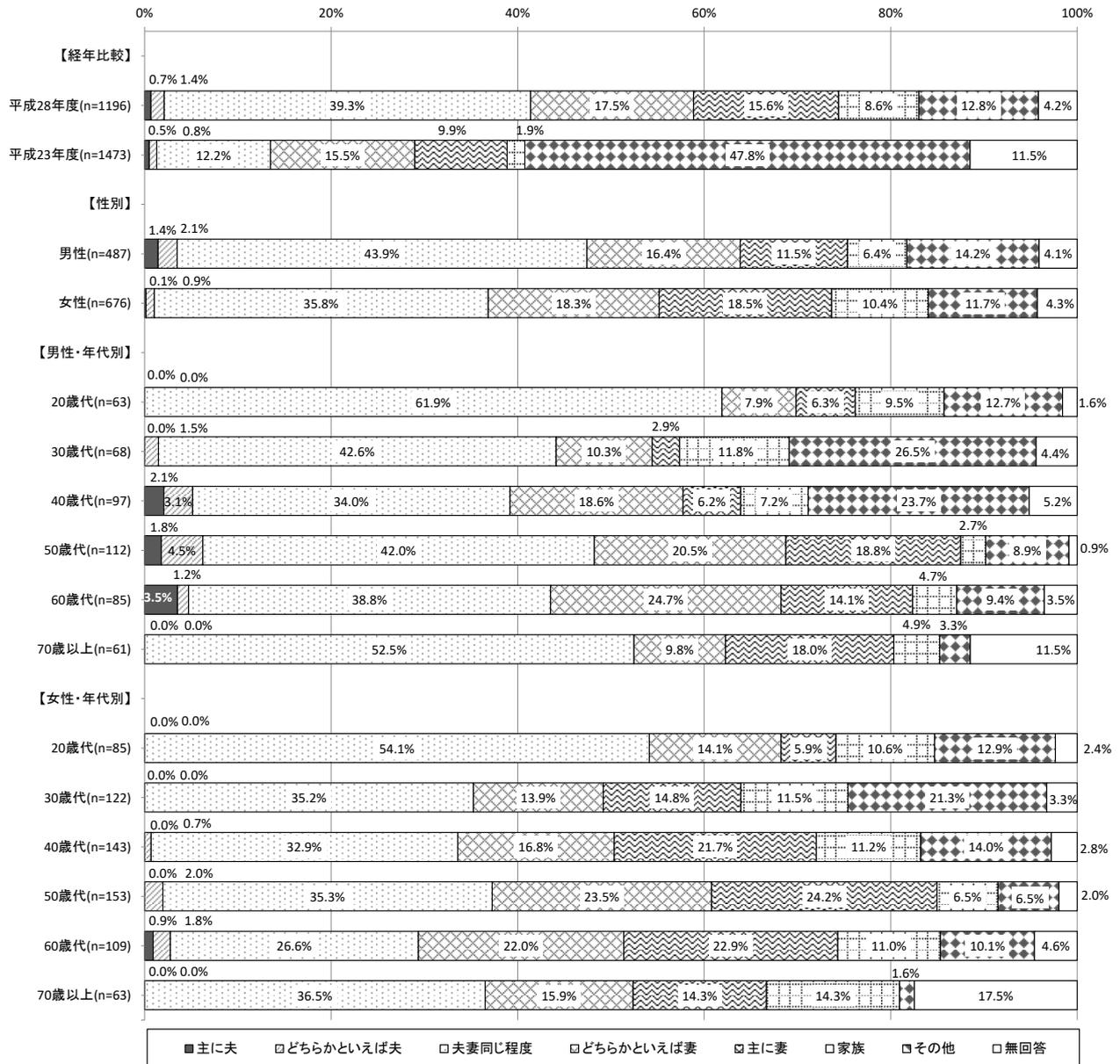


### ◆親や身内の介護【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「夫婦同じ程度」という回答が前回調査に比べ約3倍に増加しています。

性別では、女性よりも男性の方が「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答が多くなっていますが、男性に比べ女性では、「主に妻」という回答が多くなっています。

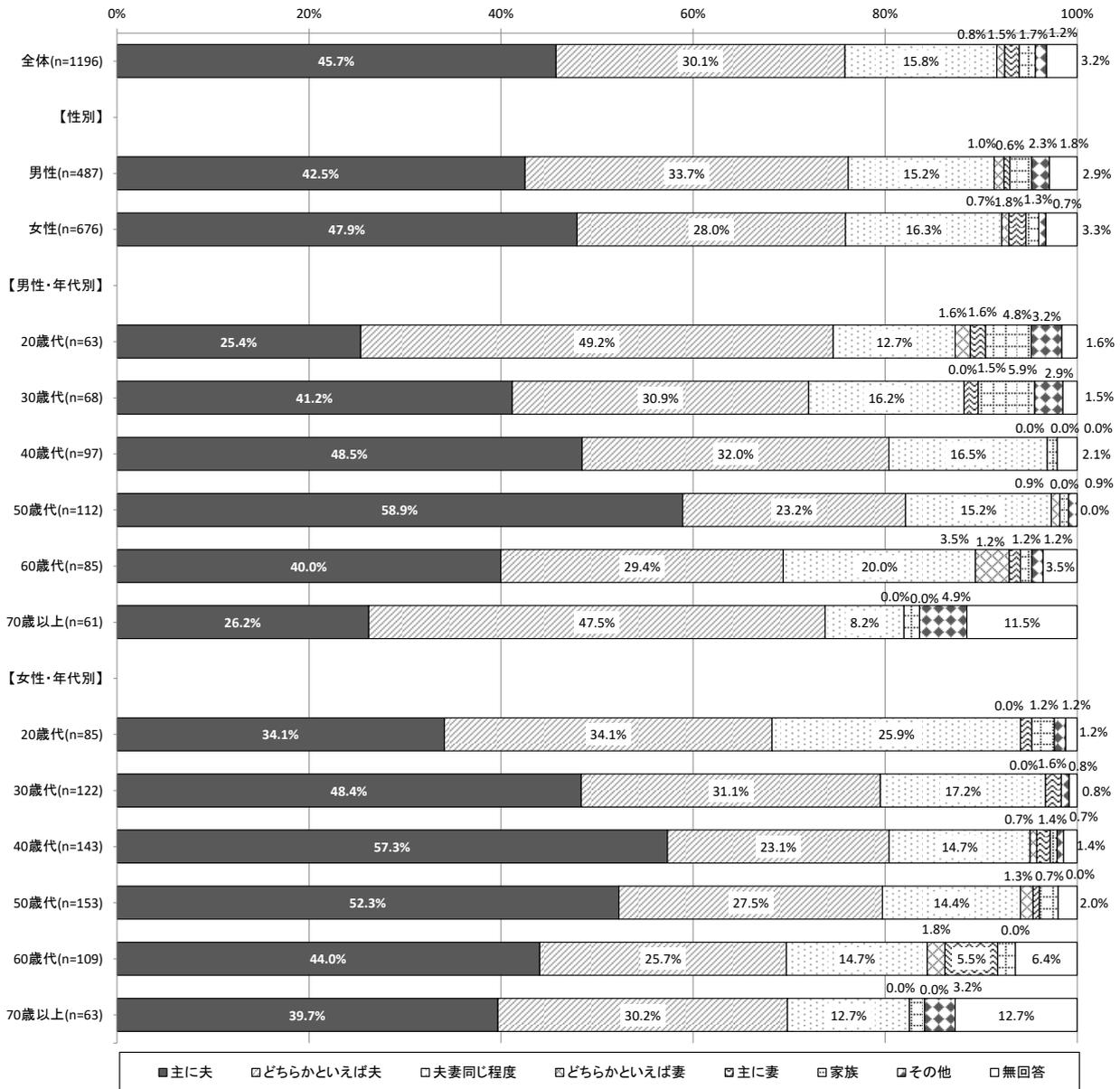
性・年代別では、男女ともに、20歳代では「夫婦同じ程度」という回答が他世代に比べ多くなっています。



### ◆主な収入【性別, 性・年代別クロス】

性別では、男女ともに、「主に夫」という回答が多くなっています。

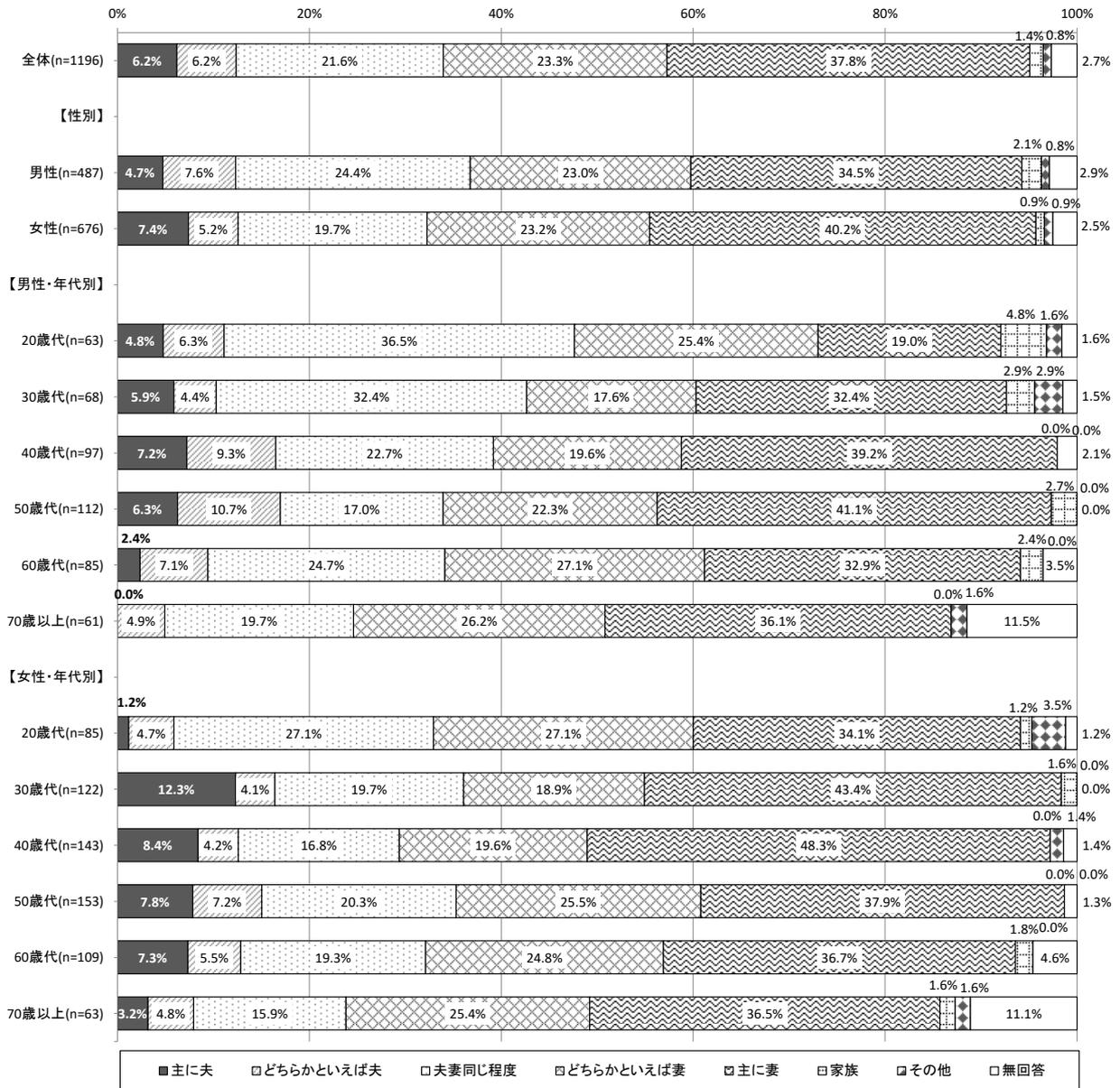
性・年代別では、女性の20歳代において「夫婦同じ程度」という回答が他年代に比べ多くなっています。



### ◆家計の管理【性別，性・年代別クロス】

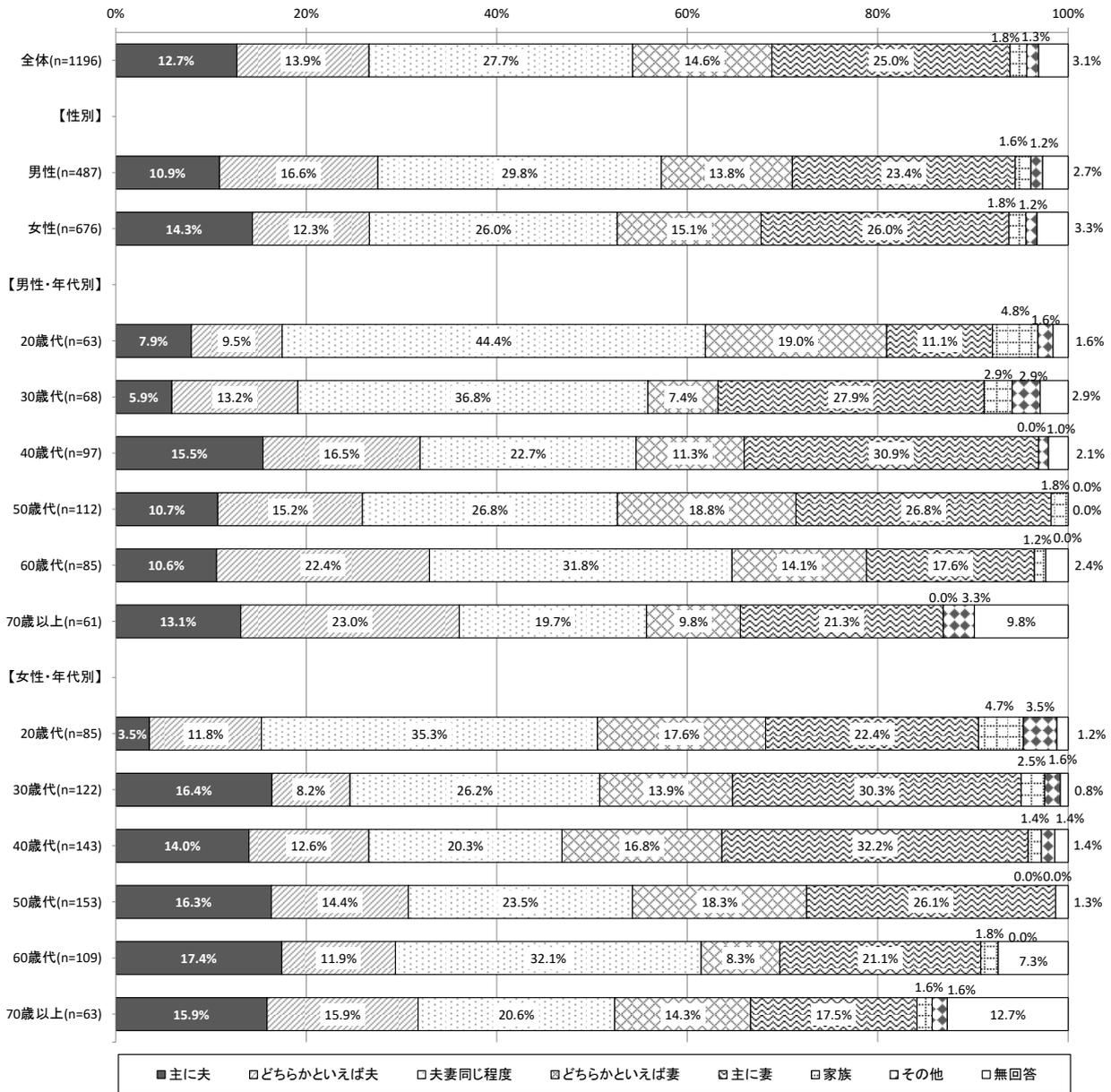
性別では，男女ともに，「どちらかといえば妻」，「主に妻」という回答が多くなっています。

性・年代別では，年代が下がるに従い，「夫婦同じ程度」という回答が多くなっています。



### ◆財産の管理【性別、性・年代別クロス】

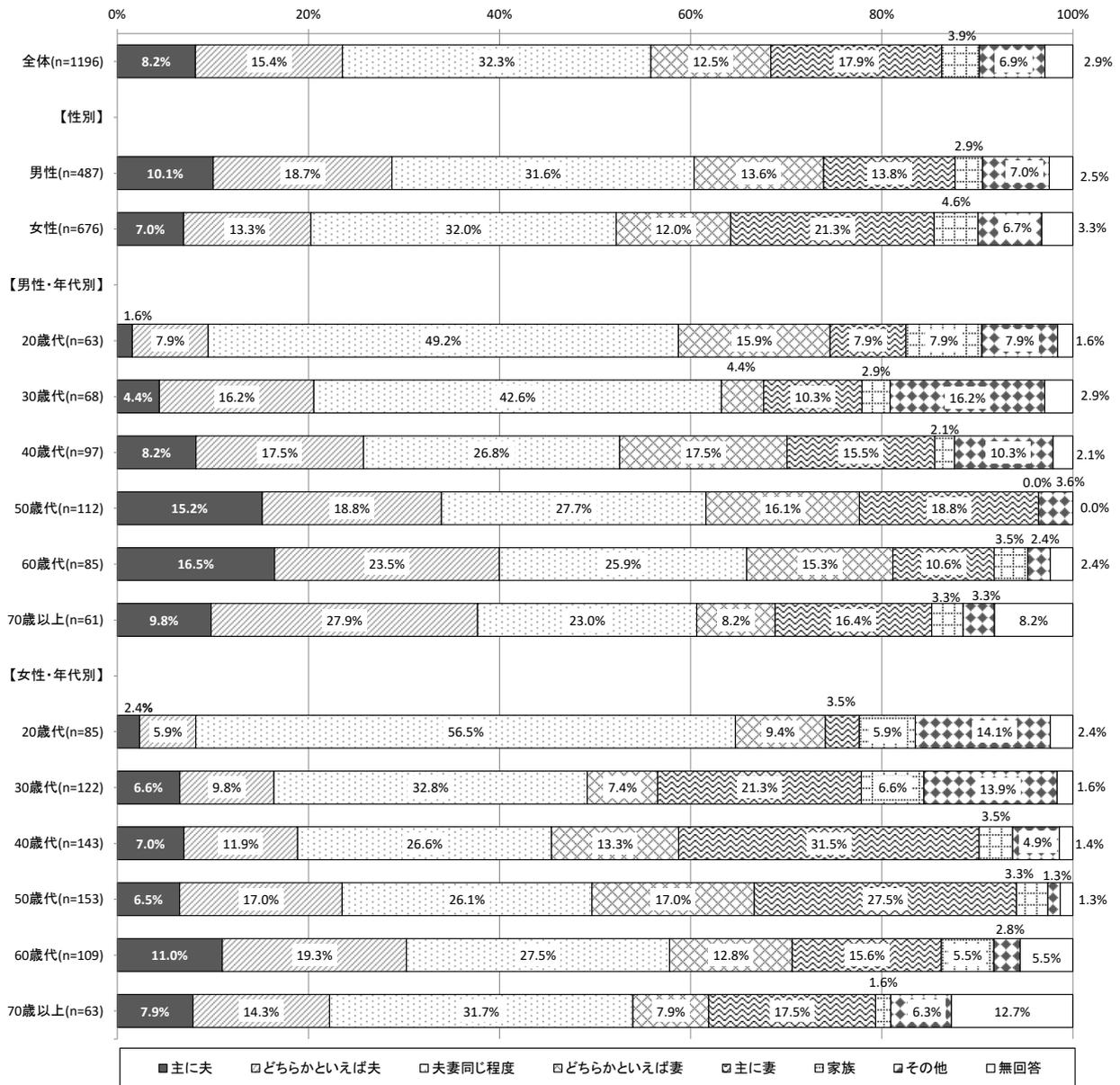
性別では、男女ともに「どちらかといえば妻」、「主に妻」という回答が多くなっています。  
 性・年代別では、年代が下がるに従い、「夫婦同じ程度」という回答が多く、特に男性の20歳代、30歳代、60歳代、女性の20歳代、60歳代で3割以上となっています。



### ◆町内行事などの参加【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性よりも男性の方が「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答が多くなっています。

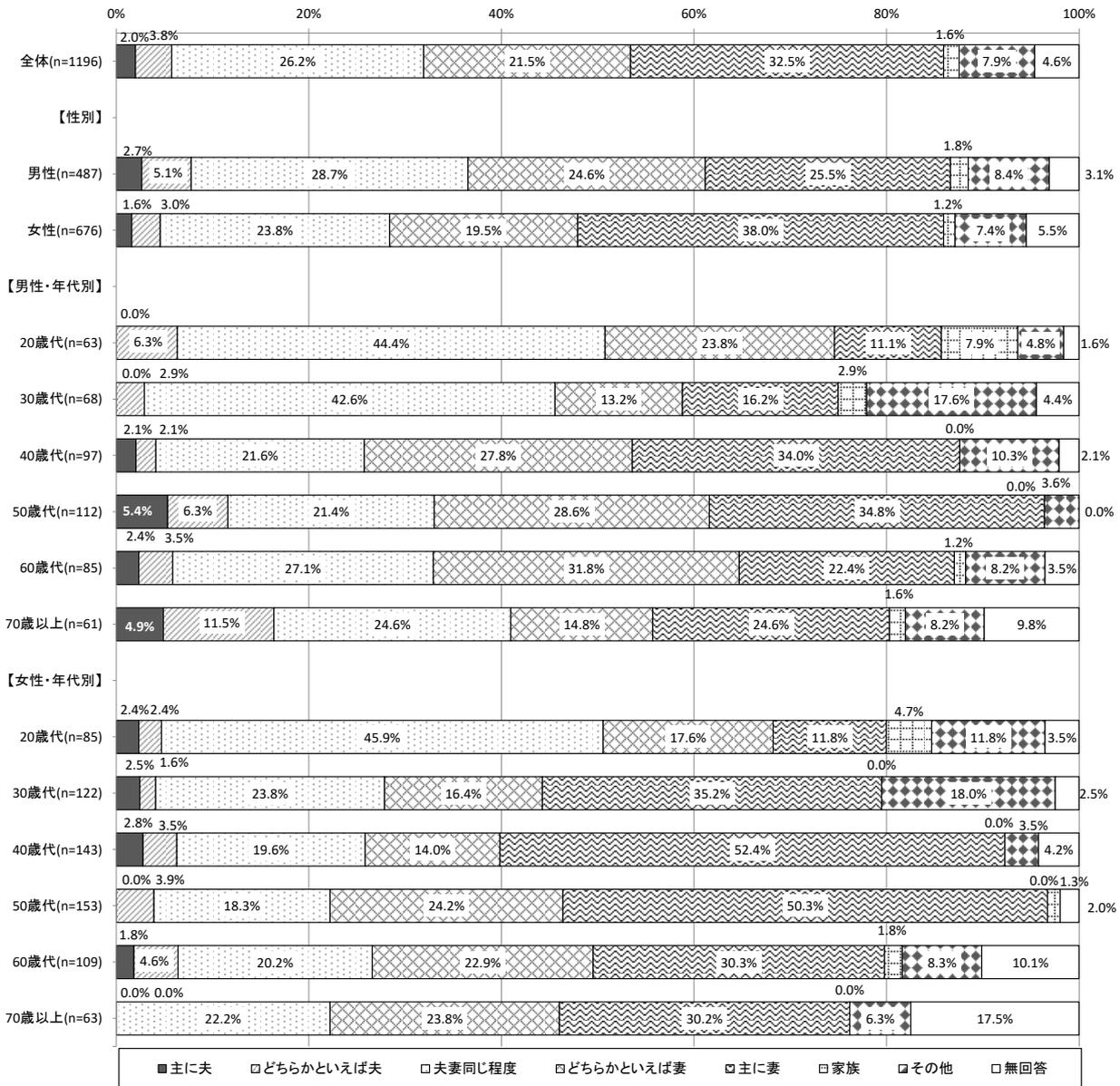
性・年代別では、年代が上がるに従い「主に夫」、「どちらかといえば夫」という回答が多くなっていますが、男性の30歳代以下、女性の20歳代で「夫婦同じ程度」という回答が4割以上と多くなっています。



### ◆PTAなどの参加【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「主に妻」という回答が多くなっています。

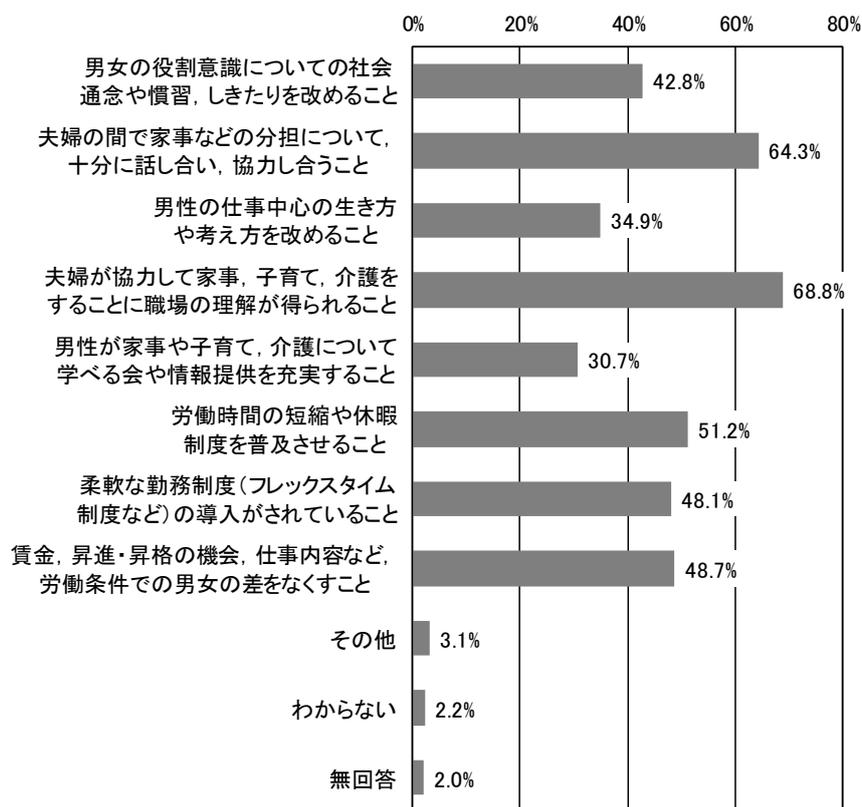
性・年代別では、男性の30歳代以下、女性の20歳代で「夫婦同じ程度」という回答が4割以上と多くなっています。



## (6) 地域・社会参画について

問11 今後、男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

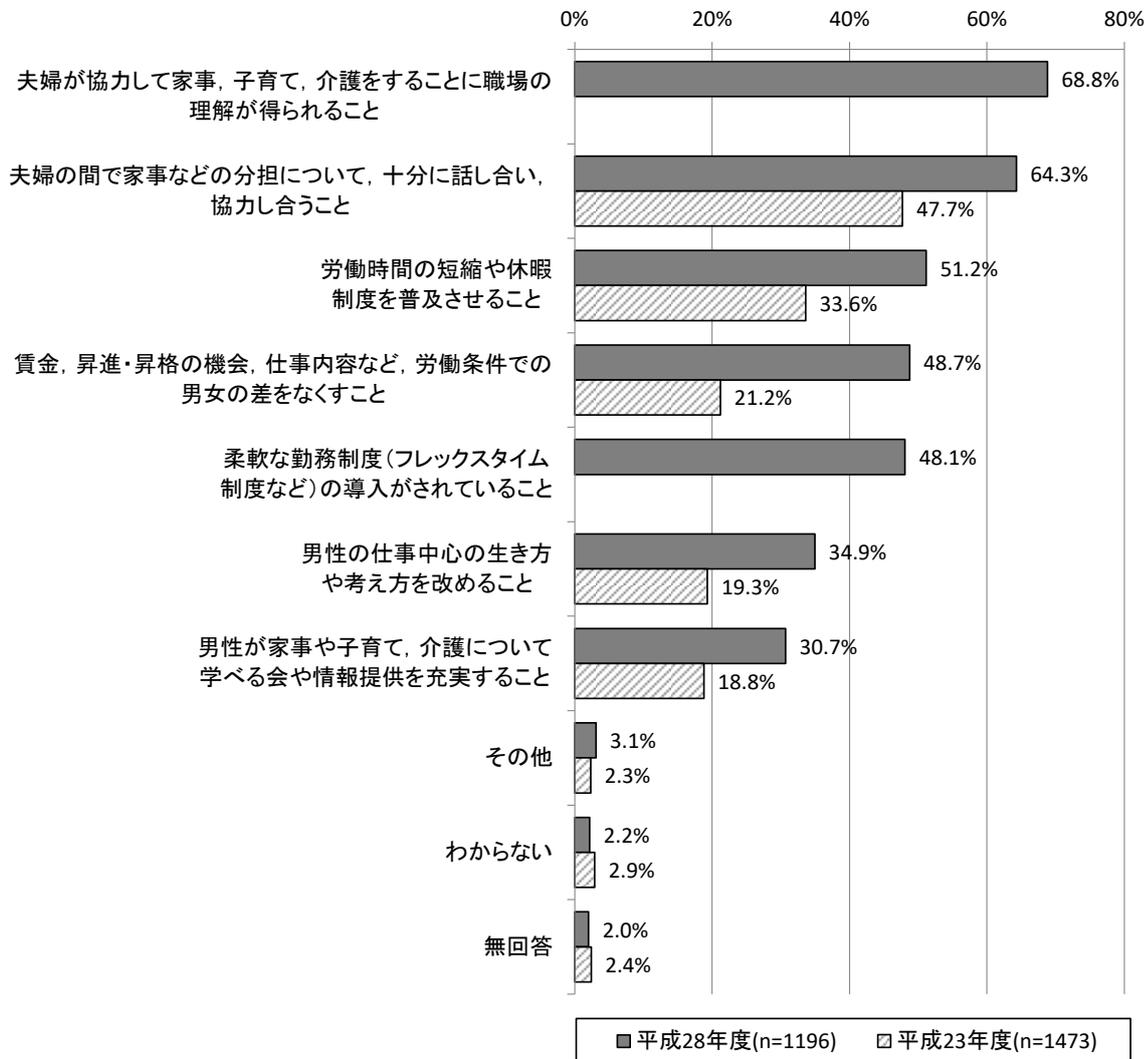
今後、男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくために重要なことについては、「夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること」が68.8%で最も多く、次いで「夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと」が64.3%、「労働時間の短縮や休暇制度を普及させること」が51.2%となっています。



項目	回答数	構成比
男女の役割意識についての社会通念や慣習、しきたりを改めること	512	42.8%
夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと	769	64.3%
男性の仕事中心の生き方や考え方を改めること	418	34.9%
夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること	823	68.8%
男性が家事や子育て、介護について学べる会や情報提供を充実すること	367	30.7%
労働時間の短縮や休暇制度を普及させること	612	51.2%
柔軟な勤務制度(フレックスタイム制度など)の導入がされていること	575	48.1%
賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと	583	48.7%
その他	37	3.1%
わからない	26	2.2%
無回答	24	2.0%
回答者数	1,196	

## 【経年比較】

前回調査と比較すると、全ての項目において「重要である」という回答が多くなっています。特に、「賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと」は27.5ポイント増加しています。

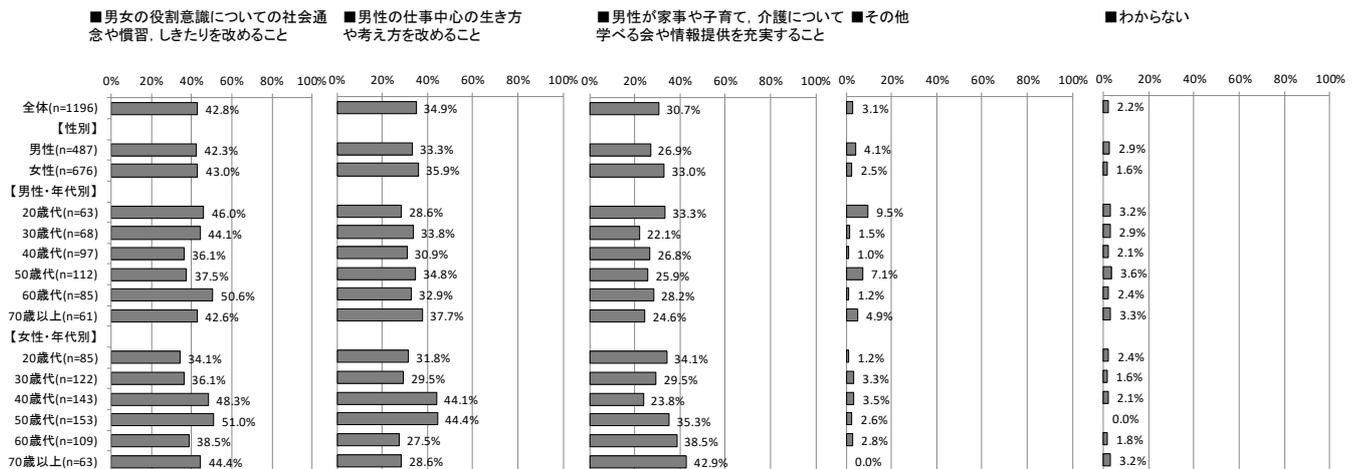
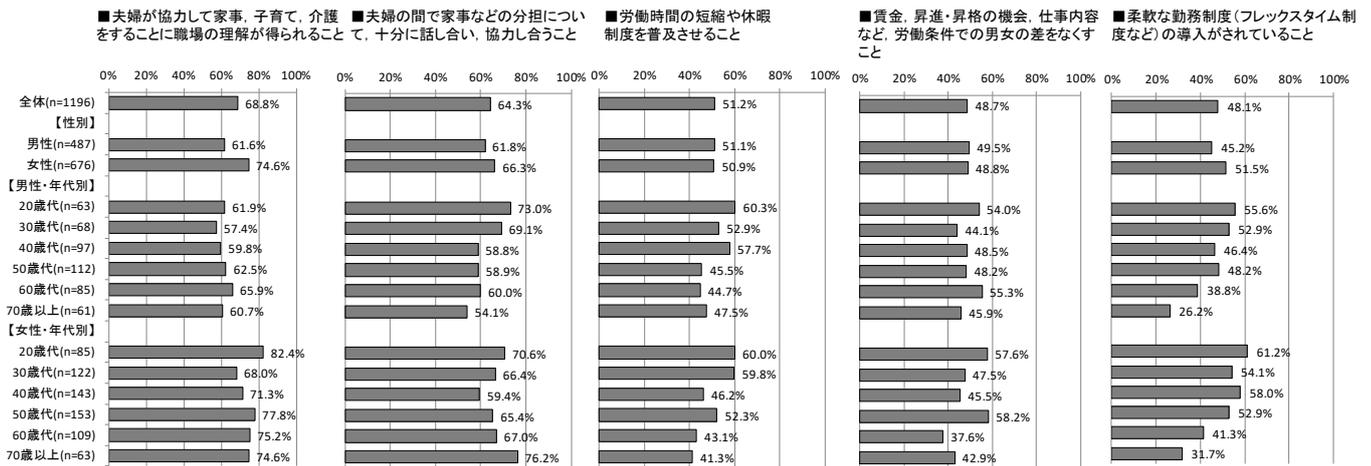


※「夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること」及び「柔軟な勤務制度（フレックスタイム制度など）の導入がされていること」は前回調査に項目がないため、比較はしていません。

## 【性別、性・年代別クロス】

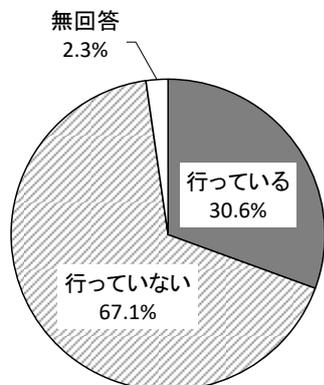
性別では、ほとんどの項目において、重要だと思うという回答は男性よりも女性が多くなっています。特に、「夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること」では13ポイントの開きがあります。

性・年代別では、「労働時間の短縮や休暇制度を普及させること」、「柔軟な勤務制度（フレックスタイム制度など）の導入がされていること」について、男女ともに年代が上がるに従い、重要だと思うという回答は少なくなっています。



問12 あなたは、現在、地域などでの社会的な活動(自治会やPTAなど)を行っていますか。(〇は1つだけ)

現在、地域などでの社会的な活動については、「行っている」が30.6%、「行っていない」が67.1%となっています。

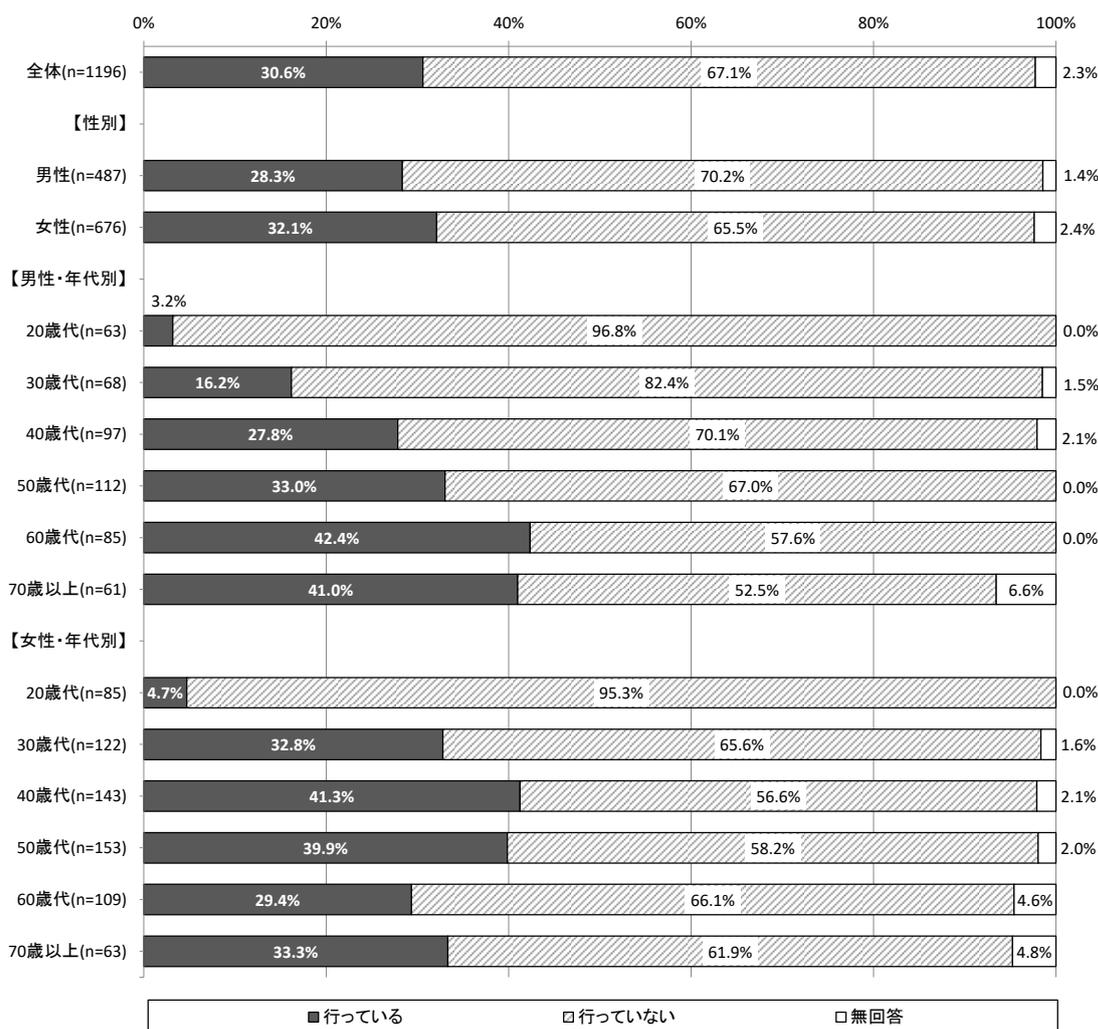


項目	回答数	構成比
行っている	366	30.6%
行っていない	803	67.1%
無回答	27	2.3%
合計	1,196	100.0%

【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「行っている」という回答が多くなっています。

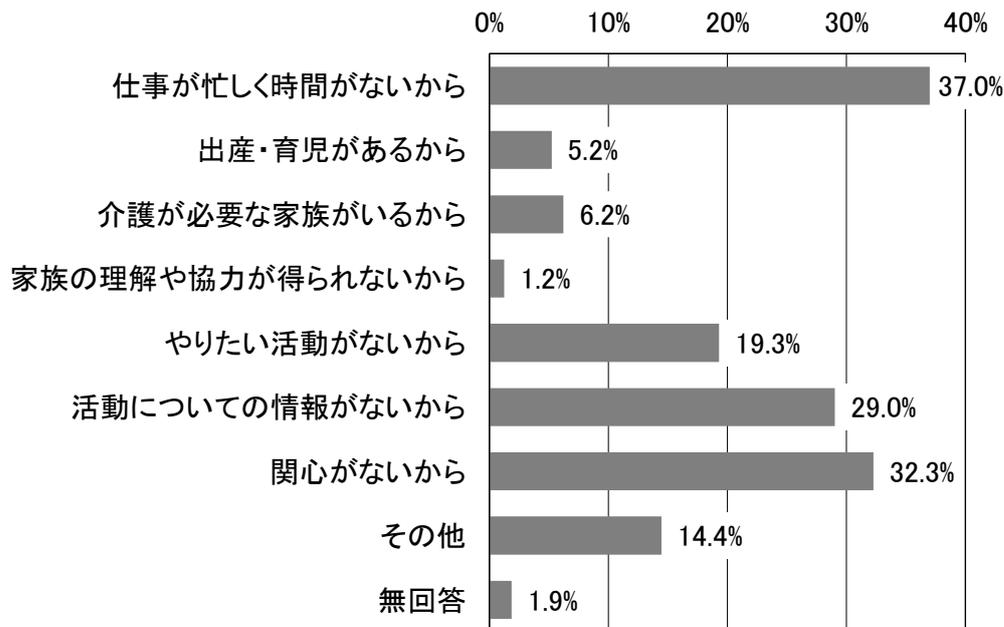
性・年代別では、男女とも20歳代は「行っている」という回答が極端に少なくなっています。



《問12で、「2. 行っていない」に○をつけた方にお尋ねします。》

問13 あなたが現在、社会的な活動に参加していない主な理由は何ですか。  
(あてはまる番号すべてに○)

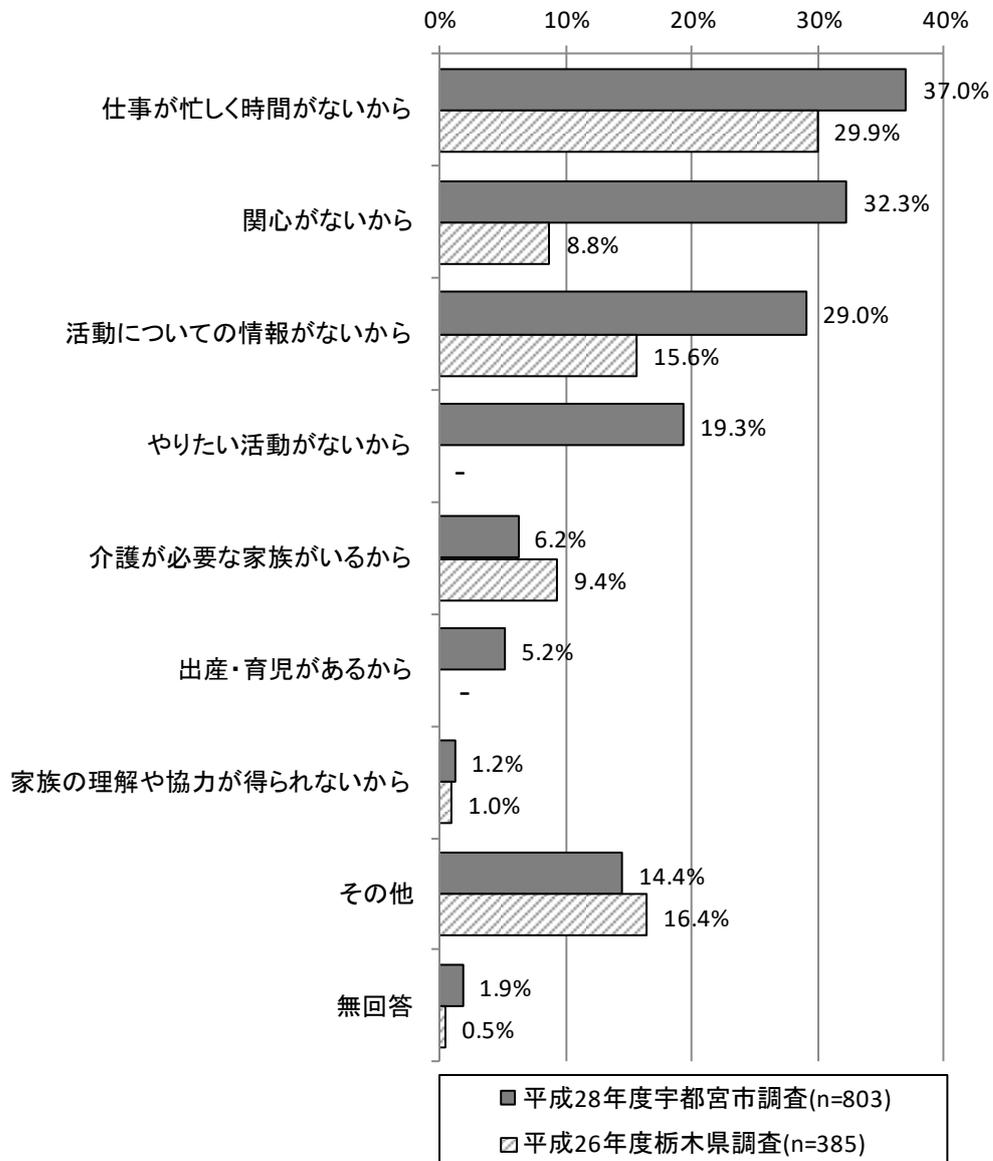
現在、社会的な活動に参加していない理由については、「仕事が忙しく時間がないから」が37.0%で最も多く、次いで「関心がないから」が32.3%、「活動についての情報がないから」が29.0%となっています。



項目	回答数	構成比
仕事が忙しく時間がないから	297	37.0%
出産・育児があるから	42	5.2%
介護が必要な家族がいるから	50	6.2%
家族の理解や協力が得られないから	10	1.2%
やりたい活動がないから	155	19.3%
活動についての情報がないから	233	29.0%
関心がないから	259	32.3%
その他	116	14.4%
無回答	15	1.9%
回答者数	803	
非該当	393	
合計	1,196	

### 【宇都宮市，栃木県調査比較】

県調査と比較すると、特に、「関心がないから」は 23.5 ポイント、「活動についての情報がないから」は 13.4 ポイントの開きがあります。一方、「介護が必要な家族がいるから」という回答は県調査に比べ少なくなっています。

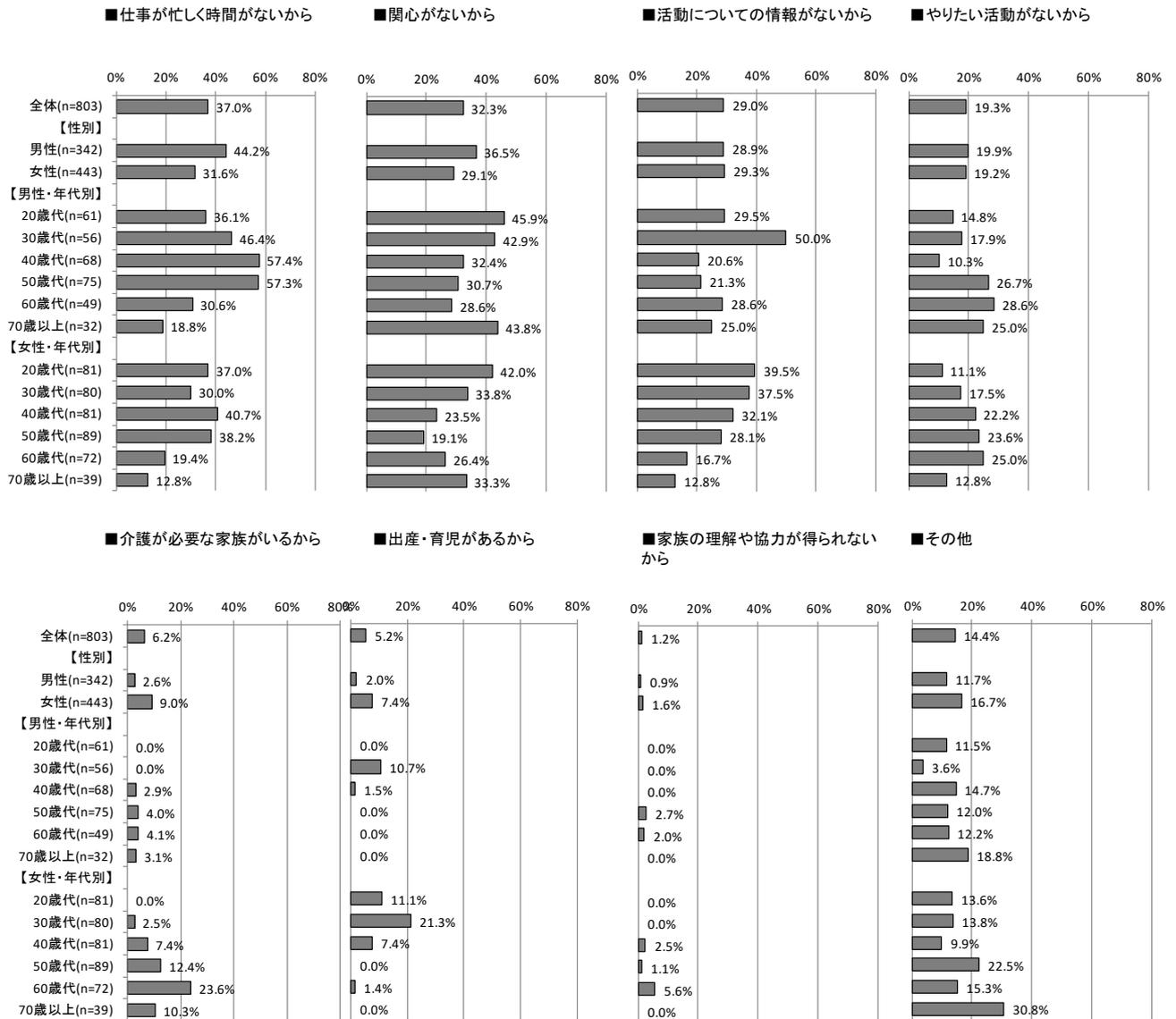


※平成 26 年度栃木県調査は他にも選択肢あり

## 【性別、性・年代別クロス】

性別では、女性より男性の方が「仕事が忙しく時間がないから」、「関心がないから」という回答が多くなっています。

性・年代別では、「仕事が忙しく時間がないから」と回答したのは、男女ともに、40歳代、50歳代が最も多くなっています。



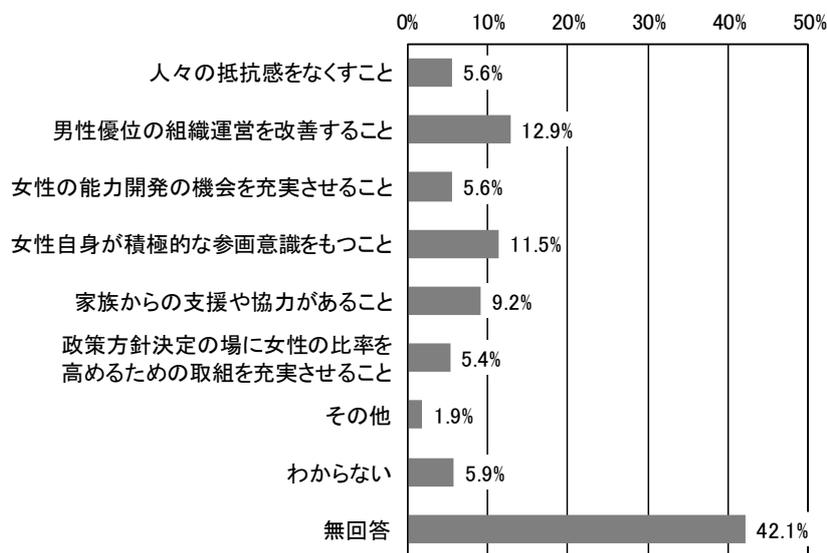
### ■社会的な活動に参加しない理由上位5つ【経年比較(性別)】

性別で前回調査と比較すると、男女ともに第1位に変化ありませんが、本調査では、第2位が男性は「関心がないから」、女性は「活動についての情報がないから」となっています。

		1位	2位	3位	4位	5位
平成28年度	男性	仕事が忙しく時間がないから	関心がないから	活動についての情報がないから	やりたい活動がないから	介護が必要な家族がいるから
	n=342	44.2%	36.5%	28.9%	19.9%	2.6%
平成28年度	女性	仕事が忙しく時間がないから	活動についての情報がないから	関心がないから	やりたい活動がないから	介護が必要な家族がいるから
	n=443	31.6%	29.3%	29.1%	19.2%	9.0%
平成23年度	男性	仕事が忙しく時間がないから	活動についての情報がないから	魅力のある団体や仲間がないから(平成23年度のみ)	やりたい活動がないから	健康に自信がないから(平成23年度のみ)
	n=292	41.1%	19.5%	15.1%	12.5%	14.0%
平成23年度	女性	仕事が忙しく時間がないから	健康に自信がないから(平成23年度のみ)	活動についての情報がないから	やりたい活動がないから	出産・育児があるから
	n=375	32.8%	21.6%	12.8%	12.5%	12.3%

**問14 あなたは、審議会等の委員など政策決定の場に女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は1つだけ)**

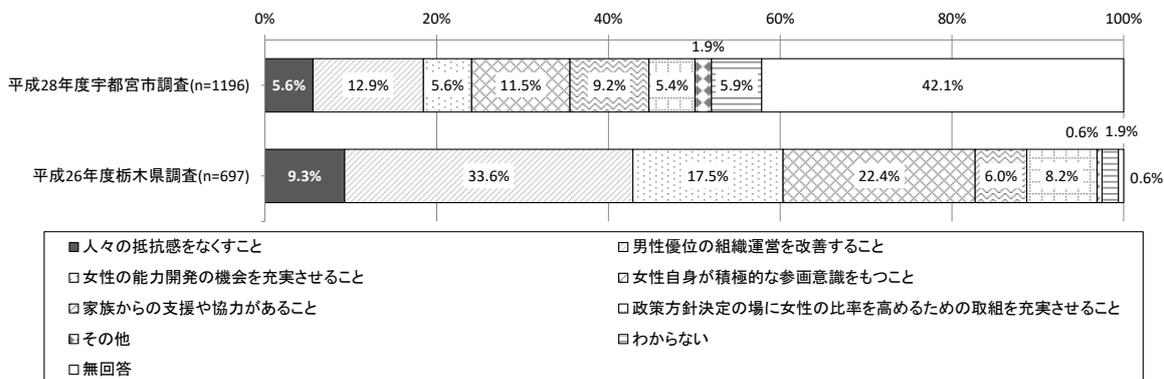
審議会等の委員など政策決定の場に女性の参画が増えていくために必要なことについては、「男性優位の組織運営を改善すること」が12.9%で最も多く、次いで「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」が11.5%となっています。



項目	回答数	構成比
人々の抵抗感をなくすこと	67	5.6%
男性優位の組織運営を改善すること	154	12.9%
女性の能力開発の機会を充実させること	67	5.6%
女性自身が積極的な参画意識をもつこと	137	11.5%
家族からの支援や協力があること	110	9.2%
政策方針決定の場に女性の比率を高めるための取組を充実させること	64	5.4%
その他	23	1.9%
わからない	70	5.9%
無回答	504	42.1%
合計	1,196	100.0%

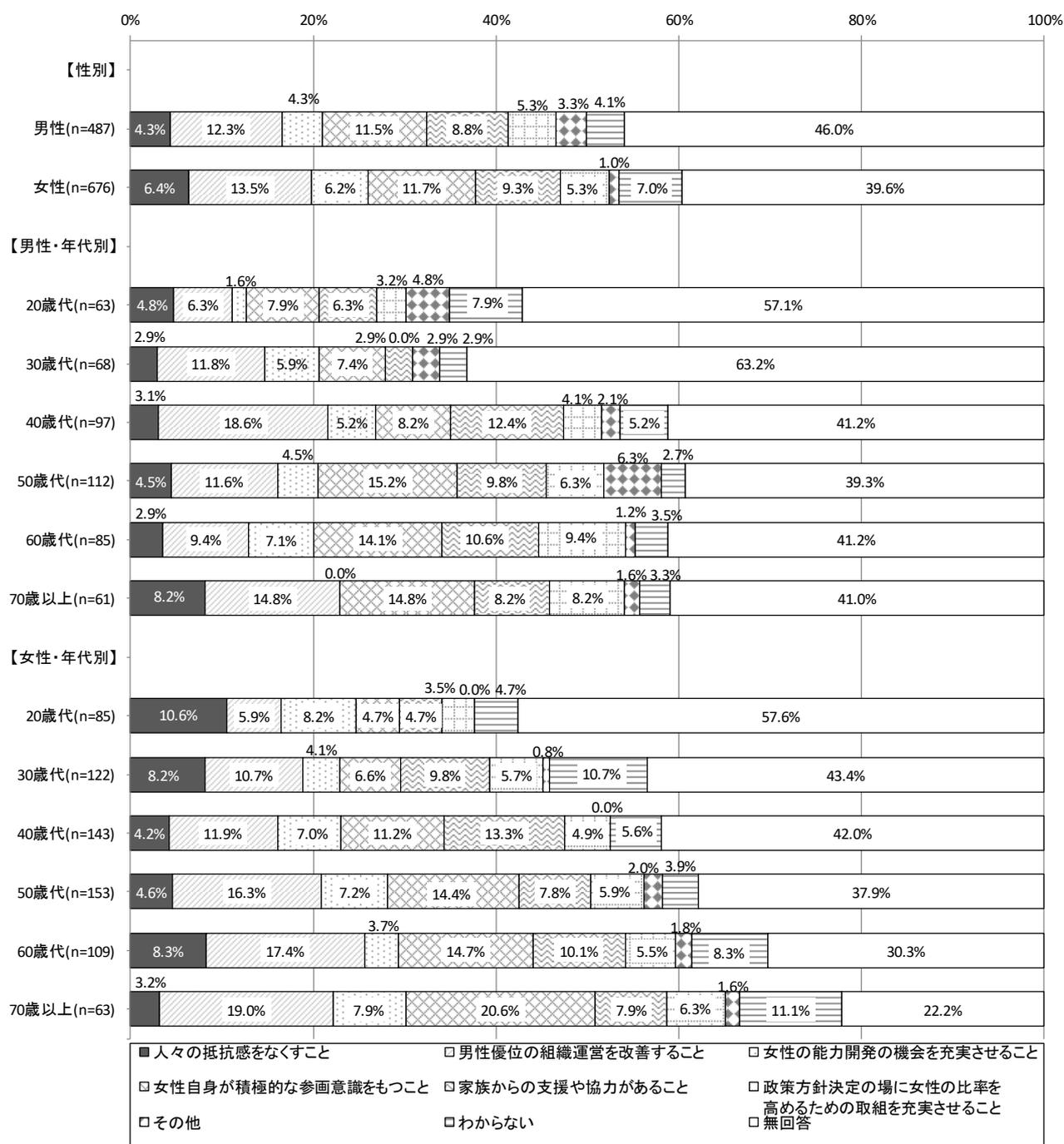
**【宇都宮市、栃木県調査比較】**

県調査と比較すると、「男性優位の組織運営を改善すること」という項目が20.7ポイント、「女性の能力開発の機会を充実させること」が11.9ポイント、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」が10.9ポイントそれぞれ少なくなっています。



## 【性別、性・年代別クロス】

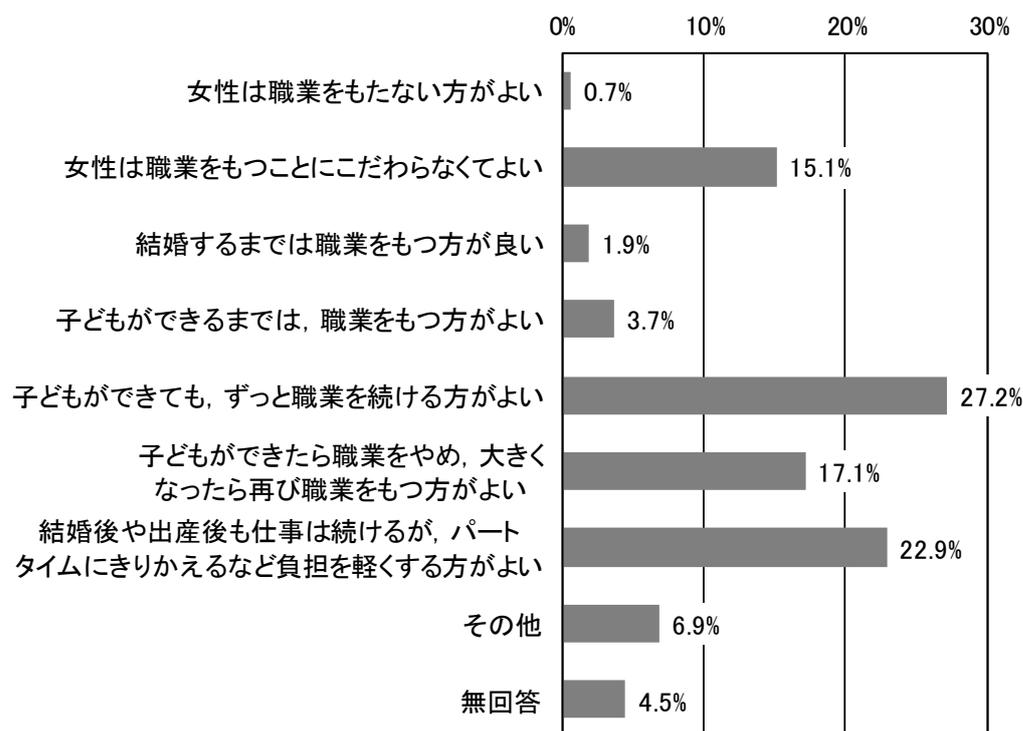
性・年代別では、「人々の抵抗感をなくすこと」という回答は女性の30歳代以下、60歳代で回答が多くなっています。



## (7) 職業・就労について

問15 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

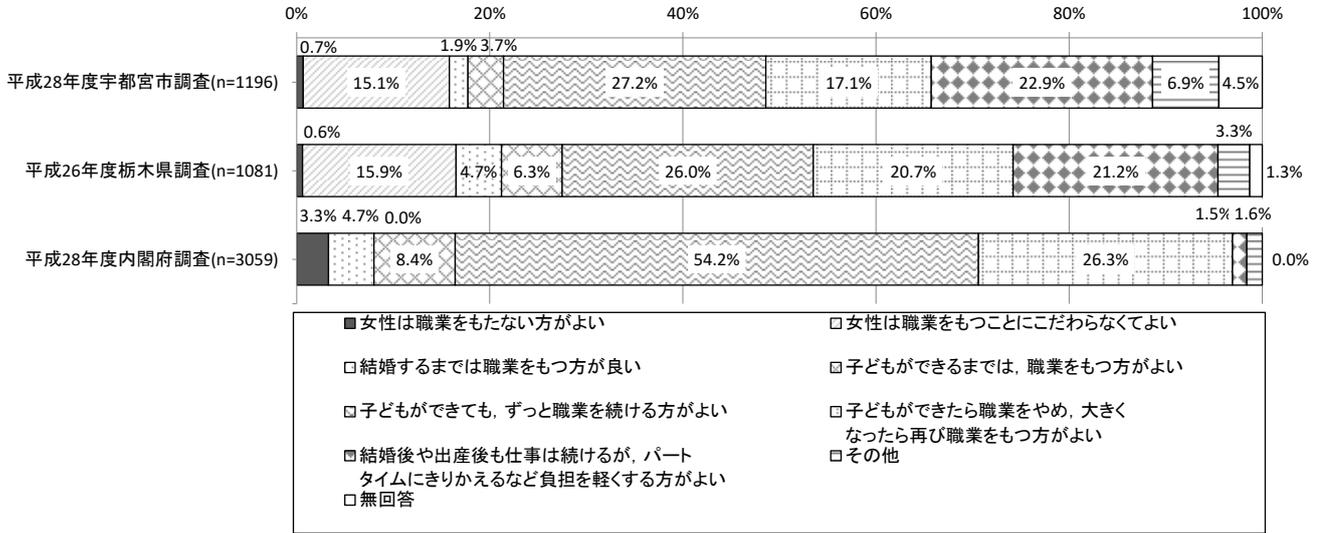
女性が職業をもつことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が27.2%で最も多く、次いで「結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」が22.9%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が17.1%となっています。



項目	回答数	構成比
女性は職業をもたない方がよい	8	0.7%
女性は職業をもつことにこだわらなくてよい	181	15.1%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	23	1.9%
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	44	3.7%
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	325	27.2%
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	205	17.1%
結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい	274	22.9%
その他	82	6.9%
無回答	54	4.5%
合計	1,196	100.0%

### 【宇都宮市, 栃木県, 内閣府調査比較】

国, 県調査と比較すると, 県調査とは同様の傾向ですが, 国調査と比較すると「子どもができて, ずっと職業を続ける方がよい」という回答が27ポイント少なくなっています。



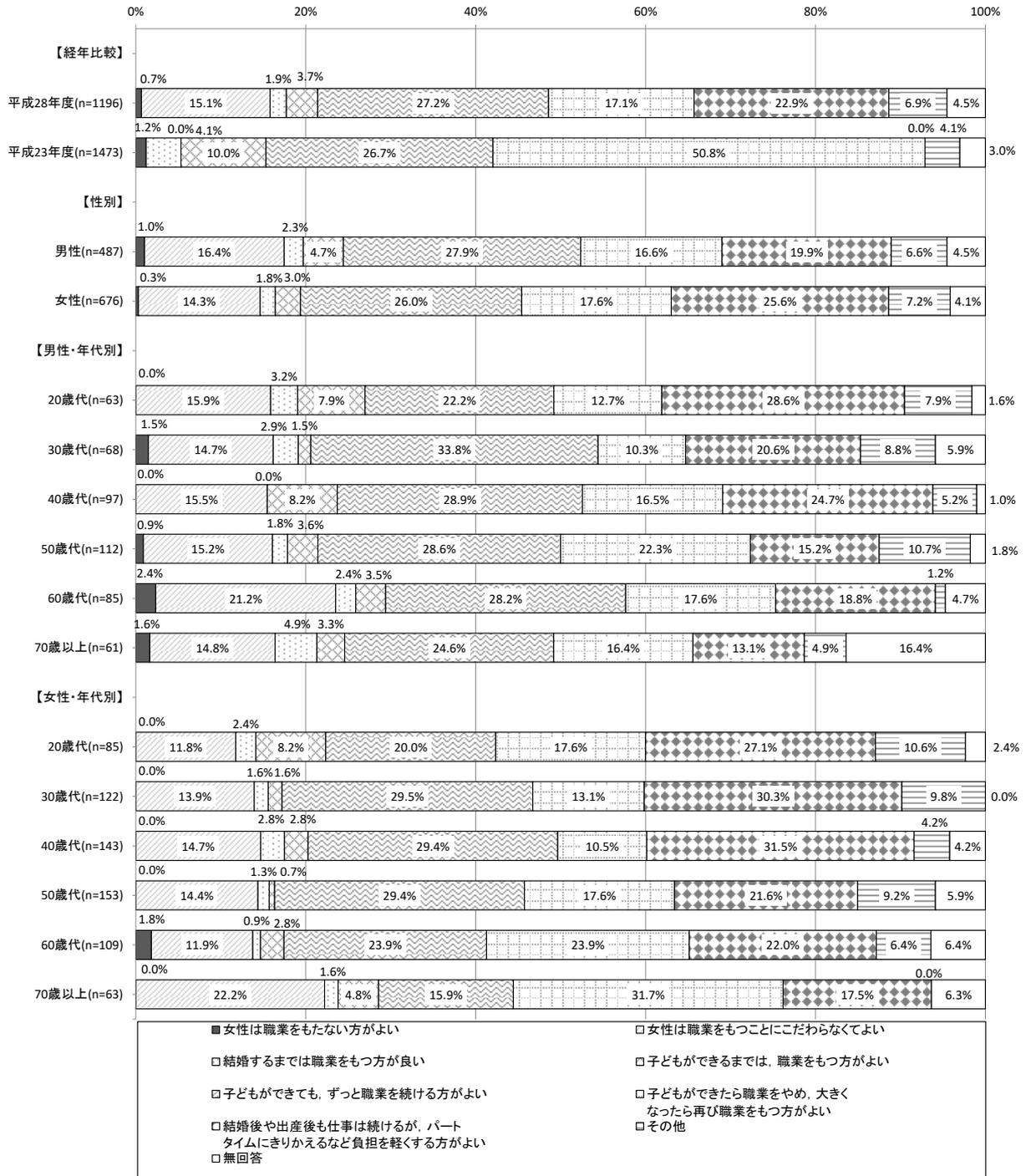
※ 「女性は無職をもちことにこだわらなくてよい」は, 国調査にはない

## 【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】

前回調査と比較すると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答が33.7ポイント少なくなっています。

性別では、男性よりも女性の方が「結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」という回答が多くなっています。

性・年代別でも、年代が下がるに従い「結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」という回答が多くなっています。

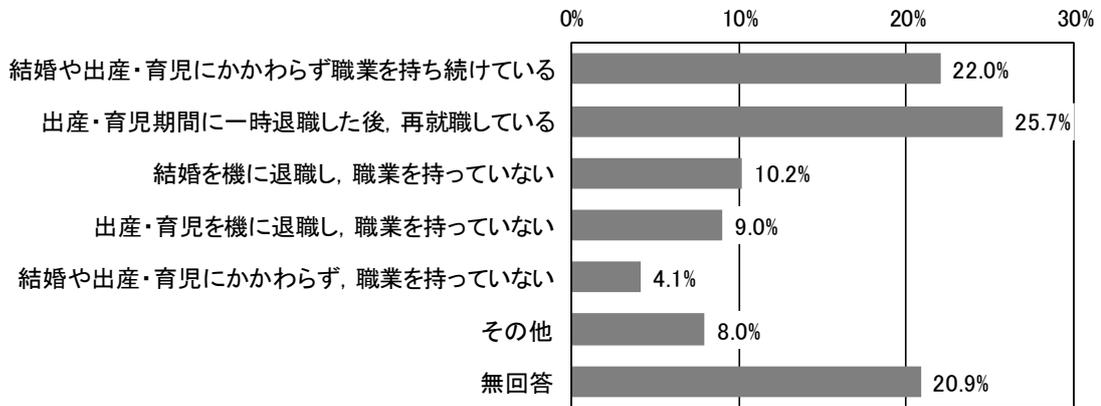


※「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」は、前回調査にはない

《結婚や出産・育児のいずれかを経験している女性の方にお尋ねします。》

問16 現在のあなた自身の職業の持ち方は、どれに該当しますか。(○は1つだけ)

現在のあなた自身の職業の持ち方については、「出産・育児期間に一時退職した後、再就職している」が25.7%で最も多く、次いで「結婚や出産・育児にかかわらず職業を持ち続けている」が22.0%となっています。



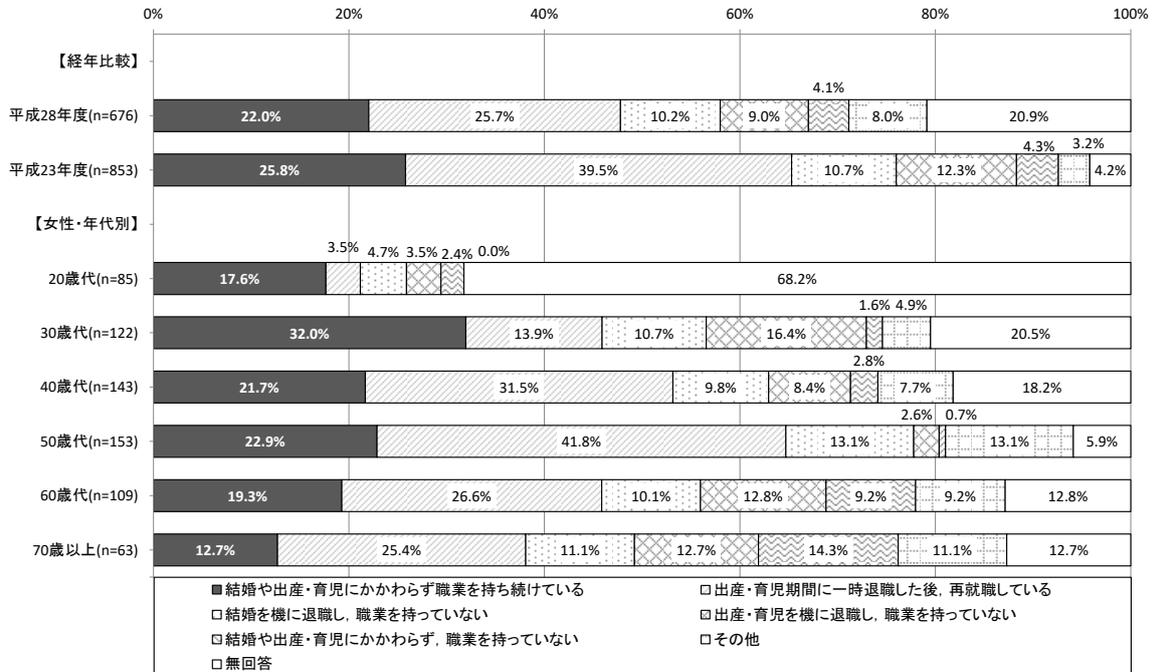
項目	回答数	構成比
結婚や出産・育児にかかわらず職業を持ち続けている	149	22.0%
出産・育児期間に一時退職した後、再就職している	174	25.7%
結婚を機に退職し、職業を持っていない	69	10.2%
出産・育児を機に退職し、職業を持っていない	61	9.0%
結婚や出産・育児にかかわらず、職業を持っていない	28	4.1%
その他	54	8.0%
無回答	141	20.9%
回答者数	676	100.0%
非該当	520	
合計	1,196	

※女性の方を回答者としています。

## 【経年比較, 年代別クロス(女性)】

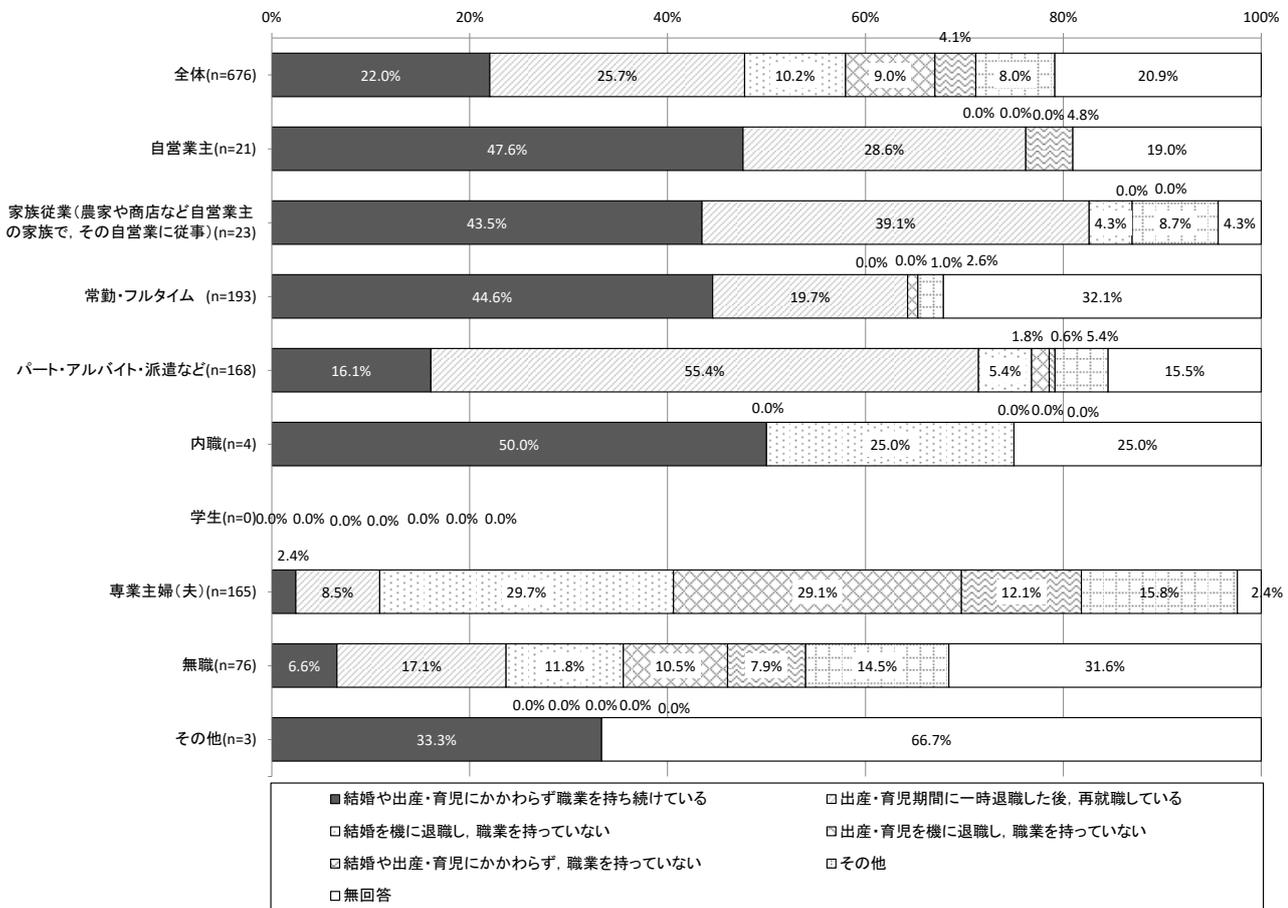
前回調査と比較すると、「出産・育児期間に一時退職した後、再就職している」という回答が13.8ポイント減少しています。

年代別では、30歳代が「結婚や出産・育児にかかわらず職業を持ち続けている」という回答が最も多く、以降、年代が上がるに従い少なくなっています。また、40歳代以降では、「出産・育児期間に一時退職した後、再就職している」という回答が多くなっています。



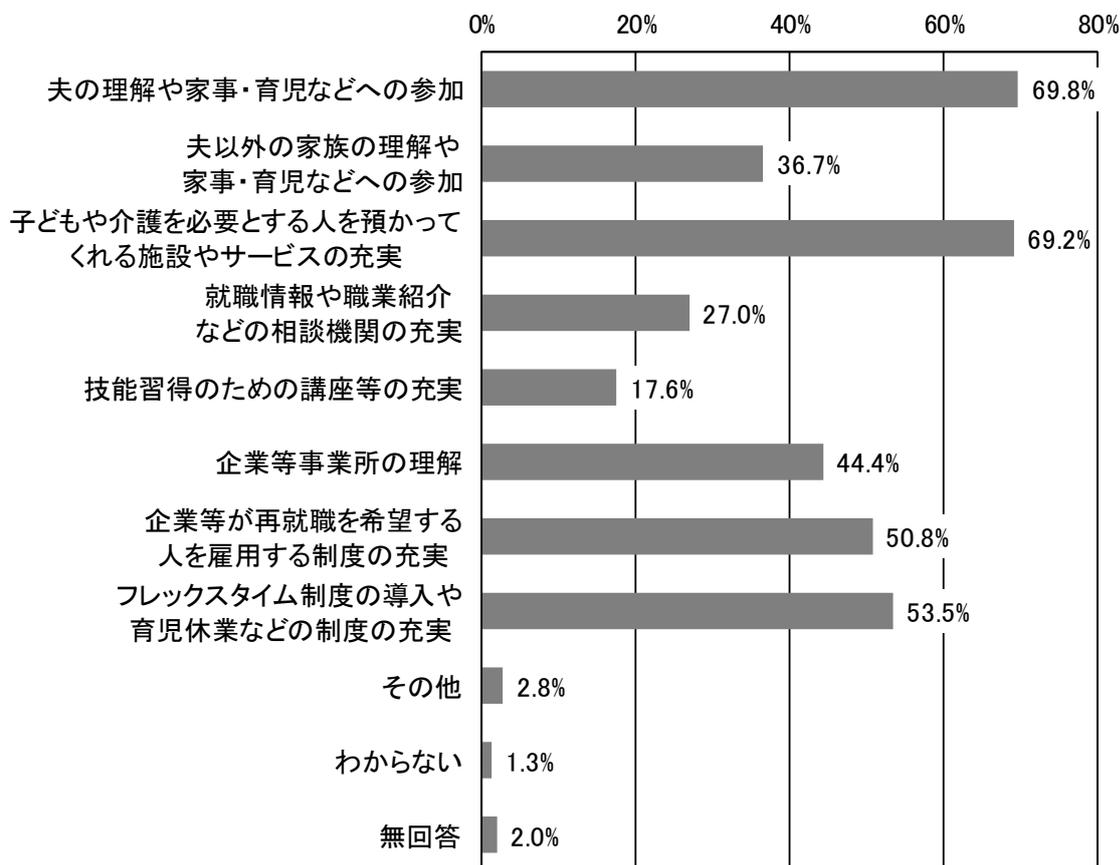
## 【職業別クロス】

職業別でみると、「パート・アルバイト・派遣など」では、「出産・育児期間に一時退職した後、再就職している」という回答が最も多く5割以上となっています。



問17 女性が結婚や出産・育児のために退職し、その後、再就職するためには特に何が  
必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

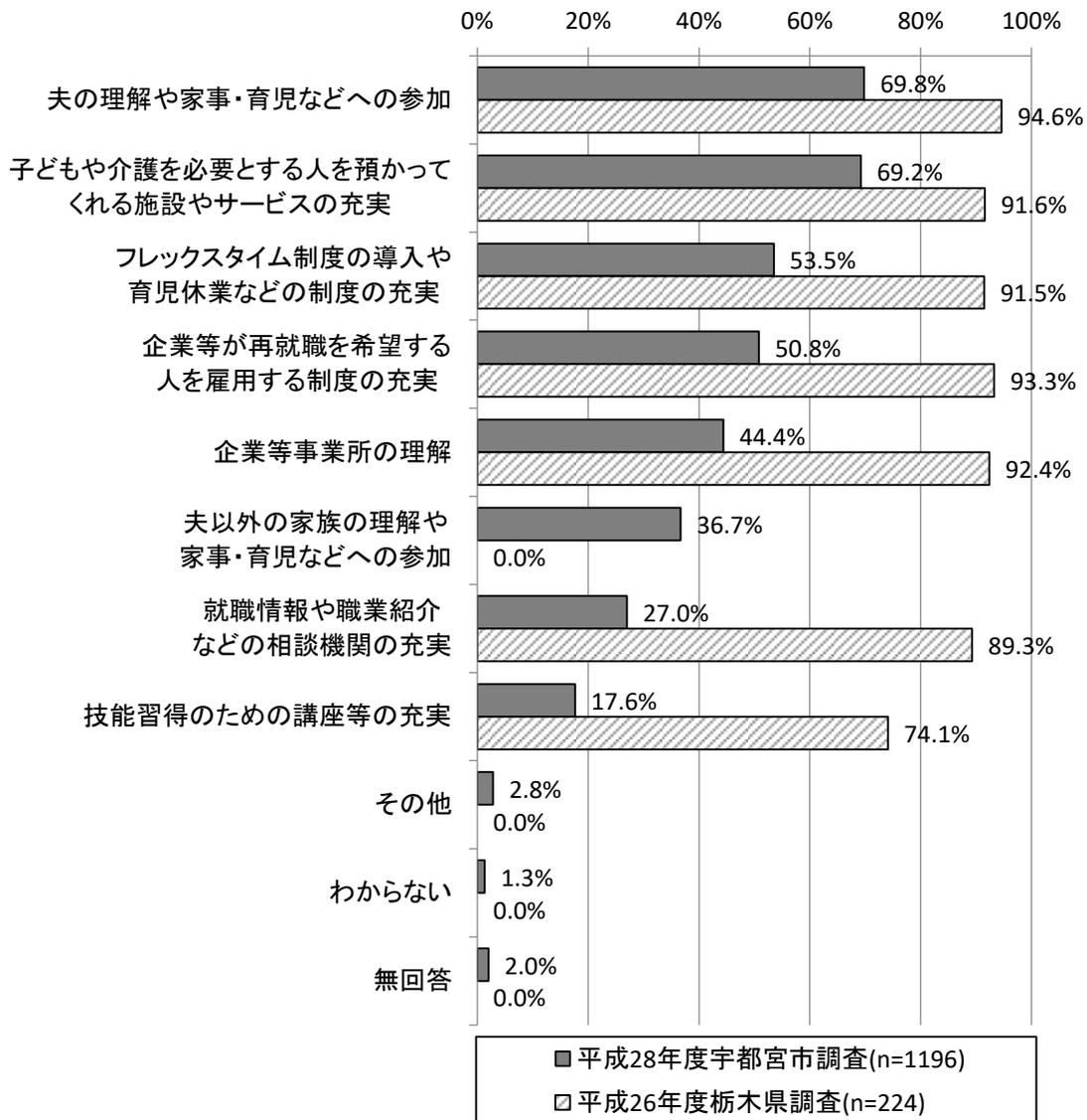
女性が再就職するために必要なことについては、「夫の理解や家事・育児などへの参加」が69.8%で最も多く、次いで「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」が69.2%、「フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実」が53.5%となっています。



項目	回答数	構成比
夫の理解や家事・育児などへの参加	835	69.8%
夫以外の家族の理解や家事・育児などへの参加	439	36.7%
子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実	828	69.2%
就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	323	27.0%
技能習得のための講座等の充実	211	17.6%
企業等事業所の理解	531	44.4%
企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	608	50.8%
フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実	640	53.5%
その他	34	2.8%
わからない	16	1.3%
無回答	24	2.0%
回答者数	1,196	

### 【宇都宮市，栃木県調査比較】

県調査と比較すると，全ての項目において必要だと思うという回答は少なくなっています。特に，「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」では62.3ポイント少なくなっています。

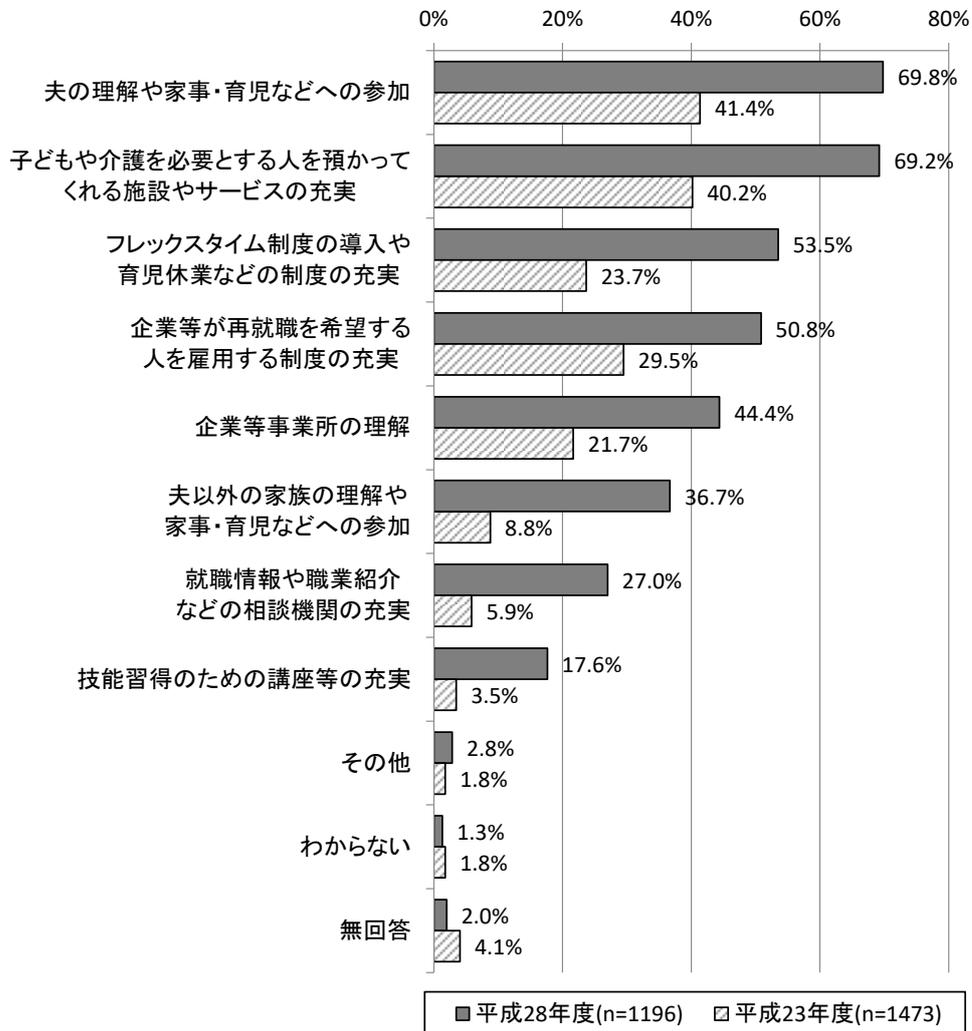


※平成26年度栃木県調査では，「とても重要」，「重要」，「あまり重要ではない」，「全く重要でない」となっているため，平成28年度宇都宮調査との比較では「とても重要」，「重要」を合わせた回答数としている

※平成26年度栃木県調査では，「夫以外の家族の理解や家事・育児などへの参加」は調査項目にない

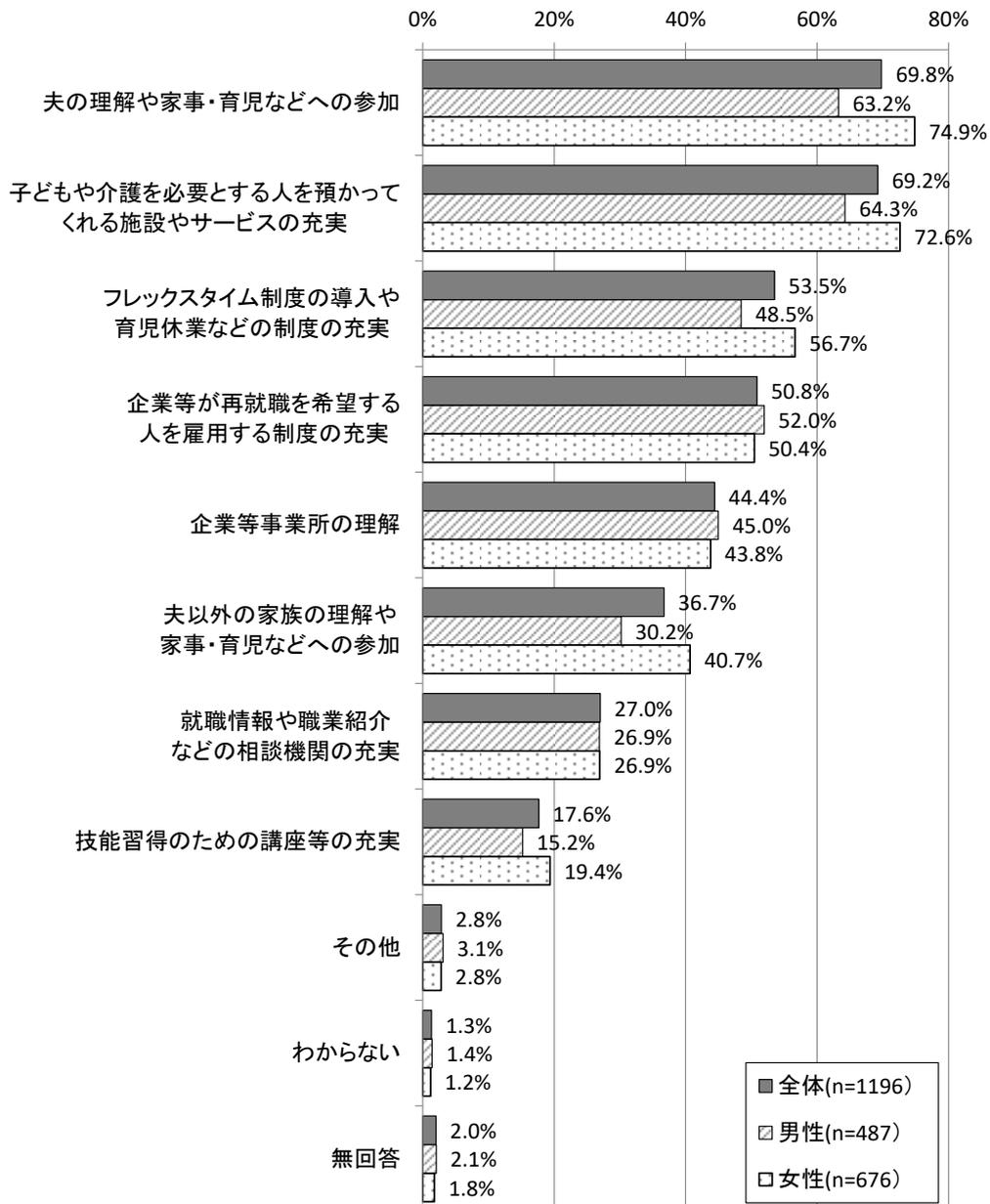
## 【経年比較】

前回調査と比較すると、全ての項目において必要だと思うという回答が増加しています。特に、「フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実」では、前回調査に比べ29.8ポイント増加しています。



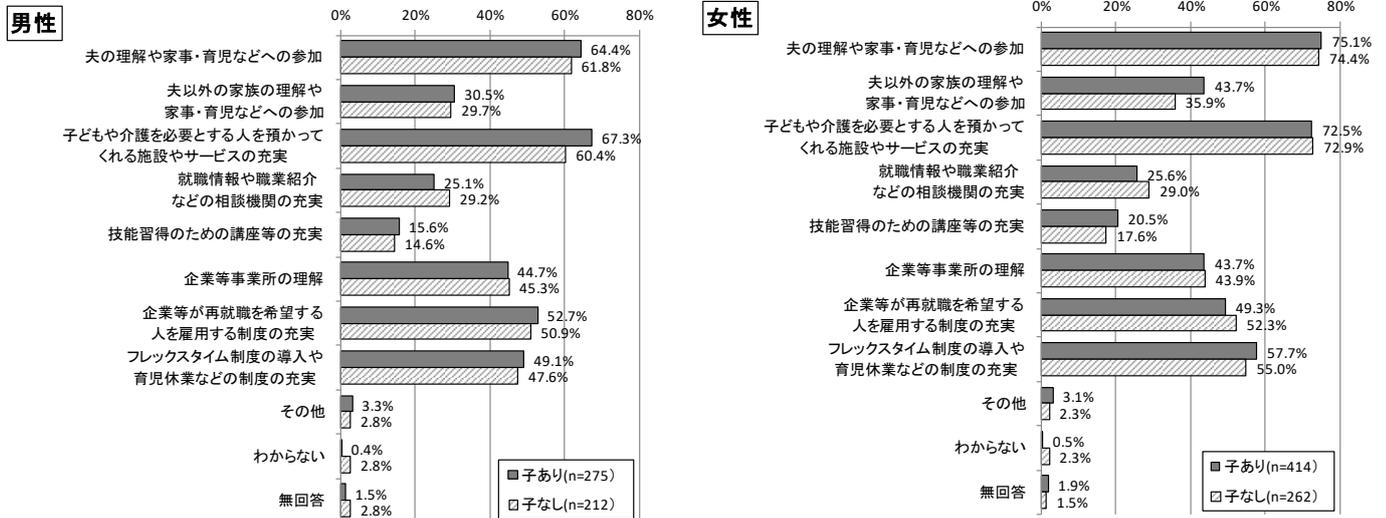
## 【性別クロス】

ほとんどの項目において、男性よりも女性の方が必要だと思うという回答が多くなっていますが、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」、「企業等事業所の理解」という項目では、男性の回答が多くなっています。



## ■子どもの有無【性別クロス】

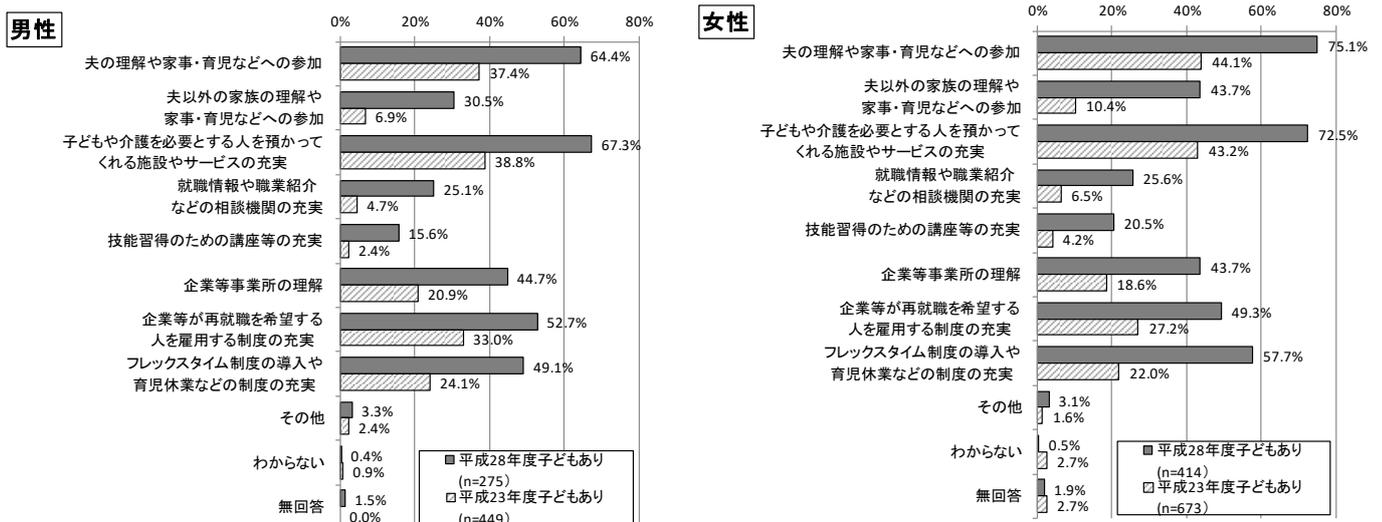
子どもの有無別では、男性の「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」、女性の「夫以外の家族の理解や家事・育児などへの参加」について、子どもなし世帯に比べ、子どもあり世帯で必要だと思うという回答がやや多くなっています。



## 【経年比較】

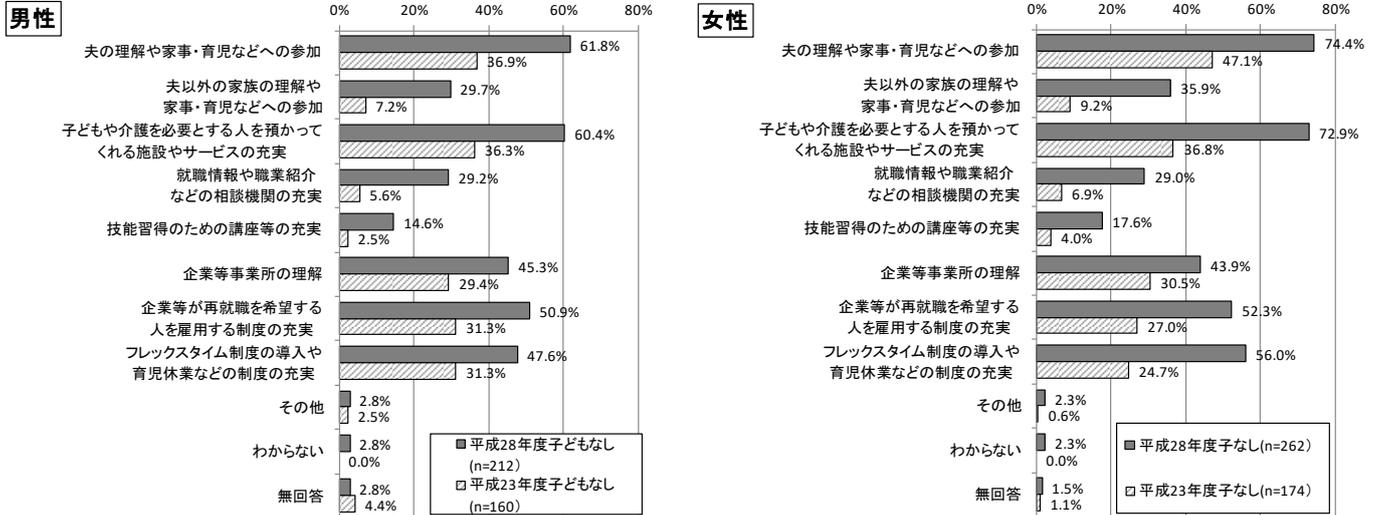
### ■子どもあり

前回調査と比較すると、全ての項目で前回調査より必要だと思うという回答が多くなっています。特に、男性の「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」、女性の「フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実」では、差が最も多くなっています。



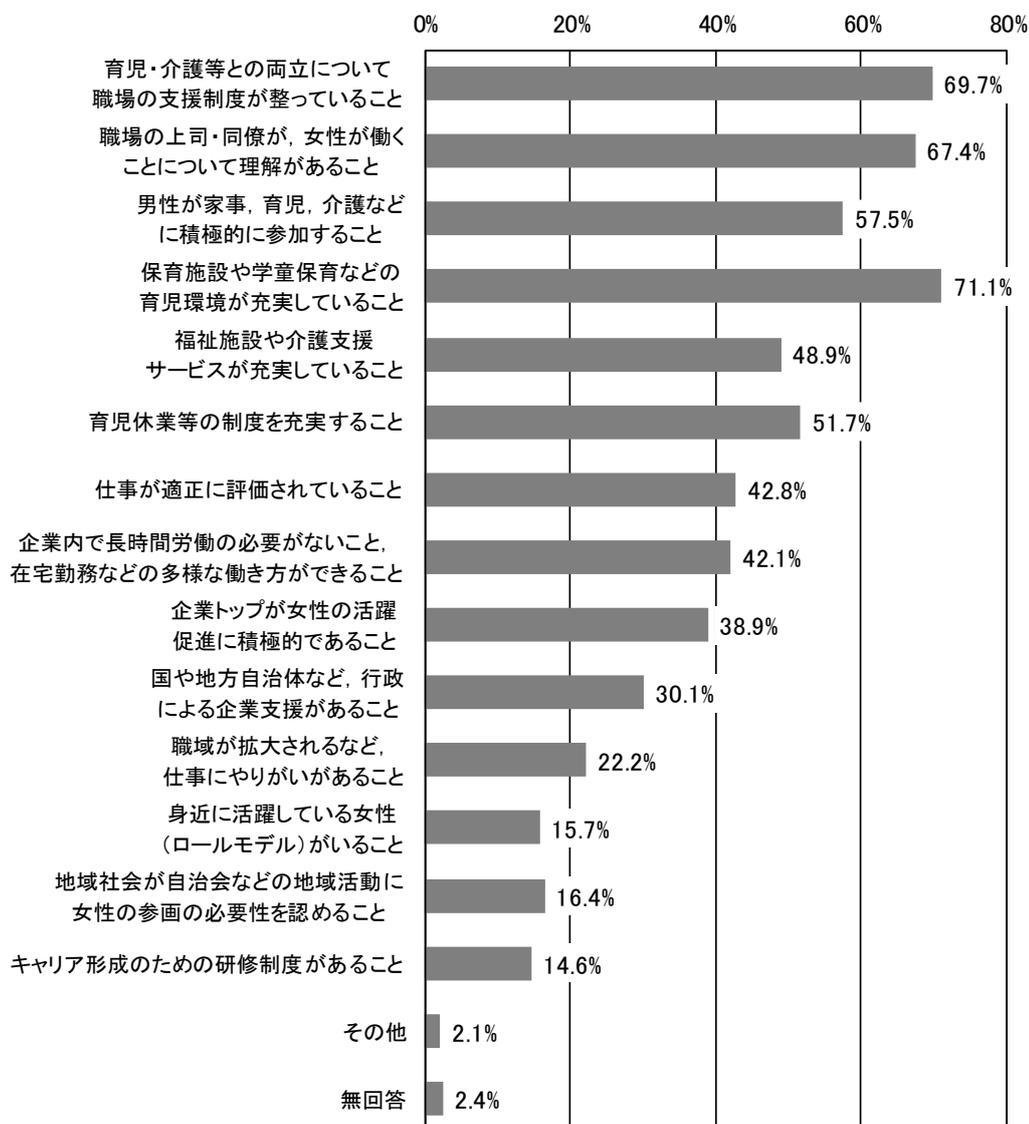
## ■子どもなし

前回調査と比較すると、全ての項目で前回調査より必要だと思うという回答が多くなっています。特に、男性の「夫の理解や家事・育児などへの参加」、女性の「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実」では、差が最も多くなっています。



問18 女性が活躍するために何が重要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

女性が活躍するために必要なことについては、「保育施設や学童保育などの育児環境が充実していること」が71.1%で最も多く、次いで「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」が69.7%、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が67.4%となっています。

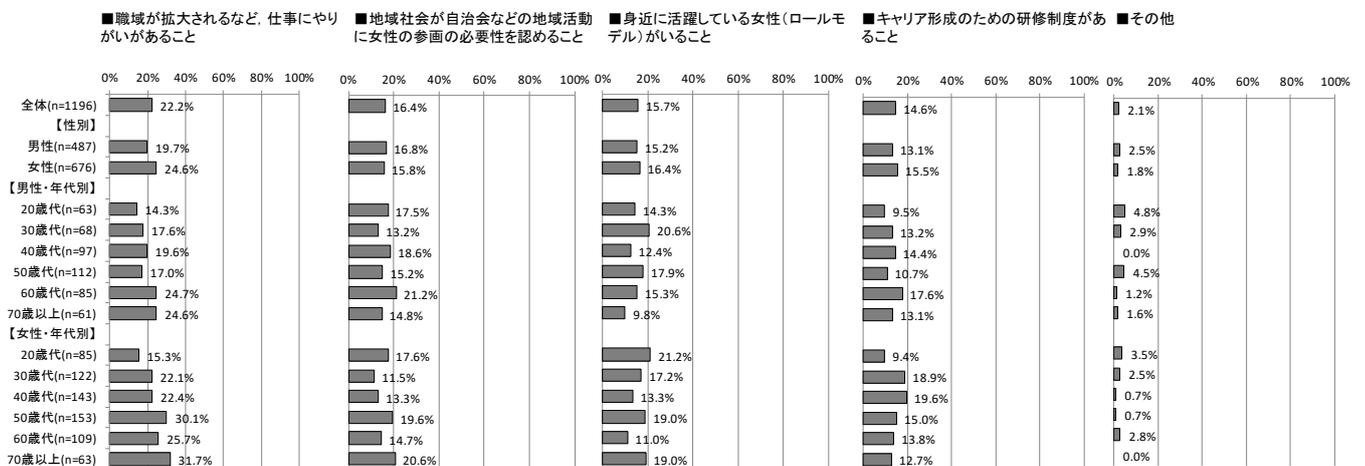
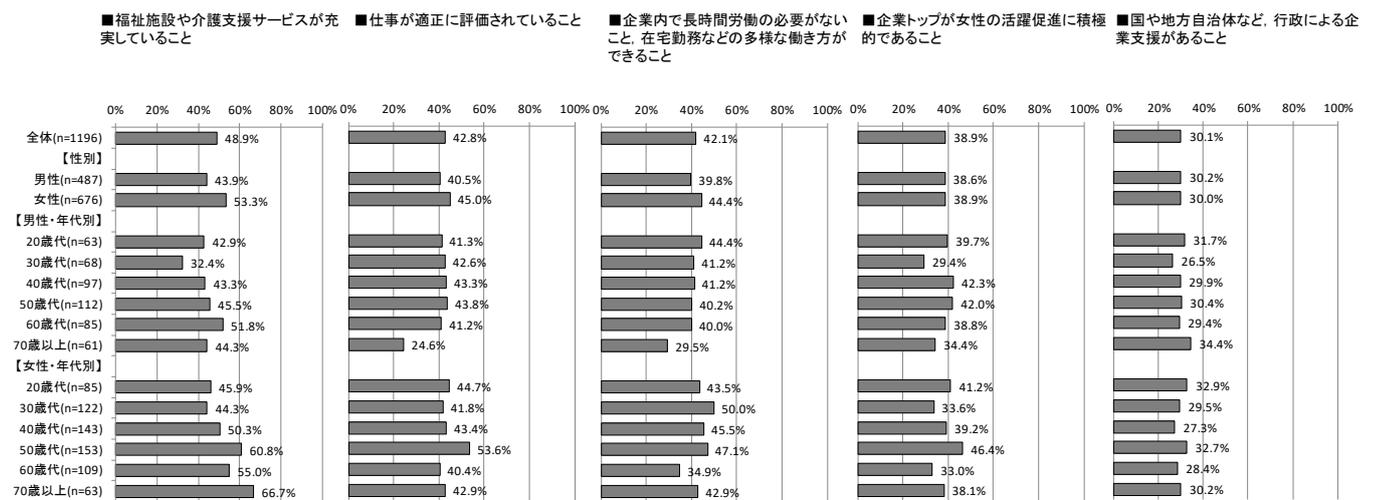
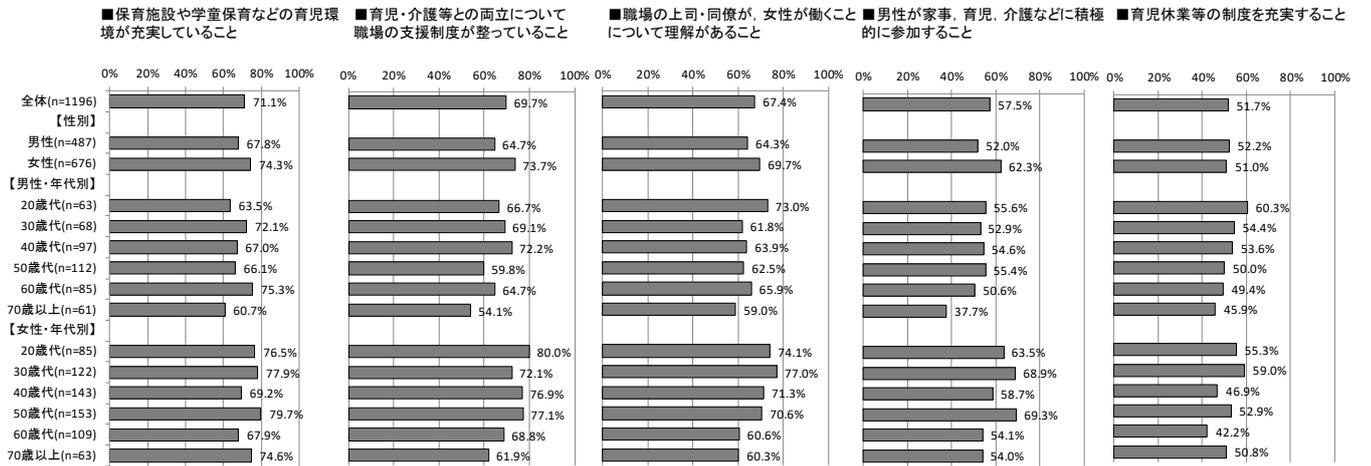


項目	回答数	構成比
育児・介護等との両立について 職場の支援制度が整っていること	834	69.7%
職場の上司・同僚が、女性が働く ことについて理解があること	806	67.4%
男性が家事、育児、介護など に積極的に参加すること	688	57.5%
保育施設や学童保育などの 育児環境が充実していること	850	71.1%
福祉施設や介護支援 サービスが充実していること	585	48.9%
育児休業等の制度を充実すること	618	51.7%
仕事が適正に評価されていること	512	42.8%
企業内で長時間労働の必要がないこと、 在宅勤務などの多様な働き方ができること	503	42.1%
企業トップが女性の活躍 促進に積極的であること	465	38.9%
国や地方自治体など、行政 による企業支援があること	360	30.1%
職域が拡大されるなど、 仕事にやりがいがあること	265	22.2%
身近に活躍している女性 (ロールモデル)がいること	188	15.7%
地域社会が自治会などの地域活動に 女性の参画の必要性を認めること	196	16.4%
キャリア形成のための研修制度があること	175	14.6%
その他	25	2.1%
無回答	29	2.4%
回答者数	1,196	

## 【性別、性・年代別クロス】

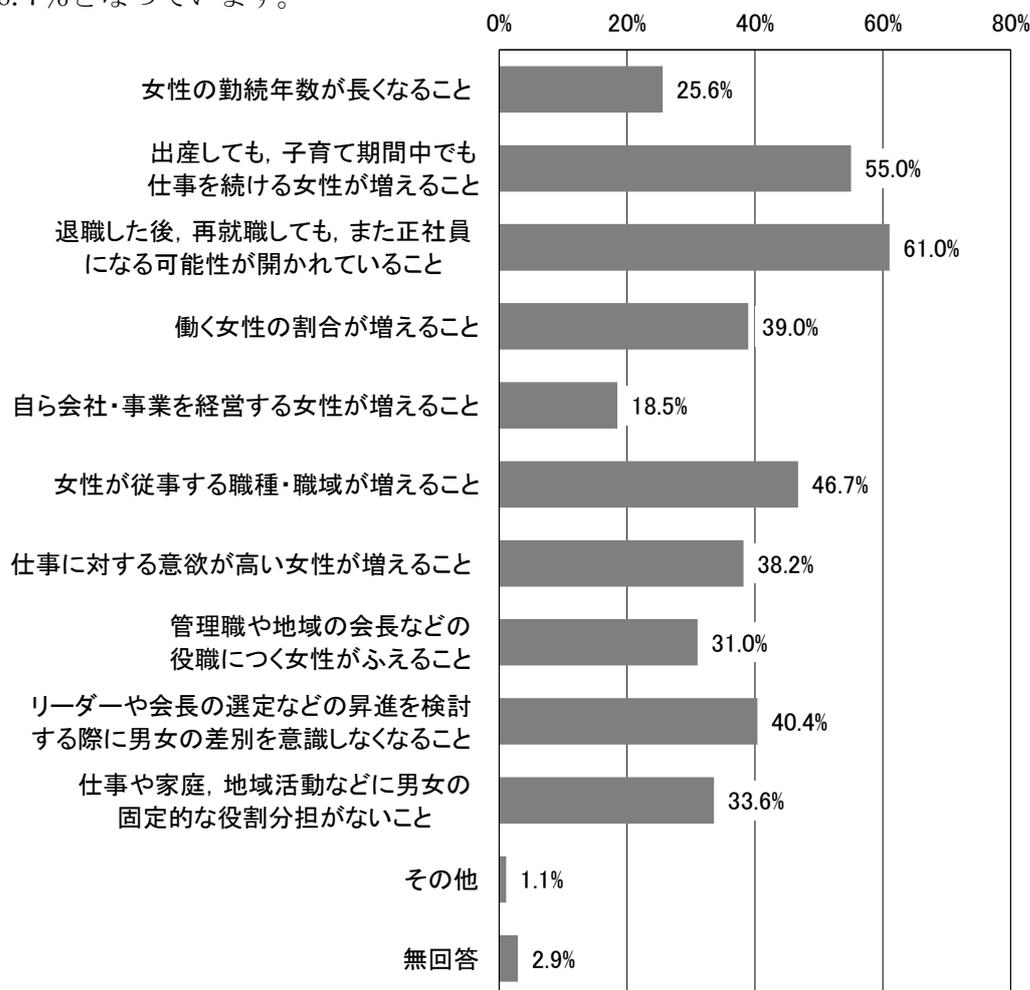
性別では、ほとんどの項目において男性よりも女性の方が必要だと思うという回答が多くなっています。

性・年代別では、基本的に年代が上がるに従い必要だと思うという回答は少なくなります。が、「福祉施設や介護支援サービスが充実していること」では、年代が上がるに従い必要だと思うという回答が多くなっています。



問19 「女性の活躍が推進されている」とはどのような状態だと思いますか。  
(あてはまる番号すべてに○)

「女性の活躍が推進されている」状態とは、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が61.0%で最も多く、次いで「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が55.0%、「女性が従事する職種・職域が増えること」が46.7%となっています。

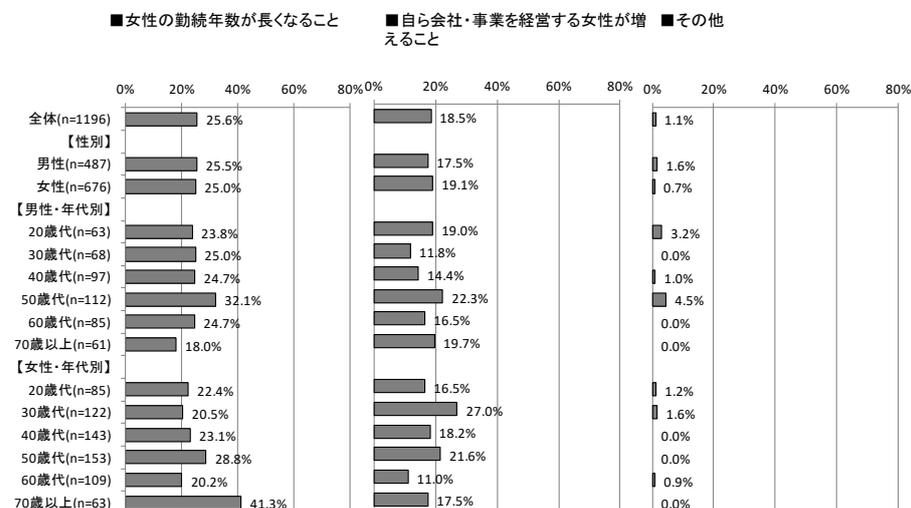
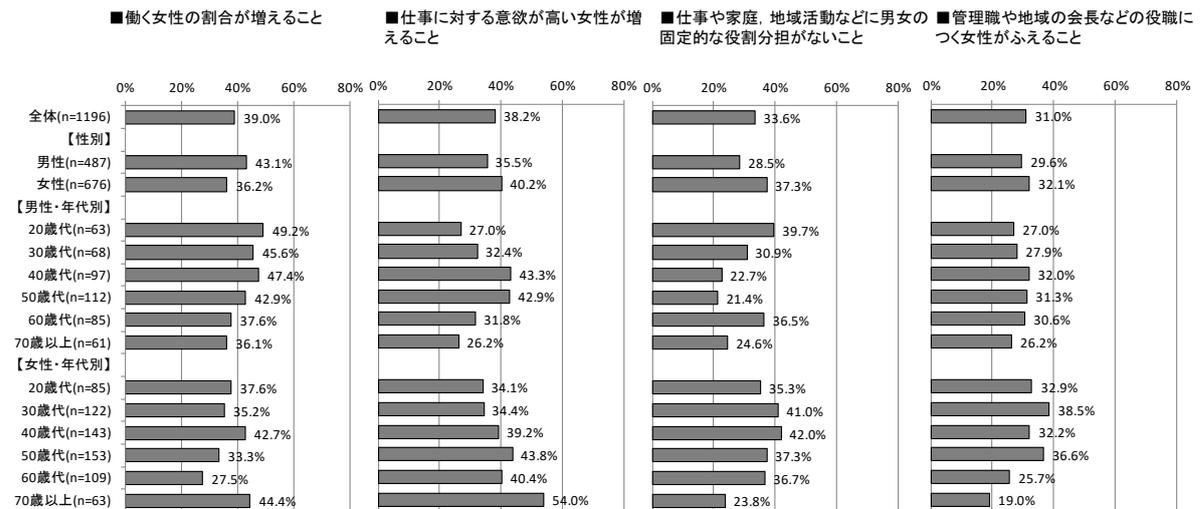
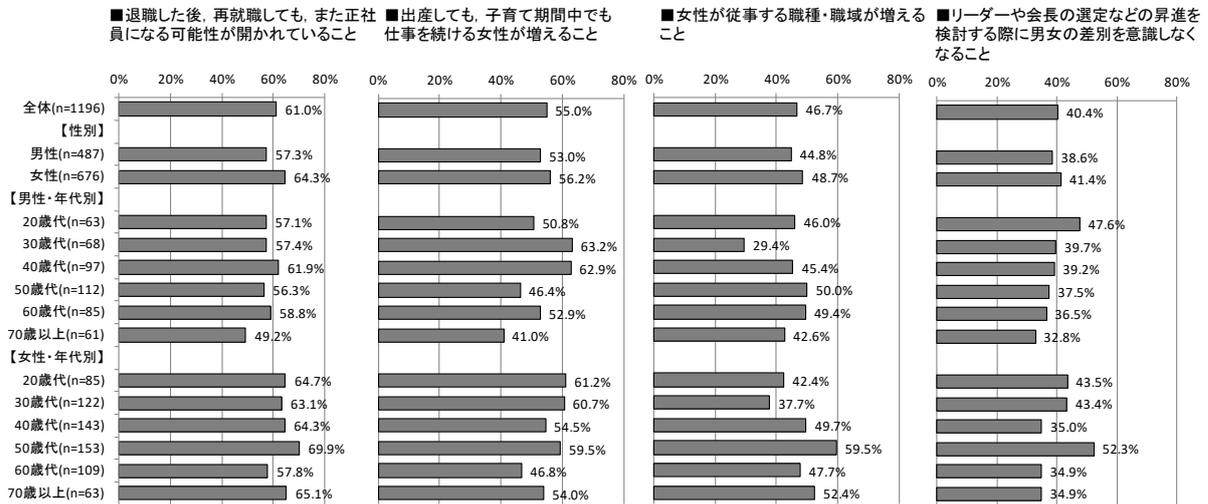


項目	回答数	構成比
女性の勤続年数が長くなること	306	25.6%
出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること	658	55.0%
退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること	730	61.0%
働く女性の割合が増えること	466	39.0%
自ら会社・事業を経営する女性が増えること	221	18.5%
女性が従事する職種・職域が増えること	559	46.7%
仕事に対する意欲が高い女性が増えること	457	38.2%
管理職や地域の会長などの役職につく女性が増えること	371	31.0%
リーダーや会長の選定などの昇進を検討する際に男女の差別を意識しなくなること	483	40.4%
仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと	402	33.6%
その他	13	1.1%
無回答	35	2.9%
回答者数	1,196	

## 【性別、性・年代別クロス】

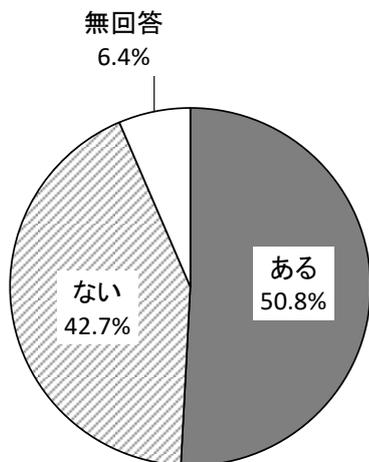
性別では、ほとんどの項目で男性よりも女性の方が必要だと思うという回答が多くなっています。

性・年代別では、女性の50歳代で「退職したあと、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が必要だと思うという回答で最も多くなっています。



問20 あなたは、下記の間20-1の理由で退職した経験がありますか。(○は1つだけ)

退職した経験があるかについては、「ある」が50.8%、「ない」が42.7%となっています。

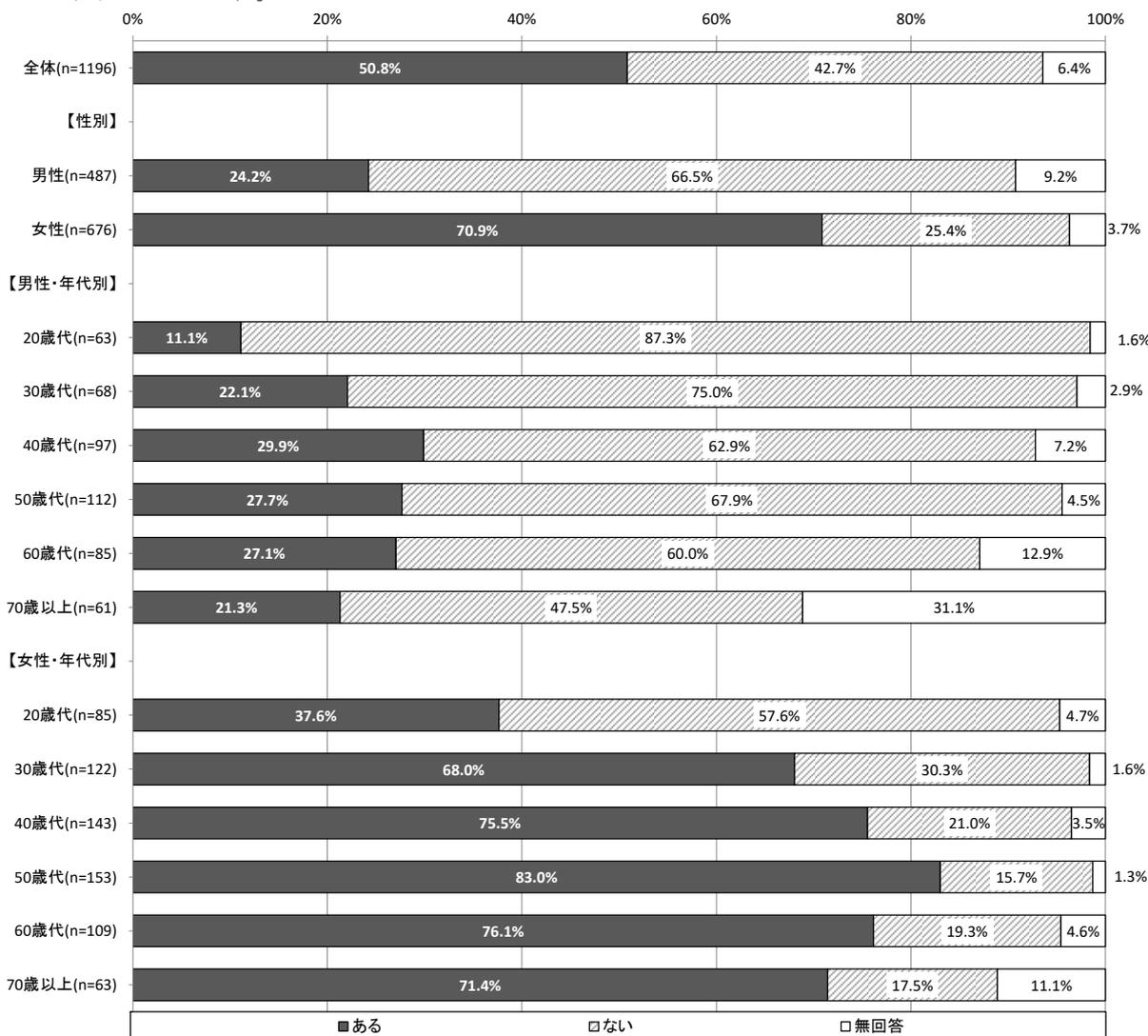


項目	回答数	構成比
ある	608	50.8%
ない	511	42.7%
無回答	77	6.4%
合計	1,196	100.0%

【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「ある」という回答が多く、女性の約7割は退職した経験が「ある」と回答しています。

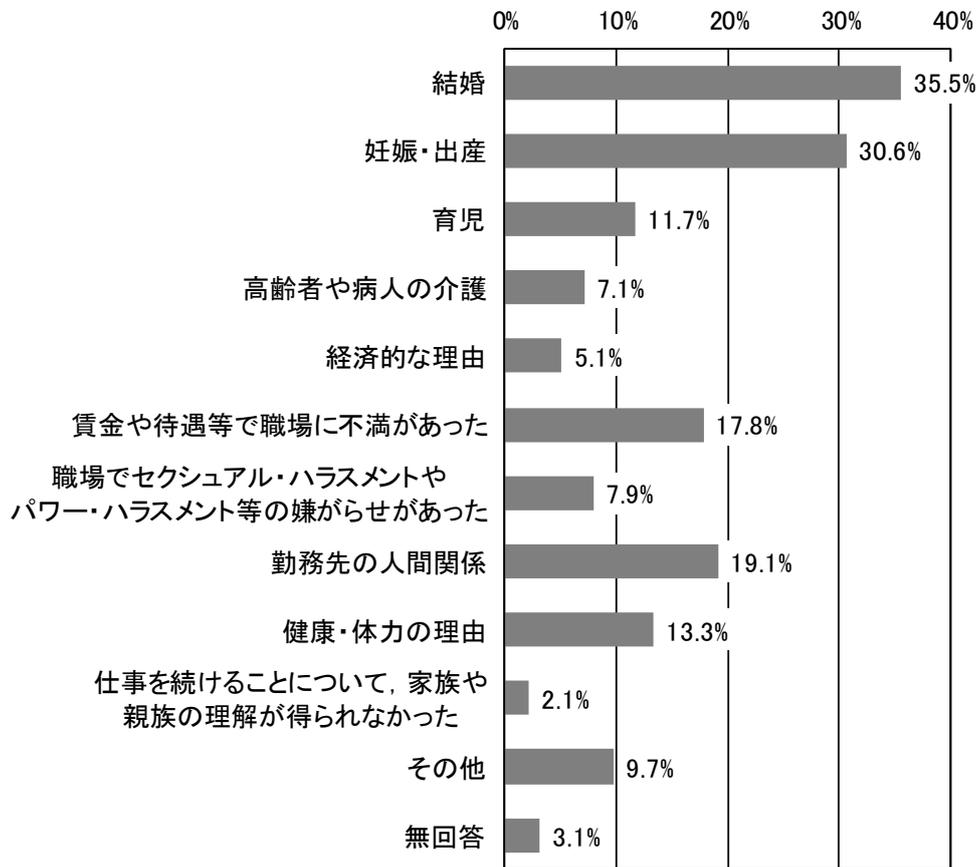
性・年代別では、男性は40歳代、女性は50歳代で「ある」という回答がそれぞれ最も多くなっています。



《問20で、「1. ある」に○をつけた方にお尋ねします。》

問20-1 退職した理由はなんでしょうか。(あてはまる番号すべてに○)

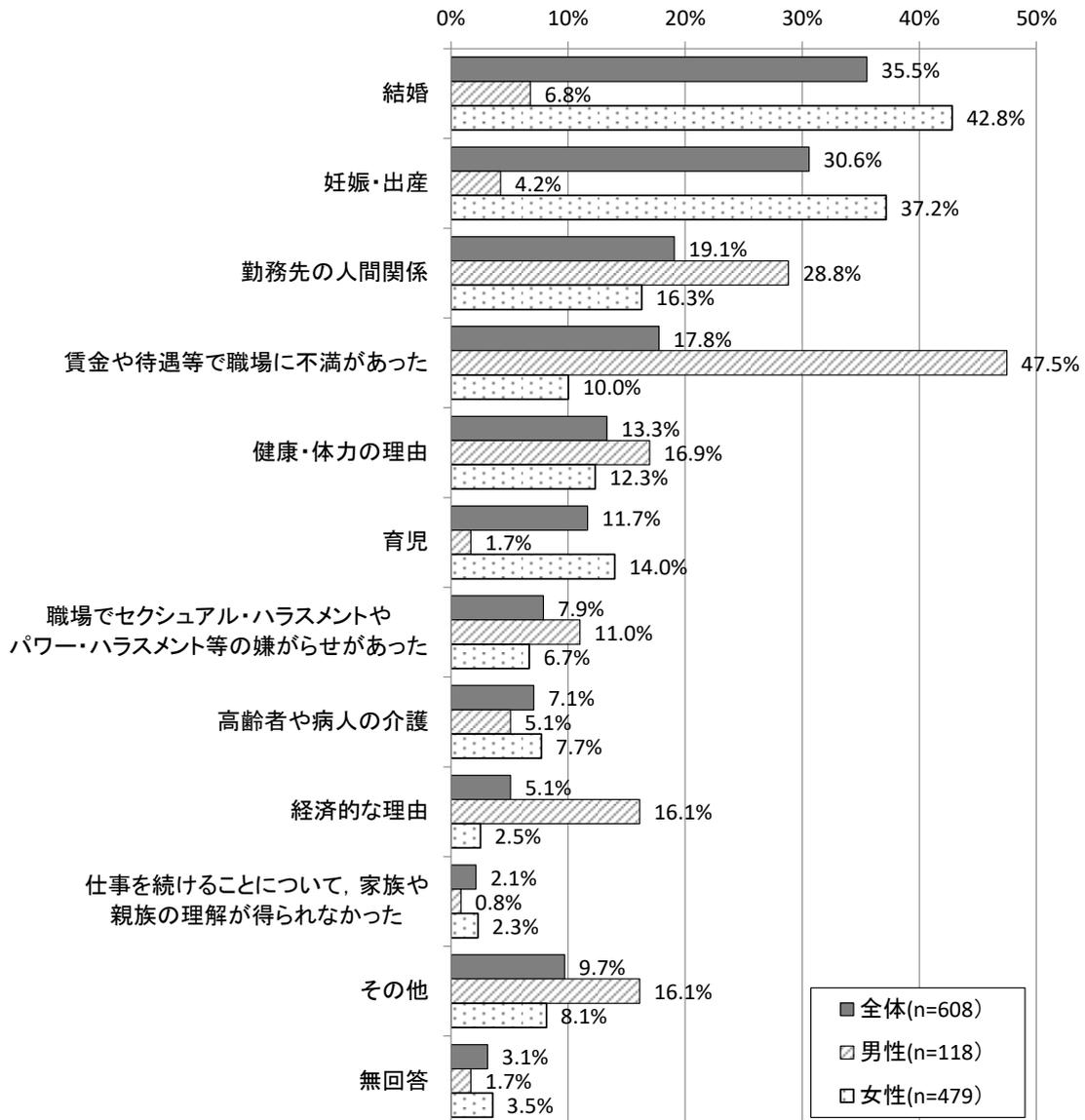
退職した理由については、「結婚」が35.5%で最も多く、次いで「妊娠・出産」が30.6%、「勤務先の人間関係」が19.1%となっています。



項目	回答数	構成比
結婚	216	35.5%
妊娠・出産	186	30.6%
育児	71	11.7%
高齢者や病人の介護	43	7.1%
経済的な理由	31	5.1%
賃金や待遇等で職場に不満があった	108	17.8%
職場でセクシュアル・ハラスメントや パワー・ハラスメント等の嫌がらせがあった	48	7.9%
勤務先の人間関係	116	19.1%
健康・体力の理由	81	13.3%
仕事を続けることについて、家族や 親族の理解が得られなかった	13	2.1%
その他	59	9.7%
無回答	19	3.1%
回答者数	608	
非該当	588	
合計	1,196	

## 【性別クロス】

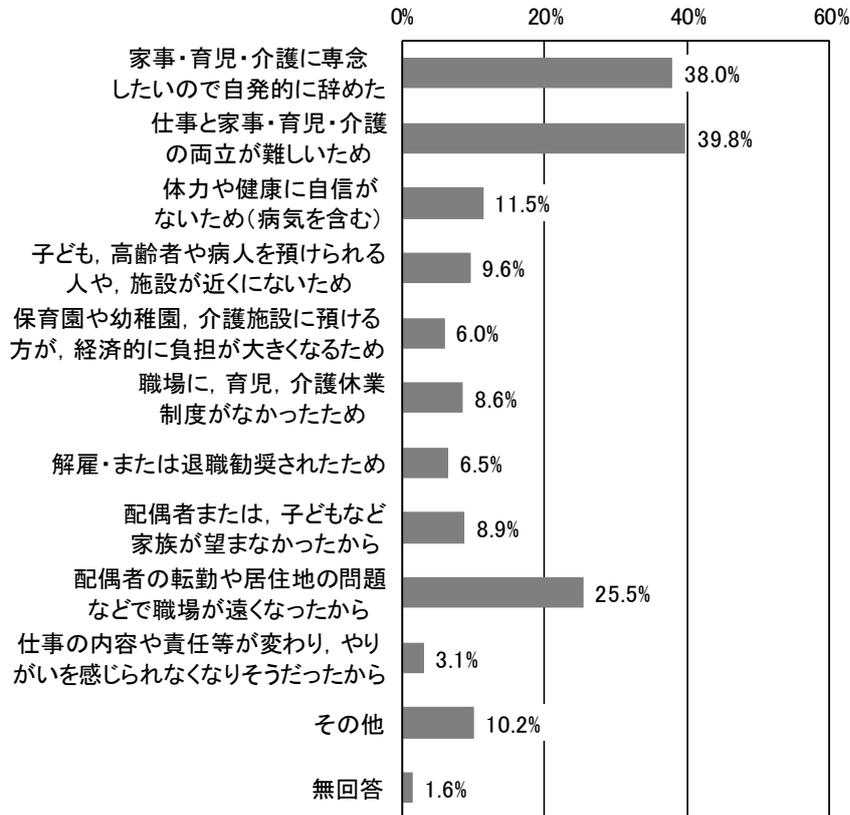
性別では、男性は、「賃金や待遇等で職場に不満があった」、「勤務先の人間関係」という回答が多くなっていますが、女性は、「結婚」、「妊娠・出産」という回答が多くなっています。



《問20-1で、「1. 結婚」、「2. 妊娠・出産」、「3. 育児」、「4. 高齢者や病人の介護」と回答した方にお尋ねします。》

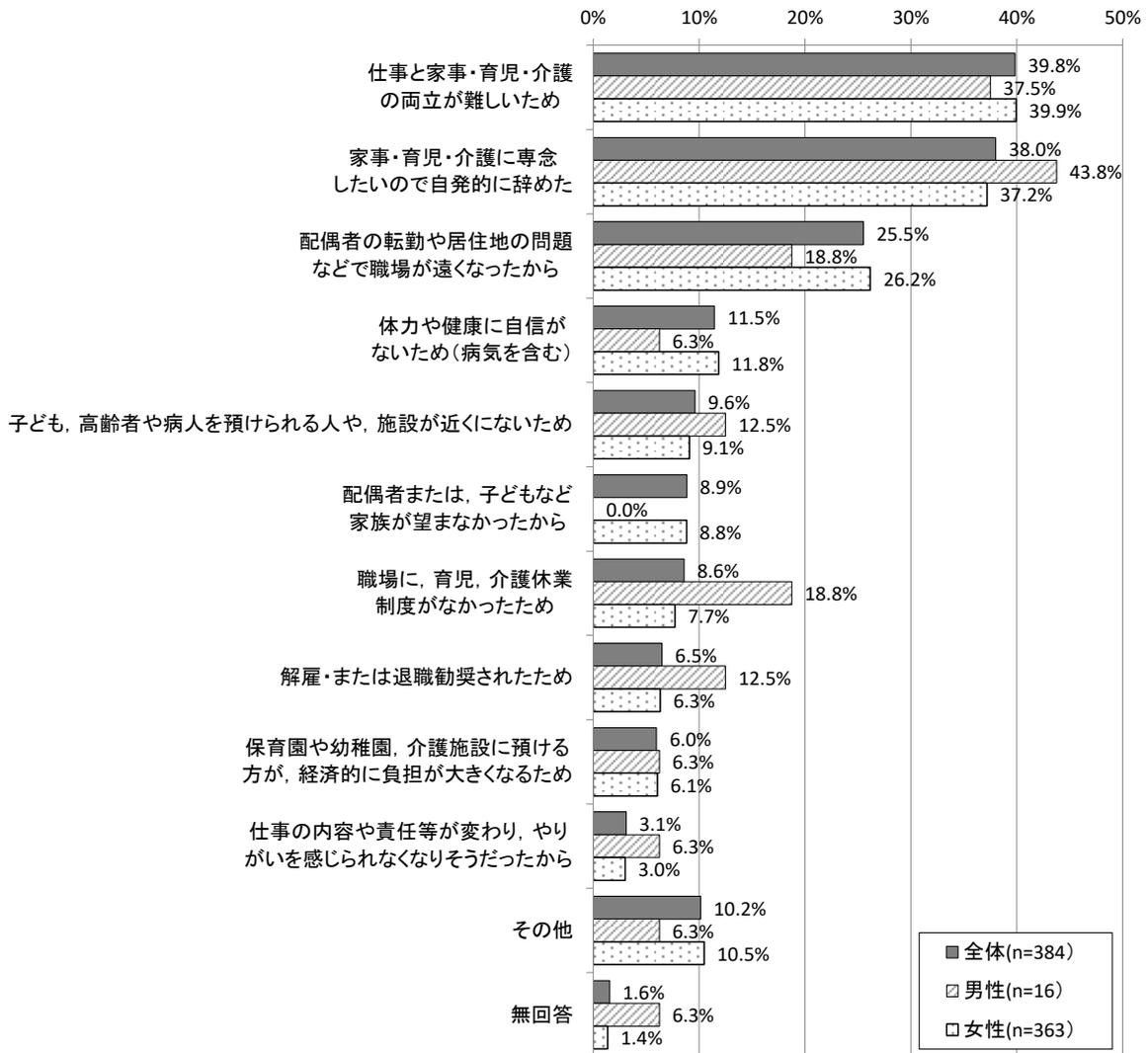
問21 具体的な理由は、どれに該当しますか。(あてはまる番号すべてに○)

退職した具体的な理由については、「仕事と家事・育児・介護の両立が難しいため」が39.8%で最も多く、次いで「家事・育児・介護に専念したいので自発的に辞めた」が38.0%となっています。



項目	回答数	構成比
家事・育児・介護に専念したいので自発的に辞めた	146	38.0%
仕事と家事・育児・介護の両立が難しいため	153	39.8%
体力や健康に自信がないため(病気を含む)	44	11.5%
子ども、高齢者や病人を預けられる人や、施設が近くにないため	37	9.6%
保育園や幼稚園、介護施設に預ける方が、経済的に負担が大きくなるため	23	6.0%
職場に、育児、介護休業制度がなかったため	33	8.6%
解雇・または退職勧奨されたため	25	6.5%
配偶者または、子どもなど家族が望まなかったから	34	8.9%
配偶者の転勤や居住地の問題などで職場が遠くなったから	98	25.5%
仕事の内容や責任等が変わり、やりがいを感じられなくなりそうだったから	12	3.1%
その他	39	10.2%
無回答	6	1.6%
回答者数	384	
非該当	812	
合計	1,196	

## 【性別クロス】

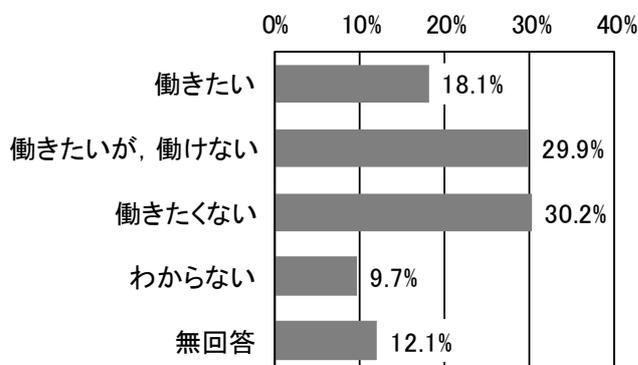


※男性の母集団が少ないため比較はなし

《F5で、「7. 専業主婦(夫)」、「8. 無職」に○をつけた方にお尋ねします。》

問22 あなたは、今後、働きたいと思いますか(起業を含む)。(○は1つだけ)

今後働きたいかについては、「働きたくない」が30.2%で最も多く、次いで「働きたいが、働けない」が29.9%となっています。

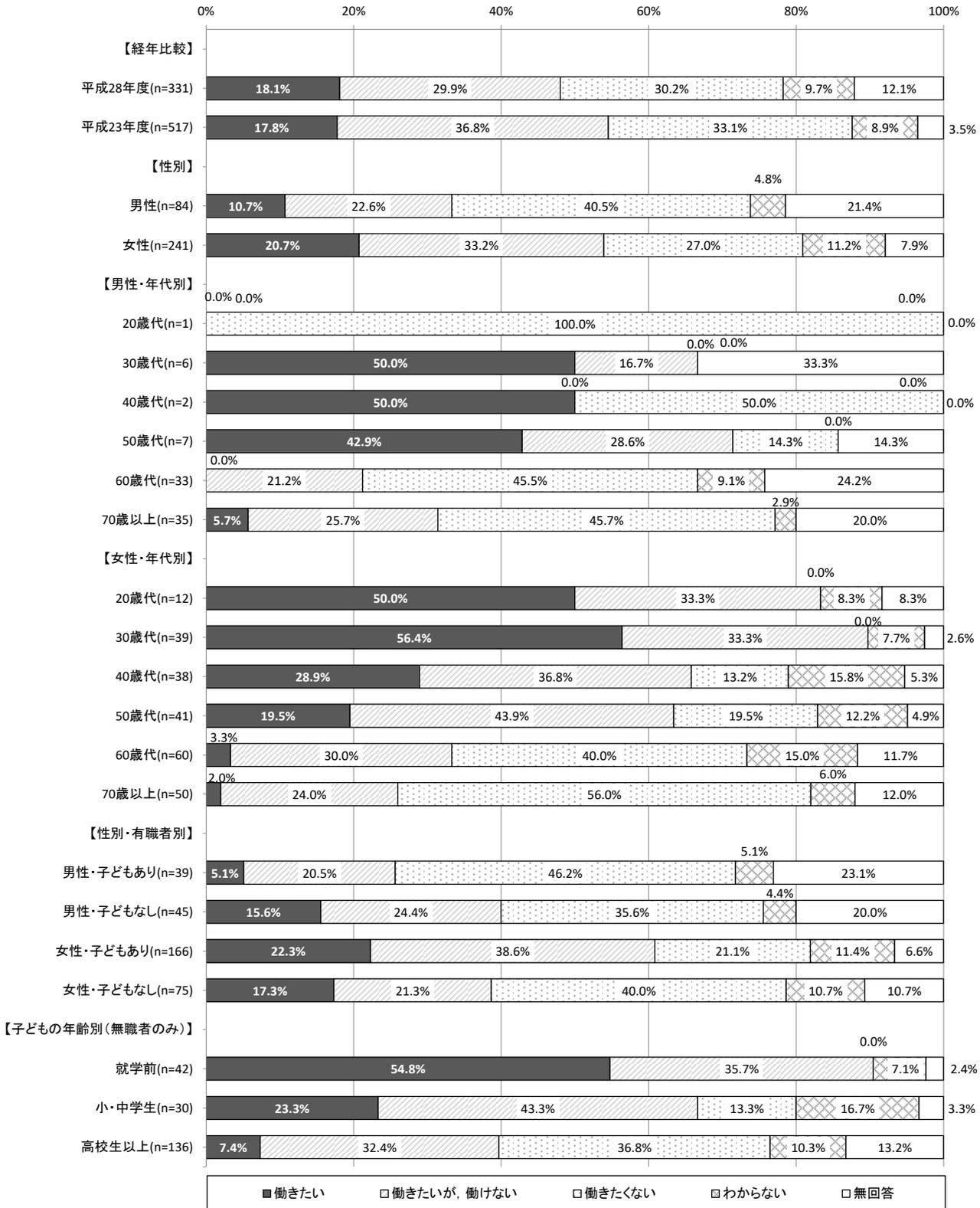


項目	回答数	構成比
働きたい	60	18.1%
働きたいが、働けない	99	29.9%
働きたくない	100	30.2%
わからない	32	9.7%
無回答	40	12.1%
回答者数	331	100.0%
非該当	865	
合計	1,196	

### 【経年比較, 性別, 性・年代別, 子どもの有無, 子どもの年齢別クロス】

前回調査と比較すると、「働きたいが、働けない」という回答が 6.9 ポイント少なくなっています。

性別では、男性よりも女性の方が「働きたい」、「働きたいが、働けない」という回答が多く、女性よりも男性の方が「働きたくない」という回答が多くなっています。

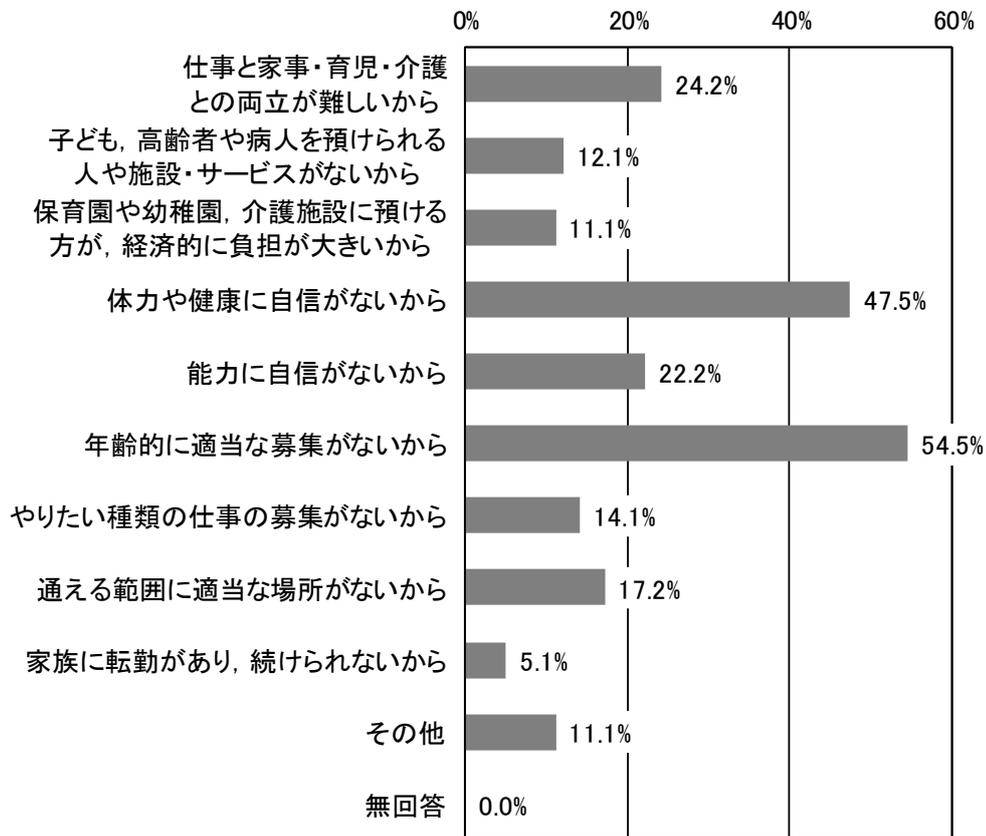


※経年比較, 性別以外は母集団が少ないため比較はなし

《問22で、「2. 働きたいが、働けない」と回答した方にお尋ねします。》

問23 あなたが働けない主な理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

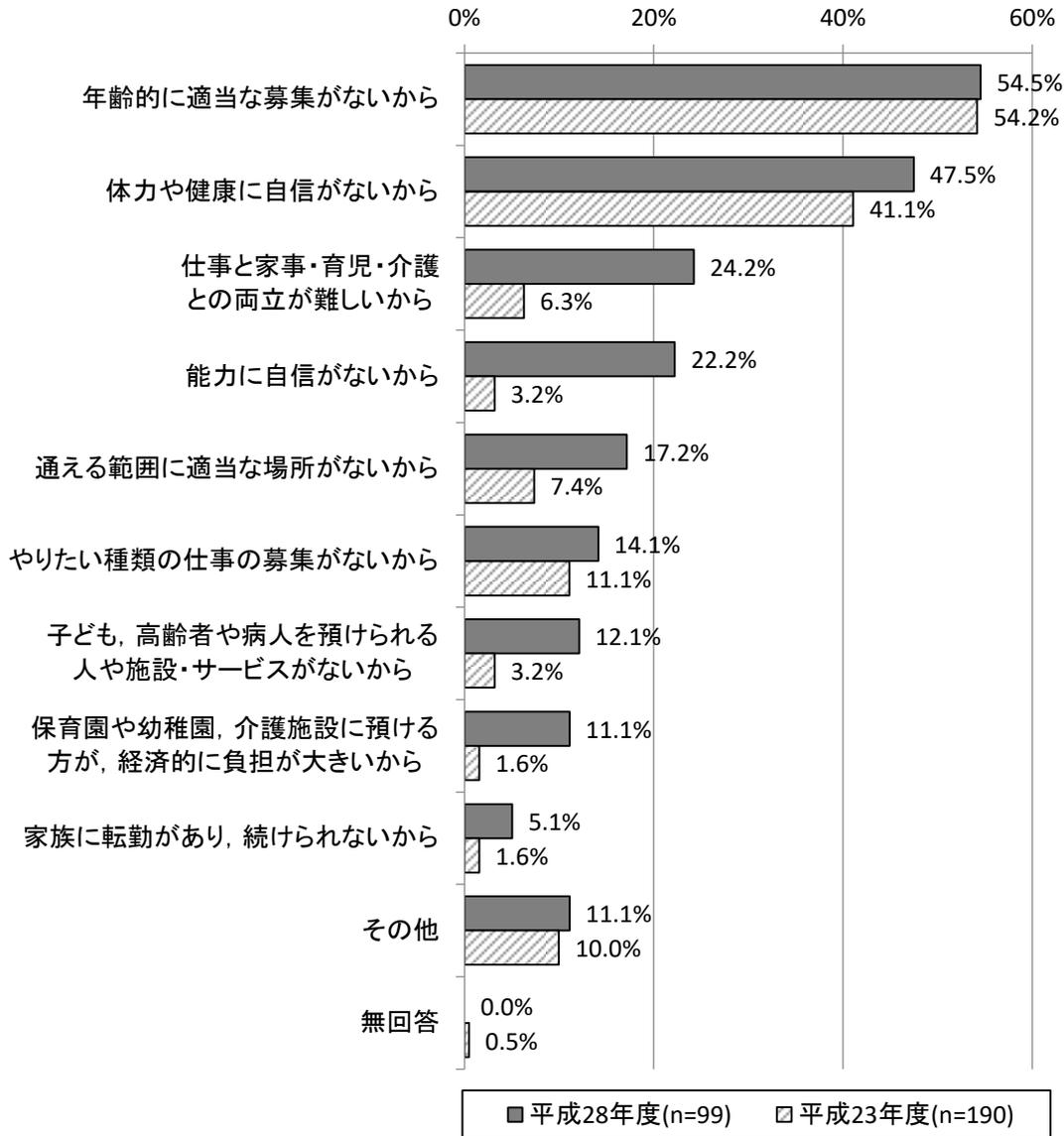
働けない理由については、「年齢的に適当な募集がないから」が 54.5%で最も多く、次いで「体力や健康に自信がないから」が 47.5%となっています。



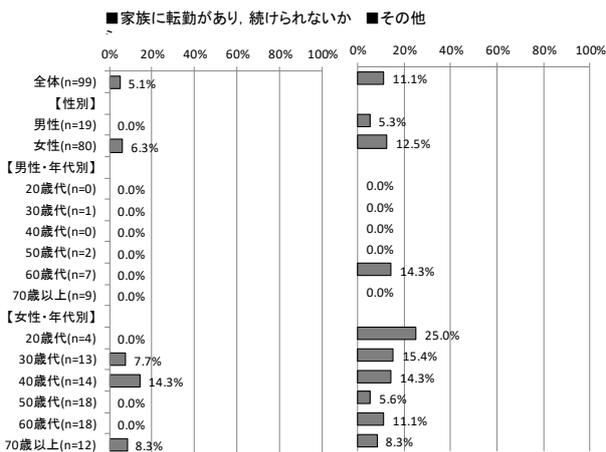
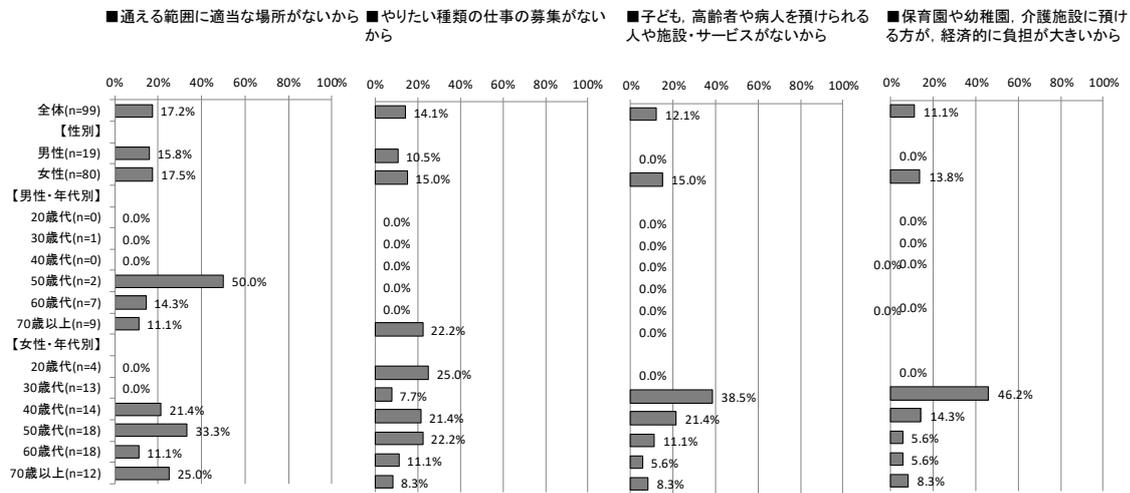
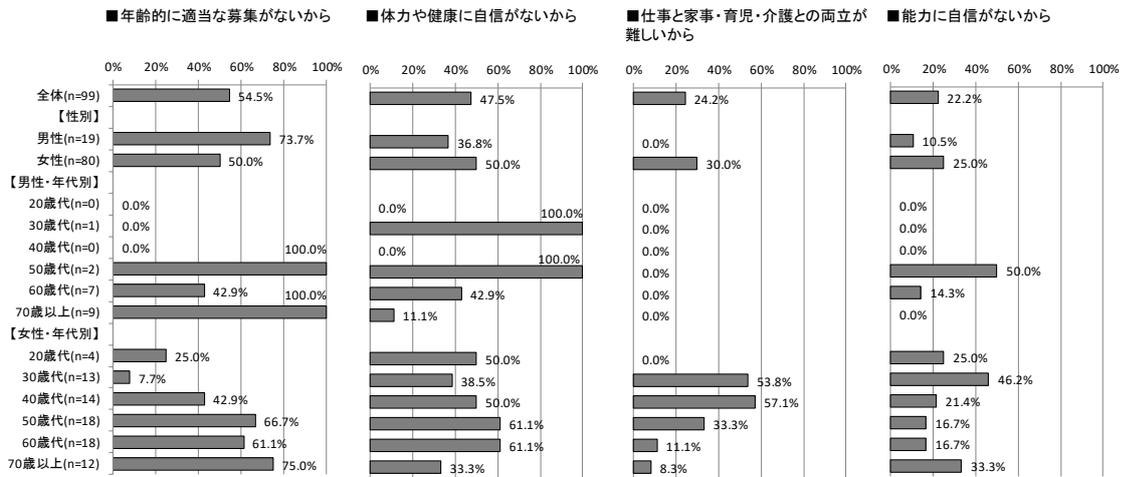
項目	回答数	構成比
仕事と家事・育児・介護との両立が難しいから	24	24.2%
子ども、高齢者や病人を預けられる人や施設・サービスがないから	12	12.1%
保育園や幼稚園、介護施設に預ける方が、経済的に負担が大きいから	11	11.1%
体力や健康に自信がないから	47	47.5%
能力に自信がないから	22	22.2%
年齢的に適当な募集がないから	54	54.5%
やりたい種類の仕事の募集がないから	14	14.1%
通える範囲に適当な場所がないから	17	17.2%
家族に転勤があり、続けられないから	5	5.1%
その他	11	11.1%
無回答	0	0.0%
回答者数	99	
非該当	1,097	
合計	1,196	

## 【経年比較】

前回調査と比較すると、全ての項目において回答が増加しています。特に「仕事と家事・育児・介護との両立が難しいから」、「能力に自信がないから」では、前回調査との差が大きくなっています。



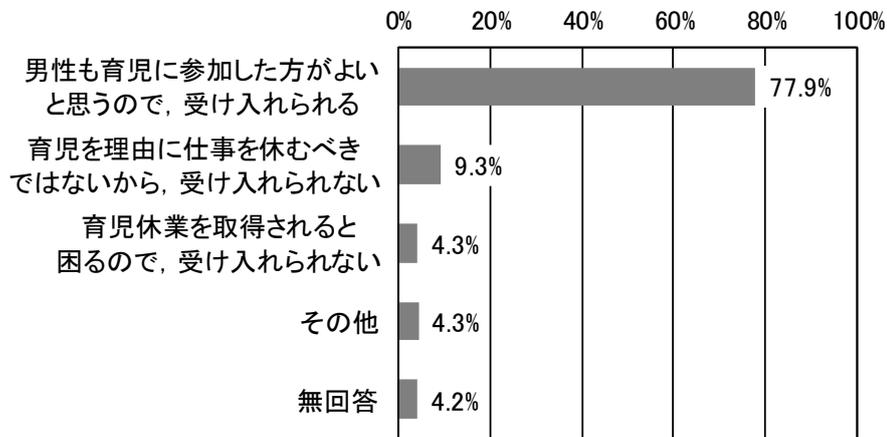
## 【性別, 性・年代別クロス】



※母集団が少ないため比較はなし

問24 あなたは、男性の育児休業取得について受け入れられますか。(○は1つだけ)

男性の育児休業取得については、「男性も育児に参加した方がよいと思うので、受け入れられる」が77.9%で最も多くなっています。

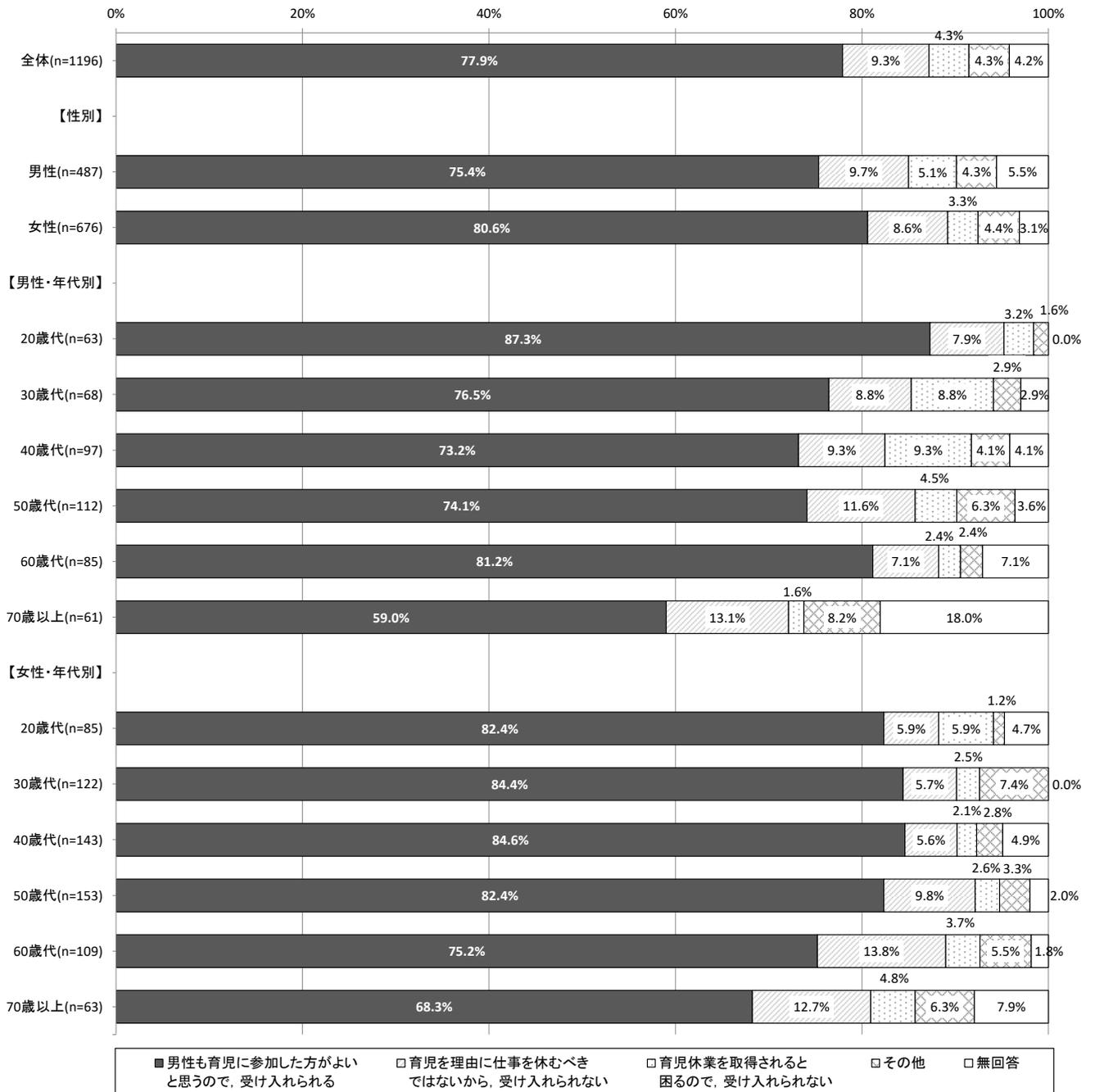


項目	回答数	構成比
男性も育児に参加した方がよいと思うので、受け入れられる	932	77.9%
育児を理由に仕事を休むべきではないから、受け入れられない	111	9.3%
育児休業を取得されると困るので、受け入れられない	51	4.3%
その他	52	4.3%
無回答	50	4.2%
合計	1,196	100.0%

## 【性別、性・年代別クロス】

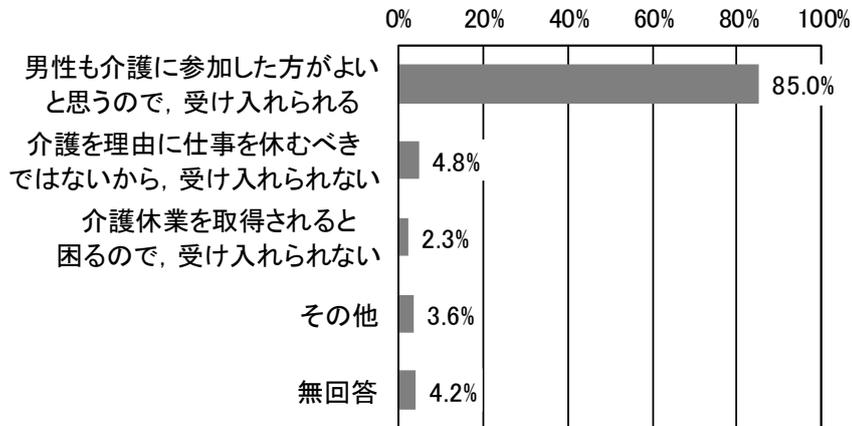
性別では、男性よりも女性の方が「男性も育児に参加した方がよいと思うので、受け入れられる」という回答が多くなっています。

性・年代別では、男女ともに70歳以上で「男性も育児に参加した方がよいと思うので、受け入れられる」という回答が最も少なくなっています。



問25 あなたは、男性の介護休業取得について受け入れられますか。(○は1つだけ)

男性の介護休業取得については、「男性も介護に参加した方がよいと思うので、受け入れられる」が85.0%で最も多くなっています。

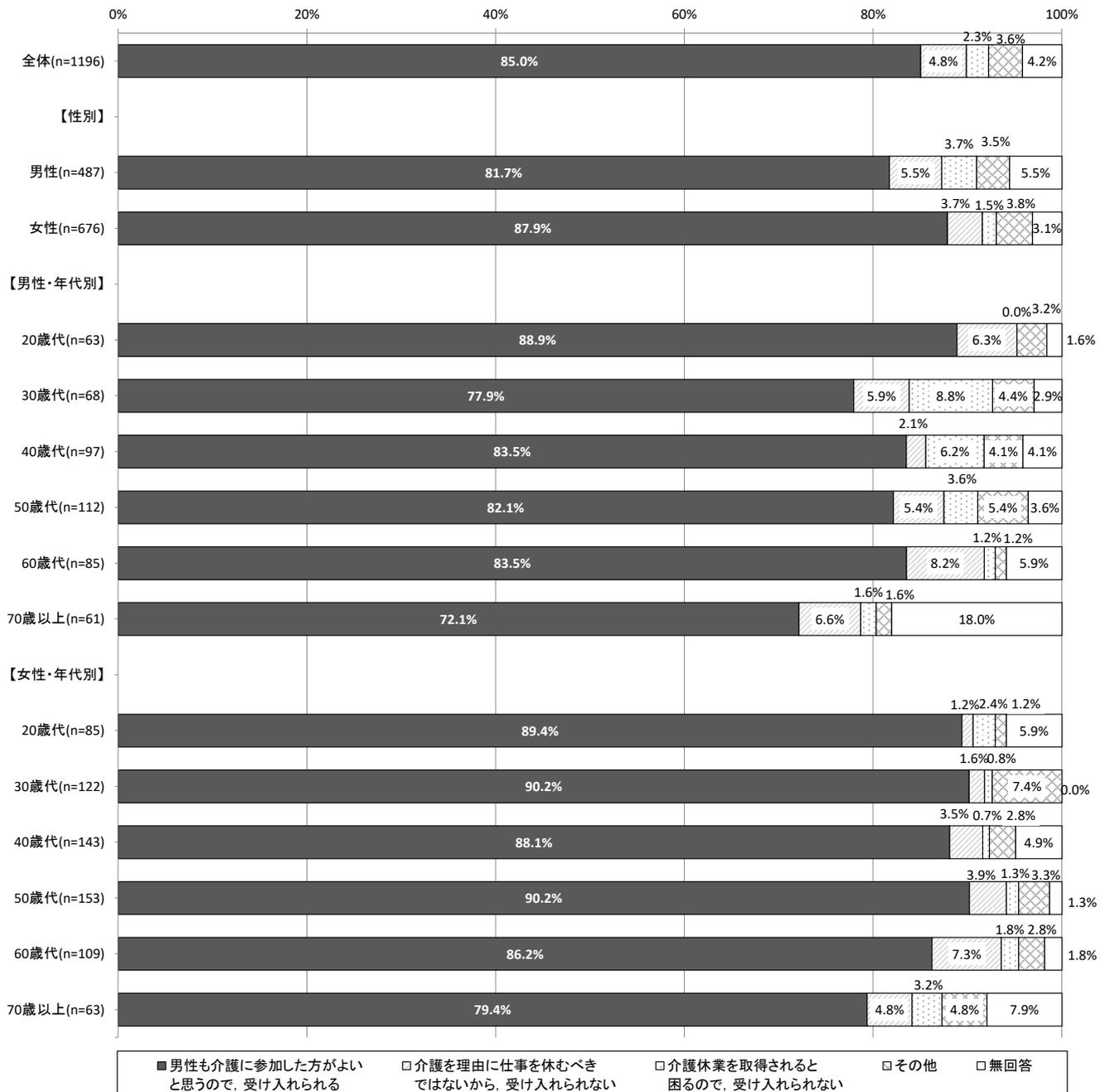


項目	回答数	構成比
男性も介護に参加した方がよいと思うので、受け入れられる	1,017	85.0%
介護を理由に仕事を休むべきではないから、受け入れられない	58	4.8%
介護休業を取得されると困るので、受け入れられない	28	2.3%
その他	43	3.6%
無回答	50	4.2%
合計	1,196	100.0%

## 【性別、性・年代別クロス】

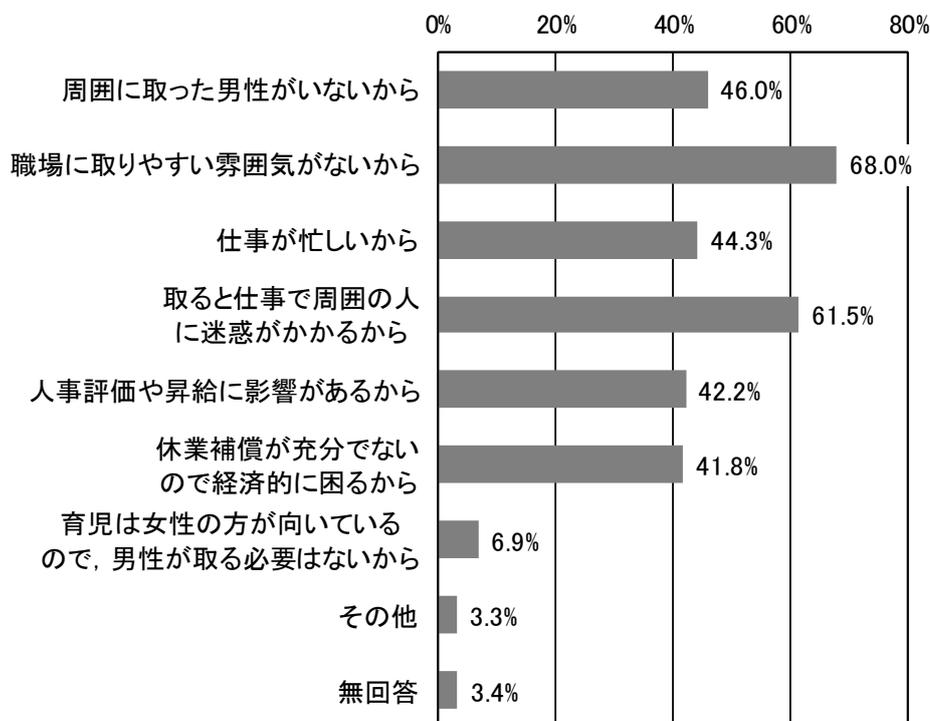
性別では、男性よりも女性の方が「男性も介護に参加した方がよいと思うので、受け入れられる」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は、年代が上がるに従い「男性も介護に参加した方がよいと思うので、受け入れられる」という回答が少なくなっています。男性は、20歳代が「男性も介護に参加した方がよいと思うので、受け入れられる」という回答が最も多く約9割となっています。



問26 男性が育児休業を取得しづらい理由は何だと思いますか。  
(あてはまる番号すべてに○)

男性が育児休業を取得しづらい理由については、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が68.0%で最も多く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が61.5%となっています。

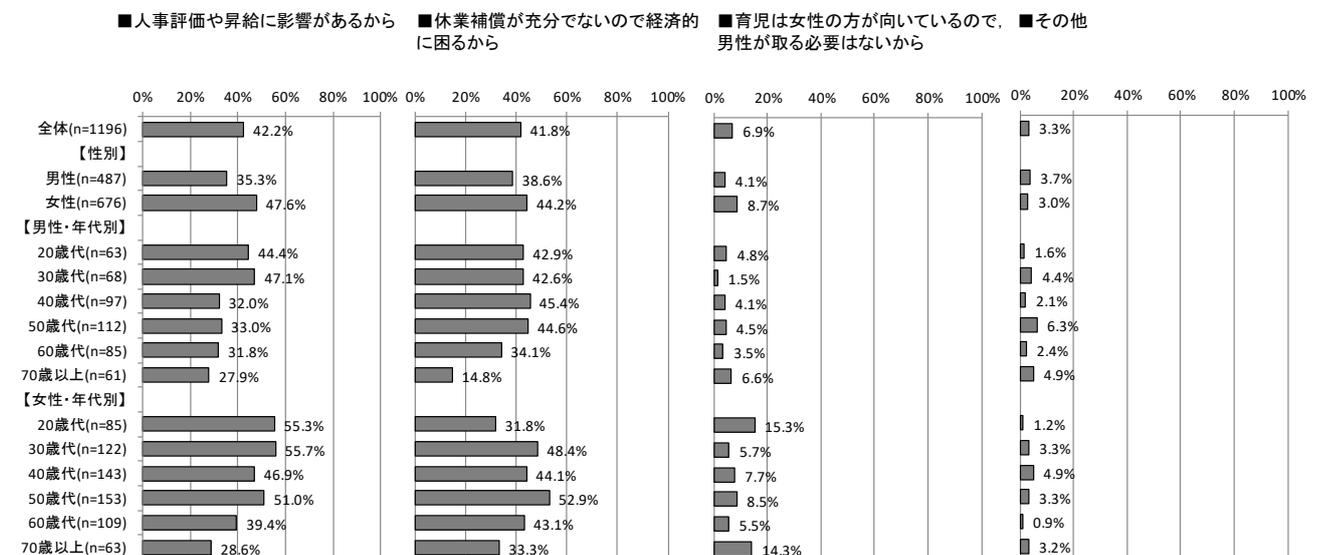
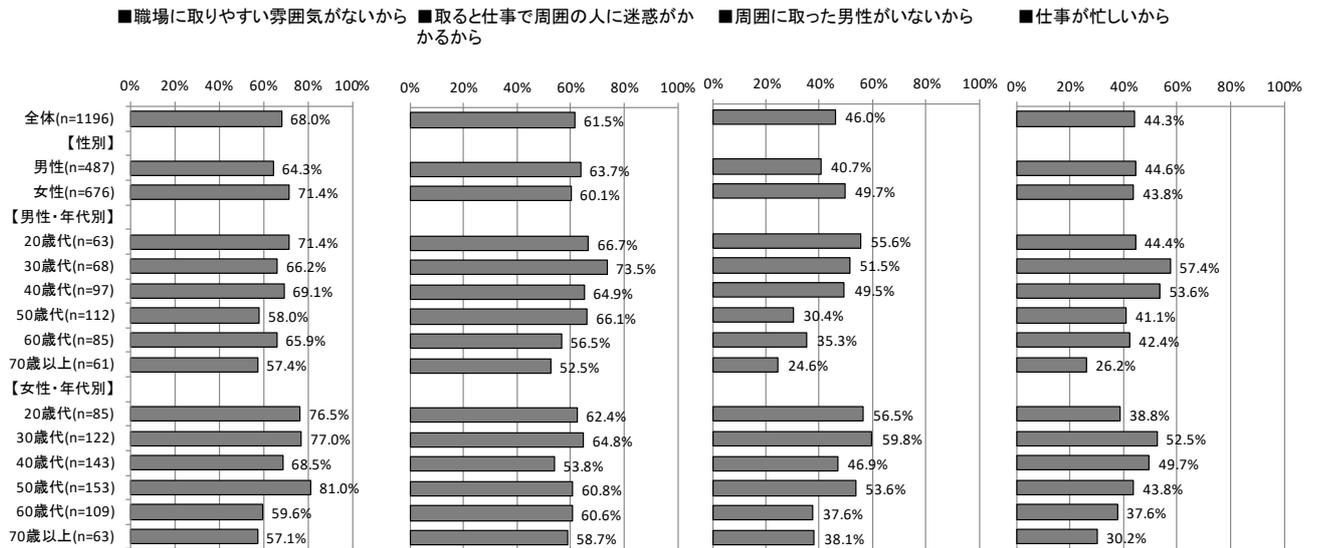


項目	回答数	構成比
周囲に取った男性がないから	550	46.0%
職場に取りやすい雰囲気がないから	813	68.0%
仕事が忙しいから	530	44.3%
取ると仕事で周囲の人に 迷惑がかかるから	736	61.5%
人事評価や昇給に影響があるから	505	42.2%
休業補償が充分でない ので経済的に困るから	500	41.8%
育児は女性の方が向いている ので、男性が取る必要はないから	83	6.9%
その他	39	3.3%
無回答	41	3.4%
回答者数	1,196	

## 【性別、性・年代別クロス】

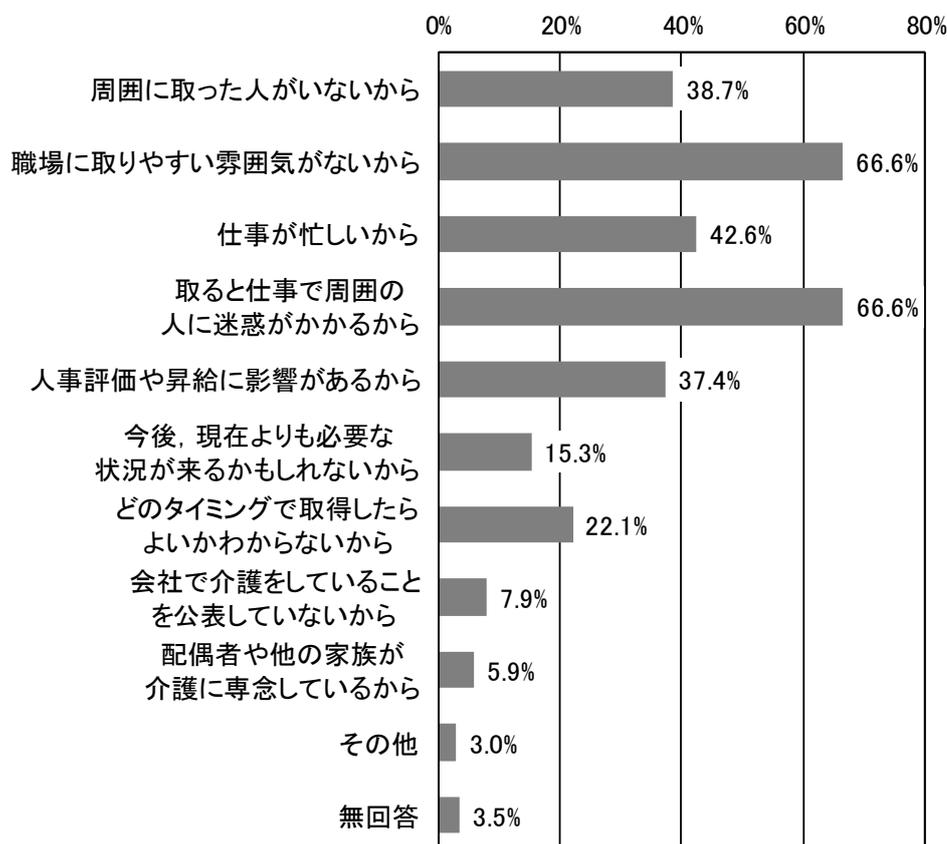
性別では、ほとんどの項目で男性よりも女性の方の回答が多くなっていますが、女性よりも男性の方の回答が特に多くなっている項目は、「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかる」となっています。

性・年代別では、特に「周囲に取った男性がいないから」、「仕事が忙しいから」、「人事評価や昇給に影響があるから」の項目で、年代が上がるに従い回答が少なくなっています。



問27 男女ともに介護休業を取得しづらい理由は何だと思えますか。  
(あてはまる番号すべてに○)

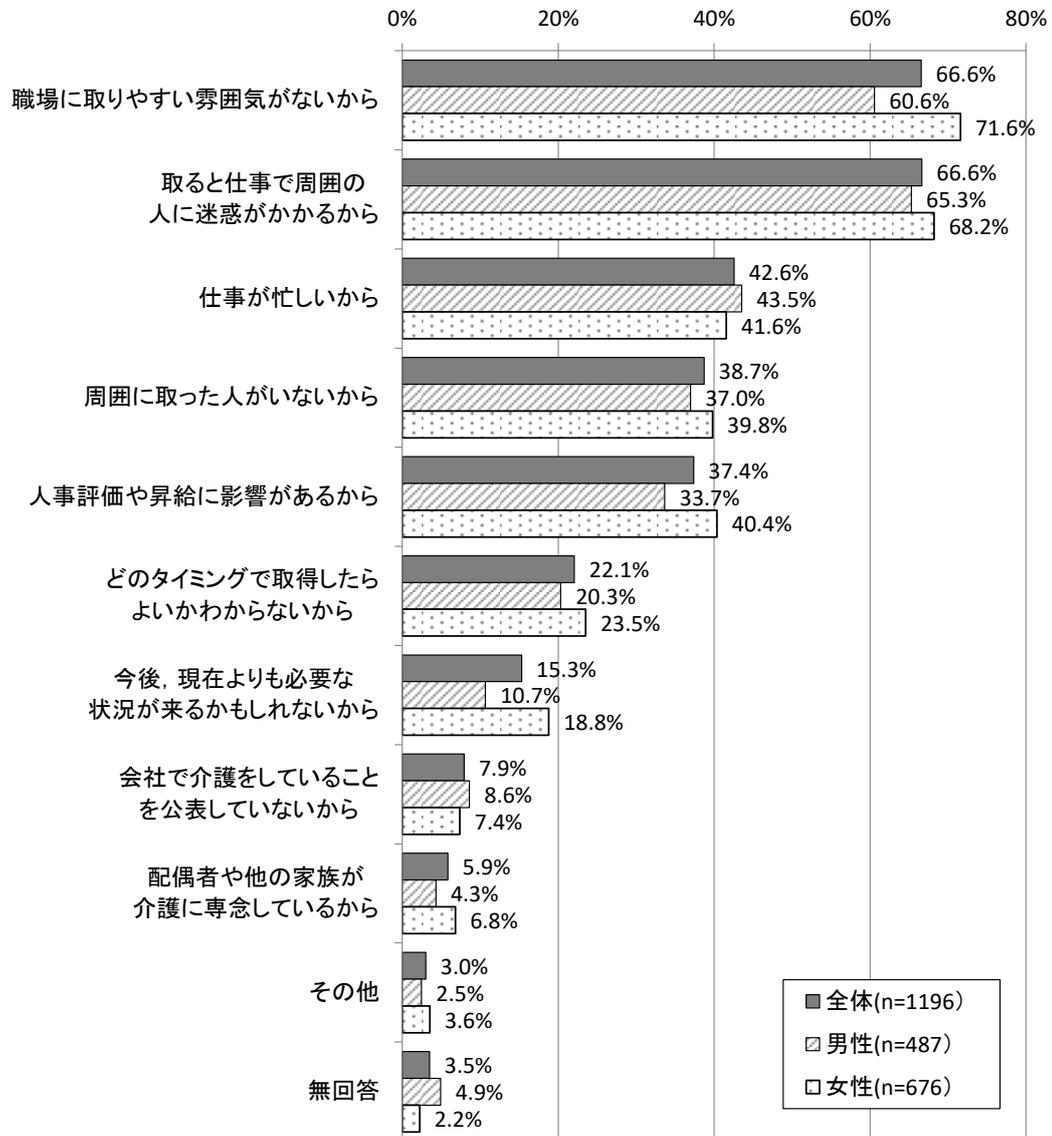
男女ともに介護休業を取得しづらい理由については、「職場に取りやすい雰囲気がないから」と「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」がともに66.6%で最も多くなっています。



項目	回答数	構成比
周囲に取った人がいないから	463	38.7%
職場に取りやすい雰囲気がないから	796	66.6%
仕事が忙しいから	509	42.6%
取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから	797	66.6%
人事評価や昇給に影響があるから	447	37.4%
今後、現在よりも必要な状況が来るかもしれないから	183	15.3%
どのタイミングで取得したらよいかわからないから	264	22.1%
会社で介護をしていることを公表していないから	95	7.9%
配偶者や他の家族が介護に専念しているから	70	5.9%
その他	36	3.0%
無回答	42	3.5%
回答者数	1,196	

## 【性別クロス】

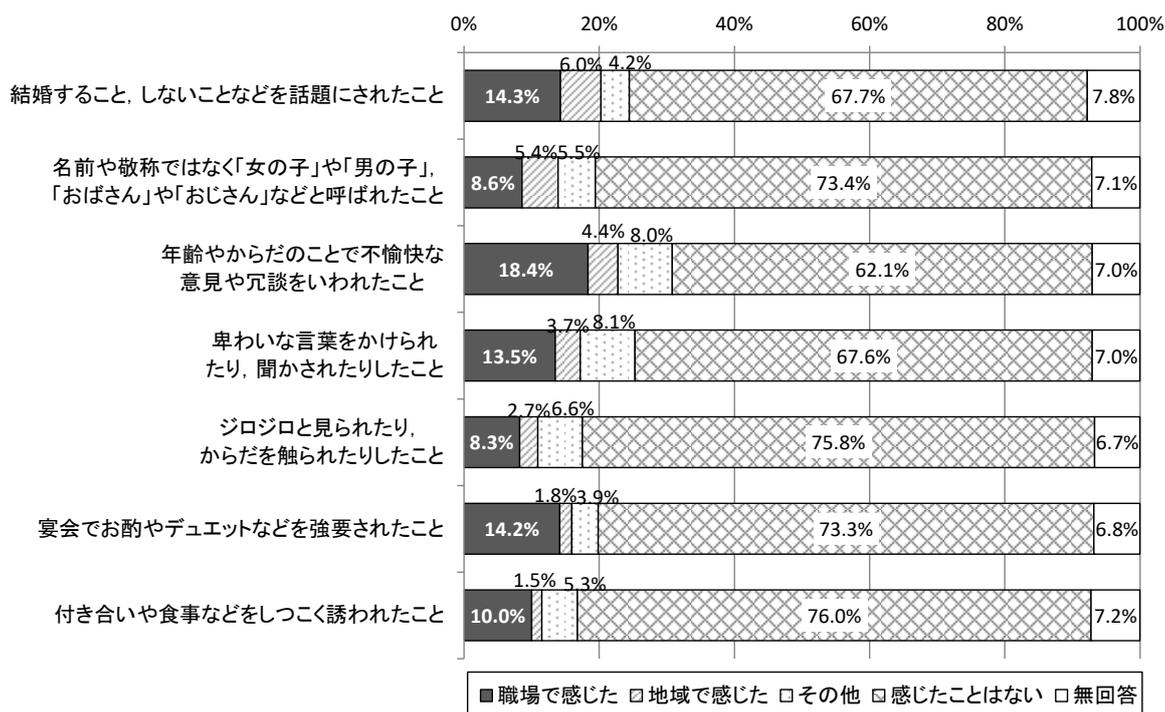
性別では、ほとんどの項目において男性よりも女性の回答が多くなっていますが、特に、「仕事が忙しいから」では、女性よりも男性の回答が多くなっています。なお、男女の差が大きい項目としては、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が11ポイント女性の回答の方が多くなっています。



## (8) 男女の人権について

問28 「セクシュアル・ハラスメント」(性的いやがらせ)についてお尋ねします。また、それはどこで感じましたか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

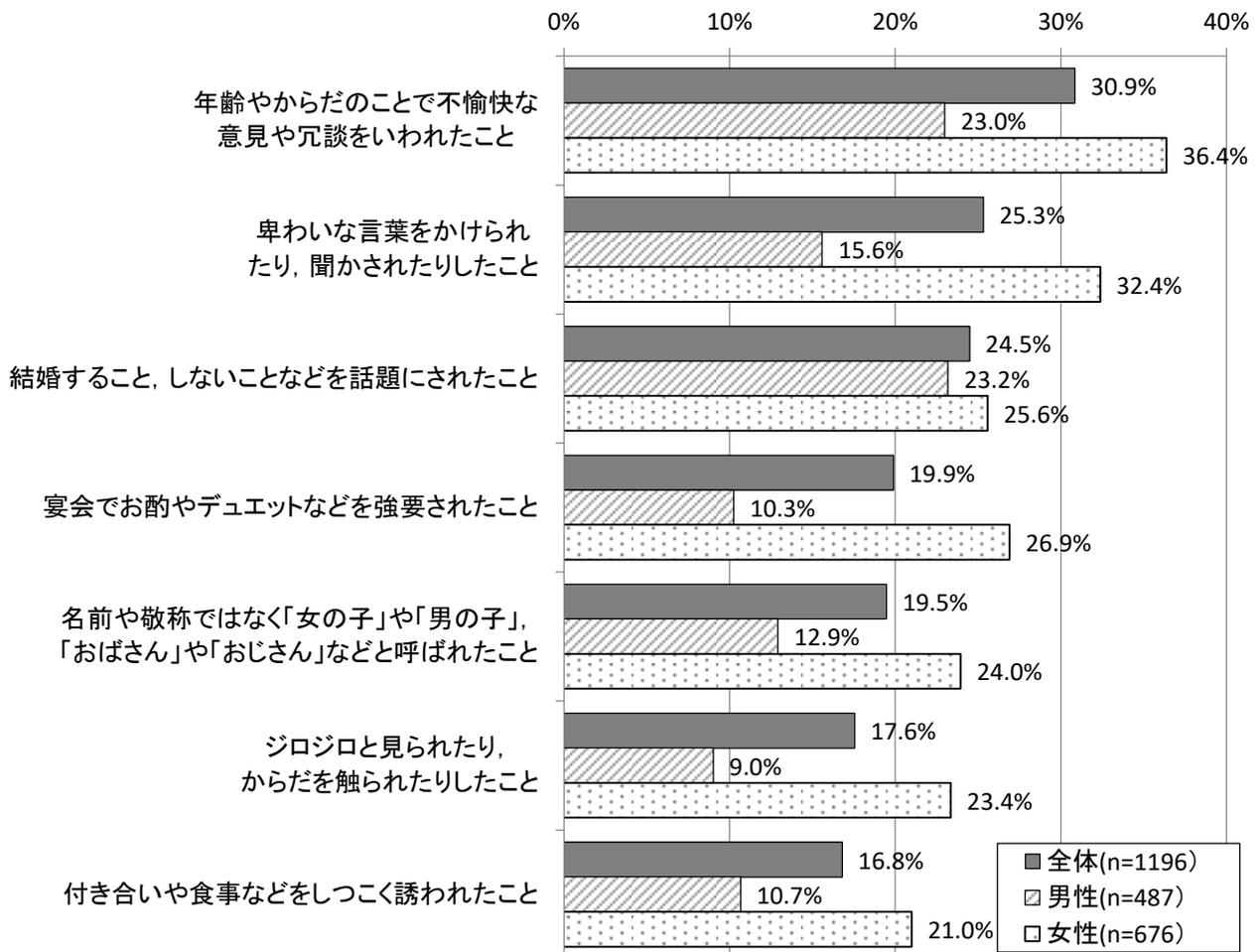
「セクシュアル・ハラスメント」をどこで感じたかについては、「感じたことはない」がすべての項目で6割を超えています。また、「職場で感じた」が多い項目は「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談をいわれたこと」が18.4%で多くなっています。



項目	感じたことがある			感じたことはない	無回答	合計
	職場で感じた	地域で感じた	その他			
結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	171	72	50	810	93	1,196
名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと	103	64	66	878	85	1,196
年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談をいわれたこと	220	53	96	743	84	1,196
卑わいな言葉をかけられたり、聞かされたりしたこと	162	44	97	809	84	1,196
ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと	99	32	79	906	80	1,196
宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと	170	21	47	877	81	1,196
付き合いや食事などをしつこく誘われたこと	120	18	63	909	86	1,196

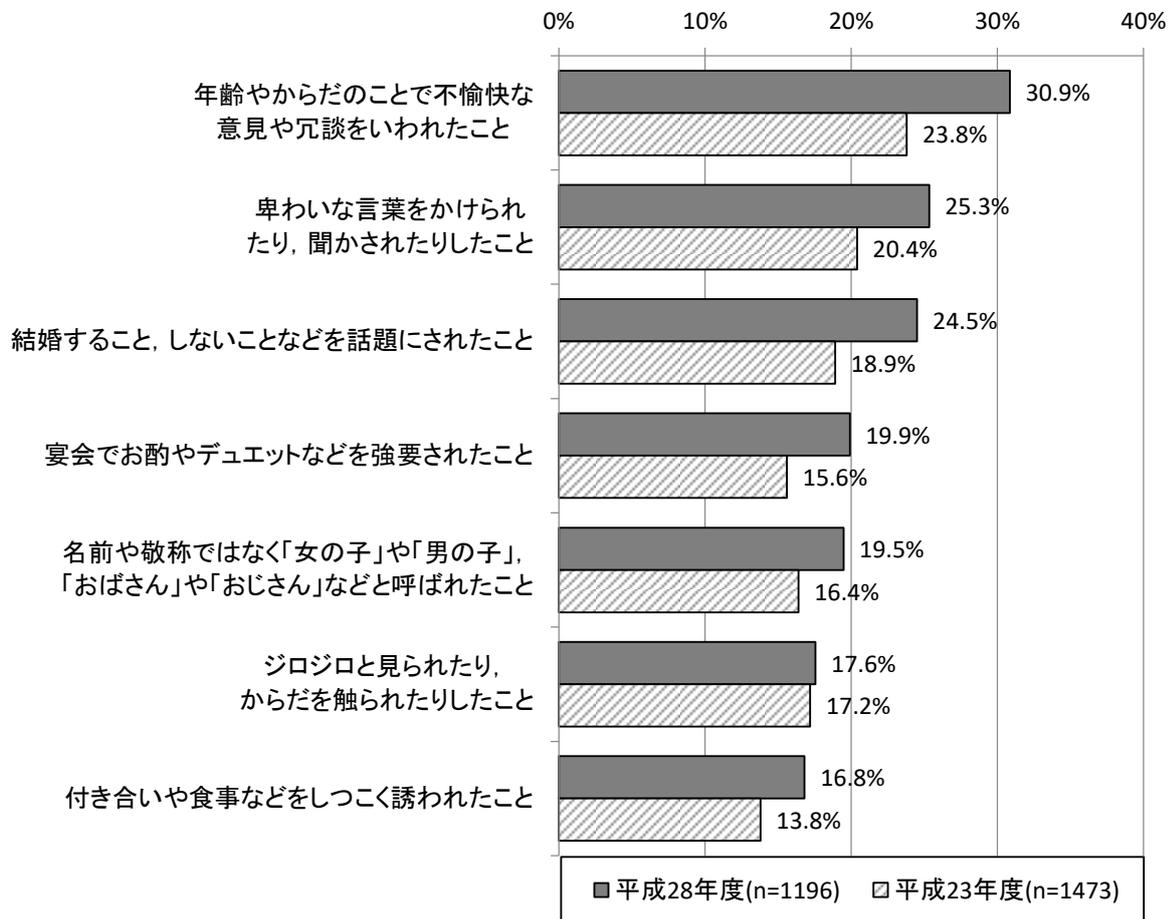
## ■セクシュアル・ハラスメントの経験【性別クロス】

性別では、全ての項目において男性よりも女性の方の回答が多くなっており、女性の2割以上の方が経験していると回答しています。なお、「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談をいわれたこと」、「結婚すること、しないことなどを話題にされたこと」については、男性でも2割以上の方が経験しています。



## ■セクシュアル・ハラスメントの経験【経年比較】

前回調査と比較すると、全ての項目で前回調査より経験したことがあると回答した方が多くなっています。特に「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談をいわれたこと」は前回調査に比べ7.1ポイント多くなっています。



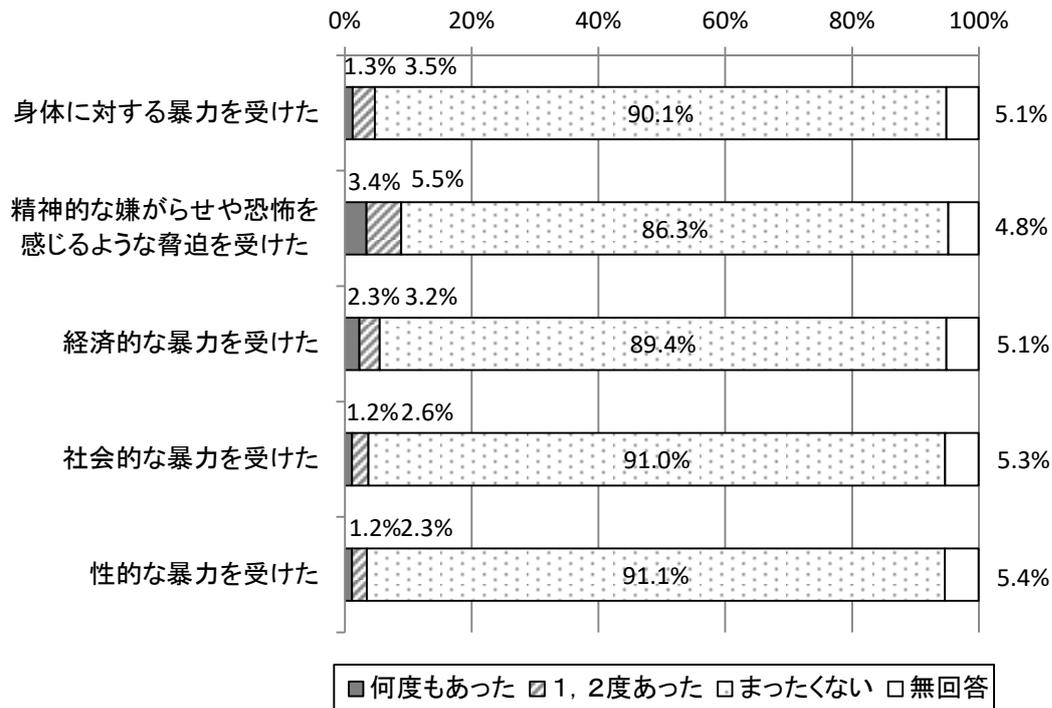
## ■セクシュアル・ハラスメントを感じた場所上位3つ【性別クロス】

職場では、男女ともに「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が第1位となっていますが、地域では、男性の「結婚すること、しないことなどを話題にされたこと」が第1位となり、女性は、「名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと」となっています。なお、その他の場所で、女性は「卑わいな言葉をかけられたり、聞かされたりしたこと」が第1位となっています。

		1位	2位	3位
職場	全体	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと
	n=1,196	18.4%	14.3%	14.2%
	男性	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	卑わいな言葉をかけられたり、聞かされたりしたこと
	n=487	12.3%	11.9%	8.2%
女性	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと	卑わいな言葉をかけられたり、聞かされたりしたこと	
n=676	22.8%	21.2%	17.5%	
地域	全体	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと
	n=1,196	6.0%	5.4%	4.4%
	男性	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと
	n=487	6.4%	4.1%	3.9%
女性	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	
n=676	6.2%	5.8%	4.7%	
その他	全体	卑わいな言葉をかけられたり、聞かされたりしたこと	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと
	n=1,196	8.1%	8.0%	6.6%
	男性	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと
	n=487	6.6%	4.9%	
女性	卑わいな言葉をかけられたり、聞かされたりしたこと	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと	
n=676	10.7%	8.9%	7.8%	

問29 あなたは過去2年間に配偶者や恋人から、下記のような暴力(DV又はデートDV)を受けた経験がありますか。  
(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

暴力を受けた経験については、「まったくない」が9割前後となっています。また、「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた(大声で怒鳴る, 嫌な写真を送りつける, 待ち伏せをするなど)」で「何度もあった」, 「1, 2度あった」という回答は8.9%となっています。

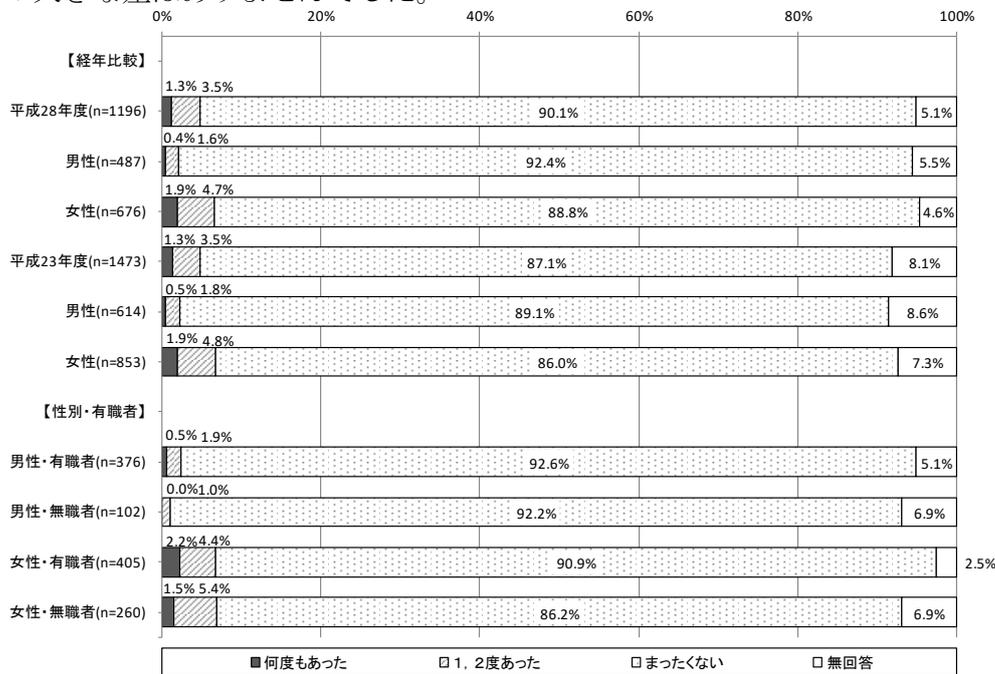


項目	何度もあった	1, 2度あった	まったくない	無回答	合計
身体に対する暴力を受けた(殴る, 蹴るなど)	15	42	1078	61	1,196
精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた(大声で怒鳴る, 嫌な写真を送りつける, 待ち伏せをするなど)	41	66	1032	57	1,196
経済的な暴力を受けた(生活費を渡さない, 支出を細かく監視するなど)	28	38	1069	61	1,196
社会的な暴力を受けた(携帯電話を壊す, 親戚や友人との付き合いを制限するなど)	14	31	1088	63	1,196
性的な暴力を受けた(性行為を強要する, 避妊に協力しないなど)	14	28	1090	64	1,196

### ◆身体に対する暴力を受けた(殴る, 蹴るなど)【経年比較, 性別, 有職者別クロス】

前回調査と比較すると, 大きな差は見られません。

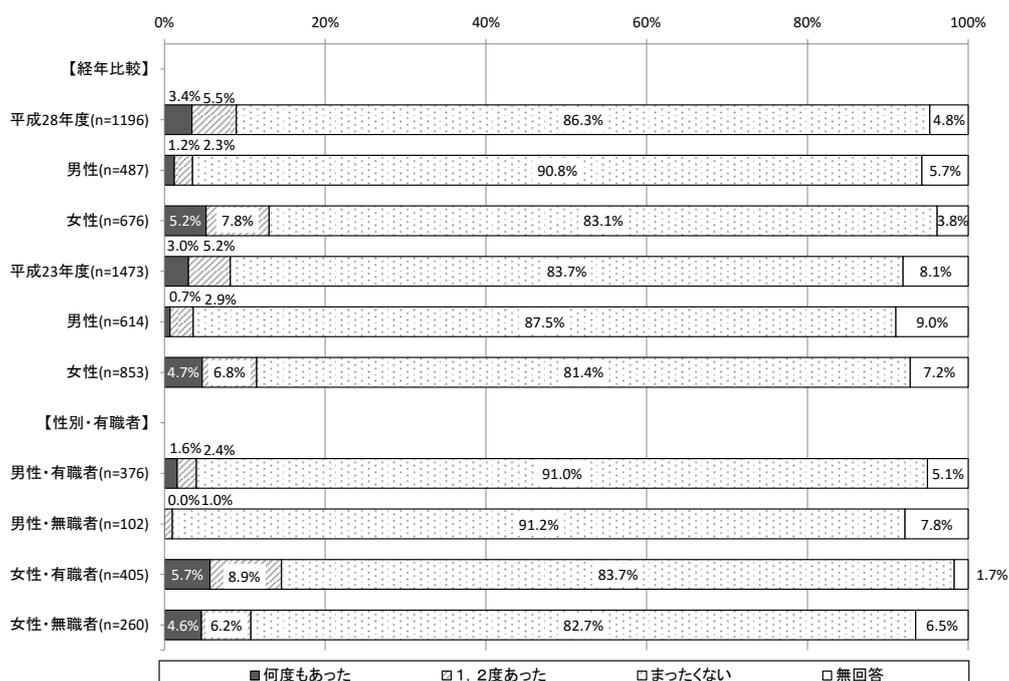
性別では, 男性よりも女性の方が「何度もあった」, 「1, 2度あった」という回答が多く, 女性の6.6%の方が「何度もあった」, 「1, 2度あった」と回答しています。なお, 有職者別での大きな差はありませんでした。



### ◆精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた(大声で怒鳴る, 嫌な写真を送りつける, 待ち伏せをするなど)【経年比較, 性別, 有職者別クロス】

前回調査と比較すると, 大きな差は見られません。

性別では, 男性よりも女性の方が「何度もあった」, 「1, 2度あった」という回答が多く, 女性の13%の方が「何度もあった」, 「1, 2度あった」と回答しています。なお, 有職者別では, 男女とも有職者ほど「あった」という回答が多くなっています。

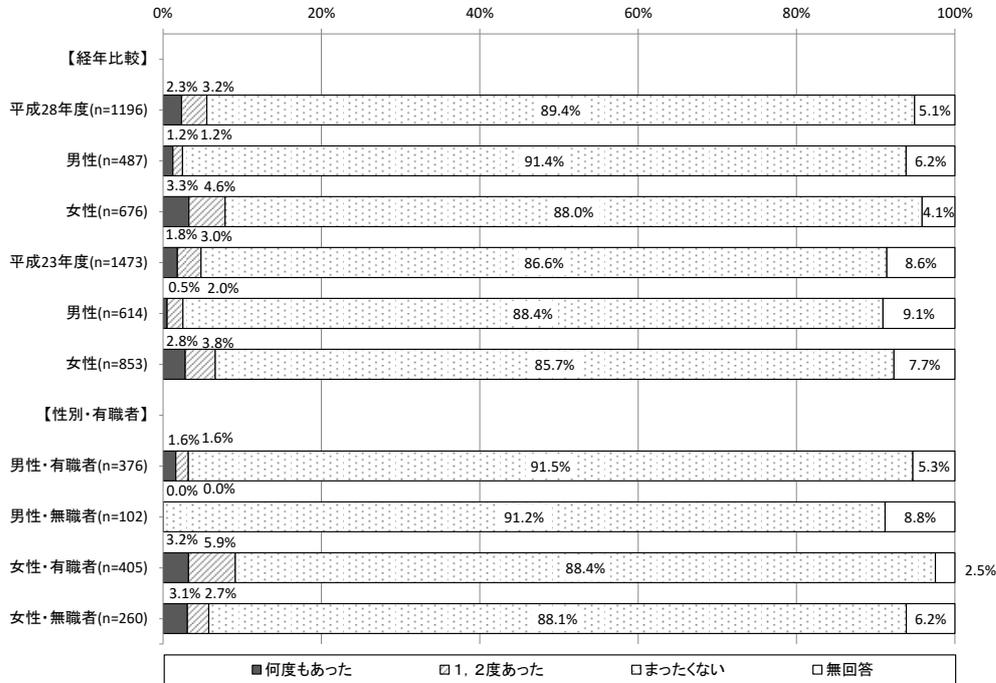


◆経済的な暴力を受けた(生活費を渡さない, 支出を細かく監視するなど)

【経年比較, 性別, 有職者別クロス】

前回調査と比較すると, 大きな差は見られません。

性別では, 男性よりも女性の方が「何度もあった」, 「1, 2度あった」という回答が多く, 女性の7.9%の方が「何どもあった」, 「1, 2度あった」と回答しています。なお, 有職者別では, 男女とも有職者ほど「あった」という回答が多くなっています。

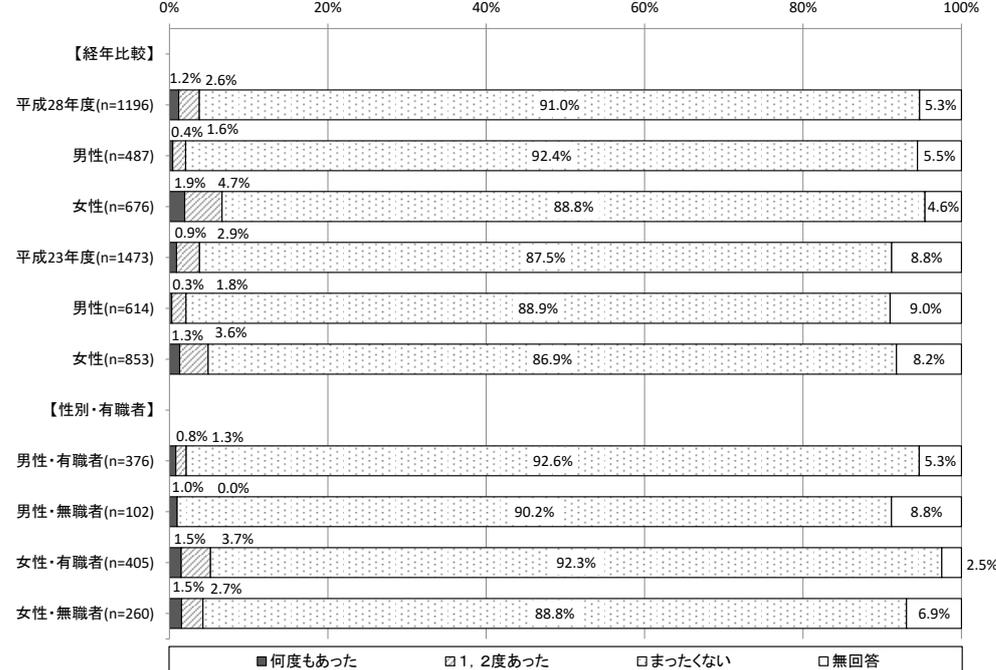


◆社会的な暴力を受けた(携帯電話を壊す, 親戚や友人との付き合いを制限するなど)

【経年比較, 性別, 有職者別クロス】

前回調査と比較すると, 大きな差は見られません。

性別では, 男性よりも女性の方が「何どもあった」, 「1, 2度あった」という回答が多く, 女性の6.6%の方が「何どもあった」, 「1, 2度あった」と回答しています。なお, 有職者別でみると, 女性は無職者より有職者の方が「あった」という回答が多くなっています。

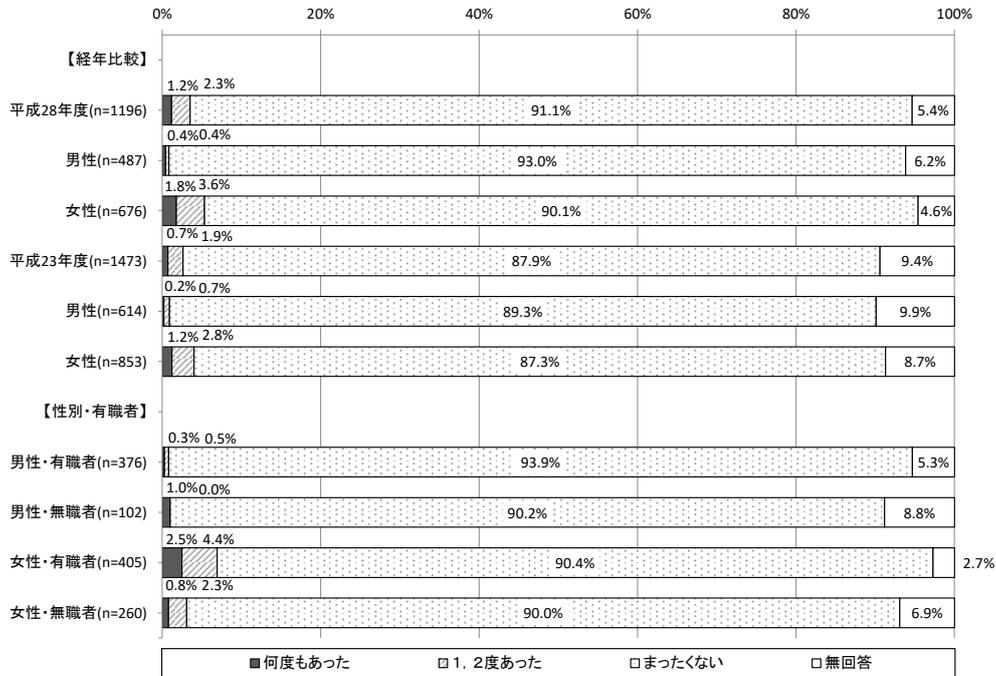


◆性的な暴力を受けた(性行為を強要する, 避妊に協力しないなど)

【経年比較, 性別, 有職者別クロス】

前回調査と比較すると、「何度もあった」、「1, 2度あった」という回答が増加しています。

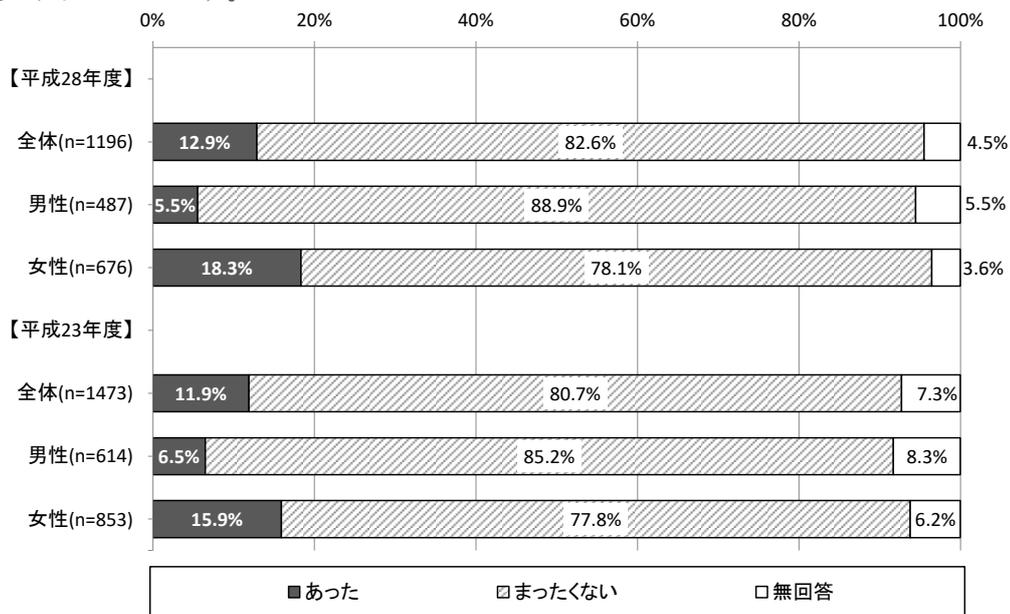
性別では、男性よりも女性の方が「何度もあった」、「1, 2度あった」という回答が多く、女性の5.4%の方が「何どもあった」、「1, 2度あった」と回答しています。なお、有職別でみると、女性は無職者より有職者の方が「あった」という回答が多くなっています。



■暴力を受けた経験【性別, 経年比較クロス】

性別では、男性よりも女性の割合が12.8ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると、男性の「あった」という回答が1ポイント少なく、女性は2.4ポイント多くなっています。

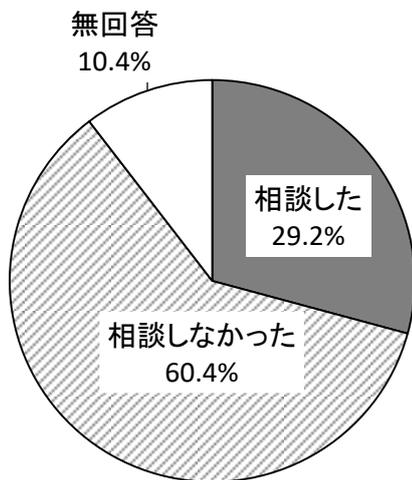


※暴力を受けた経験とは、問29の5つの設問で「何どもあった」、「1, 2度あった」に1つでも○をつけた方を「あった」として集計しています。

《問29のいずれかの項目で、「1. 何度もあった」または「2. 1, 2度あった」に○をつけた方にお尋ねします》

問30 あなたはこれまでに、配偶者等から受けた暴力について、誰かに相談しましたか。  
(○は1つだけ)

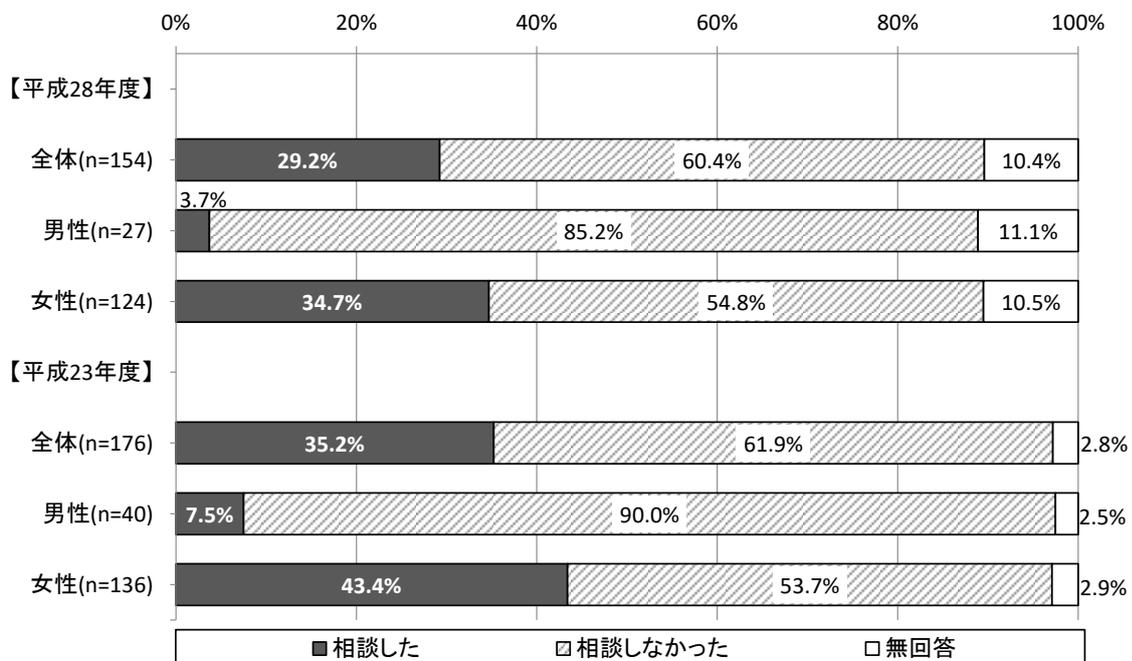
受けた暴力について、誰かに相談したかについては、「相談した」が29.2%、「相談しなかった」が60.4%となっています。



項目	回答数	構成比
相談した	45	29.2%
相談しなかった	93	60.4%
無回答	16	10.4%
回答者数	154	100.0%
非該当	1,042	
合計	1,196	

### 【経年比較, 性別クロス】

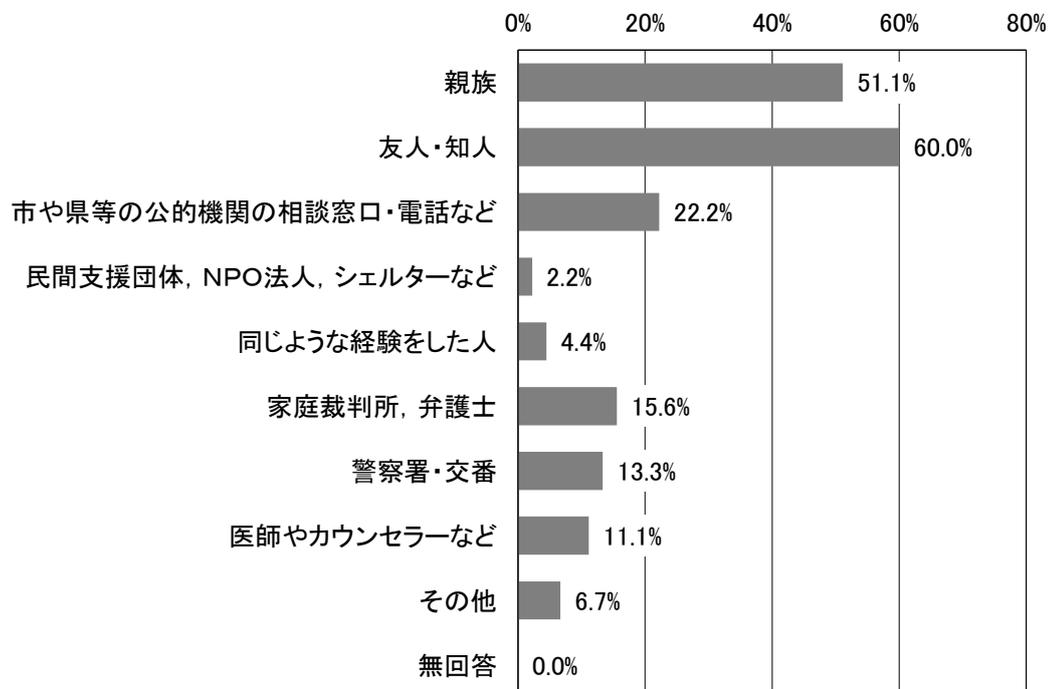
前回調査と比較すると、男女ともに、「相談した」という回答が少なくなっています。



《問30で、「1. 相談した」に○をつけた方にお尋ねします。》

問30-1 相談した相手はどなたですか。(あてはまる番号すべてに○)

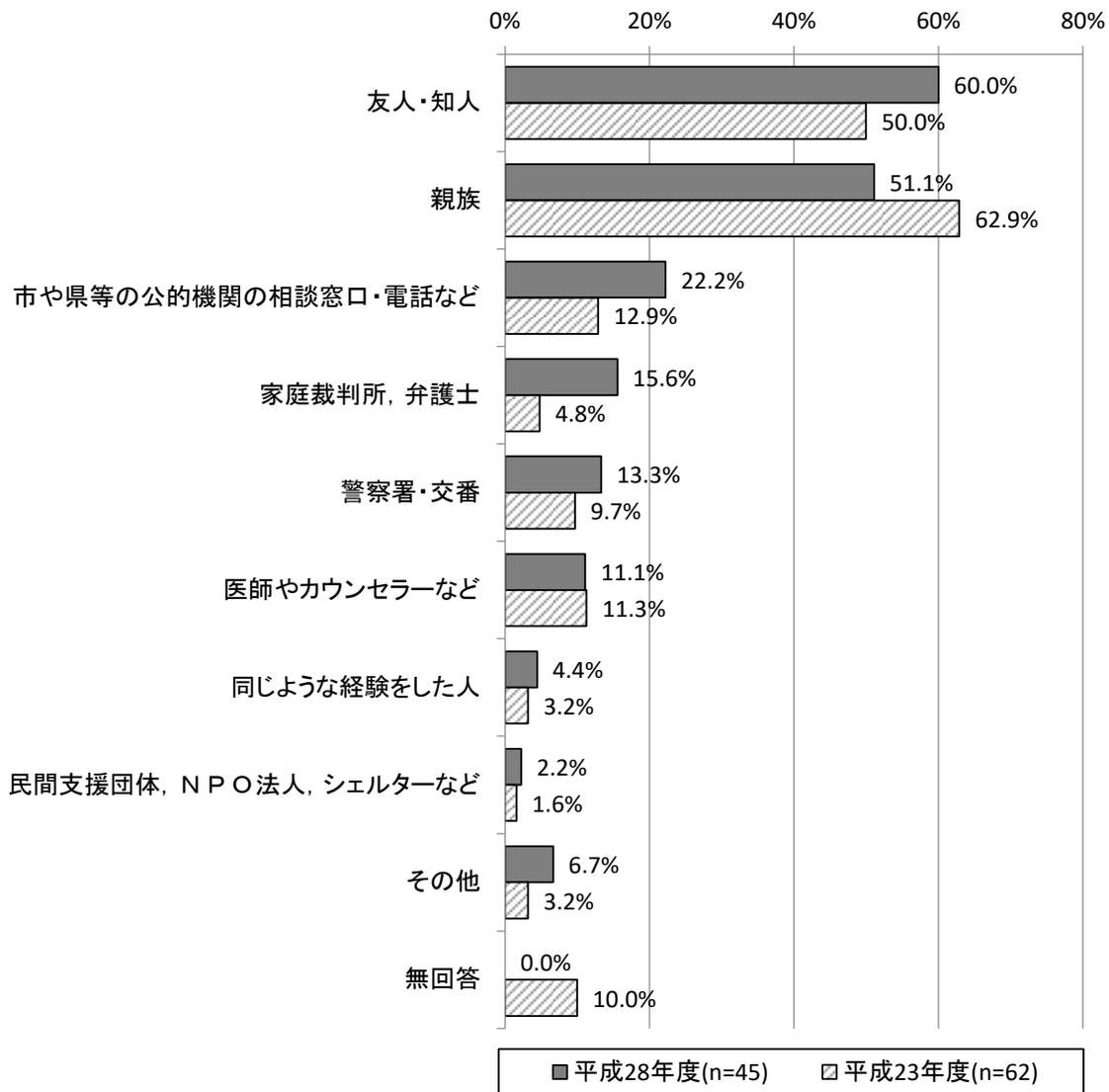
相談した相手については、「友人・知人」が60.0%で多く、次いで「親族」が51.1%となっています。



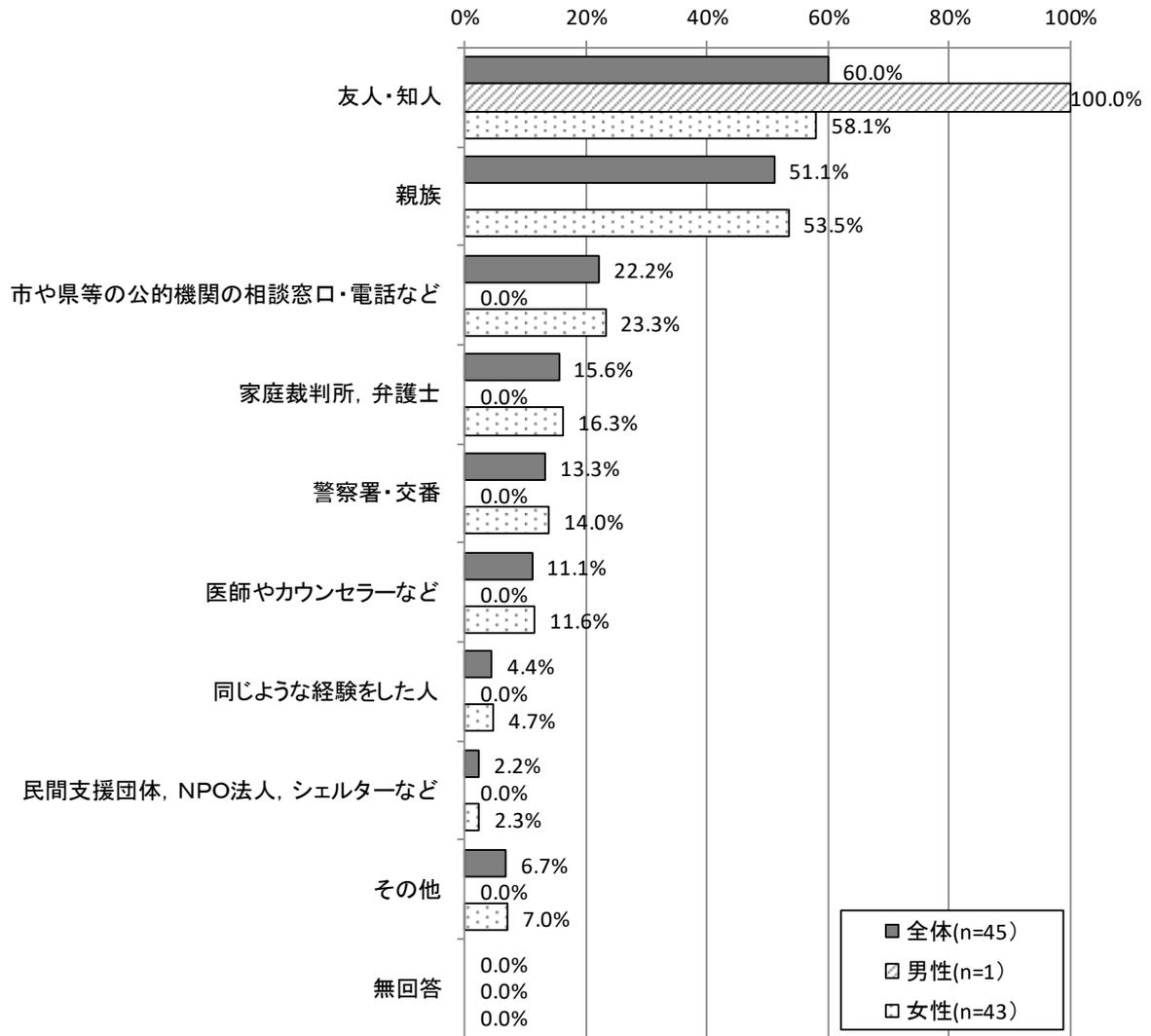
項目	回答数	構成比
親族	23	51.1%
友人・知人	27	60.0%
市や県等の公的機関の相談窓口・電話など	10	22.2%
民間支援団体, NPO法人, シェルターなど	1	2.2%
同じような経験をした人	2	4.4%
家庭裁判所, 弁護士	7	15.6%
警察署・交番	6	13.3%
医師やカウンセラーなど	5	11.1%
その他	3	6.7%
無回答	0	0.0%
回答者数	45	
非該当	1,151	
合計	1,196	

### 【経年比較】

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で回答が増加していますが、「親族」という回答は減少しています。なお、増加率が高い項目としては、「友人・知人」の10.0ポイント、「市や県等の公的機関の相談窓口・電話など」が9.3ポイント、「家庭裁判所、弁護士」が10.8ポイントとなっています。



## 【性別クロス】

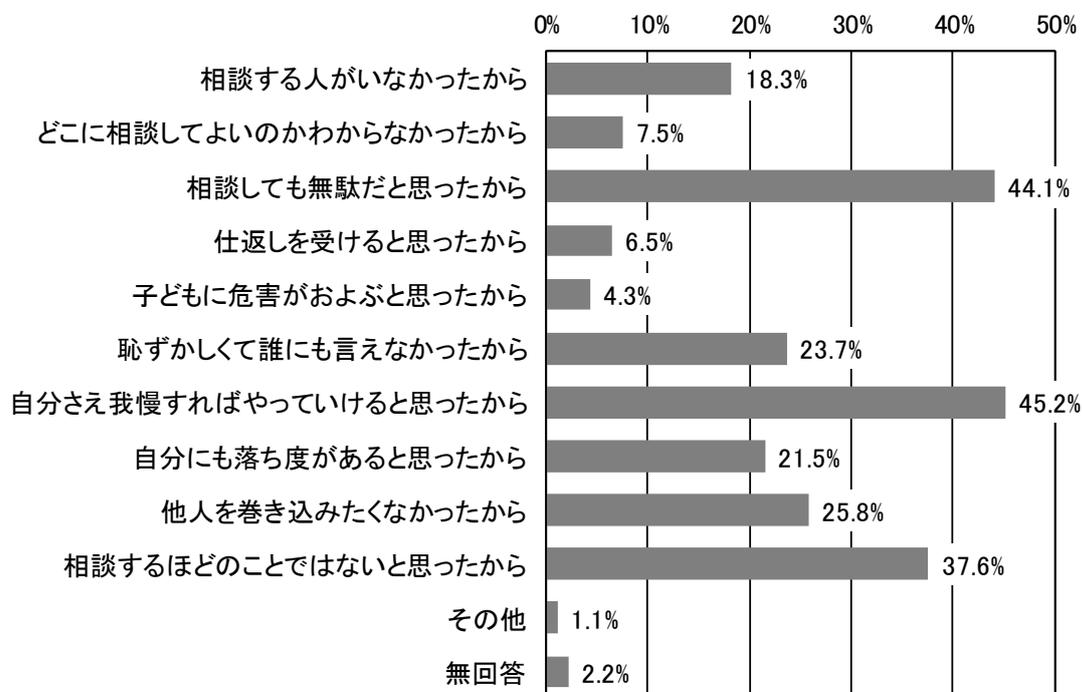


※母集団が少ないため比較はなし

《問30で、「2. 相談しなかった」に○をつけた方にお尋ねします。》

問30-2 相談しなかった主な理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

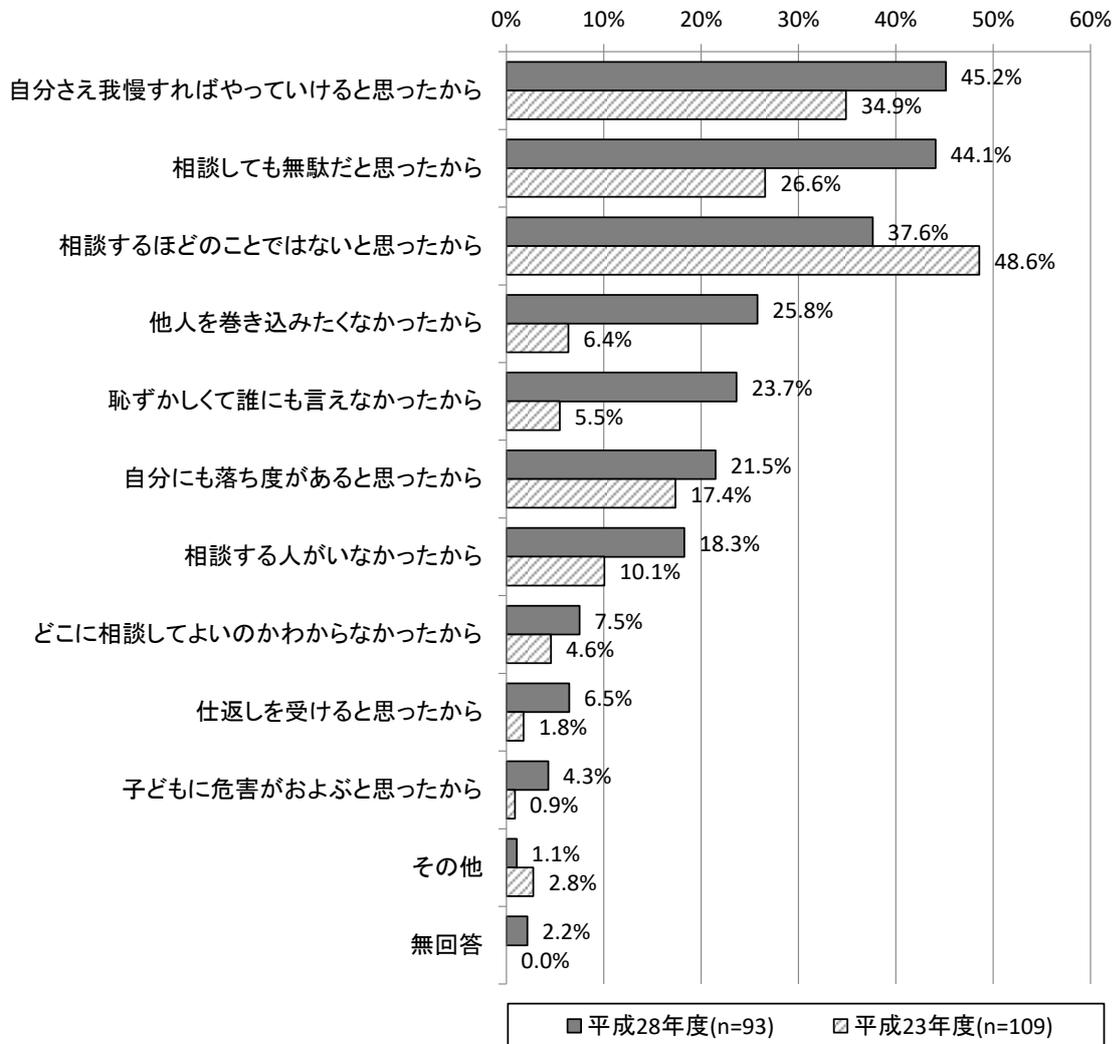
相談しなかった理由については、「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」が45.2%で最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が44.1%、「相談するほどのことではないと思ったから」が37.6%となっています。



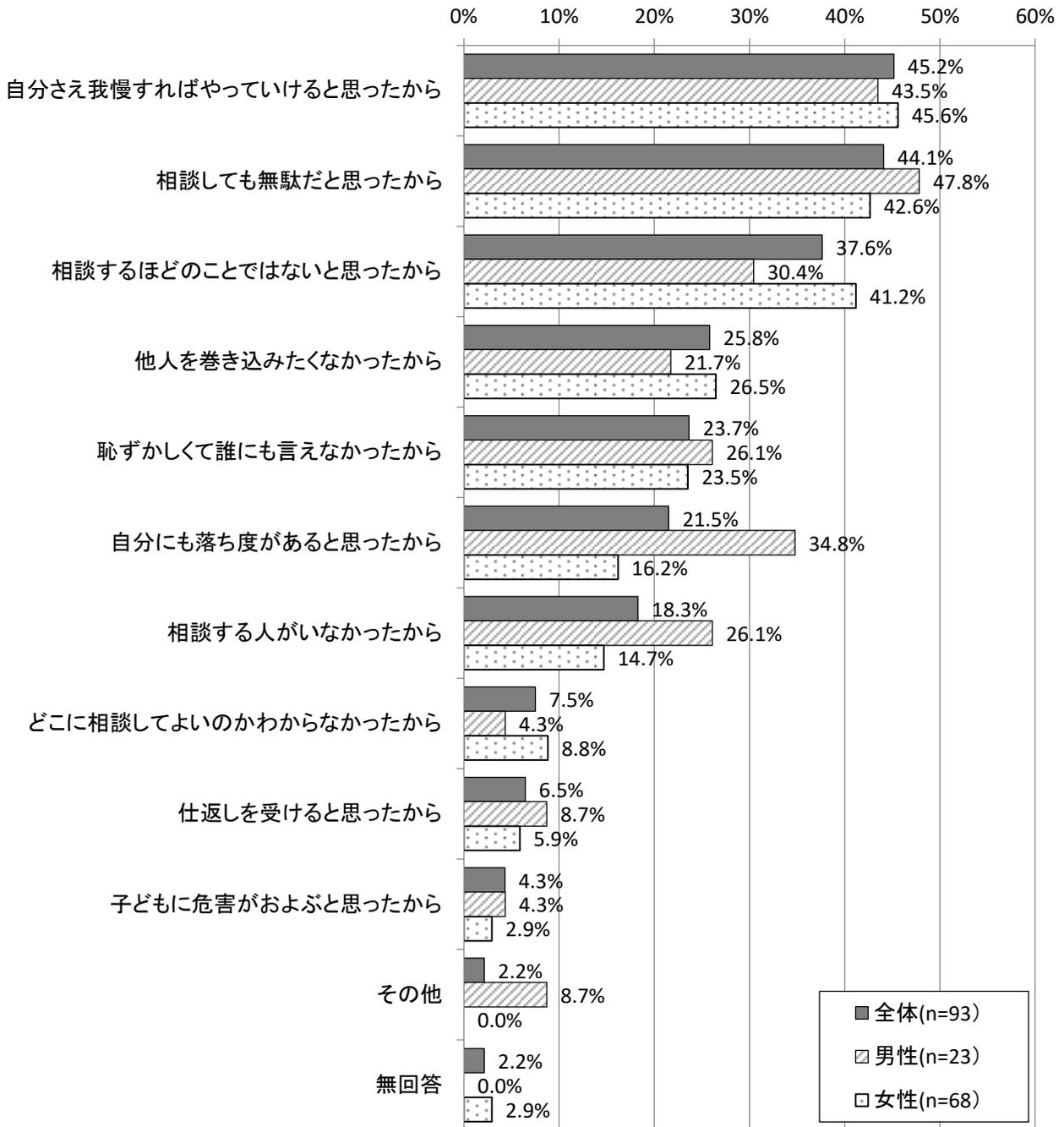
項目	回答数	構成比
相談する人がいなかったから	17	18.3%
どこに相談してよいのかわからなかったから	7	7.5%
相談しても無駄だと思ったから	41	44.1%
仕返しを受けると思ったから	6	6.5%
子どもに危害がおよぶと思ったから	4	4.3%
恥ずかしくて誰にも言えなかったから	22	23.7%
自分さえ我慢すればやっていけると思ったから	42	45.2%
自分にも落ち度があると思ったから	20	21.5%
他人を巻き込みたくなかったから	24	25.8%
相談するほどのことではないと思ったから	35	37.6%
その他	1	1.1%
無回答	2	2.2%
回答者数	93	
非該当	1,103	
合計	1,196	

## 【経年比較】

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で回答が増加していますが、「相談するほどのことではないと思ったから」という回答は少なくなっています。なお、増加率が高い項目としては、「相談しても無駄だと思ったから」が 17.5 ポイント、「他人を巻き込みたくなかったから」が 19.4 ポイント、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が 18.2 ポイントとなっています。



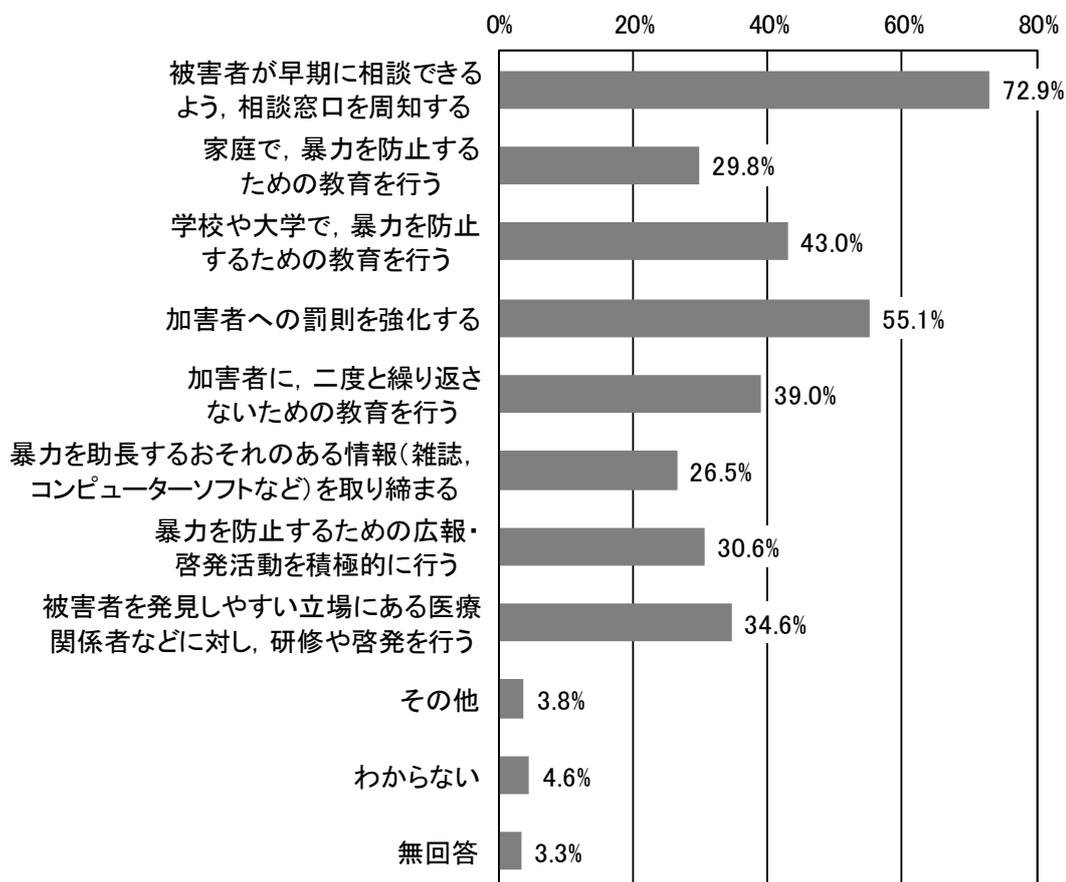
## 【性別クロス】



※男性の母集団が少ないため比較はなし

問31 DVやデートDVを防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。  
(あてはまる番号すべてに○)

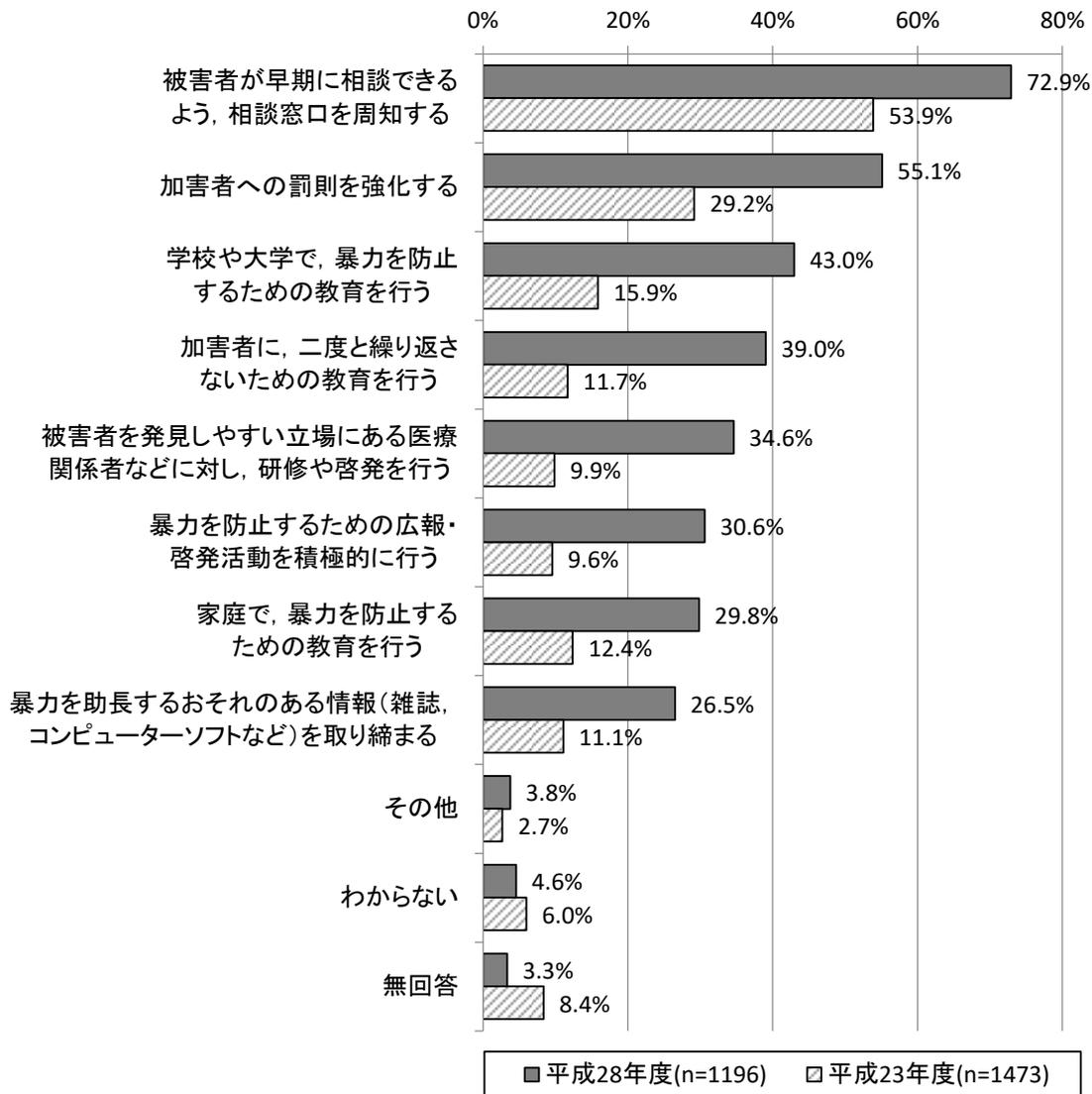
DVやデートDVを防止するために必要なことについては、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」が72.9%で最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」が55.1%、「学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う」が43.0%となっています。



項目	回答数	構成比
被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する	872	72.9%
家庭で、暴力を防止するための教育を行う	357	29.8%
学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う	514	43.0%
加害者への罰則を強化する	659	55.1%
加害者に、二度と繰り返さないための教育を行う	467	39.0%
暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる	317	26.5%
暴力を防止するための広報・啓発活動を積極的に行う	366	30.6%
被害者を発見しやすい立場にある医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	414	34.6%
その他	45	3.8%
わからない	55	4.6%
無回答	40	3.3%
回答者数	1,196	

## 【経年比較】

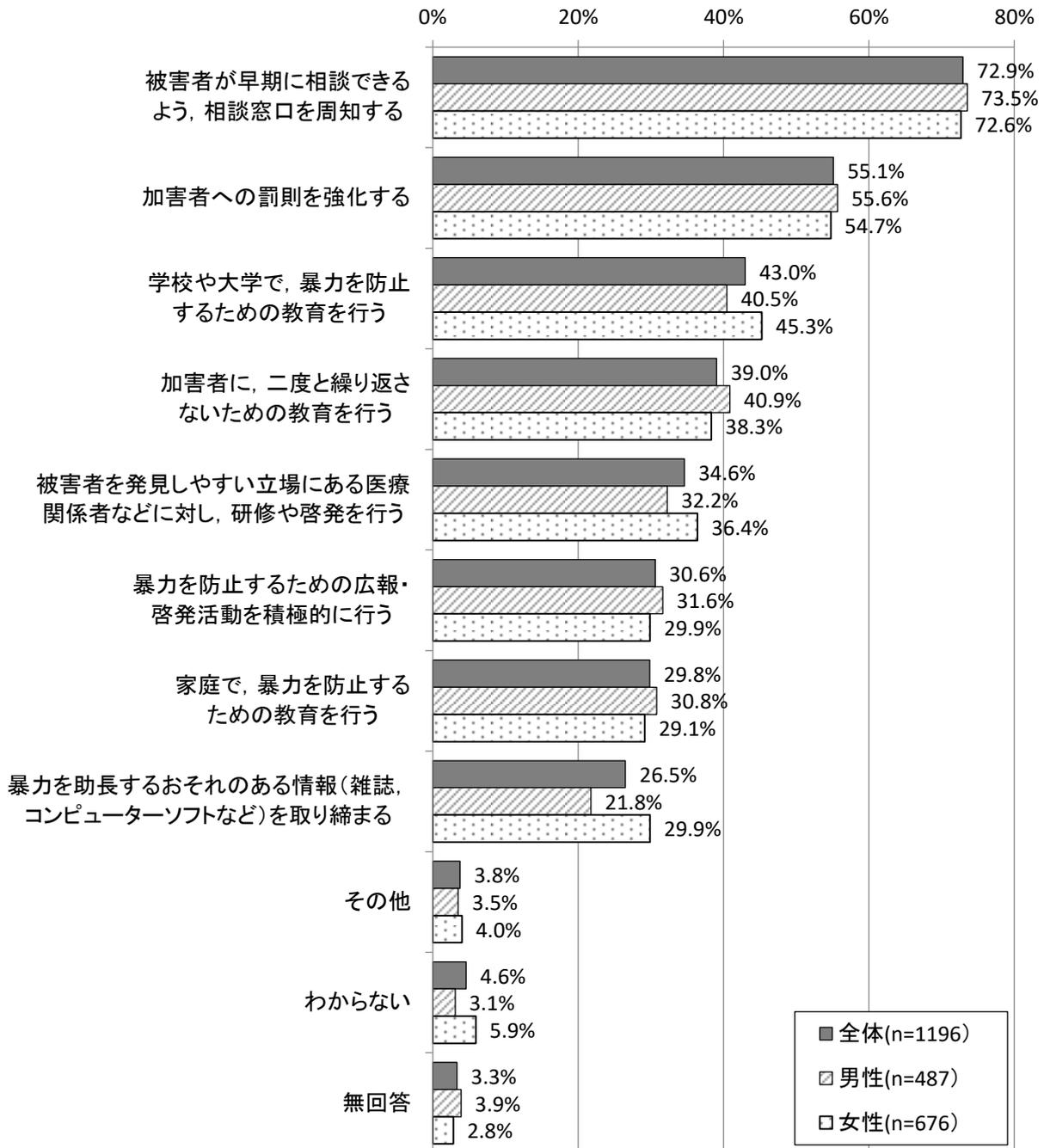
前回調査と比較すると、全ての項目で必要だと思うという回答が増加しています。



※平成23年度調査は、「〇は2つ」までの回答となっている。

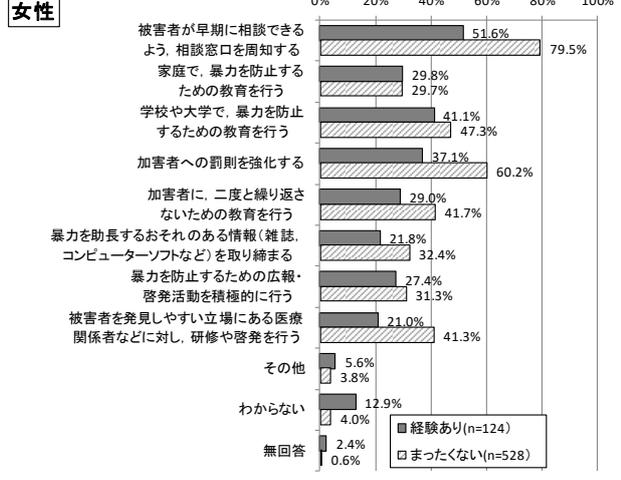
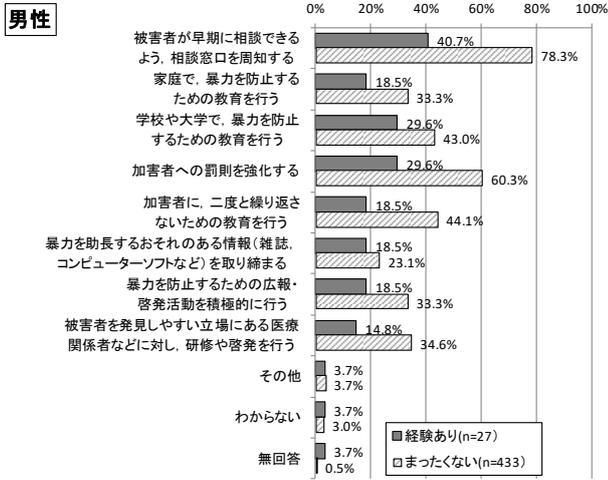
## 【性別クロス】

性別では、男女ともに、回答の傾向は同じですが、「学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う」、「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる」では、男女に差があります。



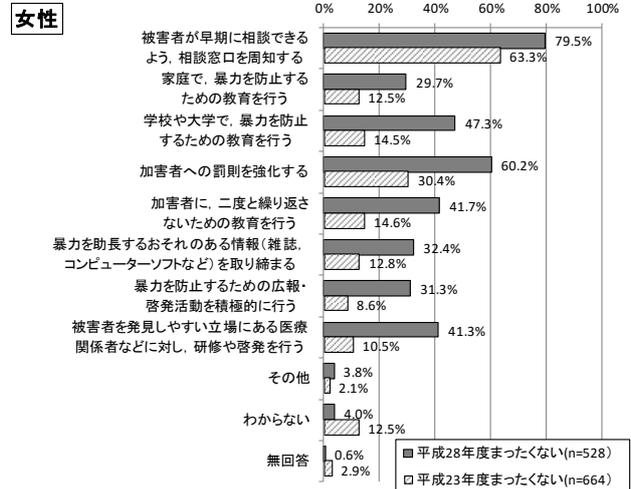
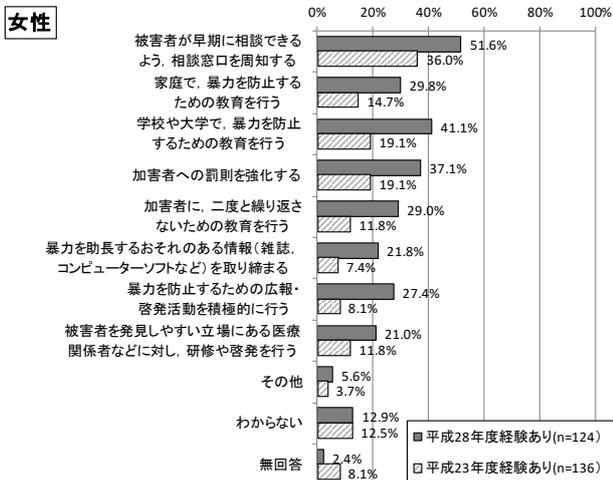
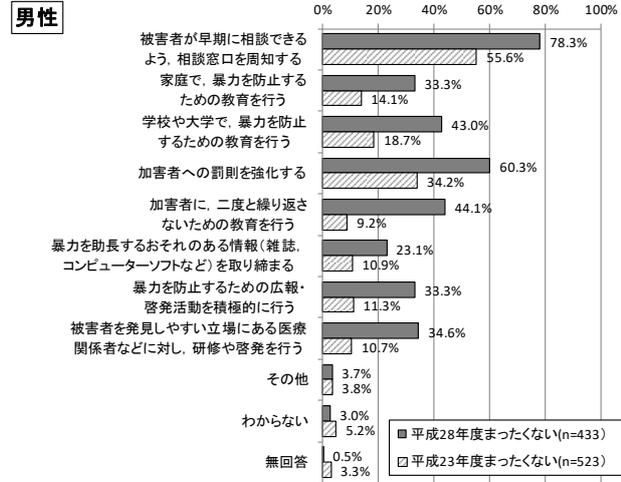
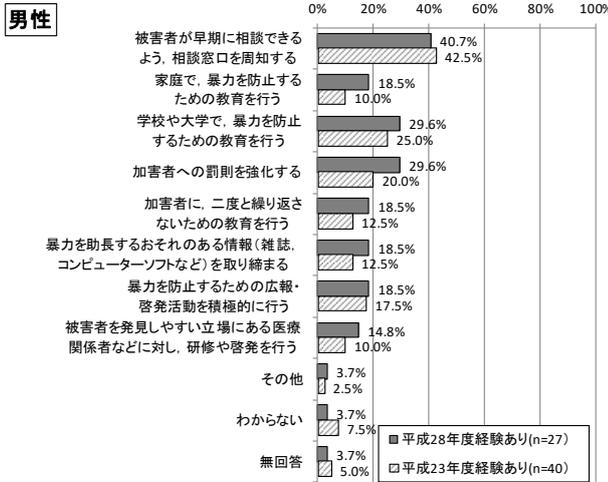
## ■暴力を受けた経験【性別クロス】

暴力を受けた経験の有無別では、経験が「まったくない」方の必要だと思うという回答がほとんどの項目で多くなっています。



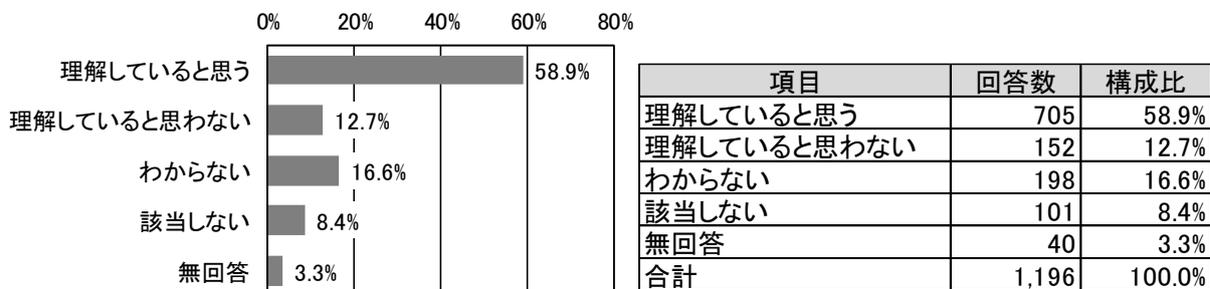
## ■暴力を受けた経験【経年比較, 性別クロス】

ほぼ全ての項目で、前回調査に比べ、必要だと思うという回答が増加しています。



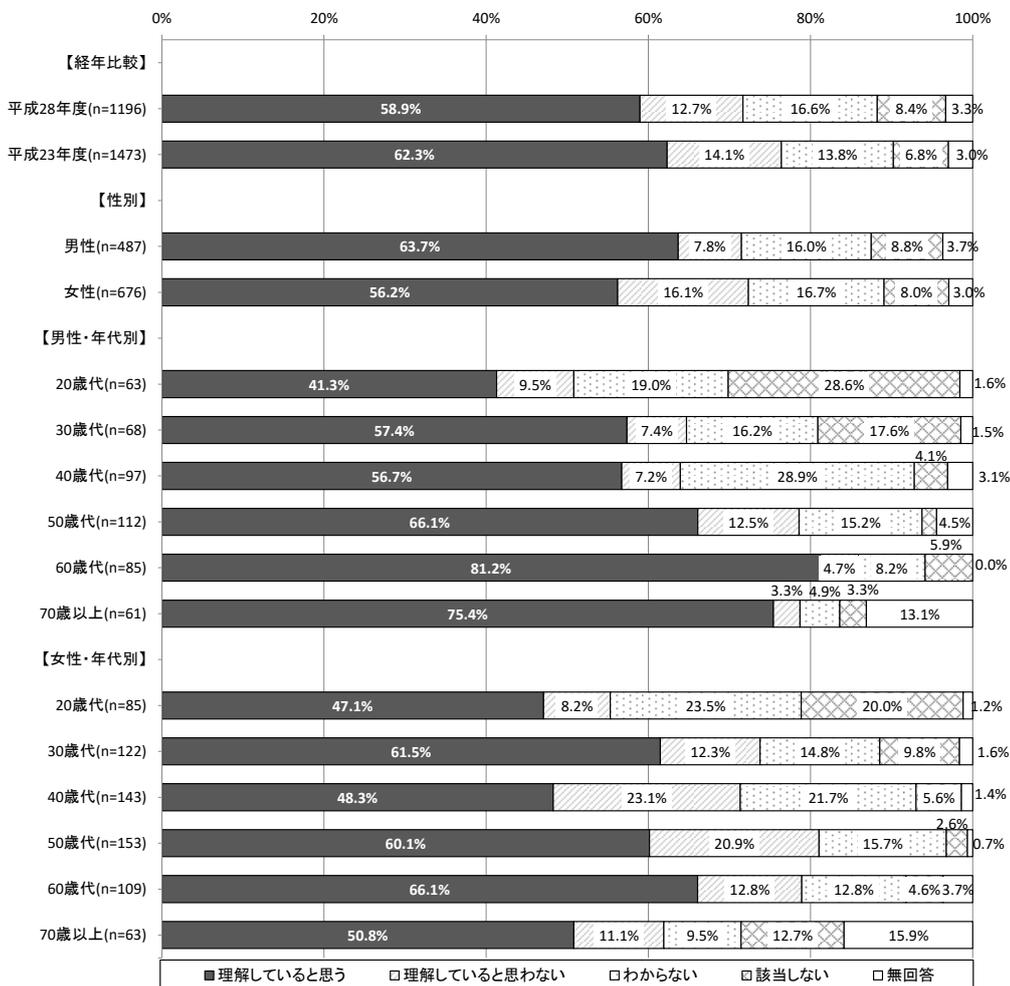
**問32 あなたは、パートナー(配偶者や恋人など)が、自分の健康状態について理解していると思いますか。(〇は1つだけ)**

パートナーが自分の健康状態について理解していると思うかについては、「理解していると思う」が58.9%で最も多く、次いで「わからない」が16.6%、「理解していると思わない」が12.7%となっています。



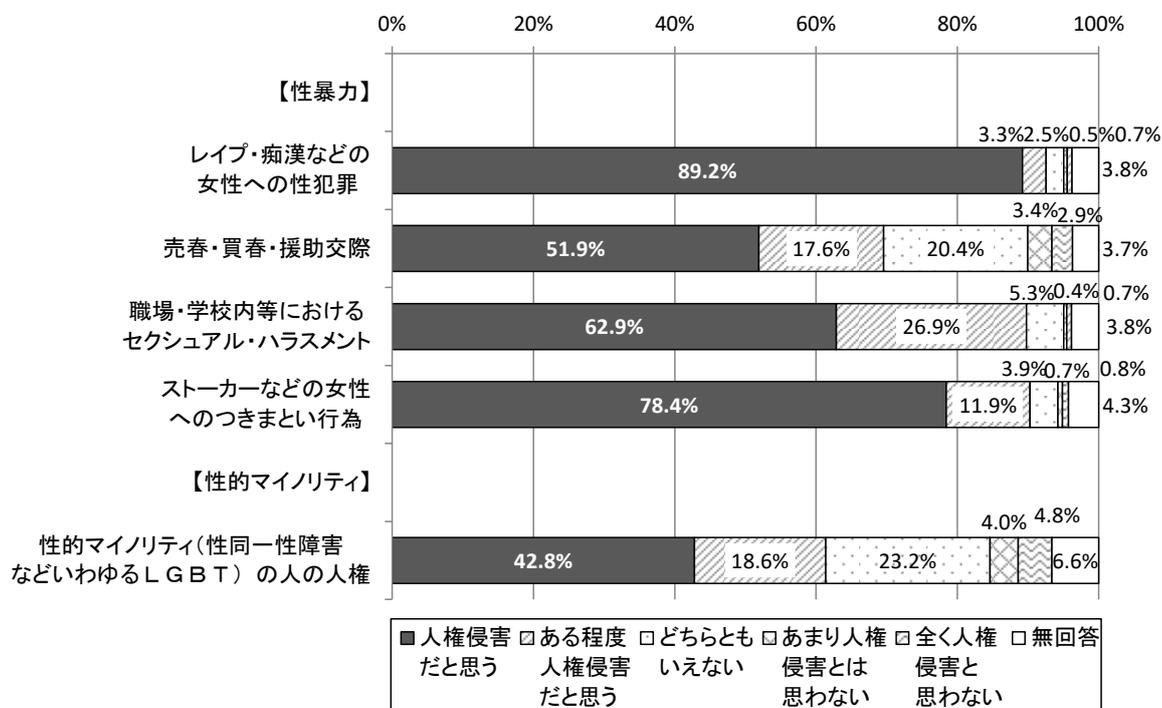
**【経年比較, 性別, 性・年代別クロス】**

前回調査と比較すると、「理解していると思う」という回答が少なくなっています。性別では、女性よりも男性の方が「理解していると思う」という回答が多くなっています。性・年代別では、男性は、年代が上がるに従い「理解していると思う」という回答が多くなっています。女性は、40歳代、50歳代では、約2割の方が「理解していると思わない」と回答しています。



問33 あなたは、人権が侵害されていると思うのは、どのようなことですか。  
 (それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

人権が侵害されていると思うことについては、「人権侵害だと思う」の項目で「レイプ・痴漢などの女性への性犯罪」が89.2%で最も多く、次いで「ストーカーなどの女性へのつきまとい行為」が78.4%となっています。

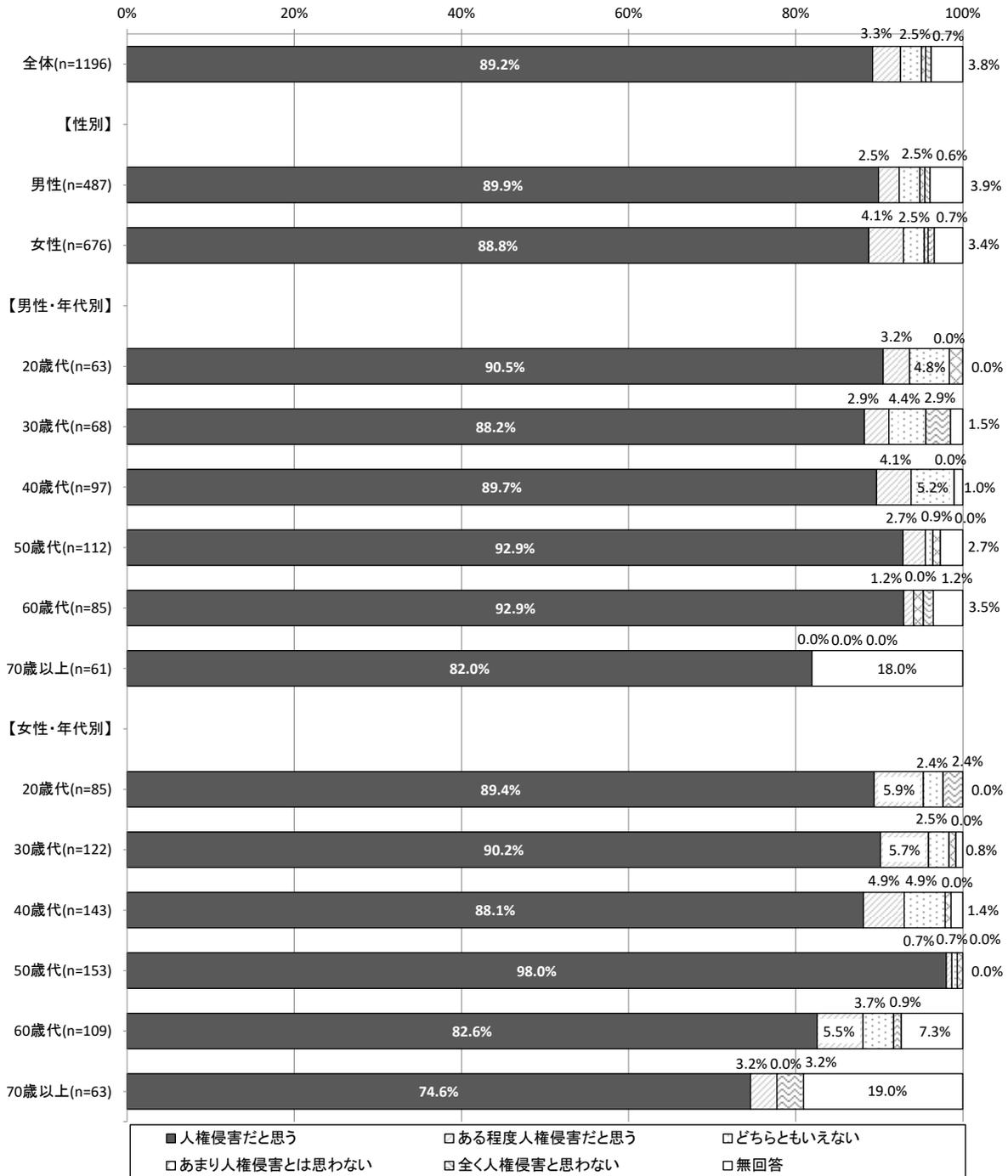


項目	人権侵害 だと思う	ある程度 人権侵害 だと思う	どちらとも いえない	あまり人権 侵害とは思 わない	全く人権 侵害と思 わない	無回答	合計
<b>【性暴力】</b>							
レイプ・痴漢などの女性への性犯罪	1,067	40	30	6	8	45	1,196
売春・買春・援助交際	621	211	244	41	35	44	1,196
職場・学校内等におけるセクシュアル・ハラスメント	752	322	63	5	8	46	1,196
ストーカーなどの女性へのつきまとい行為	938	142	47	8	10	51	1,196
<b>【性的マイノリティ】</b>							
性的マイノリティ(性同一性障害などいわゆるLGBT)の人の人権	512	222	278	48	57	79	1,196

### ◆レイプ・痴漢などの女性への性犯罪【性別，性・年代別クロス】

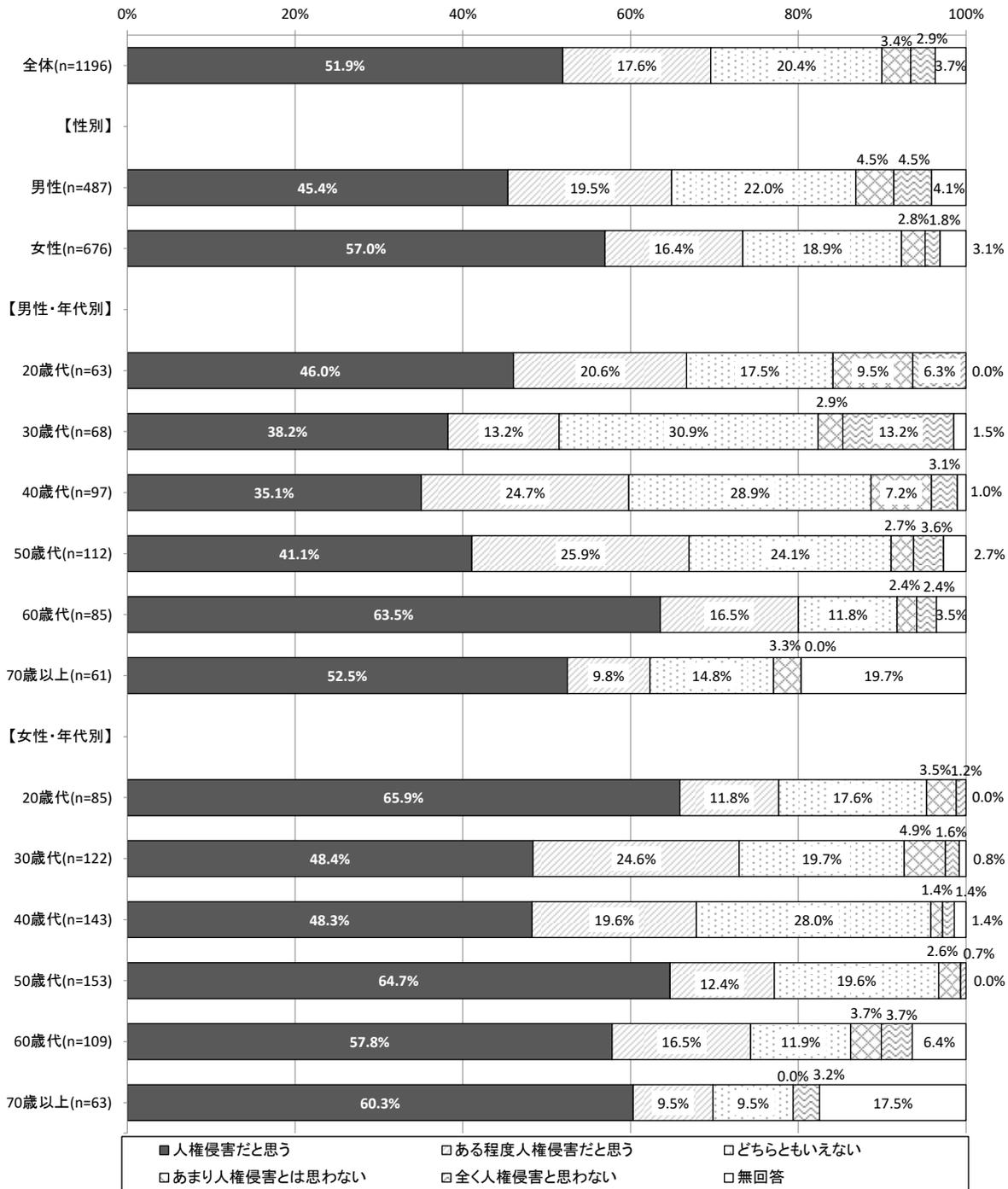
性別では，大きな差はありません。

女性の年代別では，60 歳代，70 歳代で「人権侵害だと思う」という回答が少なくなっています。



### ◆売春・買春・援助交際【性別、性・年代別クロス】

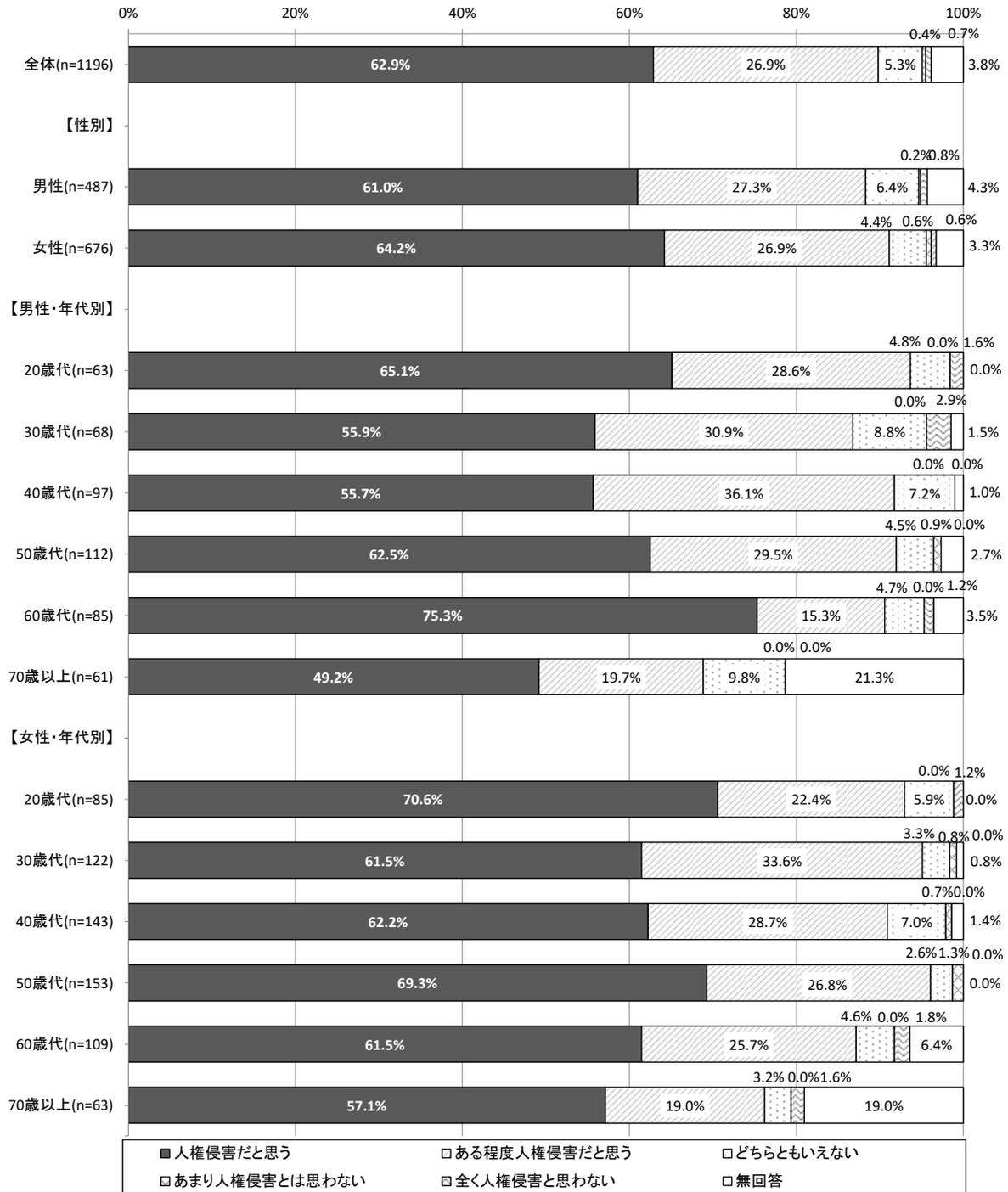
性別では、男性よりも女性の方が「人権侵害だと思う」という回答が多くなっています。男性の30歳代～50歳代、女性の40歳代で「どちらともいえない」という回答が多くなっています。



### ◆職場・学校内等におけるセクシュアル・ハラスメント【性別，性・年代別クロス】

性別では，男性よりも女性の方が「人権侵害だと思う」という回答がやや多くなっています。

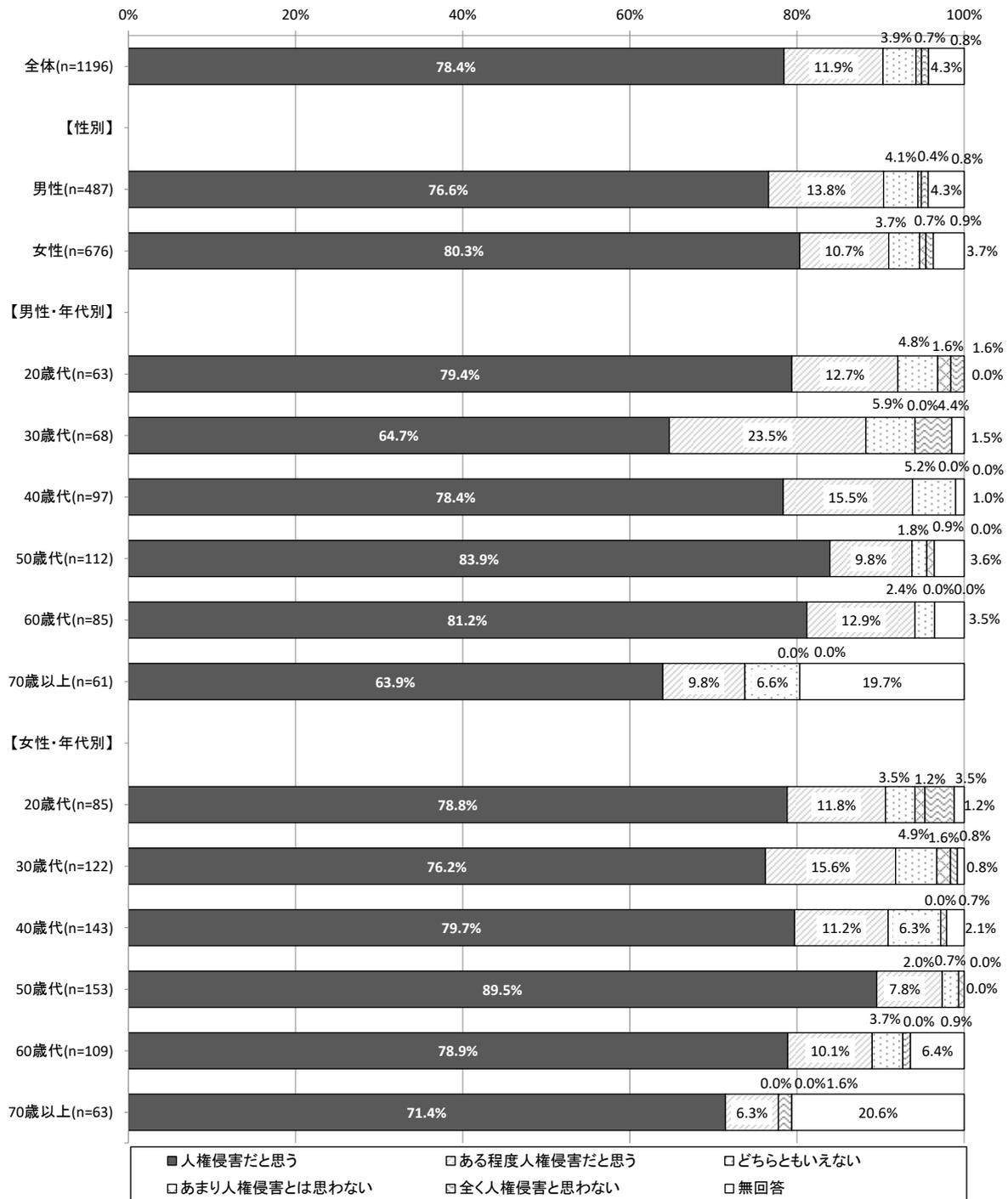
女性の年代別では，20歳代で「人権侵害だと思う」という回答が最も多くなっています。



### ◆ストーカーなどの女性へのつきまとい行為【性別，性・年代別クロス】

性別では，男性よりも女性の方が「人権侵害だと思う」という回答が多くなっていますが「ある程度人権侵害だと思う」を合わせると，ほぼ同数となっています。

女性の年代別では，50歳代で「人権侵害だと思う」という回答が最も多くなっています。

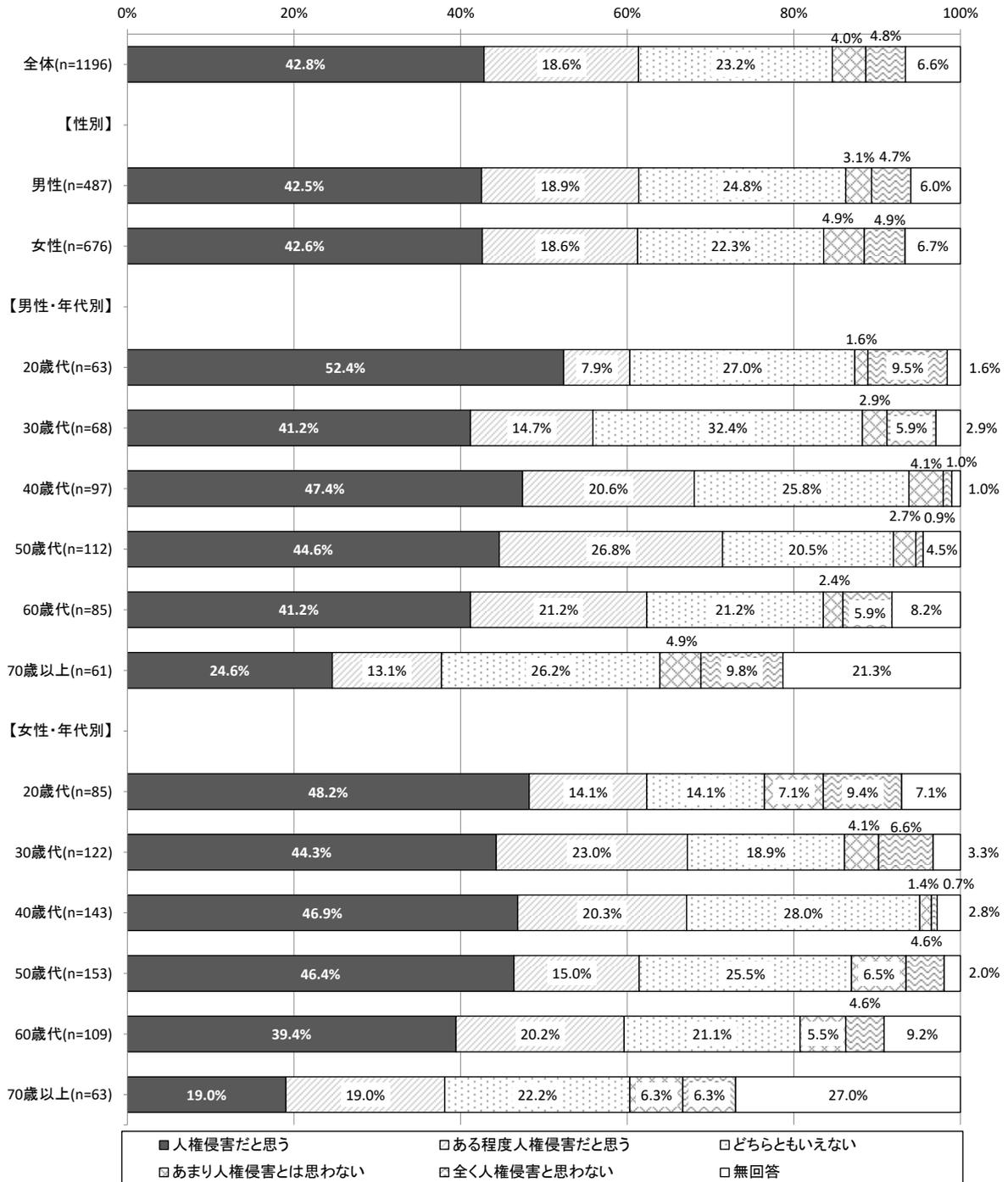


## ◆性的マイノリティ(性同一性障害などいわゆるLGBT)の人の人権

【性別、性・年代別クロス】

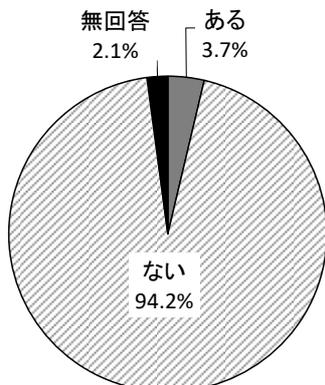
性別では、大きな差は見られません。

女性の年代別では、70歳代で「人権侵害だと思う」という回答が少なくなっています。



問34 あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。(○は1つだけ)

自分の性別に悩んだことがあるかについては、「ある」が3.7%、「ない」が94.2%となっています。

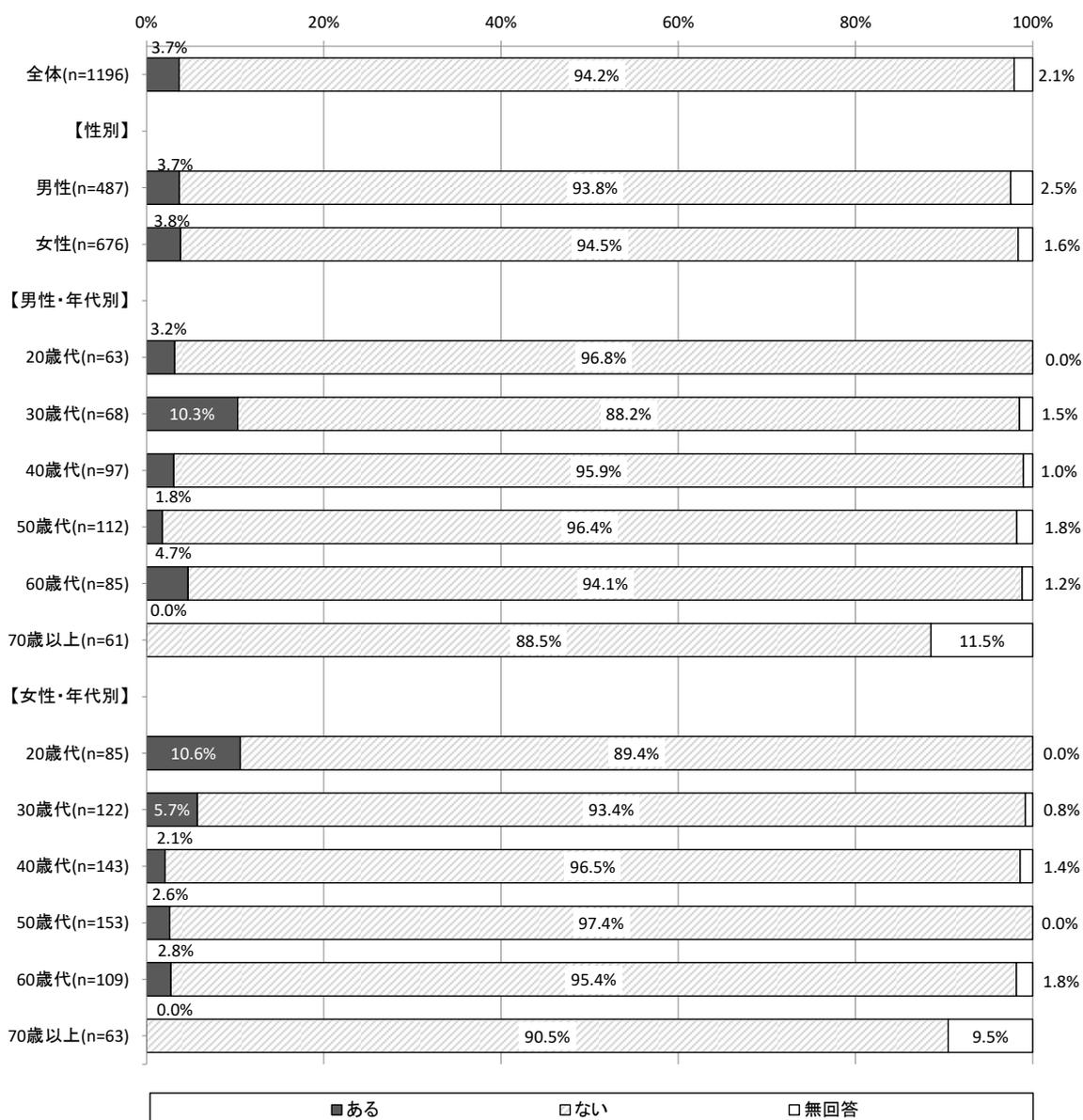


項目	回答数	構成比
ある	44	3.7%
ない	1,127	94.2%
無回答	25	2.1%
合計	1,196	100.0%

【性別、性・年代別クロス】

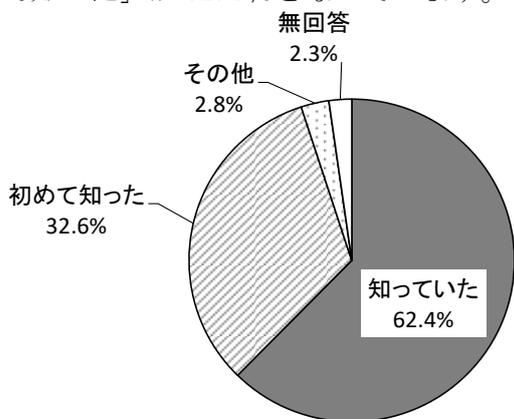
性別では、大きな差は見られません。

性・年代別では、男性で30歳代、女性で20歳代の1割以上で自分の性別に悩んだことがあると回答しています。



問35 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていましたか。(○は1つだけ)

性的マイノリティという言葉を知っているかについては、「知っていた」が62.4%、「初めて知った」が32.6%となっています。

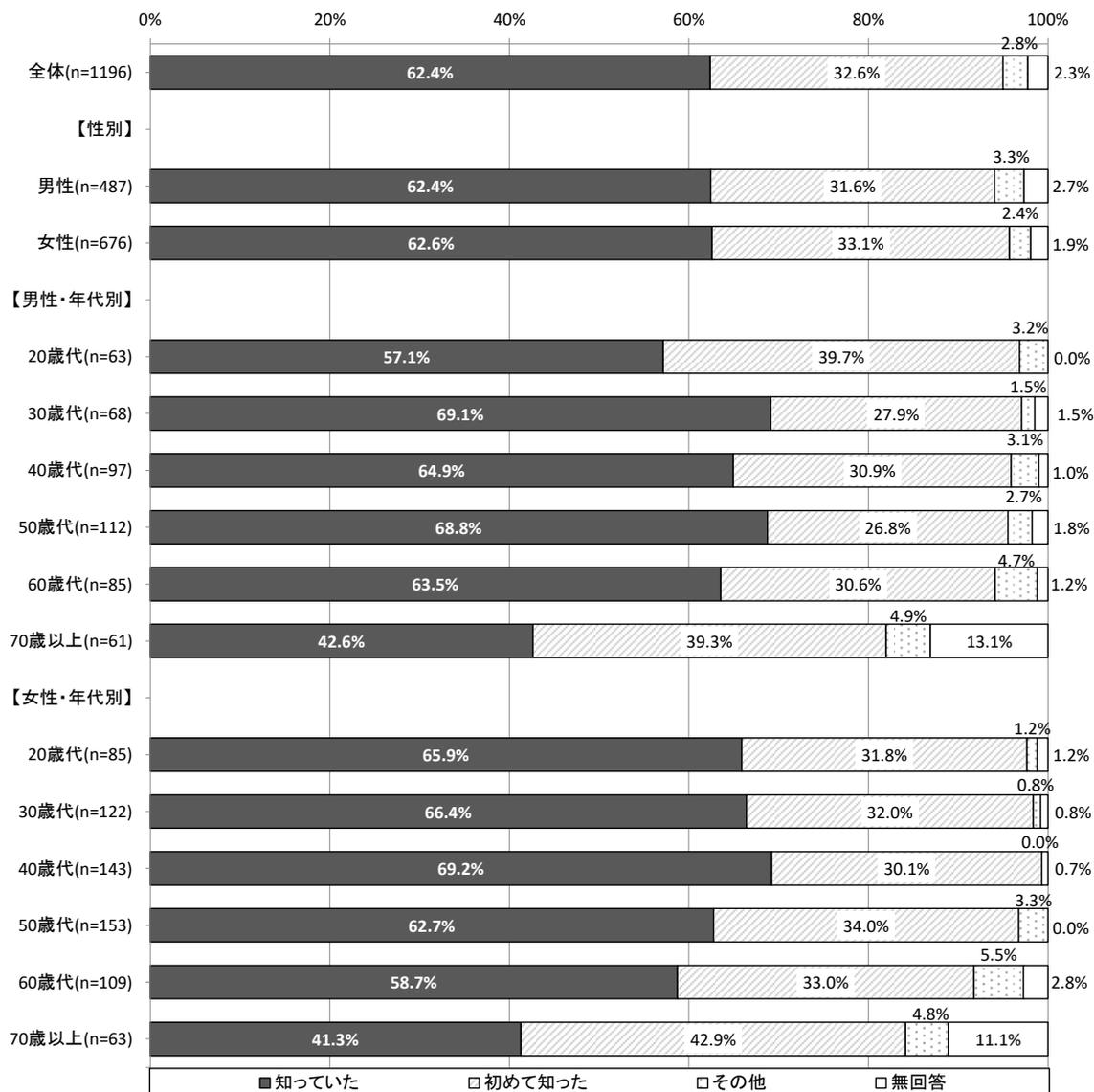


項目	回答数	構成比
知っていた	746	62.4%
初めて知った	390	32.6%
その他	33	2.8%
無回答	27	2.3%
合計	1,196	100.0%

【性別、性・年代別クロス】

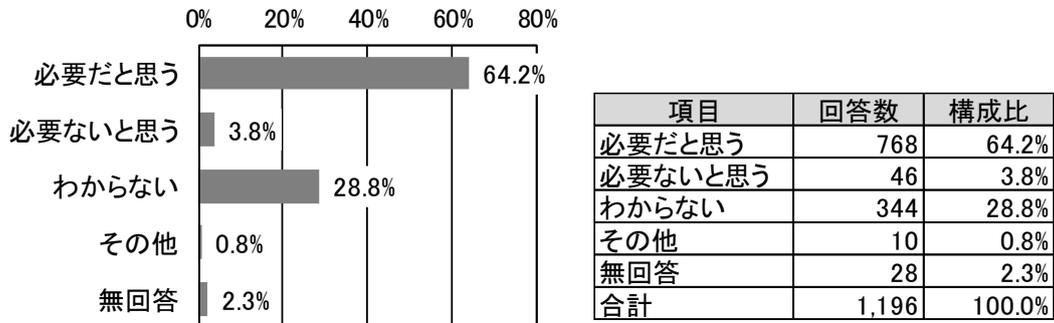
性別では、大きな差は見られません。

性・年代別では、男性は30歳代～50歳代の認知度が高くなっていますが、女性は20歳代～40歳代で認知度が高くなっています。



**問36 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。(〇は1つだけ)**

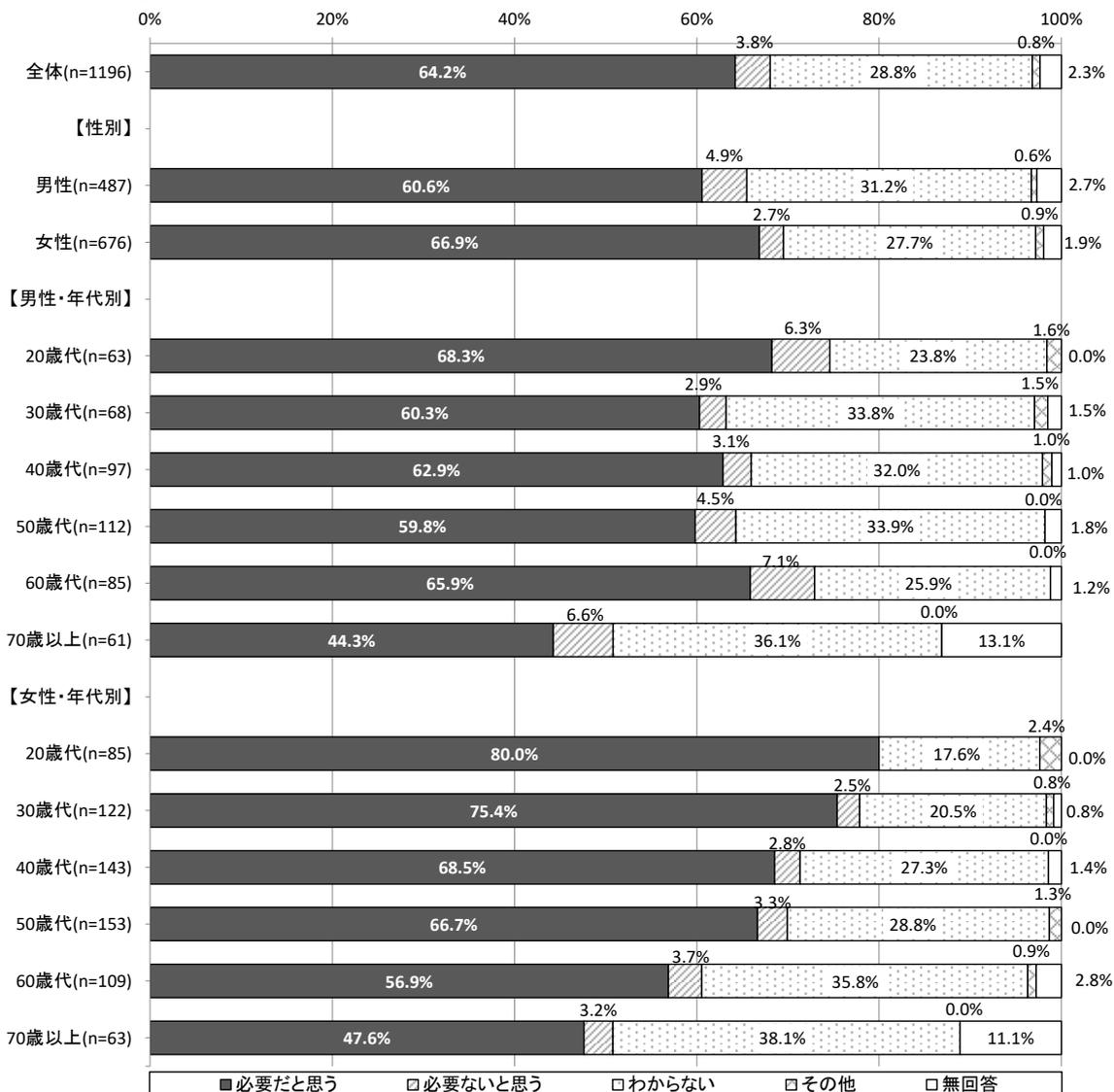
性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思うかは、「必要だと思う」が64.2%で最も多く、次いで「わからない」が28.8%となっています。



**【性別、性・年代別クロス】**

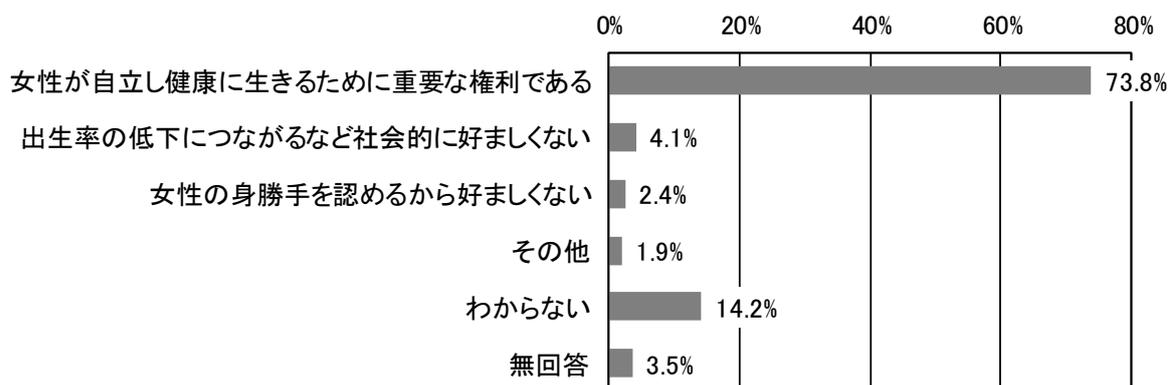
性別では、男性よりも女性の方が「必要だと思う」という回答が多くなっています。

性・年代別では、女性は年代が上がるに従い「必要だと思う」という回答が少なくなっています。



問37 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」についておたずねします。女性にとって妊娠, 出産, 避妊, 中絶などの選択は, 自分自身の健康や人生設計に大きく影響します。こうした性に関する自己決定権について, あなたはどのように考えますか。(〇は1つだけ)

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」への考え方については, 「女性が自立し健康に生きるために重要な権利である」が73.8%で最も多くなっています。

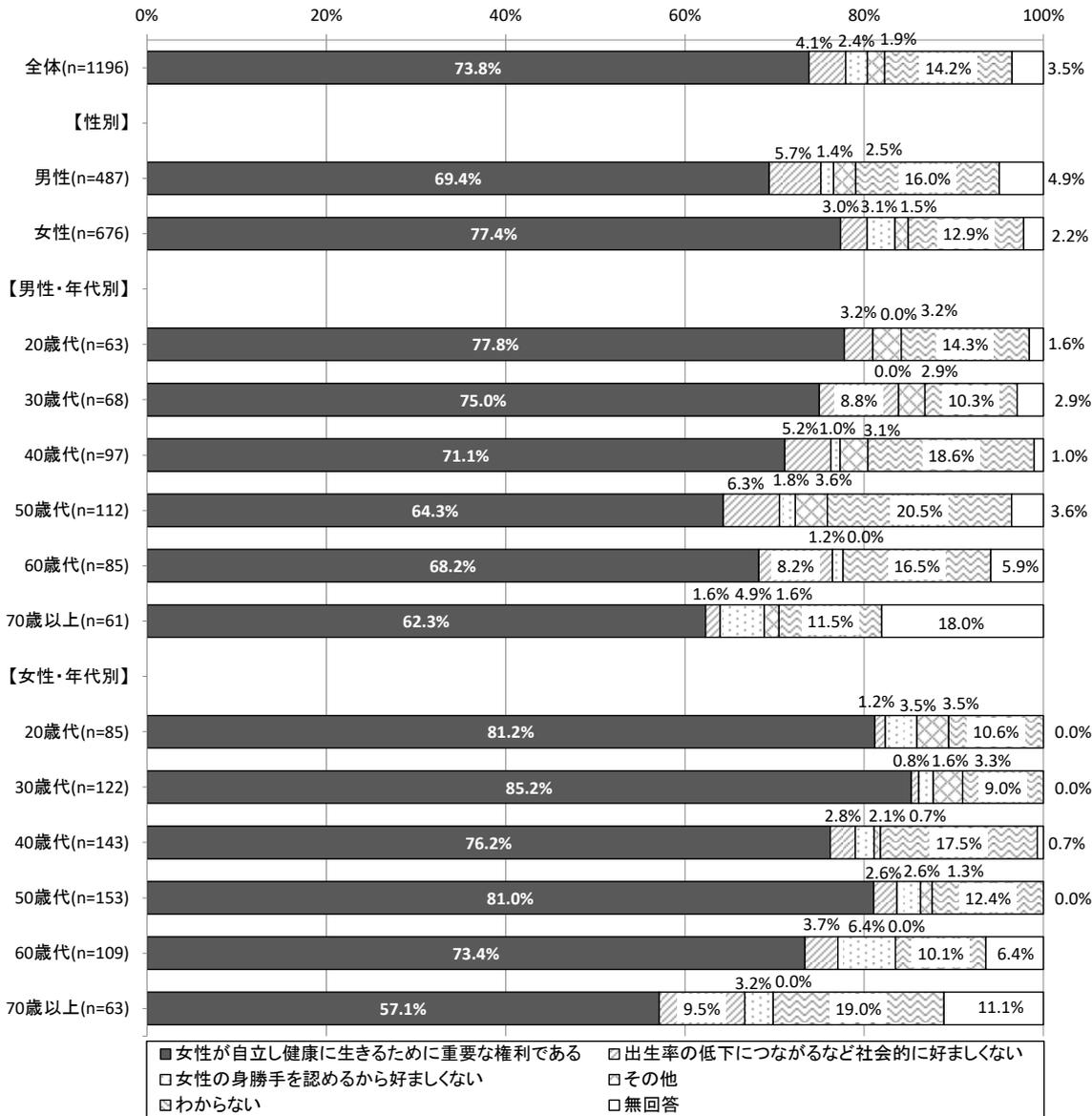


項目	回答数	構成比
女性が自立し健康に生きるために重要な権利である	883	73.8%
出生率の低下につながるなど社会的に好ましくない	49	4.1%
女性の身勝手を認めるから好ましくない	29	2.4%
その他	23	1.9%
わからない	170	14.2%
無回答	42	3.5%
合計	1,196	100.0%

### 【性別、性・年代別クロス】

性別では、男性よりも女性の方が「女性が自立し健康に生きるために重要な権利である」という回答が多く、女性に比べ男性は、「わからない」という回答が多くなっています。

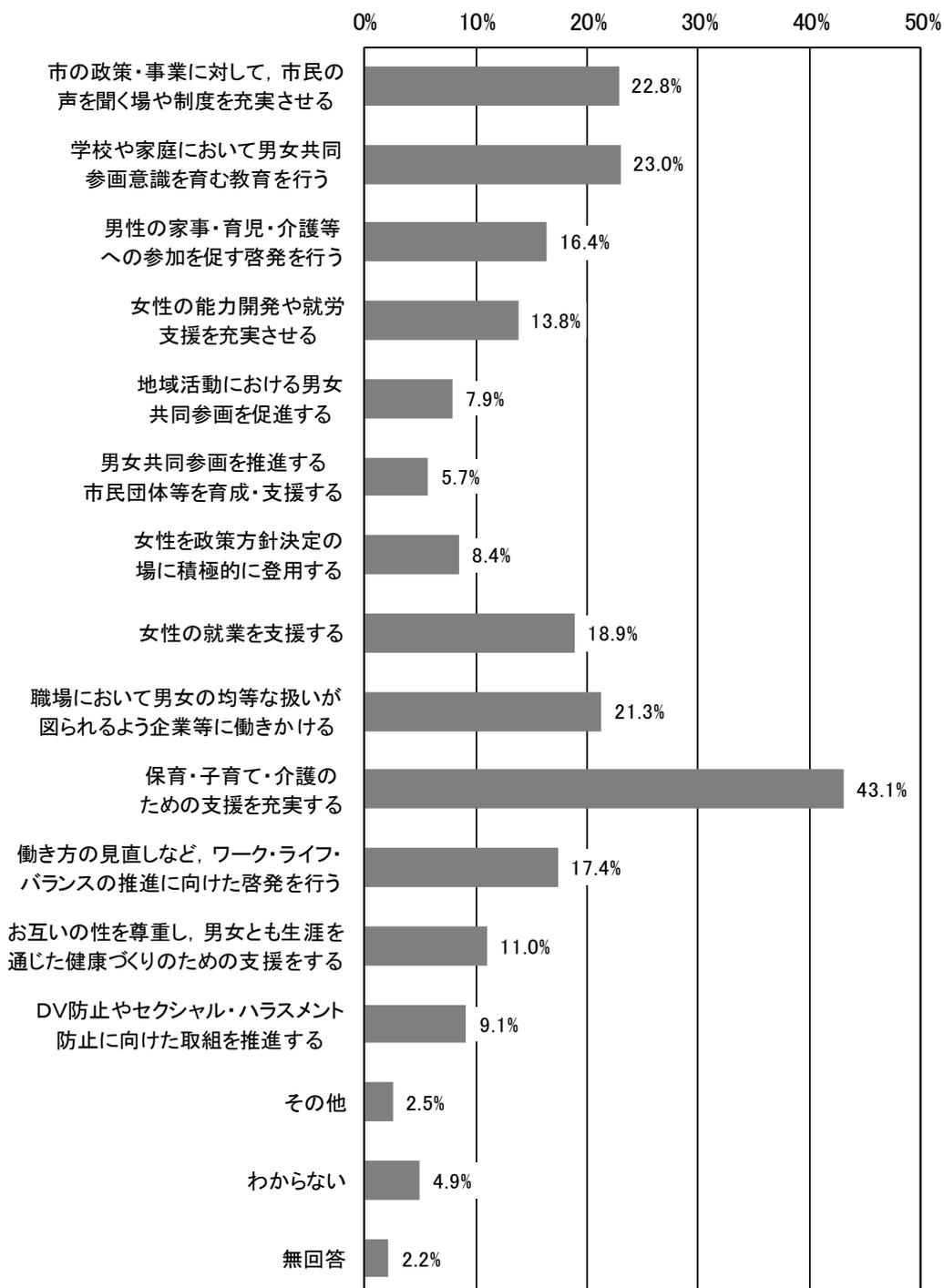
性・年代別では、年代が上がるに従い「女性が自立し健康に生きるために重要な権利である」という回答が少なくなっています。



## (9) 男女共同参画に関する施策について

問38 あなたは、男女共同参画の実現に向けて、今後、宇都宮市は特にどのような事に力をいれたらよいと思いますか。(〇は2つまで)

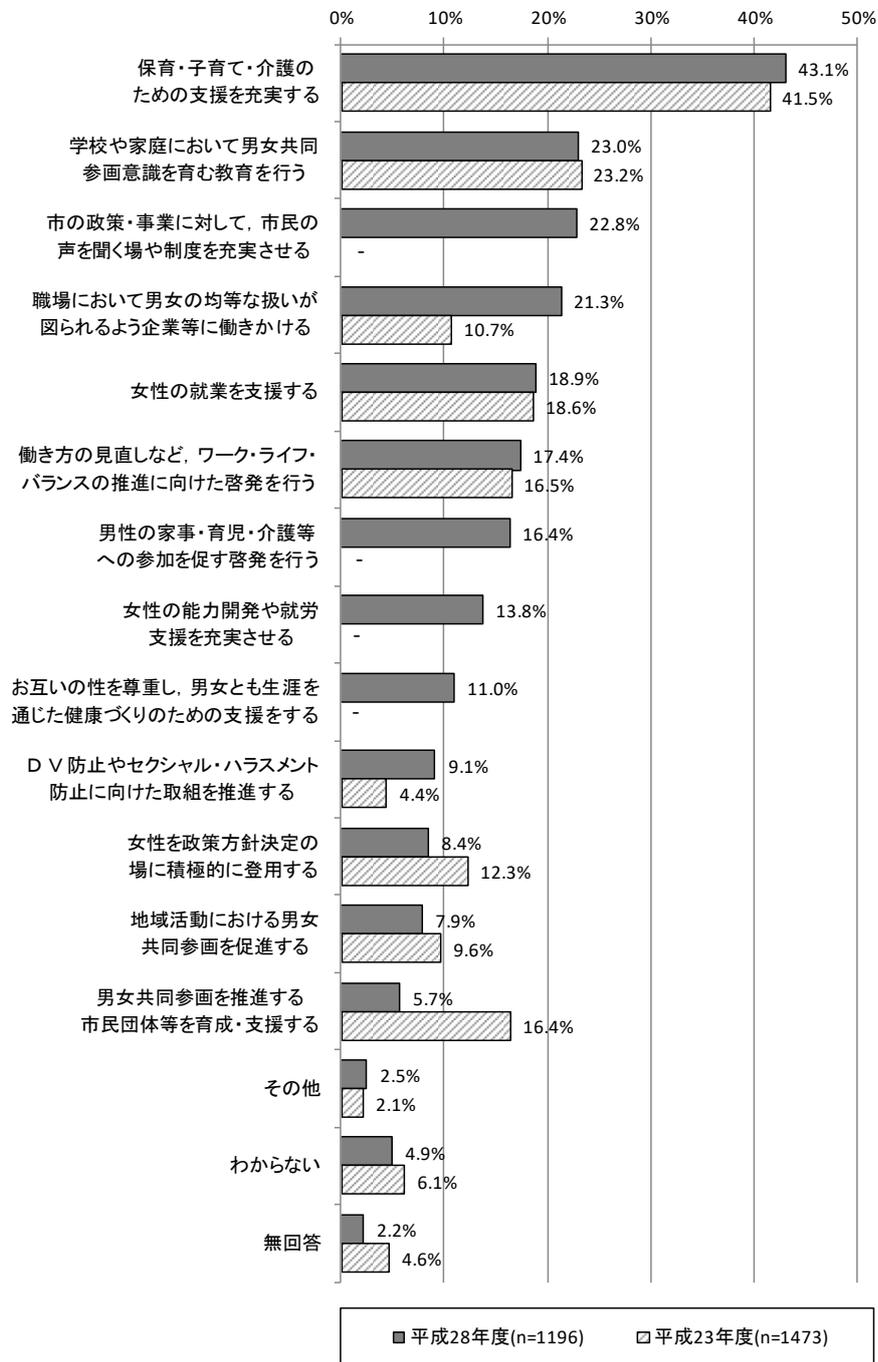
男女共同参画の実現に向けて、今後、宇都宮市が力を入れてほしいことについては、「保育・子育て・介護のための支援を充実する」が43.1%で最も多く、次いで「学校や家庭において男女共同参画意識を育む教育を行う」が23.0%、「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」が22.8%、「職場において男女の均等な扱いが図られるよう企業等に働きかける」が21.3%となっています。



項目	回答数	構成比
市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる	273	22.8%
学校や家庭において男女共同参画意識を育む教育を行う	275	23.0%
男性の家事・育児・介護等への参加を促す啓発を行う	196	16.4%
女性の能力開発や就労支援を充実させる	165	13.8%
地域活動における男女共同参画を促進する	94	7.9%
男女共同参画を推進する市民団体等を育成・支援する	68	5.7%
女性を政策方針決定の場に積極的に登用する	101	8.4%
女性の就業を支援する	226	18.9%
職場において男女の均等な扱いが図られるよう企業等に働きかける	255	21.3%
保育・子育て・介護のための支援を充実する	515	43.1%
働き方の見直しなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた啓発を行う	208	17.4%
お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする	132	11.0%
DV防止やセクシャル・ハラスメント防止に向けた取組を推進する	109	9.1%
その他	30	2.5%
わからない	59	4.9%
無回答	26	2.2%
回答者数	1,196	

## 【経年比較】

前回調査と比較すると、「職場において男女の均等な扱いが図られるよう企業等に働きかける」という回答は大きく増加しています。

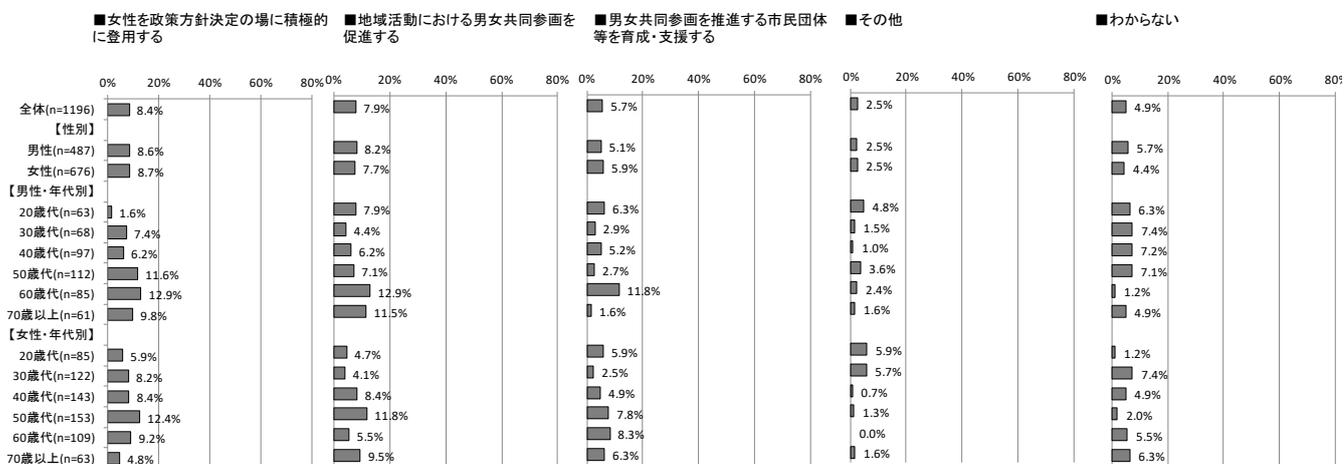
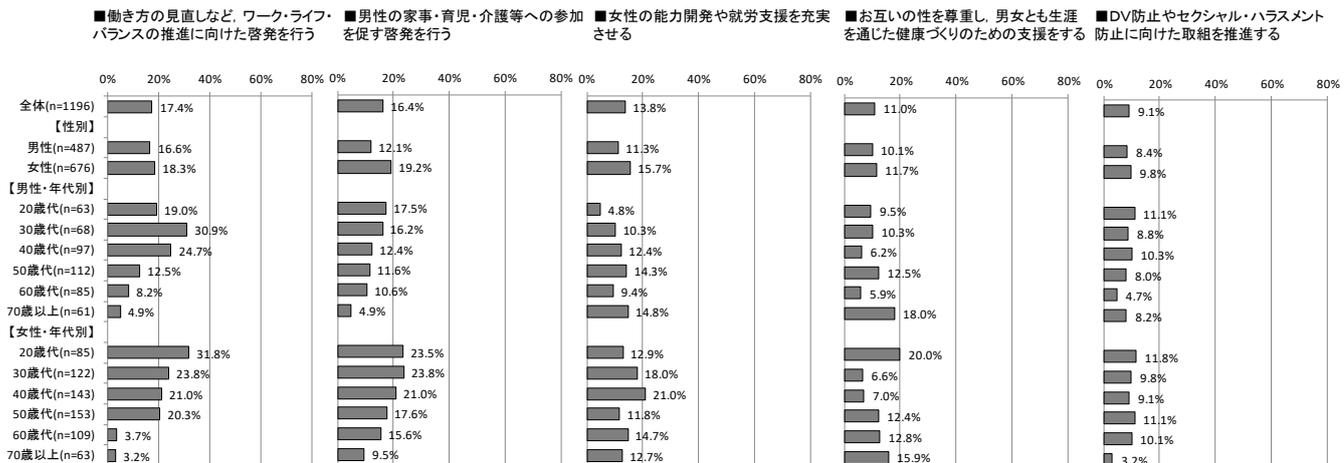
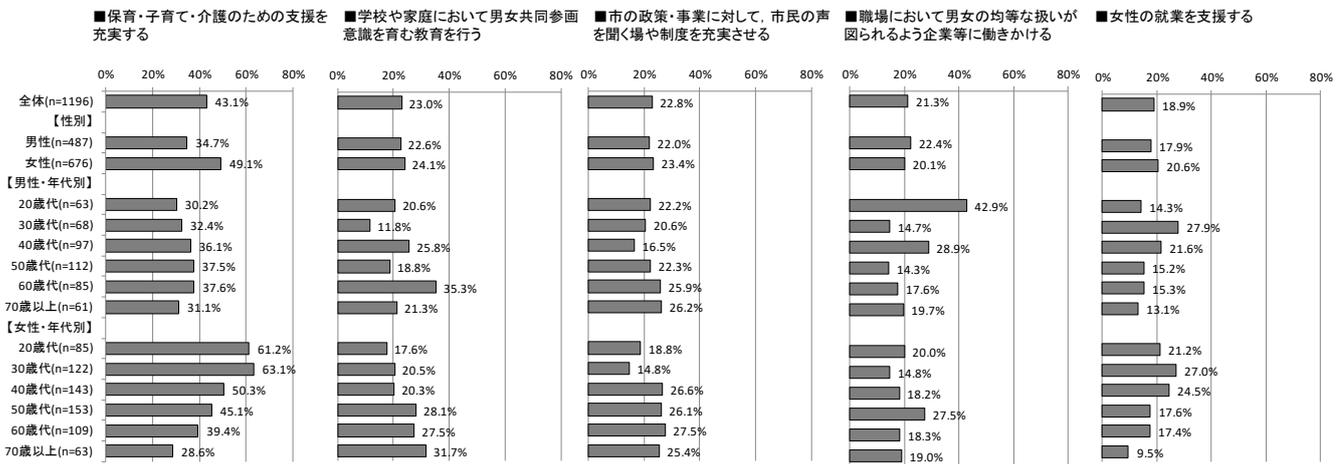


※「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」、「男性の家事・育児・介護等への参加を促す啓発を行う」、「女性の能力開発や就労支援を充実させる」、「お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする」は前回調査に項目がないため、比較はなし

## 【性別、性・年代別クロス】

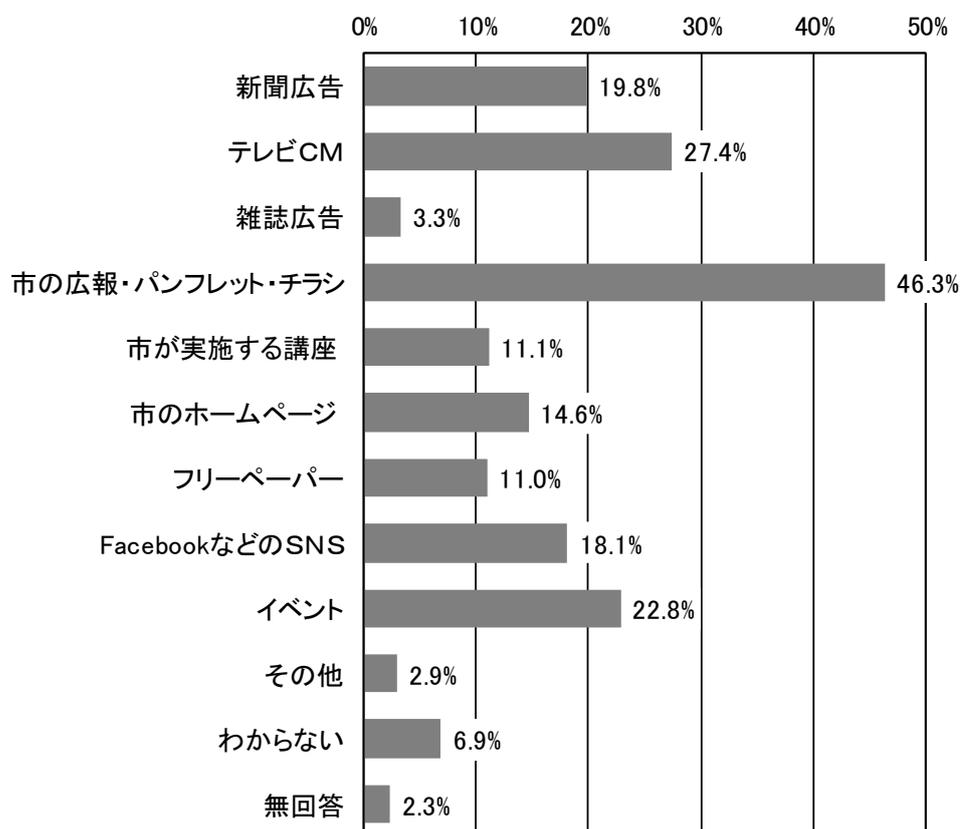
性別では、ほとんど男性よりも女性の回答が多くなっていますが「職場において男女の均等な扱いが図られるよう企業等に働きかける」では、男性の回答が多くなっています。

性・年代別では、特に、「保育・子育て・介護のための支援を充実する」の女性、「働き方の見直しなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた啓発を行う」、「男性の家事・育児・介護等への参加を促す啓発を行う」の男女で年代が上がるに従い、力をいれた方がよいと思うという回答が少なくなっています。



問39 今後、宇都宮市で男女共同参画をより周知させるために、有効な媒体はなんだと思いますか。(〇は2つまで)

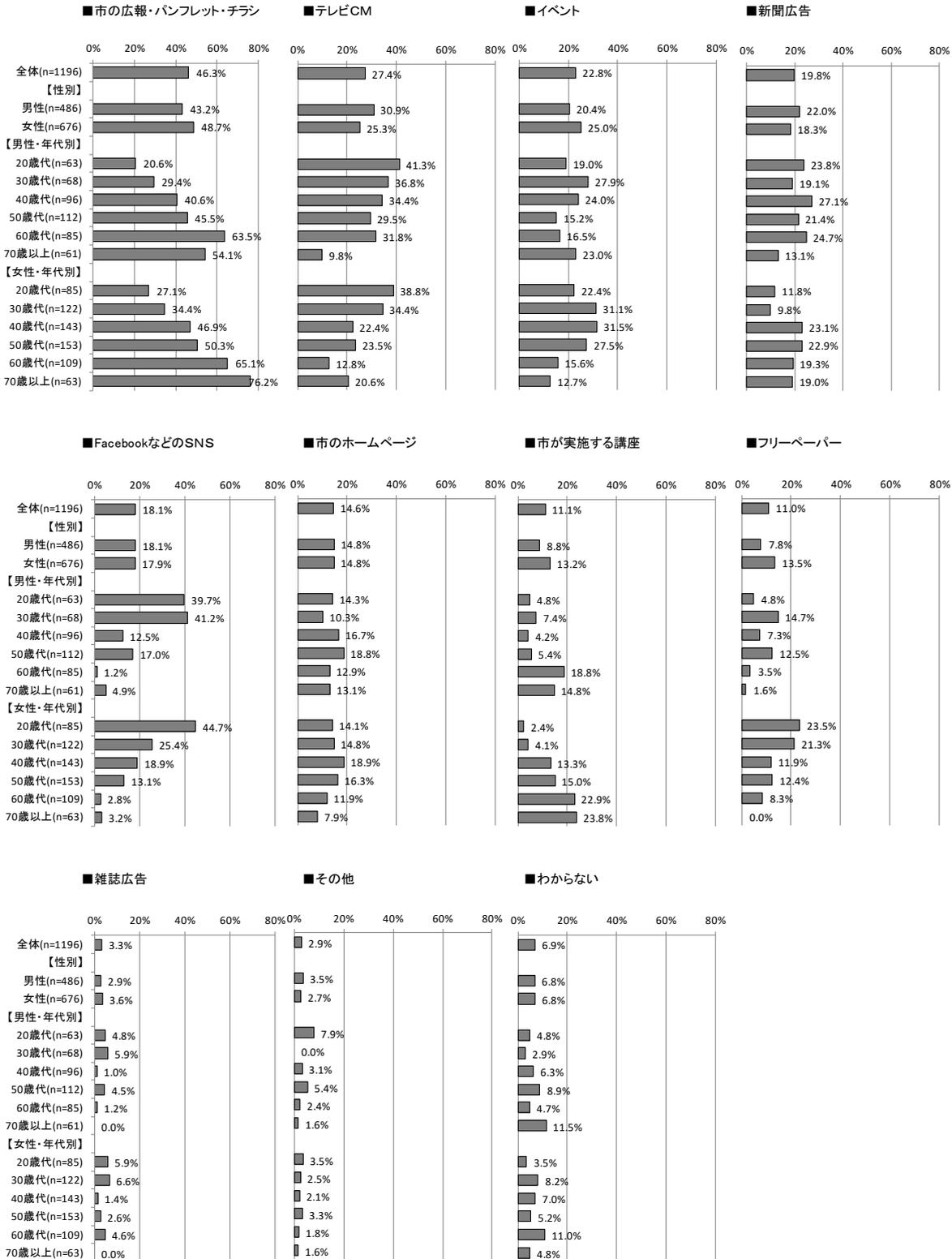
宇都宮市で男女共同参画をより周知させるために、有効な媒体については、「市の広報・パンフレット・チラシ」が46.3%で最も多く、次いで「テレビCM」が27.4%、「イベント」が22.8%となっています。



項目	回答数	構成比
新聞広告	237	19.8%
テレビCM	328	27.4%
雑誌広告	39	3.3%
市の広報・パンフレット・チラシ	554	46.3%
市が実施する講座	133	11.1%
市のホームページ	175	14.6%
フリーペーパー	131	11.0%
FacebookなどのSNS	217	18.1%
イベント	273	22.8%
その他	35	2.9%
わからない	82	6.9%
無回答	28	2.3%
回答者数	1,196	

## 【性別、性・年代別クロス】

性別では、男女ともに「市の広報・パンフレットチラシ」が有効な媒体であるとの回答が最も多くなっています。



問40 あなたが日頃、家庭や学校、職場、地域などで、男女共同参画社会について感じていることがございましたら、ご自由にお書きください。

【意見数】

項 目		件 数
1	男女の地位・平等感について感じる事	30
2	家庭生活	14
3	社会参画（地域活動）	20
4	少子高齢社会	4
5	職業・就労	31
6	男女平等教育	18
7	男女共同参画に関する施策	13
8	本アンケートについて	12
9	市政全般への要望・苦情	16
10	女性の活躍について	15
11	その他	16
回 答 数		189

※記述の詳細については、記述編に掲載



## 記述編

### F 4 あなたの家族構成はどれに該当しますか。(○は1つだけ)

- |                      |                                  |
|----------------------|----------------------------------|
| ■親，兄夫婦とその子           | ■訳あって知人宅に同居                      |
| ■兄弟                  | ■両親と娘の暮す家，自分一人のマンション<br>を行き来している |
| ■単身赴任，子2人            | ■親と自分と同居人                        |
| ■夫婦と姉とその子供           | ■兄姉本人弟4人暮らし                      |
| ■夫婦，義母，義妹            | ■父親・弟と3人暮らし                      |
| ■親，姉，姪               | ■ケアセンター居住                        |
| ■四世代世帯               | ■別居中，子供と実家                       |
| ■夫を地元に残し宇都宮に単身赴任している | ■夫・私・私の母                         |
| ■親と弟                 | ■婚約者                             |
| ■夫婦と従業員              |                                  |
| ■自分，姪，甥              |                                  |

### F 5 あなたの仕事は次のうちどれにあたりますか。(○は1つだけ)

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| ■非常勤嘱託員                  | ■会社役員               |
| ■製造業（工場）                 | ■非常勤講師(高校生)         |
| ■会社役員                    | ■教員                 |
| ■障害者                     | ■食べるだけの農業           |
| ■障害者就労支援施設で仕事の訓練を<br>します | ■製薬会社社員             |
| ■建設業                     | ■フリーでいろいろボランティアなど含む |
| ■公務員                     | ■公務員                |
| ■公務員                     | ■会社員                |
| ■公務員                     | ■年金暮らし              |
| ■地方公務員                   | ■会社員                |
| ■公務員                     | ■公務員                |
| ■会社顧問                    | ■育休中                |
| ■高校講師                    | ■期間アルバイト実施 御中元，お歳暮等 |
| ■年金受給者                   | ■非常勤嘱託              |

### 問3 「男は仕事，女は家庭」という考え方について，あなたの意見に近いものはどれですか。(○は1つだけ)

- 子供が小さいときは女は家庭にいるのがよい。
- 能力に応じて仕事をするのはすばらしいと思うが子供が幼い時は母親が家に居ることは望ましいと思う。
- 家庭によって男女の家とはきまっていない。人の事とくらべてかんがえるべきでない。
- 必ずしも助成が仕事を持つ必要は無いが事情によって助成が仕事に就く場合は子育て(乳幼児においては)母の関わりは大きいほうが良いと思う。
- 家庭内で話し合って決められるべき
- 性差を考え本来の天命がある。
- 一概には言えない。その家庭のあり方でいいと思う。周りに女医さんで旦那が主夫をしている人がいる。
- 男女とも仕事をもち家庭では得意な事を率先して協力し合うのが良い。
- 男は仕事を基本にし，女性は必要な仕事をする。その場合は家事の仕事も男性もする。
- 女性も働かないと経済的に苦しい時代になっていると思うので女性も仕事を持たざるを得ず，家庭でも責任を分担
- 仕事を大事にする事，子育てをきちんとする事，どちらも大切。誰がそれをするか家庭での分担，或いは，認識を持った上でやれる事をやっていく事が大切。男女両方に両方の認識が必要。偏ればバランスは取れない。

- このいる家庭は①, その他は③
- 子供が小さいうちは女性は家にいるほうが良い。
- 男女とも, 仕事をもち, 家事は分担ではなく協力する。
- 各戸の事情によって1~4を選択すべき
- 本来は3です。男の人は仕事の地位が上がると仕事を優先
- 男女ともに仕事をもち, 家庭でも分担をもち, お互い出来る事をする。
- 未来を担う子どもが育つ上でベースは家庭・家族であるべき。男女どちらでも良いが, 家庭に1人は子どもに常に目を向けられる家族がいるという安心感が子どもには必要
- 割的に男性が仕事で基盤を築き, 女性も社会と適度な関係を持つ仕事(パートなどの軽い仕事など)をするのが良いと思う。家庭は女性に頼る割合が多いと思う。
- 人権においては平等であり, 男は男の役割, 女は女の役割を果たす事
- それぞれの仕事や家庭環境にもよる
- 性差は全く関係ない
- 適正重視すべき
- 1~4だと3か4ではあるが結婚して家庭や子供の事を考えるならばその場の状況やパートナー次第

問7 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくために, 企業はどのような取組が必要だと思いますか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

《⑩具体的に》

- 時短勤務を取りたくても取りづらい立場の人もある。その人に対しての何らかの他の制度を地域や企業は考えるべき
- 個人のライフスタイルに応じて, 働き方を選べるようにする。なんでも一律に変えるのは得策ではない。
- 会社側が各個人の生活環境に合った状況を作って欲しい(幼児のいる家庭, 介護者がいる家庭, 病弱な方がいる家庭他)。
- 企業が取り組めるよう, 県や市が指導しなくてはいけない。
- やっぱり, トップが率先してやらないと駄目。模範を示すべき
- 収益が悪化している中, 改善が進まない。景気回復あつての企業改善。
- 長時間労働ありきの仕事のやり方を変える必要がある。労働時間を減らすための制度, 仕事のやり方, 意識改革全てを一体に取り組むことが重要。
- 企業と役所が協創し, 地域社会の活動の場を生み出す工夫をすべきである。
- 課長, 係長クラスの意識が変わること, 給料を上げ, 残業代をあてにしなくても安心して生活できるようにすることが大切。納期優先で日本人は無理をしすぎている。
- 会社・事業主が会社の回りの地域活動に積極的に参加する。
- 一人あたり働く時間を減らし, 過労させないこと。また, 休みを取りやすくすることも重要。
- ・企業は地域と共に成長することを念頭に地域活動にも「力」を注ぐこと。・時間外規制(36協定等)は労使共しっかり協定し, しっかり守ること。
- 就労前の子育て女性に対し, 職場内に保育施設を設置する(これは何十年も前から言われてきているが, 充実されているのが少ない)。
- 残業があたり前という意識をなくす。上司, 部下, 会社トップ共々。
- 従業員同士がフォローし合える, ゆとり(時間・仕事内容を理解し合えている)を持つこと。
- 職業によって取組はちがう。
- リーダー, 責任者がそぐわない職場は, 全く改革改善が望めない。まず, 責任者の資質が重要と思います。
- ・今までの仕事への取り組み方への考え方を見直す(無駄な業務がたくさんあると思う)・長時間仕事に時間を割く事が仕事ができるという昔ながらの考えをなくす。・まだまだ学歴を重んじる会社が多いが, 実力主義にして給料も実力に応じて叩きさせる。・育児・介護休業を男性がとることがあたりまえという考えにシフトする。
- 就業時間に縛られず, 仕事に合った時間帯での就労。

- トップの意識も重要だが仕事をする側も時間内に効率よくこなす知恵と努力は必要。そうした事で時間を空ける=余裕が出来る。
- 会社社長は従業員あつての会社であり従業員の生活を保証。
- 守るべき事は守らねばならない。しかし帰るべき事は帰るべき。その時代に応じた考え方、長に立つものは何においても考え方に信念を持って行使すべき。時宜に応じた方針を立てそれを行使するには部にも説明がつくような行動・信念を持って対応する必要があると思います。それがワーク・ライフ・バランスにつながるのではないのでしょうか。
- 上司の顔色を伺わない。部下に強要しない。
- 今の職場はいわゆるブラック企業。私達の職種では多いこと。その中でも人員が少なくTOPがローコストにこだわり専門職以外のスタッフに様々な仕事をさせている。残業代も出ずにボランティア。パワハラ的な部分もあり私達も金銭的なことは言いにくい。新人は18~22歳。私達の時代と考え方が大きく違い教えても理解されにくい。
- 制度⑬大企業にしか出来ない。(休業中に他の人を雇用しなければならない 自分が復帰したらその人は解雇されるのか?)
- 休日出勤を法律で禁止する。
- ①のようなことでなく、みんな(役職、人柄)関係なく取り組むべきです。
- 労働基準の自由化が必要だと思う。法規則で企業を圧するのは対価としての労働力を求める事になる。(低い収益の労働者は不要。企業が成長・存続するために労働者は高い能力のある社員のみで構成される社会)
- 個人のスタイルに合ったやり方。
- 正社員でも給料や労働時間・日数を状況に応じて変更できるようにすればいいと思う。
- 非正規雇用に多くの3Kを任せている事が多くの企業に当てはまるのでそういう風習を改めて欲しい。
- 平成24年、育児休暇復帰後子供の発熱が原因で数ヶ月の期間、数日仕事を休みがちだった。そのことが原因で評価が下げられた。企業全体の意識改革が必要。
- 仕事と私生活は全く区別して考えていただきたい。部下は上司に従う事しか出来ないで上司の意識が変われば職場は自然と変わっていくと思う。
- 育児をするときに男性の育児に関わる時間が少なすぎる。育休がぜんぜんされてないし、1歳未満の子供を持つ母親に対してのサービスが宇都宮は少なすぎる。練馬区は4時間1500円で預かってくれるし(もちろん認可保育園)、60時間、お産の後ヘルパーの券をくれて家事(掃除、洗濯、料理)など。宇都宮少なすぎ。
- 1人が仕事を抱え込まないで済むような分担など職場でのあり方を考えていく事も大事かと思う。
- シルバー人材の活用
- 雇用主の立場からすれば収益が上がらなければ従業員数も給料も増えません。各々が時間内にバリバリ働いて収益を上げてくれなければ待遇、改善は難しいのが現状です。
- 男性も働きやすい職場になると家事も手伝って貰いやすい。後は子供の行事を減らしたほうがいいかと。親の方だけでなく子供の方も改革が欲しいかな。もっと簡単に。
- 有給消化率が悪くて消えていくばかり。数字が減らないのを見ると不満は感じる。会社のトップは消化率が高いのか低いのか意識しているのか。低い事を知っても対策は練らないだろうし、対策を練りたくても人が集まらなければ練れない。利益を上げることを考えれば人を増やせないと思う。
- 有給休暇を取りやすくする。
- 社会全体の合意助成が必要。企業だけの努力では実践しない。
- 24H営業、土日営業をやめる。もっとゆっくり生きる。
- 従業員を大切にする。
- 一人一人の意識改革(偏見の目で見ない)
- 残業時間が多い=仕事ができるの勘違い
- 休みがとりやすい環境作り
- 経営者がどれだけ理念をかかげても、実際の現地における管理ショックの意識及び管理職への成果要求をかえない限り、現実的な効果はないと思う。
- ノー残業デーを設けるとその日以外は早く帰れない雰囲気になるので普段から早く帰れるような業務管理が重要だと思う。

- 先進企業を啓蒙する。
- 物理的な思考で仕事を減らす（片付ける）為に人を増やしたとしても、会社ごとの環境や上に立つ者のブラックな意識を変えないと意味がない。役割や能力に応じて賃金の差を出すべきと考えます。（特にパート）その人に見合っただけの対価としての賃金を与える会社は少ない（実体験としての意見）。
- 10年パートをしていますが、ちっとも時給が上がらないので休みたくても休めない。
- 企業側も地域との連携に積極的に取り組むべき。そして各組織のトップが意見交換し、お互いに共存できる方法を見つけ出す。行事（社会参加）にスムーズに参加できるように自治体から働きかけてほしい。
- 教育を受ける時代（学生）時期での社会のあり方を学ぶ（個性）。
- 妊活中の女性・男性（無精子症の治療・手術）などで、体調不良となり仕事に行けなくなっても、診断書を受けつけてくれること。
- 子育て世代の女性の勤務時間を考慮してくれる企業に魅力を感じる。
- 個人の生活のスタイルなので本人しだい。
- 企業どうしの啓発。
- 子育て、介護も十分に時間かけられるように人員配置、仕事のバランスを重要としてほしい。
- 休みたくても休めない社内の空気、早く帰りたくても帰れない職場の空気をかえないかぎりムリ。
- とりあえずブラックとかで人がいじめで死んだり自殺しなければいいと思う。
- 産・育休や介護休業の他に、不妊治療のための休業をとりやすくしてほしい。
- 休みたい時に休める体制
- パートとかの事をもっと働きやすくしてほしいです。
- 以前テレビで見たのですが、残業代として支払われていた分を始めから給料に上乗せしたら残業時間が大幅に減ったという内容でした。本当に必要な残業なのかどうかを見極めることも大事で中には少しでも給料を増やす為に残業している場合もあるのでは・・・ということでした。「残業」が本当にできてしまった時は"早く終わった部署(人)が終わらない人手伝うそうです。そうしたことで社員同士の協力体勢が整い、以前より仕事ははかどるようになり、結果として業績が上がったとのこと。良い方法だと思いました。長くなってすみません。
- 対人関係に悩んでる人に相応しい職をもっと作ってほしい。例) DVやストーカー被害などで外(社会・対人・不特定多数)の人と会わずにできる内職など(在宅ワーク)。
- 仕事のやり方の全ての項目においてどの仕事であっても優先順位はあっても「やめてしまう」と簡単に決められないと思う。レアなケースになっても取扱うための知識を持つことは必要。レアケースだからやんない、知らなかったというのは、甘えのような感じがする。効率を上げる努力を心がけることが必要だと思う。
- 全体で分担して仕事の穴を埋める。
- 一部の企業努力では実現は難しいと思います。また日本人の気質が根本的に変わっていかないと実現できないのでは。
- 企業より先に国県市など公的機関がまず不平等感、不正を質し、特権感覚をなくし、真に国民・市民に豊かさが実感できるかつ、与えるような政策・方策を率先して行うことを浸透させ企業が追隨して実行させるように環境を作ることが必要に思う。
- 国が義務化しないと企業(自治体)は動かない。
- バランスのとれた仕事の配分。ノルマは個人ではなくグループに課す等。
- 看護休(介護)・産休・育休の取得が出来やすく、その後の職場復帰を容易に。
- 家庭の事情での退社(夫の転勤など)でも、再就職をしやすくする。産休、育休の期間をもっと長くとれるようにする(1年以上)。
- とにかく、管理者を含む職員が、意識改革をし、自ら実現しなければならない。
- 現実的に企業は利益が出なければ雇用は維持できないのだから、利益追求しつつ、時間がかかっても実現しようとする姿勢と行動力が欲しい。
- ワーク・ライフ・バランスが実現されることは大変望ましいことですが、業種によって、または仕事の内容によっては難しいと思います。万人にはあてはめることはできない社会のワーク・ライフ・バランスは平等でなくてはいけません。さもなければ、福祉国家化していかないと無理です。
- 社内保育所の設置

- 子どもが小さい時は、学童や保育園の延長保育を 19:30 にする。または管理職がもっと配慮して早く帰らせることを推進する。土日は必ず休業にする。
- 第三者の管理が必要。公開する、罰金を支払わせる等厳しい指導が必要。
- 関東地区の中で最低賃金は低く、水道代は高すぎて、生活が苦しい。ワーク・ライフ・バランスのとれている地域を参考にして、良い地域に(住みやすい地域)になる様に考えてほしい。格差がありすぎると思う。
- 性別に関係なく自らの生活を大切にすることが当たり前な社会になって欲しい。
- 従業員を機械の様な扱いをしない。サービス残業、当たりの圧力をかけない。
- 残業するというのを良い事としない。仕事ができるということは仕事を定時にきちんと終了できること。
- ⑭時間短縮できても補充できる人材や、補充なくとも十分な従業員数がなければ、職場に迷惑がかかってしまうので、結局①～⑮総合的にレベルアップしないと現状は変わらない(従業員の意識改革も必要)。
- 女性のみの職場なのに育児休業などが取りづらい。復帰も出来る感じでないし、有休も妊娠していても許可出来ないと言われた。
- ノー残業デーなどは会社として、強制的に社員を退社させる必要もあると考える。
- 人材教育に力を入れ、昇格できる人を育てることにより会社全体で人事異動ができればバランスのとれた仕事ができるようになると思う。
- 週に何日2日位勤務時間を短くするなど。
- 職場の上司が理解できていなければ難しい取り組みだと思うので、職場上司の意識改革が重要だと思います。
- 法による制度化
- 勤務時間について会社と社員のじっくりとした話し合い企業は家族の一員であるという心がけ
- 休み=健康の維持とも考えられるので、休みがもちろんあって、健康面でも会社はサポートしなければならない。健康診断だけではなくて。
- テレワークなどの導入。トップが社員を大切にすれば仕事の能率はおのずと上がると思うのですが。
- 職業の流動性を高め、当事者の満足度の整合することが大事と考える。
- 各個人の仕事を減らし、勤務時間を少なくする必要がある。
- 現状を変えワーク・ライフ・バランスを実現するためには従業員を増やし労働時間を減らす。しかしサラリーは下がることとなる。それを納得できなければ難しい。現実的な方向で考えなければ無理だと思います。
- ワーク・ライフ・バランスが実現された社会に近づくためには個人が頑張るだけでは意味がないと思います。企業で同じお給料で働いている量が違うのはどうなのでしょう？ただお給料を上げるのではなく働いていない人のお給料を下げる必要もあるのではないのでしょうか。
- ①子育て環境の充実、整備が期待される。②民間企業において充実整備を急ぐ事が望まれる。③例：保育設備等の整備。育児休業の取得を容易とすること等。
- 仕事によっては出来ない事がある。話がわからない。
- ⑮について医療、福祉など職種によっては不可能なものが多い。
- 企業だけでは限界があると思います。
- 最近の傾向は部下が上司に対してわがままであると思う。自己主張もいいが自分をもっと知る事も必要ではないのでしょうか？チームワークの良い企業は既に昔からバランスがとれているように思う。
- 物価を底上げする。
- 会社での勤務時間の長さや作成書類の分厚さで査定するのをやめる。会議の時間が短い。話が短い。仕事が速い。等が給料に反映されるべき。そういう人がどんどん出世する例がなければダメ。

問8 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくために、自治体はどのような取組が必要だと思いますか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

《⑫法規制の強化について》

- 保育所を企業が確保する。
- 誰でも他の人を気にしないで取れることを望みます。
- 現代に合った法規をきちんとつくり、指導する。
- ⑨母子家庭の子供を優先的に受け入れるべきであって、共働きの家庭では、なるべく母親が家庭にいられるように夫の給与を妻が働かなくても良いようにすることが良いと思う。
- 会社ごとに、抜き打ちで数名(社員)を選び、一ヶ月ごとの就労時間を一年分記載してもらい、自治体などに直接申告してもらう。そして大幅に就労時間の多い企業に罰金支払いや、管理職等に相応の処遇などを与える。
- 小さな会社で、働く社員を減らされ、仕事が倍になる。体がだるい、つかれがとれない。生活があるので会社をやめられない。パートじゃない。社員だからやるのはあたりまえ。
- ワーク・ライフ・バランスの意識の低い企業は、法規制でも無い限りワーク・ライフ・バランスの向上に努めないの、法規制は非常に重要。
- 補助金、助成金などで企業の取組みをし易くする。
- ・制度を守れていない企業は公開すべき。・企業に助成金を出すにしても給与UPしなければ意味ないので監視をしっかりする。
- 横文字を多く使いすぎ。一般的ではない表現の仕方。中学生でも分かるように。
- ブラック企業などを無くすため、内部からの告発をしやすい環境をつくる。「働き過ぎ」ということを防ぐ法を考案する。
- W.L.B. 仕事に掛ける時間を長くせざるを得ない企業、二の事情、原因を取りのぞく事を教えて下さい。上記のような直接的、表面的な施策で効果が出るとは思えない。
- 長時間労働は法律で強く規制すること。(法律の適用を厳しく行うこと)
- あくまで企業が自発的に、取り組まなければいけないと思う。残業は効率が良くないことを自覚する。
- 規制とはだれでもがあてはまらなければ重要だと思えない。
- 過剰労働の職場は、現実に多い。二重帳簿も多いです。職場での内部告発は難しいので、改善できないのが大判です。子ども相談窓口の様に、もっと聞々取れる場を設けた方が良いと思います。
- ・育児・介護休業取得の義務化。・保育所無償化、介護施設。・企業が保育所を持つ、もしくは提携等して子育てしながら働ける場所と時間を確保。
- 時短勤務や育休などによる企業の損失負担分を企業に対し国が補償したり補助、助成する。(時短勤務や育休介護による就労制限者などをポイント化する。ポイントに応じ、国や自治体等が助成する)
- 企業経営者の人を大切にしていって共存を図る心が欲しい。
- ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化するについて何を持って「ワーバラ」なのかしっかりと定義なしに法を述べるべきではない。前述の定義ではあまりにも陳腐すぎます。その定義がワーバラなののでしょうか。であればこれを得て法強化することはあまりにも乱暴ではないのでしょうか。戦時中の「民意」と称されるものを繰り返すつもりには考えられません。
- 超過勤務限度法(週10時間以上は)
- 大企業から実践の義務付けをし、段階的に広めてはどうか。
- 電通の問題から働き方についてメディアでもクローズUPされつつあり、人生一度きり、朝早くから夜遅くまで仕事をしてそれ以外の業務は家に持ち帰り休日出勤もざら。仕方ないと言うTOP. 不景気で医療費も財政権も高齢社会を迎えるのに私達の世代も今一番苦しい。大企業が少しずつ変わる中、個人の事業所は法律的に変えないと難しい。
- 法律で休日出勤を禁止する。
- 自治体が企業に関与するのは辺ではないだろうか?そして法で規制しなければ成り立たぬワーク・ライフ・バランスとは。本位のものとは異なるのではないだろうか。
- 女性は社会進出よりも子供を生み、育てていける社会へして欲しい。
- 業務において時間を規制するのではなく内容を規制する。ノー残業デーや退社時間を決めるな

んで無意味。

- 法律で規制していただければ我々下級層は堂々とワーク・ライフ・バランスを実現する事が出来る。だめな上司は分かり易く文にして説明してやらなければならない。
- 法だけでは難しいでしょう。一人ひとりの意識改革ができるようにしないと。
- マタハラについて具体的な法規則。
- ワーク・ライフ・バランスが実現する為には各々がまじめに働かないといけないと思います。栃木県人はまじめに働かないイメージがあります。
- 内縁とか同棲の世帯でも結婚した人と同じような権利があればいいなと思います。
- 各企業の有給消化率をある一定以上取る事を明確に義務付けさせる。
- 罰則を設けないと日本では実行が難しいと思います。
- 何でも法で規制し強化するほど遵守する為の無理が生じて見当違いな問題が出てくると思います。
- ワーク・ライフ・バランスが必要であるが、またその目的や内容について社会全体の合意が必要。
- 実施度合等により徴収税額を変える。
- 目標を達成している企業に税金優遇など（助成金よりもいい）。
- 企業が提出する情報だけではなく、時には行政・自治体が企業の実態を査察することまでも必要だと思う。
- 企業への罰則強化
- 極端に言えば、"法"として決めてしまえば、どの企業も従うと思は思う。しかし、本当に出来ているか、嘘はないか、継続できるかがむずかしい。その点の確認として、アルバイト・パート・非正規社員を対象にしたアンケート調査等を定期的に行い、事実確認をとるのも良いと思う。その場にいると、中々正直な意見は言えないので、匿名で答えられる様に企業ごと→個人の URL を作成して職場の人に見られない様なセキュリティのあるものを希望します。
- 法規制してもどこまですすむか微妙。
- 社会参加への企業が取り組んでいる所へ、広告料を求めるだけでなく企業側にも得られるものを自治体も考える。これから栃木国体もあるので、私自身選手以外の場をスタッフとして参加を希望しているが、企業側にどうアピールしてよいかわからない。
- ポイント制（企業へ）実行社に対して何か免除等。税金とか。
- 法律化するには、まず条約や前言など小さなスタートし、PR を続けるなどして規則化すべきだと思う。
- 罰則を設ける
- 人の生活パターンを法で定める事はおかしい。
- 例えば GW は統一せず5連休確実にとりたい時にとれるようにする。
- どうせ税金を使って紹介したって PR したって世の中は変わらない。あたり前。
- 個人の状況に合わせる。
- 求職者への企業情報は正確にして欲しい。
- 法で規制すべきでない。
- 有給があると求人票には載せていて実際は有給制度がない。取らせない。労働法違反の企業への指導強化、ペナルティー制度。そういう会社が実際にありました。
- ワークバランスの基準を設けて少しでも怠れば欧州レベルの制裁金を課す。
- 公務員の給与を軽減する必要はないと思うが、真の企業の範となるべくして、企業に余裕とゆとりある経営を取り組めるような法規制を望む。
- 国が義務化しないと企業（自治体）は動かない。
- 企業側が考え改革すべきで有り、法規制するものではないと思う。
- マイナンバー制度を利用して、最低限の休養日などの情報を様々な意味で管理できるようにする。
- ほめるより罰則がないと守らない。
- 一定規模以上の企業の出退勤のシステムを、労基がチェックできるようにする。望ましくは労基に出退勤システムのホストを置く。（一定規模以上の企業の出退勤を労基が管理）
- 企業に対して税の軽減や問題をアドバイスできる専門家の育成
- 現実的に考え、民間企業にはきれい事としか思えない。公務員が実践しても反感くうだけでは？
- 経済が安定しなければ給与があがらず、ワーク・ライフ・バランスは充実させられない。格差

- 社会をなくす方が先。
- 法規制をしても、医療関係など難しい職業もあると思うので、どうなのでしょう。管理職の考え方1つだと思います。
  - 労働時間についてもっと厳しい法規制が必要。
  - 法規制の強化をすることで生産性をそこなう可能性も否定できない。万人が9:00~17:00という仕事をしているなら別ですが、いろいろな形態で仕事をしている方がいるので。
  - 残業手当を支給する。有給を必ず消化する。休みをとりやすくするため、従業員を増やす。
  - 宇都宮の取組をメディアを使って発信する。市民だけでなく全国へ発信する位の本気度が必要。=外からの評価を知る。
  - ワーク・ライフ・バランスのとれていない企業をチェックし指導し、少しでも向上できるようにする。
  - 子育てや家事をしない男性が珍しい社会を実現できれば良い。
  - どんどんやってください。
  - ⑨の保育所等の拡充は大切であるが、そこに働いている人のワークバランスも重要である。何時もこのような人々が犠牲になっている。(低賃金、長時間労働)
  - 年休を流さないよう、全日数取得させられない企業には残日数を買い取らせる(→年休取得が進む)(余った年休の買い取り)。
  - ワーク・ライフ・バランスの満足度など、会社ごとにアンケートなどをとる決まりがあり、公開しなければならない決まりがあれば、会社も少しは意識しなければならない状態になると思う。
  - 最低賃金の見直し、強制的に残業、早出などさせられていないかの調査の徹底
  - ある程度企業に対しペナルティーを設けてもいいのでは
  - 法規制はありがたいが、実際はどうでしょう・・・中小企業には全く口だけのように感じますが。
  - ワーク・ライフ・バランス推進の目的税(法人税)の導入
  - 意識が整わないうちに法規制を強化するのは逆効果になると思う。
  - 規制を強化しても環境が整わない限り実効性は乏しいと思う。
  - 公的、民間の介護職員の充実優先
  - アイデアを実践する社会実験をできるだけ多くやることで、バランスをとるという考えを浸透させていくべき
  - 監視機能とペナルティーが重要と考える日本の社会では性善説はもはや通用しないと思う。
  - ただ強化するだけではダメだと思います。
  - ①企業における育環境の現説及び実態調査の上、改善へのガイドラインを示す。②環境改善への協力企業とは公的支援を実施しモデルケースを作り育てる
  - 法規制はいろいろの取り組みに枠を作る事になるから反対
  - 社長に責任を取ってもらおう。現場ではない。
  - 法規制ということは罰則が生じることもあるのでは？今の段階では賛成できない。
  - 特に必要ではないと思う。
  - 大企業には出来ても中小企業には難しい。税制優遇等あわせないとムリ。

**問11 今後、男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）**

- 男性が普通になんでもできる社会。
- 景気回復ありきの企業の人員の確保で
- 無理に男女を分けることなく協力して自然体で暮らす
- 家事・子育て・介護に積極的な男性が参加できるような制度の社会環境作りが重要
- 他県では誰でもやっている事。本県だけの問題です。定年後の男は特に忙しい。育児介護をしている。
- しきたりや男社会の様な古い考えを無くすこと
- 男性、女性どちらが参加するかはその家庭しだい 社会・自治体が心配する事ではない
- 本人自身の意識の変容、やさしさ
- 収入がもんだい
- 男女とも時間外勤務をせず帰宅できる働き方を出来るようにする事。制度、法整備、経営者側の意識、働く側の意識を変えていく事
- 愛と感謝の気持ちが必要
- やはり女性は子供を生み育てて欲しい。
- 企業の理解、当たり前と認識される環境
- 全て社会の意考によると思う。
- 労働時間が短縮されたら男性は遊ぶ時間が増えるばかりで家事・子育て・介護に参加しないとします。
- 男女の性差を考えながら単に時間的分担できない 内容や重要度を考えながら役割分担が有ると思う。
- 中学校で男子にも「家庭科」を履習させる。
- 参加というのがおかしい。
- 本人の意識の問題
- 男女に関係なく協力し合う考えを持てば、物理的な時間や金銭の問題はある程度解決出来ると思う。その考え方が社会全体に広まれば自然と世の中全体が良くなる。"男女平等が当たり前"と言える様な社会にしていくことが大切。
- 今の高齢者の考え方と介護する側との意見のギャップがありすぎるので、伊くら若い世代ががんばってもなかなか成果が上げられないのでその部分をうめる対策が必要
- 男女の給料の格差はもっとあるべき。独身女ほど自己中心で生産性があがらないものはない。
- 扶養控除の撤廃。女性が仕事をしやすく環境の整備。
- 会社・仕事のせいにしないで妻を思いやれば何でもできる。
- 安定した生活が出来る環境
- 職種によるので一概には言えない。
- 在宅テレワークの導入等、会社に行かなくても働くことができるようにする。
- 祝日を増やすこと
- 決めつけ意識の改め
- 介護等、出来る人がやれば良いと思う。実際自分は介護を実施していた。ただ、その事での周囲のやさしい対応が必要だと思う。
- 子どもの段階で学校での家庭科のような授業で男が家庭に意欲的に取り組みたくなるような教育が必要なのではと思う。大人の人達を意識改革全て行うより、少子化で今後今の子どもの事を思うと特に女の子は負担が大きくなると思うので。
- ブラック企業のチェックと指導、改善を希望する。
- 女性の価値観を話に持ち込まない。
- 介護の係る金銭的負担の公的補助の更なる拡充
- 企業の子育て環境等の実態を把握し、公的機関が改善へのリーダーシップを発揮する事を期待します。

【問12で、「2. 行っていない」に○をつけた方にお尋ねします。】

問13 あなたが現在、社会的な活動に参加していない主な理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- よく分からない。
- 自治会などは、夫が行っているから。
- 当番制でやっている（自治会の役員）。
- 輪番の為
- 会社経営で時間が確保できない。
- 独身のため
- 学生だから
- 参加の必要のあるものがないから（以前は参加したこともあった）
- 自治会等は同居の母が行っていて子供も大学生なので活動範囲がない。
- 地域自体の催し物を行っていない。
- 介護が忙しくて
- 仕事はその活動につながっているから
- 単身赴任のため
- 自治会を脱退したから
- 子育てを終え、定年をむかえ、自治会参加活動はしているものの、役員は輪番制なので、今は何もない。
- 地域で役割が回って来た年は、行っている。PTA役員は、子供が高校を卒業する迄やった。
- 病気
- 健康面で不安
- 親が参加している。
- 面倒くさそうなイメージが有る。
- 年齢的に参加する活動が最寄りに無い。
- 過去に自治会長や神社総代を経験している。
- 転勤似て地域に根付いた活動に制限がある為
- 年齢的に参加が難しいが多い。
- 他のボランティアをしているため
- 障害者である為
- ロー手で現在は役員で無いから
- 参加方法が分からないから
- 自治会は順番制なので
- 子育てが終わり。機会がなくなったから
- 親がやっているから
- 仕事と家事の為あまり時間が無い
- ボランティア活動をしています。
- 現在は特に必要とされる事はない
- ペットの世話があるから
- 当番制になっており昨年担当しました。
- 病気療養のため
- 普段単身赴任で県外にいるから
- 仕事上勤務先の社会的活動に貢献している。
- 複数の病気を抱えており身体的にも行動が出来ない。
- 親が現役でやっているのと一緒に
- 賃貸の為、自治会に入っていません
- 習い事で多忙
- 年令のため
- 引っ越したばかりでわからない
- 参加すべき行事がないと思っているから
- 私のがんに罹患しているため、がん中心の活動のみ
- 自治会の役員の年度は参加しているが普段は難しい。

- 自分の生活で精一杯。世の中には期待していない。面倒な人が多いから関わりを持ちたくない。
- 自治会に入っていない。
- 妊娠中につき体調に波があるから参加できない。
- 当番だから
- 体がきかない
- 子供が小さい時は母親が参加しましたが子供が成長したため
- 学生だから
- 地元を離れてアパート暮らししているから
- リハビリ中の為
- 何をやっているかわからない。
- 学生であり忙しいため
- 親が行っているため
- 自治会や地域全体の高齢化が進みすぎて何も活動がない。
- 自分の体調が悪い時
- 乾坤して引っ越してきて、しくみについて分からないから
- 子供がいらないから PTA など関係ない
- 自分の健康の問題で
- 老人で足腰が悪い
- 自治会、老人会等に参加はしているが、75歳を機に自分の好みの生活をすることにしている。責任のあることは避けています。
- 年齢的に活動が億劫である事と家でする趣味や習い事
- 時間的に余裕がないから
- 活動がない為
- 活動自体がまわりで行われていない。
- 自治会には参加しているが、主たる活動は班長活動のみ
- 単身赴任中
- 本業が忙しいため（学業）
- 病の為
- 療養中
- とりあえず子育てが終わり、PTAからは離れまだ自治会の行事には参加しているが役員はしていない。
- 自治会は町内の班長が回ってきたらやります。
- 親が主に参加している為
- 妻が自ら進んで行っている為、まかせている。でも協力している。
- 交代勤務
- 順番制
- 病気のため
- もちまわりで必ず協力はしてきました。
- 具体的な活動が不明
- 学生なのであまり機会がない。
- 高齢
- 子供が成人し、アパート住まいで自治会にも入っていない為
- 学生で親まかせのため
- 独身のため必要性がないため
- アパートでの生活(引っ越してきてからそのまま自治会に入っていない)。
- 夫が行っているため
- 学業が忙しい為
- 孫たちとの生活のため
- アパートに住んでいる為自治会に入っていない。
- 体調が悪いから
- 自治会やPTAには老人は出ない世代交代により
- 未婚
- 月に2～3回、元仲間への会報配布

- 仕事をして子供は独立
- 私は車椅子(現在)なので出来ないのです。
- 自治会などの活動は週末が多くサービス業のため休めない。
- 人付き合いが苦手だから。
- 町内会の有無が不明、子供はまだ0歳児
- 体が思う様に動かないから
- 学生だから
- 自治会に入っていない(賃貸なので)、子供が成人したのでPTAに入っていない。
- 自分の親の世代が行っているから
- 栃木県にいないから
- 引っ越ししたばかりだから
- 健康に自信がない

**問14 あなたは、審議会等の委員など政策決定の場に女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は1つだけ)**

- 頭の固い老害を排除すること
- 設問の意味がわからない。審議会等とは何を指しているか不明。
- 男・女委員定数を定める。
- 私の知っている組織では女性の意見が十分に反映されていると思っているので、特に○をつけることは無い。
- 役所の理解，議会
- 十分な能力があることを示すこと及びその場を設けること。
- 男女平等に参画の機会が得えられていれば女性参画を増やす配慮は不要。
- それを望む女性がいるのであればそうすべき。それを望む事すらかなわない風土に問題があるのであれば改善すべきだと思う。しかし、その風土を望まないのに流行や風潮によっていたらずに女性活躍を謳うべきでは無いと思う。
- 適任なら性別は関係ない。現状で問題ない。女性の参画者が少ないのは問題ではなく内容の偏りが問題なのだから。
- 女性の参画が増えるのは反対です。
- 女性の参画を増やすと言う考えが分からない。
- 「能力がある人がなる」ただそれだけ。
- 感情を抑えられる女性がいるならば5でもいいと思う。
- 委員定数の中で男女比を規定すればいいのでは。
- それぞれの各会合等の人数を男女同数三原則にする。
- 自治会の活動は大変なので正直やりたくない。
- 今回のようなアンケートが自治体の中にも取り入れてほしい。参加したいが今までの慣例の中での自治体の運営がなされているようで「いつ決まったの？」という疑問や「こすればいいのに」という意見が話せる場所・機会がないので、自治会・企業（公務員以外）に入っている人の参加がしにくい。自治会の役員は元公務員が多い。か自営業。
- 増やす必要性はない。
- 役割を性差なく行える。
- 女性達が能力のある女性を発掘・応援すること
- 固定概念の除去
- 参加委員男性恵の意識改革だと思います。つまらない対応心を持たない事、そして持っていない人が参加する事。
- 審議会は公の場であるが、あまりにも固い雰囲気では参加しにくい。
- 委員の構成を男女50%ずつとってしまう。
- 会社等の役職者に女性を増やす。
- 同じ人が結局いくつも委員を務めるというような結果では増えていかない。当面は一人一つに限り、参画する人の数を増やすべき。

**問15 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)**

- 本人の好きにする方がよい。
- 自営は夫婦で仕事をやらざるを得ない。
- 個々人の生活の状況や環境により変わることなのでどれが良いとはいえない。
- 個人の価値観に従う。
- 自分の好きな様に結婚後は家族と相談し無理のないよう好きな様にするのが良いと思う。
- 育児を楽しめる様環境がととのえば育児を楽しむ方が子どもも小さいうちはおちつくと思うが育児をどうしたらいいかわからない。不安であれば一緒にできることを教えてもらえる環境をととのえられる事があれば育児を楽しんだ方がいい。しかし家庭のやりくりの状況で共働きせざるをえなければ保育所などの機関を利用し、また育児ができないとあればそういった機関を利用し子どもを育ててもらっても良いと思う。
- 個人の自由です。
- 職業の持ち方・続け方は女性各個人の自由。女性は一般的にこうすべきと押しつけるべきでない。
- 自由
- 働きたい人が働けばよい。男女は関係ない。
- 自分の好きなように生活したら良い。
- 女性個人の価値観だと思う。職業を持つことに希望するなら持った方が良い。
- その人それぞれに合った働き方をすれば良いと思う。
- 職業経験はあった方が良いが、個人それぞれで決めれば良い。
- それぞれに自分にあった選択をすればいい。
- 働きたい女性が働きやすい環境にする必要があり、働きたくなくても働かざるを得ない状況がないようにしてほしい。
- 上記質問に「子供が出来たら」を選択肢に入れるべきではないでしょうか？その時点で前記定義を矛盾すると思います。
- 個人の自由でいいと思います。
- 働きたい人が働き続けられる。辞めて家事育児に専念したい人が専念できるのがいい。
- 性別に関係なく全ての個人が好きに選択すべき
- その方の都合でいいのでは。
- 1～7までがあたりまえです。
- 将来も見通した上でその人に合った職業観を持つ事が必要
- ケースバイケース
- 楽しく生きる為、生きがいのある仕事をして欲しい。
- 企業が今のままでは女性の負担が重くなる。
- 老人のため答えられない。
- 職業を持つ事で家事育児から開放されるのでリフレッシュになる。
- 内職をしながら子育てを行ってきました。支出を少なくする為、塾や幼稚園には行かず全て自分達で教えてきました。そのため理想としては子供と共に楽しみながら生きる事を願い専業主婦をする事が出来ました。しかし①でもよい。
- 本人のやりたいようにしてやりたい。
- 働きたかったら働けば良い。仕事も子育てもどちらもやりたいかを感じればどちらも努力して働いているうちにどちらが大切になるか決まったり変わったりする。それに柔軟に対応できる社会は凄いい。出来てないけど。質問の制作者に男尊女卑の意識を感じる。不愉快。
- そのときで一番良い方法を考える。
- 男女関係なくその人の生活スタイルによる。
- 女性は男性に比べ体調や精神の変化が大きいのである程度融通の利く職務がいいのかもしれない。
- 当たり前のこと
- やりたい人はやれば良い。
- その人の心の声に従うのが一番です。
- 子どものできた後、どの会社・職種でも3年程度育休、その後復職したい。(同じ会社で)

- その人の自由でいい
- 人による
- ライフステージや性別にかかわらず、職業を持つことは個人の自由
- 自己の意志でほめれば良いこと
- その人の都合で考えれば良いと思う。パートに切り替えができるシステムがあるのは良いと思う。
- 働けるなら働いた方が良い。
- その人、その人が良いと思うことをすれば良い。家族がいる場合は、同意を得るべき。
- その時に臨機応変に考えれば良い。決める事はない。
- 女性も1人の人間として自由に職業を持つべきだと思う。
- その人の生活に合った仕事携帯が選べるのが理想。
- ～する方が良いと言う事ではない。
- 自由でいいとおもう。
- 職業を持ちたい人が持ちたい時に持てるべき
- 職業を持つことは自由、働き方も人それぞれ
- どんな状況でも在籍出来る職業をもつ方が良い。
- 本人の意思の問題。価値観も違うのでまずは家庭環境等の整備、意識改善
- 女性だからうんぬんとは思わない。
- 仕事ができる状態を確保し子ども対応は産休・育休できる体制に持って行く。
- 1～7の答えはどれも女性が子育てすることを念頭にした答えのような気がするので当てはまらない。
- どちらでも。
- 生活環境に合わせて選択する。
- 働きたい人は働くのが良いし、結婚や出産などで家庭に居なくなったら居れば良い。どちらが良いと言うことではなく、やりたい事やれる事をする。
- その場、その場の状況で上記にはあてはまらないが、働けるなら働けば良いと思う。(働きたいと思っても働けないなど)
- 本人の自由。その時は周りが協力する。
- 本人の気持ち
- 続けられる環境が整っていれば、職業を持っても良いと思う。
- 本人がやりたいことをやれば良い
- 自分の状況や能力で仕事の時間を時期ごとに選べると良い
- 本人の意志次第
- 職業であれば何であれ自己実現の機会をもちたい
- 結婚するまでは職業をもつ方が良いが、それからの生活は夫婦で相談し、決めれば良い。
- 好きな事に必要な時に働けるように
- 子育ても家事も立派な職業だと思います。
- それぞれの特殊解であるので一般的に論じるべきでない。
- 男性に対してこれと同じ質問ができる社会になってほしい。その為には女性も職業を持ち、自分の意見で子育て、PTAなどに参加するなど自由に生きて良いと思う。
- 人それぞれ違う理想があるので
- 必要であれば働くべき
- その人の価値観で他人が決めるべきではない。
- 女性とひとくくりにせず各自の意志で決められる社会であるべき
- 各自の自由です。
- 好きなように働けばいい。

【結婚や出産・育児のいずれかを経験している女性の方にお尋ねします（問16のみ）】

問16 現在のあなた自身の職業の持ち方は、どれに該当しますか。（○は1つだけ）

- 2であったが、出産援助の為。今、無職になった。
- 働ける時に働いている。現在は働いていない。
- 夫の両親の介護の為、退職しました。
- 結婚を機に退職、子育て後 パートから社員に。
- 結婚育児に退職し子供が生長した時再就職している。
- 出産を機に退職し、来月から再就職の予定
- 定年後は自分に合った職種がない。
- 下の子供が高校に入学した時又仕事についた。
- 農家なので必然的に仕事はついて回る。
- 結婚の為に退職し、子育てがひと段落してから再び仕事
- 独り身なのでずっと働いています。
- 親の介護を機に仕事をやめた。
- 出産を機に正社員からパートへ。
- 結婚も出産・育児もしないで働いていますがそれが何か。
- 2番に近いですがその後職業を持っていない。
- 子育てしながら自分で資格を取り自宅で収入を得ている。
- 出産育児に関わらず働いていたが親の介護の為退職
- 障害のある子供がいるので働けない。
- 出産を機にパートに切り替えました。
- 学校卒業後すぐに出産
- 夫の転勤に伴い退職しそのまま
- 結婚・出産・育児をし、下の子が小学校に上がってからパートを始めた。
- 早期定年扱いにて退職
- 3人目出産後退職。入園後、復帰予定（医療関係）。
- 前は①で現在は体調が悪い為を持っていない。
- 身体をこわしてから無職
- 2番の後45才くらいから職業を持っていない。
- 自営業のため、育児も介護もやっています。
- 結婚を機に退職し、子育てがひと段落してからパートに就いた。
- 子育て中仕事をしたが現在は病の為無職です。
- 結婚後仕事をやめ、出産。下の子が3歳からパート仕事を続けている。
- 親の介護を機に職業を持っていない。
- 出産、育児期間に退職し、その後パートタイムにした。
- 今自分が立たされていない状態によってパート職に就いたりやめたりしている。
- スキルアップする為、海外の学校へ入学する為に退職し、子育てが一段落した時に再就職。
- その時の様子によって考えて決める。
- フリーの仕事のため、時間や内容は自分で調整し、育児や受験サポートに力を入れた。介護を機に仕事を辞めた。

**問17 女性が結婚や出産・育児のために退職し、その後、再就職するためには特に何が必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)**

- 病児保育所の充実。ファミリーサポート等のあっせん。
- ライセンスの取得（進学時等に先のことまで考える）
- 法整備
- 箱物だけでなく、公的な自宅へ出向いてくれるベビーシッター制度などを充実させるべき
- 保育所が高すぎ 足りない。
- 子供の長期休みの対応，対策
- ブランク年数にもよる
- パート等にも関わらず、性社員と同じ待遇であること（給料，保険等）。
- 子供が病気の時に休める企業と社会の理解
- 夫の収入
- その方のやる気では
- 3としましたが人に頼むより自分で面倒見たほうが安い。
- 急な休みや，早退などしやすい企業の雰囲気
- 日本人の考え方の変化
- 老人の為該当なし
- やる気
- 再就職する女性の就職に対する意識改革必要とされる人材はちゃんと必要とされる事がわかって欲しい。女性が結婚のみを理由に退職するのは仕事をそれ位にしか考えていないから。甘い。
- 本人の再就職希望が必要
- 職場で育児と仕事両方の理解。子どもの都合での早退などの理解。
- 保育施設の柔軟な対応。規制にとらわれて現実の育児に苦勞しているのにあずかってもらえないのが現実。
- 能力がない女は再就職する必要がない。
- 若さと気力と体力とやる気が全てだと思う。
- 職場の勤務形態の充実
- 年齢制限の壁に悩むので改善策が必要
- 再研修制度
- 職場の人々の理解
- 女性がどんなスキルを持っているか
- 子供が夏休み(長期休暇)のときの仕事の軽減
- 賃金の原給補償制度
- 人手不足がひどくなってくると思うので再教育の(再入学をかんたんにするとか)場を充実させてほしい(個人にとっても良い制度)。
- 職場を離れている間の人員調整を実施するため，企業側への法，予算等の優遇

**問 18 女性が活躍するために何が必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)**

- 育児支援に向けた人員増を行うこと
- 責任ある仕事につく事
- 女性が重役につき、役を担うこと
- 上司の目が優れているか劣っているか
- 自治会活動は、現状女性の方が参加している。男性の意識が変わる事が必要。
- 活躍の場との相性。人生の多くの時間を費やすのに値する場なのか。
- 女性が活躍する為には結婚や出産はしないほうが良い。
- 日本人の考え方の変化
- 女性個人の資質
- 女性特有の問題や男女の違い(体格など)が存在する事を認めた上で、仕事をこなす能力があれば男女の別なく評価する事を是とする意識を広める事が必要
- 能力がある人が必要とされる本人の努力が必要
- 男ががんばれや。
- 職場が子育てと両立しながら仕事することに理解があること(子どもが病気の時、早退・欠勤する時など)。
- 子供を持たない既婚女性としては、子持ち女性のシワ寄せが来るのは嫌。研修制度やキャリアアップは子持ちじゃなくても受けてたい。
- 活躍する必要がない。
- 社会が結婚・妊娠だけではなく妊活の事も視野にいれるべき。
- 総理大臣を女にして、日本の世の中、全部変えないと無理。
- 社会的意識改革
- 男女平等社会

**問 19 「女性の活躍が推進されている」とはどのような状態だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)**

- 議員定数、30%が女性である事とか
- 女性が社長などの重役につくこと
- 女性が活躍するには等の問題を公共機関が言わなくなる事
- その存在が唯一無二であること
- 北欧のような完全個人主義
- 家事・育児をしている事を女性の活躍と見ていない事の意識を変えること。仕事だけが活躍の場ではないと思う。
- 現在でも十分に推進されているのでは
- 活躍する必要がない。
- 妊活中の女性の体調に配慮してくれる事
- 男女が平等な状態
- 育児や家事も活躍と言えると思う。必ずしも仕事をしていることが活躍とは言えないのでは。

**【問 20 で、「1. ある」に○をつけた方にお尋ねします。】**

**問 20-1 退職した理由はなんでしたか。(あてはまる番号すべてに○)**

- 目標実現のためや職場の制度のため
- 出産の援助
- 事業閉鎖にて
- 主人の転勤
- 居住地の環境が悪かったため、それを良くする為に転職した。
- 第 2 の人生のための技能習得、スキルアップの為。
- 家族の協力が得られず、過労から病気になった。
- 上司との関係、ストレス、仕事のやりがいの無さ。
- 定年退職
- 仕事をするにあたり自分のスキル不足が足りないのを知り学び直すためにやめた。
- 家業につく為
- 不妊治療に通う為毎月何回か休暇をもらう事。職場の周囲の理解がなかった。
- 定年
- 年齢 60 歳でリストラされました。
- 会社の一方的な解雇
- 会社の都合。統合の為、人減らし。
- 高齢者の為
- 職場育成機関の不備
- 通勤距離。子供の病気。
- 独立
- 仕事を続ける事について家族や親族から協力を得られなかった。
- 会社閉鎖
- 定年で辞めた。
- 能力的に無理だった。
- 不況による会社の都合
- 育児休暇中に待機児童で保育園に入れず延長。保育所に入所可能となったときに職場の元の部署に席がなく就業条件の厳しい部署への転籍を伝えられたが話し合いの末解雇処分となる。
- 障害がある子供で病弱なので。
- 定年退職
- 無給の長時間残業・休日出勤等
- 会社都合
- 会社都合でリストラ
- 主人の転勤（引越し）27 才の時
- 職場の事業廃止
- 夫の転勤
- 妊活中で会社を休む時間が長く診断書なども受けつけてくれなく退職せざるをえませんでした。
- 主人の転勤（引越し）27 才の時。
- 主人の転勤
- 育休明けの復帰で希望でない部署異動があったため
- けいやく終了
- 自分にむかない
- 期間契約の仕事の為
- 会社都合
- スキルアップのために会社をやめた。
- 工場閉鎖の為
- 定年退職
- 仕事内容に不満があった。
- 重要なポストに着任し、負担が大きく家庭生活に支障が出たため。
- 就職時に嘘の条件を言われていた。

- 実家に近い場所への転職
- 信仰を持った為
- 夫の転勤
- 夫の転勤のため
- 社会的に悪であると思われる業務だったから
- もう一度学校，専門学校に入る為に退職。
- 不妊治療のためにやむをえず
- 新たな仕事について
- ストレスでじんましん，発熱，胃痛など体調不良が続いたため
- 夫の転勤(山形県→栃木県)
- 地元に戻ってきたかったため

【問 20-1 で、「1. 結婚」，「2. 妊娠・出産」，「3. 育児」，「4. 高齢者や病人の介護」と回答した方にお尋ねします。】

問 2 1 具体的な理由は、どれに該当しますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 結婚により移住して通えなくなった。
- 転居の為。通勤できなくて。
- 保育園に空きがなく入れなかったの、子どもを見る人が必要になったから。
- 仕事内容が優遇されない。マタハラ。
- お互いに転勤族であった為、一緒に暮す為には辞める必要があった。
- 時間も休みも不規則だし、出張で泊まる事も多々あり、職場にいる以上は他の人に変わってもらえなかったから。
- 3才になる迄は、子供を自分で育てたかったため。
- 個人的理由
- 育児をする上でフルタイム勤務が継続不可能だったから。
- 子供に先天性の病気があったため正社員からパートになってしまうため。
- 幼い子供を抱えながら仕事をするのは家族・親族から協力を得られなかったから。
- 職場まで通勤時間が掛かる為
- 妊娠中の入院をきっかけに仕事が困難になった。
- 実家から遠くサポートを受けられない事。結婚で宇都宮に来てからも再就職がむずかしかった。
- 仕事は続けたかったが勤務時間が家事育児介護に負担をかけてしまうので①になった。
- 配偶者が自営
- 労働条件が契約と違っていた。改善されなかった。
- その頃は、結婚しても仕事を続ける人はいなくてみんな寿退社するのがふつうだったので、そういうものだと思っていた。会社自体も男性が優遇されている会社で、女性はちょっと下に見られていたと思う。
- 結婚による転居
- 出産後東京から宇都宮に転居し、勤続が難しくなったから。
- 当時は同じ支店内に居られず(社内結婚で)、どちらも転勤を望まなかった為。
- 自分の転勤希望が前例がないからと断られた。
- 工場閉鎖(会社自体が宇都宮から撤退)
- 復帰後半年位したらフルタイム(20時まで)と言われたから。
- 結婚相手の父親に現在の職では経済的に無理な為、結婚を反対された。実母が入院し、夜間介護をしなければならなくなった為。
- 結婚すると退職するのが普通だった為。
- 夫と同じ職場だったので
- 県外に住むことになったため
- 結婚したら退職するということがその時代だったから。(会社の)
- 昔は退職が大多数で当たり前だった。50年前。
- 自分の子供は自分の手で育てたいと思ったから。
- 子供との時間を大切にしたいと思ったから。

- 配偶者の理解がなかった，今でも。
- 自営にかわった
- 出産時は退職の形になる企業だったから(産休制度なし)
- 特に，結婚して仕事を辞めただけです。
- 私の年齢では金融関係は結婚退職が通例でした。現在77才。

【問22で、「2. 働きたいが，働けない」と回答した方にお尋ねします。】

**問23 あなたが働けない主な理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)**

- 補聴器使用のため
- 精神障害者の就職の機会が無い。
- 産休正社員が復帰し，派遣期間が終了し再就職が決まらない。
- 複数の病気がある。
- 希望時間が短いので応募してもことわられてしまった。
- 精神的な事
- 同居すると嫁は家の仕事をしろと姑に強制的に言われる(考え方が古風・昔の人)。
- 孫の育児
- 体調不良の為
- 高齢の母が望まない
- 障害者，車椅子

**問24 あなたは，男性の育児休業取得について受け入れられますか。(○は1つだけ)**

- 所得がへるのは困る。
- 人員確保(補充)ができれば受け入れられる。
- 人員が削減された時点で企業として対応不可であるが，気持ちは受けざるを得ない。
- 受け入れてもいいが，給料が減るのは困る。
- 育休権利も男女区別する必要はない。
- 生き物として子育てに女性が優位である事から，男性は日々の在宅時間内に可能な限り育児・家事参加に費やして頂きたい。
- 休業までは必要ないが，早上がりや単発休暇が取りやすくなると良いと思う。
- 乳幼児に関しては基本母親の温かいスキンシップをとって欲しいので判断は微妙。
- 母親が育児を出来ない場合には受け入れる。
- 受け入れても受け入れなくても必要なら仕方ないじゃないか。
- 育休休暇を取得して本当に育児に専念するのか分からないので，休みの日や手が空いている時に手伝って貰う方がいい。
- あの会社では不利に働くので取らないほうが良い。
- 一日の労働時間の短縮制度であれば受け入れられる。
- 収入が減ると生活が出来ない。
- 育児に参加したほうがいいと思うが現状の制度では難しい。
- 長期休業を取って困らない人材なんていない。積極的に取って下さいとは言いたくないけれど必要ならば取って貰いたい。
- 子供にとって母のほうが好ましい。
- 子の年齢や成長度によって違うので一様に返答不可。
- 育児に積極的でない男性に育児を無理にさせることのほうが妻としてイライラしそうなのであまり男性に対して育児を望んでない。
- 女性側の収入が十分ある場合のみ，育児の大変さも知って欲しいので受け入れてもよいと思います。
- 女性が育児休暇を取得できるのであれば男性はサポート体制でいいと思う。
- 良いと思うが，育休議員(元衆院議員)のせいで嘘をついて休む人が増えるのでは?と危惧している。
- 受け入れたいと思うが職種によっては難しい(男女問わず)。

- その時の状況によるのでわからない。
- 育児に参加するのなら認める。休暇取得目的なら認めたくない。
- 夫婦話し合いをして決めたらよい。
- 取得できる環境であれば取得する（取得するのが当たり前になる位になれば良いと思う）
- 定員数により補助職員のいない所は無理。
- まとまった休みをとるのではなく、必要な時に休める体制にしてもらいたい。
- どちらでもない。とれる職場なら取れば良い。
- 仕事をやりくりできる部署にいればかまわない（責任のない）。
- 今の世論では受け入れられない。誰もが取って当り前の世の中なら。
- 妻が主で仕事しているなら受け入れられる。
- 無職
- 子供は絶対に母親が育てるべき(経験から)。
- 単発なら致し方ないが長期的なものは受け入れられない。
- どちらでもかまわない。
- 家庭、家族の状況により一律ではない。
- 男性らしく育児も男性らしく女性と同じでなくて良いと思う。
- 当然のこととして受け入れられる。
- そもそも育児は参加するものでなく、親としての責任だと思う。経済的な問題がクリアできればどちらが休んでも良い。
- 休業でキャリア形式が遅れるのが心配。
- 受け入れられる。問17があれば。
- 話し合って決めれば良い。

**問25 あなたは、男性の介護休業取得について受け入れられますか。(○は1つだけ)**

- 所得がへるのは困る。
- 受け入れたいが、給料が減るのは困る。
- 男女区別不要
- 昇給、昇格、意欲維持を心配しなくてもよいのなら、介護休業受け入れられる。
- 夫婦どちらの親の介護になるのかにもよるし、休業なくとも早上がりや単発休暇が取りやすくなると良いと思う。
- 必要なら仕方ないじゃないか。
- 休まなくてもいい社会が必要。
- 在宅介護で介護支援を何も受けていなければ自分の休養の為にも取得してもいいと思うがまずは介護支援を受けて休業までしなくてもいいようにしたいと思っている。だが介護に参加しなくていいとは思っていない。参加する事は重要。
- 今の企業環境では取ると不利になる。
- 収入が減らなければ受け入れられる。
- 育児と違い、介護はどの位の期間かかるのかわからないので、休暇をとるのは周囲の理解を得るのが難しい。結果退職となるケースが多い。
- 女性が介護休業を取得しているのを見た事がないので分からない。
- 休業を取ることによって生活が成り立たなくなる。
- 介護すべき人がいるなら当然認める。
- 長期でなく短期又は月単位での有給などならば。
- 話し合いで決める。
- 取得できる環境であれば取得する（取得するのが当たり前になる位になれば良いと思う）
- 介護に関しては現実的に考えると分からない。
- まとまった休みをとるのではなく、必要な時に休める体制にしてもらいたい。
- 仕事をやりくりできる部署にいればかまわない（責任の無い）。
- 今の世論では受け入れられない。誰もが取って当り前の世の中なら。
- 女の苦勞がわかるから。
- 当然の事として受け入れられる。

- そもそも育児は参加するものでなく、親としての責任だと思う。経済的な問題がクリアできればどちらが休んでも良い。
- 介護サービスの費用を助成金で賄ってもらえたらありがたい。
- 問24と同じ。こういう理想を実現するためには企業にフレキシブルな雇用ができるようにする必要があります。
- TPOに合えばした方が良い。

**問26 男性が育児休業を取得しづらい理由は何だと思えますか。(あてはまる番号すべてに○)**

- とにかく社長はじめ上層部の理解がないとムリ。
- 主に女性が育児する家庭が多いからでは。
- 育児は面倒だから誰かに押しつけた方が楽だと思っているから。
- 毎週一日だけでも育休が取れると良いと思う。
- 自分の職場では取得しにくい環境です。
- 育児が大変だから。
- 男性は育児に向いていないから※子供は母親を欲しがっている。(子供の立場で判断すべき)
- 気合不足?特に1, 2は本人の問題。
- その人しか出来ない仕事があるから。
- 育児は女性という意識が強いから。
- 女性の給料だけでは生活が難しい。
- 育児などしたくないから。
- 男性に限らず取得しづらい。
- 仕事量に対する社員が少ない。
- 経済状況や社会環境を考えるべき。
- 責任の重い役職についているから。
- 男に育児をしようとする意識がないから。
- 取ると「男のくせに何言ってやがるのだ」と考える上司がいるから。
- なぜ休業しづらいのかがわからない(休業しても良いのではないか)。
- 本人に取る意思がない。
- 制度があるだけで運用実績がない状態にしている。
- 昔はあたりまえと言う人がいるから。
- 法→政治
- 男が働いて稼いでくるといふ世の中を誰も変えないから。
- 社会的に取得させる雰囲気がない。
- 考えたことない。
- 制度を作ったとしても人事評価がプラスになることはない。(取らない人はプラス評価になる)
- 育児休業制度がない。欠勤扱いになってしまうから。
- 仕事の内容によっては取得できない職種もある。あらかじめ取得できる部署があればよい。
- 私の職場では奥さんが取得しているため旦那さんは取らないという風潮。結局育児は奥さんが主で旦那さん1人では育児できないという印象。特に小さい赤ちゃんの世話を男1人ではできないという感じ。
- しづらいとは思わない。
- そもそも男性自身に「取るべきもの」という考えが無いから取ろうとも思わないのでは?と思います。
- 男性の収入が生活源だから。
- 誰でも出来る仕事では亡いため、その人の代わりはいないから法律で会社の税金を軽減、又は助成金により優遇するといった事がないとただ社会は経営が苦しくなるだけになるから。

**問27 男女ともに介護休業を取得しづらい理由は何だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)**

■経済面

- パートの立場では介護休業制度的な休みは頂けないので、介護休業するのであれば辞めなければならぬから。
  - 主に男性が収入の責任者である家庭が多いから。
  - 育休は一年のメドがあるが、介護にはないから。
  - 特に男性は、介護は女性の役割だと思っている割合が多い。
  - 自分の職場では取得しにくい環境です。
  - 介護が必要な状態がいつまで続くのか未知だから。今以上に介護状態が悪化したときのために休みを取っておく。
  - 敬意が足りない。9は現実的です。
  - 育休と違い目処がつかない休業になる可能性があるから。
  - 単純にしたくないのが本音でしょう。
  - 制度が実態にあってないから。
  - 介護休業制度があるか分からない。
  - 上記26と同様、形だけ使い、運用させない体制がある。
  - そういう世の中だから。
  - 介護休暇は1日とされており限定されている。
- 法→政治
- 介護休業なんて取ったら長生きされて年金はへるしまず高齢者の方が多いのだから脳ミソバカでも休んでいられない状態(考えれば分かる・高齢者の場合のみ・障害者の場合は例外!取得しなければ!)
  - 家族等が介護をするのではなく社会全体で行うシステムが必要。
  - 具体的な実体験、事例がなく思いうかばない。
  - いつまで・・・と言う先が見えないから。
  - 育児休業制度がない。欠勤扱いになってしまうから。
  - 取得できる部署(責任がない)に配属されないと無理。職場の周囲の人とのバランスがあるので。
  - 働きながら13年知保の介護の経験ありますが、上司、会社、職場は理解してくれました。
  - しづらいとは思わない。
  - 制度が中途半端だから。
  - 介護はいつ終わるのが見えない。→休職はいつまでとるか介護者も把握できない。(入所先も空きがないetc.)→仕事やめるのが一番迷惑かけないと考えてしまう。
  - そもそも介護休業がある事があまり知られていないと思う。
  - 金。

**【問30で、「1. 相談した」に○をつけた方にお尋ねします。】**

**問30-1 相談した相手はどなたですか。(あてはまる番号すべてに○)**

- 会社の同僚と先輩
- 本人に直接直談判
- 会社の上司

**【問30で、「2. 相談しなかった」に○をつけた方にお尋ねします。】**

**問30-2 相談しなかった主な理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)**

- 男なのだからと馬鹿にさせるから。(妻の夫婦性的行為拒否)

**問31 DVやデートDVを防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)**

- 相談窓口がしっかりと機能すること
- 被害者自身が被害者であると認識できるための啓発
- 女性自身が日頃から軽々しい行動を慎むよう努力することも大切だと思います。
- 加害者を強制的に離し、罰則を重く強化する。
- 加害者をさらし者にする。(指名手配みたいに)
- カッとキレる人はなかなか治らないと思う。DVに関して、男性の意識や知識がうすい。
- 法規制強化
- 地域近隣と親しく付き合えると良い。まずは近い友人知人に気がつく事。
- もっと気軽に相談できる体制作り
- そのような相手と付き合わない。
- DVやデートDVはもともとすべき事では無いと思っている。
- シェルターの拡充
- 被害者以外の人でも何か気づいた時点で関係者に話す。
- 子供の頃の環境が大切だと思う。子供の事。DVをされたり見たりするとDVをすると思う。
- 加害者のアルコール依存症の治療、ホルモン治療法など。
- 警察官がもっと努力すれば良い。
- 子供教育に相手を思いやる心、相手の立場に立てる心をもてるような道徳の授業を行う。
- DVやデートDVをする人間が世の中に多いという情報が早くに発信する。自分の意見を持つ人間になる。
- 臨床心理士などメンタルケアの本当の専門家を多く養成し職場や教室医療機関など社会に広くメンタルケアの場を設け一人ひとりが人間の心理について詳しくなる。自分でメンタルケアできるようになる。
- 何がDVに当てはまるのか何処までがOKで何処からがDVなのか不明で現状を改善すべき
- 被害者の家族、学校、職場など身近な人がDVに気付いたら警察への通報を義務づける。
- 警察がきちんと話を聞いてくれれば。
- 性犯罪者と同じく、加害者情報を記録し監視する。
- 社会全体の問題、親の愛情を受ける世の中にしないとイケない。
- 被害者にDVであるという意識をもたせる。
- 被害者自身の被害意識と処罰意志
- 本来○をつけたいが、加害者の育った環境などにより他人の教育や言葉じゃ変わらないと分かっている。
- 子どもの時からの家庭環境でその加害者の親がDVをしないというのも影響するのでは。
- 強くなる、強くなる、強くなる。
- 教育しても根本的な本人の考えで感情おさえられるものではないかと思う。結局耐えている人が多い。
- 加害者を教育するのではなく治療する(DVをしてしまうのはなぜかを考える)。
- 好意があると自分で分からない事もあるので若いうちに何がDVかの教育
- 被害を受けていることに気付いていないことがあるため気付けるような対策
- 個人が強くなる。
- シェルターをつくって守る。
- 価値観の相互的理解を行う機会
- 受ける側には落ち度はないのかを検証する。
- 暴力的な大人にならないための幼少期の教育、食事指導、親の教育、周りの環境を充実させるしかない。
- DVやデートDVが具体的にどういうものかを広めて被害者の方に「これはおかしい」と自分で気づいてもらう。
- 個人の意識の持ち方なのでまわりでどんな手段をとっても難しいのでは。
- 加害者へのタグ装着義務化、氏名公表等→特定機関へ。
- DVやデートDVなどドストーカーなどもすべて子供の頃の親などのつながりに問題があると思うのでその辺のケアが大切ではないかと思う。

- もう関わらない。
- 自分でも注意して何度も同じような人と付き合うのはよした方がいいと思う。

**問36 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思えますか。(○は1つだけ)**

- 周りにいるが、特段おどろかない。そうゆう人がいても、差別したりしない人が多い。
- 周りに知られたくない人やそっとしておいて欲しい人もいるのでは？人権は守られるべきだと思うが必ずしも必要だと言えない。
- ある程度必要だと思うが今最優先で取り組むべき施策では無いと思う。
- 理解を広める為の活動はもっと必要だと思うが補助金は確執を生むので不要だと思う。
- 程度問題で必要ある程度まで。
- 病気扱い
- 意識していない。みんな同じだから。その人の個性だから。
- 普通の事だという教育が必要。

**問37 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ※」についておたずねします。女性にとって妊娠、出産、避妊、中絶などの選択は、自分自身の健康や人生設計に大きく影響します。こうした性に関する自己決定権について、あなたはどのように考えますか。(○は1つだけ)**

- レイプ等の場合は選択すべきだが、その他は自己責任。
- 女性1人だけの問題ではない。話し合っ決めてべき。
- 夫との相談が大切。
- 女性限定の質問ですか？であればそうするべきでしょう。男性に対する質問であれば内容を変えるべきだと思います。
- 身勝手な人たちが多すぎて不可能。
- その本人の好きなようにしたら良い。
- 仕事をしている場合、瀬ざるを得ないと思う。
- 晩婚→高齢出産→障害児が増えるのは日本の将来的にどうかと思う。高齢出産→不妊治療→高額な退職。子供を持たなくても幸せと言う社会もあり。
- 各家庭自分の考えでよし。他人に決められることではない子供を作ったやつが悪い責任能力を持たせろ。
- 未婚であればI，既婚者であれば夫婦の選択であり夫婦で決定するものと思う
- 相手との合意が必要である。
- 加齢に伴う妊娠率の低下や不妊治療に関する知識などを具体的に教育した上で自己決定するのであれば大変重要。
- 妊活に苦しんでいる方々のお話を聞いていると、権利だけの問題ではないような。
- 相手との合意が必要だと思う。子どもは物ではないので一人の都合では育たないと思う。
- 2人で決める事
- 権利とか言っている時点で世の中おかしい。
- SEXする前の自己決定の認識の強化。※無責任な者が多すぎる
- 1だと思うがそれぞれの選択についての知識を十分得られるようにすべきだと思う。
- 生活を営めない出産は子供がかわいそうな場合もある。
- 決定するために必要な情報を高等学校で教育すべき。
- 夫婦で話し合っ決めてほしい。
- 女性のみならず両性の権利であると思う。
- 重要な権利とは思いますが晩婚化，高齢出産が増え不妊治療を行う人も増えている。人生設計についての考える支援が充実してこそその権利だと思う。

**問38 あなたは、男女共同参画の実現に向けて、今後、宇都宮市は特にどのような事に力をいれたらよいと思いますか。(〇は2つまで)**

- 男女共同参画とはいったいどのようなことを言うのか。男女が同じ地位あるいは仕事上区別されないとか、行事を一緒にやるのが共同参画なのか。形としてこうあるべきだと定義する必要性及び教育なのですかね、いまひとつ漠然としています。
- 男女共同参画社会の実現に向けて、支援や啓発などではなく、条例の制定など実行力のある施策を行って下さい。
- 潜在的・待機児童を0にする。
- 地域の、男女差別になっているようなしきたり、慣習の意識を老若男女改善する
- 〇〇を教育を行うや〇〇に対して啓発を行うのではなく、きちんと結果ができるように法規制；強化を行ってほしい。
- 夫が働いて高収入を得安心して妻が育児介護できる社会も大切。人間的には平等で性差，天分を本当に考えることが重要。共に生かされて生きる事。
- 余計な事をしない。
- 男女共同参画センターなどの施設が何をしているところなのか，実績などを分かりやすく指示して欲しいです。
- 職員の人々が先ず男女共同参画社会に向けて自分なりに行動する。
- 市の関係者が男性女性を公平に扱う事。
- 1～13全てあてはまる。
- 性別にこだわる必要は無いと思うので男女共同参画の構成比50：50を目指すような姿勢は不要かと思う。
- 男女問わず相互に協力し合える地域関係。
- 市会議員を半分にしてください。市役所の暖房を下げて。
- 今までの施策で十分であるので少しずつ施策をなすべきである。
- 女性自身にも意識を変えてもらう必要がある。
- 起業の実態を改善できる様な条例の制定。
- まずLRTなどインフラを整備する。
- 啓発を推すのは良いが，団体等は作らないでほしい。大したことをしない団体はいらない。税金がムダになる様なことはしないでほしい。
- 男女平等など不可能。やるだけムダ。
- LRTの廃止をし，不妊治療の女性をしっかりとした方がよい。
- 平和な市だから別にこのままでいいじゃないかと思えますけど。
- 男女共同参画における社会教育の拡充
- 変える力がないと感じる。
- 男らしさ，女らしさ，男は男らしく，女は女らしくの意識は失ってほしくない。(男女共同参画意識でことさらに・・・)
- 共同ワーク(エンターテイメント要素)の推進。
- パンフ・ポスターなどでは広まらない。もっと企業や地域へ出ていっていかないと。
- 女性側への社会参画への啓発も重要。女性に対し女性の自立の大切さを教育することも重要。
- 法的整備
- 保育園多くする。

**問39 今後、宇都宮市で男女共同参画をより周知させるために、有効な媒体はなんだと思いますか。(〇は2つまで)**

- ラジオ
- 企業へ通達 周知を。
- 市内の公共施設や民間の店舗でのポスターや、道路わきの看板
- 役人が外に出て話をきく。
- 回覧板
- 周知させる必要性がわからない。
- 広告を見て行きたいと思える場所で促してほしい。
- 学校での教育。
- 本当に良い方法を講話できる方に指導を受ける。
- 余計な事をしない。
- 会社・病院などで導入して貰う。
- 市関係者の日常の行動
- 人数比での対等じゃない。内容での平等だと訴えるにもわかりにくいので、メディアはテレビがベストだけどCMでは短すぎて伝わらないと思う。
- おしゃべりな人、企業の上層部
- みんなが目にするポスター
- 企業への啓発活動
- 職場にフリーペーパーとかチラシを回してください。
- 会社に対して直接の教育・研修
- 駅や店内の張り紙的なもの
- ラジオ
- 選挙時に公約としてかかげる→実行する。
- ムダな税金を使うな。
- 教育
- 社会的地位の高い人ばかりが市長にならないで市長を女性にしてみる。で周知する。
- ロコミは大切 (特に高齢者に)。
- 家族・学校等での男女という意識改革
- 小・中・高等学校におけるよびかけ
- 実さんに見に出て。
- 市内企業の管理職への研修
- 宣伝カー
- 自治会会議で市の担当者の講義を実施する。
- EU など先進国な国に見習う。地域での学習会をマメに。意識改革が必要と思うので。
- コンビニ、ファミレスなどにも媒体をおく。

問40 あなたが日頃、家庭や学校、職場、地域などで、男女共同参画社会について感じていることがございましたら、ご自由にお書きください。

◆1 男女の地位・平等感について感じること

記述	性別	年齢
■子供の頃からの男女性の差を意識的、無意識的な土台に染みついた教育のおかげ！？は簡単には改まるものではない。男性も、女性自身も！社会全体、行政ともに意識改革を時間をかけて実行あるのみと思います。	女性	65～69歳
■学校（子供の）での活動等。平日にある事が多く、参加される方も女性が多いです。仕事を休める環境にない男性も多くいるからだと思います。女性も活動の度に、仕事を休めるとも限らないので、積極的に参加される方も減ってしまい、無理をして参加されている一部の方に負担がかかることもあります。学校、企業、地域のすべてで意識を改革することが必要だと思います。	女性	45～49歳
■共働きであるにも関わらず、学校行事、PTA活動、スポ少、保育園行事、子供の病児対応等、全て女性まかせ。男が簡単に仕事を休める訳がない。という考えを持った男性が、我が家に限らず周りにもたくさんいる。女性の仕事と家事、育児の両立がどれだけ大変か、男性に分かってもらえる機会を作ってほしい。個々だと、家庭内のトラブルで終わりがねない。	女性	35～39歳
■学校、家庭、職場で男女の特技を理解しその立場を尊重して生きていく事運命共同体の精神が必要だと思う。男女の心豊かな街づくりを期待します。	男性	70歳以上
■今の若い世代は女性蔑視している人はごく少数のように思う。むしろ逆差別が増えているように感じます。	男性	20～24歳
■間違ったやり方で推進しているように思うことがある。人間的には平等は大切。それぞれの性差があります。女性には女性、これを生かすことが大切。夫が仕事に専念できる事も大切。生計の安定につながる。帰宅して休養できる。何もかも平等にと仕事家事etcでは良い会社作りも出来ません。お互いに支えあえる事も大切。分業も大切なのです。私はこの方針で人生歩んで来ましたので全て良くいっています。	女性	70歳以上
■女性が社会進出する機会が増えていると感じているが、結婚や出産育児で仕事を止め、家庭に入る状況はまだ有ると思う。女性でも働き続ける事が必要であるし、自分も将来働きたい思いがあるので女性が働きやすい社会作りが必要だと感じる。男性は仕事、女性は家庭のことなど決まった慣習は良く無いと思うが、社会の認識は昔からの慣習の考え方がまだまだ多いのではないかと思う。男女共同参画社会基本法や、リプロダクティブ・ヘルス/ライツなどの法や権利が存在している為古い考え方が減り、新しい考え方が人々に周知されるように知る機会をもっと増やすべきだと思う。	女性	20～24歳
■まだまだ男社会であると思うので、これからどう変わっていくのかは他から見る期待感と現実、男性社会で働いている当事者として女性が躍進できる環境を作っていけたらいいと思う。幸いに、育児しながら働いているが周りの協力や理解があるので助かっている。	女性	35～39歳

記 述	性 別	年 齢
■ 大学進学後就職しても女性の社会的理解は全くと言うほど得られず固定観念も消えず、まして、DV等うけて障害者になってますます社会に参加できなくて困っています。機会を与えてください。	女性	45～49 歳
■ 女性には結婚して子供を生んで欲しい。子供は大切に育てて欲しい。男と女は基本持っている質が違うと思う。外国の人の生き方や時代に流されないで欲しい。男と女の生き方は別々だと思う。女性の社会進出には賛成できない。子供たちが幸せな世の中になるよう願っています。	男性	70 歳以上
■ こうやって男女の事について聞いてくる事自体おかしい。女も男も個人、人として見ているなら他人なんてどうだっていい。人なんてクソみたいな生き物なんだから自分がよければ良いって考えのやつばかりである。都合がいいときだけ女、男を主張するのはそういった腐った人間が多いからである。大体結婚して子供が出来たやつはほっとけばいい。自分で責任が取れなくて他人のせいになっているようなやつは地獄に落としてやれば良い。努力していない人間を助ける必要は無い。計画性を分からないクソガキや頭が固まった老人は熱い鉄に触れさせなければ成らない。世間は今説教に飢えている。	男性	20～24 歳
■ 子供の面倒を見るために休むなら仕事辞めれば良いのと言う主人の同僚に対する意見を聞くとまだまだ男社会なんだと思う。	女性	30～34 歳
■ 男性女性それぞれ違っているので全てを同じにする事は出来ないけれど人権と言う基本的なところで同じだと言う意識を持つ事が第一歩だと思っている。そのプラスマイナスでそれぞれの特性に合わせた形で補えば良い。ただこれも男だから女だからではなくそれぞれの違いがあるので難しいと思う。	女性	55～59 歳
■ 男女や個人によっても得意不得意な事があると思うので、同じ条件と言うより力を合わせて行う事が必要と思う。共同より協働だと思う。	男性	50～54 歳
■ 男性に対する啓発に目が行きがちですが女性の意識認識覚醒も必要だと考えます。	男性	55～59 歳
■ 女性が会社組織において重要なポジションを担い、男性と対等な目線で発言・行動できる社会の拡充安定は必要だと思います。それには、男女とも既成概念に捉われずに柔軟な発想を持ち、取り組むことが大切です。人間は年齢が進むと保守的な考え方に陥りがちであり、年齢の高い層からの意識改革が必要だと思います。若い人の登用をより積極的に推進すべきです。	無回答	40～44 歳
■ 男性が介護のために仕事を休むことが当たり前にならない限り、女性が仕事を持っていてもほぼ女性が介護をすることになるのが現実である。また主旨は違うが、がんに罹患すると身体も治療費も大変。その上介護となると負担が大きすぎる。夫に協力したい気持ちがあっても会社員の場合、やはり職場の目が気になる。問題解決には沢山の課題がありそうだ。	女性	50～54 歳

記 述	性 別	年 齢
■男性だから女性だからとあまり難しく考えない事だと思う。互いの特性や協力だとも思う。話し合いのできる相手を持つ事が大切だと思う。	女性	50～54 歳
■これまで問いに対してそもそもが男性はこういうものだ女性はこのようにものだと突き詰められてからの質問に感じとても不快に思った。男女に差があるのは当たり前なのだから、その事を前提に考えて行く教育をして欲しい。ただ法律からして男女平等になっていないものを底辺だけ変えようとしても難しいのではないかと思う。	女性	35～39 歳
■「男女共同参画社会」ことば、名前？ばかり先走りと言った感じがします。各々の家庭・職場（職種）によっては難しい問題もあると思っています。まずは一人一人の意識改革から・・・	女性	55～59 歳
■まだまだ年令の高い男性は女性を下に見る傾向がある。特に田舎の方にその傾向が強い、女性が活躍出来る場を増やし、その能力を認められる社会で輝いていける環境を作ってほしい。	女性	50～54 歳
■男女関係なく適切な制度の中で評価される競争を実現できると良い。男性はよりやさしく。女性はより責任意識を持ち、互いが支え合える制度、教育、環境を長年にわたり行うことで日本（地域）の意識を変容できると考える。	男性	25～29 歳
■DV 被害者は外への助けを求める事を「自分の所為だから」と内に籠ります。そうではない加害者が病気（心の病）であること（幼児期・学童期の経験が成人した後他者に暴力が向う）ループしている事を理解し、自分も相手（加害者）も外へ助けを求める事を悪い事だとは思わず声を出して欲しい。加害者は気付きにくいので、被害者の声が双方を救う方法となる事を多くの人に知って欲しいです。	女性	50～54 歳
■男女とは違う人間であり、体力や性質が異なるので全く平等ということは無理だと思う。男女平等を叫んだことで女性がより社会の中で大変になっているように感じる面もある。（昔は優遇されていたのが男女雇用機会均等法により）しかし、家事や育児を主に女性が行う上での補助は必要であり、就労せざるを得ない家庭ではなおのことだと思う。子育ての間、一年と言わず休み復帰できるようになるべきだ。近年NHKのドキュメンタリーや「すくすく子育て」などの番組を見て思うのは、イクメンになりきれず悩む男性の増加が問題となっている。男性の育児参加の意義はだいぶ定着してきたのに、どう手伝いねぎらえば良いかわからない男性への援助、男性の育休、時短の取得の促進をお願いしたい。	女性	25～29 歳
■女性の会社での価値は、権力を持った上司に好かれるか好かれないかで決まる。能力や個性、才能、やりたい仕事などの希望は無視されている。好かれなければ奴隷のような扱いが現状です。国や地域が会社のトップが男女問わず、人間らしくいきいき働ける環境づくりに適している人材なのかを指導、調査する社会にしてほしいです。異常な位北朝鮮みたいな人格、人権無視の会社なので助けてほしいです。	女性	35～39 歳

記 述	性 別	年 齢
■日本に悪しき風習である「男社会」どんどん変えていってほしいです。また、家庭や家族よりも会社を優先するような考え方も根本から変えていかなくてはならないと思います。	男性	45～49 歳
■いつまでも男尊女卑の時代だと思い、女性を優遇しようと思う制度ばかり視野に入れて行き過ぎた制度ばかり作らないでください。近年は女性を優遇しすぎる制度が目にあまるのでご注意ください。	男性	20～24 歳
■女性だからという理由で役職につけないのはダメだと思うが、逆に女性の役割を増やさないとという理由で女性を選ぶことはダメだと思う。男女区別なくその能力などで判断してほしい。	女性	40～44 歳
■昔から比べればはるかに「男女共同」は進んでいる。だが陽の当たらない場所、弱者を集め従わせているような所は必ずある。そこまでしっかりと目を光らせる事が重要だと考える。	男性	25～29 歳
■やはり男性は男性、女性は女性、体のつくり、能力は変えられない。性別の本質を男女が理解した上での共同参画でなければ成立しない。	男性	30～34 歳

## ◆2.家庭生活

記 述	性 別	年 齢
■・核家族で県外に相方の実家があるので、何かあってもお互い頼ることができない。このような状況であれば、経済面が許されることが前提として、妻が不測の事態に備えるという流れになるのではないかと→専業主婦、パートなど。(正社員でフルに働くことは責任が伴うので無理かな)。いまだに社会の風潮として、いまだに男尊女卑は根底にある。	女性	50～54 歳
■母が職場で出世のチャンスがあり、そのことを夫である自分の父に話した際、それによって家庭を空ける機会が増えることを嫌ったと思われる父がその出世の話に YES と言わなかったという話を以前 母から聞き、女性は家庭にいるべきという考えが身近にあることに失望したと同時に、そういった考えを無くしていくべきと感じた。	男性	20～24 歳
■問 38 でも書きましたが、啓発や教育より、結果を出してもらう事が先だと思う。現実をきちんと見てほしい。子供がいるから働けない、親を介護しなければいけないからやめざるをえない等、困ってる人はたくさんいます。啓発活動して企業が動きますか？子育て支援についてこんなに言われてる今でも、マタハラ等はきえていません。もう少し、スピーディに行動してもらいたいです。この調査をした事で良い方向に向かうことを願っています！	女性	30～34 歳
■毎日仕事や家事に追われているので社会のことを考える暇がありません。実際収入が多いのは主人なので家事は私がやって当然と言うのが我が家の現状です。男女共同参画社会が実現できる世の中になったら本当にすごいと思います。そうしたらもう少し私も余裕が出来ればなあ・・・。	女性	40～44 歳

記 述	性 別	年 齢
<p>■我が家は農家なので必然的に男も女も同じように仕事についている。家庭では互いに出来る事をそのつど手伝って貰う状態。親の時代からすればずいぶん良くなっている。また、息子達が子育て世代に突入。今の世代は男性が家事全般までやるようだがこれは子供の為になるのか？男女共同参画という言葉と「ゆとり教育」の影の部分が10年～20年後どんな弊害をもたらすのかすごく不安です。</p>	女性	60～64 歳
<p>■F4：親と・・・の意味が分かりません。2が夫婦のみであれば「夫婦と未婚の子供」とすべきでは？(だんだんまじめに答えるのが馬鹿らしくなってきました)質問項目全部において意図及びそれについてどう次につなげるのかについて検討すべきではないでしょうか。民間企業で同様のアンケートをとるだけでハラスメントに抵触する設問もあるかと思えます。もう少し配慮回答者側の立場・環境を踏まえた設問を検討すべきだと思います。民間と役所の大きさを感じました。何をどうやっても民からの総意を得る事は出来ないと思えます。しかしこのアンケートはあまりにも「活躍したいのに活躍できない女性」目線で作られているのではないのでしょうか？そう思わない女性あるいは男性に対する配慮が無さ過ぎます。一つ一つの設問での解答欄についてもっと論議すべきです。一義的な「物」の見方を「官」がすべきではありません。質問設問一つ一つの意義(その先)を想定して作成すべきでないのでしょうか？このアンケートの意義は大きいと思えます。これを決行するとした判断は(英断)は余程の覚悟があったからでしょう。その点については他に大変難しい・・・もう止めます。申し訳御座いませんでした。宇都宮行政すばらしいと思えます。引き続き宜しくお願いします。</p>	男性	45～49 歳
<p>■私は専業主婦で家で2人の子供を育てていますが、育児は自分に向いていないと日々感じます。夫のほうが育児が得意です。私も外に働きに出たいですが実際に栃木県に頼れる親族もおらず難しいです。夫が育児をし、私が働ければ考えたりもしますが収入の差を考えると難しい。私は家にいるしか無く、男女の差をよく感じます。妊娠、出産、育児で仕事を休まざるを得ないのがとても不満です。女性が苦しまずに仕事を続けられる世の中になればいいな。夫は家にいるのが楽だと思っている様で、お給料をもらう時私が頭を下げないといけない雰囲気があり、とてももやもやします。小学校から男女平等を教育して欲しい。教育が重要と思えます。</p>	女性	30～34 歳
<p>■子育て介護中の女性に男性と同じように働けと言うのは無理なもの。男性と女性で働き方のバランスは異なると思うので柔軟な政策で対応していただけたらと思います。出産・子育てで一時的に退職した女性が時期が来たら際就職しやすい社会を望みます。一方働く女性も制度に甘えずまじめに働く意識を忘れないで欲しい。</p>	女性	45～49 歳
<p>■昔ほどは共働きの人の家事は分担されていると思う。しかし最近女性でも県外の転勤も多くなっているので子供を預かってくれる所の充実などが必要だと思います。祖父母が遠くに住んでいる人なんてかなり苦労しているので。</p>	女性	45～49 歳
記 述	性 別	年 齢

<p>■男女共同参画と言うが、女性も家庭にすることが楽に感じているような傾向にあるように感じる。(専業主婦志向の高まり)まずは働くことへの意識改革を。女性が働けばその分豊かになるし、関連の新たな仕事も生まれるのでは。</p>	男性	30～34 歳
<p>■介護は自分の親は子供がのほろが栃木県は封建的な所で嫁の介護があたりまえで財産は子供だけで嫁は仕事やめて頑張っても、「夫は何もやる気もないしお金がほしかったら実家でもらってこい」・・・と言われて淋しくて自由を返して下さい。と言いたいです。</p>	女性	65～69 歳
<p>■男女共同参画社会・・・核家族で実家がどちらも遠方、夫の仕事は朝早く家を出て来たくも遅い毎日、子どもが病弱ですぐ熱を出す・・・資格を持っている為社会に戻ってまた働きたいと思う事はあっても、この状態で働いたとしても家族、子どもに負担がかかるのが目に見えて分かる。夫の仕事は精神的に激務かつ海外出張も・・・また学童にも預けず帰宅後放置されているお子さんたちの姿を見たりすると少子化でただでさえ未来を担い手である子ども達は今より少数精鋭隊にならざるをえないのにと、男女が等しく社会に出る事より大事な事があるような気がして今に至ります。</p>	女性	45～49 歳
<p>■主人は休みが月あっても3回程で、ほぼ母子家庭です。主人が休みがあつて子供と沢山の時間と笑顔を作ってくれたら子供がもう1人ほしいと考えていますが、実際無理です。公務員や大企業、中小企業の方達はきちんと休みがあるようですが、主人のような小さい会社はそうではありません。とつても子育てしにくいです。主人が休みがしっかりあれば、私は看護師としてもっと働いて人の役に立ちたいと考えています。そして子供ももう1人欲しいです。</p>	女性	30～34 歳
<p>■職場や家庭においても男性にしか出来ないこと女性にしか出来ないことあまりにも男女平等と言っては難しいのではないのでしょうか？女性が仕事で上司になることで家庭がうまくいなくなる事も多いと思います。お互いに歩み寄って良い社会を作っていけたらなと思います。家に子ども達が帰宅した時に明るい声で「おかえり」と一言言ってあげたら。そのためにも女性が出来ること、その事がこれからの社会に大きな事ではないのでしょうか？子育てはあつという間です。仕事はその後でも十分に働くことが出来ます。</p>	女性	55～59 歳

### 3.社会参画(地域活動)

記 述	性 別	年 齢
■所によっては改めて「男女共同参画」とかかげるまでもなく、自然にそういったことが実践されていることもあると思います。これはかなり難しく、時間もかかることだと思いますが、私自身をはじめとして、皆が「男女」である前に一人の人間という視点に立つことができ初めて広がっていくものだと思います。	女性	45～49 歳
■もっと宇都宮市が各職場，地域にアピールするべきだと思う。経営者やトップの考え方，意識改革をして，その時代に合う生活スタイルを作り上げてほしいと思います。	男性	35～39 歳
■回覧版を回わした時に，持ってくる方がただ渡すだけなのに「奥さん」を呼んでくださいと言って他の人には渡さない。町内会を見ていると自治会長さん達は，長くやることを目的としているようにみうけられる。世代交代をしてもよいのではないか。	男性	20～24 歳
■大事なこと。但し，旧来，性本来の役目（男は妊娠できない。オッパイもでないの，ある程度 ちがいは仕方ない。どこまでどうやって共同参画できるかが大事。	無回答	70 歳以上
■男女共同・・・よりも一人親の問題を重要だと思います。親が働けない事，食事が取れない子供達が多すぎる。これが社会がこわれて行く。戦後すぐの様な事が始まっています。犯罪が多くなる社会，路上生活者等々，公営住宅の計画，バリアフリー化，格差社会の問題が先だと思います。本県のみ置いてきぼりの問題。子供時代の教育が社会の問題。役人は現場を知らなすぎる。	女性	65～69 歳
■ボランティアで活動している人達の事故にあった時の保証について，少額でも謝礼を考えて欲しいし，PR もして欲しい。	女性	65～69 歳
■宇都宮市民の中で永住権の無い市民が多い。自治会等行事や加入者が少ない。行事等の参加が少ない為にマイナス面が多く，本当の団体行動が出来てない。又，車運転のマナーが最底です。ゴミの出し方も最低です。	男性	70 歳以上
■他の地区の情報を知らせる。良い点を生かす。能力を認める。（古き習慣を改める。年配者を参加させない）	男性	60～64 歳
■地域活動においては，まだまだ男性中心の役割になっているように思います。もっともっと女性も生かす社会になれば良いと思います。	女性	70 歳以上
■同じ地域上で男女の同レベルは難しいと思う。何十年も前から男女の役割がはっきりしている。例えば体力面，思考などで無理が有ると思う。無理に平等にする必要があるのかと思う。一方は憶測で考えているがもう一方は現実でしか納得できない(女性)，何とかしたい気持ちは分かるが人類の自然体と考えればやはり平等は難しいといわざるを得ない。っていうか，やらないほうがいいのかもわからない。	男性	45～49 歳

記 述	性 別	年 齢
<p>■ 1年前に横浜から宇都宮へ引っ越してきましたが会社が川崎市にあり遠い為宇都宮で仕事を探しましたが安い賃金で生活できない為川崎まで新幹線通勤する事にした。宇都宮は仕事が少なく賃金が安すぎると思う。これでは宇都宮の人口が益々減りそうで心配です。街灯が少なく夜は危険を感じる事があります。車を使用してないものにとっては不便でしかたありません。</p>	女性	55～59 歳
<p>■ PTA の活動において基本的に女性が参加することが当たり前になっていて、男性がその中に入っていくことに抵抗を感じるような雰囲気がある。学校及び PTA からもっと男性が参加しやすくなるような働きかけがあっても良いのでは・・・と思う。</p>	女性	35～39 歳
<p>■ 地域の自治体の主が、昔ながらの男性陣である。若い男性（父親）が参画参加できる体制づくりはできないか。地域の活性化につながる。地域は今だに先輩男性と若い母親たちで運営されている。</p>	女性	50～54 歳
<p>■ 自治会の活動は女性ばかり・・・ナゼ？仕事もして家の事もして大変です。活動も多すぎて嫌になります。男性も家の事もっとするべきです。</p>	女性	55～59 歳
<p>■ 今回このような企画に参加できて大変嬉しく思います。常勤になりますと、地域参加が難しく、なかなか参加できないのが現実です。「生の声」をもっと聴いていただきたいです。介護の仕事をしていますが企業側からももっと自治体や家庭との連携を求めたいと思っているので、その機会が増えて介護が家庭と施設だけのつながりにおおらせない様にしたいと願っています。子どもが教育から離れてしまうと、自治体とのつながりも遠ざかってしまい、本当はもっと地域との交流を深めたいと思っても家庭・仕事・介護（家庭での）に追われるとできないのが残念なのでこの今回のような窓口を設けて頂くと私個人の悩みのはけ口の一つとなってスッキリ致しました。今後もこのような機会を頂きたいです。乱筆で申し訳ありませんでした。</p>	女性	55～59 歳
<p>■ ①自分（女性）が正社員からパートになるタイミングに悩みます。毎月の貯金額が減ってしまうという経済的理由から躊躇します。まだ”子供がいないのにパートになるの？”と職場内で言われるのではないかと不安もあります。②パートの方で残業は出来ませんと話す一方、時々仕事の切りが悪いからと自ら遅くまで残っては後から「時間に帰らせて下さい」と言う、矛盾した事があります。自らの勤務時間を守る為には、自らきちんとルールに従い、上司もきちんと「大丈夫です。退勤しましょう。」と言うしっかりとした方でないと女性の仕事に関する問題は無くならないと思いました。</p>	女性	30～34 歳
<p>■ 自治会の会長、役員男性の独裁者、公私混同している場面が多々見受けられ、恐ろしく思う。飲み会の場を設けない、作らないよう自治体の条例を作って欲しい。忘年会、新年会、体育祭の打ち上げ、秋祭りの打ち上げ等、お酒を飲む必要はないし、自治会費を役員の飲食代に使われるのはおかしい。その会合に子供会の役員（母親）を強制参加させるのは決して許せません。</p>	女性	35～39 歳

記述	性別	年齢
■女性が出産、子育てしやすい職場や社会環境をつくるのが大切。(職場→育休をとりやすい環境、男性職員の理解。社会→保育園定員の拡大、公的相談機関の拡大、周知など。男性も子育てに「参加しやすい環境が必要。(特に職場の理解)子育てサロン、相談窓口、イベントの周知に力を入れてほしい。→子育て中の女性の社会参加につながると思う。	無回答	30～34歳
■将来子育てをする時に、子供が体調を崩した時などに会社を休まなくてはならないことが頻繁にあると心配になる。そういう子供を預けられるような施設を提供してほしい。	女性	35～39歳
■町内行事、PTA等の行事参加は基本ボランティアであると思います。平日のボランティアは女性がメインです。土日等は男性も協力してください。宇都宮がもっと住みやすくなりますように・・・	男性	40～44歳

#### ◆4.少子高齢社会

記述	性別	年齢
■高齢の方の理解が必要だと思います。昔は、男優先の教育だと思うので。	男性	45～49歳
■70歳以上のさらに退職をずい分前に出したものにとっては、この意識調査はピンボケに思える。答えようが無い。(職場やその人の立場により難しい)もっと絞ったアンケート方法を考えていただけると答えやすいのだが。これでどのように役立つのか疑問です。	男性	70歳以上
■2025年問題。この日本高齢社会は直前。私達40代世代新人の頃からはや20年とにかかく仕事ばかり。出産したくても仕事は職場のパワハラ的な状況で退職すらできず、自分の時間も持ちづらい。婚活したくても休日も研修、出張役職の私にも風当たりが強い。老後年金もいくらもらえるのか。このまま1人孤独死するのか。施設に入るお金はあるのか。精神的に1人は寂しいと思うが年ばかり重ね出産へのリミットも来ている。プライベートも充実できればいいが仕事でのパフォーマンスUPするのに・・・。先日のカンブリア宮殿の働き方の内容もっと多くの人にこういう職場も有ると知って取り入れてもらいたい。市の方宜しく願います。せつかく住みやすい市なのにもったいない。	女性	40～44歳
■60歳過ぎてしまうと働く所はありません。どこでも募集は45才くらいまで男女とわず60才過ぎて働く所(職場)を作ってほしい。若い人より年を重ねるごとに人の心の気持ちをわかっていると思う。いっしょうけんめい働くし、まじめだし、ちこくもしないと思う。職安などに60過ぎの方でも大丈夫だとそんな募集を増やしてほしい。地域のでがんばってほしいと思う。老人でも人生死ぬまで楽しくストレスや不満など心にためないためにそんな社会を作ってほしいと願っている。	女性	60～64歳

## ◆5.職業・就労

記述	性別	年齢
<p>■理想と現実は違う。企業も参加して育休，時短勤務等認めて，取得している方はいらっしゃるが，仕事の内容により取りづらい方もいるのが現実。私も子どもに対して罪悪感を背負いつつ仕事をしていたのが現実。表では上司もうまいこと言っているが，裏では「しょせん女は」という目で見ています。根本的などころが変わらなければ何も変わらない。実際，時短勤務，子どもが小さい方へ（休みがち）重要な仕事は渡せない。まかせられないのが現状。</p>	女性	35～39歳
<p>■男性→社員。女性→パート，アルバイト。この様な考え方がそもそもおかしい。</p>	男性	40～44歳
<p>■大企業や公務員の方々は，いろいろな恩けいを受けられるが，中小企業や，個人経営の人たちは，難しい面がたくさんあります。個人事業主やそこに務めている方々の支援を手厚くしてほしいです。</p>	女性	35～39歳
<p>■前の職場で，男性というだけで，女性よりも時給が高かった。仕事の量も，質も，責任感も，女性の方があるのにもかかわらず，全く評価されず，昇給するのは男性のみ。どんなにがんばって仕事をしていても時給が上がらなかったので，上司に聞いたところ，会社の体質として時給が上がることはないと言われたので辞めた。理想も良いが，現実をもっと調査して頂きたいと思います。</p>	女性	50～54歳
<p>■仕事が忙しいうえ，給与が上がらない世の中で，さらに転勤があったりし，妻への負担が大きい。ぜひ，子育てがしやすく，女性が働きやすい環境作りをお願いしたい。</p>	男性	35～39歳
<p>■医療事務として働いているが，女性はどんなに努力しても主任以上にはなれない。なった人がいない（当医院では）。男性よりも研修に参加していたり，個人的に学会や研究会に加入しているが，結婚や出産で退職すると思われる。保育所などが有り，働きやすい環境ではあると思っているが，女性にもプライドがある。自分より歳の若い男性で自分より能力の低い男性だと納得がいかない。上の立場なのに全てをまかせると言われると特に。</p>	女性	25～29歳
<p>■学校でも，校長は大体男であり，一般企業の社長，重役も男，政治も男と女性が重役につけていないことが現実なので，女性がトップに立つことが重要な課題であると思われます。また，社会通念上の古いしきたりや男は仕事・女は家事といった「古い考え」を完全に無くし男女平等の生活を作ることが必要です。</p>	男性	20～24歳

記 述	性 別	年 齢
<p>■私は看護職だったので職場もあり、いろんな方（個別）の支援で働き続ける事ができました。しかし、世間では、多くの女性が働いていても、非正規雇用の方が非常に多い事を知っています。女性が正規雇用として働き続けることは（これまでタイトルが変わっただけで、何十年も問題となっているテーマですね）家事・育児・介護全般に、配偶者は勿論、公的支援の充実なくして継続困難があります。市役所の方も机上の問題にせず、現実（福祉への予算配分等）をみて進めて頂きたいと思います。この調査設問についても？の部分が多く感じました。※「・・・調査」に答えようと一生懸命取り組みましたが、返信封書が普通サイズ、封部分に接着剤テープを利用する等、配慮してほしかったです。予算内、経費少しでも...を感じる事がありました。</p>	女性	60～64 歳
<p>■職業、職場によっては結婚や出産になると暗黙の了解で退職せざるを得ないところがまだまだ多いと思います。そのようなところにも働きかけて欲しいと思います。働き続けたいのに上司から圧力で辞めざるを得なくなった人が周囲に沢山います。大きな会社ではないほど多いと思います。</p>	女性	25～29 歳
<p>■私は昨年末日まで派遣として勤務していました。しかしセクハラパワハラで退職を余儀なくされました。その中でこのアンケート。まさに神ってます。そして思ったことは結局企業側がその事実をもみ消すというところにあると思います。やばいと思っているということは悪いところ思うところがあるということでしょう。企業がその考えを改めない限りは何年経っても多くの方が目指す理想には届かないと思います。生活の基盤は働く事から始まりますから。企業への指導、罰則を厳しいものにして欲しいと思います。おそらく企業側も経歴を見て可否の判断をすると思うので必ずしもマッチングする案件ばかりではないでしょう。正規雇用は夢のまた夢だと思います。そして、結婚・出産ですが非正規のままだと結婚できません。親が認めてくれないからです。</p>	女性	30～34 歳
<p>■男性と比べて女性の給料はほぼ変動しないので仕事にやりがいを感じない。</p>	女性	35～39 歳
<p>■自職場では積極的に女性を採用しているが、わがままな女性が増えているような感じがする。企業は女性も積極的に採用すべきと思う。採用された女性は優遇された制度に甘えることなく働いて貰いたい。</p>	男性	25～29 歳
<p>■会社でも同じような研修をしていますが、理想を話しているような現実では無いと感じます。自治体や企業のトップの考え方が変わる事が一番大事だと思います。（形だけでなく具体的に変わる事）「～長」と呼ばれる人々の積極的な動きが無いと部下や市民は現実味が無い。</p>	女性	50～54 歳
<p>■職場で別の部署の手伝いをさせたい為に上司に妊娠を遅らせてもいいのでは？と言われた事。最初から女性は結婚出産で職場を離れるリスクがあることを理解して欲しい。人員が足りないのは理解できますが事務は女性のみという考え方はこれからリスクが高いと思います。</p>	女性	30～34 歳

記 述	性 別	年 齢
<p>■ 中小企業にはなかなか難しいと思います。現実にはサービス残業です。私の職場は提示を少し過ぎるとタイムカードが勝手に押されてしまいます。社長がつねに怒鳴っているような職場なので、文句を言えばさらに怒鳴るので何も言えません。物作りの会社は時間ではなく作った数なので時間通りにはいかないのが現実的にこういった企業には簡単には改善できません。社会全体が変わらないと小企業は変えられません。天皇が男性優先順位となっている以上、これが変わらないと国が変わらないと思います。</p>	女性	35～39 歳
<p>■ 職場の人間関係の話は聞いてくれても、相手がいる事で一方的で確認や他の人に聞こうとかもしないので対応にならず、がまんするしかなかった。</p>	女性	60～64 歳
<p>■ 改めて考えた事はないが、育児休暇や産休明けの女性職員の戻ってくる場所、子供を預ける場所は非常に少ないんだと感じる事が多い。また、男性の育児休暇等の取得には否定的な意見が社内に多い事も現実で、その風潮が改善されない限り、共同参画社会は成り立っていかないと思う。条例、法として定める事も必要なのではないかと考えた。</p>	女性	25～29 歳
<p>■ 女性が多い職場なので男女共同参画社会については特に意識していない。就職してから結婚・出産・育児中も環境が良く、ずっと同じ仕事を続けることができた。しかし経済的、身体的な面からいけば何度もくじけることがあった。生活しやすい社会で活動しやすい環境づくりは難しいことと思うが、こつこつと取り組んでいかなければならないのかと思う。</p>	女性	55～59 歳
<p>■ 私の勤務している企業では性別・年令・職歴に関わらず昇格するチャンスがいつでもある。職業柄、男だからできる仕事、女だからできる仕事もある為、普段仕事をしている中で男女格差を感じたことはない。又、産休後の対応もしっかりされている。こういう職場がもっと増えてくれればいいなと思います。</p>	女性	20～24 歳
<p>■ 私が定年まで在職した職場での経験によると、問題が起こるのは上司（中間管理職）の資質によるものが多いと思う。6 人の管理職の下で働いてきたが、そのなかで一番尊敬ができてせいっぱい自分の力が出せたのは 1 人だけの女性管理職でした。家庭においては知的な親が増えて良いことだと思うが、視野が狭く、自分の権利を強く意識している。そういう親の言動を幼い子供達がみて育っている。そういう親達に男女の在り方、父、母のありかたを芸人などのわかりやすい、親しみやすい人に講義してもらってはいかがですか？日本は島国です。その中で長い間かけてつくられてきた社会。グローバル化などと慌てずに欧米の良いところを知り、受け入れて日本社会を信じて日本独自の「男女共同参画社会」を目指したらよいと思う。また、私達の若い頃にくらべ現在の若者達の働いている姿には頭が下がります。本当によく頑張っていると思う。感謝！</p>	女性	70 歳以上

記 述	性 別	年 齢
<p>■会社経営者に対して労働時間への意識改革が必要だと思います。社員は長時間勤務、そして休日は少なく、年休は取得出来ません。このような職場では男性の家事や子育ての参加など出来ない、女性への負担が多くなるばかりです。労働基準法に見合った勤務を守っていただきたいと思います。</p>	男性	65～69 歳
<p>■社内において「女性を出世させろ」という一方的な指示が出たとたん、成績（業務）に関わらず昇進試験において女性を無条件に合格することになっている。このような状況は異常と感じる。従って、国や地方自治体が“女性の活躍の推進”において、適切に企業等が活動されていることとモニターすべきと。</p>	男性	40～44 歳
<p>■職場などにおける教育、研修。市・県・そして国のPR活動をもっと実施した方が良いかと思います。まだまだ周知されていません。また、学校教育の中で昔あった道徳の時間で、子供達に教えて行き、考え、参加する事が必要ではないでしょうか？実際親が女性なんで・・・という事を言っている人がいるので、家庭での教育・話し合いは無理ではないでしょうか。私の職場でもその様な言葉を聞く事がある為、とても悲しく思っています。もっともっといろんな人達が目や耳にする事が出来る様なPR等をすべきだと思います。余談ですが、女性が入りやすい店舗は流行るんです。</p>	男性	55～59 歳
<p>■休暇（育児等）をとると職場の他の人に迷惑をかけるのでとりにくい。もっと人を増やすと分担できて休暇もとりにやすい。</p>	女性	45～49 歳
<p>■男女、退職年齢にかかわらず、いつまでも働ける社会になってほしいと願います。特に働く者は全ての人、正社員雇用でありたいと思っています。</p>	女性	60～64 歳
<p>■育児で仕事を離れたが、子供が学校や幼稚園に行っている間だけでできる（夏休み等も含めて）仕事があると働きやすいです。職探しをしたが、長期休暇のときの仕事がネックでなかなか復職しづらいです。預けてまで、仕事をしたいとは思っていないから。</p>	女性	40～44 歳
<p>■現在妊娠7ヶ月ですが、これから出産後どのような生活になるのか全く想像できない事が不安です。職場に対しても10年働いていますが、妊娠したとたんに待遇が悪くなり、不信感でいっぱいです。産休、児休はとりますが、復帰出来る環境ではありません。夫が仕事復帰に協力的なだけに、すごく残念です。</p>	女性	30～34 歳
<p>■中高年が働き（再就職）やすい環境を良くしてほしい</p>	男性	50～54 歳
<p>■子育ても一番に考えているので、今後働きやすい環境で仕事ができ、家庭ではお互い協力しながら仕事と家庭の両立が出来のびのび子育てが出来れば良いと思います。</p>	女性	40～44 歳

記 述	性 別	年 齢
<p>■共働きで育児多忙世帯と地域自治会におけるシニアの活動との連携、交流、融合に取り組む等の企画実践が期待される。(共働き子育て世帯の負担軽減)☆例：放課後の学童保育と地域シニアサロンとの交流他※一人暮らしシニアの孤立化の防止にもなると思われる。☆上記の企画実現に際しては、モデルケースを数カ所設定。設置しその活動には公的な財政支援と成果の観察、公表が必要かと思われます。この分野での住みやすい街日本一を目指したいものです。</p>	男性	70歳以上
<p>■復職したくてもスキルに自信がないので遠のいてしまいます。能力開発のための場を増やして頂き、子供を連れて行ける(託児付)や補助金などがあるととても助かります。</p>	女性	35～39歳

## ◆6.男女平等教育

記 述	性 別	年 齢
<p>■将来を担う、子供に対する教育が主要である。</p>	男性	65～69歳
<p>■このままの潮流でいけば、女性は会社に縛られ、子供は保育所で育てられ、出生数が減少することは、良い事ではないと思う。子供にとって母親が一番、子供を成長させてから女性は社会に出れば良いと思う。その為に、夫の給与を上げること、中高年の女性を受け入れる事の方が大事なことと思う。職場に若い女性より中高年の女性がたくさん居ることは、素晴らしいではないですか。学校で小さい子供達や中高生の問題のある子供達をおばさん先生が教える。素晴らしいことではないでしょうか。</p>	女性	60～64歳
<p>■子供が小学校に通っていますが、先生が男女問わず「～さん」と呼んでいる事にビックリしました。</p>	女性	35～39歳
<p>■学校のPTA活動等は、特に平日昼間の活動が多く、専業主婦が多かった時代から変わっていない。しかし、専業主婦の方よりも仕事を持っている人が役員になる割合が多く、仕事と家庭、学校の活動と多忙な女性が多くいる。専業主婦は、女性としての生き方のひとつで否定はしないが、学校や地域は、意識を高く持ち、皆が活動に参加する事や活動しやすい日時を考慮する等の変化してほしい。</p>	女性	55～59歳
<p>■保育園や病児保育をする施設をもっと充実させて欲しい。もっと抵抗無く使えるような制度が欲しい。一時預かりなど、各園に自分で問い合わせ、面接を受けては手間も掛かるし、実際は一時保育の受入れの余裕は少ない園も多い感がある。いざというときに使えるような誰でも使いやすいサポートがあれば育児が助かります。市が運営する病児保育センターみたいなものが出来ないでしょうか？</p>	女性	35～39歳
<p>■家庭・学校などで自分・自分以外の全ての人を尊重し、平等である事を教育していくべきと思っています。</p>	女性	70歳以上

記 述	性 別	年 齢
<p>■学校での教育、職業、結婚、育児、介護などそのときは大変であっても後になって考えると全ての自分自身の視野を広げたり思考を深くしたりしていると気づかされます。どういう人生が自分にとってよりよいものかを一人ひとりが真剣に考えていく事が大切だと思います。そういった市政を育てていく環境を作っていけたらと考える事が多くなりました。</p>	女性	65～69 歳
<p>■転職活動をしています。面接のときに「結婚してやめちゃうんじゃないの?」と言われてたり、勝手に続けられないと決めつけられ断られたりします。派遣の仕事も産休交代のものが多く、復帰と同時に期間終了となります。そんな事実もご存じない方が多く、就業の機会も結婚の機会も出産の機会も逃し、将来の希望も見出せません。表面的には隠していても、明らかな固定観念が存在する事は確かです。幼少期からの教育に注意した方がいいと思われまます。</p>	女性	無回答
<p>■若い世代よりも年配者に女性を低く見る傾向を感じるの、男女共同参画社会についての教育というのは、ある程度活きているのだと思う、地道に社会全体を方向づけてゆくのが良いと思う。</p>	女性	50～54 歳
<p>■子どもを産みたくない理由のひとつには地域社会の目が大きいと思う。子育て環境はあっても子育てしにくいことが多すぎ。精神的ダメージを受けるのを産む前から感じる。よく利用するスペースで我が子が買い物の手伝いをしたかったがうまくできず泣きさけぶことになり・・・親としては注意したりうまく泣きやむように仕向けたが難しく、こちらも困っていたのに 60 才以上の男性にうるさいと言われた。こんなことを言われる世の中で子どもの出生率をあげるのはムリ。もっと男性も子育てに興味・関心を持ち、パートナーの育児の大変さを理解し協力する経験をしていけば、このような言葉は出てこないはず。</p>	女性	40～44 歳
<p>■教育が大切。今の大人より若い人の心の持ち方が重要。(古い人は変化しにくいから) この人達が老人と呼ばれる人も助けられる事や社会制度を改革する意欲を持つ人間になれる様導く事が大切。</p>	女性	50～54 歳
<p>■子育てに関しては、3 才までは男女とも必須です。教育よりも保育園より親の愛情が大切なことを分らないと男女共同参画はないと思います。女性の仕事に関しては仕事 100%にすると子供に負担がいて後で子どもは親に何も言えなくて反抗期に大変なことになるのでほどほどがいいと思います。愛情のうすい子供は愛情表現が出来ずに DV になるように実感しました。</p>	女性	55～59 歳
<p>■多くの場合、幼い頃の印象が年を重ねても強く残ると思うので、小学校低学年での早期教育が最も重要である。DV やストーカー、売春、援交等、人権を意識した教育は特にそうであると思う。</p>	男性	35～39 歳
<p>■男女共同参画社会は理想の社会ですが充実させるためにはまず生活スタイルが平等でなくては成立しないと思います。人それぞれ向き合う課題が違うなか折合いをつけていくことはとても難しい。今職場で様々な問題があります。学校生活の中で意識を高めていかないと充実させることは困難です。今の世の中権利ばかりで義務をはたさなくなってしまうのではと心配しています。</p>	男性	45～49 歳

記 述	性 別	年 齢
■最近になってマイノリティーへ対する偏見が少しずつなくなってきたように思う。私たちが学生の時はジェンダー、マイノリティーなど教えてもらう機会がなく正しく理解できてなかった。今の子供たちには小さいうちから「こういう人もいる。それは恥ずべき事ではない」という意識づけが必要だと思う。	女性	40～44 歳
■子供の時からの教育でしっかり教えていく事が必要だと思います。	女性	55～59 歳
■ピンクの服を着ただけで男の子がからかわれたりする日本。一人一人の意識改革が必要と思います。その為には小さい頃からの学習がとても大事。教える側もそれによって意識が変わるので地道にすすめるのが近道ではないでしょうか。(指にケガをしているので、汚い字ですみません)	女性	55～59 歳
■学校などで、教育をするようにすると思う。大人になってからは難しい・・・と思う。やはり小さい頃から関心をもつ事が必要ではないか・・・？	男性	20～24 歳

## 7.男女共同参画に関する施策

記 述	性 別	年 齢
■男女区別なく平等な社会が理想。その上で役割毎に差が生じるのは必然。何事も男女が同じ役割比率である必要はないと思います。	男性	50～54 歳
■男女共同参画社会を実現する法や制度があるが、それを知っている人は少なく、又実際に利用している人はもっと少ない。そのため、もっと制度の周知や実際に利用する事が出来るようになると思います。	女性	20～24 歳
■「ボス潜入」などで見られるように女性が責任を与えられると創意工夫で最大限の仕事をしようとする。そういう環境づくりが大切だと思う。	男性	70 歳以上
■公務員や大きな企業はいろんな施策に取り組んで手本になると思うが大きな企業では実施できても中小企業も実施できるのか疑問に思う。どんな企業も実施でき不平等になることも無く男女共同参画社会が出来れば一番良い。男は仕事女は家庭と言う考えは弱くなってきているので女性も社会で活躍できるように子育て・介護関係の充実も期待しています。住みたい田舎ランキングに栃木市が一位になったので宇都宮市も上位になれるように期待しています。	女性	30～34 歳
■あらゆる分野で男女関係なく意欲ある人がすればいいこと。そのためには教育の場でも男女の差をなくすようあらゆる活動を平等化して教育してほしい。年配意識も変えられるといいが無理かな。誰もが一人の人間である！ただ女性しか子供が産めないだけ。	女性	40～44 歳

記 述	性 別	年 齢
<p>■「男女共同参画社会」という、イマイチセンスのないタイトルがついている、使っていることから、平等じゃない世界のような気がします。子供を授かり出産できるのも女性だが、男性と同じ様に働く意欲があっても、子育て（出産）を期に、その働く意欲が子育てへ向いてしまう（会社からの離脱）のも女性。そのまま働くためには子供を授からない様にする（結果的に授からなかったとしても）出生率が下がる。全てが女性の責任のような世論。根が深すぎると感じます。</p>	女性	50～54歳
<p>■性的マイノリティについて。心の性が定まらない、体の性と一致しない等の人が居ると認識されているにも関わらず、あまり対策や改善などの環境変化が見られない。トイレは男女で分けるのではなく、全て個室のようになるというのではないかと思う。（ショッピングモールなどにある、障害を持つ人や妊婦さんが利用できるトイレが連なるような）デリケートな問題なので、あまり自分を性的マイノリティ当事者であると言わない人も多いので、なかなか進まない問題ではあるけれど、みんなが平等に悩まず生きていける社会になってほしい。</p>	女性	20～24歳
<p>■慣習を変えるには時間がかかるのだと痛感しています。国なども、法を整えたりしてくれていますが、実感できるには至っていません。声を上げ続け、50年後くらいには社会が変わってくれていることを願います。私は子供を持つ自信が持てずこの年になってしまいました。</p>	女性	45～49歳
<p>■組織ではリーダーとフォロワーが事象により入れ替わりながら進んで行くように。男女という区別はないかと思っています。とりたてて男女共同参画と言わずに済む社会になって欲しいものです。</p>	男性	55～59歳
<p>■世論では、進んでいるように見られますが、まだまだ個人と企業、特に企業は意識が低いです。私の今の職場に上司の女性が1人もいません。（派遣ですが派遣先の話です）入社した時からいろんな事が昭和感たっぷりです。まだまだあるのだなと感じました。</p>	女性	50～54歳
<p>■企業等への働きかけを積極的に実施しないと現実是不変だと思おう。</p>	女性	40～44歳
<p>■もっともっといろんな人達に知ってもらう事が必要だと思います。私もそう思うから！！今の時代には必要ですよ。遅すぎることはない。</p>	女性	45～49歳
<p>■まだまだ「男女共同参画」と言う言葉自体知らない人が多いと思います。もっと関心を持てるような取組をしていくべきでは？</p>	女性	55～59歳

## ◆8.本アンケートについて

記 述	性 別	年 齢
<p>■「男女共同参画社会」の実現には、そのような社会を実現しようとする人々の意志が根源として最も重要であると思います。このアンケートに回答するのに1時間以上の時間を費やしましたが、このアンケートを実施したあなた方が、どれだけ本気で取り組んでいるかにかかっています。このアンケートをやってまずアピールの材料とするだけなら、男女共同参画社会が実現することは永年ないと思います。</p>	男性	25～29 歳
<p>■3000人の中から選んでいただきありがとうございます。30分かけて答えました。まずは職員さんが男女共同参画社会を目指せる職場になっているかどうか振り返って欲しいです。又、こうやってアンケートをとるだけでなく、話を聞く機会もあったらと、思います。アンケートだけでは理由が分かりにくいと思います。</p>	女性	20～24 歳
<p>■このアンケートです。既婚者前提の質問がいくつかありました。このような回答が欲しいのであれば、既婚者のみに送付してください。「配偶者がいるとしたら」非常に不愉快です。</p>	女性	35～39 歳
<p>■このアンケートの質問の意味が良く解らないのがいくつか有った。&lt;問 4&gt;の男らしく女らしくはどういう事を言っているのか？&lt;問 9&gt;や&lt;問 15&gt;などなぜ女性側の立場のみの質問で男性側の質問が無いか？全体的に質問作成者の意識が10年前位ズレている様に感じた。</p>	女性	55～59 歳
<p>■男女共同参画社会→定ぎも良くわからない。むずかしいテーマ。</p>	男性	55～59 歳
<p>■これを考えた人は本当につまらない。もっと発想を豊かにするべきである。あたりまえの回答を求めて何が生まれるのか。仕事しているアピールですか？こんなことの税金が使われていると思うと悲しくなる。無価値。</p>	男性	30～34 歳
<p>■そもそも「男女共同参画社会」なんて長い文。子どもじゃまず分かんないから理解できないし、だから平等にならない訳だし、ワークライフバランスとかパルティとか横文字にされてもほとんどの人はチンプンカンプンだと思う。現に聞いた事がない。それだけ周知されていないんだから世の中変わらない。それから LGBT の人の人権をアンケートに入れる事自体が人権侵害だと思う。失礼。すごく失礼。そんな事聞いたって誰も何も声を大にして訴えようとしなないし、変えようと思ってもいないんだろうなとみんな思ってる。なんでもいいじゃん。男女とかどうでもいい。そんな言葉を改まって作るからう世の中差別があるんですよ？</p>	女性	70 歳以上
<p>■問 40 に関連がありませんが、年寄が思ったことですのでこの調査に役立つかわかりません。</p>	男性	65～69 歳
<p>■Q39: どの方法が又どのような事柄を広報したらよいかかわからない</p>	男性	45～49 歳
<p>■本調査に出て来た用語に興味を持ってもらい意味を知ってもらった上で啓発を行うべきと考えます。カタカナ語やアルファベットの用語が多く理解されにくい。またアルファベットは同一表記でありながら違う意味があったりして分かりにくい。例：EV エレベータ又は電気自動車</p>	男性	25～29 歳

記 述	性 別	年 齢
■私は途中で止めました。無理です。今66歳の私には重すぎます。そもそも男性は男性らしく女性は女性らしく自然の摂理に逆らわず特性を生かすことも大切では？権利は反対にあるものは何でしょうか？	女性	20～24歳
■問37で書いたことが特に感じる点かと。	女性	35～39歳

### ◆9.市政全般への要望・苦情

記 述	性 別	年 齢
■①城を作らないでほしかった。 ②「LRT」絶対反対。 ③税金の無駄使いをするな！！	男性	60～64歳
■結婚し子供が居る家庭では子育てにおわれ、保育にお金が掛かり共働きしたくともその環境が整っているとは言い難い。少子化は人ごとではなく、重要な市政と位置付けて活躍している自治体も多い中、出遅れ感のある我が市においても、インフラ投資ばかりでなく、人に対する投資に風を向けた市政に切り替える事で、魅力ある都市へ生まれ変わる努力をして欲しい。	男性	50～54歳
■「男女共同参画社会」という言葉自体をもっと平易な言葉、表現にし皆んなの理解をもっと得やすくするようにした方が良い。名称が官庁言葉になっていないか見直しする必要があるのではないか！！	男性	70歳以上
■法律や制度をととのえることは重要ですが、それと同じくらい個人個人の意識改革が必要だと思う。それには社会通念やしきたり、慣習を時には変えていかないといけないと思う。結婚前までは気がつかなかったが。家庭を持って思ったことは、夫と妻というものがこんなにもいまだ時代遅れの感覚でいるということ。	女性	35～39歳
■自から参加するには、参加しようと思う心が動かなければ市政がどんな計画を立てても社会情勢の変化について行けません。目線が私たちと同じでなければ理解できません。一番近い地域でさえ、自治会のあり方がなやみです。高齢になれば体と心が思いどうにもなりません。病気ではありません。では、どこへ行けばいいのかなあ。お金も少ないので行く所がありません。家の中でしょうか？不安だけの生活を思うだけです。※調査用紙が私の所にきてくれて、うれしいです。	女性	65～69歳
■宇都宮に住んで40数年たちますが何に対してもあまり活気がない街のような気がいたします。学校でもPTAの役員を決めるのに2時間以上掛かりあまりやる気のある方はいないようで、大概是県外の方が多いように思います。嘘、偽りなどのウワサをする方が多いのではと思っています。あまり発展性の無い街かと思っています。より良い街づくりのための努力していただきたいと思っています。	女性	70歳以上

記 述	性 別	年 齢
■先ず上に立つ人がだめだ。市会議員→町内の葬式に一番前の席に座って携帯鳴ってたし・・・。LRTも内々で・・・福祉公園の二の舞にならなければいいけど。子育てと老人に全くサービスが少ない宇都宮です。保育園も、出されているお菓子も考えていない。質の低下です。市会議員も半分に減らしてください。市の職員も無能の人が特に(男の人)が多いと。リストラしてください。	女性	55～59 歳
■政策方針にも女性が入っていると思うが固定化されていないか？年齢に片寄りがないか？幅広く意見を聞く事も望む。	女性	50～54 歳
■男女共同参画社会の実現は当たり前と考えていても遅々として進まない現状にある。この理想を現実のものとする具現化には凄いパワーが必須であり、行政の体制確立を強く望む。	男性	65～69 歳
■こうして答えたことを真剣に受け止めてくれる人が居るかどうか、それすらも信じられない世の中とを感じる。不平等は誰もが感じながら生きて行くものと割り切ってはいるが、こうやって市民の意見を聞き入れて実情を知ってくれるのならば、取組を応援したいとは思う。	女性	20～24 歳
■男女平等なんて無理なので早急にこんなことに税金を使うのをやめてほしい	男性	25～29 歳
■男女共同参画社会という言葉自体、認知されておらず、大概の人間がピンとこないと思う。まずは根本的な部分から理解される様活動していくべきかと思われる。	無回答	40～44 歳
■結構細かいアンケートですが、この結果がどのように反映されるか・・・。宇都宮市の正職員だけ待遇が良くても、その他の市民の改善は中々難しい。宇都宮市の嘱託やアルバイト達さえ改善は遅いとしているのでは？宇都宮市としてまずやって欲しいのは、保育園や幼稚園の延長保育等、子供を安心して預けられる施設を充実させる事、私立の経営に任せないで欲しい。税金を使う所に使って欲しい。	女性	55～59 歳
■それぞれの問題ごとに窓口施設が多数あることにおどろきました。女性は困ったらとにかく「ここ」というワンストップ的な窓口の統合が望ましいです。勇気をもって話をしても結局たらい回しになり、心が傷つくだけとなります。財政的にも無駄が多そうなので、これらも解決すべきです。	女性	40～44 歳
■職場にその意識が無ければ全く無駄な内容。各社にて「男女共同参画社会」の取組みを回答させ、その実施を監査する機関が必要。また罰則を設けるなど厳しい取組が必要だと思う。宇都宮市長の強いリーダーシップのもと、宇都宮市の本気の取組みが必要。	男性	50～54 歳
■妹の夫がDVをする人だったのでもっとDVは犯罪だということ目にするテレビCMやポスター等もっと行って欲しいです。今は前より張り紙など目にする事は多くなったとは思いますが！妹は離婚し亡くなり(病死)しましたがDVを受けたことで命を縮めたと思います。	女性	65～69 歳

## ◆10.女性の活躍について

記 述	性 別	年 齢
■女性の雇用を促進する事には賛成だが、やたらと増やせばいいわけではないと思う。性別にとらわれず個々人が得意な事を仕事にできる仕組みや支援をつくっていくことが重要だと思います。	男性	30～34 歳
■女性の方が積極的な人が多くなっていると思います。	男性	65～69 歳
■最近はやけに男女共同参画や、女性役員を会社で増やすなどと大きく声を上げているが、全ての女性がそう思っているわけではないので、過度な言い方はさけるべきだと思う。女性に対してもプレッシャーになる恐れがある。そう言った意見（バリバリ仕事をしたい女性）を言う・思っている女性がいた時に自然とそうできる環境を整えることが重要だと考える。	男性	25～29 歳
■最終的には、社会や就業への参加、関わりは個人の価値観によるものであるため、男女共同参画を押しつけることは好ましくないと思う。女性の社会参加への選択肢を増やすことを考えていけば良いと思う。	男性	30～34 歳
■「男女共同参画社会」と名付けているにも関わらず、施策などは男性よりも女性に対するものが圧倒的に多いと思います。しかし、社会で活躍しているのは、男性よりも女性の方が少ないという現状があると思います。これだけ「女性の～」といった施策があるのに、現状は男性の方が活躍しているというのは、施策だけでは、簡単に変えられない「何か」、例えば女性特有の「出産」などが影響していると思います。そうした人々も本当に活躍出来る社会が来れば良いと思っています。また、男性視点に立って考えた際に、女性ばかりに、優遇措置などがあるのは、不快に感じると思いました。	女性	20～24 歳
■女性が輝く社会を作ろうとしても現実的な施策が追いついていないと思います。女性が働き続ける為には出産しても安心して保育園に預けられる環境が整っていないといけません。保育園の拡充、保育師の確保を優先的に行って欲しいです。学校を出来るまでは男女平等であったのに社会に出たとたん男性優位社会である事を実感させられました。学校教育において、男女共同参画社会について教える場を設けるようにして、次世代から少しずつでも男女平等の世の中に変わっていくと良いと思いました。	女性	30～34 歳
■女性が社会参加、特に役職や地位のある仕事につく事、公的に意見を述べる事に対して、年配の人や核家族の人の方が保守的であり、意識の変革が必要だと思う。	男性	60～64 歳
■女性が強すぎて困っている	男性	65～69 歳
■結婚して楽しいと思える社会にして欲しい。結婚する女性が少なくなっているのが残念です。	男性	70 歳以上
■女性が積極的に参加したがるらない、協力したがるらない、いくら男女共同参画社会と言っても女性はその気にならなければ絵に描いたもちになってしまう。女性の意識改革が必要であると思う。男女共同参画社会に参加する女性は少ないのが現実である。	男性	60～64 歳

記 述	性 別	年 齢
<p>■女性の社会進出が進み、出産後も仕事を続ける女性が多くなってきたとは感じています。しかし、男は仕事、女は家庭という考え方はまだまだ残っていて仕事を続ける女性が多くなった今でも家庭での役割については女性が担う事が多く、女性の負担が大きいと思うことがあります。</p>	女性	25～29 歳
<p>■妊活中の女性の場合、周囲の理解を得られずに辛い思いをする事がたくさんあります。金銭面でも薬代など10割負担の為毎回大金がかかります。しかし、しごとをつづける事ができなくなります。不妊治療は美容整形と同じ扱いになってしまう為、診断書などは受けつけてくれません。男性不妊の女性も少なく共働きをしなくてははいけません。男女共同参画は普通に結婚、普通に妊娠をした人達だけ。不妊治療などで働きたいけど働けない。社会に出られない。など何年も治療している人たちにはあまり重要視できる問題ではないと思います。女性不妊・男性不妊の事をもう少し勉強してもらえれば良いかと思いました。</p>	女性	30～34 歳
<p>■職場でも地域でも女性を女性として意識している人が多い。(肉食的な意味でも)男は男、女は女であるがもっと中性的な心を持てば(教育等意識付け)あまり大きな問題にならないと思うのですが……。説明が下手ですいません。女性らしい対応、女性への対応はT.P.Oで職場ではヒト対ヒトで接するとセクハラとかになるんですかね……。平和でクレーマーが多くて楽しい事も減ってきてます。</p>	男性	35～39 歳
<p>■男女共同参画については、在職中に賛同したことは一度もありません。職場で女性が活躍させられることにより家庭生活に負担がかかるからです。事実、このことで退職することになりました。女性の働き方への希望が職場に通じるようになることを望みます。</p>	女性	45～49 歳
<p>■昨今の男女平等は女性優位という意味になっていると思う。本当に男女平等が達成されるには、かなりの時間がかかるとおもう。本来の意味での平等となる日が来るように願います。</p>	男性	30～34 歳

## ◆11.その他

記 述	性 別	年 齢
■男女共同参画社会について考えた事は無いので今は何も感じることはない。	男性	70歳以上
■東京から来て10年以上になりますが、子供が大きくなるにつれ部活動、習い事、塾の送迎に悩みます。都内に住んでいれば親が子供の送迎をする事はほとんどありません。公共の交通機関を使って小さいうちから一人でどこへでも行くからです。送迎に時間を取られ、何もできない様な日もあります。はっきり言ってこんな不便な所に老後も住み続ける気は起こりません。子供達にも田舎に住むなと言っています。回りにいる都内育ちの人たちは皆、東京に帰ると言っています。まず、交通の不便さを解消しないかぎり宇都宮から若い人は出ていくばかりだと思います。	女性	40～44歳
■・以前、夫のDVの相談を申し込んだ所、住所、氏名を聞かれるのでやはり、ちゅうちょしましたので匿名でアドバイスを受けられると良いと思いました。また、弁護士のDV無料相談を事情でキャンセルしたら一年間は、利用できないと言われました。苦悩している相談者にそれではどうしたら良いのでしょうか。講座を受講した時、参加者の顔がオープンになるのも配慮してほしいと思いました。	女性	50～54歳
■障害者なので何を言われても分からないので分からないところにまるをつけてしまいました。両親が書きました。すみません。	男性	35～39歳
■自分が現役の頃より進歩していると思います。	男性	65～69歳
■男女共に気持ちの余裕が必要だと思う。(特に女性) 毎日毎日仕事で一杯一杯だと家事・育児にも協力できず、DVにつながるかもしれない。日本はギスギスしている。外国では仕事がなくとも皆笑ってる。残業など、日本人は仕事のしすぎだと思う。	女性	40～44歳
■育児・子育て・学校運営等への財源の拡充をして下さい。LRTは無駄ではないでしょうか？まもなくバス等の自動車は自動運転が可能となり、渋滞の解消となるはずです。しかもバスの縦列走行も可能になる。	男性	65～69歳
■男性・女性・妻・夫・大人・子ども・若い人・老人色々に分けたり区別したりするのではなく、人として向き合う。相手の話しを聞く。そうして相手の気持ちを想像してみる。そんなことが大切だと思います。大好きな宇都宮の町がもっとすてきな町になってほしいなと思ってます。	女性	55～59歳
■保育園を増やして子供を預けて働く事だけが良いことのように言われている気がしてしまいます。自分で選んだ出産や育児を続けていける経済的な支援でもいいと思います。	女性	50～54歳
■性別年齢での差別などあたりまえすぎてあきらめています。	女性	50～54歳
■路面電車は必要ないです	女性	70歳以上
■男性女性お互いのおもいやりが大切と感じて居ります。	女性	70歳以上
■特に男女共同参画社会について考えた事がなかったので、コメントする事もないのですが・・・考えた事がないというのが、少々気になりました。もっと誰もが意識するくらいになるように広めていった方が良いのではないのでしょうか。	女性	55～59歳

記 述	性 別	年 齢
■参加する事がなかったので余り感心がない？	女性	70歳以上
■建前ばかりで意味がない。	男性	45～49歳
■DVストーカーの事件性のある事に対し警察に相談しても対応しないで事件にならないと捜査しない現実はどうかと思います。相談はもちろん適切に対応できるようにしていただきたい。学校の父兄の付き合い方が問題だと思います。又、先生方も大変だと思います。	女性	50～54歳



# 調査票

## ～あなたのご意見をお聴かせください～ 宇都宮市男女共同参画に関する意識調査

日頃から市政について格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。宇都宮市では、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現を目指し、「宇都宮市男女共同参画行動計画」に基づいて、さまざまな取組を進めています。

本調査は、平成23年度に実施した調査からの意識の変化や、社会情勢の変化に伴う新たな問題に対する意識等を調査し、計画の見直し及び市が取り組むべき施策の基本資料とするために実施いたします。

お忙しいところお手数をおかけしますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査にご回答いただく方は、住民基本台帳に登録されている20歳以上の方の中から、3,000人を無作為に選ばせていただきました。お答えいただいた内容は、本調査の目的だけに利用し、秘密の保持には万全を期してまいりますので、率直なご意見、ご感想をお寄せください。

平成29年1月  
宇都宮市長 佐藤 栄一

### ご記入にあたってのお願い

- ①回答は、あてはまる項目の番号に○印をつけてください。  
質問によっては1つだけ回答していただくものと、複数回答していただくものがありますので、指示に従って回答してください。  
○印は、番号を囲むようにつけてください。

例) 

- ②「その他」とお答えの方は（ ）内に、その内容を具体的にお書きください。  
③ご記入は、鉛筆又はボールペン（色不問）でお願いいたします。  
④ご記入がすみましたら、お手数ですが、同封の宇都宮市役所あての返信用封筒に入れて、切手を貼らずに

1月31日（火）までにポストにご投函ください。

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

宇都宮市 市民まちづくり部 男女共同参画課

電話：028-632-2346

## あなたについてお伺いします。

F 1 あなたの性別は次のうちどれですか。

(○は1つだけ)

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 2 あなたの年代は次のうちどれですか。

(○は1つだけ)

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 20～24歳 | 7. 50～54歳  |
| 2. 25～29歳 | 8. 55～59歳  |
| 3. 30～34歳 | 9. 60～64歳  |
| 4. 35～39歳 | 10. 65～69歳 |
| 5. 40～44歳 | 11. 70歳以上  |
| 6. 45～49歳 |            |

F 3 あなたがお住まいの地区はどちらですか。

(○は1つだけ)

- |  |
|--|
| 1. 本庁（都心）（本庁管内で、【東】国道4号線バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りで囲まれた地域） |
| 2. 本庁（周辺）（本庁管内で、【東】国道4号線バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りより外側の地域） |
| 3. 東部地域（平石地区、清原地区、瑞穂野地区）                                     |
| 4. 西部地域（城山地区、姿川地区）   |
| 5. 南部地域（横川地区、雀宮地区）   |
| 6. 北部地域（豊郷地区、国本地区、富屋地区、篠井地区）                                 |
| 7. 上河内・河内地域（上河内地区、河内地区）                                      |

F 4 あなたの家族構成はどれに該当しますか。

(○は1つだけ)

- |                     |
|---------------------|
| 1. ひとり暮らし（単身世帯）     |
| 2. 夫婦のみ（一世代世帯）      |
| 3. 親と未婚の子ども（核家族）    |
| 4. 親と子ども夫婦（二世帯世帯）   |
| 5. 親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯） |
| 6. その他（具体的に         |

)

【お子さんのいる方にお尋ねします。】

F 4-1 あなたの一番下のお子さんの年齢は次のどちらですか。 (○は1つだけ)

- |        |         |          |
|--------|---------|----------|
| 1. 就学前 | 2. 小中学生 | 3. 高校生以上 |
|--------|---------|----------|

F 5 あなたの仕事は次のうちどれにあたりますか。 (○は1つだけ)

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 自営業主                             |
| 2. 家族従業 (農家や商店など自営業主の家族で, その自営業に従事) |
| 3. 常勤・フルタイム                         |
| 4. パート・アルバイト・派遣など                   |
| 5. 内職                               |
| 6. 学生                               |
| 7. 専業主婦 (夫)                         |
| 8. 無職                               |
| 9. その他 (具体的に )                      |

## 男女共同参画に関する用語についてお伺いします。

問1 次あげる男女共同参画に関する用語や施設名称を聞いたことがありますか。

(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 言葉も内容(施設用途) も知っている	2 言葉だけは聞いたこと がある	3 全く知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 男女雇用機会の均等	1	2	3
③ 女性の活躍の推進	1	2	3
④ ジェンダー	1	2	3
⑤ ドメスティック・バイオレンス (DV)	1	2	3
⑥ デートDV	1	2	3
⑦ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
⑧ LGBT	1	2	3
⑨ 宇都宮市配偶者暴力相談支援センター	1	2	3
⑩ 宇都宮市女性相談所	1	2	3
⑪ 宇都宮市男女共同参画推進センター	1	2	3
⑫ とちぎ男女共同参画センター	1	2	3
⑬ パルティ	1	2	3

## 男女平等意識についてお伺いします。

問2 あなたは、現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 男性の方が非常に優 遇されている	2 どちらかといえば男 性の方が優遇されて いる	3 平等になっている	4 どちらかといえば女 性の方が優遇されて いる	5 女性の方が非常に優 遇されている	6 わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 職場で	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
④ 町内会や自治会等の地域社会で	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたの意見に近いものはどれですか。

(○は1つだけ)

1. 男は仕事、女は家庭にいるのがよい 2. 男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい 3. 男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい 4. 男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい 5. その他（具体的に 6. わからない	)
--	---

問4 あなたは自分の子どもをどのように育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いると仮定して選んでください。

(○は1つだけ)

1. 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい 2. どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい 3. どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい 4. まったく性別にとらわれずに育てたい 5. わからない
--

## ワーク・ライフ・バランス※についてお伺いします。

※「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事」と家庭生活や地域活動などの「仕事以外の生活」との調和がとれ、その両方が充実している状態のことをいいます。

**問5** 生活の中で、仕事、家庭生活（家族と過ごすこと、家事、育児など）、個人・地域の生活（趣味、娯楽、ボランティア活動など）のうち、何を優先しますか。現実と理想について、お答えください。

（下記の選択肢からあてはまる番号を、それぞれ1つ記入してください。）

（1）現実 . . .

（2）理想 . . .

1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先
3. 「個人・地域の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」を優先
5. 「仕事」と「個人・地域の生活」を優先
6. 「家庭生活」と「個人・地域の生活」を優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先

**問6** 家庭生活、地域活動、個人の生活、休養のための時間はあなたの希望どおりとれてい  
ますか。 （それぞれについてあてはまる番号に○を1つ）

	1	2	3	4	5
	取れている	（六〇八割程度） まあ取れている	（三〇五割程度） い  あまり取れていな	取れていない	分からない
① 家庭生活	1	2	3	4	5
② 地域活動	1	2	3	4	5
③ 個人の生活	1	2	3	4	5
④ 休養	1	2	3	4	5

問7 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくために、企業はどのような取組が必要だと思えますか。 (それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

		1 非常に重要	2 重要	3 どちらとも いえない	4 重要でない	5 全く重要で ない
トップの責任	① 社長や取締役がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む	1	2	3	4	5
	② 企業の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める	1	2	3	4	5
	③ 管理職の意識改革を行う	1	2	3	4	5
	④ 管理職以外の社員の意識改革を行う	1	2	3	4	5
仕事のやり方	⑤ 仕事の量を減らす	1	2	3	4	5
	⑥ 無駄な業務・作業をなくす	1	2	3	4	5
	⑦ 収益性の低い仕事をやめる	1	2	3	4	5
	⑧ 年休の取得計画をつくる	1	2	3	4	5
	⑨ 取引先や下請企業に無理な要求をしない	1	2	3	4	5
経営者の意志決定・施策	⑩ 従業員を増やす	1	2	3	4	5
	⑪ 給料を上げる	1	2	3	4	5
	⑫ ノー残業デーを設ける	1	2	3	4	5
制度	⑬ 育児・介護休業をとりやすくする	1	2	3	4	5
	⑭ 時間短縮勤務ができるようにする	1	2	3	4	5
	⑮ 在宅勤務ができるようにする	1	2	3	4	5
その他	⑯ 具体的に					

問8 「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会」に近づくために、自治体はどのような取組が必要だと思いますか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

		1 非常に重要	2 重要	3 どちらとも いえない	4 重要でない	5 全く重要で ない
啓発	① ワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRする	1	2	3	4	5
	② インターネットでワーク・ライフ・バランスについての情報を提供する	1	2	3	4	5
	③ 有名人のワーク・ライフ・バランスの実践を紹介する	1	2	3	4	5
	④ 官庁や地方自治体がワーク・ライフ・バランスを自ら実践する	1	2	3	4	5
企業向け施策	⑤ ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の事例を紹介する	1	2	3	4	5
	⑥ ワーク・ライフ・バランスについての企業の情報を公開させる	1	2	3	4	5
	⑦ ワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業を表彰する	1	2	3	4	5
	⑧ 求職者や学生にワーク・ライフ・バランスが進んでいる企業の情報を提供する	1	2	3	4	5
	⑨ 保育所など子育て支援を拡充する	1	2	3	4	5
	⑩ ワーク・ライフ・バランスを進める企業に助成金を支給する	1	2	3	4	5
	⑪ ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する	1	2	3	4	5
	⑫ 法規制の強化について具体的な考えがあればご記入ください。					

## 結婚・家庭生活についてお伺いします。

問9 結婚や家庭、離婚についての考え方①～⑤について、あなたの考えに近いものを選んでください。  
(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

		1 そう思う	2 そう思う どちらかといえば	3 そう思わない どちらかといえば	4 そう思わない	5 分らない
結婚について	① 女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚した方がよい	1	2	3	4	5
	② 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい	1	2	3	4	5
家庭について	③ 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
	④ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
	⑤ 三世同居で暮らすのが理想的だ	1	2	3	4	5

問10 あなたは、次の①～⑦について、夫婦の間でどのように分担していますか。配偶者のいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。

(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	1 主に夫	2 夫 どちらかといえば	3 夫妻同じ程度	4 妻 どちらかといえば	5 主に妻	6 家族	7 その他
① 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
② 食事の後かたづけ	1	2	3	4	5	6	7
③ そうじ	1	2	3	4	5	6	7
④ ごみ出し	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 洗濯	1	2	3	4	5	6	7
⑥ 子どものしつけや勉強	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7

次項につづく

	1 主に夫	2 どちらかといえ ば夫	3 夫妻同じ程 度	4 どちらかといえ ば妻	5 主に妻	6 家族	7 その他
⑧ 親や身内の介護	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 主な収入	1	2	3	4	5	6	7
⑩ 家計の管理	1	2	3	4	5	6	7
⑪ 財産の管理	1	2	3	4	5	6	7
⑫ 町内行事などの参加	1	2	3	4	5	6	7
⑬ PTAなどの参加	1	2	3	4	5	6	7

## 地域・社会参画についてお伺いします。

問 11 今後、男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。  
(あてはまる番号すべてに○)

1. 男女の役割意識についての社会通念や慣習、しきたりを改めること
2. 夫婦の間で家事などの分担について、十分に話し合い、協力し合うこと
3. 男性の仕事中心の生き方や考え方を改めること
4. 夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること
5. 男性が家事や子育て、介護について学べる機会や情報提供を充実すること
6. 労働時間の短縮や休暇制度を普及させること
7. 柔軟な勤務制度（フレックスタイム制度\*など）の導入がされていること
8. 賃金、昇進・昇格の機会、仕事内容など、労働条件での男女の差をなくすこと
9. その他（具体的に )
10. わからない

※フレックスタイム制度：定められた労働時間の中であれば、労働者自身が出勤時間と退社時間を決めることのできる、変形時間労働制のうちの一つです。

問 12 あなたは、現在、地域などでの社会的な活動（自治会やPTAなど）を行っていますか。  
(○は1つだけ)

1. 行っている →問 14 へ

2. 行っていない →問 13 へ

【問 12 で、「2. 行っていない」に○をつけた方にお尋ねします。】

問 13 あなたが現在、社会的な活動に参加していない主な理由は何ですか？

(あてはまる番号すべてに○)

1. 仕事が忙しく時間がないから
2. 出産・育児があるから
3. 介護が必要な家族がいるから
4. 家族の理解や協力が得られないから
5. やりたい活動がないから
6. 活動についての情報がないから
7. 関心がないから
8. その他（具体的に

)

問 14 あなたは、審議会等の委員など政策決定の場に女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(○は1つだけ)

1. 人々の抵抗感をなくすこと
2. 男性優位の組織運営を改善すること
3. 女性の能力開発の機会を充実させること
4. 女性自身が積極的な参画意識をもつこと
5. 家族からの支援や協力があること
6. 政策方針決定の場に女性の比率を高めるための取組を充実させること
7. その他（具体的に
8. わからない

)

## 職業・就労についてお伺いします。

問 15 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 女性は職業をもつことにこだわらなくてよい
3. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
4. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
5. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
6. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
7. 結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
8. その他(具体的に )

【結婚や出産・育児のいずれかを経験している女性の方にお尋ねします(問16のみ)】

問 16 現在のあなた自身の職業の持ち方は、どれに該当しますか (○は1つだけ)

1. 結婚や出産・育児にかかわらず職業を持ち続けている
2. 出産・育児期間に一時退職した後、再就職している
3. 結婚を機に退職し、職業を持っていない
4. 出産・育児を機に退職し、職業を持っていない
5. 結婚や出産・育児にかかわらず、職業を持っていない
6. その他(具体的に )

問 17 女性が結婚や出産・育児のために退職し、その後、再就職するためには特に何が必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 夫の理解や家事・育児などへの参加
2. 夫以外の家族の理解や家事・育児などへの参加
3. 子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設やサービスの充実
4. 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実
5. 技能習得のための講座等の充実
6. 企業等事業所の理解
7. 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実
8. フレックスタイム制度の導入や育児休業などの制度の充実
9. その他(具体的に )
10. わからない

**問 18 女性が活躍するために何が必要だと思いますか。** (あてはまる番号すべてに○)

1. 育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること
2. 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること
3. 男性が家事、育児、介護などに積極的に参加すること
4. 保育施設や学童保育などの育児環境が充実していること
5. 福祉施設や介護支援サービスが充実していること
6. 育児休業等の制度を充実すること
7. 仕事が適正に評価されていること
8. 企業内で長時間労働の必要がないこと、在宅勤務などの多様な働き方ができること
9. 企業トップが女性の活躍促進に積極的であること
10. 国や地方自治体など、行政による企業支援があること
11. 職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること
12. 身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること
13. 地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること
14. キャリア形成のための研修制度があること
15. その他（具体的に )

**問 19 「女性の活躍が推進されている」とはどのような状態だと思いますか。**

(あてはまる番号すべてに○)

1. 女性の勤続年数が長くなること
2. 出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること
3. 退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること
4. 働く女性の割合が増えること
5. 自ら会社・事業を経営する女性が増えること
6. 女性が従事する職種・職域が増えること
7. 仕事に対する意欲が高い女性が増えること
8. 管理職や地域の会長などの役職につく女性が増えること
9. リーダーや会長の選定などの昇進を検討する際に男女の差別を意識しなくなること
10. 仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと
11. その他（具体的に )

問 20 あなたは、下記の問 20-1 の理由で退職した経験がありますか。 (○は1つだけ)

1. ある →問 20-1 へ

2. ない→問 22 へ

【問 20 で、「1. ある」に○をつけた方にお尋ねします。】

問 20-1 退職した理由はなんでしたか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 結婚
2. 妊娠・出産
3. 育児
4. 高齢者や病人の介護
5. 経済的な理由
6. 賃金や待遇等で職場に不満があった
7. 職場でセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント等の嫌がらせがあった
8. 勤務先の間人間関係
9. 健康・体力の理由
10. 仕事を続けることについて、家族や親族の理解が得られなかった
11. その他(具体的に )

【問 20-1 で、「1. 結婚」、「2. 妊娠・出産」、「3. 育児」、「4. 高齢者や病人の介護」と回答した方にお尋ねします。】

問 21 具体的な理由は、どれに該当しますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 家事・育児・介護に専念したいので自発的に辞めた
2. 仕事と家事・育児・介護の両立が難しいため
3. 体力や健康に自信がないため(病気を含む)
4. 子ども、高齢者や病人を預けられる人や、施設が近くにないため
5. 保育園や幼稚園、介護施設に預ける方が、経済的に負担が大きくなるため
6. 職場に、育児、介護休業制度がなかったため
7. 解雇・または退職勧奨されたため
8. 配偶者または、子どもなど家族が望まなかったから
9. 配偶者の転勤や居住地の問題などで職場が遠くなったから
10. 仕事の内容や責任等が変わり、やりがいを感じられなくなりそうだったから
11. その他(具体的に )

【2ページのF5で、「7. 専業主婦（夫）」「8. 無職」に○をつけた方にお尋ねします。】

問22 あなたは、今後、働きたいと思いますか（起業を含む）。（○は1つだけ）

1. 働きたい
2. 働きたいが、働けない
3. 働きたくない
4. わからない

【問22で、「2. 働きたいが、働けない」と回答した方にお尋ねします。】

問23 あなたが働けない主な理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 仕事と家事・育児・介護との両立が難しいから
2. 子ども、高齢者や病人を預けられる人や施設・サービスがないから
3. 保育園や幼稚園、介護施設に預ける方が、経済的に負担が大きいから
4. 体力や健康に自信がないから
5. 能力に自信がないから
6. 年齢的に適当な募集がないから
7. やりたい種類の仕事の募集がないから
8. 通える範囲に適当な場所がないから
9. 家族に転勤があり、続けられないから
10. その他（具体的に

問24 あなたは、男性の育児休業取得について受け入れられますか。（○は1つだけ）

1. 男性も育児に参加した方がよいと思うので、受け入れられる
2. 育児を理由に仕事を休むべきではないから、受け入れられない
3. 育児休業を取得されると困るので、受け入れられない
4. その他（具体的に

問25 あなたは、男性の介護休業取得について受け入れられますか。（○は1つだけ）

1. 男性も介護に参加した方がよいと思うので、受け入れられる
2. 介護を理由に仕事を休むべきではないから、受け入れられない
3. 介護休業を取得されると困るので、受け入れられない
4. その他（具体的に

問 26 男性が育児休業を取得しづらい理由は何だと思えますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 周囲に取った男性がいないから
2. 職場に取りやすい雰囲気がないから
3. 仕事が忙しいから
4. 取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから
5. 人事評価や昇給に影響があるから
6. 休業補償が充分でないので経済的に困るから
7. 育児は女性の方が向いているので、男性が取る必要はないから
8. その他（具体的に

)

問 27 男女ともに介護休業を取得しづらい理由は何だと思えますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 周囲に取った人がいないから
2. 職場に取りやすい雰囲気がないから
3. 仕事が忙しいから
4. 取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから
5. 人事評価や昇給に影響があるから
6. 今後、現在よりも必要な状況が来るかもしれないから
7. どのタイミングで取得したらよいかわからないから
8. 会社で介護をしていることを公表していないから
9. 配偶者や他の家族が介護に専念しているから
10. その他（具体的に

)

## 男女の人権についてお伺いします。

問 28 「セクシャル・ハラスメント※」(性的いやがらせ)についてお尋ねします。また、それはどこで感じましたか。(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

	感じたことがある			4 感じたことはない
	1 職場で感じた	2 地域で感じた	3 その他	
① 結婚すること、しないことなどを話題にされたこと	1	2	3	4
② 名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」、「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと	1	2	3	4
③ 年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	1	2	3	4
④ 卑わいな言葉をかけられたり、聞かされたりしたこと	1	2	3	4
⑤ ジロジロと見られたり、からだを触られたりしたこと	1	2	3	4
⑥ 宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと	1	2	3	4
⑦ 付き合いや食事などをしつこく誘われたこと	1	2	3	4

※セクシャル・ハラスメント：職場や地域社会などにおいて、相手方の意に反して性的な行為を強要したり、性的な言動により生活環境を侵害したりすることです。

問 29 あなたは過去2年間に配偶者や恋人から、①～⑤のような暴力（DV又はデートDV）を受けた経験がありますか。（それぞれについてあてはまる番号に○を1つ）

	1 何度もあった	2 1, 2度あった	3 まったくない
① 身体に対する暴力を受けた（殴る、蹴るなど）	1	2	3
② 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた（大声で怒鳴る、嫌な写真を送りつける、待ち伏せをするなど）	1	2	3
③ 経済的な暴力を受けた（生活費を渡さない、支出を細かく監視するなど）	1	2	3
④ 社会的な暴力を受けた（携帯電話を壊す、親戚や友人との付き合いを制限するなど）	1	2	3
⑤ 性的な暴力を受けた（性行為を強要する、避妊に協力しないなど）	1	2	3

すべて「3」の方は、  
問 31

【問 29 で、①～⑤のいずれかで、「1」または「2」に○をつけた方にお尋ねします。】

問 30 あなたはこれまでに、配偶者等から受けた暴力について、誰かに相談しましたか。（○は1つだけ）

- |            |        |          |
|------------|--------|----------|
| 1. 相談した    | -----▶ | 問 30-1 へ |
| 2. 相談しなかった | -----▶ | 問 30-2 へ |

【問 30 で、「1. 相談した」に○をつけた方にお尋ねします。】

問 30-1 相談した相手はどなたですか。（あてはまる番号すべてに○）

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親族</li> <li>2. 友人・知人</li> <li>3. 市や県等の<u>公的機関</u>の相談窓口・電話など</li> <li>4. 民間支援団体, NPO法人, シェルターなど</li> <li>5. 同じような経験をした人</li> <li>6. 家庭裁判所, 弁護士</li> <li>7. 警察署・交番</li> <li>8. 医師やカウンセラーなど</li> <li>9. その他（具体的に</li> </ol>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【公的機関の相談窓口（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市配偶者暴力相談支援センター</li> <li>・市女性相談所</li> <li>・とちぎ男女共同参画センター(パーティ)</li> <li>・旧栃木県婦人相談所</li> <li>・福祉事務所</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p> </div>
--	---

【問 30 で、「2. 相談しなかった」に○をつけた方にお尋ねします。】

問 30-2 相談しなかった主な理由は何ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 相談する人がいなかったから
2. どこに相談してよいのかわからなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 仕返しを受けると思ったから
5. 子どもに危害がおよぶと思ったから
6. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
7. 自分さえ我慢すればやっていけると思ったから
8. 自分にも落ち度があると思ったから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 相談するほどのことではないと思ったから
11. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

問 31 DVやデートDVを防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する。
2. 家庭で、暴力を防止するための教育を行う
3. 学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う
4. 加害者への罰則を強化する
5. 加害者に、二度と繰り返さないための教育を行う
6. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる
7. 暴力を防止するための広報・啓発活動を積極的に行う
8. 被害者を発見しやすい立場にある医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
9. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
10. わからない

問 32 あなたは、パートナー（配偶者や恋人など）が、自分の健康状態について理解していると思いますか。 (○は1つだけ)

1. 理解していると思う
2. 理解していると思わない
3. わからない
4. 該当しない

問 33 あなたは、人権が侵害されていると思うのは、どのようなことですか

(それぞれについてあてはまる番号に○を1つ)

		1 人権侵害だと思う	2 ある程度人権侵害だと思う	3 どちらともいえない	4 あまり人権侵害とは思わない	5 全く人権侵害と思わない
性暴力	① レイプ・痴漢などの女性への性犯罪	1	2	3	4	5
	② 売春・買春・援助交際	1	2	3	4	5
	③ 職場・学校内等におけるセクシュアル・ハラスメント	1	2	3	4	5
	④ ストーカーなどの女性へのつきまとい行為	1	2	3	4	5
性的マイノリティ	⑤ 性的マイノリティ※（性同一性障害などいわゆるLGBT）の人の人権	1	2	3	4	5

※性的マイノリティ（性的少数者）：性同一性障害（「体の性」と「こころの性」が一致しない状態）の人や、恋愛感情などの性的な意識が同性や両性に向かう人（同性愛，両性愛），身体的な性別が不明瞭な人（性分化疾患）などのことをいいます。

問 34 あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。

(○は1つだけ)

1. ある	2. ない
-------	-------

問 35 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていましたか。

(○は1つだけ)

1. 知っていた	2. 初めて知った	3. その他
----------	-----------	--------

問 36 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。

(○は1つだけ)

1. 必要だと思う	3. わからない
2. 必要ないと思う	4. その他（具体的に )

問 37 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ※」についておたずねします。女性にとって妊娠、出産、避妊、中絶などの選択は、自分自身の健康や人生設計に大きく影響します。こうした性に関する自己決定権について、あなたはどのように考えますか。（○は1つだけ）

1. 女性が自立し健康に生きるために重要な権利である
2. 出生率の低下につながるなど社会的に好ましくない
3. 女性の身勝手を認めるから好ましくない
4. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）
5. わからない

※リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：性と生殖に関する健康と権利。女性が身体的・精神的・社会的な健康を維持し、子どもを産むかどうか、いつ産むか、どれくらいの間隔で産むかなどについて選択し、自ら決定する権利のことをいいます。

## 男女共同参画に関する施策についてお伺いします。

問 38 あなたは、男女共同参画の実現に向けて、今後、宇都宮市は特にどのような事に力をいれたらよいと思いますか。（○は2つまで）

1. 市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる
2. 学校や家庭において男女共同参画意識を育む教育を行う
3. 男性の家事・育児・介護等への参加を促す啓発を行う
4. 女性の能力開発や就労支援を充実させる
5. 地域活動における男女共同参画を促進する
6. 男女共同参画を推進する市民団体等を育成・支援する
7. 女性を政策方針決定の場に積極的に登用する
8. 女性の就業を支援する
9. 職場において男女の均等な扱いが図られるよう企業等に働きかける。
10. 保育・子育て・介護のための支援を充実する
11. 働き方の見直しなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた啓発を行う
12. お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする
13. DV防止やセクシャル・ハラスメント防止に向けた取組を推進する
14. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）
15. わからない

問 39 今後、宇都宮市で男女共同参画をより周知させるために、有効な媒体はなんだと思いますか。 (○は2つまで)

<ol style="list-style-type: none"><li>1. 新聞広告</li><li>2. テレビCM</li><li>3. 雑誌広告</li><li>4. 市の広報・パンフレット・チラシ</li><li>5. 市が実施する講座</li><li>6. 市のホームページ</li><li>7. フリーペーパー</li><li>8. Facebook などのSNS</li><li>9. イベント</li><li>10. その他 (具体的に )</li><li>11. わからない</li></ol>
---

問 40 あなたが日頃、家庭や学校、職場、地域などで、男女共同参画社会について感じていることがございましたら、ご自由にお書きください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
---

調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに

1月31日(火)までにポストにご投函ください。



宇都宮市 平成 28 年度男女共同参画に関する市民意識調査報告書

平成 29 年 3 月

発行 宇都宮市

編集 市民まちづくり部 男女共同参画課

住所 〒320-8540 栃木県宇都宮市旭 1 丁目 1-5

電話 028-632-2346 (直通)

FAX 028-632-2347